

川端根岸遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その3）報告書

2017.3

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

川端根岸遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その3）報告書

2017.3

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



川端根岸遺跡遠景(南東から)

序

日本橋を起点とする国道17号は、近世の中山道と三国街道の機能を引継ぎ、首都圏と新潟県とを結ぶ幹線国道です。国道17号の混雑緩和と沿線地域における流通促進のため、埼玉県熊谷市から群馬県前橋市に至る上武道路は大規模バイパスとして整備されてきました。本報告書の刊行とほぼ時を同じくして全線開通するこの道路用地内には数多くの遺跡が所在し、その発掘調査の成果につきましてはこれまでに60冊以上の発掘調査報告書にまとめられています。

このたび報告します川端根岸遺跡は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、国土交通省からの委託を受け、当事業団が平成24年度に発掘調査、平成27・28年度に整理作業を実施しました。

本遺跡は群馬県前橋市川端町・日輪寺町にあり、広瀬川低地帯の微高地および後背湿地に位置し、発掘調査の結果、おもに古墳時代から近世にかけての遺跡であることが確認されました。中でも、中世の土坑・ピット群とそれを囲む二重の溝は中世の城館跡と考えられ、地域の貴重な歴史資料となるものと期待されます。

発掘調査から本書の刊行に至るまでには、国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、諸機関並びに関係者の皆様に多大なご尽力を賜りました。心から感謝申し上げますとともに、本書が、地元前橋市をはじめ郷土群馬県の歴史理解の一助となり、広く活用されることを祈念し、序とします。

平成29年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書は、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)で発掘調査された川端根岸遺跡の発掘調査報告書である。

2. 遺跡は、群馬県前橋市川端町48、50-2、56-1、56-2、56-3、57、58-1、59、60-2、60-3、62、64-1、64-2、65-1、65-2、66-2、67-1、67-2、68-1、68-2、68-3、69-2、70-1、70-2、70-3、70-4、71-1、71-2、73、74-1、75-1、76-1、前橋市日輪寺町363-12、363-14、363-15、363-16、363-17、363-18他に所在する。

3. 事業主体は国土交通省関東地方整備局である。

4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

5. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

履行期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

調査期間 平成24年12月1日～平成25年3月31日

調査担当 木津博明(上席専門員・調査統括)、新井仁(主任調査研究員)、笹澤泰史(主任調査研究員)

飯島義雄(専門調査役)

遺跡掘削工事請負 技研測量設計株式会社

地上測量委託 技研測量設計株式会社

空中写真撮影・測量委託 技研測量設計株式会社

洪水堆積物・テフラ分析委託 株式会社火山灰考古学研究所

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

(平成27年度)

履行期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

整理期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

整理担当 津島秀章(専門員(総括))、田村博(主任調査研究員)

骨類分析委託 宮崎重雄

(平成28年度)

履行期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

整理期間 平成28年4月1日～平成28年9月30日、平成29年1月1日～平成29年2月28日

整理担当 田村博(主任調査研究員)

7. 本書作成担当は次のとおりである。

編集 田村博

本文執筆 第1章1～3節：小島敦子(事業局長)・田村博、第4章第2・3節：別記委託、前記以外：田村博

遺物観察 石器・石製品：津島秀章(資料2課長(総括))、縄文土器・弥生土器：石坂茂(専門調査役)、土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)、中近世陶磁器・土器：大西雅広(上席専門員・資料統括)・藤巻幸男(専門調査役)、金属器：関邦一(補佐(総括))

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)







遺物写真撮影 石器・石製品：津島秀章、縄文土器・弥生土器：石坂茂、土師器・須恵器：田村博、中近世陶磁器・土器：藤巻幸男、金属器：関邦一

保存処理 関邦一

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
9. 出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。記して感謝いたします。
群馬県教育委員会、前橋市教育委員会

凡 例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲したが、整理作業の過程で変更したものもある(第5表)。
2. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)による。主軸方位等の計算にもこれを用いた。
3. 本報告書の遺構図版縮尺は以下の通り。ただし、遺構によってはこの限りではない。各図版に縮尺を示した。
遺構平面図 水田・耕作痕群 1/200、溝 1/80、竪穴住居・竪穴状遺構・掘立柱建物 1/60、井戸・土坑墓・火葬墓・土坑・ピット 1/40、竈 1/30。
遺構断面図 水田・耕作痕群 1/80、溝 1/80(土層なし)・ 1/40(土層あり)、その他は平面図に同じ。
4. 本報告書の遺物図版縮尺は以下の通り。ただし、遺物によってはこの限りではない。各図版に縮尺を示した。
中近世陶磁器・土器 1/4、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器(石鏃以外)・石製品・木製品 1/3、金属器 1/2、石器(石鏃)・銭貨 1/1。
5. 本報告書の使用スクリーントーンおよび使用ドットは以下の通り。

 焼土	 炭化物	 灰	 攪乱
 釉	 スス	 内黒	 燻
●土器	○銭貨		 石器磨面
6. 本報告書における遺構等の略称は以下の通り。
住…竪穴住居、竈…竈、竪…竪穴状遺構、掘…掘立柱建物、溝…溝、田…水田、耕…耕作痕群、井…井戸、土墓…土坑墓、火墓…火葬墓、坑…土坑、P…ピット、河…河道、カクラン…攪乱、外…遺構外、人…人骨、馬…馬骨
7. 本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図下に「L=○○m」のように表記した。
8. 本報告所における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帳』によった。
9. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下の通り(テフラの名称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による)。
As-A…浅間 A、As-Kk…浅間粕川、As-B…浅間 B、As-C…浅間 C、As-YP…浅間板鼻黄色、As-OK2…浅間大窪沢 2、As-OK1…浅間大窪沢 1、Hr-FA…榛名二ツ岳渋川、Hr-FP…榛名二ツ岳伊香保、Hr-AA…榛名有馬

目次

カラー口絵

序

例言・凡例

目次

挿図・表・写真図版目次

第1章 調査の経過	1
第1節 上武道路について	1
第2節 上武道路と埋蔵文化財	2
第3節 調査に至る経緯	2
第4節 調査方法と経過	5
1. 発掘調査の経過／2. 発掘調査の方法／	
3. 整理作業の経過と方法	
第2章 周辺の環境	10
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10
1. 旧石器時代／2. 縄文時代／3. 弥生時代／	
4. 古墳時代／5. 奈良・平安時代／6. 中近世	
第3節 基本土層	20
第3章 確認された遺構と遺物	22
第1節 概要	22
1. 第1面／2. 第2面／3. 第3面／	
4. 第4面／5. 第5面／6. 第6面	
第2節 竪穴住居	25
1. 第4面の竪穴住居	
第3節 竪穴状遺構	29
1. 第2面の竪穴状遺構／2. 第3面の竪穴状遺構	
第4節 掘立柱建物	35
1. 第2面の掘立柱建物	
第5節 溝	39
1. 第2面の溝・河道／2. 第3面の溝／	
3. 第4面の溝・河道／4. 第5面の溝／	
5. 第6面の溝	

第6節 水田・耕作痕群	85
1. 第1面の水田／2. 第3面の耕作痕群／	
3. 第5面の水田／4. 第6面の水田	
第7節 井戸	94
1. 第2面の井戸	
第8節 墓坑	95
1. 第2面の墓坑	
第9節 土坑・ピット	97
1. 第2面の土坑／2. 第3面の土坑／	
3. 第4面の土坑／4. ピット	
第10節 遺構外出土遺物	156
第4章 自然科学分析	162
第1節 概要	162
1. 洪水堆積物・テフラ分析の概要／	
2. 骨類分析の概要	
第2節 洪水堆積物・テフラ分析	163
1. はじめに／2. 土層層序／	
3. テフラ検出分析／4. テフラ組成／	
5. 屈折率測定／6. 考察／7. まとめ	
第3節 骨類分析	172
1. 人骨／2. 馬骨	
第5章 まとめ	181
1. 地形と概要／2. 第1面／3. 第2面／	
4. 第3面／5. 第4面／6. 第5面／	
7. 第6面	
付. 上武道路調査遺跡一覧	185
遺物観察表	188
写真図版	
報告書抄録	
付図11枚	

挿図目次

第1図	上武道路と遺跡の位置	1	第58図	1号水田(1)	86
第2図	上武道路8工区の遺跡	3	第59図	1号水田(2)	87
第3図	川端根岸遺跡周辺図	4	第60図	1号耕作痕群	88
第4図	大・中グリッド設定図	6	第61図	2号水田(1)	90
第5図	中・小グリッド設定図	7	第62図	2号水田(2)	91
第6図	調査区細分図	8	第63図	4号水田	93
第7図	川端根岸遺跡周辺地形分類図	11	第64図	3号水田	94
第8図	川端根岸遺跡周辺遺跡分布図	14	第65図	1・2号井戸	94
第9図	基本土層	21	第66図	1・2・4号土坑墓、1号火葬墓平面・断面	95
第10図	1・2号竪穴住居	26	第67図	1・2・4号土坑墓、1号火葬墓出土遺物	96
第11図	3号竪穴住居	27	第68図	2・33・230・509・562・578・619・639・ 711・719号土坑、579・640・758号ピット	99
第12図	4・5号竪穴住居	28	第69図	890・1000～1005・1007号土坑	101
第13図	1～4号竪穴状遺構	31	第70図	1006・1008～1013号土坑	103
第14図	5～8号竪穴状遺構	33	第71図	1014～1019号土坑、552号ピット	105
第15図	9～12・14号竪穴状遺構	34	第72図	1020～1027号土坑、736・737号ピット	107
第16図	13号竪穴状遺構	35	第73図	1028～1033・1036号土坑、137・138・581・ 582・825号ピット	109
第17図	1号掘立柱建物	37	第74図	1033～1035・1037・1038～1041・1049号土坑	111
第18図	2号掘立柱建物	38	第75図	1042～1047・1050・1051号土坑	113
第19図	1号溝平面・断面(1)	40	第76図	1053～1062号土坑	117
第20図	1号溝平面・断面(2)	41	第77図	1063～1070・1075号土坑	119
第21図	1号溝出土遺物(1)	42	第78図	1076・1077・1080・1081・1083～1088号土坑、 2077号ピット	121
第22図	1号溝出土遺物(2)	43	第79図	1089・1091～1097号土坑	123
第23図	1号溝出土遺物(3)	44	第80図	1102～1104・2073・2080・2081・2083・2094・ 2095・2124・2126号土坑	127
第24図	2号溝平面・断面(1)	45	第81図	1105～1112・1114～1117号土坑、893・894・ 981～985・2130号ピット	128
第25図	2号溝平面・断面(2)	46	第82図	959・1071～1074号土坑	130
第26図	2号溝平面・断面(3)	47	第83図	1052・1098～1101号土坑	131
第27図	2号溝平面・断面(4)	48	第84図	3・5・22・31・60・90・151・152・156・ 171・195・220・240号ピット	150
第28図	2号溝出土遺物(1)	49	第85図	245・248・294・324・371・378・387・394・ 396・400・440・505・510・513・521号ピット	151
第29図	2号溝出土遺物(2)	50	第86図	538～541・626・656・690・698・709・768・ 833～836・842～844・851～855号ピット	152
第30図	2号溝出土遺物(3)	51	第87図	856～874号ピット	153
第31図	6号溝	52	第88図	875～881・971・2001・2011・2045・2046・ 2048・2050・2065・2071・2078・2085～2087号ピット	154
第32図	7～9号溝	53	第89図	2088～2093・2100・2122・2123・2125・2127・ 955～958号ピット	155
第33図	10～15号溝	56	第90図	遺構外出土遺物(1)	156
第34図	16～21号溝	57	第91図	遺構外出土遺物(2)	157
第35図	24・25号溝平面・断面(1)	59	第92図	遺構外出土遺物(3)	158
第36図	24・25号溝平面・断面(2)	60	第93図	遺構外出土遺物(4)	159
第37図	24・25号溝出土遺物	61	第94図	遺構外出土遺物(5)	160
第38図	23・28・29号溝	63	第95図	遺構外出土遺物(6)	161
第39図	30・31号溝	64	第96図	B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝) の土層柱状図	164
第40図	33～39号溝	66	第97図	B3区2号溝の土層柱状図	165
第41図	40・41号溝	67	第98図	C3区2号溝の土層柱状図	165
第42図	43・47・54号溝	68	第99図	D1区の土層柱状図	165
第43図	1号河道	70	第100図	B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝) の火山ガラス比・重鉱物組成ダイヤグラム	167
第44図	27号溝	71	第101図	上武道路調査遺跡位置図	187
第45図	3・50号溝平面・断面(1)および出土遺物	72			
第46図	3・50号溝平面・断面(2)	73			
第47図	3・50号溝平面・断面(3)、2号河道断面	74			
第48図	22号溝	75			
第49図	26号溝	77			
第50図	48・49号溝	78			
第51図	51・52号溝	79			
第52図	44～46号溝平面・断面(1)	80			
第53図	44～46号溝平面・断面(2)および出土遺物	81			
第54図	44～46号溝平面・断面(3)	82			
第55図	42号溝	83			
第56図	53号溝	84			
第57図	4号溝	85			

写真(本文中)目次

写真1	B3区2・3号溝B-B'セクション…………… 171	9. 1号馬骨(左下)
	(3号溝)試料の顕微鏡写真	10. 2号馬骨(切歯)
	1. B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)試料3の顕微鏡写真(透過光)	11. 2号馬骨(左下)
	2. B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)試料5の顕微鏡写真(透過光)(1)	12. 4号馬骨
	3. B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)試料5の顕微鏡写真(透過光)(2)	13. 5号馬骨
写真2	人骨・馬骨…………… 180	14. 7号馬骨(右下)
	1. 1号人骨(上)	15. 7号馬骨(左下)
	2. 1号人骨(下)	16. 15号馬骨
	3. 2号人骨(上)	17. 8号馬骨(右上)
	4. 2号人骨(下)	18. 8号馬骨(左上)
	5. 4号人骨	19. 8号馬骨(右下)
	6. 1号馬骨(右上)	20. 8号馬骨(左下)
	7. 1号馬骨(左上)	21. 9号馬骨
	8. 1号馬骨(右下)	22. 11号馬骨
		23. 13号馬骨
		24. 14号馬骨
		25. 20号馬骨

表目次

第1表	上武道路8工区調査遺跡一覧表…………… 3	第10表	テフラ分析検出結果…………… 168
第2表	川端根岸遺跡周辺遺跡一覧表…………… 15	第11表	火山ガラス比分析結果…………… 168
第3表	調査面・調査区の関係…………… 22	第12表	重鉱物組成分析結果…………… 168
第4表	調査面ごとの遺構一覧表…………… 23	第13表	屈折率測定結果…………… 169
第5表	遺構番号変更一覧表…………… 24	第14表	骨類計測表(1)…………… 173
第6表	2号水田区画面積一覧表…………… 92	第15表	骨類計測表(2)…………… 175
第7表	4号水田区画面積一覧表…………… 93	第16表	骨類計測表(3)…………… 177
第8表	ピット一覧表…………… 132	第17表	骨類計測表(4)…………… 178
第9表	遺構外出土非掲載遺物集計表…………… 161	第18表	上武道路調査遺跡一覧表…………… 185

写真目次

PL. 1	1. 調査区遠景(北西から)	PL. 5	1. 1号溝全景(B区南側、東から)
	2. 調査区全景(上空から)		2. 1号溝全景(B区東側、北から)
PL. 2	1. 1号竪穴住居竈全景(北西から)		3. 1号溝全景(D区、東から)
	2. 2号竪穴住居全景(西から)		4. 2号溝全景(A区、南から)
	3. 2号竪穴住居竈全景(北西から)		5. 2号溝全景(B区南側、西から)
	4. 3号竪穴住居全景(西から)	PL. 6	1. 2号溝全景(D区、東から)
	5. 3号竪穴住居掘方全景(西から)		2. 2号溝1号馬骨出土状況(東から)
	6. 3号竪穴住居竈全景(西から)		3. 6号溝全景(東から)
	7. 4号竪穴住居全景(西から)		4. 7号溝全景(北東から)
	8. 4号竪穴住居竈全景(南西から)		5. 8号溝全景(南東から)
PL. 3	1. 4号竪穴住居掘方全景(南西から)		6. 9号溝全景(北から)
	2. 5号竪穴住居、12号竪穴状遺構全景(西から)	PL. 7	1. 10号溝全景(北東から)
	3. 1号竪穴状遺構全景(東から)		2. 11号溝全景(南から)
	4. 2号竪穴状遺構全景(北東から)		3. 12・13号溝全景(南から)
	5. 2号竪穴状遺構全景(南西から)		4. 14・15号溝全景(南から)
	6. 3号竪穴状遺構全景(東から)		5. 17・18号溝全景(南から)
	7. 4号竪穴状遺構全景(東から)	PL. 8	1. 16号溝全景(東から)
	8. 5号竪穴状遺構全景(南西から)		2. 19・20号溝全景(南から)
PL. 4	1. 5号竪穴状遺構7号馬出土状況(南東から)		3. 23号溝全景(南から)
	2. 8号竪穴状遺構全景(西から)		4. 24・25・28・29号溝全景(南から)
	3. 9・10号竪穴状遺構全景(南から)		5. 24号溝2号馬骨出土状況
	4. 11号竪穴状遺構全景(西から)		6. 24号溝3号馬骨出土状況
	5. 12号竪穴状遺構掘方全景(西から)	PL. 9	1. 30号溝全景(北西から)
	6. 1号掘立柱建物全景(北から)		2. 30号溝全景(南東から)
	7. 2号掘立柱建物全景(南から)		3. 31号溝全景(南西から)

- | | | | |
|-------|--|-------|--------------------------------|
| | 4. 39号溝全景(西から) | | 5. 1039号土坑全景(東から) |
| | 5. 40・41号溝、1086号土坑全景(南から) | | 6. 1040・1041・1043・1049号土坑(東から) |
| | 6. 調査風景(北から) | | 7. 1042号土坑全景(北から) |
| PL.10 | 1. 47号溝全景(南から) | | 8. 1047号土坑全景(南から) |
| | 2. 3号溝全景(北東から) | | 9. 1050号土坑全景(東から) |
| | 3. 22号溝全景(南東から) | | 10. 1055号土坑全景(東から) |
| | 4. 26号溝全景(南から) | | 11. 1056～1059号土坑全景(東から) |
| | 5. 51号溝全景(北東から) | PL.17 | 1. 1060～1062号土坑全景(北東から) |
| PL.11 | 1. 44・45号溝全景(南から) | | 2. 1064号土坑全景(北から) |
| | 2. 45号溝全景(南から) | | 3. 1065号土坑全景(北から) |
| | 3. 46号溝西側全景(北東から) | | 4. 1066号土坑全景(東から) |
| | 4. 46号溝東側全景(北東から) | | 5. 1067号土坑全景(北西から) |
| | 5. 1号水田全景(東から) | | 6. 1068号土坑全景(北西から) |
| PL.12 | 1. 2号水田全景(上空から) | | 7. 1069号土坑全景(北西から) |
| | 2. 2号水田全景(上空から) | | 8. 1075号土坑全景(東から) |
| | 3. 2号水田近景(北東から) | | 9. 1076号土坑全景(北から) |
| | 4. 2号水田近景(東から) | | 10. 1077号土坑全景(東から) |
| | 5. 2号水田遺物出土状況(南東から) | | 11. 1080号土坑全景(南東から) |
| PL.13 | 1. 3号水田全景(南から) | | 12. 1081号土坑全景(東から) |
| | 2. 4号水田全景(B区、南東から) | PL.18 | 1. 1085号土坑全景(北西から) |
| | 3. 4号水田全景(C区、北から) | | 2. 1086号土坑全景(北から) |
| | 4. 1号耕作痕群全景(南から) | | 3. 1087号土坑全景(西から) |
| | 5. 1号井戸全景(北から) | | 4. 1088号土坑全景(西から) |
| | 6. 1号土坑墓全景(南から) | | 5. 1088号土坑8号馬骨出土状況 |
| | 7. 4号土坑墓人骨出土状況(北から) | | 6. 1091号土坑全景(北から) |
| PL.14 | 1. 2号土坑墓全景(東から) | | 7. 1092号土坑全景(西から) |
| | 2. 1号火葬墓全景(北西から) | | 8. 1096号土坑全景(西から) |
| | 3. 33号土坑全景(北から) | | 9. 2073号土坑全景(東から) |
| | 4. 578号土坑、579号ピット全景(北から) | | 10. 2083号土坑、2084号ピット全景(北から) |
| | 5. 1001・1002号土坑全景(東から) | | 11. 1071号土坑全景(北から) |
| | 6. 1005～1007号土坑、347・964・966・969号ピット全景(北から) | | 12. 1073号土坑全景(北西から) |
| | 7. 1003号土坑全景(東から) | PL.19 | 1. 1098号土坑全景(東から) |
| | 8. 1008・1009号土坑全景(東から) | | 2. 1099号土坑全景(西から) |
| | 9. 1010号土坑、831・832号ピット全景(北東から) | | 3. 1100号土坑全景(南から) |
| | 10. 1011号土坑全景(北から) | | 4. 940号ピット全景(北西から) |
| PL.15 | 1. 1012号土坑、513号ピット全景(北から) | | 5. ピット群全景(北東から) |
| | 2. 1013号土坑全景(北から) | | 6. 調査風景(南西から) |
| | 3. 1014号土坑全景(北から) | | 7. 竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物出土遺物 |
| | 4. 1015・1016号土坑全景(北から) | PL.20 | 1号溝出土遺物(1) |
| | 5. 1017号土坑、574号ピット全景(東から) | PL.21 | 1号溝出土遺物(2) |
| | 6. 1018号土坑、808号ピット全景(東から) | PL.22 | 2号溝出土遺物(1) |
| | 7. 1019号土坑全景(東から) | PL.23 | 1. 2号溝出土遺物(2) |
| | 8. 1020号土坑全景(東から) | | 2. 6・7・9・15号溝出土遺物 |
| | 9. 1020～1022号土坑全景(南東から) | PL.24 | 24・25・3・44・46号溝出土遺物 |
| | 10. 1023号土坑全景(西から) | PL.25 | 2号水田、1・2・4号土坑墓出土遺物 |
| | 11. 1024号土坑全景(北から) | PL.26 | 火葬墓、土坑、ピット出土遺物 |
| | 12. 1029号土坑全景(北から) | PL.27 | 遺構外出土遺物(1) |
| PL.16 | 1. 1028号土坑、138号ピット全景(南西から) | PL.28 | 遺構外出土遺物(2) |
| | 2. 1031号土坑全景(東から) | PL.29 | 遺構外出土遺物(3) |
| | 3. 1033～1037号土坑全景(東から) | | |
| | 4. 1038号土坑全景(北から) | | |

付 図

- | | | | |
|-------|--|-------|--|
| 付図1 | 第1面(近世)全体図(1/400) | 付図7-2 | 第2面(中近世)1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(2) |
| 付図2 | 第2面(中近世)全体図(1/400) | 付図7-3 | 第2面(中近世)1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(3) |
| 付図3 | 第3面(中世)全体図(1/400) | 付図7-4 | 第2面(中近世)1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(4) |
| 付図4 | 第4面(古墳時代～平安時代)全体図(1/400) | 付図7-5 | 第2面(中近世)1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(5) |
| 付図5 | 第5面(古墳時代(5世紀洪水堆積物下位))全体図(1/400) | | |
| 付図6 | 第6面(古墳時代(As-C下位))全体図(1/400) | | |
| 付図7-1 | 第2面(中近世)1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(1) | | |

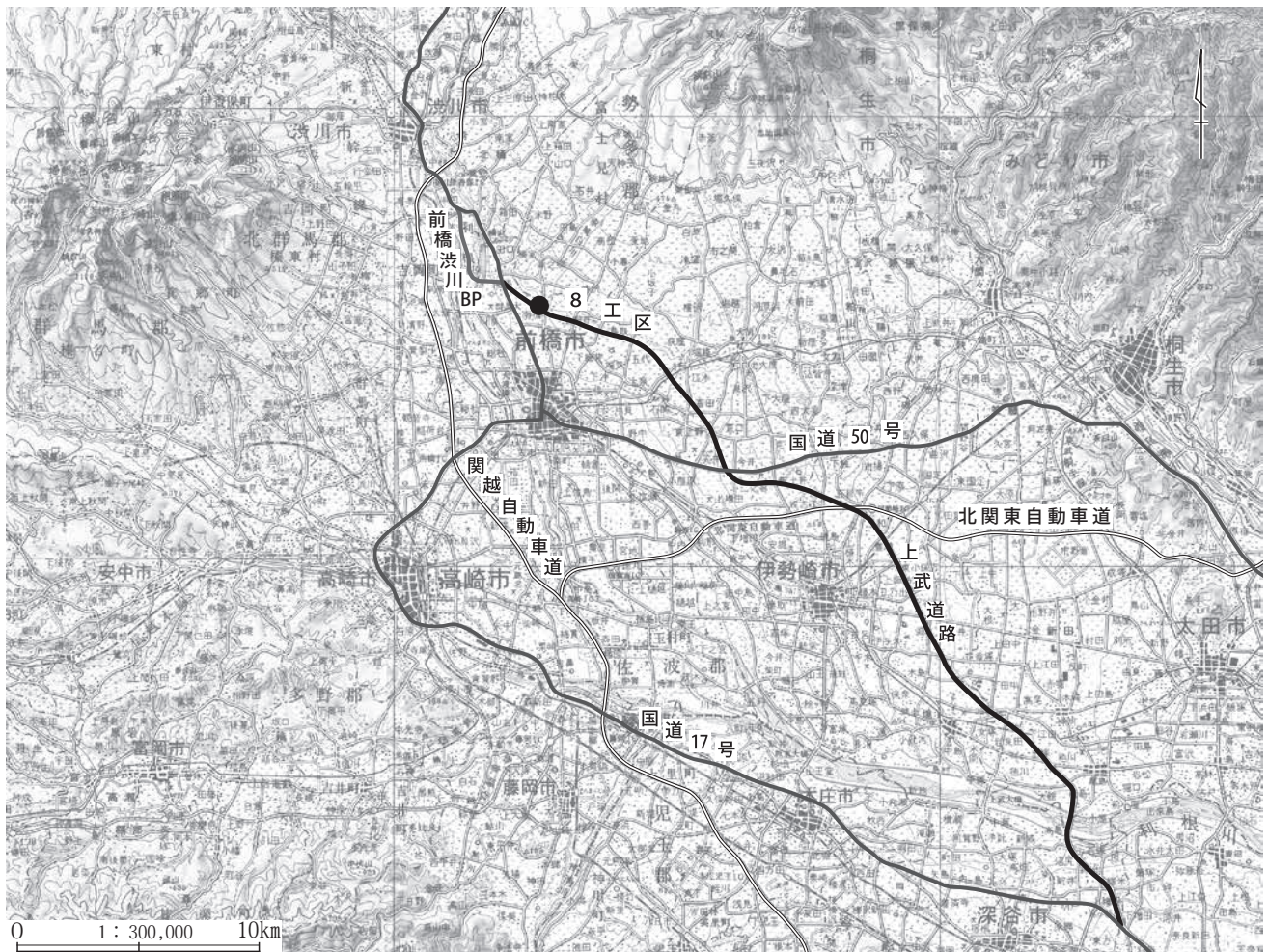
第1章 調査の経過

第1節 上武道路について

上武道路は一般国道17号の交通混雑に対応するために計画された大規模バイパスで、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐、群馬県前橋市田口町で現道に接続する延長40.5kmの道路である。現道の西には、前橋渋川バイパス、その先には鯉沢バイパス、また計画では上信自動車道が続いて、県北西部の新たな交通幹線網整備事業として期待されている。平成10(1998)年には、前橋渋川バイパスを含めて地域高規格道路『熊谷渋川連絡道路』として計画路線の指定を受け、群馬県では『幹線交通乗り入れ30分構想』の中で主要幹線のひとつに位置づけられている。

上武道路の建設事業は、昭和45(1970)年度から着手され、平成4(1992)年2月までには起点から国道50号までの延長27.4km区間が供用された。その後、供用区間が延伸するとともに交通量は増大し、平成元(1989)年度に着手された国道50号から前橋市上泉町までの4.9km区間(7工区)が、平成20(2008)年6月に暫定2車線で供用された。

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)が対象とする8工区は、平成17(2005)年度に事業が着手され、平成24(2012)年度に主要地方道前橋赤城線までの4.7km区間の暫定開通を果たし、最終3.5km区間の開通は本報告書の刊行と同じく平成28(2016)年度末である。



第1図 上武道路と遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」「宇都宮」平成18年発行を縮小して使用)

第2節 上武道路と埋蔵文化財

上武道路が通過する地域は、群馬県内でも有数の埋蔵文化財包蔵地の多い地域である。群馬県は、昭和48(1973)年に文化財保護室を文化財保護課に拡充して調査にあたり、昭和53(1978)年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(現公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団)が調査事業を受託して、現在に至っている。

上武道路の建設事業は起点側から段階的に進められてきた。その工程は概ね①埼玉県境から国道50号まで、②国道50号から前橋市上泉町まで、③前橋市上泉町から前橋市田口町の現国道17号までの3つの区間に分けることができる。

埼玉県境から国道50号までの区間では、35箇所の遺跡の発掘調査が行われ、調査の成果は26冊の発掘調査報告書として刊行されている。この区間の事業が完了した平成7(1995)年には、埋蔵文化財調査の成果をより広く公開するため、冊子総集編『地域をつなぐ 未来へつなぐ—上武道路埋蔵文化財22年の軌跡—』が刊行された。この総集編では、「弥生時代の開拓者」といった平野部での発掘調査や「芳郷」の墨書土器出土で話題となった古代勢多郡の芳賀郷、東山道駅路のひとつにも推定されていた「あずま道」など、この地域の歴史的課題に対する検討の結果がまとめられており、今後取り組むべき考古学的課題も特記されている。

国道50号から前橋市上泉町までは7工区にあたる。ここでは17箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、16冊の発掘調査報告書が刊行されている。この区間の発掘調査では、荒砥川の東で確認された古墳時代の集落が周辺の今井神社古墳や大室古墳群の築造と関連する可能性があること、荒砥前田Ⅱ遺跡では県内でも希少な巴形銅器破片が出土したこと、女堀の調査では浅間粕川テフラが確認されたことで開削年代を特定する手掛かりが得られたこと等が成果としてあげられている。荒砥川の西では、帯状低地に分断された台地ごとに縄文時代前期の集落が立地し、旧石器時代の遺物も暗色帯および上位の複数の土層から出土したこと等が注目されている。

前橋市上泉町から現国道17号までは8工区にあたり、23箇所の遺跡が発掘調査の対象となり、23冊の発掘調査

報告書が平成28(2016)年度末までに刊行される。工区名称は県道前橋赤城線を境界にして東が8—1工区、西が8—2工区と呼ばれている。調査は、平成18(2006)年度に8—1工区の東端から始められ、工事工程との調整により、平成23(2011)年度に8—2工区の西端である終点の田口下田尻遺跡の調査も開始された。

8—1工区は、これまでと同様に旧石器時代や縄文時代の遺構・遺物が多いのに対して、8—2工区では縄文時代より新しい遺跡の存在が明らかになっている。遺跡の実態が未知数であった赤城白川流域の白川扇状地では、予想外の縄文時代の埋没谷や旧石器まで含まれていることが判明している。特に最西端の田口下田尻遺跡では竪穴住居280軒が確認された大集落が調査され従来の広瀬川低地帯の遺跡分布の理解を見直す資料が得られている。

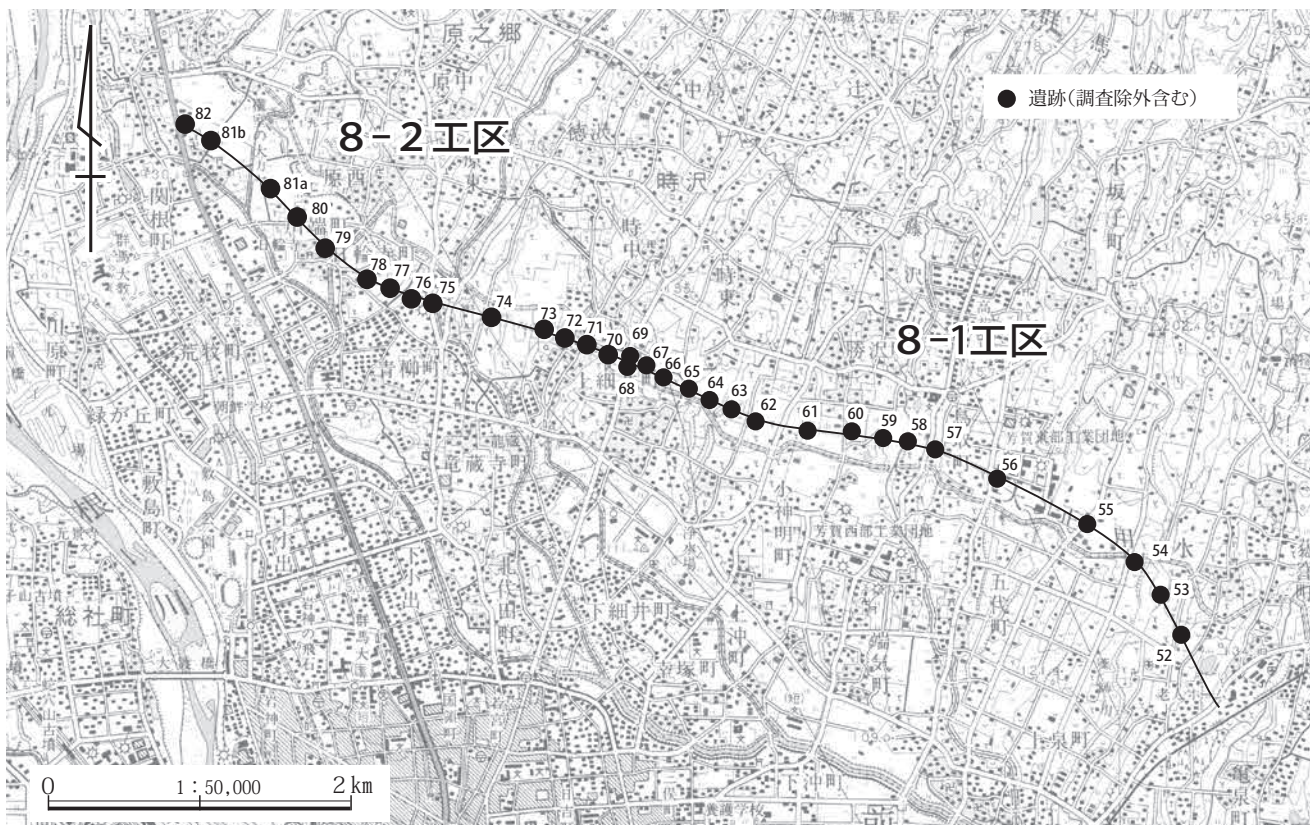
これまで、群馬県内の上武道路関連で発掘調査を実施してきた遺跡には、J Kを冠した遺跡略号が付されている。Jが上武、Kが国道を指しており、南側の起点から順次算用数字を1から付している。8工区も、7工区の最終番号J K52に続けて、この略号を記録類作成に際して使用している。J K52だけは、上泉唐ノ堀遺跡が供用部分の関係で7工区と8工区で分割されたことから、8工区分の上泉唐ノ堀遺跡はJ K52bとして7工区と区別している。また、J K59鳥取塚田遺跡、J K77日輪寺諏訪前遺跡、J K78諏訪遺跡は、試掘調査で遺構の無いことが判明し、発掘調査対象から除外したものの略号は欠番とせず、そのままとした(第1表)。また、当初関根遺跡群で一括されていた遺跡が田口下田尻遺跡、関根細ケ沢遺跡、関根赤城遺跡に細分されたこと、平成23(2011)年度に開始された田口下田尻遺跡を先行してJ K82としたことから、関根細ケ沢遺跡はJ K81a、関根赤城遺跡はJ K81bとした。

第3節 調査に至る経緯

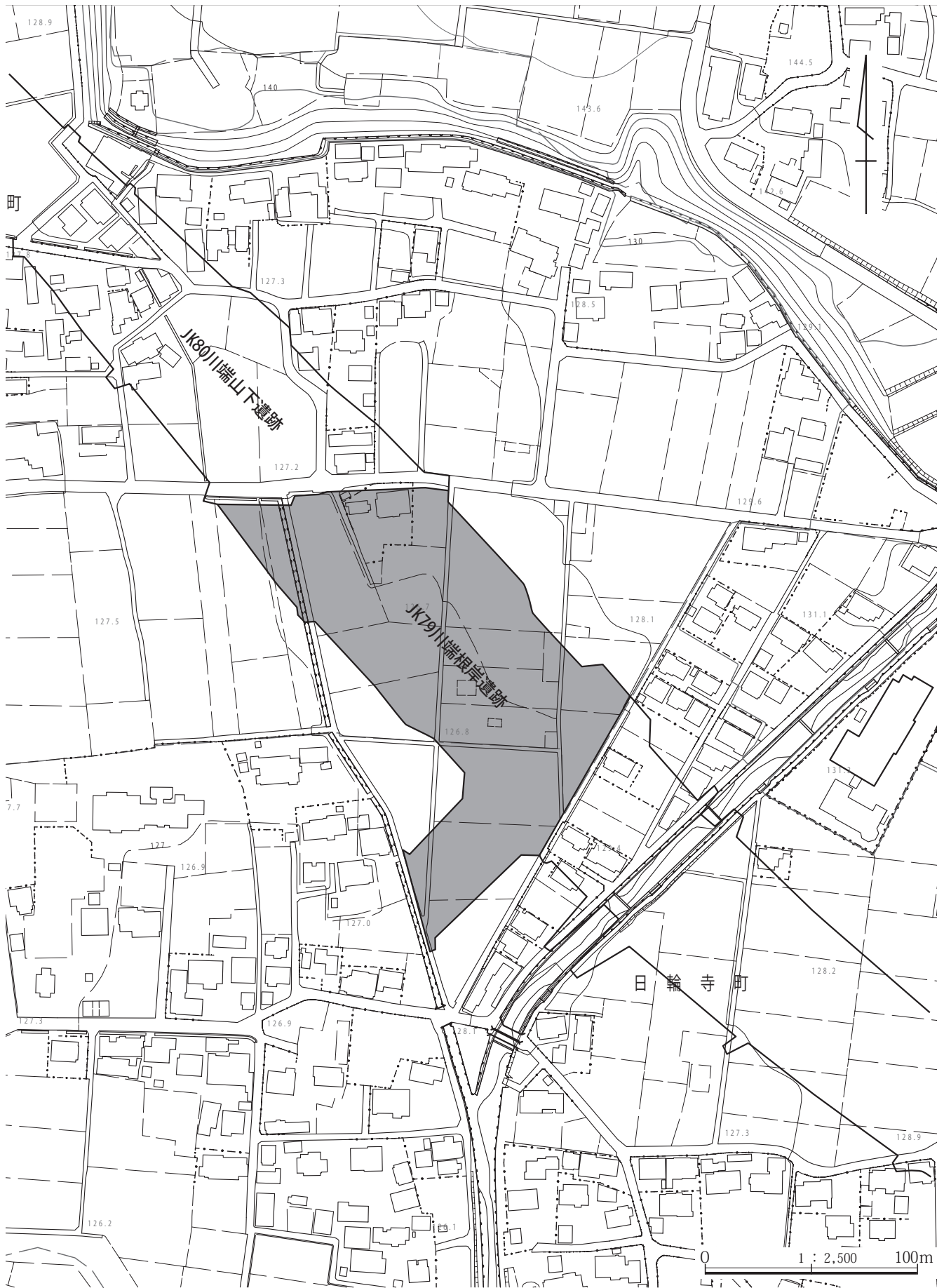
上武道路7工区の発掘調査は、上泉唐ノ堀遺跡を最後に平成16(2004)年度末で終了した。その後の工事は順調で、県道前橋大胡線までの供用が間近に迫っていた。さらに同年度には、国道17号の現道から西の前橋渡川バイパスが着工されたことから、8工区は、開通部分と前橋

第1表 上武道路8工区調査遺跡一覧表

J K No.	遺跡名	所在地	旧市町村 遺跡番号	新市町村遺跡番号 (遺跡名)	調査年度	報告書刊行 年度
52b	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市上泉町	00774	前橋市0543遺跡	平成18・19・20年度	平成23年度
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市上泉町	00775	前橋市0543遺跡	平成18・19・20年度	平成23年度
54	上泉武田遺跡	前橋市上泉町	00773	前橋市0074遺跡	平成19年度	平成24年度
55	五代砂留遺跡群	前橋市五代町	00772	前橋市0055遺跡	平成19年度	平成23年度
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市五代町・鳥取町	00357	前橋市0053遺跡	平成18・19・20年度	平成24年度
57	鳥取松合下遺跡	前橋市鳥取町	00776	前橋市0023遺跡	平成20年度	平成23年度
58	胴城遺跡	前橋市鳥取町	00041	前橋市0023遺跡	平成19・20・21年度	平成23年度
59	鳥取塚田遺跡	前橋市勝沢町	—	—	調査除外	—
60	堤遺跡	前橋市勝沢町	00034	前橋市0045遺跡	平成20年度	平成24年度
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市小神明町	00778	前橋市0046遺跡	平成20年度	平成23年度
62	小神明富士塚遺跡	前橋市小神明町・上細井町	00403	前橋市0043遺跡	平成20・21年度	平成23年度
63	東田之口遺跡	前橋市上細井町	00125	前橋市0039遺跡	平成20年度	平成23年度
64	丑子遺跡	前橋市上細井町	00134	前橋市0038遺跡	平成20年度	平成24年度
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市上細井町	00777	前橋市0037遺跡	平成20・21年度	平成24年度
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	00131	前橋市0035遺跡	平成20・21年度	平成25年度
67		前橋市富士見町時沢	90094		平成20・21年度	
68	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	00798	前橋市0035遺跡	平成21年度	平成24年度
69		前橋市富士見町時沢	90097		平成21年度	
70	王久保遺跡	前橋市上細井町・富士見町時沢	00794	前橋市0034遺跡	平成21・24年度	平成24年度
71	新田上遺跡	前橋市上細井町	00128	前橋市0034遺跡	平成24年度	平成26年度
72	上細井中島遺跡	前橋市上細井町	00787	前橋市0015遺跡	平成21・24年度	平成25年度
73	上細井蟬山遺跡	前橋市上細井町	00786		平成21・24年度	平成24年度
74	山王・柴遺跡群	前橋市青柳町	00795	前橋市0013遺跡	平成21・22・23・25年度	平成27年度
			前橋市0014遺跡			
			前橋市0783遺跡			
75	引切塚遺跡	前橋市青柳町	00434	前橋市0013遺跡	平成24年度	平成26年度
76	青柳宿上遺跡	前橋市青柳町	00325		平成24年度	
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市日輪寺町	—	—	調査除外	—
78	諏訪遺跡	前橋市日輪寺町	00144	前橋市0016遺跡	調査除外	—
79	川端根岸遺跡	前橋市川端町・日輪寺町	00807	前橋市0903遺跡	平成24年度	平成28年度
80	川端山下(道東)遺跡	前橋市川端町	00808		平成24・25年度	
81a	関根細ヶ沢遺跡	前橋市関根町	00802	前橋市0008遺跡	平成24年度	平成26年度
81b	関根赤城遺跡	前橋市関根町	00803		平成24年度	平成25年度
82	田口下田尻遺跡	前橋市田口町	00804	前橋市0008遺跡	平成23・25年度	平成28年度



第2図 上武道路8工区の遺跡(国土地理院1/50,000地形図「前橋」平成10年発行を使用)



第3図 川端根岸遺跡周辺図(前橋市役所 1/2,500前橋市現形図平成21年測図を使用)

渋川バイパスとの間に残された格好となり、早期着工を待ち望む声が一段と強まった。

8工区が建設に向けて動いたのは、平成18年度に入ってからである。国土交通省による路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が起点側から始まった。これまでの調査状況からみて、埋蔵文化財が用地内にあることは明確であったことから、埋蔵文化財の発掘調査を実施するための調整がおこなわれた。

埋蔵文化財の発掘調査について実施に向けての協議が、国土交通省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で行われ、平成18(2006)年2月16日付で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」(以下、「協定書」という。)が三者の間で締結された。これによって、群馬県教育委員会の調整を経て、埋蔵文化財の発掘調査を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなった。

協定書では、協定の適用区間、発掘調査の実施場所・対象面積が示され、平成18(2006)年10月1日～平成29(2017)年3月31日に発掘調査を完了させることが明記された。なお、「協定書」は、平成18(2006)年6月20日付で、調査期間の開始を3ヶ月前倒しとする変更のための「変更協定書」が締結されて、現在に至っている。この「変更協定書」に基づいて、平成18(2006)年7月から東端の上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群の発掘調査が開始された。

また、各遺跡が発掘調査に入る前には、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、群馬県教育委員会文化財保護課により、平成18(2006)年4月25・26日、同年5月17・18日、同年8月11日、同年12月5～7日、平成19(2007)年8月16～27日、同年12月10日～14日、平成21(2009)年1月6日～8日、同年4月20日～5月7日、同年9月25～29日、平成22(2010)年12月6～20日、平成23(2011)年5月12～23日、同年8月22日～24日、同年10月18日の13回にわたって、8工区の試掘調査が実施された。

川端根岸遺跡を含む川端町地区の試掘調査は、平成23(2011)年5月12～23日に青柳町地区とともに行われた。川端根岸遺跡においては、奈良・平安時代の竪穴住居を

複数確認したが、近世以降の大規模な河道跡により大きく削られていた。試掘調査により竪穴住居が確認されたことから、群馬県教育委員会文化財保護課は、本遺跡の事業区域内で本調査が必要と判定した。

第4節 調査方法と経過

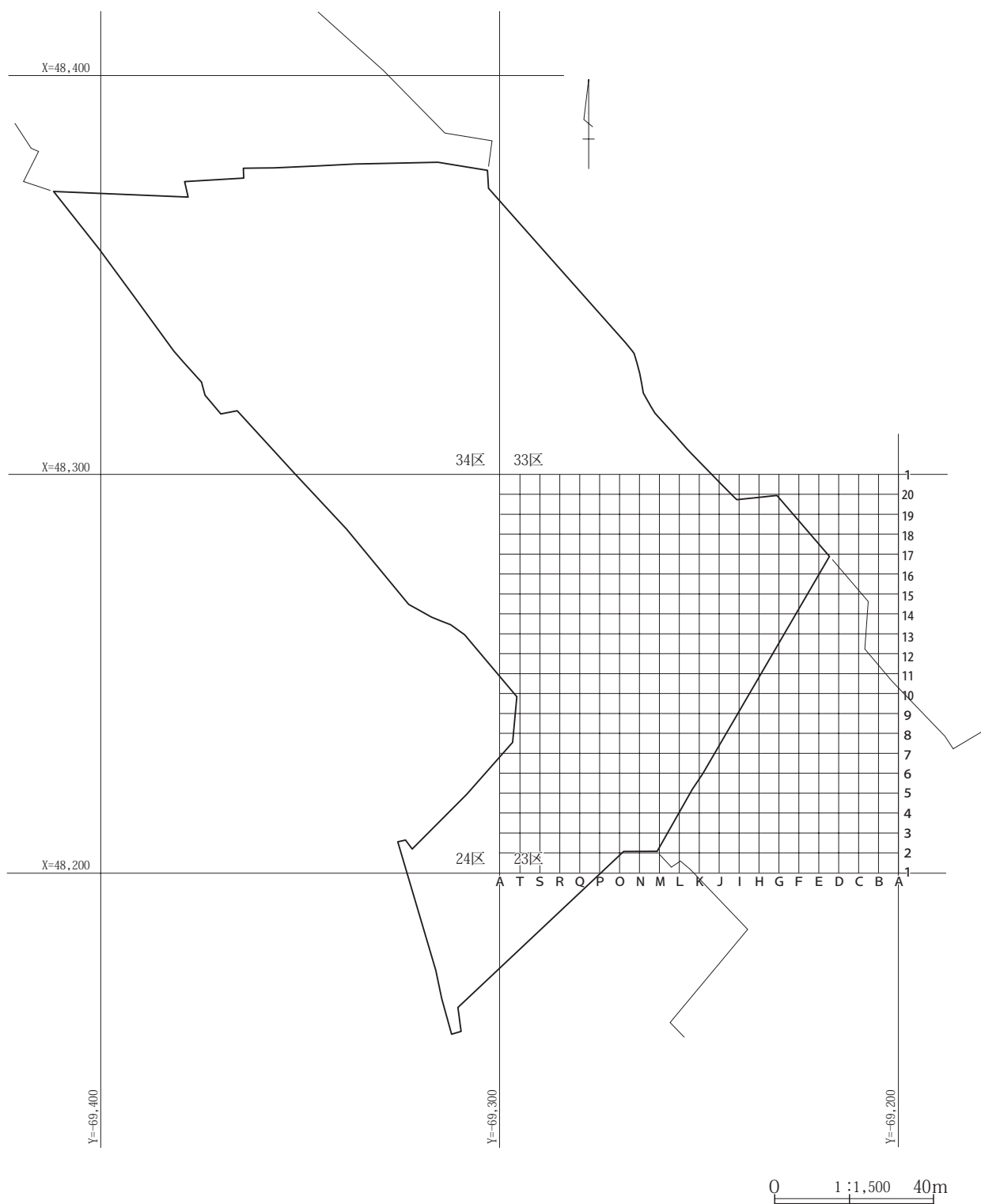
1. 発掘調査の経過

川端根岸遺跡の発掘調査は、平成24(2012)年12月1日から平成25(2013)年3月31日までの4ヶ月間、16,000.71㎡を対象として実施した。

調査区内は、道路・水路により分割されているため、その区画に従いA～F区と設定した。また、B～E区は工事用道路によりさらに分割されることとなったため、枝番号を付し、B1区、B2区…などと呼称した。発掘調査は、12月3日にB区(B3区)の表土除去から着手し、3月29日にD区(D2区)の埋め戻しをもって終了した。その結果、第1面(近世面)、第2面(中近世面)、第3面(中世面)、第4面(古墳時代～平安時代面)、第5面(古墳時代・5世紀洪水堆積物下位面)、第6面(古墳時代・As-C下位面)が確認された(5世紀洪水堆積物・As-Cについては第4章第2節参照)が、各調査区においては各面が部分的または全面的に重複した状況であった。

平成24年12月～平成25年3月の記録(抄)

- 12月1日(土) 調査事務所設置
- 12月3日(月) 事務所周辺整備。B3区調査開始。
- 12月12日(水) C1区・D1区調査開始。
- 12月18日(火) C1区調査終了。
- 12月20日(木) C3区調査開始。
- 12月27日(木) D3区・E1区調査開始。
- 1月24日(木) 空中写真撮影(1回目)。
- 1月30日(水) B1区・B2区調査開始。
- 2月8日(金) E2区・E3区調査開始。
- 2月13日(水) E1区調査終了。
- 2月14日(木) 空中写真撮影(2回目)・測量。
- 2月15日(金) D4区調査開始。
- 2月18日(月) D3区調査終了。
- 2月22日(金) E2区調査終了。



第5図 中・小グリッド設定図

2月26日(火) C 4区調査開始。
 2月27日(水) B 3・D 1区調査終了。
 2月28日(木) F区調査開始。
 3月1日(金) D 4区・E 3区調査終了。
 3月4日(月) A区調査開始。

3月5日(火) A区・B 1区・B 2区調査終了。
 3月11日(月) C 2区・D 2区調査開始。C 4区調査終了。
 3月13日(水) E 4区・E 5区調査開始。F区調査終了。
 3月21日(木) E 4区調査終了。



第6図 調査区細分図

- 3月25日(月) C 2区・C 3区・E 5区調査終了
- 3月27日(水) 空中写真撮影(3回目)・測量。
- 3月29日(金) D 2区調査終了。

2. 発掘調査の方法

(1)座標・グリッドの設定

発掘調査に用いた座標は、世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第IX系)である。なお、第IX系の原点

は、北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″（千葉県野田市）である。グリッドは第IX系を用いて上武道路8工区全域を覆うようにX=45,000、Y=-63,000を起点に1km四方に区切り、それを大グリッドとして1～100の番号を振り、第○区と呼称した。中グリッドは大グリッド内を100m四方に区切り、1～100の番号を振り、○区と呼称した。小グリッドは中グリッド内を5m四方に区切り、中グリッド南東隅を起点にX軸を1～20、Y軸をA～Tとし、YX交点名と呼称した。本報告書においては、例えば「33区(中グリッド)のY軸A・X軸1(小グリッド)」の場合、「33A 1」と略記した。

なお、前項に記したように、調査区内は道路・水路により分割されており、その区画に従いA～F区と設定し、B～E区については枝番号を付した。

(2)調査の方法

調査の方法はごく標準的な方法を用いた。表土除去は基本的に重機(バックホー)を用い、重層する遺構調査面も同様に重機(バックホー)で掘削を行った。

表土及び各文化層除去後、直下の露呈面(遺構面)の平面精査を行い、遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定した後、発掘作業員が移植鍬等で掘削し、測量・写真等で記録した(遺構測量・遺構写真撮影については後述)。遺構番号は、通し番号とせず、調査区ごとに付した。埋め戻しは基本的に重機(バックホー)を用いて行った。

(3)遺構測量

遺構図は断面図・平面図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて縮尺1/10・1/40とした。平面図は測量会社にデジタル測量を委託し、断面図は発掘作業員によるアナログ測量を行ったものを測量会社にデジタル化を委託した。

(4)遺構写真撮影

遺構写真は、調査担当者が撮影した。iso400プロローニー版モノクロフィルムを6×9と6×7cm判サイズ、iso100プロローニーカラーポジフィルム6×9版で撮影し、デジタルカメラでも撮影した(DVDに記録データを保存)。遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、全景等

を撮影し、さらに必要に応じて接写を行った。また、調査区全景写真については、空中写真撮影を測量会社に委託した。

3. 整理作業の経過と方法

整理作業は、平成27(2015)年度に4月から3月までの12ヶ月間、平成28(2016)年度に4月から9月までと1月から2月までの8ヶ月間、合計20ヶ月間実施した。詳細は以下、年度ごとに記す。

【平成27年度】

平成27年度の整理作業は、4月1日から3月31日までの12ヶ月間、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。遺構図は、点検・修正・編集を行い、掲載図をデジタルデータとして作成した。遺物は、接合・復元したものの写真撮影・実測・トレースを行った。遺構写真は、デジタル写真から編集を行った。また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等を執筆した。

【平成28年度】

平成28年度の整理作業は、4月1日から9月30日までの6ヶ月間と1月1日から2月28日までの2ヶ月間の合計8ヶ月間、前年度に引き続き国土交通省関東地方整備局の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。継続作業から着手し、遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集を行い、本報告書を作成した。遺物・図面・写真等の記録資料については、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納、保管した。なお、整理作業において、遺構名等の変更が生じたが(第5表参照)、これに伴う遺物注記について書きかえは行っていない。

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

川端根岸遺跡は前橋市の北西部、J R 両毛線前橋駅から北へ約5.5km、関越自動車道駒寄スマート I C (P A) から東へ約4.1km、前橋市川端町・日輪寺町に所在する。現在の前橋市は、平成の大合併で平成16(2004)年12月に旧勢多郡大胡町・宮城村・粕川村、平成21(2009)年5月に旧勢多郡富士見村を合併して成立した。この間、平成21年4月には群馬県内初の中核市に移行している。なお、富士見村の合併により、『倭名類聚抄』にも記された「勢多郡」の名称は消滅した。前橋市は群馬県の県庁所在地であり、政治・経済・文化の中心都市として、多くの行政機関や金融保険業などのサービス産業が集積している。『平成27年度群馬県市町村要覧』によると、産業就業別人口においては第3次産業人口の割合が高く、71.5%を占めている。

前橋市周辺の地形を概観すると、北東部に赤城火山斜面、南西部の洪積台地(前橋台地)と、両者に挟まれた沖積低地(広瀬川低地帯)および現利根川氾濫原からなる。

赤城火山の火山活動は、約50万年前からの古期成層火山形成期、約20万年前からの新期成層火山形成期、約4.5万年前からの中央火口形成期からなる。古期成層火山形成期にはスコリア噴出や溶岩流出により大規模な成層火山が形成され、最盛期には標高2,000m以上に達したと推定される。その後、山体崩落による岩屑なだれが起き、南麓から南西麓にかけて多田山や権現山、橘山などの流れ山が形成された。古期成層火山形成後は、長い活動休止期があり山体の浸食が進んだ。新期成層火山の山体は主に溶岩流とテフラから構成され、浸食の進んだ古期成層火山を覆っている。中央火口形成期には、カルデラの形成が進んだ。約4.5万年前にはカルデラ内で大規模な噴火が発生し、噴出された軽石は太平洋岸にまで達した。この軽石がいわゆる「鹿沼土」である。その後、長七郎山・地蔵岳などの中央火口丘群が形成された。中央火口丘群の形成後は、現在に至るまで浸食作用が続き、火山麓扇状地が形成されている。

浅間山の山体崩壊によって引き起こされた火山泥流堆積物(前橋泥流堆積物)とそれを覆うローム層から成る前橋台地は、利根川が赤城・榛名山麓間から関東平野に流れ出たところに広がる緩傾斜の台地である。前橋泥流堆積物の上下からはAs-BP Groupが確認されており、前橋泥流の堆積年代は約2.3万年前と推定される。前橋台地と赤城火山南麓斜面との間には広瀬川低地帯(沖積低地)が広がり、前橋台地と広瀬川低地帯との間は比高差数mもの崖となっている。しかし、現在の広瀬川の流量は、広瀬川低地帯を形成するには不足であると考えられる。一方、利根川は前橋台地の中央部を不自然に流下している。このことから、広瀬川低地帯が利根川の旧流路であったと推定される。

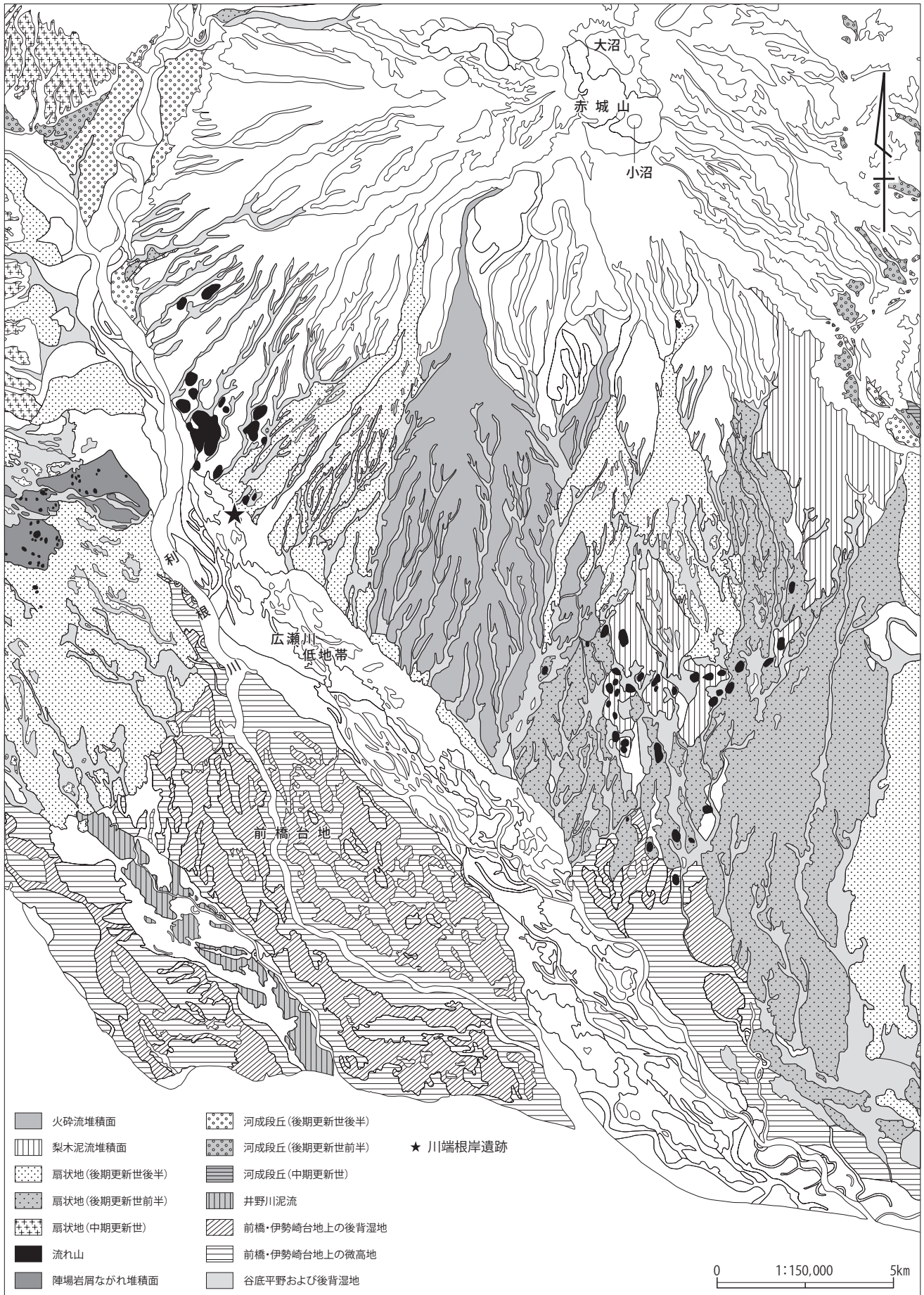
本遺跡は、広瀬川低地帯の北に細ヶ沢川、南に大堰川、西に桃ノ木川に囲まれた微高地および後背湿地上に位置する。細ヶ沢川は本遺跡の北西、大堰川は本遺跡の南西で桃ノ木川に合流する。なお、本遺跡内には近代以前の旧細ヶ沢川の流路が存在する。本遺跡周辺をはじめ桃ノ木川左岸地域は、現在、主に田畑として利用されているが、これに対し、桃ノ木川右岸地域は、近年、市街化が進行している。

第2節 歴史的環境

1. 旧石器時代

本遺跡周辺の旧石器時代の遺跡は、近年の上武道路建設に伴う調査で遺跡数が増加しつつあるものの、分布は希薄である。

前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第8図11)においてAs-YP下から黒色頁岩製石器2点が出土した。前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第8図18)においてもAs-YP下から硬質頁岩製と黒色安山岩製の石器109点が出土し、前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡、第8図範囲外)においてもAs-YP下から硬質頁岩製を中心に石器350点が出土した。また、前橋市0023遺跡(胴城遺跡、第8図範囲外)においてAs-YP下～As-OK1から黒曜石製を中心に石器79点



第7図 川端根岸遺跡周辺地形分類図(群馬県史編纂委員会『群馬県史』通史編1・付図2を改変)

が出土し、前橋市0015遺跡(上細井蟬山遺跡、第8図12)においてはAs-0Kを含む層から黒色頁岩製と黒色頁岩製の石器2点が出土した。以上、本遺跡周辺の旧石器時代遺跡は、赤城火山南西麓斜面に立地する比較的新しい時期のものである。

2. 縄文時代

縄文時代になると、本遺跡周辺の遺跡数は徐々に増加する。とくに前期の増加が著しく、中期以降は減少に転ずる。

草創期の遺物は前橋市0045遺跡(堤遺跡、小神明遺跡群湯気遺跡、第8図範囲外)・前橋市0046遺跡(端気遺跡群、小神明勝沢境遺跡、第8図範囲外)から出土している。早期の集落は城山遺跡(第8図範囲外)から確認されている。

早期の遺物は前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第8図範囲外)・前橋市0046遺跡(端気遺跡群、第8図範囲外)から撚糸文土器、前橋市0038遺跡(丑子遺跡、第8図範囲外)から条痕文土器が出土したほか、前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第8図11)・前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第8図13)から早期の遺物包含層が確認されている。

前期の遺跡は赤城火山南西麓斜面に多く分布しており、前橋市0004遺跡(下庄司原西遺跡、下庄司原東遺跡、上庄司原東遺跡、富士見地区遺跡群陣場遺跡、第8図5)・前橋市0015遺跡(上細井蟬山遺跡、第8図13)・前橋市0748遺跡(富士見地区遺跡群愛宕山遺跡、第8図39)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)・前橋市0037遺跡(上細井五十嵐遺跡、第8図範囲外)・芝山遺跡(第8図範囲外)・下箱田向山遺跡(第8図範囲外)などから集落が確認されている。

中期に入ると遺跡数は減少に転じる。前橋市0015遺跡(上細井中島遺跡、第8図13)・前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第8図18)・瓜山遺跡(第8図74)などから集落が確認されている。

後晩期の遺跡は少ない。前橋市0045遺跡(堤遺跡、小神明遺跡群九料遺跡、第8図範囲外)・前橋市0049遺跡(鳥取福蔵寺遺跡、第8図範囲外)などから後期の集落が確認されたほか、前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第8図11)から晩期千網式土器が出土している。

3. 弥生時代

本遺跡周辺の弥生時代の遺跡数は、縄文時代晩期から継続して少なく、分布も赤城火山南西麓斜面に限られる。後期の遺跡が多い。

前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第8図18)から中期、前橋市0045遺跡(小神明遺跡群湯気遺跡・倉本遺跡、第8図範囲外)から中期～後期、前橋市0038遺跡(丑子遺跡、第8図範囲外)から後期の集落が確認されている。前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、第8図11)からは中期の遺物が出土している。

4. 古墳時代

古墳時代になると再び本遺跡周辺の遺跡数は増加し、平野部にもその分布を広げるようになる。

前期の集落は前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第8図5)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0013遺跡(引切塚遺跡、第8図11)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されている。前橋市0004・0847遺跡(上庄司原西遺跡、第8図5・68)からは集落に近接して周溝墓も確認されている。前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第8図11・12)からはAs-C前後の畠4群が確認されており、古墳時代初頭の生産域の存在を示すものである。

中期の集落は前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されている。前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第8図65)からは方墳と小石槨墓が確認されている。方墳の主体部は削平され失われていたが、周溝内においてHr-FAの堆積が確認され、5世紀後半～6世紀初頭と推定される。

後期の集落は前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第8図5)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第8図11)・前橋市0016遺跡(南橋東原遺跡、第8図14)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されている。また、前橋市0764遺跡(九十九山古墳(富士見村16号古墳)、第8図55)は前方後円墳であり、6世紀前半と推定される。前橋市0783



第8図 川端根岸遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 1/25,000地形図「渋川」平成14年発行、「前橋」平成22年発行を使用)

第2表 川端根岸遺跡周辺遺跡一覧表

遺跡No.・名称・ID	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別・概要	文献
1 前橋市0903遺跡	川端根岸遺跡	04563	○		○	○		集落、城館、散布地、生産遺跡。	本報告書
	川端山下遺跡	04564			○	○		集落。	※1
	関根細ヶ沢遺跡	04572			○	○		集落、生産遺跡。古墳溝7、水田2、平安住居149、溝36、製鉄炉3、鍛冶1、中近世溝22、サク群8、耕作痕4など。	13
	日輪寺観音前遺跡					○	○	集落、生産遺跡。	※1
2 前橋市0001遺跡	02245				○		散布地。		
3 前橋市0002遺跡	02235			○			散布地。		
4 前橋市0003遺跡	04275		○	○	○		散布地。		
5 前橋市0004遺跡	千手堂遺跡	00312	○					集落。	
	田口八幡Ⅰ遺跡	00313				○		集落。平安住居14など。	52
	田口八幡Ⅱ遺跡	00314				○		集落、生産遺跡。平安住居24など。	53
	天神窪遺跡	00317		○				集落。	
	八幡遺跡	00332		○				集落。	
	富士見地区遺跡群	02917		○		○		集落。縄文住居24、平安住居73など。	20
	陣場遺跡								
	下庄司原西遺跡	02920		○	○	○	○	集落。縄文住居4、平安住居20など。	
	下庄司原東遺跡	04506		○		○	○	集落。縄文住居6、古墳住居10、奈良平安住居41など。	
	上庄司原西遺跡	02923		○	○	○	○	集落。古墳住居6、奈良平安住居6など。	
	上庄司原東遺跡	02925		○	○	○	○	集落。縄文住居4、平安住居7など。	
	上庄司原北遺跡	02928			不		明	集落。	
米野下原遺跡	02942		○		○		散布地。		
	00344		○		○		集落。		
6 前橋市0008遺跡	田口上田尻遺跡	04605			○	○	○	集落、生産遺跡。古墳～平安住居311、畑26、近世復旧痕59、水田6など。	6
	田口下田尻遺跡	04606			○	○	○		
		04507			○	○	○	集落、生産遺跡。	※1
	関根赤城遺跡	04571			○	○	○	集落、生産遺跡。古墳畑1、平安住居39など。	11
7 前橋市0009遺跡	02126					○	生産遺跡。江戸畑9、溝1など。	42	
8 前橋市0010遺跡	00309					○	城館。	55	
9 前橋市0011遺跡	旭久保遺跡	02955		○	○	○	○	集落。	24
	旭久保B遺跡	02956		○	○	○	○	集落。古墳住居1、中近世溝1など。	24,27
		02957							
	旭久保C遺跡	02958		○		○	○	集落。	28
		02959							
	旭久保D遺跡	02960		○		○	○	集落。	32
		02961							
	旭久保Ⅱ・Ⅲ遺跡	02975		○		○		集落。	31
	旭久保Ⅲ遺跡	02973			不		明	集落。	23,34
		02974							
原之郷新川遺跡	02980		○				散布地。	34	
	02247		○		○		散布地。		
	04593		○				散布地。		
10 前橋市0012遺跡	原之郷下白川遺跡	02986			○			散布地。	28,30,31
11 前橋市0013遺跡	青柳遺跡	00283			○			集落。古墳住居1。	46
	青柳宿上遺跡	00284	○	○	○	○		集落。旧石器、縄文住居1、古墳住居29、縄文早期包含層など。	14,46
		04554							
	引切塚遺跡	00336		○	○	○		集落。古墳住居29、奈良住居3、縄文早期包含層など。	14,36
		04557							
	引切塚Ⅱ遺跡	00338				○		集落。古墳住居2など。	37
	03705								
山王・柴遺跡群	03866				○		集落。As-B下水田?	15	
12 前橋市0014遺跡	神明A遺跡	00302			○			集落。	
	神明B遺跡	00303			○			集落。	
	念仏遺跡	03052				○		散布地。	
	山王・柴遺跡群	04555		○		○	○	集落。As-B下水田?	15
		02248				○		散布地。	
13 前橋市0015遺跡	時沢西萩林遺跡	03075			○	○		集落。	34,35
		03076							
	時沢西萩林Ⅱ遺跡	04492				○		集落。	
	上細井中島遺跡	03864		○		○	○	集落。縄文住居7、平安住居7、縄文早期包含層など。	9
	上細井蟬山遺跡	03865	○	○		○	○	集落。旧石器、縄文住居1、平安住居25など。	8
		02320		○		○	○	散布地。	

第2章 周辺の環境

遺跡No・名称・I D			旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別・概要	文献	
14	前橋市0016遺跡	諏訪遺跡	00305			○				集落。		
		南橋東原遺跡	02127			○	○			集落。古墳～平安住居52など。	54	
15	前橋市0031遺跡		02250	○	○	○				散布地。		
16	前橋市0032遺跡	青柳宿前遺跡	00285 02798				○			集落。	39	
		青柳宿前II遺跡	01311				○			集落。	40	
17	前橋市0033遺跡	青柳寄居遺跡	00288				○			集落。平安住居12など。	48	
18	前橋市0034遺跡	新田上遺跡	00300 04561	○	○	○	○	○		集落。旧石器ブロック6、縄文住居13、配石1、古墳住居2、平安住居31など。	12	
		時沢四ツ塚遺跡	03049		○	○				散布地。		
		時沢原谷戸遺跡	03081					○			集落。	32
		王間久保遺跡	00293		○	○					集落。	
19	前橋市0035遺跡	葉師遺跡	00343		○	○				集落。		
		時沢宮東遺跡	03068 03069			○	○				集落。	33,35
		時沢西高田遺跡	03070 03071 03072				○	○			集落。	27,28,31
		時沢西高田B遺跡	03073					○			集落。	28
		時沢西紺屋谷戸遺跡	03077 03078					○	○		集落。	30
		上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	03862					○	○		集落。古墳～平安住居47など。	10
		王久保遺跡	03863 04594					○	○		集落。古墳～平安住居25、平安鍛冶1など。	7
		八幡山の砦	00334						○		城館。	55
		八幡前遺跡	01312						○		散布地。	
		22	前橋市0068遺跡		02253	○	○	○				散布地。
23	前橋市0115遺跡	若宮遺跡	00263				○			集落。平安住居14、溝3など。	49	
		植野小開土遺跡	04599			○				集落。		
24	前橋市0116遺跡	勝山城	00043					○		城館。	5	
25	前橋市0124遺跡	元景寺経塚遺跡	00078						○		城館。	
		総社城	00154 01383						○		城館。	55
			01383						○		城館。	43
26	前橋市0125遺跡	総社町屋敷南遺跡	03879	○		○				集落。	45	
		宝塔山古墳(総社村9号古墳)	04509			○				古墳。	3,44	
27	前橋市0126遺跡	南橋村41号古墳	02797			○				古墳。	3	
		神明古墳	04615			○				古墳。		
28	前橋市0589遺跡	横室古墳(富士見村13号古墳)	02943			○				古墳。	3	
29	前橋市0591遺跡	富士見地区遺跡群	02950			○				古墳。	22	
		初室古墳(富士見村7号古墳)										
30	前橋市0595遺跡		04351 04352			○	○			集落。		
		陣場	02953					○			城館。	5
32	前橋市0599遺跡	原之郷白川遺跡	02983			○				散布地。		
33	前橋市0603遺跡	遠見山古墳(総社村6号古墳)	04444			○				古墳。	3	
		蛇穴山古墳(総社村8号古墳)	04443			○				古墳。	3,38	
		宝塔山古墳(総社村9号古墳)	04447			○					古墳。	3,47
		愛宕山古墳(総社村10号古墳)	04445			○					古墳。	3,46
		総社二子山山古墳(総社村11号古墳)	04446			○					古墳。	3,4
		稲荷山古墳(総社村12号古墳)	00016			○					古墳。	3,51
			04454					○			散布地。	
35	前橋市0725遺跡	引田高堰遺跡	02843 02844	○			○			集落。縄文住居1、平安住居1など。	29,30	
		引田宿原遺跡	02850	○		○				集落。	16	
		引田諏訪三反田遺跡	02851			○					散布地。	

第2節 歴史的環境

遺跡No・名称・I D	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別・概要	文献
36 前橋市0726遺跡	富士見地区遺跡群	02845	○			○	○	集落。	21
	赤城遺跡								
	富士見地区遺跡群	02938	○			○		集落。縄文住居2、平安住居4など。	
	長泉寺遺跡								
37 前橋市0727遺跡	富士見地区遺跡群	02913	○		○	○		集落。縄文住居2、平安住居23、掘立10など。	19
	由森遺跡								
	引田高橋遺跡	02940	○		○			その他。	
	米野広町遺跡	02854	○		○			散布地。	
38 前橋市0741遺跡	横室寄居	02909				○		城館、その他。	55,56
	富士見地区遺跡群	02914	○			○		城館、その他。中近世溝4など。	18
39 前橋市0748遺跡	寄居遺跡								
	富士見地区遺跡群	02910	○			○		集落、生産。縄文住居12、土坑150、平安炭	22
	愛宕山遺跡							窯1など。	
富士見地区遺跡群	02931	○				○	生産遺跡。近世採石跡1。		
40 前橋市0749遺跡	愛宕遺跡								
	横室中遺跡	02915	○					生産遺跡。	27
	富士見地区遺跡群	02930	○	○	○	○		集落。縄文住居9、古墳住居61、溝1など。	17
41 前橋市0750遺跡	田中遺跡								
	富士見地区遺跡群	02936	○		○			集落。縄文住居2、配石1など。	18
42 前橋市0751遺跡	田中遺跡								
	富士見地区遺跡群	02911	○		○	○		集落。縄文住居6、古墳住居1、奈良平安住	19
	久保田遺跡							居13など。	
富士見地区遺跡群	02912	○		○	○	○	集落。縄文住居2、古墳住居20、奈良平安住		
43 前橋市0752遺跡	白川遺跡							居14、掘立11など。	
	森山古墳(富士見村6号古墳)	02944			○			古墳。	3
44 前橋市0753遺跡	道上古墳	02945			○			古墳。	3,16
	荒井古墳(富士見村14号古墳)	02946			○			古墳。	
45 前橋市0754遺跡	横室薊遺跡	02948	○					散布地。	16,31
46 前橋市0755遺跡	田島城	02952				○		城館。	55
47 前橋市0756遺跡	富士見地区遺跡群	02939				○		城館。	22
	日向遺跡								
48 前橋市0757遺跡	森山城(引田城)	02954				○		城館。	56
	原之郷鎌塚遺跡	02949	○		○			集落、散布地。	
49 前橋市0758遺跡	田島上の台遺跡	02951			○			散布地。	
	富士見地区遺跡群	02977	○		○	○		集落。縄文土坑3、古墳住居9、奈良平安住	18
	岩之下遺跡							居15など。	
横室東沢口遺跡	02982			○			散布地。		
50 前橋市0759遺跡	原之郷鰻沢遺跡	02962				○		集落。平安住居2、掘立1など。	26
		02963							
		04597				○		集落。	
51 前橋市0760遺跡	原之郷東原遺跡	02976	○			○		集落。	23
	原之郷後原遺跡	02978	○			○		集落。	
52 前橋市0761遺跡	原之郷善養寺遺跡	02984		○	○			集落。	28
53 前橋市0762遺跡	富士見漏1号古墳	03724			○			古墳。	
54 前橋市0763遺跡	原之郷山ノ後遺跡	02985		○				散布地。	
55 前橋市0764遺跡	九十九山古墳(富士見村16号古墳)	02987			○			古墳。	3
56 前橋市0765遺跡	九十九山の砦	02988				○		城館。	5
57 前橋市0766遺跡	金山城	02989				○		城館。	55
58 前橋市0767遺跡	小沢の場遺跡	02995			○	○	○	集落。古墳溝1、平安住居2、中近世溝1など。	25
		02996							
59 前橋市0769遺跡	原之郷慶阿弥遺跡	03001	○		○	○		集落。	
60 前橋市0773遺跡	田島鉄砲林遺跡	03011			○			散布地。	
61 前橋市0776遺跡	十二遺跡	03016	○					集落。	
62 前橋市0777遺跡	時沢中島遺跡	03051			○	○		墳墓。	
63 前橋市0778遺跡	田島清水遺跡	03015	○		○			散布地。	
64 前橋市0779遺跡	鎌塚古墳(富士見村15号古墳)	03012			○			古墳。	3
65 前橋市0783遺跡	山王・柴遺跡群	04488			○			古墳。	15
66 前橋市0843遺跡	青柳寄居遺跡	03950				○		生産遺跡。水田。	48

第2章 周辺の環境

遺跡No.・名称・I D	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	種別・概要	文献
67 前橋市0846遺跡	塩原塚古墳	00298			○			古墳。	46
	田口冠木遺跡・田口冠木遺跡1号古墳(南橋村24号古墳)	01245			○			古墳。	3,41
	富士塚古墳(南橋村28号古墳)	00340			○			古墳。	3
	南橋村32号古墳	02233			○			古墳。	
	南橋村33号古墳	02234			○			古墳。	
	諏訪古墳群	02236			○			古墳。	
	諏訪古墳群B(南橋村34・36・37号古墳)	02237			○			古墳。	
	諏訪古墳群C	02238			○			古墳。	
	冠木古墳群A(南橋村16～22号古墳)	02239			○			古墳。	
冠木古墳群B(南橋村24～26号古墳)	02240			○			古墳。		
68 前橋市0847遺跡	南橋村35号古墳	02241			○			古墳。	3
	下庄司原1号古墳・富士見村狐塚古墳(富士見村10号古墳)	02921			○			古墳。	3,20
	上庄司原1号古墳(富士見村8号古墳)	03955			○			古墳。	
	上庄司原2号古墳(富士見村9号古墳)	02929			○			古墳。	
	上庄司原3号古墳	02926			○			古墳。	
	上庄司原4号古墳(富士見村11号古墳)	02924			○			古墳。	
	陣場1号古墳(富士見村12号古墳)	02918			○			古墳。	
	陣場2号古墳	02919			○			古墳。	
	富士見地区遺跡群 陣場遺跡	03952			○			古墳。円墳2。	
	上庄司原西遺跡	03953			○			古墳。周溝墓1。	
	上庄司原東遺跡	03954			○			古墳。円墳2。	
	上庄司原北遺跡	04428			○			古墳。円墳1。	
	田口八幡1遺跡	04603			○			古墳。円墳1。	52
69 前橋市0858遺跡	引切塚古墳(南橋村40号古墳)	00339			○			古墳。	36
	引切塚遺跡	04329			○			古墳。	
70 前橋市0865遺跡		04169						散布地。	43
71 前橋市0901遺跡		04583			不	明		生産、その他。	
72 前橋市0913遺跡	田口上田尻遺跡	04604			○	○	○	水田、生産。	6
73 前橋市0943遺跡	青柳寄居	04670					○	城館。	56
74 瓜山遺跡				○				散布地、集落。縄文住居2など。	1,2
75 橋峠遺跡				○			○	散布地。	
76 遺跡名無し				○				古墳。	
77 遺跡名無し				○				古墳。	
78 遺跡名無し				○			○	散布地。	
79 遺跡名無し				○				散布地。	
80 遺跡名無し				○				散布地。	

徳川家康江戸入府後、本遺跡をふくむ川端村・日輪寺村は前橋藩領(平岩氏→酒井氏→松平氏、一時川越藩)となった。なお、『上野国郡村誌』によると、日輪寺村は永

禄年間(1558～70年)頃に川端村から分村したとされる。村名は前出の朝天山祈禱院日輪寺に由来する。

文献	
1	北橋村教育委員会1990『東篠遺跡・瓜山遺跡』
2	北橋村教育委員会2000『北橋村村内遺跡』Ⅷ
3	群馬県1938『上毛古墳綜覧』
4	群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3
5	群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
6	群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』
7	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『王久保遺跡』
8	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井蟬山遺跡』
9	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上細井中島遺跡』
10	群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『上町・時沢西紺屋谷戸遺跡』
11	群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
12	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
13	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
14	群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
15	群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・柴遺跡群』
16	富士見村誌編さん委員会1979『富士見村誌』続編
17	富士見村教育委員会1986『田中田遺跡・窪谷戸遺跡・見眼遺跡』
18	富士見村教育委員会1987『富士見地区遺跡群 向吹張遺跡・田中遺跡・岩之下遺跡・寄居遺跡』
19	富士見村教育委員会1989『富士見地区遺跡群 白川遺跡・由森遺跡・久保田遺跡』
20	富士見村教育委員会1991『富士見地区遺跡群 陣場・庄司原古墳群』
21	富士見村教育委員会1993『富士見地区遺跡群 赤城遺跡・長泉寺遺跡』
22	富士見村教育委員会1994『富士見地区遺跡群 愛宕山遺跡・初室古墳・愛宕遺跡・日向遺跡』
23	富士見村教育委員会1997『平成8年度村内遺跡』
24	富士見村教育委員会1998『旭久保B遺跡』
25	富士見村教育委員会1998『小沢の場遺跡』
26	富士見村教育委員会1998『原之郷鰻沢遺跡』
27	富士見村教育委員会1998『平成9年度村内遺跡』
28	富士見村教育委員会1999『平成10年度村内遺跡』
29	富士見村教育委員会2001『引田高堰遺跡』
30	富士見村教育委員会2001『平成12年度村内遺跡』
31	富士見村教育委員会2002『平成13年度村内遺跡』
32	富士見村教育委員会2004『平成15年度村内遺跡』
33	富士見村教育委員会2006『時沢宮東遺跡』
34	富士見村教育委員会2007『時沢西萩林遺跡』
35	富士見村教育委員会2009『平成16～19年度村内遺跡』
36	前橋市教育委員会1985『引切塚遺跡』
37	前橋市教育委員会1993『引切塚Ⅱ遺跡』
38	前橋市教育委員会1996『市内遺跡発掘調査報告書』
39	前橋市教育委員会2000『市内遺跡発掘調査報告書』
40	前橋市教育委員会2001『市内遺跡発掘調査報告書』
41	前橋市教育委員会2004『年報』35
42	前橋市教育委員会2007『市内遺跡発掘調査報告書』
43	前橋市教育委員会2008『市内遺跡発掘調査報告書』
44	前橋市教育委員会2009『市内遺跡発掘調査報告書』
45	前橋市教育委員会2009『年報』40
46	前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
47	前橋市文化財研究会1976『蛇穴山古墳調査概報』
48	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1984『青柳寄居遺跡』
49	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989『若宮遺跡』
50	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1996『総社愛宕山遺跡』
51	前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998『稲荷山古墳』
52	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅰ遺跡』
53	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000『田口八幡Ⅱ遺跡』
54	前橋市埋蔵文化財発掘調査団2008『南橋東原遺跡』
55	山崎一1971『群馬県古城址の研究』上
56	山崎一1979『群馬県古城址の研究』補遺編上
※1	平成28(2016)年度刊行予定

第3節 基本土層

現表土以下の基本土層(柱状図)は第9図に示した。調査区全体がI a・I b層に覆われており、カスリン台風による洪水の影響が窺える。II層以下の堆積状況は場所により異なるが、傾向としては調査区の東端(C区北半)と西寄りの旧細ヶ沢川左岸側(E区西縁)の標高がやや高いのに対し、中央部(B・D区)と西端(F区)が低く多くの土層が観察された。VII b層について、詳細は第4章第2節参照。

I層 表土。

- I a. 現表土、耕作土。
- I b. カスリン台風による洪水層。
- I c. 旧表土、耕作土、カスリン台風により埋没。
- I d. I c層下の整地層、斑状。
- I e. 耕作土、砂質土。
- I f. 耕作土、砂質土、I e層に比べ明るい。
- I g. 耕作土、砂質土、I e層に比べしまりなし。

II層 As-B混土。

- II a. 黒色土(10YR2/1)、As-B微量。
- II b. 黒褐色土(10YR3/2)、As-B少量。
- II c. 暗褐色土(10YR3/3)、As-B多量。

III層 As-KkおよびAs-B。

- III a. As-Kk。
- III b. As-KkとAs-Bの間層。
- III c. As-B。

IV層 暗褐色土(7.5YR3/3)、シルト質、Hr-FP混土。

V層 砂礫層・シルト質土、Hr-FP含むか。

- V a. 灰黄褐色砂層(10YR5/2)。
- V b. にぶい黄褐色砂礫層(10YR5/4)。
- V c. 灰黄褐色土(10YR5/2)、シルト質。
- V d. にぶい黄橙色土(10YR7/2)、シルト質。
- V e. 灰黄褐色土(10YR5/2)、シルト質。

VI層 Hr-FA。

VII層 シルト質土、洪水堆積物。

- VII a. 暗褐色土(10YR3/3)。
- VII b. にぶい黄橙色土(10YR7/2)、5世紀洪水堆積物。

VIII層 As-C混土、シルト質土。

VIII a. 黒褐色土(10YR3/1)。

VIII b. にぶい黄橙色土(10YR7/2)。

VIII c. 黒色土(10YR2/1)。

IX層 As-C。

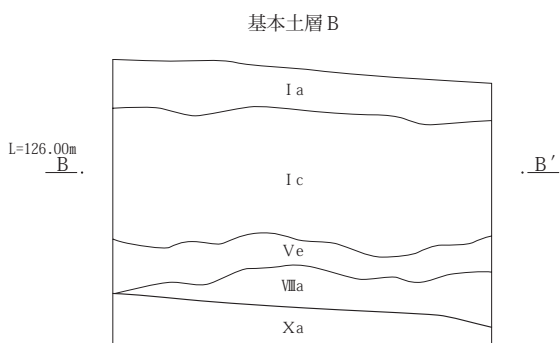
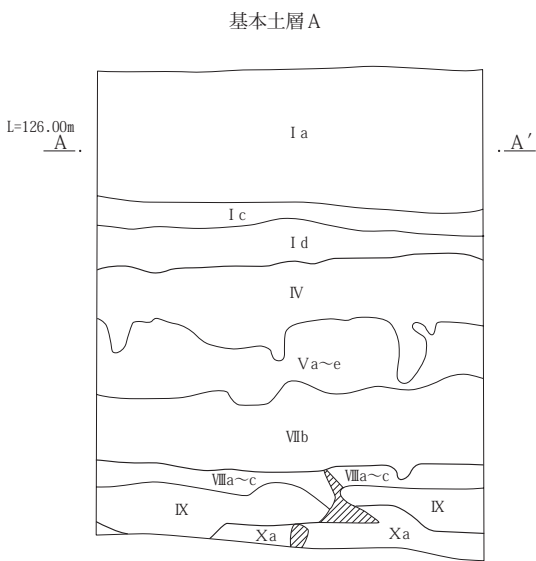
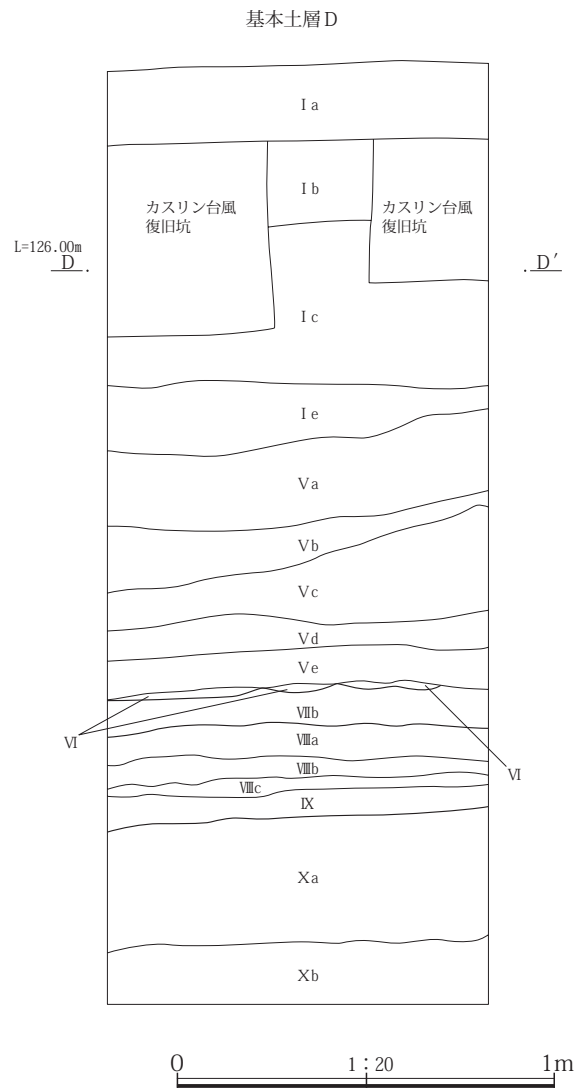
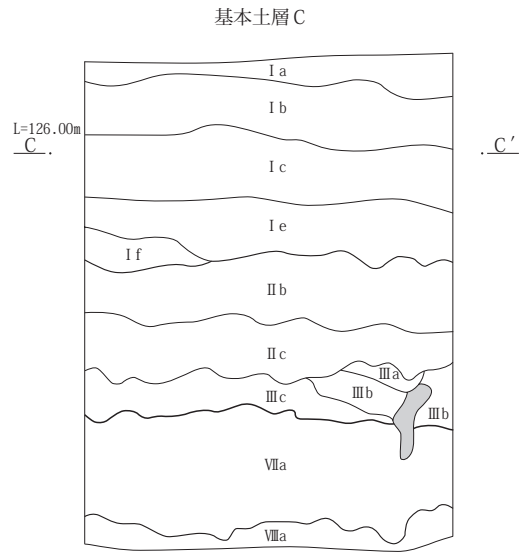
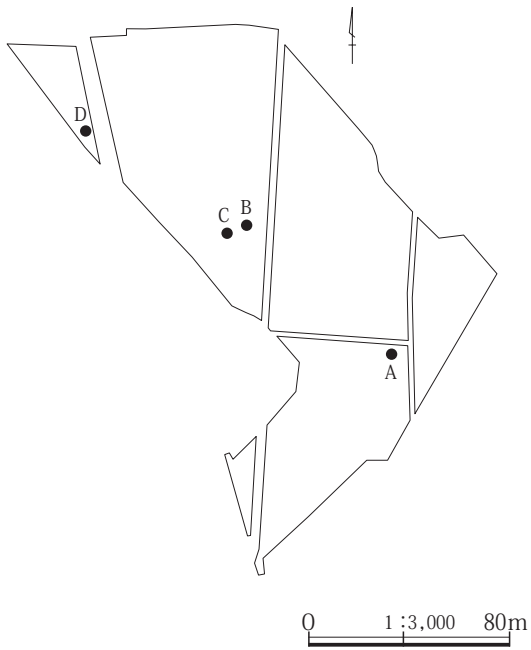
X層 シルト質土。

X a. 黒褐色土(10YR3/1)。

X b. 褐色土(10YR4/4)。

参考文献(第2章)

- 飯森康広2015「環濠屋敷をめぐる研究動向と地域状況」『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会
今井善一郎1943「拜志庄考」『上毛文化』71 上毛文化会
今井善一郎1959「拜志庄の位置について」『群馬文化』27 群馬文化の会
北橋村誌編纂委員会1975『北橋村誌』
群馬県1950『カスリン颱風の研究』
久保田順一2009『中世前期上野の地域社会』 岩田書院
群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編1
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編3
群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村要覧』
群馬県地質図作成委員会1995『群馬県10万分の1地質図』
群馬県文化事業振興会1977『上野国郡村誌』1
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『関根赤城遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『新田上遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『引切塚遺跡・青柳宿上遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『山王・柴遺跡群』
京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 臨川書店
勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』
須藤聡2015「上野国周辺の伊勢神宮領形成についての一考察」『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会
谷口寛次1995「拜志牧と拜志荘」『群馬歴史散歩』132 群馬歴史散歩の会
都丸九一1995「拜志牧(荘)の位置について」『群馬文化』241 群馬地域文化研究協議会
前橋市教育委員会2013『前橋市遺跡分布地図』
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』
富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
山崎一1971『群馬県古城塁址の研究』上
山崎一1979『群馬県古城塁址の研究』補遺編上
マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>



第9図 基本土層

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 概要

本調査の結果、本遺跡においては第1面(近世面)、第2面(中近世面)、第3面(中世面)、第4面(古墳時代～平安時代面)、第5面(古墳時代・5世紀洪水堆積層下位面)、第6面(古墳時代・As-C層下位面)が確認された(5世紀洪水堆積層・As-C層については第4章第2節参照)が、各調査区においては各面が部分的または全面的に重複した状況であった。

1. 第1面(付図1)

近世の遺構のうち、D区の1号水田を第1面とした。1号水田の畦畔の方位は後述する第2面の溝による区画とほぼ同じであり、中世以来の土地区画を踏襲していると考えられる。

2. 第2面(付図2)

中近世の遺構は、F区を除くA～E区から、竪穴状遺構・溝・土坑・ピット・水田などが確認されている。前記のようにD区の1号水田については第1面とし、B区の土坑・ピット群およびD区の2号掘立柱建物より下位で確認された遺構を第3面とし、それ以外を第2面とした。第2面の中でも中心的位置を占めるのが、A・B・D区の1・2号溝のコ字状区画(南北約105m×東西50m以上、外側)とその区画内の掘立柱建物と溝、土坑・ピット群であり、本遺構は中世城館の堀と推定される。D・E区の24号溝のJ字状区画(南北70m以上×東西15m以上)は、1・2号溝によるコ字状区画と溝の規模と長軸方位がほぼ同じであり、これもまた中世城館の堀と推定される。

第3表 調査面・調査区の関係

	A区	B区	C区	D区	E区	F区
第1面		竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、井戸、土坑墓、土坑、ピット	竪穴状遺構、溝、土坑、ピット	水田	竪穴状遺構、掘立柱建物、溝、土坑墓、火葬墓、土坑、ピット	竪穴状遺構、溝、井戸、土坑、ピット
第2面	溝					
第3面	土坑					
第4面	溝、土坑	溝	溝	溝	竪穴住居、土坑	
第5面			溝	水田	溝	水田
第6面		溝、水田	水田			

第1面以外の近世の遺構は、第2面において後記の第3面以外の中世の遺構と混在している。

3. 第3面(付図3)

中世の遺構のうち、D区の第2面より下位で確認された27号溝、959号土坑、940・955～958号ピット、1号耕作痕群とB区の第2面より下位で確認された971～974号土坑が第3面の遺構である。第3面が第2面と明確に分離できるのはB・D区の一部のみである。

4. 第4面(付図4)

平安時代の遺構は、E区から5軒の竪穴住居が確認されており、集落の存在が想定されるが、いずれも残存状態は不良であり、詳しく時期を判別するには困難なものが多い。A～E区からは溝・土坑が確認されている。

古墳時代後期の遺構は、B・C区にまたがる3号溝が確認されており、埋没土の状態から平安時代まで用いられた用水溝と推定される。

5. 第5面(付図5)

古墳時代中期の5世紀洪水堆積物(VII b層)下位面から、D区の2号水田とF区の3号水田およびC・E区から溝5条が確認されている。溝は用水溝と推定される。

6. 第6面(付図6)

古墳時代前期のAs-C(IX層)下位面から、B・C区にまたがる4号水田が確認されている。

また、遺構は確認されていないが、第6面相当以前の時代に関しては、縄文時代および弥生時代の遺物が数点出土している。うち、弥生時代の遺物は、E区南端に集中している。

第4表 調査面ごとの遺構一覧表

面	区	竪穴住居	竪穴状遺構	掘立柱建物	溝	水田	耕作痕群	井戸	土坑墓	火葬墓	土坑	ピット
第1面	A区											
	B区											
	C区											
	D区					1号						
	E区											
	F区											
第2面	A区				2号							
	B区		1・2・14号	1号	1・2・6 ～10・21号			1号	1号		2・33・230・509・562・578・619・639・711・719・890・1000 ～1037・1051・1053・1105 ～1112・1114 ～1117・2095号	1・3～24・26～32・34～74・76～214・217～223・225～229・231～248・250～257・259～262・264～301・305～320・323～404・406～478・482～508・510～561・563～574・576・577・579～618・620～638・640～649・651～710・712～718・720～748・750～765・768～781・783～814・816～846・848～850・882～889・891～924・926～939・960～975・977～999・2000 ～2031・2082・2096～2102・2130号
	C区		7・9・10号		11～20・47号						1038～1047・1049・1050・1097・1104・2083・2094号	851～881・2084～2093号
	D区		3・4・8号	2号	1・2・23 ～25・28・29・33～41・43・54号				2・4号	1号	1054・1055～1063・1070・1075～1077・1080・1081・1083～1089・1102・1103・2073・2080・2081号	2032～2072・2074～2079・2103 ～2120・2128・2129号
	E区		5・6・11・12号		24・30・31号			2号			1064～1069・1091～1096・2124・2126号	2122・2123・2125・2127号
	F区											
第3面	A区											
	B区										1071～1074号	
	C区											
	D区		13号		27号		1号				959号	940・955～958号
	E区											
	F区											
第4面	A区				49・51号						1052号	
	B区				3・48・50号							
	C区				3・22・52号							
	D区				26号							
	E区	1～5号									1098～1101号	
	F区											
第5面	A区											
	B区											
	C区				42号							
	D区					2号						
	E区				44～46・53号							
	F区					3号						
第6面	A区											
	B区				4号	4号						
	C区					4号						
	D区											
	E区											
	F区											

第3章 確認された遺構と遺物

第5表 遺構番号変更一覧表

調査時	本報告書	区	面	備考
3住 P1～5	—	E	4	掘方の一部のため欠番。
1溝	24溝	E	2	E区部分のみ変更。
5溝	4溝	B	6	4溝と同一遺構。
25溝	27溝	D	2	27溝と同一遺構、かつ同一番号重複のため。
32溝	26溝	D	4	26溝と同一遺構。
中世田	1田	D	1	
1田中世				
2田中世				
3田中世				
Hr-FA下田	2田	D	5	遺物注記のみHr-FA下水田。
洪水層下田	3田	F	5	
As-C下田	4田	B	6	
		C	6	
1坑	1P	B	2	調査時に変更。
3～24坑	3～24P	B	2	調査時に変更。
25坑	24P	B	2	24Pと同一遺構。
26～32坑	26～32P	B	2	調査時に変更。
34～74坑	34～74P	B	2	調査時に変更。
75坑	74P	B	2	74Pと同一遺構。
76～214坑	76～214P	B	2	調査時に変更。
215坑	1掘P10	B	2	
216坑	1掘P11	B	2	
217～223坑	217～223P	B	2	調査時に変更。
224坑	1掘P8	B	2	
225～229坑	225～229P	B	2	調査時に変更。
231～248坑	231～248P	B	2	調査時に変更。
249坑	1掘P7	B	2	
250～257坑	250～257P	B	2	調査時に変更。
258坑	1掘P6	B	2	
259～262坑	259～262P	B	2	調査時に変更。
263坑	262P	B	2	262Pと同一遺構。
264～301坑	264～301P	B	2	調査時に変更。
302坑	1掘P4	B	2	
303坑	1掘P3	B	2	
304坑	1掘P5	B	2	
305～320坑	305～320P	B	2	調査時に変更。
321坑	1掘P1	B	2	
322坑	1掘P2	B	2	
323～404坑	323～404P	B	2	調査時に変更。
405坑	404P	B	2	404Pと同一遺構。
406～478坑	406～478P	B	2	調査時に変更。
479坑	1掘P15	B	2	
480坑	1掘P16	B	2	
481坑	1掘P14	B	2	
482～508坑	482～508P	B	2	調査時に変更。
510～561坑	510～561P	B	2	調査時に変更。
563～574坑	563～574P	B	2	調査時に変更。
575坑	1井	B	2	調査時に変更。
576～577坑	576～577P	B	2	調査時に変更。
579～618坑	579～618P	B	2	調査時に変更。
620～638坑	620～638P	B	2	調査時に変更。
640～649坑	640～649P	B	2	調査時に変更。
650坑	649P	B	2	649Pと同一遺構。
651～710坑	651～710P	B	2	調査時に変更。
712～718坑	712～718P	B	2	調査時に変更。
720～748坑	720～748P	B	2	調査時に変更。
749坑	509坑	B	2	509坑と同一遺構。
750～765坑	750～765P	B	2	調査時に変更。
766坑	1掘P13	B	2	
767坑	1掘P12	B	2	
768～781坑	768～781P	B	2	調査時に変更。
782坑	1掘P17	B	2	
783～814坑	783～814P	B	2	調査時に変更。
815坑	1掘P9	B	2	
816～846坑	816～846P	B	2	調査時に変更。
847坑	1034坑	B	2	1034坑と同一遺構。

調査時	本報告書	区	面	備考
848～850坑	848～850P	B	2	調査時に変更。
851～881坑	851～881P	C	2	調査時に変更。
882～889坑	882～889P	B	2	調査時に変更。
891～924坑	891～924P	B	2	調査時に変更。
925坑	1土墓	B	2	
926～939坑	926～939P	B	2	調査時に変更。
940坑	940P	D	3	調査時に変更。
941坑	2掘P7	D	2	
942坑	2掘P6	D	2	
943坑	2掘P9	D	2	
944坑	2掘P8	D	2	
945坑	2掘P10	D	2	
946坑	2掘P5	D	2	
947坑	2掘P11	D	2	
948坑	2掘P12	D	2	
949坑	2掘P13	D	2	
950坑	2掘P14	D	2	
951坑	2掘P1	D	2	
952坑	2掘P2	D	2	
953坑	2掘P3	D	2	
954坑	2掘P4	D	2	
955～958坑	955～958P	D	3	調査時に変更。
960～975坑	960～975P	B	2	調査時に変更。
976坑	974P	B	2	974Pと同一遺構。
977～999坑	977～999P	B	2	調査時に変更。
1048坑	47溝	C	2	47溝と同一遺構。
1078坑	—	D	2	調査時に変更3土墓を再変更。欠番。
1079坑	—	D	2	攪乱のため欠番。
1082坑	2土墓	D	2	調査時に変更。
1090坑	4土墓	D	2	
1098坑	1104坑	C	2	同一番号重複のため。
1104坑	—	D	5	欠番。
1119～1999坑	—	—	—	欠番。
2000～2031坑	2001～2031P	B	2	調査時に変更。
2032～2072坑	2032～2072P	D	2	調査時に変更。
2074～2079坑	2074～2079P	D	2	調査時に変更。
2084～2093坑	2084～2093P	C	2	調査時に変更。
2096～2102坑	2096～2102P	B	2	調査時に変更。
2101坑	2128P	D	2	同一番号重複のため。
2102坑	2129P	D	2	同一番号重複のため。
2103～2120坑	2103～2120P	D	2	調査時に変更。
2121坑	—			欠番。
2122～2123坑	2122～2123P	E	2	調査時に変更。
2125坑	2125P	E	2	調査時に変更。
2127坑	2127P	E	2	調査時に変更。
イ坑	1105坑	B	2	
ロ坑	1106坑	B	2	
ハ坑	1107坑	B	2	
ニ坑	1108坑	B	2	
ホ坑	1109坑	B	2	
ト坑	1110坑	B	2	
チ坑	1111坑	B	2	
リ坑	1112坑	B	2	
ヌ坑	14竪	B	2	同一遺構のため。整理時に変更
カ坑	—			1113坑を再変更。
ル坑	1114坑	B	2	断面のみ確認。
ワ坑	1115坑	B	2	
ブ坑	1116坑	B	2	
オ坑	—	B	2	
ヨ坑	—	B	2	
2火墓	1火墓	D	2	1火墓と同一遺構。
遺構名無し	1耕	D	3	
遺構名無し	1117坑	B	2	
遺構名無し	2130P	B	2	
遺構名無し	13竪	D	2	整理時に変更1118坑を再変更。

第2節 竪穴住居

1. 第4面の竪穴住居

1号竪穴住居(第10図、PL. 2・19)

位置 34F 11・12、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 削平され竈のみ残存。詳細不明。

主軸方位 N-120°-E。竈のみのため主軸方位は暫定。

規模 竈の欄に記載。

面積 (0.31)m²。

埋没土層 不明。

床面 確認されなかった。

竈 長さ(0.92)m、幅(0.45)m。袖石(南側)残存。支脚と推定される土器片・礫の集中部がある。焼土・炭化物は確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より約0.03mで竈掘方底面となる。

遺物 須恵器杯1点(1)を図示した。また、縄文土器粗製深鉢1点(外1)を第3章第10節に図示した。他に、弥生土器片1点、土師器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。弥生土器片は混入と考えられる。

所見 削平され本遺構の残存状況は不良である。出土遺物から、本遺構の時期は9世紀後半と推定される。

2号竪穴住居(第10図、PL. 2)

位置 34F 10・11、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 削平され東半部のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-82°-E。東半部のみのため主軸方位は暫定。

規模 長軸(3.11)m、短軸(1.99)m。

面積 (5.73)m²。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面にて床面を確認。概ね平坦。

竈 南東隅に設置。長さ1.65m、幅0.40m。炭化物が広

く分布する。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より約0.02～0.03mで床面となる。概ね平坦。

遺物 土師器片4点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 削平され本遺構の残存状況は不良である。平面形状および規模から、本遺構の時期は平安時代と推定されるが、詳しく判別できなかった。

3号竪穴住居(第11図、PL. 2)

位置 34D 6、34E 6、E区第4面。

重複 1096号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 方形。

主軸方位 N-88°-E。

規模 長軸3.89m、短軸3.25m。

面積 12.39m²。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.05～0.08mで床面となる。概ね平坦。

竈 東辺南端に設置。長さ1.10m、幅0.68m。袖石残存。焼土・炭化物は確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より約0.05～0.15mで床面となる。東辺・南辺付近に凹凸が著しく、床下土坑と考えられる。

遺物 土師器片3点、須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 削平され本遺構の残存状況は良好とはいえない。平面形状および規模から、本遺構の時期は平安時代と推定されるが、詳しく判別できなかった。

4号竪穴住居(第11図、PL. 2・3)

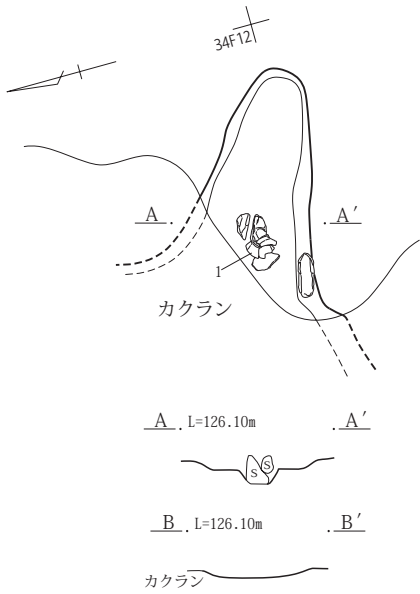
位置 34G 5・6、34H 5、E区第4面。

重複 30号溝と重複。本遺構が古い。

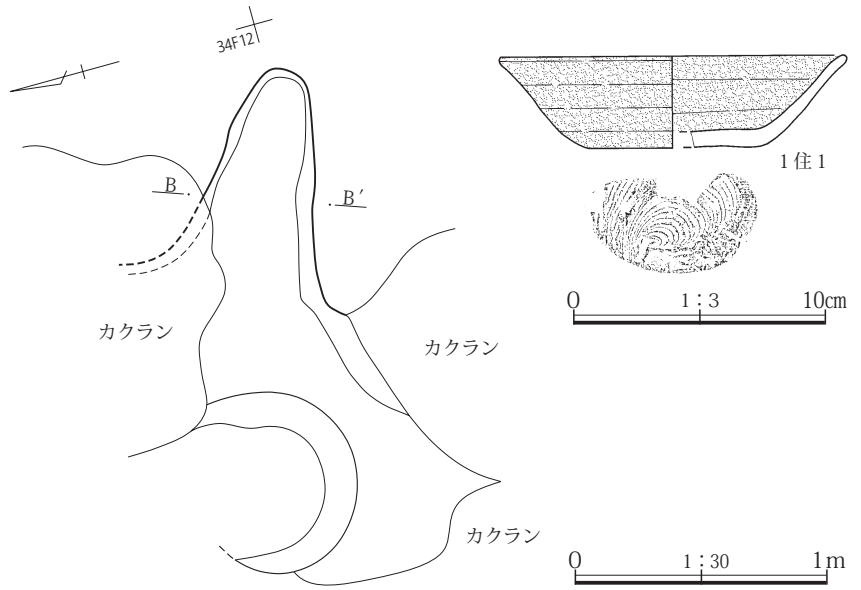
平面形状 方形。

主軸方位 N-11°-W。

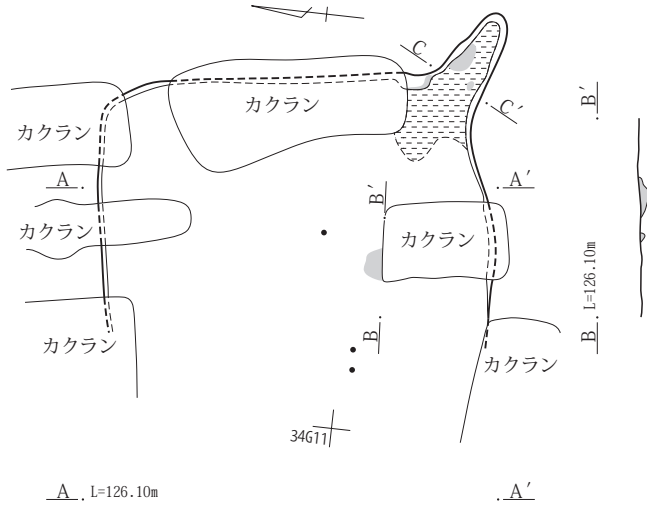
1号竪穴住居



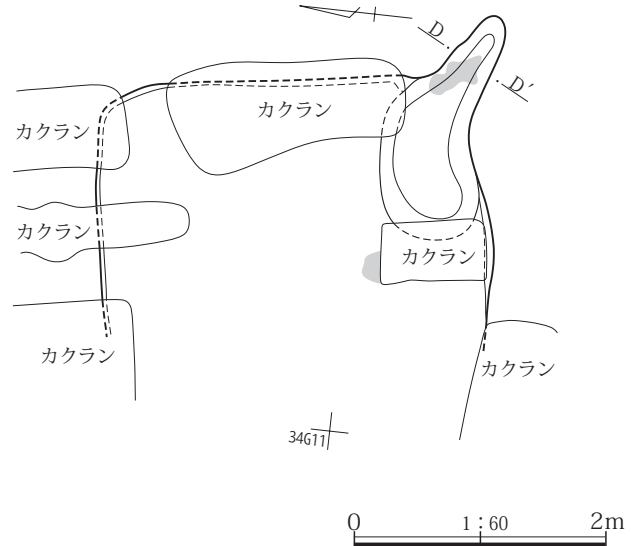
1号竪穴住居竈掘方



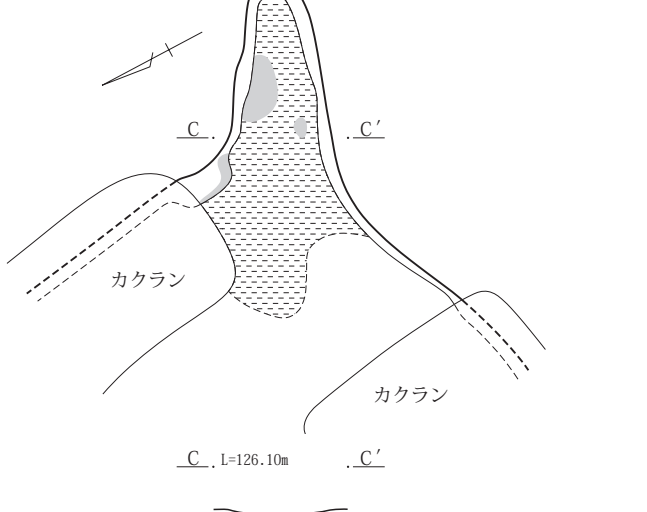
2号竪穴住居



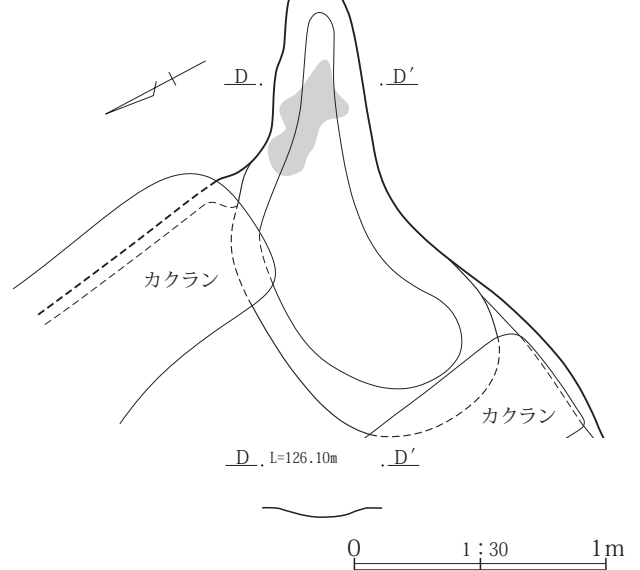
2号竪穴住居掘方



2号竪穴住居竈

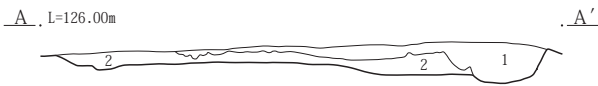
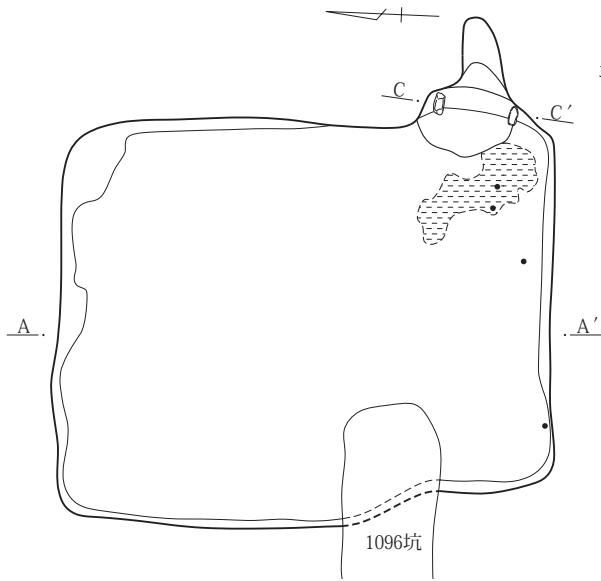


2号竪穴住居竈掘方

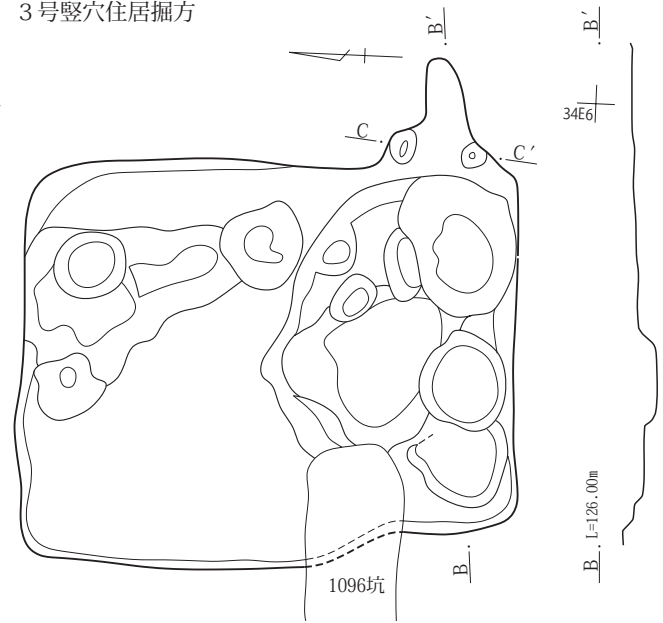


第10図 1・2号竪穴住居

3号竪穴住居

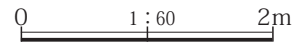


3号竪穴住居掘方

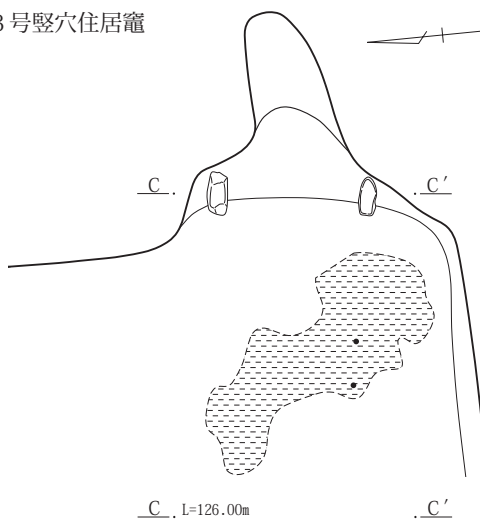


3号住居(E区)

- 1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石少量。
- 2. 塊状黒褐色土(7.5YR3/2)と塊状Ⅷc層の混土。



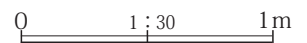
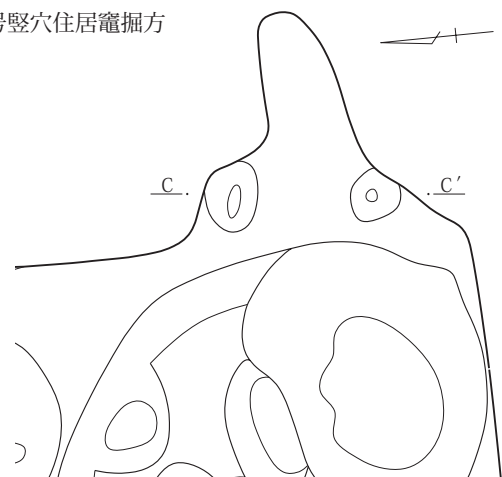
3号竪穴住居竈



C, L=126.00m C'



3号竪穴住居竈掘方

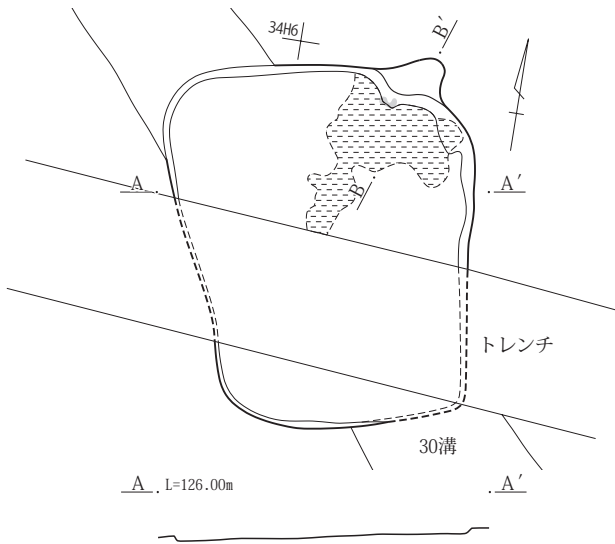


3号住居カマド(E区)

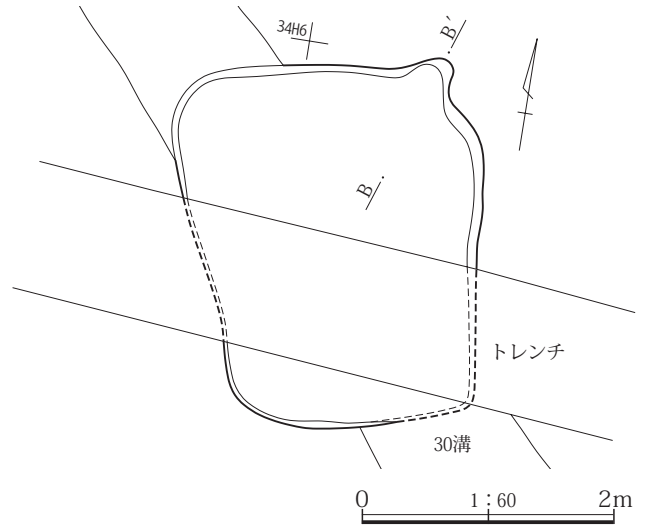
- 1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石若干。

第11図 3号竪穴住居

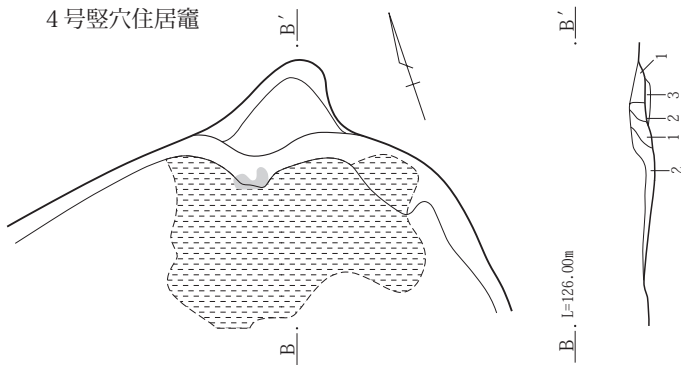
4号竪穴住居



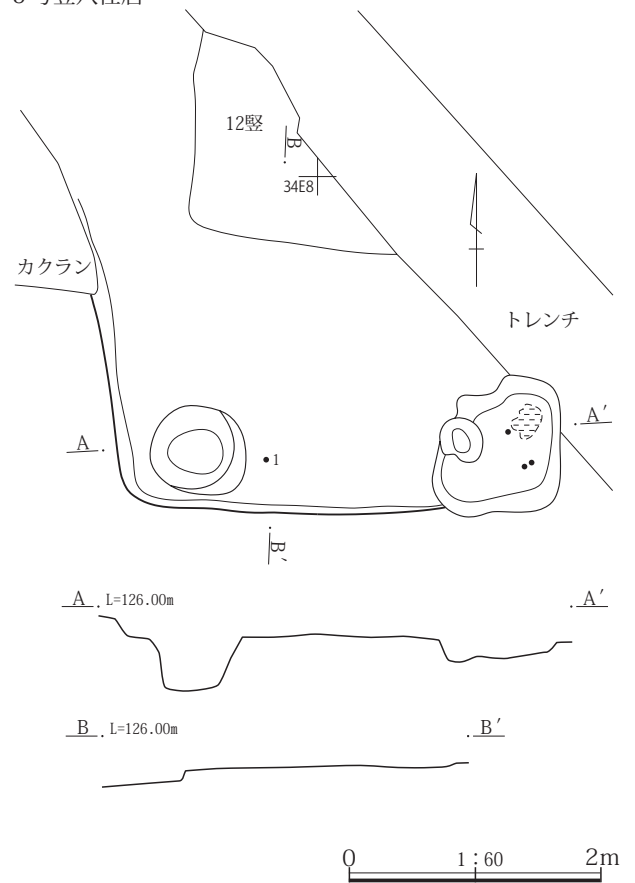
4号竪穴住居掘方



4号竪穴住居竈



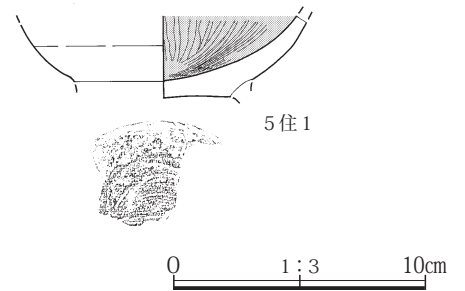
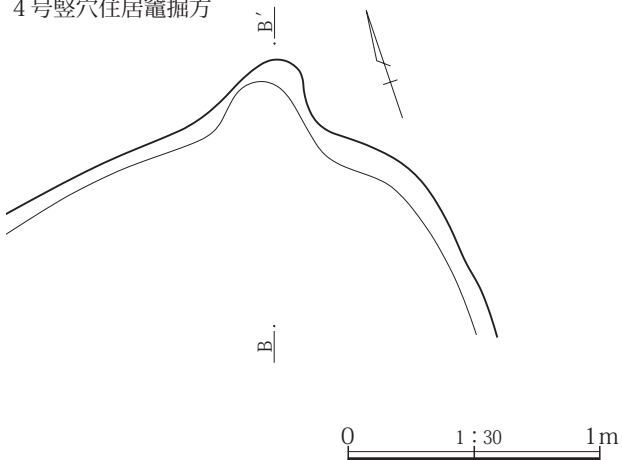
5号竪穴住居



4号住居カマド(E区)

1. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト質、粒状焼土少量。
2. 暗褐色土(10YR3/3) シルト質、粒状焼土含。
3. 塊状焼土。

4号竪穴住居竈掘方



第12図 4・5号竪穴住居

規模 長軸2.87m、短軸2.42m。

面積 6.07㎡。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面にて床面を確認。概ね平坦。

竈 北東端に設置。長さ0.52m、幅0.37m。炭化物が広く分布する。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 掘方底面より約0.02～0.03mで床面となる。概ね平坦。

遺物 なし。

所見 削平され本遺構の残存状況は良好とは言い難い。平面形状および規模から、本遺構の時期は平安時代と推定されるが、詳しく判別できなかった。

5号竪穴住居(第12図、PL. 3・19)

位置 34D 7、34E 7・8、E区第4面。

重複 12号竪穴状遺構と重複。本遺構が古い。

平面形状 削平され掘方の一部のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-89°-E。掘方の一部のみのため主軸方位は暫定。

規模 長軸(3.52)m、短軸(2.49)m。

面積 (6.78)㎡。

埋没土層 不明。

床面 確認されなかった。

竈 確認されなかった。

貯蔵穴 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

周溝 確認されなかった。

掘方 遺構確認面より約0.02～0.05mで掘方底面となる。概ね平坦。

遺物 土師器椀1点(1)を図示した。他に、土師器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 削平され本遺構の残存状況は不良である。出土遺物から、本遺構の時期は10世紀後半と推定される。

第3節 竪穴状遺構

1. 第2面の竪穴状遺構

1号竪穴状遺構(第13図、PL. 3)

位置 23O 5、23P 5、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 方形。

主軸方位 N-89°-E。

規模 長軸3.07m、短軸2.39m。

面積 6.90㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.02～0.05mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 削平され本遺構の残存状況は良好とは言い難い。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2号竪穴状遺構(第13図、PL. 3・19)

位置 23N 6・7、23O 6・7、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

主軸方位 N-55°-W。

規模 長軸2.83m、短軸2.52m。

面積 5.56㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.15～0.18mで床面となる。皿状に凹む。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 中世在地系土器皿1点(1)、茶臼1点(2)を図示した。他に、中世在地系土器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物(1)から、本遺構の時期は中世と推定される。

3号竪穴状遺構(第13図、PL. 3)

位置 23P12・13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 方形。

主軸方位 N-86°-E。

規模 長軸2.96m、短軸2.83m。

面積 8.03㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.12mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

4号竪穴状遺構(第13図、PL. 3)

位置 23P13・14、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 方形。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸2.10m、短軸2.00m。

面積 3.90㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.12～0.18mで床面となる。

概ね平坦。南西部に灰集中部がある。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

5号竪穴状遺構(第14図、PL. 3・19)

位置 24D19、E区第2面。

重複 24・31号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 不整形。

主軸方位 N-58°-E。

規模 長軸(2.49)m、短軸1.98m。

面積 (3.87)㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、6層が確認された。各層にV層を含む。

床面 遺構確認面より約1.00～1.05mで床面となる。24・31号溝との直交方向に向かい下がる。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 中世常滑陶器片口鉢1点(1)を図示した。また、第3章第10節に弥生土器壺1点(外6・7)・甕1点(外10)・鉢1点(外11)も図示した。7号馬骨も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。他に、弥生土器片1点、土師器片6点、須恵器片1点、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。弥生土器片、土師器片、須恵器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は中世と推定される。

6号竪穴状遺構(第14図)

位置 24C17・18、E区第2面。

重複 24号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 不整形。

主軸方位 N-78°-W。

規模 長軸(2.75)m、短軸(2.56)m。

面積 (5.10)㎡。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面より約0.25mで床面となる。溝と直交方向に下がる。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

7号竪穴状遺構(第14図、PL.19)

位置 24A14・15、D区第2面。

重複 1号溝、1号火葬墓と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側が1号溝と重複、南側が攪乱、西側が調査区外のため詳細不明。不整形。

主軸方位 N-87°-W。

規模 長軸(4.18)m、短軸(3.45)m。

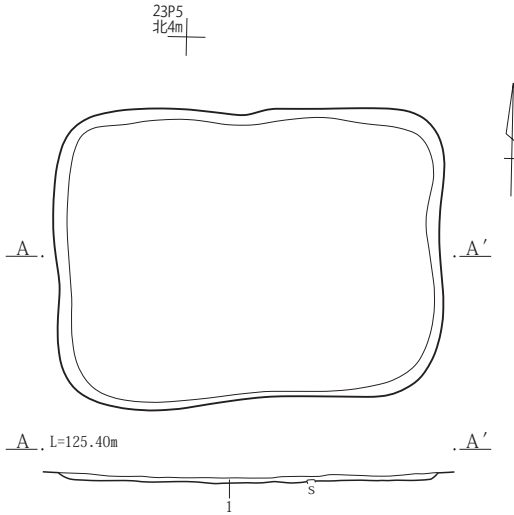
面積 (9.37)㎡。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

床面 遺構確認面より約0.25～0.30mで床面となる。

柱穴 確認されなかった。

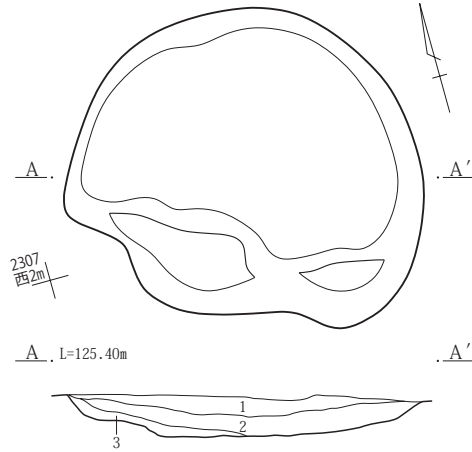
1号竖穴状遺構



1号竖穴状遺構(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

2号竖穴状遺構



2号竖穴状遺構(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量、粒状軽石含。

0 1:60 2m

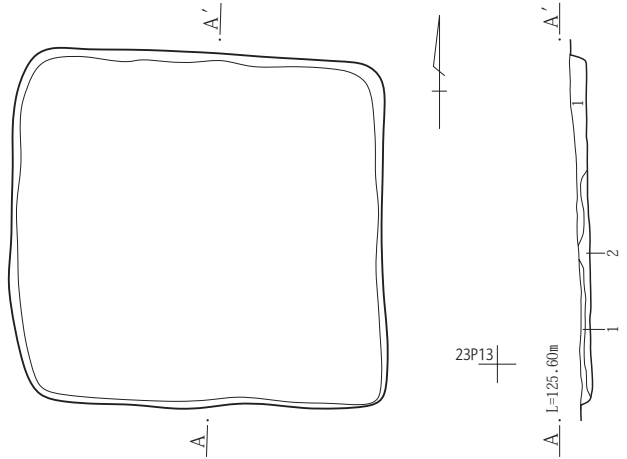


2 竖 1
(1/3)

0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

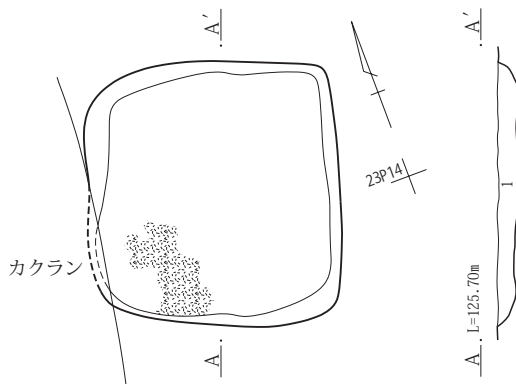
3号竖穴状遺構



3号竖穴状遺構(D区)

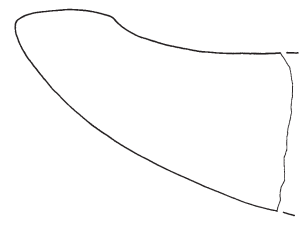
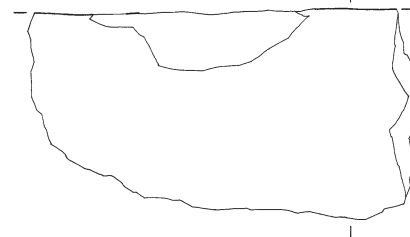
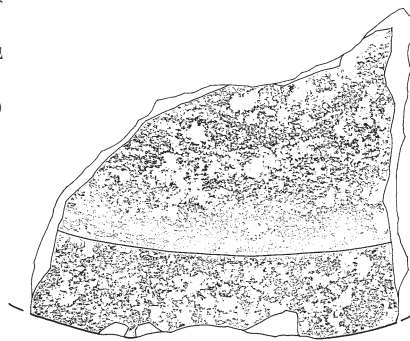
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・黒褐色土(7.5YR3/2)少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

4号竖穴状遺構



4号竖穴状遺構(D区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。



2 竖 2
(1/2)

第13図 1～4号竖穴状遺構

掘方 確認されなかった。

遺物 中世尾張陶器器種不詳1点(1)を図示した。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は中世と推定される。

8号竪穴状遺構(第14図、PL. 4)

位置 23 T 18・19、24 A 18・19、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 削平され北・東側の2辺のみ残存。推定方形。

主軸方位 N-1°-W。

規模 長軸(3.90)m、短軸(3.04)m。

面積 (4.16)m²。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.02～0.10mで床面となる。
概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 削平され本遺構の残存状況は良好とはいえない。
出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

9号竪穴状遺構(第15図、PL. 4)

位置 23 J 10、C区第2面。

重複 1097号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 方形。

主軸方位 N-9°-E。

規模 長軸2.15m、短軸2.01m。

面積 4.03m²。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面より約0.40～0.45mで床面となる。
概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

10号竪穴状遺構(第15図、PL. 4)

位置 23 I 10、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 方形。

主軸方位 N-1°-E。

規模 長軸2.25m、短軸2.03m。

面積 4.18m²。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.25mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

11号竪穴状遺構(第15図、PL. 4)

位置 34 C 6・7、E区第2面。

重複 2124号土坑、2123・2125号ピットと重複。

平面形状 方形。

主軸方位 N-88°-W。

規模 長軸2.29m、短軸1.17m。

面積 3.71m²。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面より約0.05～0.10mで床面となる。
概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

12号竪穴状遺構(第15図、PL. 4)

位置 34 D 7・8、34 E 7・8、E区第2面。

重複 2127号ピットと重複。本遺構が古い。

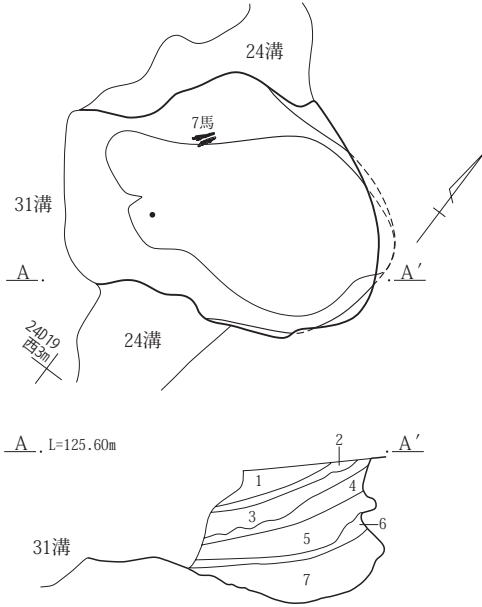
平面形状 推定方形。

主軸方位 N-8°-E。

規模 長軸1.96m、短軸1.84m。

面積 3.37m²。

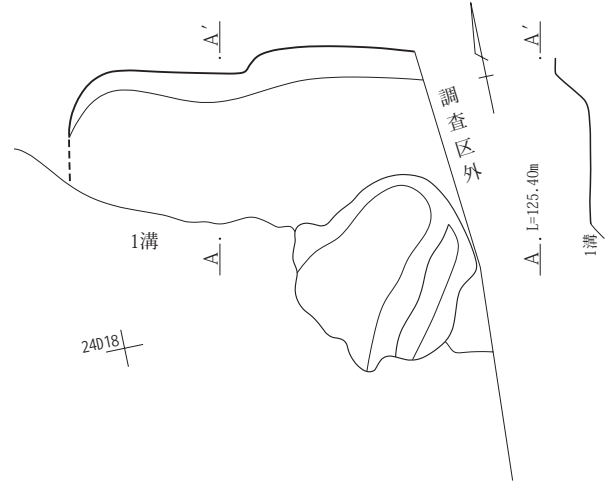
5号竪穴状遺構



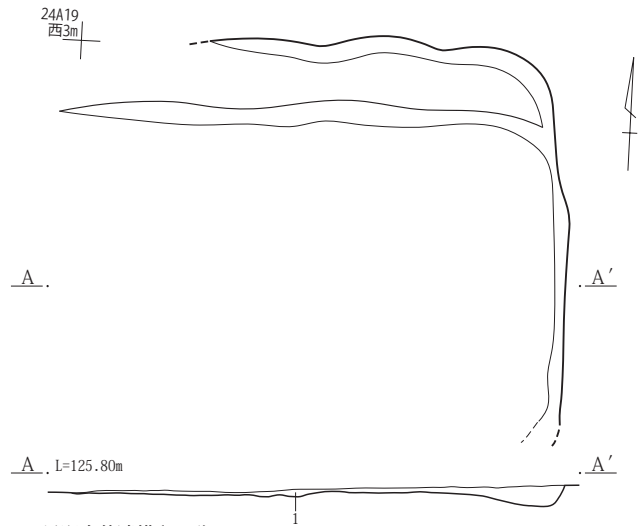
5号竪穴状遺構(D区)

1. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粒状軽石含。
2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粒状軽石少量、粗粒状V層含。
3. 1層とほぼ同質。
4. 2層とほぼ同質。
5. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粒状軽石・粗粒状V層少量。
6. 塊状V層。
7. 黒褐色土(7.5YR3/2) 粒状軽石少量、塊状V層含。

6号竪穴状遺構

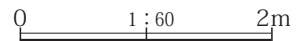


8号竪穴状遺構

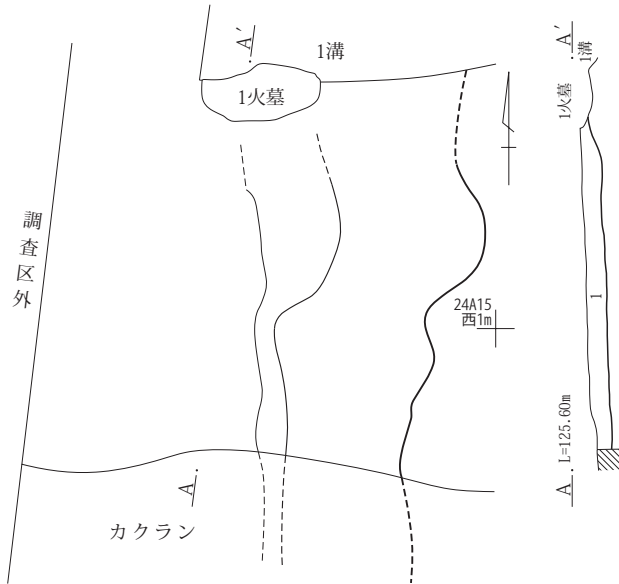


8号竪穴状遺構(D区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、微細軽石微量、塊状明褐色土(7.5YR7/2)含。

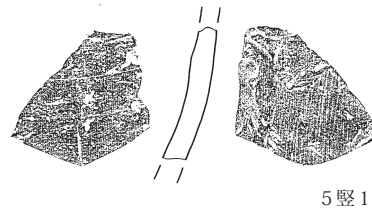


7号竪穴状遺構

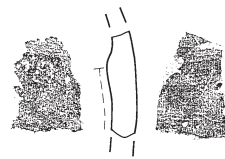


7号竪穴状遺構(D区)

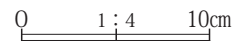
1. 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、橙色粒(Hr-FAカ)少量、粒状軽石含。



5竪1

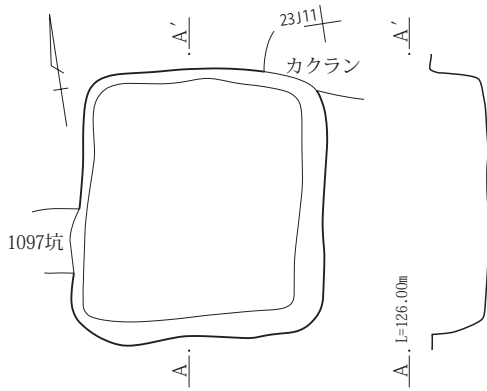


7竪1

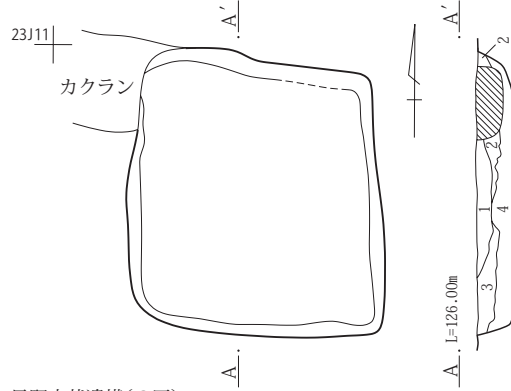


第14図 5～8号竪穴状遺構

9号竪穴状遺構



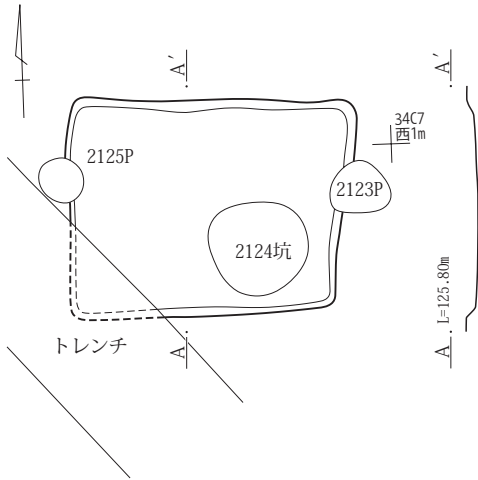
10号竪穴状遺構



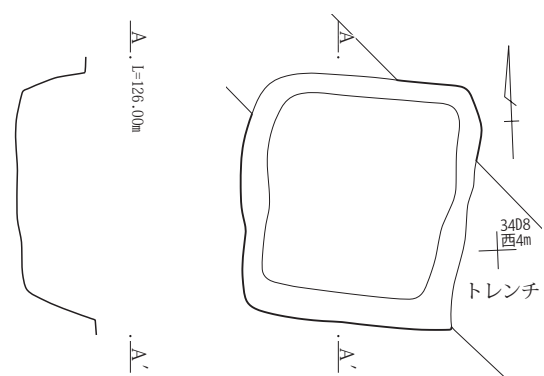
10号竪穴状遺構(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石微量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石含。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量、塊状にぶい橙色土(7.5YR7/3)含。

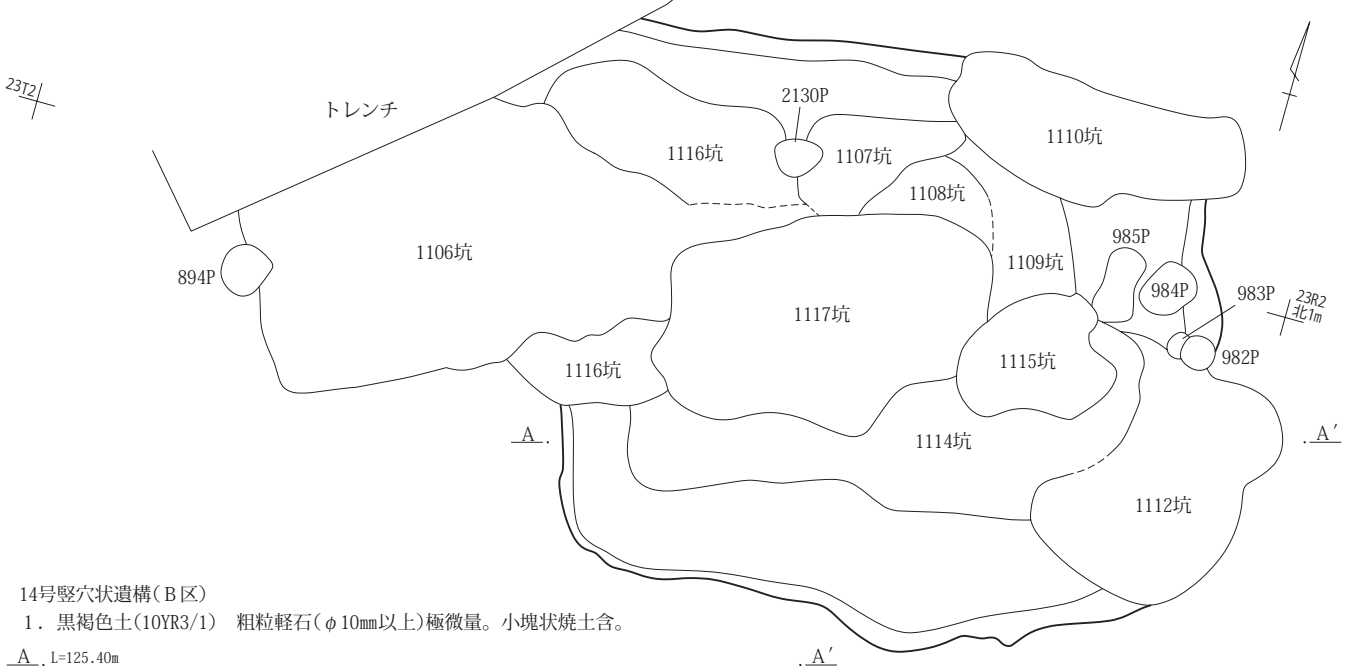
11号竪穴状遺構



12号竪穴状遺構



14号竪穴状遺構



14号竪穴状遺構(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒軽石(φ10mm以上)極微量。小塊状焼土含。

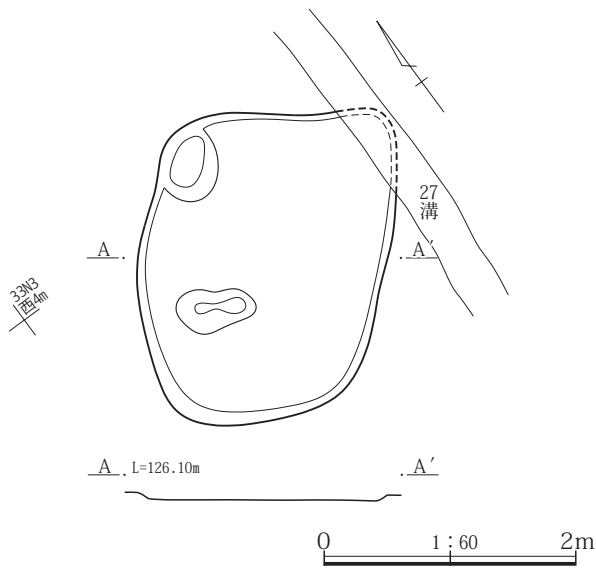
A-A', L=125.40m



第15図 9～12・14号竪穴状遺構

0 1:60 2m

13号竪穴状遺構



第16図 13号竪穴状遺構

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面より約0.60mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

14号竪穴状遺構(第15図)

位置 23R 1・2、23S 1・2、B区第2面。

重複 1106～1110・1112・1114～1117号土坑、981～985、2130号ピットと重複。本遺構が1112・1114号土坑より古い。

平面形状 方形。

長軸方位 N-80°-E。

規模 長軸5.10m、短軸4.74m、深さ0.82m。

面積 (22.05)m²。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

床面 遺構確認面より約0.10～0.15mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2. 第3面の竪穴状遺構

13号竪穴状遺構(第16図)

位置 24N 2・3、D区第3面。

重複 27号溝と重複。

平面形状 方形。

主軸方位 N-40°-E。

規模 長軸2.47m、短軸1.96m。

面積 4.30m²。

埋没土層 不明。

床面 遺構確認面より約0.05mで床面となる。概ね平坦。

柱穴 確認されなかった。

掘方 確認されなかった。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

第4節 掘立柱建物

1. 第2面の掘立柱建物

1号掘立柱建物(第17図、PL. 4・19)

位置 23R 3・4、23S 3・4、23T 2・3、B区第2面。

重複 7号溝、214・217～223・228・250～252・255・256・259～276・287～301・305・306・320・325・326・482～487・761～765・768～781・822・823・921・922・2018・2019・2026～2029号ピットと重複。

平面形状 3間×2間。

長軸方位(棟方向) N-84°-E。

規模 長軸7.21m、短軸4.71m。

柱穴 17基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名：平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1：楕円形-0.42-0.34-0.41。

P 2：ほぼ円形-0.23-0.22-0.21。

第3章 確認された遺構と遺物

P 3 : 楕円形-0.40-(0.23)-0.16。
P 4 : 楕円形-0.40-(0.23)-0.16。
P 5 : 楕円形-0.45-0.36-0.38。
P 6 : 長方形-(0.56)-0.54-0.45。
P 7 : 不整形-0.75-0.58-0.40。
P 8 : 不整形-0.73-0.69-0.60。
P 9 : 楕円形-0.69-0.60-0.78。
P 10 : 楕円形-(0.62)-0.55-0.73。
P 11 : 長方形-0.28-(0.21)-0.26。
P 12 : 楕円形-0.50-(0.34)-0.36。
P 13 : 楕円形-0.50-(0.34)-0.42。
P 14 : 不整形-0.51-0.48-0.40。
P 15 : 楕円形-0.29-(0.20)-0.32。
P 16 : 方形-0.31-(0.30)-0.23。
P 17 : 不整形-0.38-0.34-0.11。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名:距離(単位m))。

P 1 - P 3・4 : 1.83。 P 1 - P 5 : 2.24。
P 3・4 - P 6 : 3.08。 P 5 - P 6 : 2.67。
P 6 - P 7 : 1.95。 P 7 - P 8 : 2.61。
P 8 - P 9 : 2.06。 P 9 - P 10 : 1.95。
P 10 - P 12・13 : 2.65。 P 12・13 - P 14 : 2.60。
P 14 - P 17 : 2.16。 P 17 - P 1 : 2.55。

遺物 中世在地土器皿3点(1~3)を図示した。1はP9、2はP7、3はP6から出土した。他に、須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は13世紀以降と推定される。

2号掘立柱建物(第18図、PL. 4)

位置 33P7~9、33Q7~11、D区第2面。

重複 959号土坑と重複。

平面形状 6間以上×2間。

長軸方位(棟方向) N-1°-W。

規模 長軸(12.7)m、短軸3.42m。

柱穴 14基が確認された。形状および規模は以下のとおり(柱穴名:平面形状-長軸-短軸-深さ(単位m))。

P 1 : 方形-0.13-0.11-0.13。
P 2 : 楕円形-0.21-0.19-0.27。

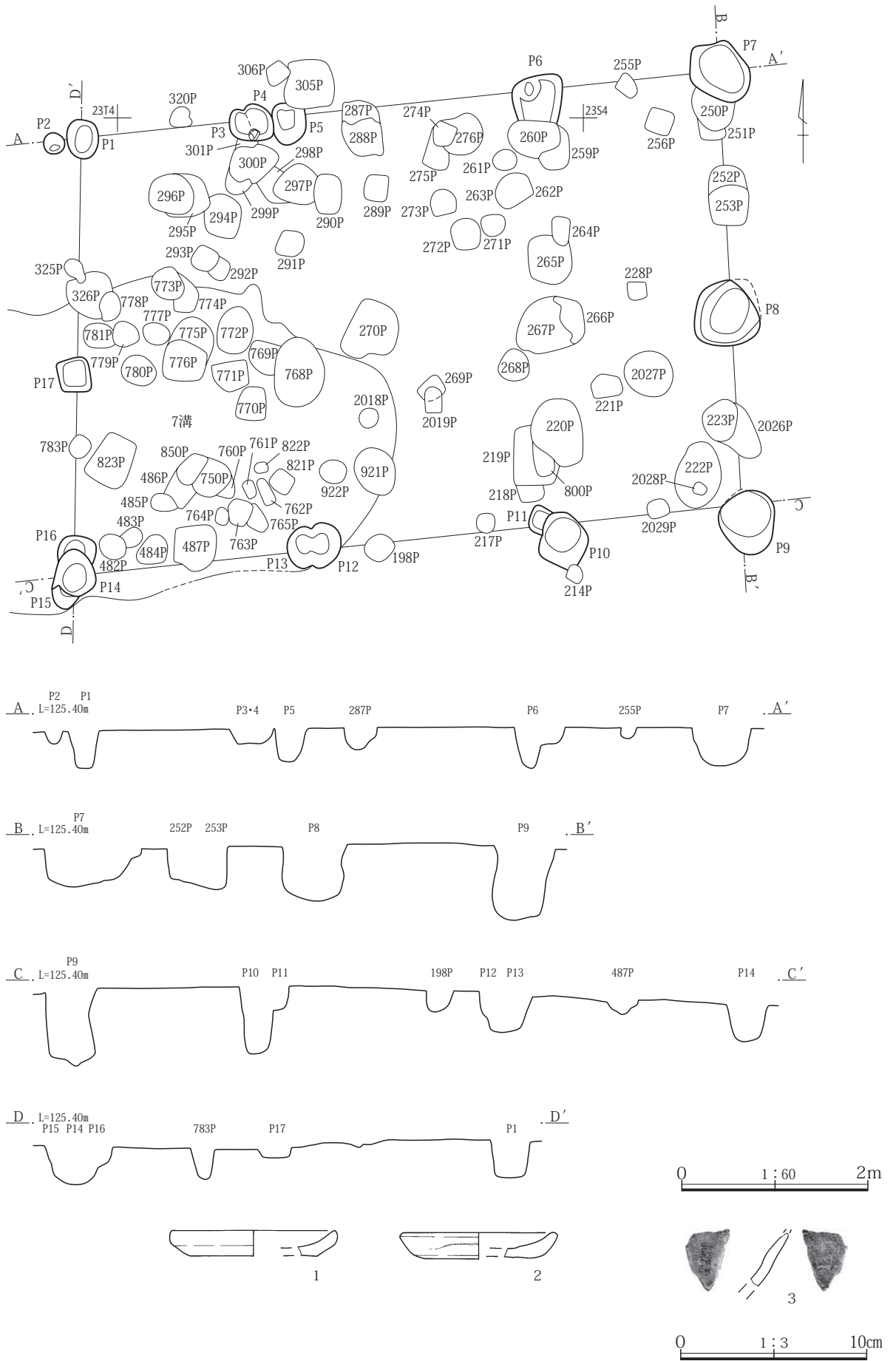
P 3 : 不整形-0.21-0.20-0.20。
P 4 : 方形-0.18-0.16-0.12。
P 5 : 長方形-0.18-0.14-0.23。
P 6 : 方形-0.21-0.19-0.26。
P 7 : 楕円形-0.18-0.14-0.13。
P 8 : 方形-0.17-0.16-0.07。
P 9 : 方形-0.15-0.13-0.05。
P 10 : 方形-0.18-0.17-0.12。
P 11 : 方形-0.18-0.17-0.13。
P 12 : 方形-0.18-0.16-0.09。
P 13 : 楕円形-0.24-0.20-0.07。
P 14 : 方形-0.11-0.10-0.06。

柱間 柱間距離は以下のとおり(柱穴名-柱穴名:距離(単位m))。

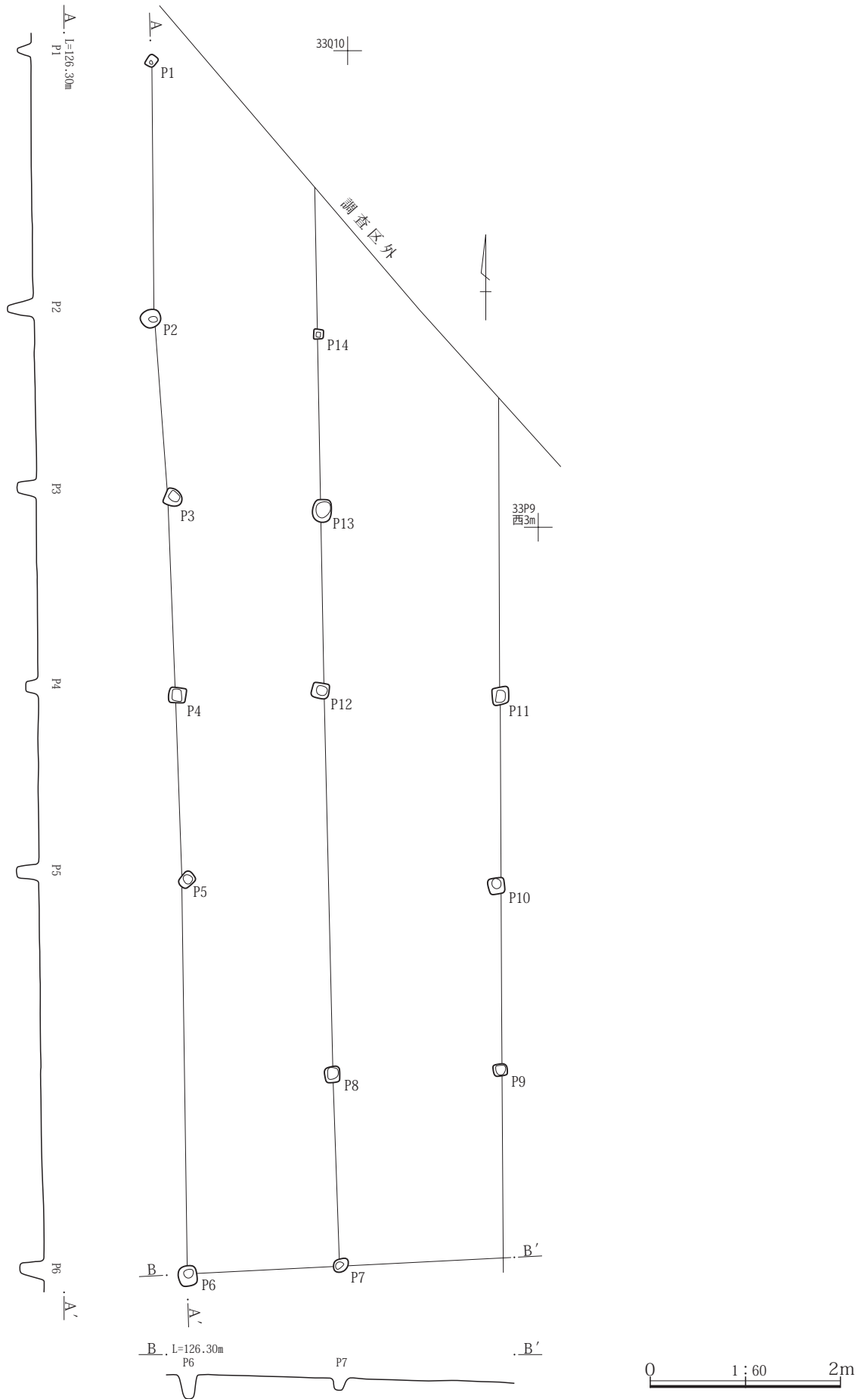
P 1 - P 2 : 2.70。 P 2 - P 3 : 1.87。
P 3 - P 4 : 2.07。 P 4 - P 5 : 1.95。
P 5 - P 6 : 4.11。 P 6 - P 7 : 1.59。
P 7 - P 8 : 2.00。 P 8 - P 9 : 1.77。
P 9 - P 10 : 1.93。 P 10 - P 11 : 2.00。
P 11 - P 12 : 1.85。 P 12 - P 13 : 1.90。
P 13 - P 14 : 1.84。

遺物 なし。

所見 柱穴が細く、かつ南北方向に長く連なっており、柵列の可能性もあるが、調査時の所見により掘立柱建物とした。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



第17图 1号掘立柱建物



第18図 2号掘立柱建物

第5節 溝

1. 第2面の溝・河道

1号溝(第19～23図、PL. 5・20・21)

位置 13R18、13S17・18、13T16～18、14A16～18、14B16～18、23L3～10、23M3～5、B区第2面(南・東)。23K13～17、23L13～17、23M15～17、23N15～17、23O15～17、23P15～17、23Q15～17、23R15～17、23S15～17、23T16・17、24A16・17、D区第2面。

重複 3・4・26・27・33・34・48号溝、4号土坑墓、1号火葬墓、4号水田と重複。本遺構が33号溝、1号火葬墓より古く、3・4・26・48号溝、4号水田より新しい。

平面形状 2号溝とともにコ字状区画(南北約105m×東西50m以上、外側)をなす。

長軸方位 N-85°-E、B区(南)。N-6°-E、B区(東)・D区(南東)。N-81°-E、D区(北)。

規模 長軸(18.56)m、短軸(11.48)m、深さ1.30～1.86m、B区(南)。長軸(36.20)m、短軸3.66m、深さ0.06～1.53m、B区(東)。長軸(61.65)m、短軸5.05～9.00m、深さ1.60～2.33m、D区。

埋没土層 暗青灰色土・暗灰色土・黒褐色土主体、37層が確認された。

遺物 中世中国白磁皿1点(1)、中世古瀬戸陶器盤1点(3)・袴腰香炉1点(4)、中世常滑陶器片口鉢1点(2)・壺1点(5)・甕7点(6～11)、中世在地系土器皿5点(12～16)・片口鉢8点(17～24)・内耳鍋7点(25～31)、五輪塔1点(32)、石臼3点(33～35)、石鉢1点(36)、石製品1点(37)、鉄製品釘1点(38)を図示した。また、弥生土器甕1点(外9)も第3章第10節に図示した。9号馬骨(埋没土中)も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。他に、土師器片3点、中世焼締陶器片1点、中世在地系土器片22点、板碑4点、石臼2点が出土しているが、小破片のため図示できなかつた。土師器片は混入と考えられる。

所見 コ字状区画内には、同時期の溝、掘立柱建物およびピット群が存在し、2号溝が本遺構の内側を廻る。これらのことから、本遺構は中世城館の外堀と考えられる。

出土遺物から、本遺構の時期は14～16世紀と推定される。

2号溝(第24～30図、PL. 5・6・22・23)

位置 14D19・20、24D1・2、A区第2面。13Q20、13R19・20、13S19・20、13T19・20、14A19、14B19、23M8～10、23N2～9、B区第2面(南・東)。23M12、23N12、23O12、23P12、23Q12、23R12、23S12・13、23T12・13、24A12・13、24B12・13、D区第2面。

重複 3・4・48～51号溝、1052・1083号土坑、4号水田と重複。本遺構が1083号土坑より古く、3・4・48～51号溝、1052号土坑、4号水田より新しい。

平面形状 1号溝とともにコ字状区画(南北約65m×東西50m以上、内側)をなす。

長軸方位 N-6°-W、A区。N-80°-E、B区(南)。N-6°-E、B区(東)。N-88°-W、D区。

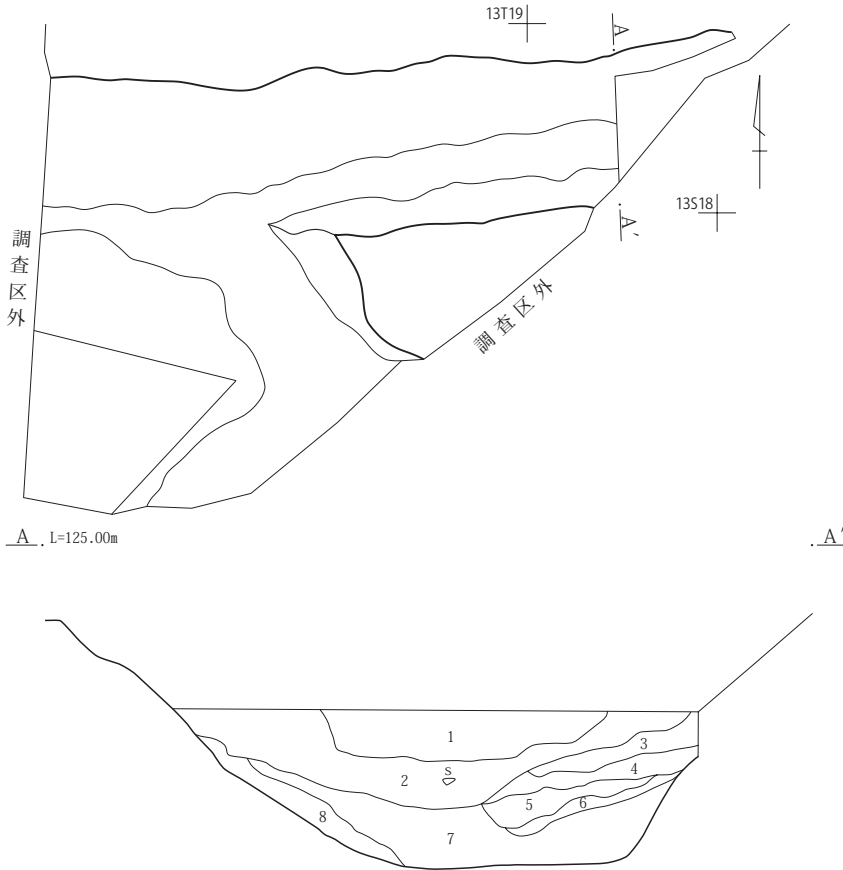
規模 長軸(15.95)m、短軸(2.93)m、深さ0.90～1.18m、A区。長軸(28.20)m、短軸1.40～2.20m、深さ0.28～0.90m、B区(南)。長軸(41.70)m、短軸0.38～2.00m、深さ0.07～1.02m、B区(東)。長軸(44.60)m、短軸2.20～2.40m、深さ0.85～1.17m、D区。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土・褐色土・褐灰色土主体、43層が確認された。

遺物 中世尾張陶器片口鉢1点(1)、中世常滑陶器甕7点(2～8)、中世在地系土器皿5点(9～13)・内耳鍋8点(14～21)・焙烙2点(22・23)・火鉢1点(24)、瓦1点(26)、砥石3点(27～29)、板碑1点(30)、茶臼2点(31・32)、石製品1点(33)を図示した。また、紡輪1点(外51)も第3章第10節に図示した。1号馬骨、16～19号馬骨(埋没土中)も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。他に、土師器片5点、須恵器片2点、中世国産施釉陶器片3点、中世在地系土器片15点、近世国産施釉陶器片1点、近世在地系土器片1点、時期不明瓦1点、鞆の羽口4点、砥石1点、水輪1点、板碑2点、茶臼1点、石臼3点、石製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかつた。土師器片、須恵器片は混入と考えられる。

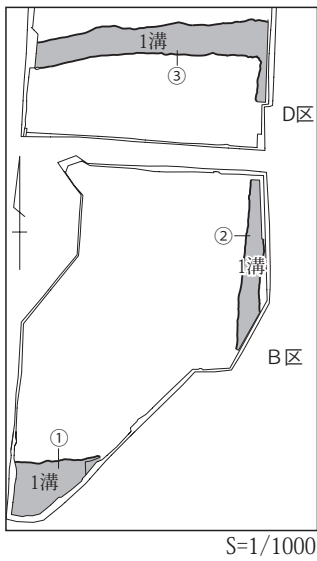
所見 コ字状区画内には、同時期の溝、掘立柱建物およびピット群が存在し、1号溝が本遺構の外側を廻る。こ

1号溝①

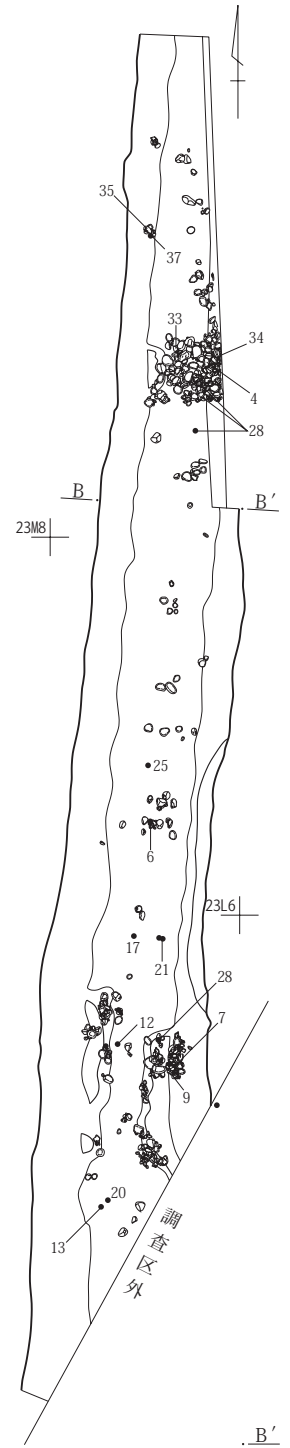


1号溝A(B区)

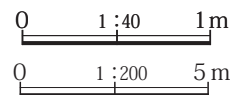
1. 黒色砂礫層(7.5YR2/1) 軽石含。
2. 暗灰色土(N3/) シルト質。粒状軽石少量、微粒状軽石(As-Bか)含。
3. 褐色シルト(7.5YR4/3) 二次堆積。
4. 黒色シルト(N2/)と砂礫の混土。
5. 4層と同質。上部にシルト多い。
6. 暗青灰色土(5PB3/1) シルト質。軽石微量。
7. 暗灰色土(N3/) 微粒軽石(As-Bか)少量。
8. 明青灰色土(5B7/1) 砂礫・細粒軽石含。



1号溝②

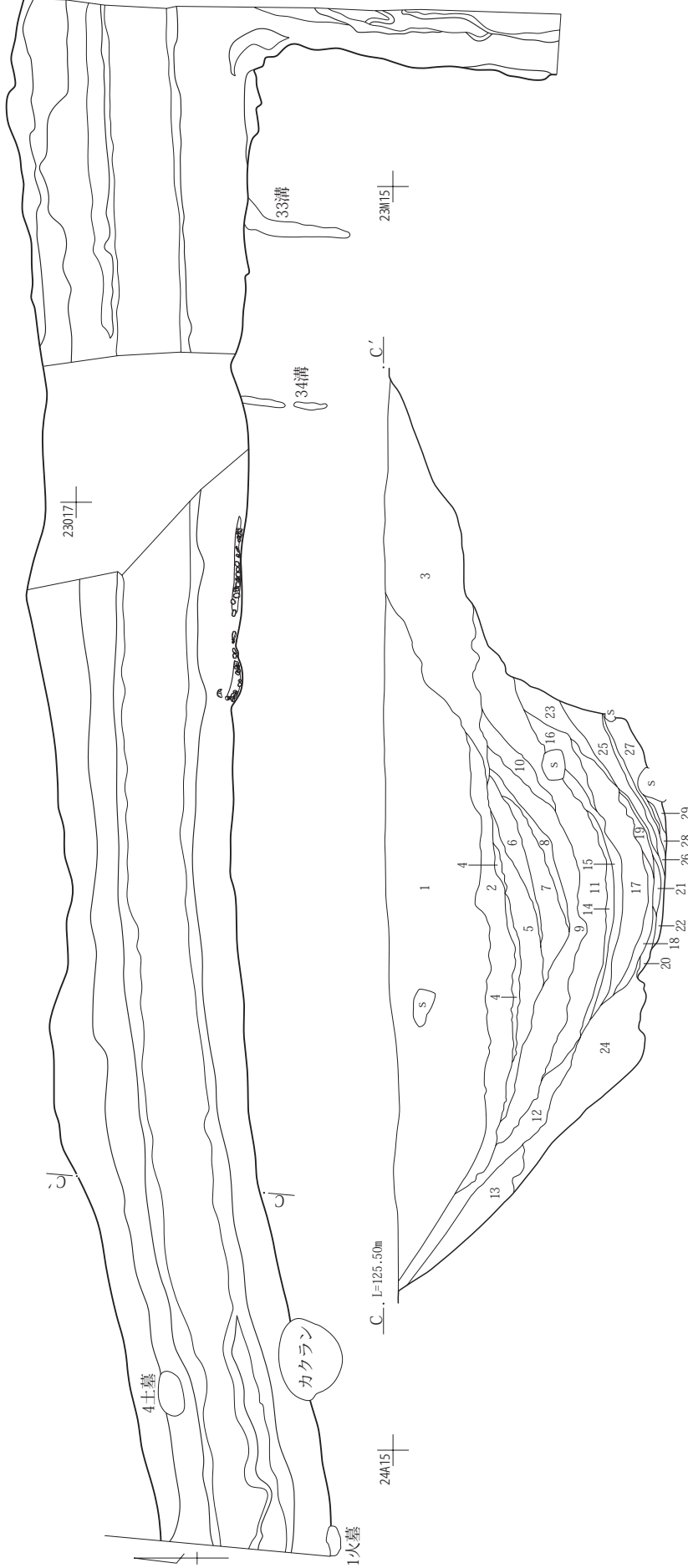


B. L=125.00m

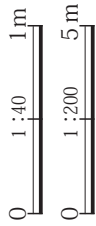


第19図 1号溝平面・断面(1)

1号溝③

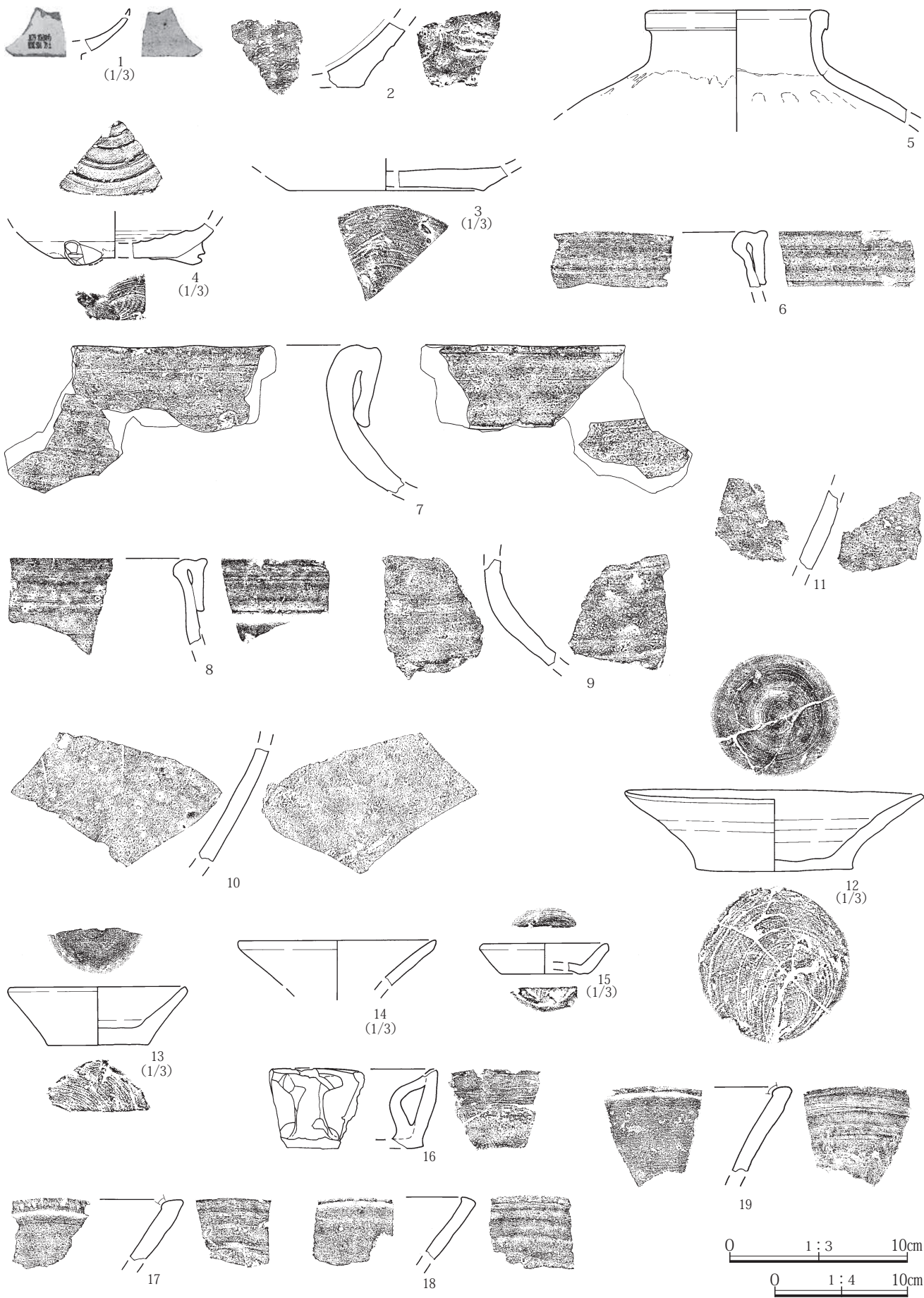


- 1号溝C (D区)
- 1. 暗紫灰色土(5P4/1) 鉄分粒多量、粒状軽石少量、粗粒状軽石極微量。
 - 2. 暗紫灰色土(5P4/1) 鉄分粒多量、粒状軽石少量。
 - 3. 暗紫灰色土(5P4/1) 粒状軽石少量、粗粒状軽石微量。
 - 4. 褐灰色砂層(7.5YR5/1)。
 - 5. 暗青灰色土(5B3/1) シルト質。
 - 6. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石・橙色粒子少量。
 - 7. 暗青灰色土(5B3/1) 5層とほぼ同質。
 - 8. 暗青灰色土(5B3/1) 6層とほぼ同質。
 - 9. 暗青灰色土(5B3/1) 5層とほぼ同質。
 - 10. 暗青灰色土(5B3/1) 6層とほぼ同質。
 - 11. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石極微量、小塊状褐色シルト(5YR7/6)含。
 - 12. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状浅黄褐色シルト(10YR8/3)・粒状軽石少量。
 - 13. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石若干、小塊状浅黄褐色シルト(10YR8/3)含。
 - 14. 橙色シルト(5YR7/6)。
 - 15. 暗青灰色土(5B3/1)。
 - 16. 暗青灰色土(5B3/1) 6層とほぼ同質。
 - 17. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石若干、小塊状褐色シルト(5YR7/6)少量。
 - 18. 14層とほぼ同質。粒状軽石微量。
 - 19. 14層とほぼ同質。
 - 20. 暗青灰色土(5PB3/1)ノロ状、シルト質。
 - 21. 暗青灰色土(5PB4/1)ノロ状、シルト質。
 - 22. 21層とほぼ同質。
 - 23. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状浅黄褐色土(10YR8/3)シルト含。粒状軽石含。
 - 24. VIII c層・浅黄褐色土(10YR8/3)シルト・暗青灰色土(5B3/1)の混土。
 - 25. 塊状浅黄褐色土(10YR8/3)。
 - 26. 22層とほぼ同質。
 - 27. 25層とほぼ同質。
 - 28. 22層とほぼ同質。
 - 29. 25層とほぼ同質。

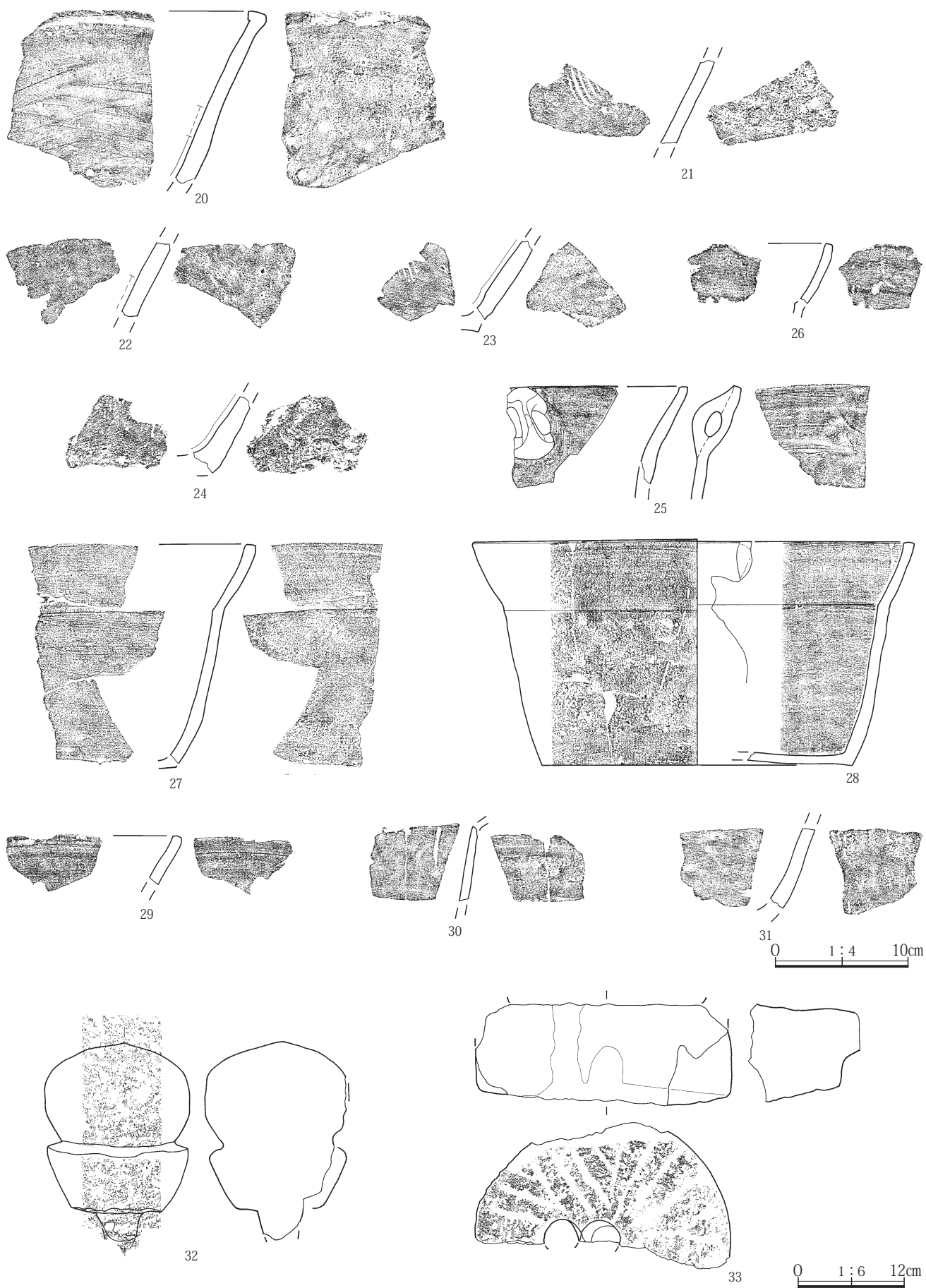


第20図 1号溝平面・断面(2)

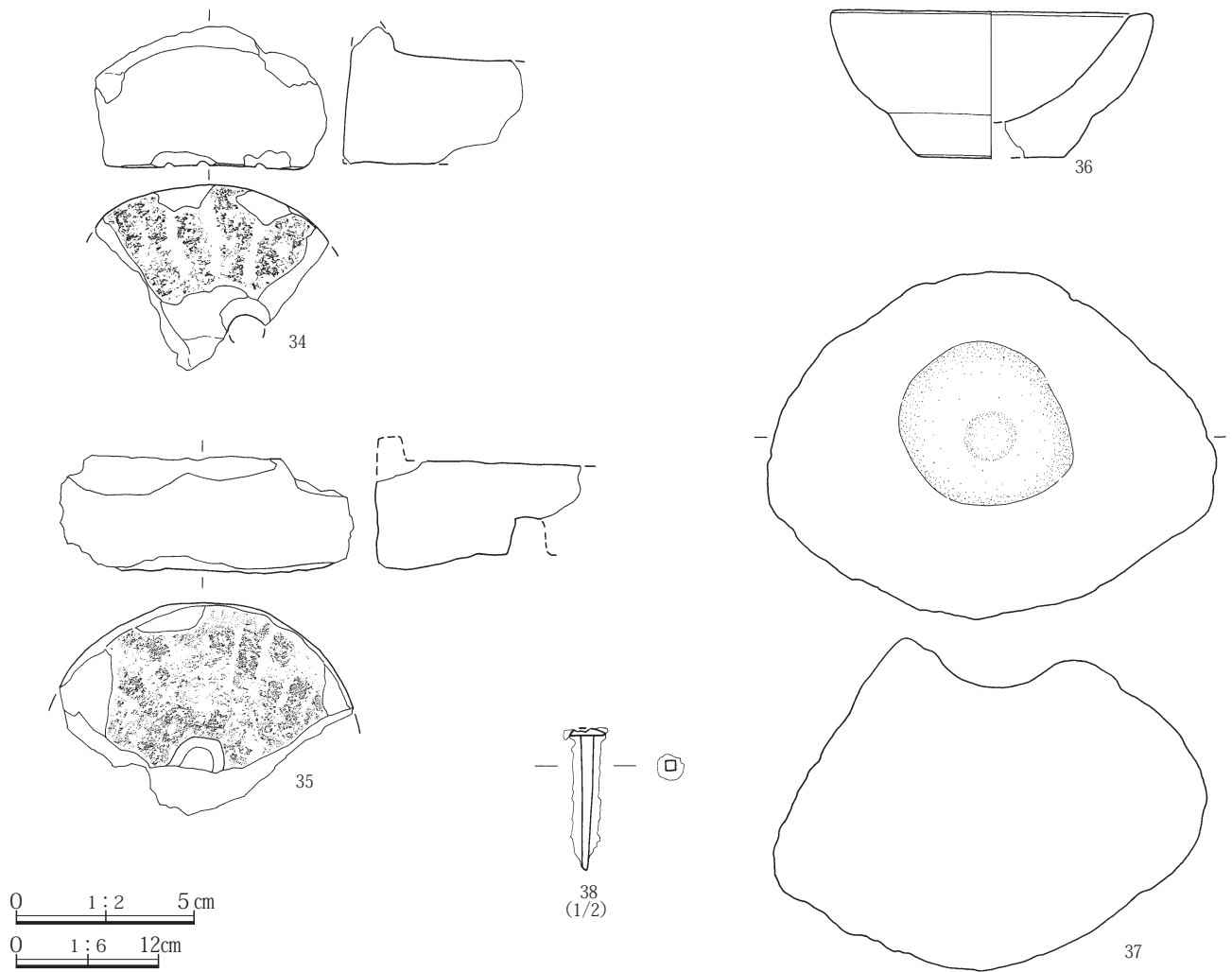
第3章 確認された遺構と遺物



第21図 1号溝出土遺物(1)



第22図 1号溝出土遺物(2)



第23図 1号溝出土遺物(3)

これらのことから、本遺構は中世城館の内堀と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は14～16世紀と推定される。なお、1号馬骨は本遺構埋没土層上位から出土しているが、本遺構埋没過程の凹みを利用して埋葬されたものと考えられる。

6号溝(第31図、PL. 6・23)

位置 23N10、23O10、23P10、23Q10、23R10、23S10、23T10、B区第2面。

重複 1号土坑墓、1053号土坑、845・926・931号ピット、4号水田と重複。本遺構が1号土坑墓より古く、1053号土坑、4号水田より新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-85°-E、東側。N-85°-W、西側。

規模 長軸(26.96)m、短軸0.36～2.12m、深さ0.15

～0.85m。

埋没土層 にぶい橙色土・灰黄褐色土主体、8層が観察された。

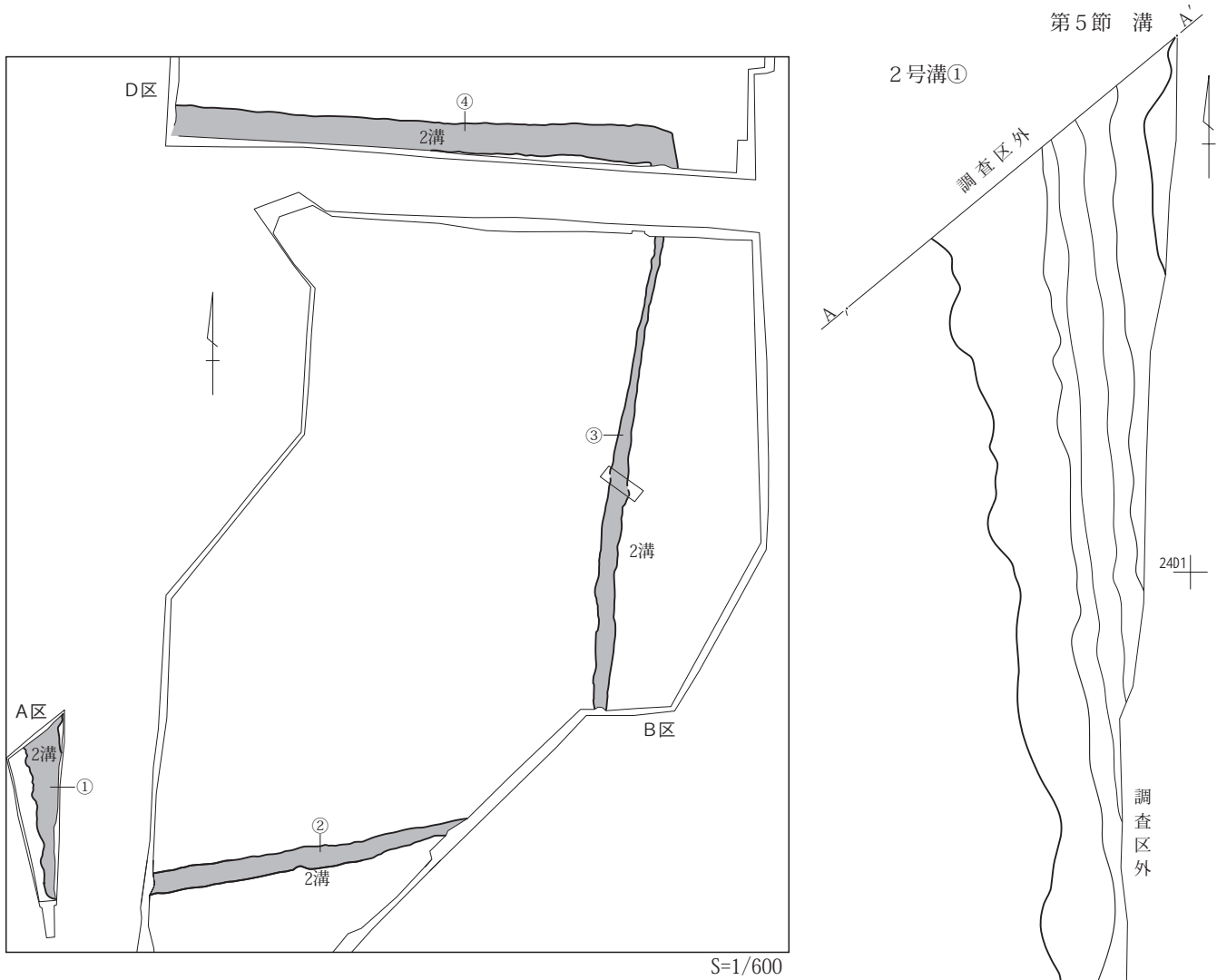
遺物 中世古瀬戸陶器平碗1点(1)、中世尾張陶器片口鉢1点(2)、中世常滑陶器甕1点(3)、時期不明在地系土器壺1点(4)を図示した。他に、須恵器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器片は混入と考えられる。

所見 1・2号溝と平行かつ直交することから、本遺構はこれらの溝と同様に中世城館の堀と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は13世紀以降と推定される。

7号溝(第32図、PL. 6・23)

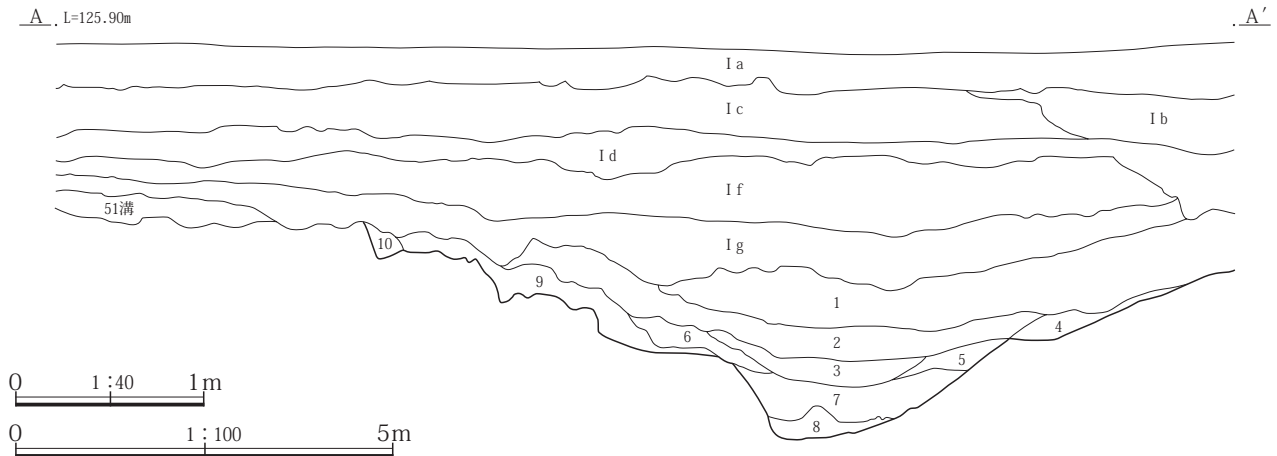
位置 23S3・4、23T3・4、24A3・4、B区第2面。

重複 1号掘立柱建物、190・192・326・328・474～



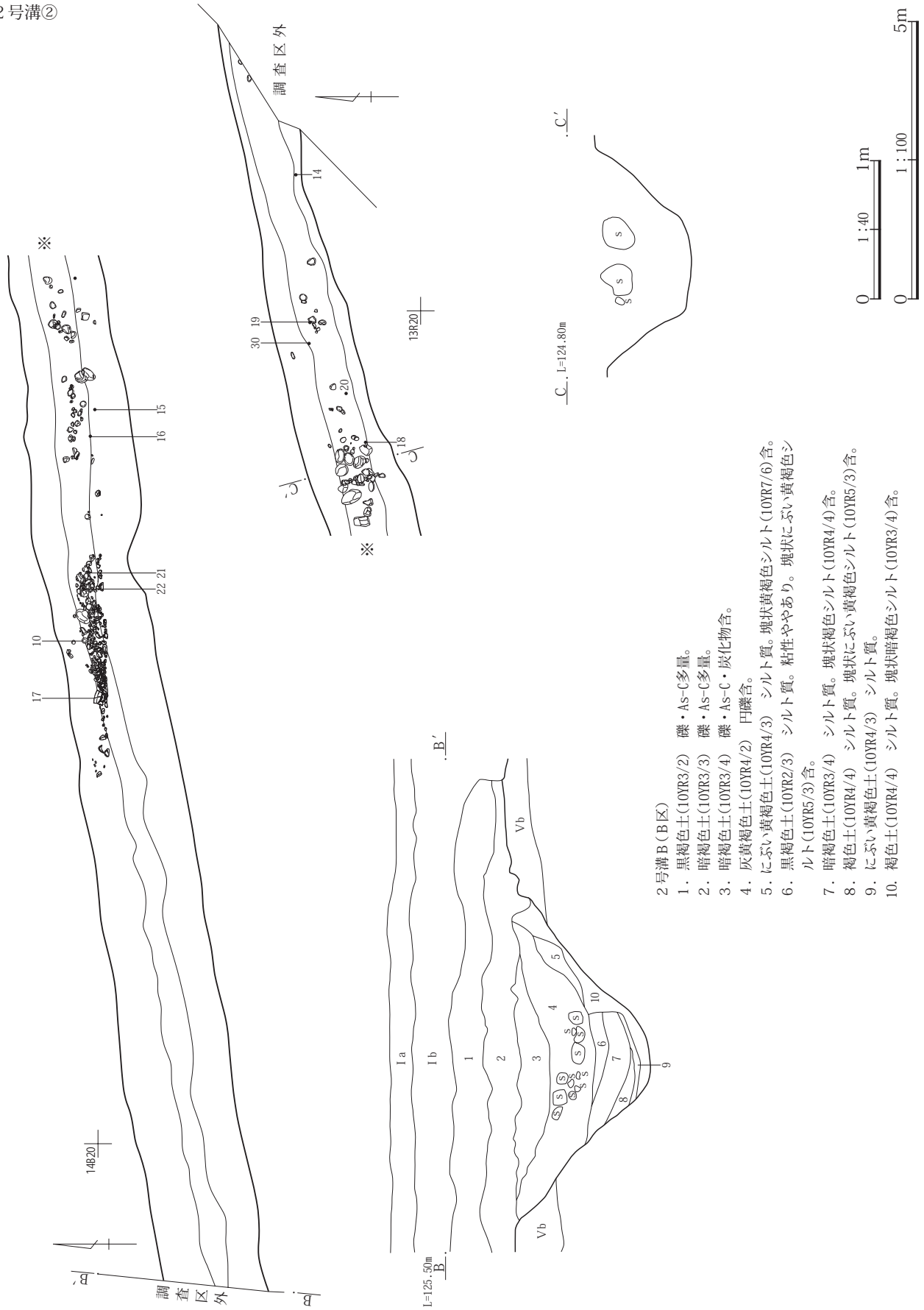
2号溝 A (A区)

1. 暗褐色土(10YR3/4) 上部に塊状にぶい黄褐色シルト(10YR6/3)含。
2. 暗褐色土(10YR3/3)。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 粘性ややあり。
4. 褐色土(10YR4/6) 粘性ややあり。塊状黄褐色シルト(10YR7/6)含。
5. 褐色土(10YR4/4) 塊状黄褐色シルト(10YR7/6)少量。粘性ややあり。
6. 褐色土(10YR4/4) 塊状黄褐色シルト(10YR7/6)含。粘性ややあり。
7. 暗褐色土(10YR3/3) 塊状にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)含。
8. 暗褐色土(10YR3/4) 塊状にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)多量。
9. 褐色土(10YR4/6) 塊状暗褐色シルト(10YR3/3)含。
10. 暗褐色土(10YR3/3) 塊状黄褐色シルト(10YR5/3)・塊状褐灰色シルト(10YR5/1)含。



第24図 2号溝平面・断面(1)

2号溝②



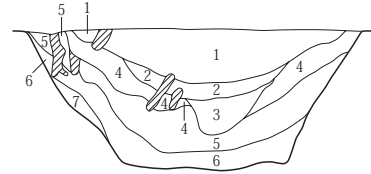
第25図 2号溝平面・断面(2)

2号溝③

調査区外

F, L=125.30m

F'



2号溝F(B区)

1. 褐灰色土(7.5YR4/1) シルト質。鉄分多量、粗粒軽石・粒状軽石少量、微細粒軽石含。
2. 褐灰色土(7.5YR4/1) ノロ状、シルト質。鉄分多量。
3. 褐灰色土(7.5YR4/1) 灰褐色土(7.5YR4/2)多量。
4. 褐灰色土(7.5YR4/1)と灰褐色土(7.5YR4/2)の混土。
5. 褐灰色土(7.5YR4/1)と灰褐色土(7.5YR4/2)と粗粒・小塊状灰白色シルト(2.5Y8/2)と粗粒・小塊状黄橙色土(10YR7/8)の混土。
6. 5層とほぼ同質。シルト少なめ。
7. 褐灰色土(7.5YR4/1)と黒褐色土(10YR3/2)の混土。細粒軽石少量。

23N10

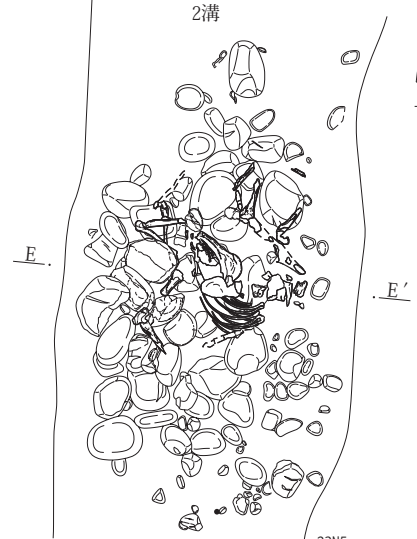
※

1号馬

23N6

1号馬

2号溝

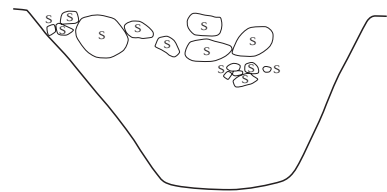


23N5
西2m

D, D'

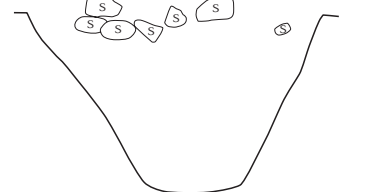
D, L=125.40m

D'



E, L=125.40m

E'



0 1:40 1m

0 1:100 5m

23N7

2303

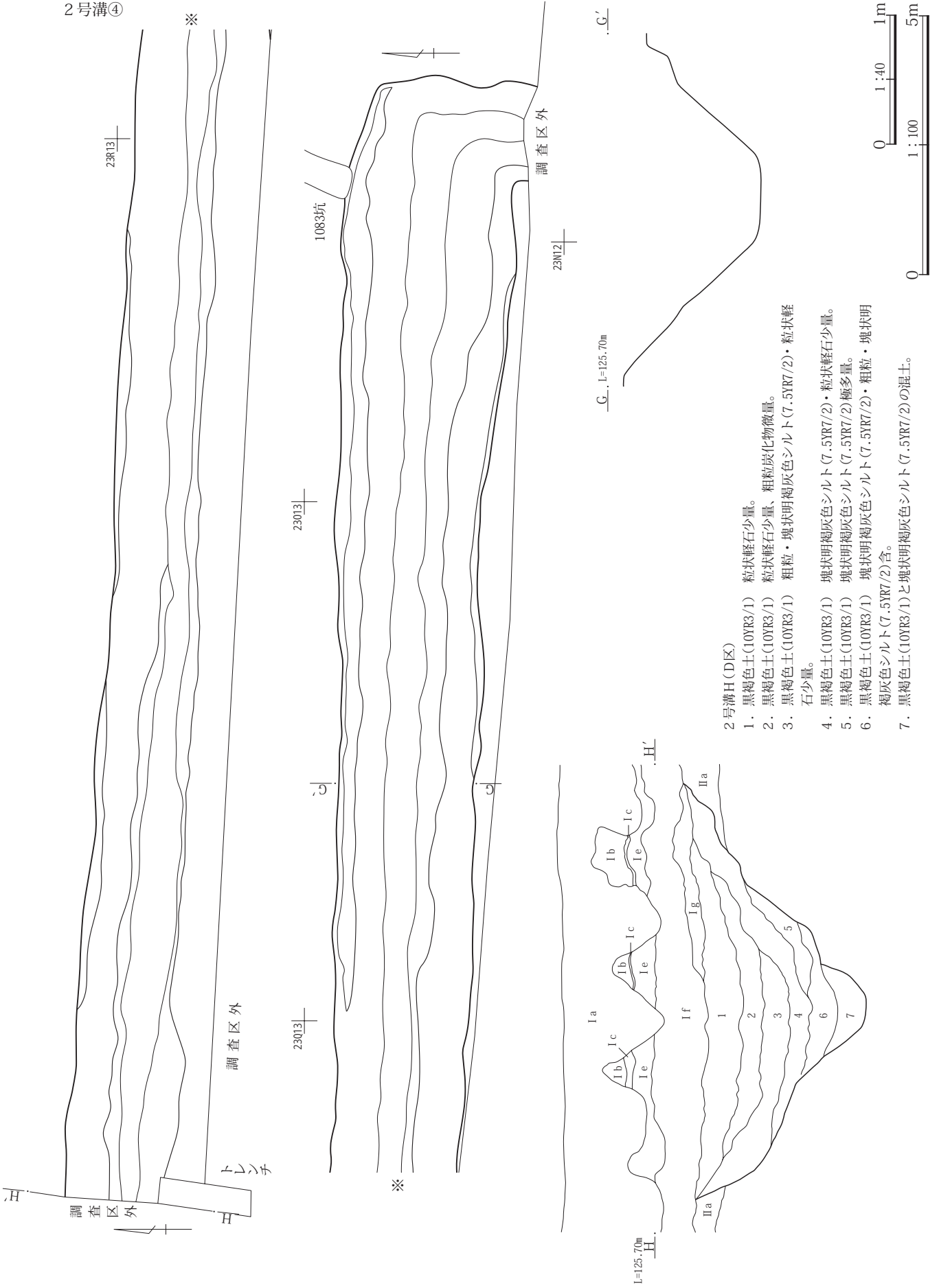
トレンチ

調査区外

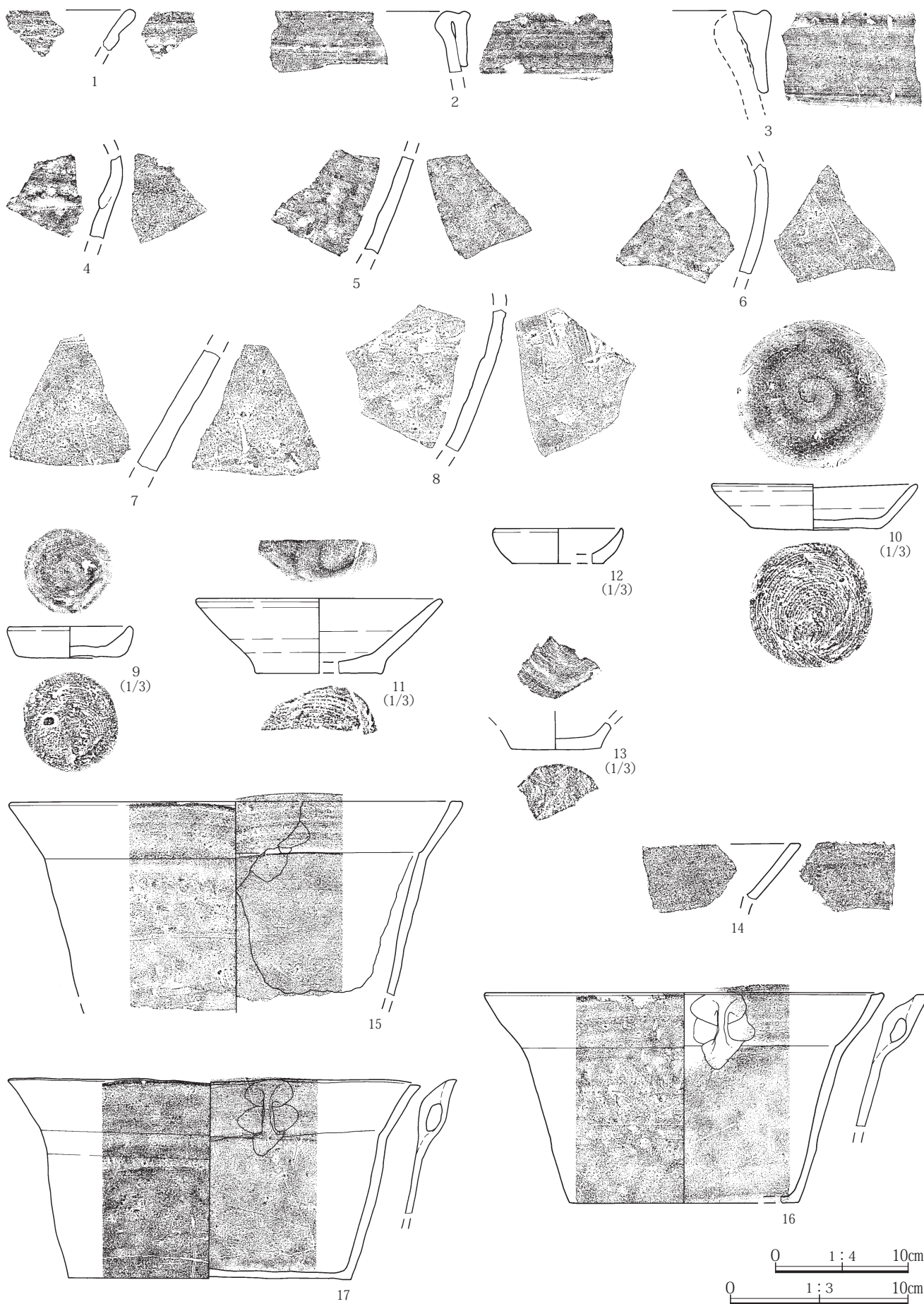
※

第26図 2号溝平面・断面(3)

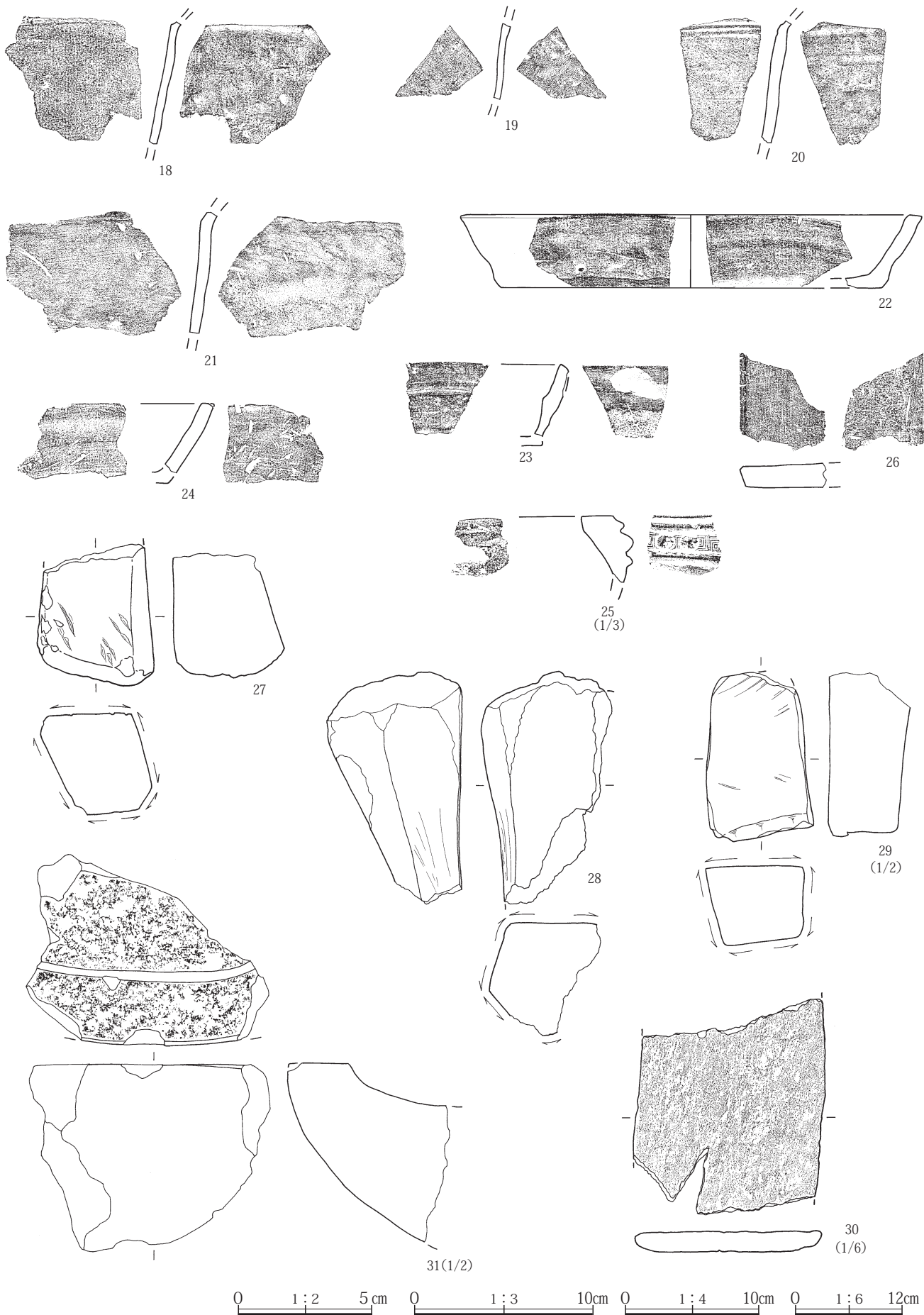
2号溝④



第27図 2号溝平面・断面(4)



第28图 2号沟出土遺物(1)



第29図 2号溝出土遺物(2)



第30図 2号溝出土遺物(3)

478・482～488・759～765・768～781・783～796・821～824・850・921・922号ピットと重複。

平面形状 直線状。8～10号溝とともに長方形区画(南北約20×東西約14m)をなすか。

長軸方位 N-86°-E。

規模 長軸9.68m、短軸2.88～3.40m、深さ0.10m。

埋没土層 不明。

遺物 中世在地系土器皿1点(1)を図示した。他に、土師器片2点、中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 8～10号溝とともに長方形区画をなす(付図2参照)。出土遺物から、本遺構の時期は15世紀以降と推定される。

8号溝(第32図、PL.6)

位置 23T 4・5、24A 4・5、B区第2面。

重複 2003～2012号ピットと重複。

平面形状 不整形。7・9・10号溝とともに長方形区画(南北約20×東西約14m)をなすか。

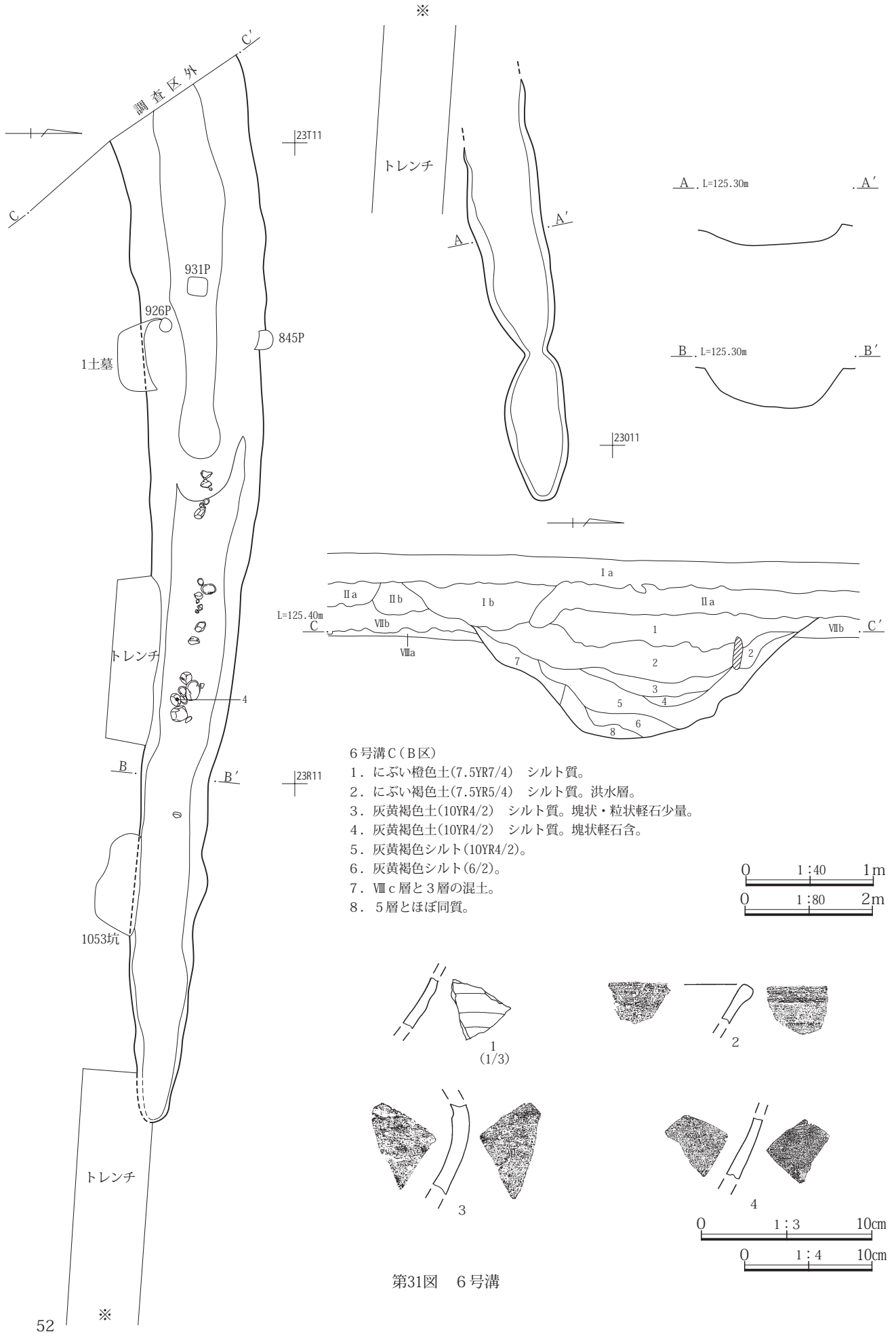
長軸方位 N-5°-W。

規模 長軸6.80m、短軸1.32～3.65m、深さ0.03～0.07m。

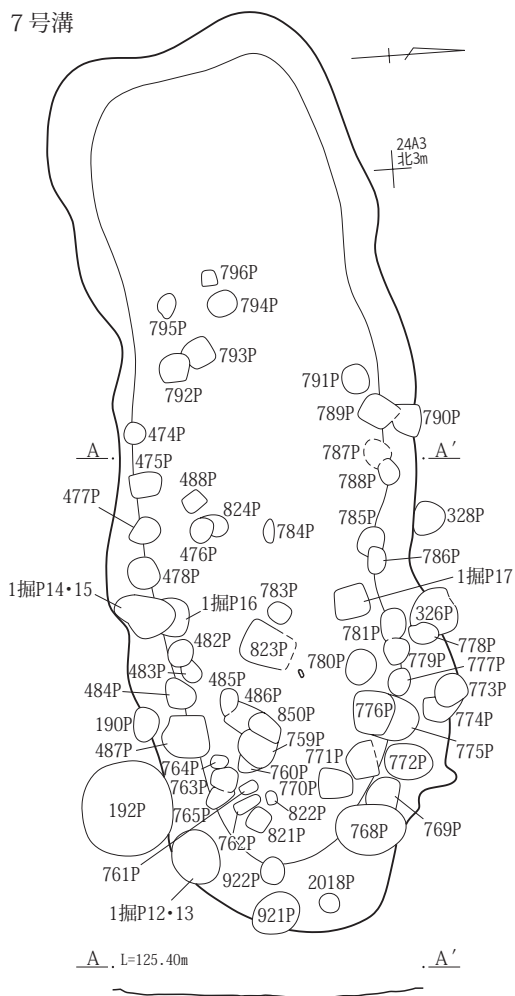
埋没土層 不明。

遺物 土師器片3点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

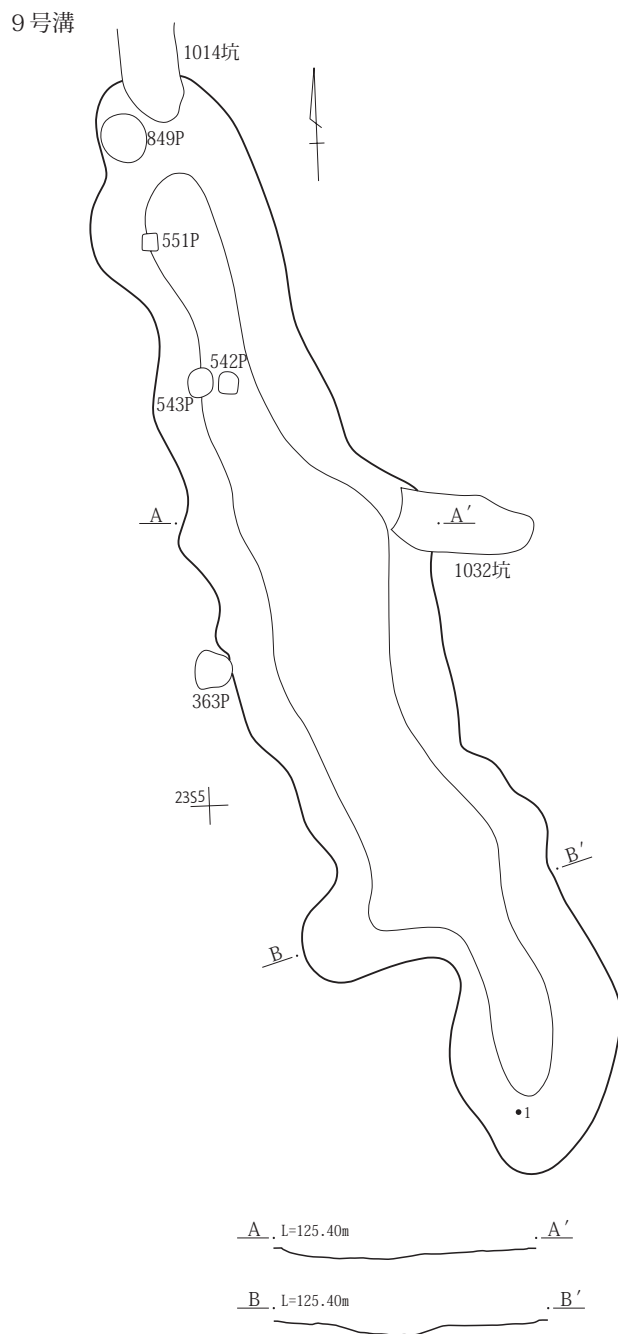
所見 7・9・10号溝とともに長方形区画をなす(付図2参照)。ともに区画をなす7・9号溝の出土遺物から、本遺構の時期も15世紀以降と推定される。



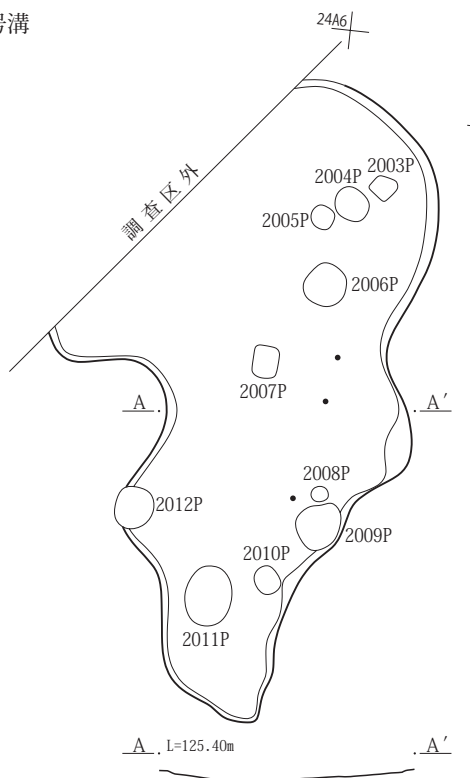
7号溝



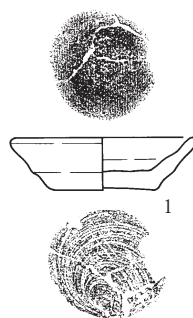
9号溝



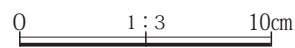
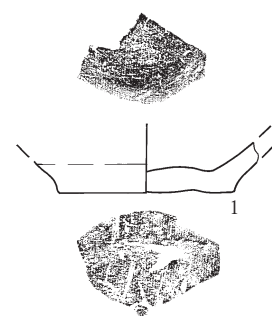
8号溝



7号溝出土遺物



9号溝出土遺物



第32図 7~9号溝

9号溝(第32図、PL. 6・23)

位置 23R 4～6、23S 5・6、B区第2面。

重複 1014・1032号土坑、363・542・543・551・849号ピットと重複。本遺構が542・543号ピットより古い。

平面形状 直線状。7・8・10号溝とともに長方形区画(南北約20×東西約14m)をなすか。

長軸方位 N-20°-W。

規模 長軸12.40m、短軸1.38～2.74m、深さ0.12～0.16m。

埋没土層 不明。

遺物 中世在地系土器皿1点(1)を図示した。他に、中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 7・8・10号溝とともに長方形区画をなす(付図2参照)。出土遺物およびともに区画をなす7号溝の時期から、本遺構の時期は15世紀以降と推定される。

10号溝(第33図、PL. 7)

位置 23S 5・6、23T 5・6、B区第2面。

重複 398号ピットと重複。

平面形状 不整形。7～9号溝とともに長方形区画(南北約20×東西約14m)をなすか。

長軸方位 N-40°-E。

規模 長軸3.20m、短軸0.42～1.92m、深さ0.08～0.11m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 7～9号溝とともに長方形区画をなす(付図2参照)。ともに区画をなす7・9号溝の出土遺物から、本遺構の時期は15世紀以降と推定される。

11号溝(第33図、PL. 7)

位置 23F 13・14、C区第2面。

重複 1041・1042号土坑と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸(3.25)m、短軸0.28～0.54m、深さ0.90～0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図

示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

12号溝(第33図、PL. 7)

位置 23E 14～16、C区第2面。

重複 862号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸7.26m、短軸0.21～0.28m、深さ0.04～0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 13号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

13号溝(第33図、PL. 7)

位置 23E 15・16、23F 14・15、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸9.33m、短軸0.21～0.31m、深さ0.06～0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 12号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

14号溝(第33図、PL. 7)

位置 23G 14～17、C区第2面。

重複 16号溝と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸13.21m、短軸0.46～0.66m、深さ0.09～0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 15号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

15号溝(第33図、PL. 7・23)

位置 23G 14～16、C区第2面。

重複 16号溝と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸(9.24)m、短軸0.23～0.35m、深さ0.03～0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 近世以降在地系土器竈1点(1)を図示した。他に、近現代陶磁器片1点、時期不明土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 14号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は近世以降と推定され、最終的な埋没は近現代に下る可能性がある。

16号溝(第34図、PL. 8)

位置 23G 15、23H 15、C区第2面。

重複 14・15号溝、876号ピットと重複。本遺構が876号ピットより新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-76°-W。

規模 長軸6.76m、短軸0.33～0.52m、深さ0.05～0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

17号溝(第34図、PL. 7)

位置 23H 14～17、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-8°-E。

規模 長軸12.02m、短軸0.24～0.52m、深さ0.05～0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片1点、須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片、須恵器片は混入と考えられる。

所見 18号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も土師器・須恵器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

18号溝(第34図、PL. 7)

位置 23H 14～16、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-8°-E。

規模 長軸9.58m、短軸0.38～0.56m、深さ0.05～0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 17号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

19号溝(第34図、PL. 8)

位置 23 I 15・16、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

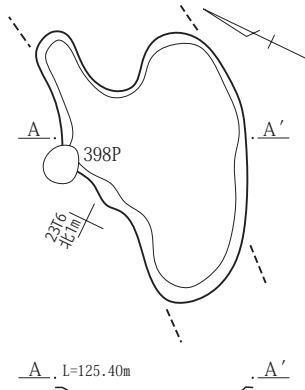
規模 長軸5.67m、短軸0.22～0.30m、深さ0.05～0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

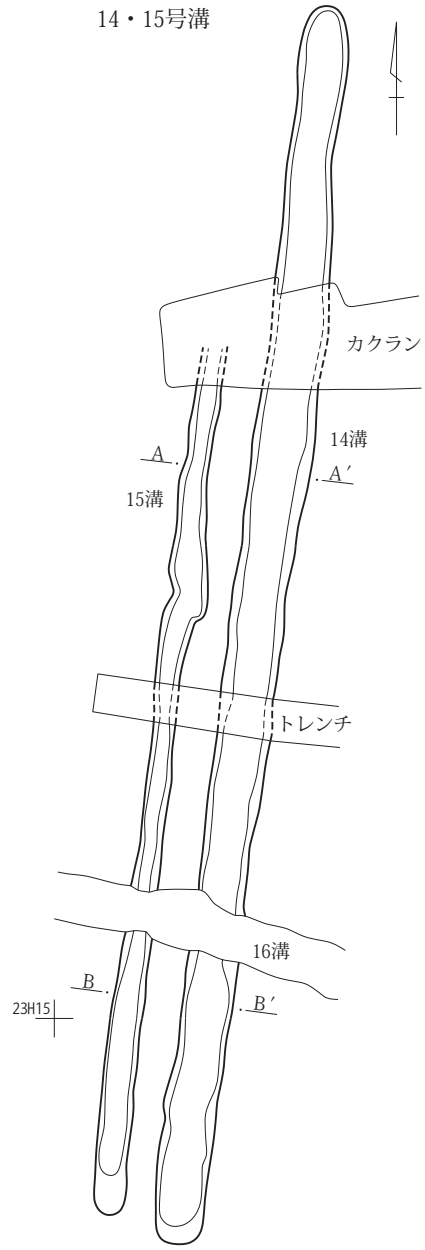
遺物 なし。

所見 20号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

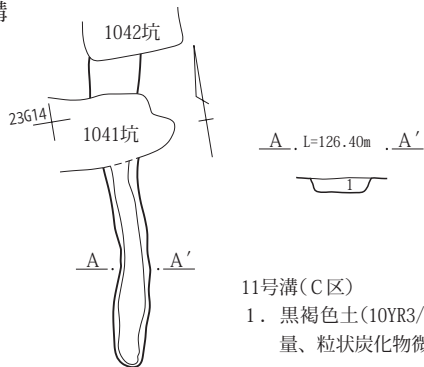
10号溝



14・15号溝



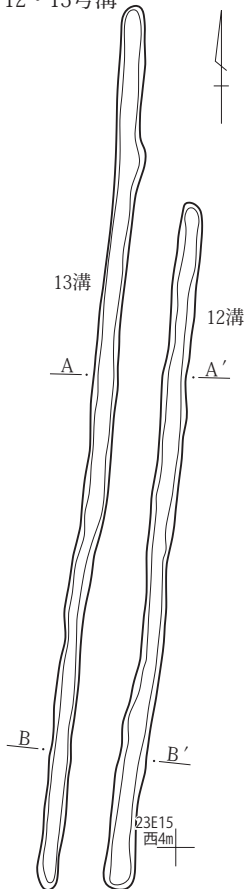
11号溝



11号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

12・13号溝



12・13号溝(C区)

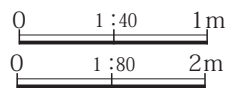
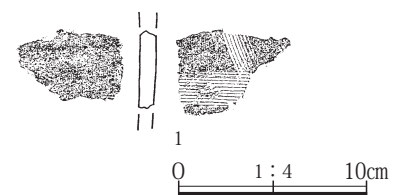
1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

15・14号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

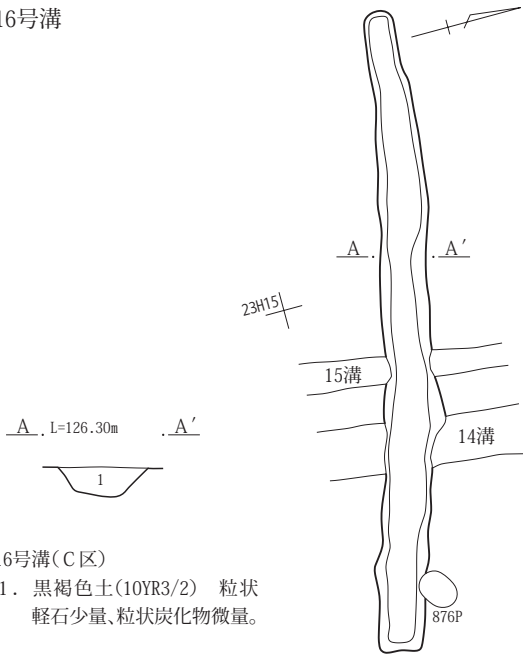


15号溝出土遺物



第33図 10～15号溝

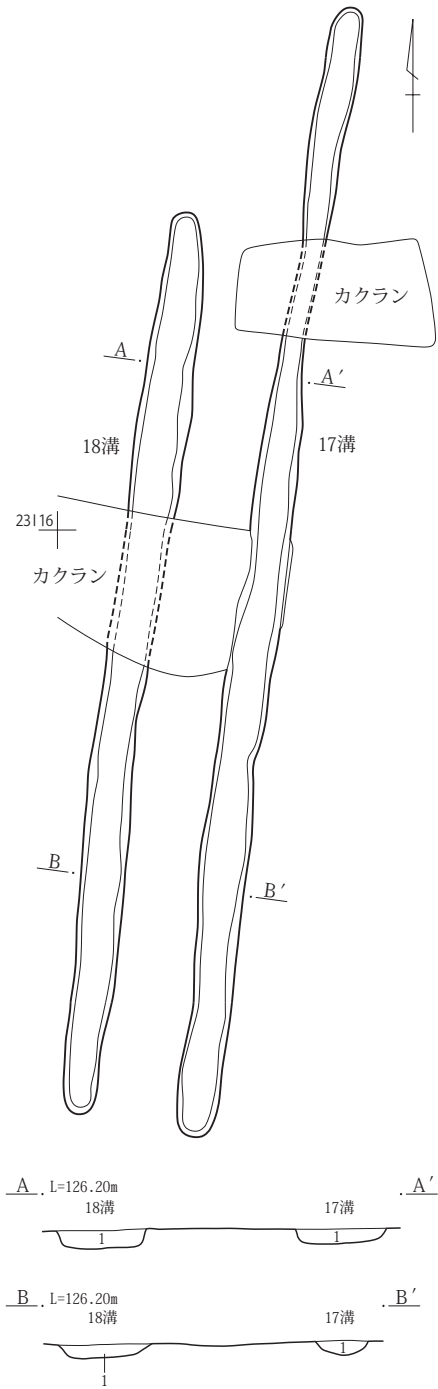
16号溝



16号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

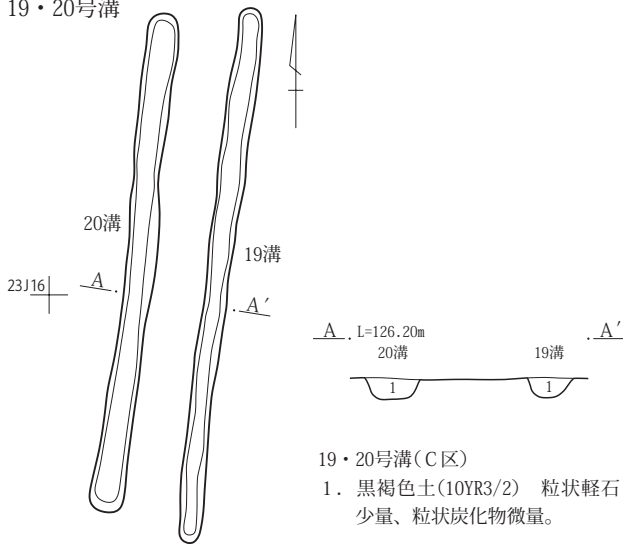
17・18号溝



17・18号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

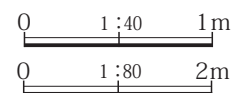
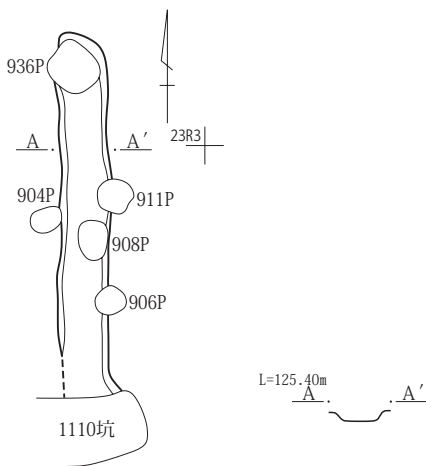
19・20号溝



19・20号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、粒状炭化物微量。

21号溝



第34図 16～21号溝

20号溝(第34図、PL. 8)

位置 23 I 15・16、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸5.28m、短軸0.26～0.32m、深さ0.04～0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が観察された。

遺物 土師器片1点、近現代陶磁器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 19号溝と並行する。流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。本遺構の時期は詳しく判別できなかったが、出土遺物から、最終的な埋没は近現代に下る可能性がある。

21号溝(第34図)

位置 23 R 2・3、B区第2面。

重複 1110号土坑、904～906・908・911・936号ピットと重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-1°-W。

規模 長軸(3.84)m、短軸0.50～0.54m、深さ0.15m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

23号溝(第38図、PL. 8)

位置 33 O 2～7、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-1°-E。

規模 長軸28.72m、短軸0.36～0.74m、深さ0.10～0.17m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

24号溝(第35～37図、PL. 8・24)

位置 33 S 7・10～13、33 T 1～13、34 A 1～7、24 A 18～20、D区第2面。24 C 16～18、24 D 17～20、24 E 17～20、E区第2面。

重複 5・6号竪穴状遺構、25・29・31・43号溝、1056・1059・1063・1066・1087～1089・1102号土坑と重複。本遺構が43号溝、1056・1059・1063・1066・1087～1089・1102号土坑より古く、5・6号竪穴状遺構、31号溝より新しい。

平面形状 J字状区画(南北70m以上×東西15m以上)をなすか。

長軸方位 N-6～16°-E、D区。N-52～73°-W、E区。

規模 長軸(83.53)m、短軸5.35～11.40m、深さ0.64～1.03m、D区。長軸(11.30)m、短軸4.48～11.90m、深さ0.96～1.35m、E区。

埋没土層 黒褐色土・黒色土主体、25層が確認された。

遺物 中世在地系土器皿1点(1)、砥石2点(2・3)、茶臼1点(4)、鉄製品鏃1点(5)・器種不詳1点(6)を図示した。また、縄文土器深鉢2点(外4・5)も第3章第10節に図示した。2・3号馬骨、10～15・20号馬骨(埋没土中)も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。他に、縄文土器片1点、埴輪片1点、土師器片8点、須恵器片4点、灰釉陶器片1点、近世施釉陶器片1点、近世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。縄文土器片、埴輪片、土師器片、須恵器片、灰釉陶器片は混入と考えられる。

所見 一部に流水の形跡が見られるが、本遺構の規模および長軸方位が1・2号溝によるコ字状区画の南北軸と同じであることから、同時期中世城館の堀と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は13世紀以降と推定されるが、最終的な埋没は近世に下る可能性がある。

25号溝(第35～37図、PL. 8・24)

位置 33 R 11、33 S 9～12、33 T 9・10、D区第2面。

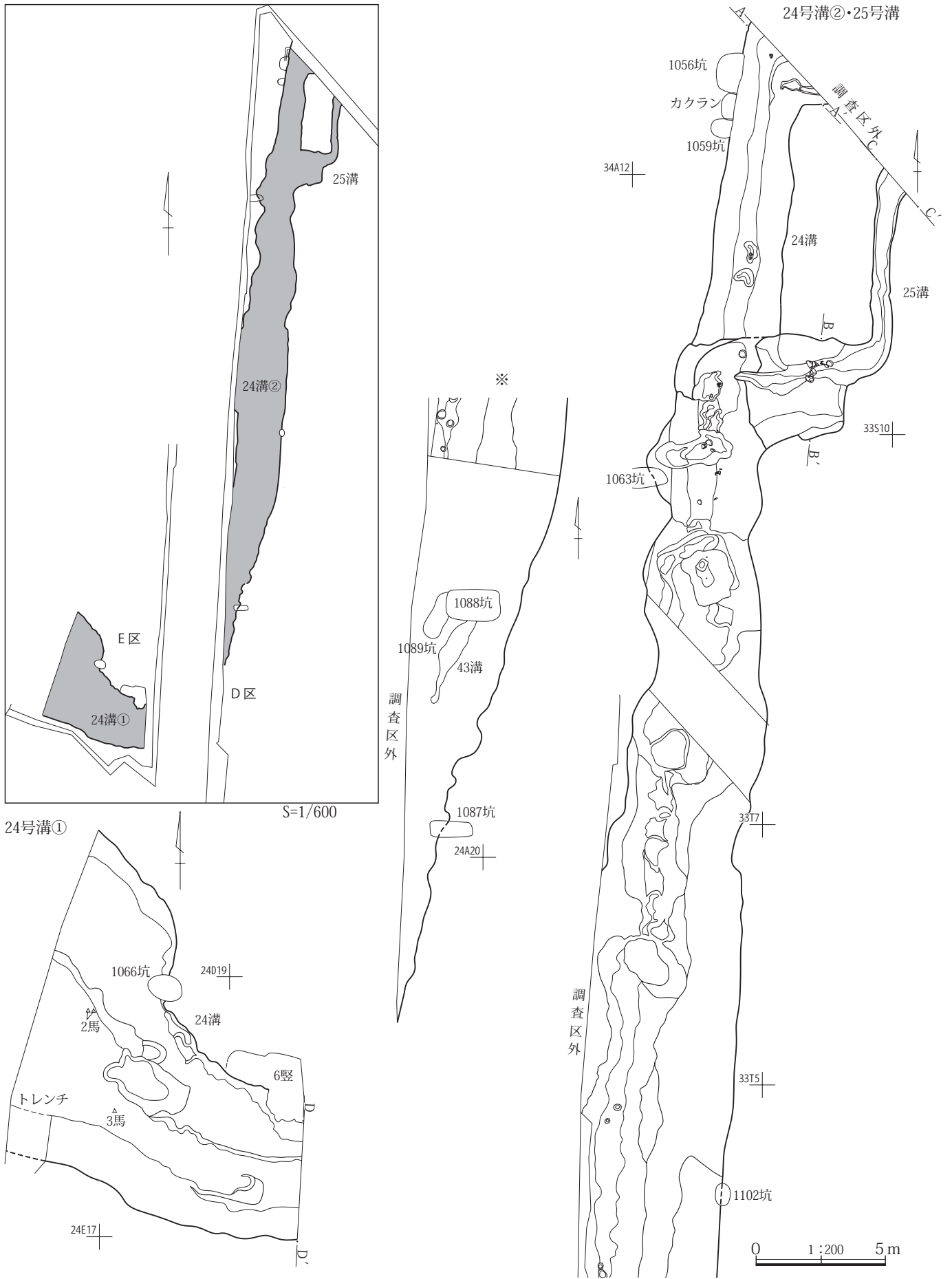
重複 24号溝と重複。

平面形状 J字状。

長軸方位 N-2°-E、東側。N-86°-E、南側。

規模 長軸14.70m、短軸0.63～4.05m、深さ0.12～0.90m。

24号溝②・25号溝

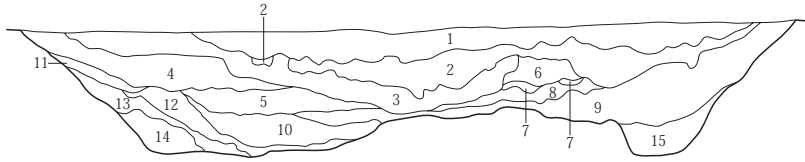


第35図 24・25号溝平面・断面(1) ※

第3章 確認された遺構と遺物

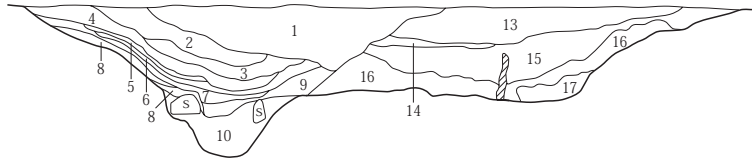
A L=126.40m

A'

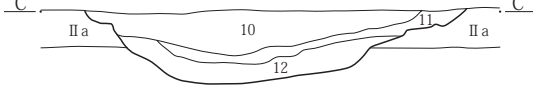


B L=126.40m

B'



L=126.40m



24・25号溝A(D区)

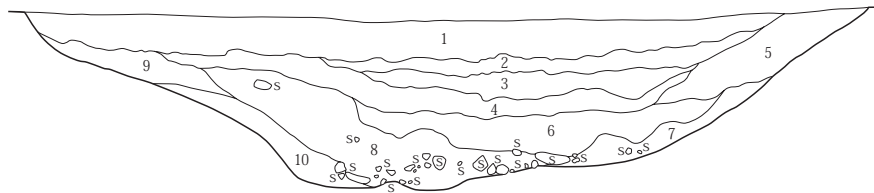
1. 黒色土(10YR2/1) As-B極多量、小塊状焼土微量。
2. 黒色土(10YR2/1) As-B・小塊状焼土・粒状焼土・粗粒～粒状炭化物・灰含。
3. 黒色土(10YR2/1)と褐色土(7.5YR4/3)の混土。As-B含。
4. 黒色土(10YR2/1) As-B多量、粗粒褐色土(7.5YR4/3)含。
5. 4層とほぼ同質。
6. 灰褐色土(7.5YR4/2) シルト質。下層に粗粒・粒状軽石含。
7. Hr-FA礫。
8. 灰褐色土(7.5YR5/2) シルト質。粒状軽石少量、塊状4層含。
9. 黒褐色土(10YR3/2) As-B多量、塊状明褐色土(7.5YR7/2)含。
10. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒明褐色土(7.5YR7/2)含。
11. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状明褐色土(7.5YR7/2)含。
12. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状明褐色土(7.5YR7/2)多量、As-B微量。
13. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。As-B微量。
14. 明褐色土(7.5YR7/2) 塊状主体。
15. 黒褐色土(10YR3/2) As-B少量、塊状明褐色土(7.5YR7/2)含。

24・25号溝B C(D区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-B極多量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒・粒状軽石多量、As-B含有。
3. 黒褐色土(10YR3/1) As-B・粒状焼土少量。
4. 黒色土(10YR2/1) As-B・粒状炭化物・粒状焼土少量。
5. 炭化物。
6. 黒色土(10YR2/1) As-B・粗粒状明褐色土(7.5YR7/2)少量、粒状焼土微量。
7. 5層とほぼ同質。
8. 黒褐色土(10YR3/2) As-B・粒状明褐色土(7.5YR7/2)少量。
9. 黒褐色土(10YR3/2) As-B少量、粗粒状明褐色土(7.5YR7/2)含。
10. 黒褐色土(10YR3/1) As-B多量。
11. 黒色土(10YR2/1) As-B多量。
12. 黒色土(10YR2/1) As-B多量、明褐色土粗粒(7.5YR7/2)含。
13. 黒褐色土(10YR2/2) As-B極多量。
14. 黒褐色土(10YR3/2) As-B・明褐色土粗粒(7.5YR7/2)含。
15. 黒色土(10YR2/1) As-B多量、明褐色土粗粒(7.5YR7/2)含。
16. 黒色土(10YR2/1) As-B・粒状明褐色土(7.5YR7/2)少量。
17. 黒色土(10YR2/1)と塊状明褐色土(7.5YR7/2)の混土。

D L=125.40m

D'



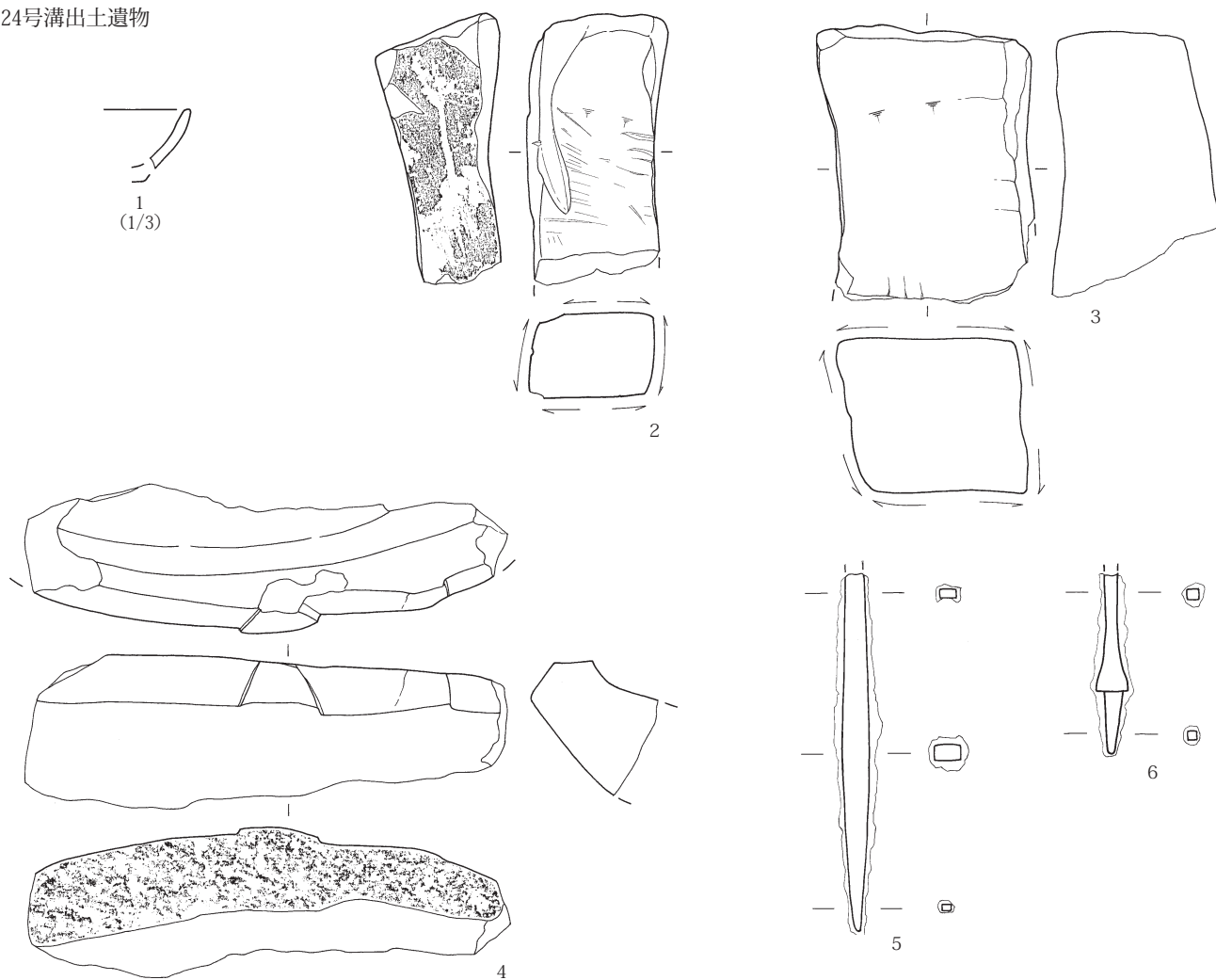
24・25号溝D(E区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 微細軽石(As-Bか)多量、粒状軽石微量。
2. 暗青灰色土(5B3/1) 微細軽石(As-Bか)少量。
3. 暗青灰色土(5B3/1) シルト質。
4. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石少量、微細軽石(As-Bか)含。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状浅黄褐色土(10YR8/3)・粒状軽石少量。
6. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石若干、小塊状橙色シルト(5YR7/6)少量。
7. 塊状浅黄褐色土(10YR8/3)。
8. 暗青灰色土(5B3/1) 粒状軽石・浅黄褐色シルト(10YR8/3)粒少量。
9. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量、小塊状浅黄褐色シルト(10YR8/3)含。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 塊状浅黄褐色土(10YR8/3)シルト含。粒状軽石含。

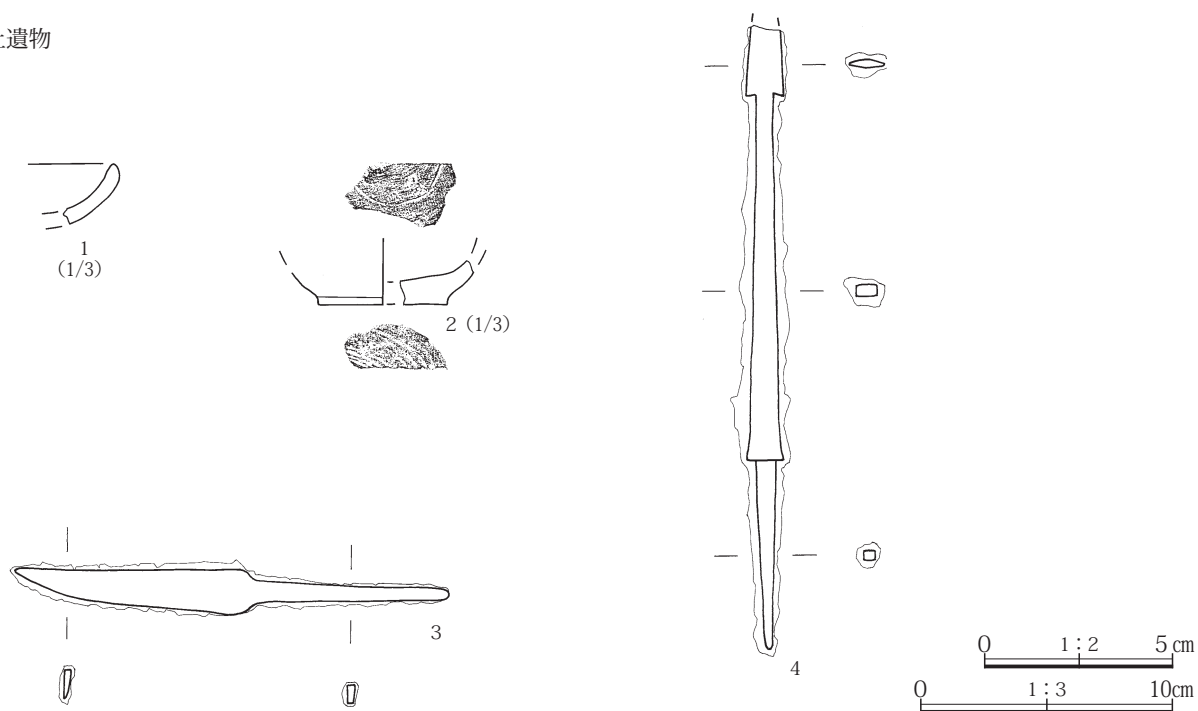
0 1:40 1m

第36図 24・25号溝平面・断面(2)

24号溝出土遺物



25号溝出土遺物



第37图 24・25号溝出土遺物

埋没土層 黒褐色土・黒色土主体、17層が確認された。

遺物 中世在地系土器皿2点(1・2)、鉄製品刀子1点(3)・鏃1点(4)を図示した。他に、中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は13世紀以降と推定される。

28号溝(第38図、PL. 8)

位置 33T 9～13、34A 9、D区第2面。

重複 24号溝、1055～1060・1062・1063・1070号土坑と重複。本遺構が1055～1060・1062・1063・1070号土坑より古い。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-9°-E。

規模 長軸21.82m、短軸0.30～0.68m、深さ0.05～0.17m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 黒色土器碗1点(外14)、土師器羽釜1点(外18)を第3章第10節に図示した。他に、土師器片7点、須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。遺物は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も混入のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

29号溝(第38図、PL. 8)

位置 33T 12・13、D区第2面。

重複 24号溝、1056号土坑と重複。本遺構が1056号土坑より新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-5°-E。

規模 長軸(1.80)m、短軸0.18～0.27m、深さ0.06～0.09m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

30号溝(第39図、PL. 9)

位置 34E 1・2、34F 2～4、34G 4・5、34H 5・6、E区第2面。

重複 4号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-30°-W。

規模 長軸(31.60)m、短軸0.76～1.36m、深さ0.10～0.15m。

埋没土層 褐灰色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

31号溝(第39図、PL. 9)

位置 24D 17～19、24E 19、E区第2面。

重複 5号竪穴状遺構、24号溝、1066号土坑と重複。本遺構が24号溝、1066号土坑より古い。

平面形状 J字状。

長軸方位 N-18°-W、N-44°-W。

規模 長軸10.54m、短軸0.67～2.63m、深さ0.12～0.25m。

埋没土層 橙色土・にぶい黄褐色土主体、3層が確認された。

遺物 4～6号馬骨も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。他に、縄文または弥生土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。縄文または弥生土器片は混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

33号溝(第40図)

位置 23M 14・15、D区第2面。

重複 1号溝、2035号ピットと重複。本遺構が新しい。

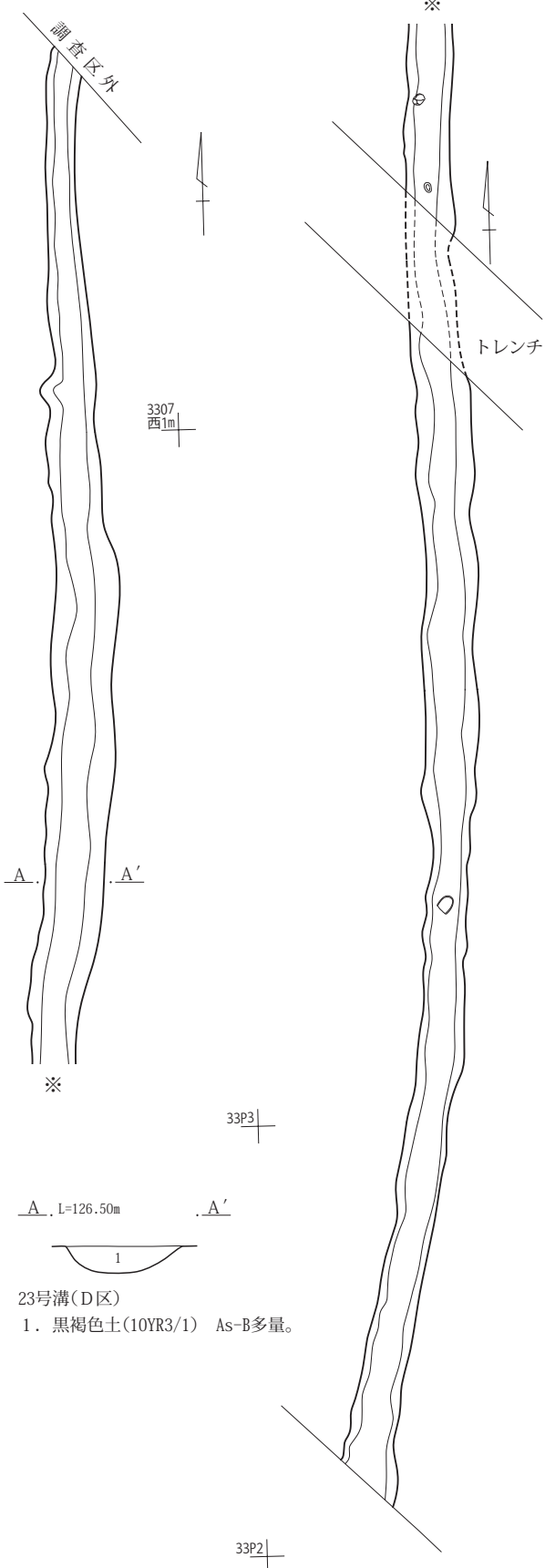
平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-E。

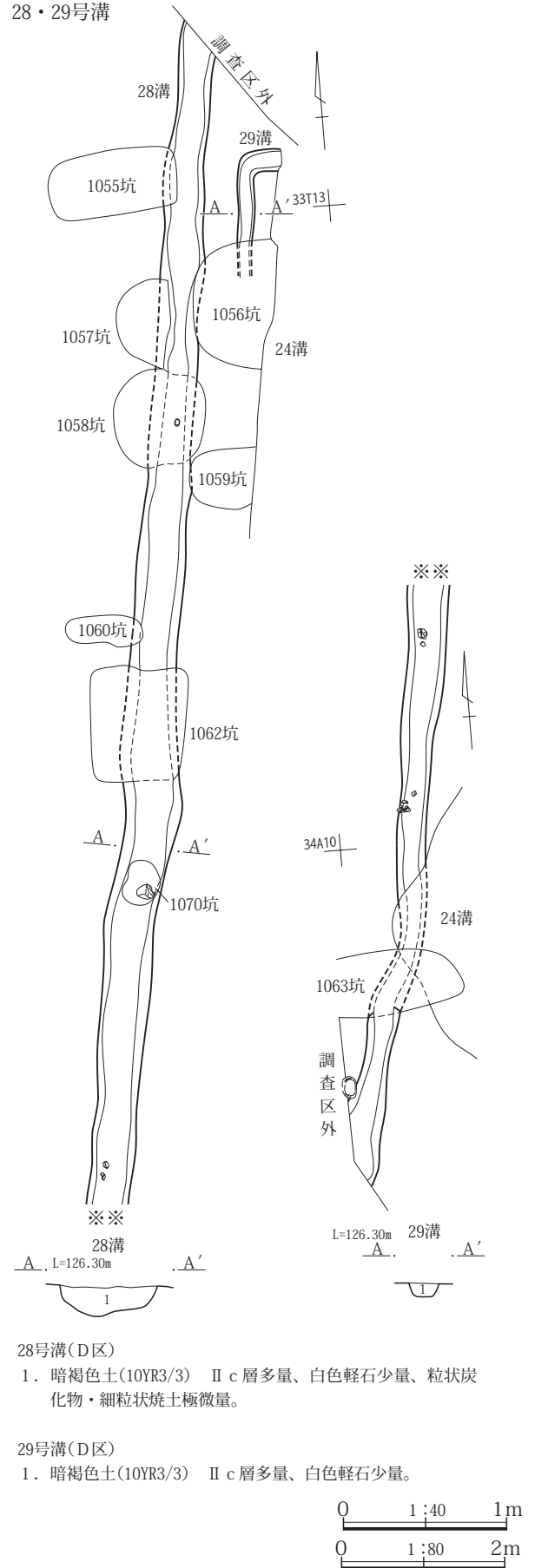
規模 長軸(9.02)m、短軸0.15～0.70m、深さ0.02～0.10m。

埋没土層 不明。

23号溝

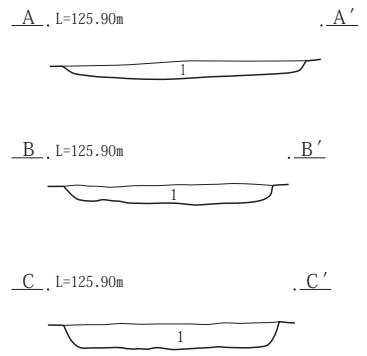
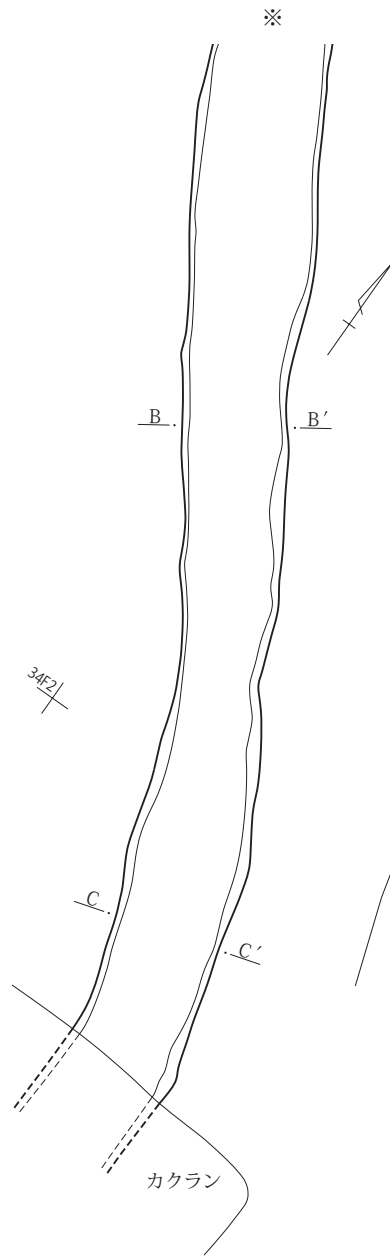


28・29号溝



第38図 23・28・29号溝

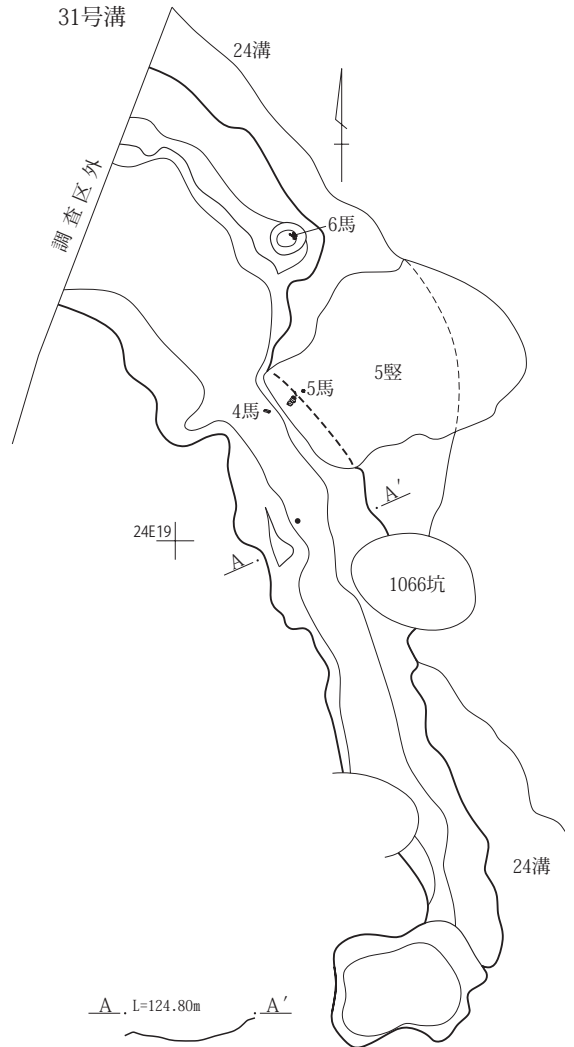
30号溝



30号溝A~C (E区)

1. 塊状明褐灰色土(7.5YR7/2)とⅧc層の混土。

31号溝



A, L=124.80m A'

0 1:40 1m

0 1:80 2m

※

第39図 30・31号溝

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

34号溝(第40図)

位置 23N12～15、D区第2面。

重複 1号溝、2042号ピットと重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-2°-E。

規模 長軸(15.70)m、短軸0.12～0.34m、深さ0.05～0.08m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

35号溝(第40図)

位置 23S17～19、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-7°-W。

規模 長軸6.98m、短軸0.26～0.77m、深さ0.04～0.07m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

36号溝(第40図)

位置 23S19、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 了字状。

長軸方位 N-1°-W、東側。N-55°-W、北側。

規模 長軸3.07m、短軸0.33～0.78m、深さ0.05～0.16m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

37号溝(第40図)

位置 23S19、23T19、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸0.83m、短軸0.28m、深さ0.18m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

38号溝(第40図)

位置 23S19、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-70°-W。

規模 長軸1.82m、短軸0.47～0.68m、深さ0.16～0.27m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

39号溝(第40図、PL.9)

位置 23S19・20、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-68°-W。

規模 長軸(2.88)m、短軸0.33～0.76m、深さ0.05～0.23m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

40号溝(第41図、PL.9)

位置 23S20、23T18～20、33S1、33T1、D区第2面。

重複 41号溝と重複。

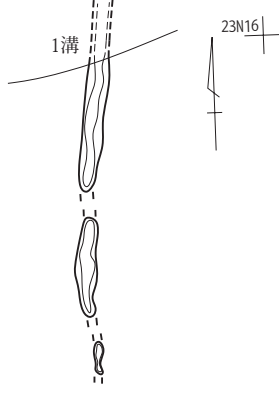
平面形状 直線状。

長軸方位 N-20°-E。

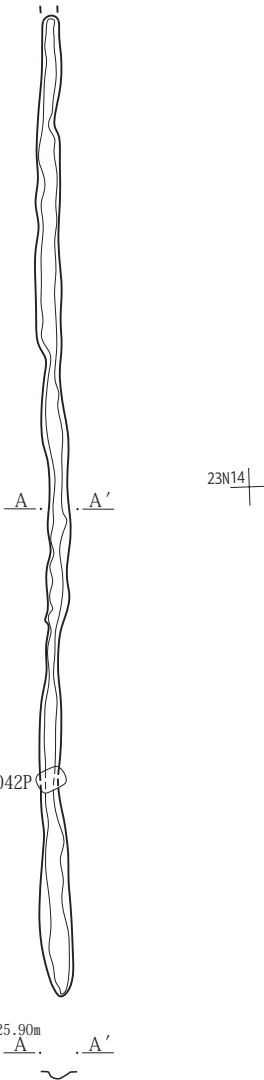
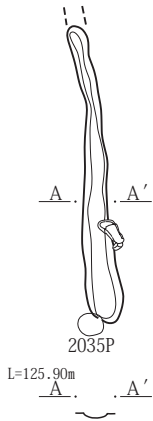
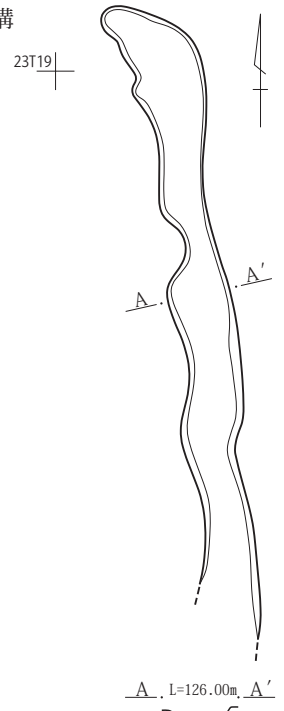
33号溝



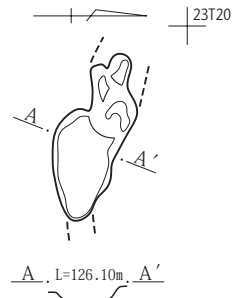
34号溝



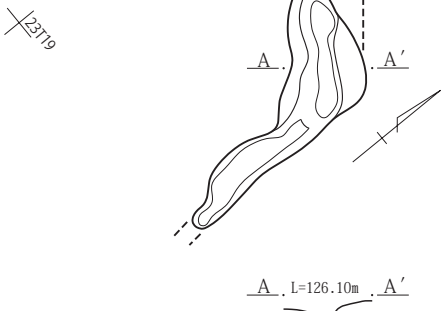
35号溝



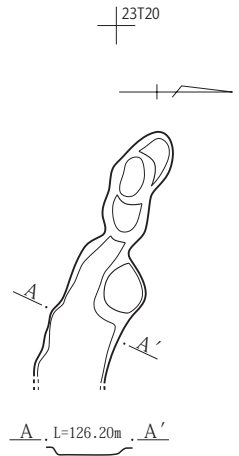
38号溝



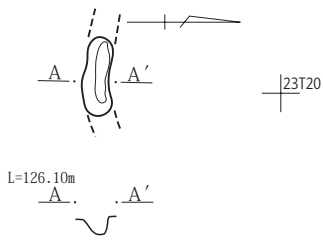
36号溝



39号溝



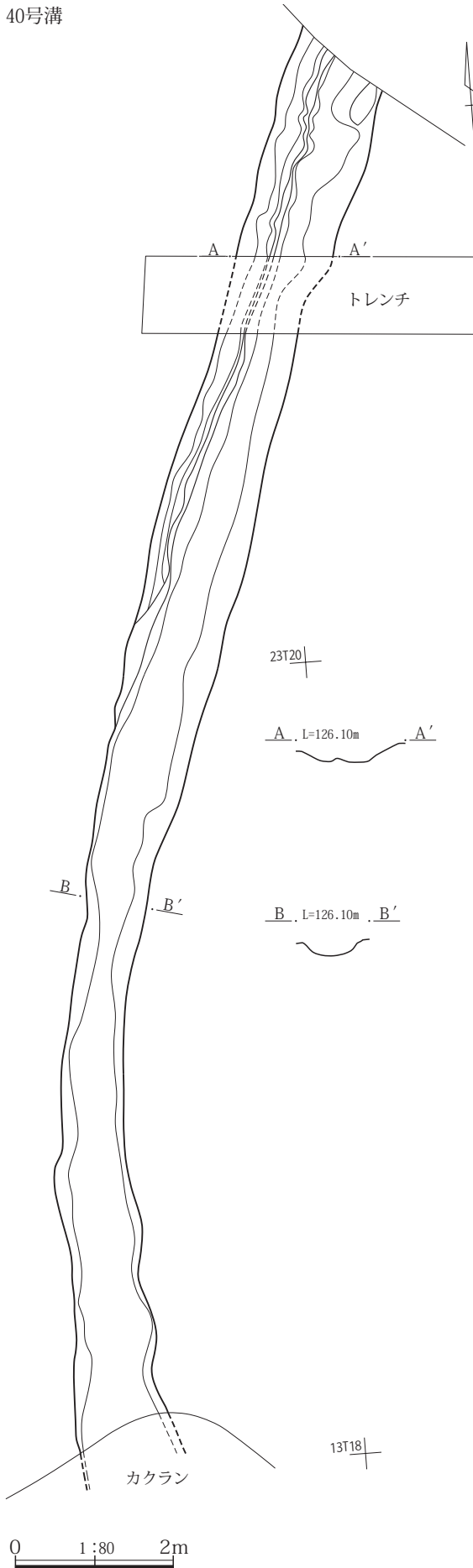
37号溝



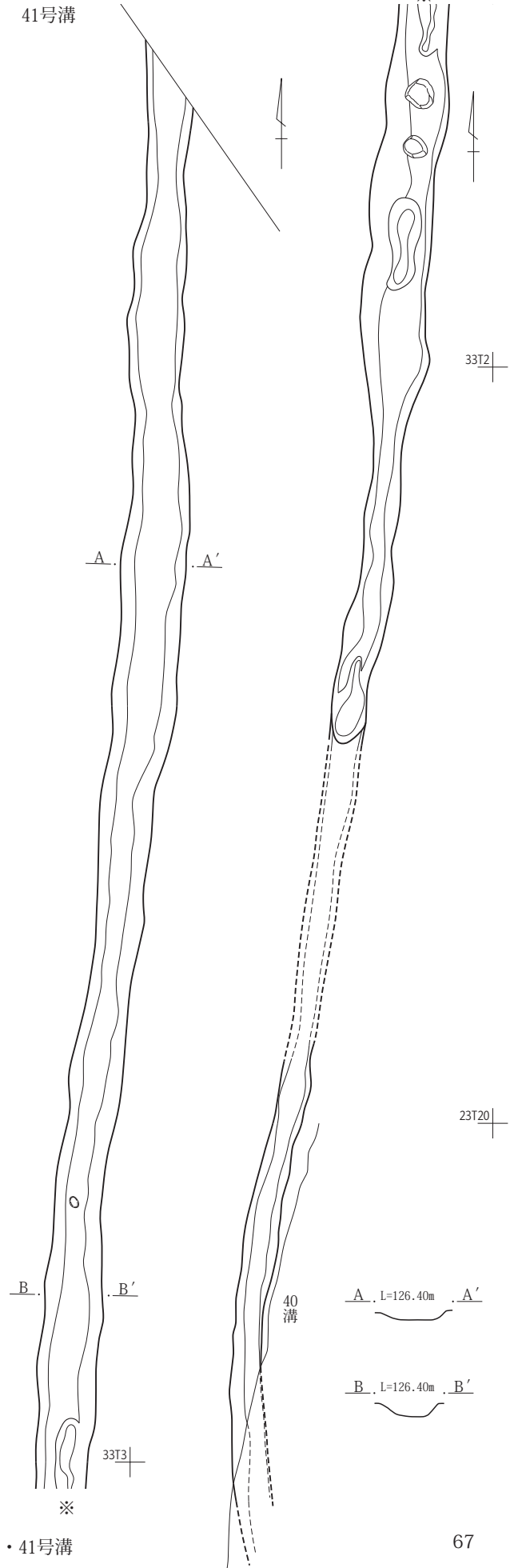
0 1:80 2m

第40図 33～39号溝

40号溝

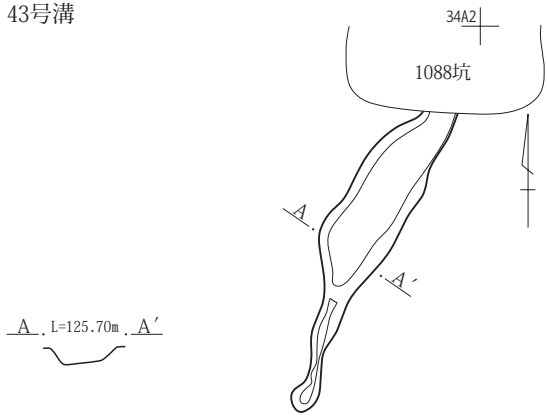


41号溝

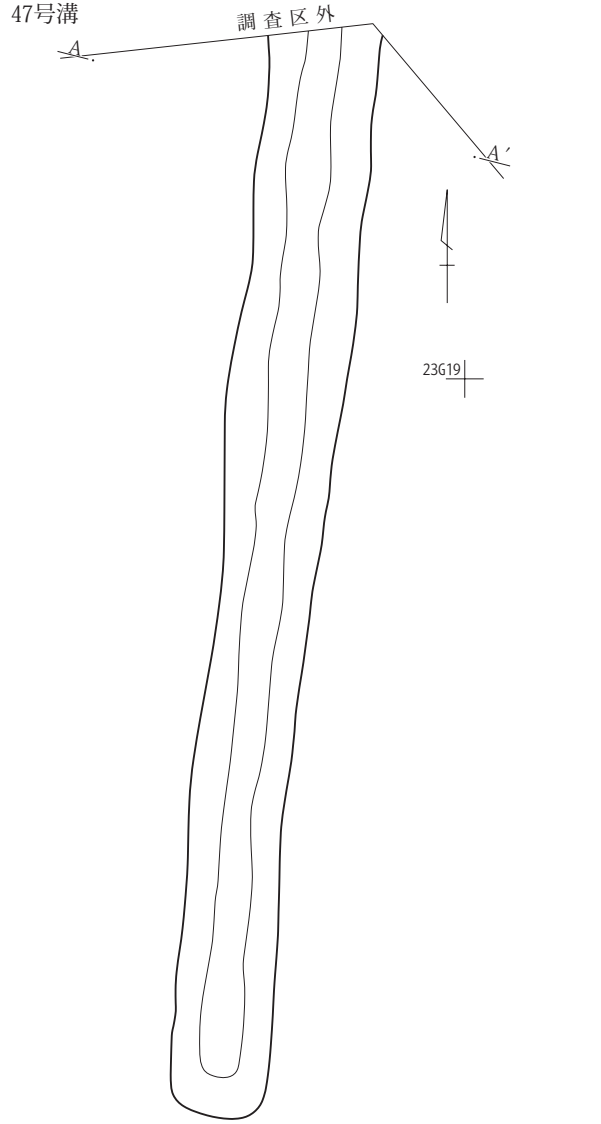


第41図 40・41号溝

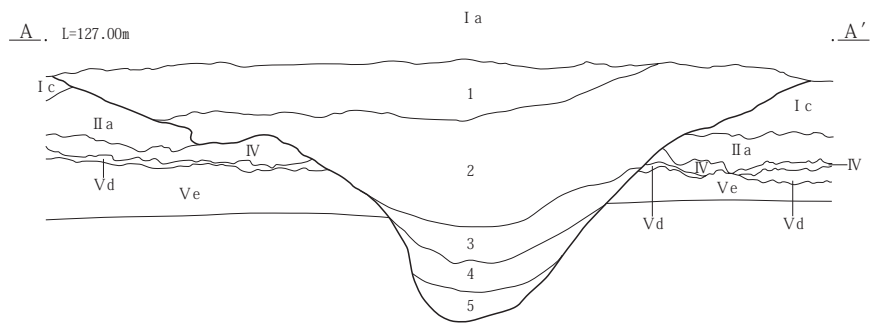
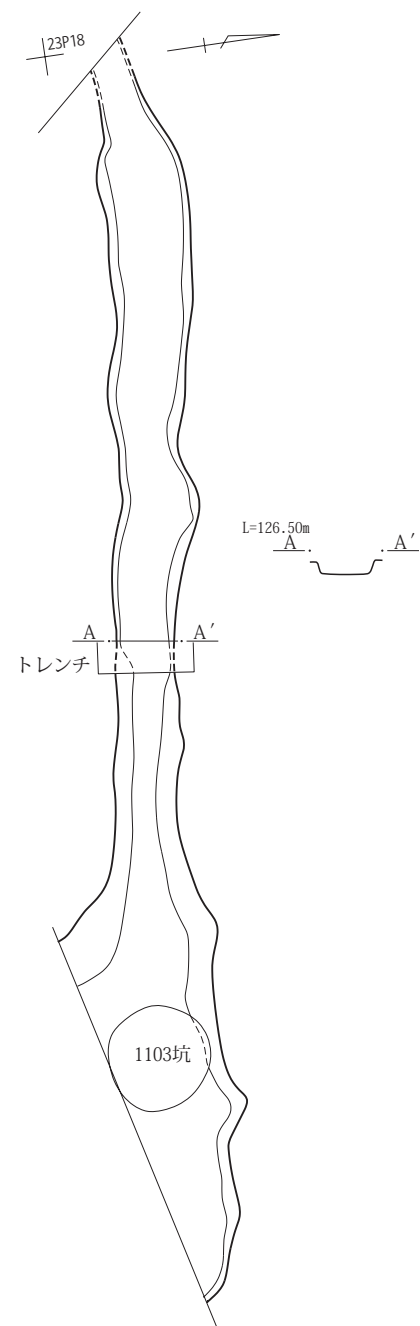
43号溝



47号溝

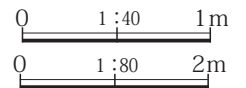


54号溝



47号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、As-B含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石微量、As-B含。
3. 黒褐色土(10YR2/2) 粒状軽石極微量、As-B含。
4. 黒褐色土(7.5YR3/1) ノロ状、シルト質。As-B含。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石微量。塊状黒褐色土(7.5YR3/2)含。



第42図 43・47・54号溝

規模 長軸(18.10)m、短軸0.68～1.28m、深さ0.09～0.26m。

埋没土層 不明。

遺物 土師器片2点、時期不明土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

41号溝(第41図、PL.9)

位置 23T19・20、33S4～6、33T1～6、D区第2面。

重複 40号溝と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸(39.60)m、短軸0.34～0.84m、深さ0.12～0.41m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

43号溝(第42図)

位置 34A1、D区第2面。

重複 24号溝、1088号土坑と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-33°-E。

規模 長軸(3.48)m、短軸0.12～0.75m、深さ0.10～0.22m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

47号溝(第42図、PL.10)

位置 23G17～19、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸(11.50)m、短軸0.96～1.23m、深さ0.34

～0.56m。

埋没土層 暗褐色土・黒褐色土主体、6層が観察された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

54号溝(第42図)

位置 23M17・18、23N17・18、23O18、D区第2面。

重複 1103号土坑と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-82°-W。

規模 長軸(13.40)m、短軸0.16～1.30m、深さ0.15～0.25m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1号河道(第43図)

位置 24E17～19、24F17～20、34G1～3、34H3～9、34I8～11、34J10～12・14・15、34K14・15、E区第2面。

重複 24・30・46号溝と重複。本河道が新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-20°-W。

規模 長軸(93.00)m、短軸(3.50)m、深さ不明。

所見 近代以前の細ヶ沢川で、調査時の所見では、形成時期は中世以前に遡らない。

2. 第3面の溝

27号溝(第44図)

位置 23N17～20、33N1～4、D区第3面。

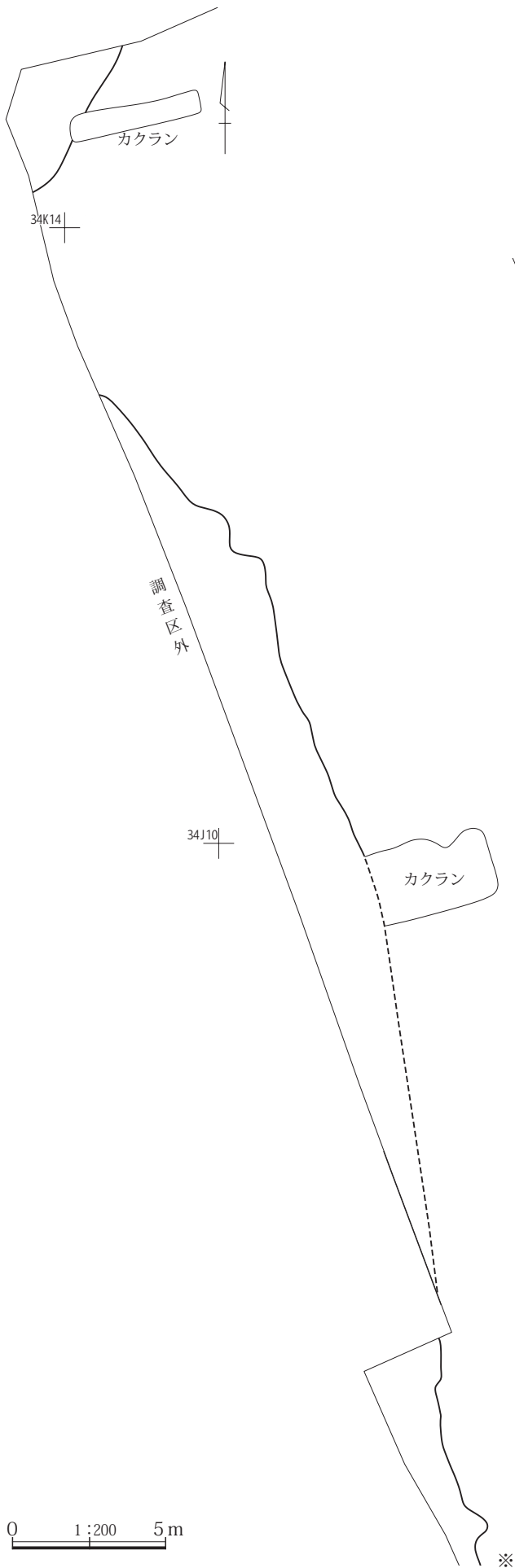
重複 13号竪穴状遺構、1号溝と重複。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-1°-E。

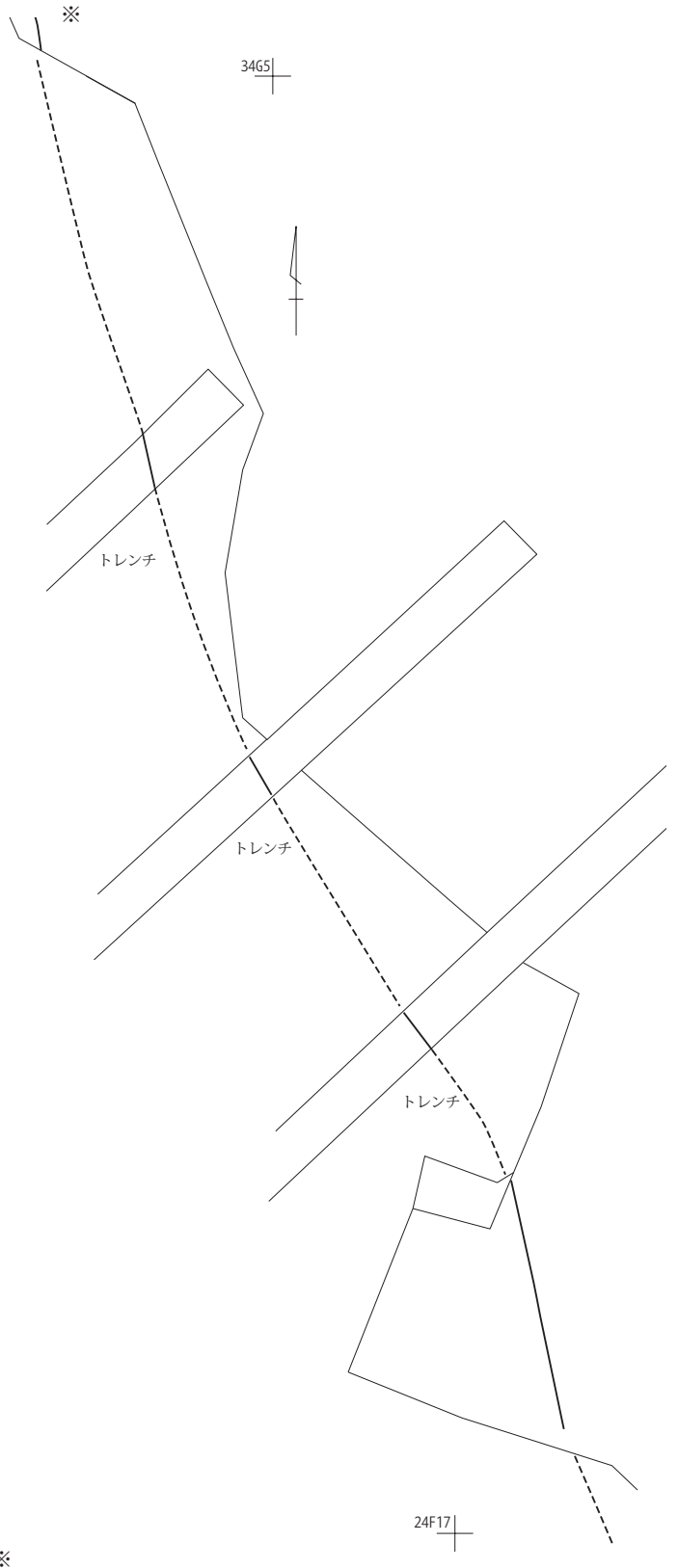
規模 長軸39.14m、短軸0.25～0.40m、深さ0.15～0.23m。

埋没土層 灰褐色土主体、1層が確認された。



遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



第43図 1号河道

3. 第4面の溝・河道

3号溝(第45~47図、PL.10・24)

位置 23L 7・8、23M 6~8、23N 5~7、23O 4~6、23P 3~6、23Q 2~5、23R 2~4、23S 1~3、23T 1~3。B区第4面、23I 15・16、23J 14~17、C区第4面。

重複 1・2・4・22・42・50号溝、2号河道、1071~1073号土坑、4号水田と重複。本遺構が1・2号溝、2号河道、1071~1073号土坑より古く、4・42号溝、4号水田より新しい。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-40°-E。

規模 長軸(73.10)m、短軸2.50~7.40m、深さ0.98~1.38m、B区。長軸(14.60)m、短軸(2.64)m、深さ0.65~0.85m、C区。

埋没土層 黒褐色土・シルト・砂礫主体、35層が確認された。シルト・砂礫多く、流水の形跡が見られる。

遺物 土師杯1点(1)を図示した。また、石鍬1点(外48)も第3章第10節に図示した。他に、土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡があり、本遺構は用水溝と考えられる。出土遺物およびテフラ分析結果(第4章第2節参照)から、本遺構の時期は6世紀~8世紀後半以降と推定される。

22号溝(第48図、PL.10)

位置 23F 13、23G 13・14、23H 13・14、23I 14・15、23J 13~15、C区第4面。

重複 3号溝と重複。

平面形状 直線状。

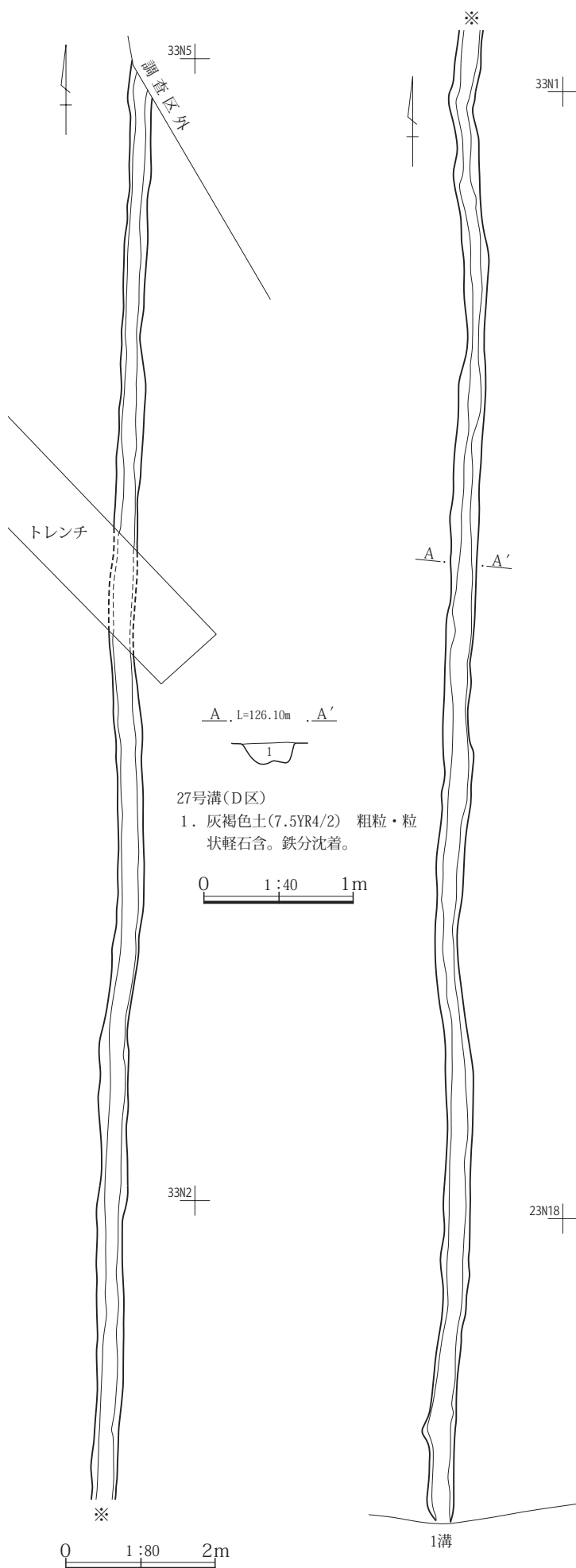
長軸方位 N-62°-W、N-23°-E。

規模 長軸(24.40)m、短軸1.34~5.96m、深さ0.47~0.91m。

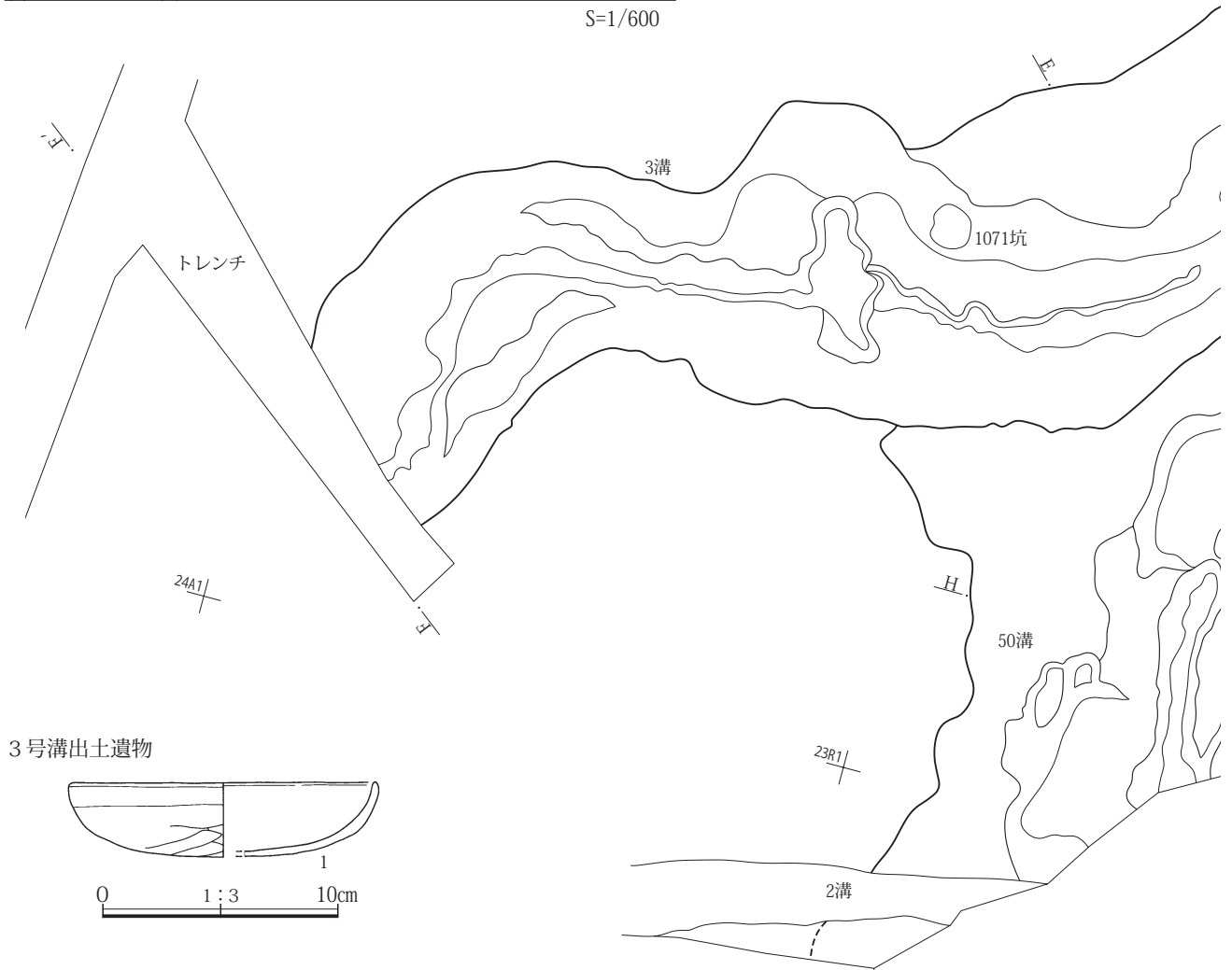
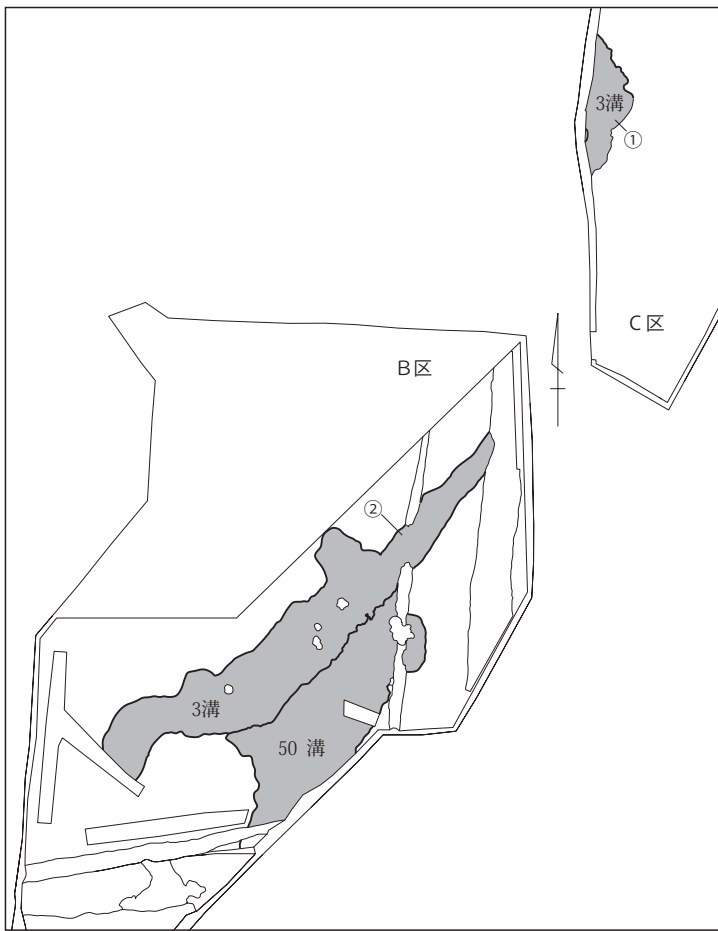
埋没土層 黒褐色土・黒色土主体、シルト質。9層が確認された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られないが、3号溝との重複・接続関係から、本遺構は用水溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



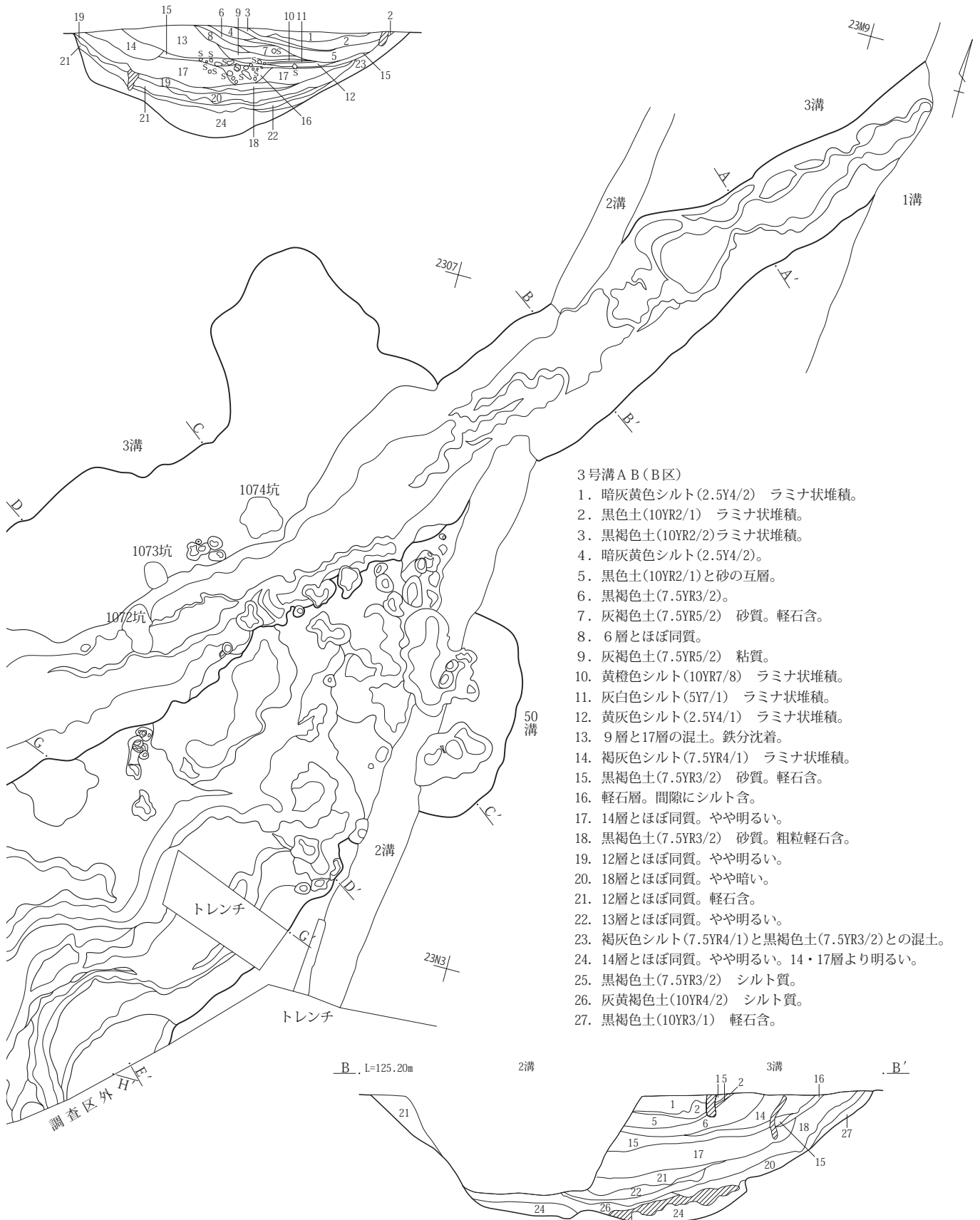
第44図 27号溝



第45図 3・50号溝平面・断面(1)および出土遺物

A, L=125.20m

A'



3号溝 A B (B区)

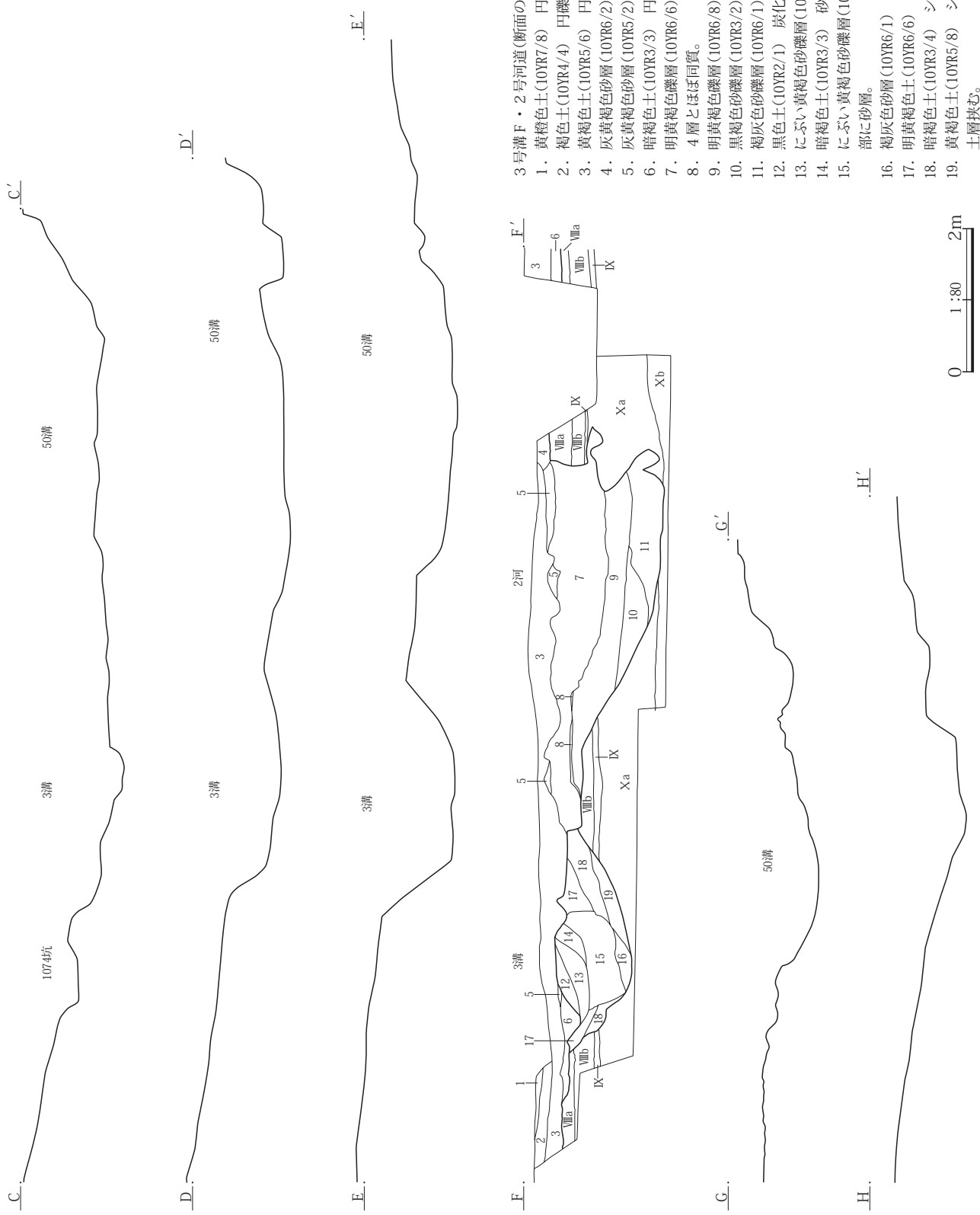
1. 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2) ラミナ状堆積。
2. 黒色土(10YR2/1) ラミナ状堆積。
3. 黒褐色土(10YR2/2)ラミナ状堆積。
4. 暗灰黄色シルト(2.5Y4/2)。
5. 黒色土(10YR2/1)と砂の互層。
6. 黒褐色土(7.5YR3/2)。
7. 灰褐色土(7.5YR5/2) 砂質。軽石含。
8. 6層とほぼ同質。
9. 灰褐色土(7.5YR5/2) 粘質。
10. 黄橙色シルト(10YR7/8) ラミナ状堆積。
11. 灰白色シルト(5Y7/1) ラミナ状堆積。
12. 黄灰色シルト(2.5Y4/1) ラミナ状堆積。
13. 9層と17層の混土。鉄沈着。
14. 褐灰色シルト(7.5YR4/1) ラミナ状堆積。
15. 黒褐色土(7.5YR3/2) 砂質。軽石含。
16. 軽石層。間隙にシルト含。
17. 14層とほぼ同質。やや明るい。
18. 黒褐色土(7.5YR3/2) 砂質。粗粒軽石含。
19. 12層とほぼ同質。やや明るい。
20. 18層とほぼ同質。やや暗い。
21. 12層とほぼ同質。軽石含。
22. 13層とほぼ同質。やや明るい。
23. 褐灰色シルト(7.5YR4/1)と黒褐色土(7.5YR3/2)との混土。
24. 14層とほぼ同質。やや明るい。14・17層より明るい。
25. 黒褐色土(7.5YR3/2) シルト質。
26. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質。
27. 黒褐色土(10YR3/1) 軽石含。

B, L=125.20m

2号溝

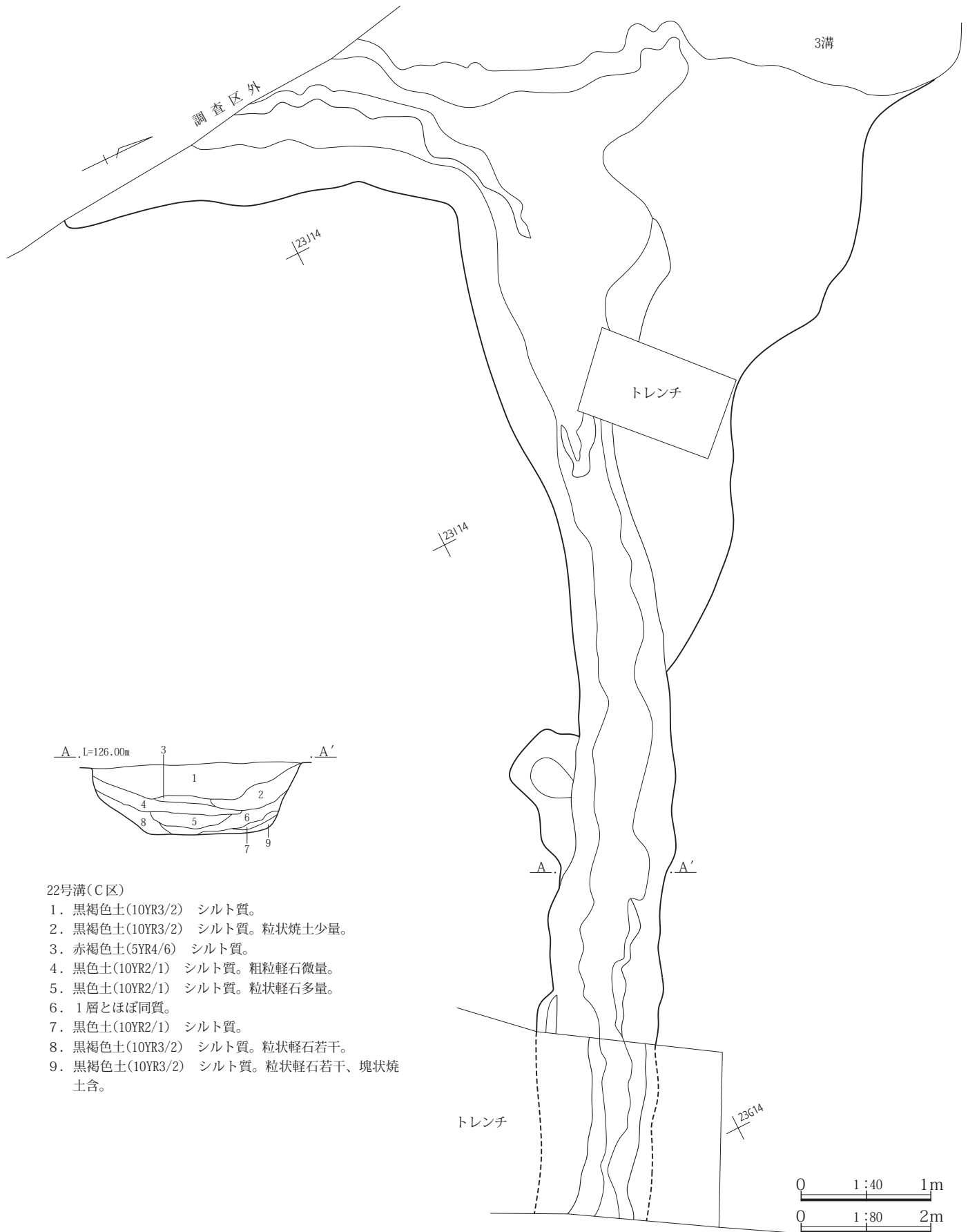
B'

第46図 3・50号溝平面・断面(2)



- 3号溝 F・2号河道(断面のみ)
1. 黄橙色土(10YR7/8) 円礫少量。
 2. 褐色土(10YR4/4) 円礫少量。
 3. 黄褐色土(10YR5/6) 円礫多量。
 4. 灰黄褐色砂層(10YR6/2)。
 5. 灰黄褐色砂層(10YR5/2)。
 6. 暗褐色土(10YR3/3) 円礫少量。粘性ややあり。
 7. 明黄褐色礫層(10YR6/6)大小の礫主体。炭化材含。
 8. 4層とほぼ同質。
 9. 明黄褐色礫層(10YR6/8)中小の礫主体。
 10. 黒褐色砂礫層(10YR3/2)礫主体。最上部は砂質。
 11. 褐灰色砂礫層(10YR6/1)礫主体。
 12. 黒色土(10YR2/1) 炭化物多量。
 13. にぶい黄褐色砂礫層(10YR4/3) 砂層・小礫層の互層。
 14. 暗褐色土(10YR3/3) 砂質・シルト質土の互層。
 15. にぶい黄褐色砂礫層(10YR5/3) 大小の円礫主体。中間部に砂層。
 16. 褐灰色砂層(10YR6/1) 砂層の互層。
 17. 明黄褐色土(10YR6/6) シルト質。
 18. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質。
 19. 黄褐色土(10YR5/8) シルト質。粘性あり。間に暗褐色土層挟む。

第47図 3・50号溝平面・断面(3)、2号河道断面



22号溝(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。
2. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。粒状焼土少量。
3. 赤褐色土(5YR4/6) シルト質。
4. 黒色土(10YR2/1) シルト質。粗粒軽石微量。
5. 黒色土(10YR2/1) シルト質。粒状軽石多量。
6. 1層とほぼ同質。
7. 黒色土(10YR2/1) シルト質。
8. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。粒状軽石若干。
9. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。粒状軽石若干、塊状焼土含。

第48図 22号溝

26号溝(第49図、PL.10)

位置 23L17～20、23M17、33L1・2、33M2～4、D区第4面。

重複 1号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 7字状。

長軸方位 N-9°-E、N-33°-W。

規模 長軸(41.90)m、短軸0.28～0.97m、深さ0.06～0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が確認された。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

48号溝(第50図)

位置 13R19、13S18・19、13T18・19、B区第4面。

重複 1・2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-36°-W。

規模 長軸(6.12)m、短軸2.38～8.98m、深さ0.25～0.68m。

埋没土層 黒色土・黒褐色土主体、5層が確認された。埋没土中にAs-Bが堆積しており(2'層)、最終的な埋没は中世に下る。

遺物 須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。埋没土から、最終的な埋没は中世に下る。

49号溝(第50図)

位置 14D20、A区第4面。

重複 2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-44°-W。

規模 長軸(2.43)m、短軸1.26m、深さ0.46m。

埋没土層 暗褐色土・黒褐色土主体、8層が確認された。埋没土中にAs-B、As-Kkが堆積しており(2～5層)、最終的な埋没は中世に下る。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えら

れる。埋没土から、最終的な埋没は中世に下る。

50号溝(第45～47図)

位置 13P20、13Q20、23N2～5、23O1～5、23P1～3、23Q1～3、23R2、B区第4面。

重複 2・3号溝、1073・1074号土坑と重複。

平面形状 やや不整だが直線状か。

長軸方位 N-35°-E。

規模 長軸(29.90)m、短軸6.10～10.50m、深さ0.96～1.33m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

51号溝(第51図、PL.10)

位置 24D1、A区第4面。

重複 2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-63°-E。

規模 長軸(1.75)m、短軸2.18m、深さ0.38m。

埋没土層 暗褐色土・黒褐色土主体、11層が観察された。埋没土中にAs-Kkが堆積しており(4層)、最終的な埋没は中世に下る。

遺物 なし。

所見 流水の形跡は見られず、本遺構は区画溝と考えられる。埋没土から、最終的な埋没は中世に下る。

52号溝(第51図)

位置 23I12、23J12、C区第4面。

重複 2094号土坑、2093号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 く字状。

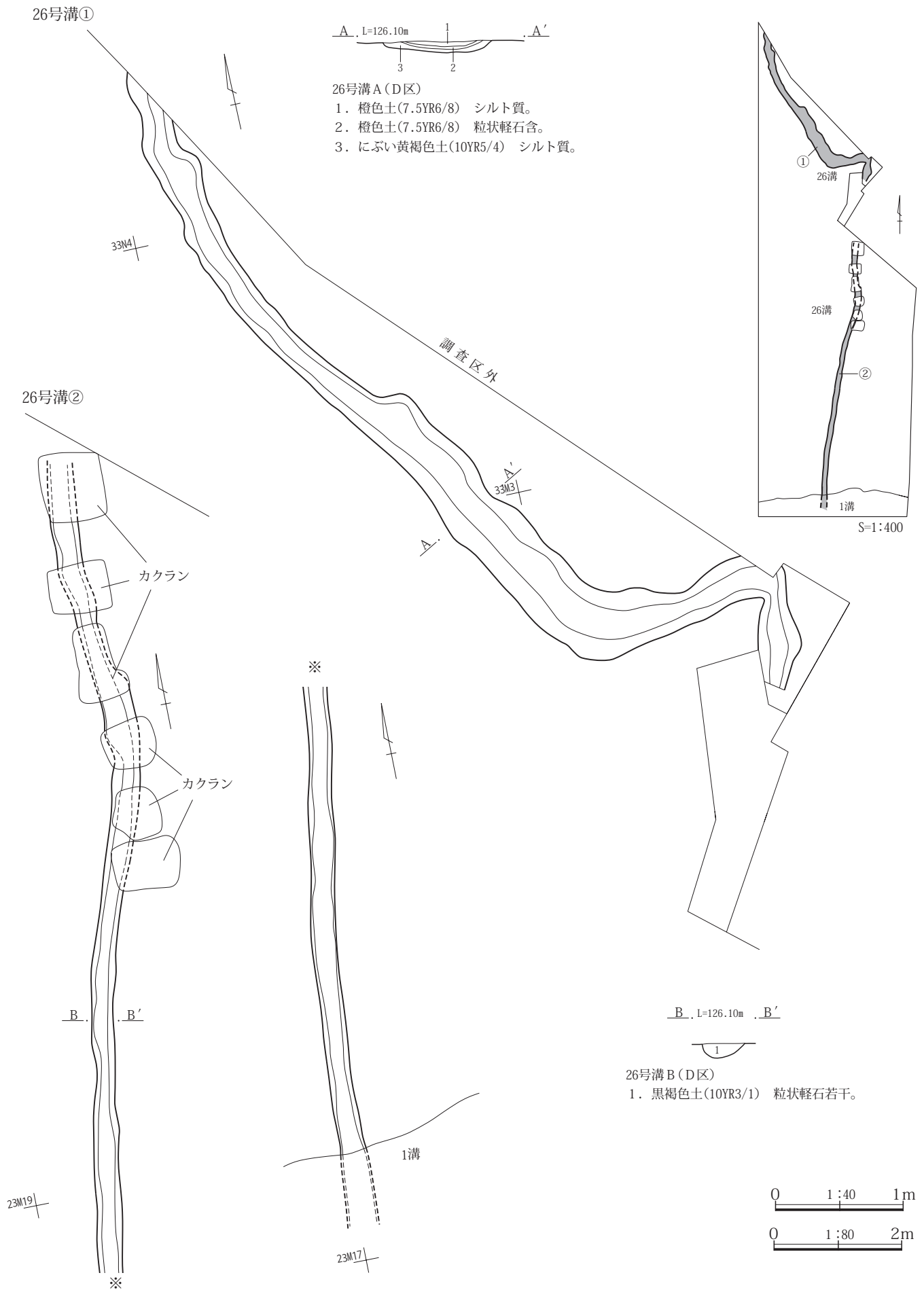
長軸方位 N-55°-W、N-81°-W。

規模 長軸(3.66)m、短軸0.87～1.62m、深さ0.04～0.14m。

埋没土層 不明。

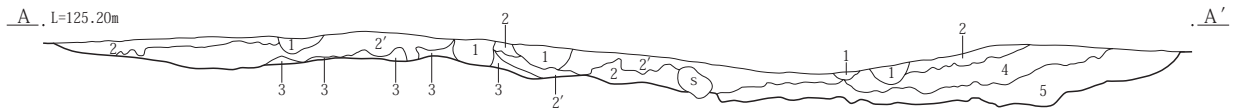
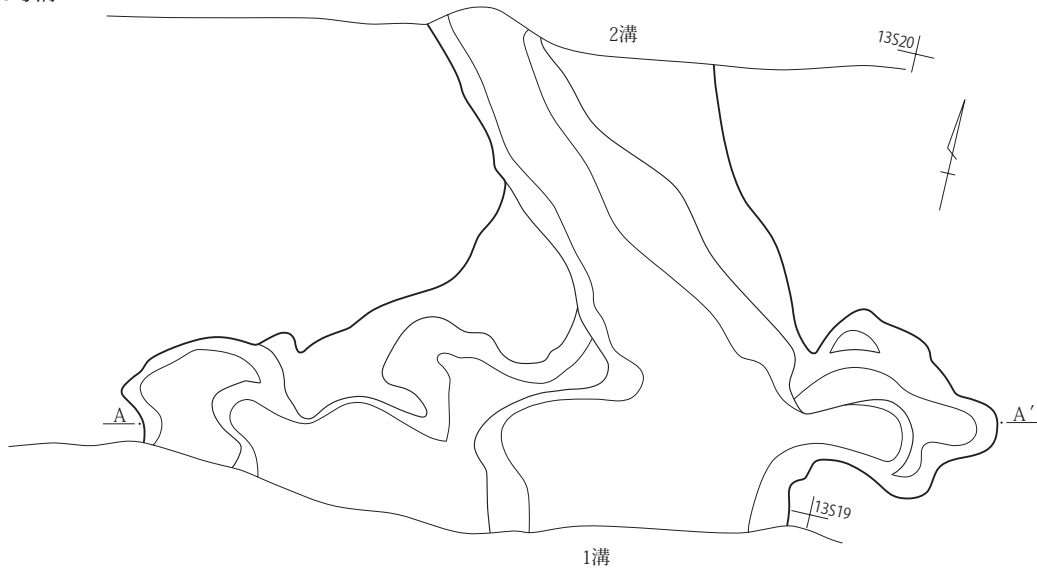
遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



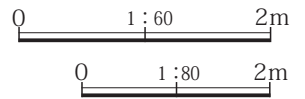
第49図 26号溝

48号溝

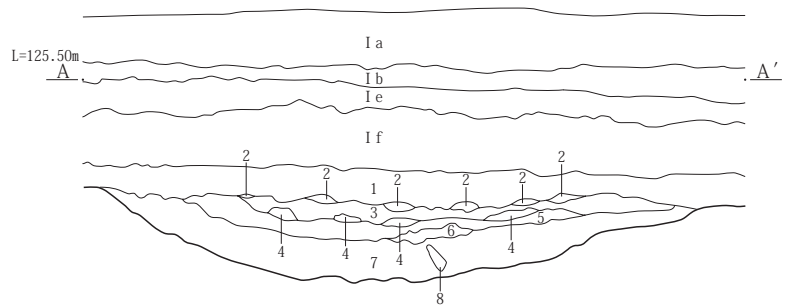
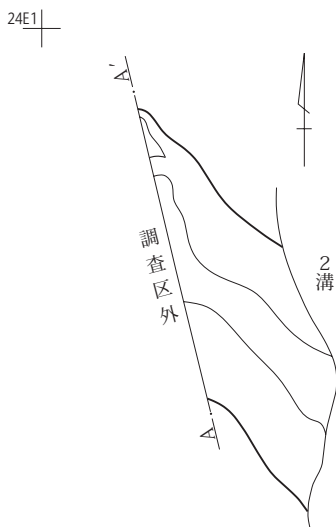


48号溝(B区)

1. 黒褐色土(7.5YR2/2) 粗粒軽石微量。
2. 黒褐色土(10YR2/2) As-B多量。
- 2'. As-B(2次堆積?)。
3. 黒褐色シルト(7.5YR3/2)。
4. 黒色土(10YR2/1) 粒状軽石少量。微粒軽石含。
5. 黒色土(10YR2/1) 粒状軽石・粗粒軽石微量。3層塊含。

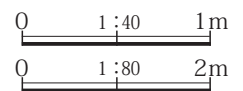


49号溝



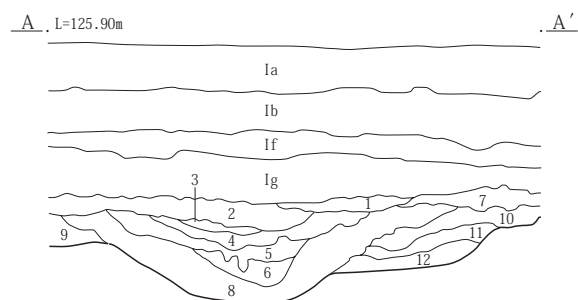
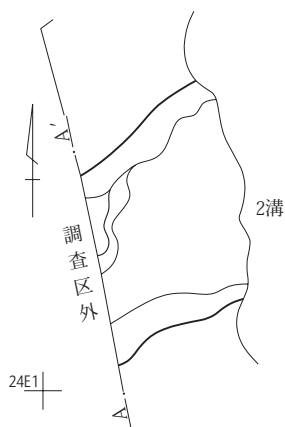
49号溝(A区)

1. 黒褐色砂層(10YR2/3) As-B二次堆積か。
2. As-Kk。
3. As-B(二次堆積)。
4. As-B上部灰層。
5. As-B。
6. 暗褐色土(10YR3/4) 砂含。
7. 黒褐色土(10YR2/3) シルト質。
8. 6層とほぼ同質。



第50図 48・49号溝

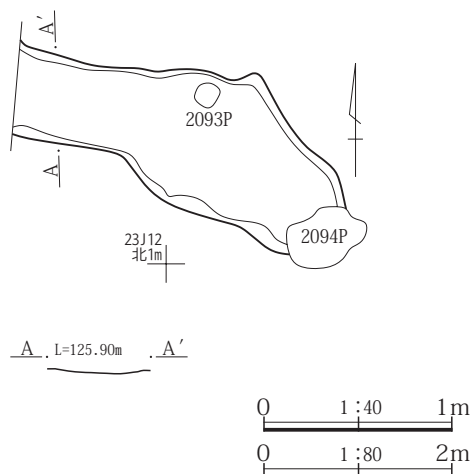
51号溝



51号溝(A区)

1. 暗褐色土(10YR3/4) 塊状黄褐色シルト(10YR5/6)含。
2. 黒褐色土(10YR2/3) As-Kk・As-B極多量。
3. 暗褐色土(10YR3/3) As-B極多量。
4. As-Kk。
5. 褐灰色砂層(10YR4/1)。
6. 黒褐色土(10YR2/3) シルト質。
7. 暗褐色土(10YR3/4) ラミナ状堆積。小礫・As-C多量。
8. 褐色土(10YR4/4) シルト質。塊状褐灰シルト(10YR6/1)・塊状黄褐色シルト(10YR5/6)含。
9. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト質。塊状黄褐色シルト(10YR5//6)・塊状暗褐色シルト(10YR3/4)含。
10. 褐灰色土(10YR6/1) シルト質。塊状にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)含。
11. 褐色土(10YR4/4) シルト質。塊状暗褐色シルト(10YR3/4)含。

52号溝



第51図 51・52号溝

2号河道(第47図)

位置 B区4面。

重複 3号溝と重複。本河道が新しい。

平面形状 断面のみ確認のため不明。

長軸方位 計測不能。

規模 不明。

所見 3号溝との重複関係から、古くとも8世紀以前には遡らない。

4. 第5面の溝

42号溝(第55図)

位置 23G17~19、23H15~17、23I14・15、23J13、C区第5面。

重複 3・22号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-29°-E。

規模 長軸(32.60)m、短軸0.40~2.08m、深さ0.03~0.16m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

44号溝(第52~54図、PL.11・24)

位置 34E13・14、34F13・14、E区第5面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

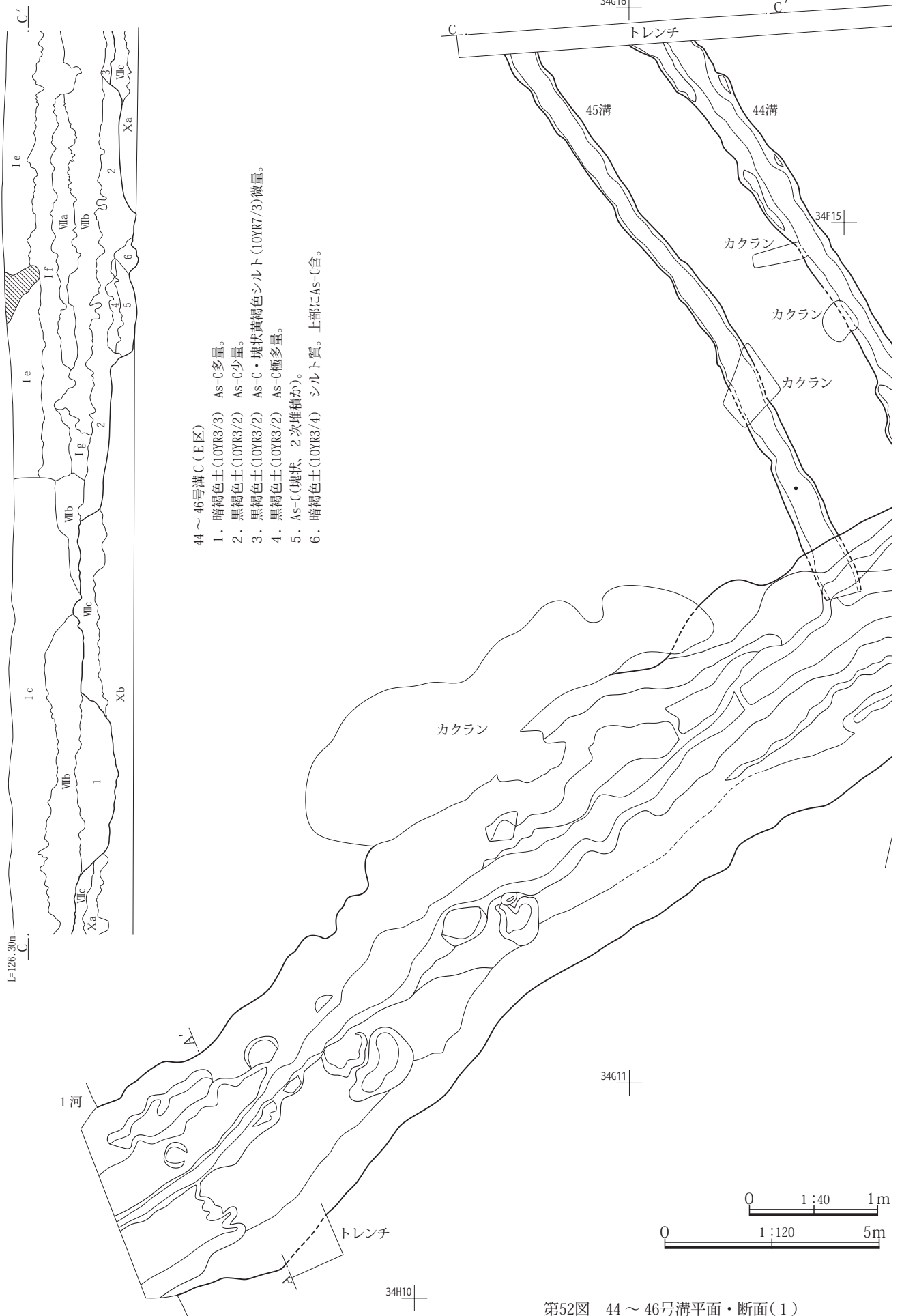
長軸方位 N-31°-W。

規模 長軸(12.05)m、短軸0.65~1.10m、深さ0.20~0.25m。

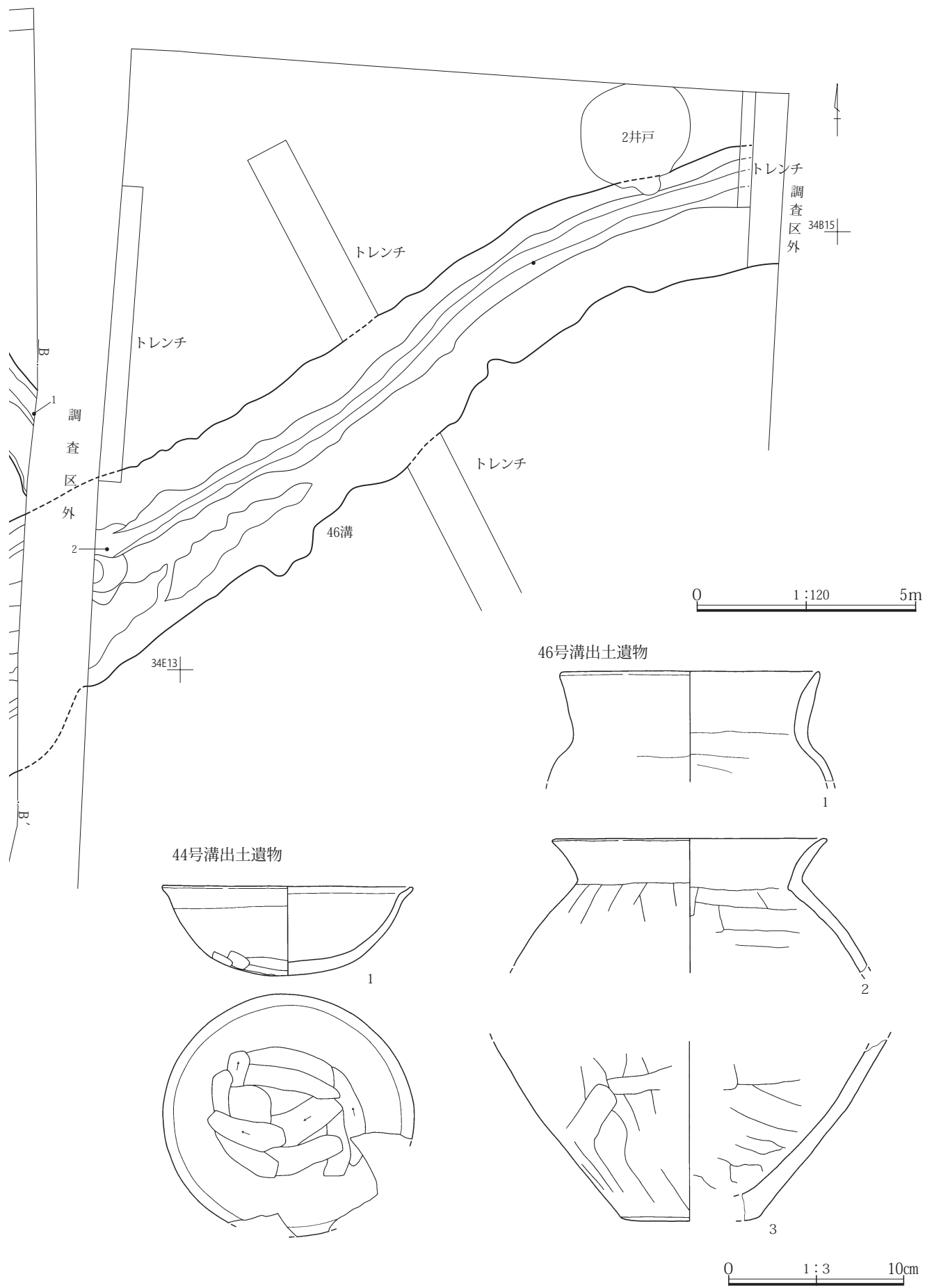
埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、10層が確認された。埋没土下位に塊状As-Cが確認されているが、2次堆積と考えられる。

遺物 土師器杯1点(1)を図示した。また、弥生土器壺1点(外8)も第3章第10節に図示した。

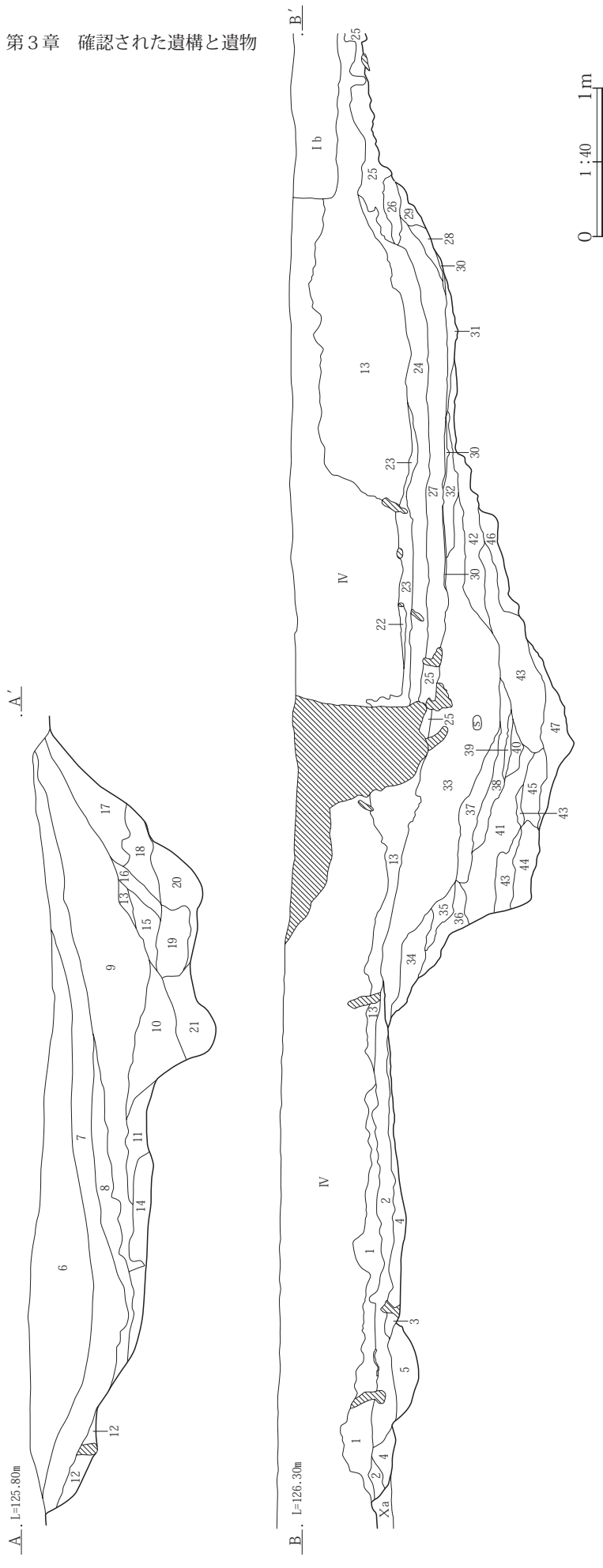
所見 流水の形跡は見られないが、46号溝との重複・接続関係から、本遺構は用水溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は5世紀後半と推定される。



第52図 44～46号溝平面・断面(1)

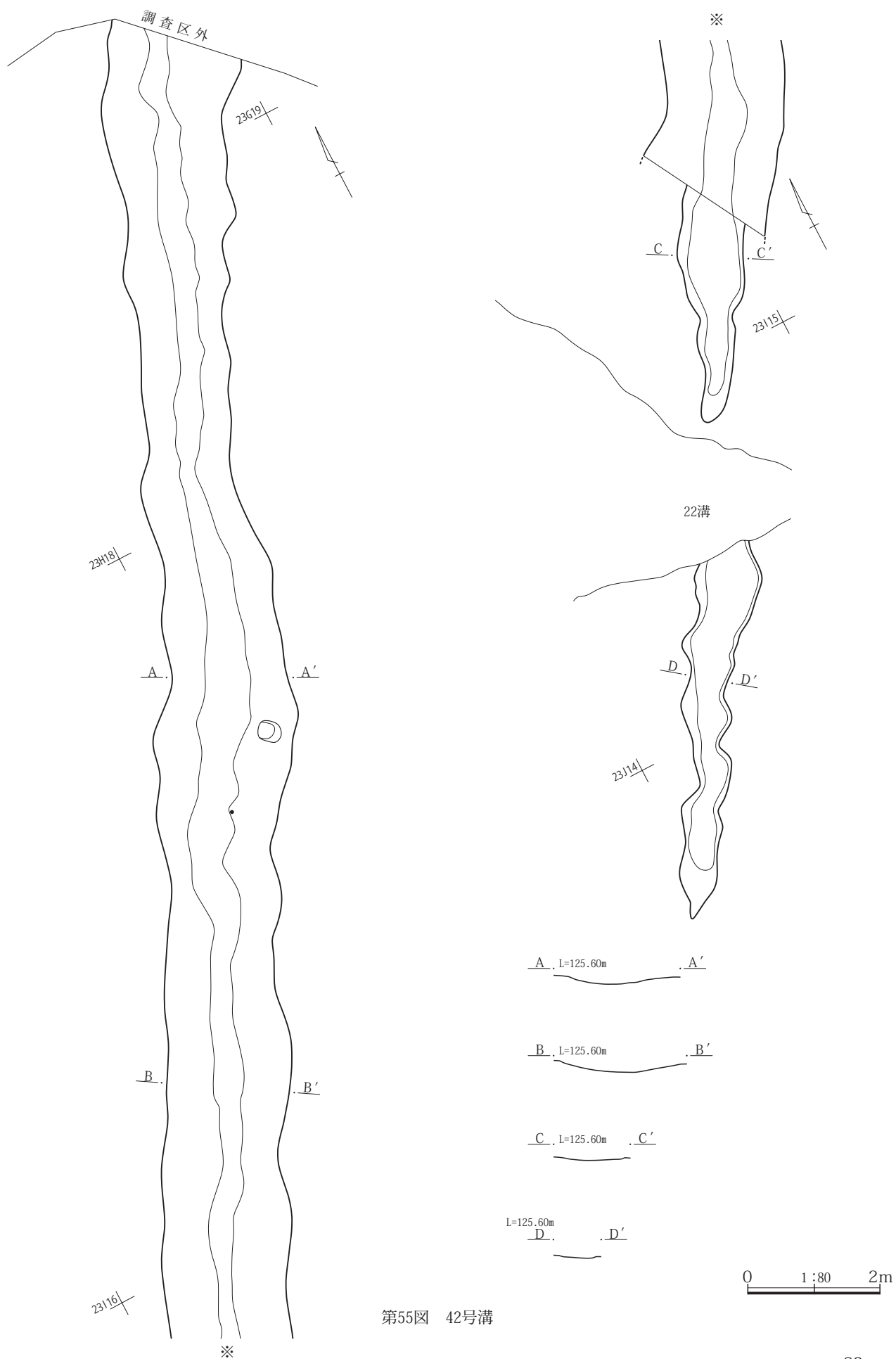


第53図 44～46号溝平面・断面(2)および出土遺物



- 44～46号溝A B (E区)
1. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 塊状にぶい黄褐色土・塊状明黄褐色土多量。
 2. 暗褐色土(10YR3/4) シルト質。As-C多量。
 3. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト質。As-C含。
 4. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト質。塊状暗褐色土(10YR3/4)含。一部鉄分沈着。
 5. As-C(1次堆積?)。シルト質。
 6. にぶい黄褐色土(10YR6/4) シルト質。一部鉄分沈着。水性堆積。
 7. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 粘質。一部鉄分沈着。水性堆積。
 8. 褐色土(10YR4/4)
 9. 暗褐色土(10YR3/4) 砂質。塊状明黄褐色土・As-C少量。
 10. 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質。As-C微量。
 11. 褐色砂礫層(10YR4/4) 砂質。下部に小礫多量。
 12. 黒褐色土(10YR2/3) As-C微量。
 13. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト質。
 14. 褐色土(10YR4/4) As-C微量。
 15. 黒褐色土(10YR2/3) As-C微量。
 16. 褐色土(10YR4/4) シルト質。As-C少量。
 17. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト質。As-C微量。
 18. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト質。一部鉄分沈着。
 19. にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや粘質。塊状暗褐色土(10YR3/4)少量。
 20. 暗褐色土(10YR3/4) As-C多量。塊状黒褐色土(10YR2/3)・塊状にぶい黄褐色土(10YR5/4)含。
 21. 黒褐色土(10YR2/3) 塊状にぶい黄褐色土(10YR5/4)・As-C多量。
 22. 明黄褐色土(10YR7/6) シルト質。
 23. にぶい黄褐色土(10YR7/4) シルト質。
 24. にぶい黄褐色土(10YR6/3) シルト質。
 25. 黒褐色土(10YR2/3) As-C粒多量。
 26. にぶい黄褐色土(10YR5/3) As-C少量。
 27. にぶい黄褐色土(10YR5/3) シルト質。水性堆積。
 28. にぶい黄褐色土(10YR4/3) As-C含。
 29. にぶい黄褐色土(10YR6/4) 砂質。
 30. 明黄褐色土(10YR7/6) シルト質。
 31. にぶい黄褐色土(10YR5/4) 砂質。
 32. 褐色土(10YR4/4) 塊状黄褐色土(10YR5/6)含。
 33. 黒褐色土(10YR2/2) As-C・小礫含。
 34. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。
 35. 黒褐色土(10YR3/1) As-C含。
 36. 34層とほぼ同質。
 37. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。塊状にぶい黄褐色土(10YR5/6)含。
 38. 黒褐色土(10YR2/2) As-C含。
 39. 黒褐色土(10YR2/1) シルト質。
 40. 黒褐色土(10YR3/2) シルト質。塊状にぶい黄褐色土(10YR4/3)含。
 41. にぶい黄褐色土(10YR4/3) シルト質。
 42. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト質。
 43. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト質。塊状黄褐色土(10YR5/6)含。
 44. 黒褐色土(10YR2/2) シルト質。
 45. 黒褐色土(10YR2/3) シルト質。
 46. にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト質。塊状黄褐色土(10YR5/6)含。
 47. にぶい黄褐色土(10YR6/4) シルト質。塊状黄褐色土(10YR5/6)含。

第54図 44～46号溝平面・断面(3)



第55図 42号溝

第3章 確認された遺構と遺物

45号溝(第52～54図、PL.11)

位置 34E 13、34F 13～15、34G 14・15、E区第5面。

重複 46号溝と重複。

平面形状 直線状、やや湾曲。

長軸方位 N-27°-W、N-35°-W

規模 長軸(14.80)m、短軸0.50～0.85m、深さ0.08～0.14m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 弥生土器片が出土しているが、小破片のため図示できなかった。混入と考えられる。

所見 流水の形跡は見られないが、46号溝との重複・接続関係から、本遺構は用水溝と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

46号溝(第52～54図、PL.11・24)

位置 34B 14・15、34C 13～15、34D 13・14、34E 12～14、34F 11～13、34G 10～12、34H 10～12、34I 10・11、E区第5面。

重複 45号溝、2号井戸と重複。本遺構が2号井戸より古い。

平面形状 直線状、やや湾曲。

長軸方位 N-56°-E、N-47°-E。

規模 長軸(43.10)m、短軸2.22～5.56m、深さ0.62～1.43m。

埋没土層 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、37層が確認された。シルト・砂礫多く、流水の形跡が見られる。

遺物 土師器甕3点(1～3)を図示した。また、縄文土器深鉢1点(外3)も第3章第10節に図示した。他に、土師器片6点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 流水の形跡があり、本遺構は用水溝と考えられる。出土遺物から、本遺構の時期は5世紀後半と推定される。

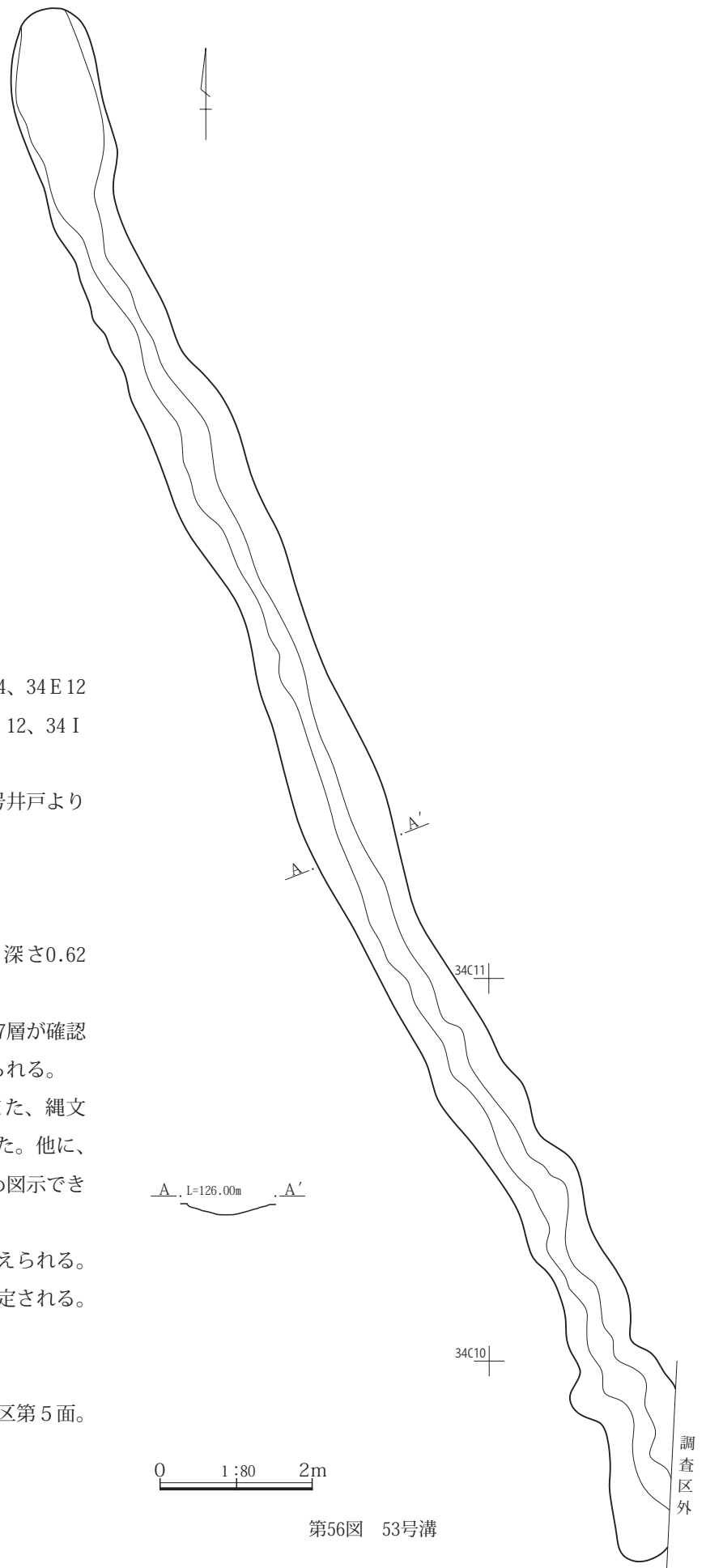
53号溝(第56図)

位置 34B 9・10、34C 10～13、34D 12・13、E区第5面。

重複 なし。

平面形状 直線状。

長軸方位 N-24°-W。



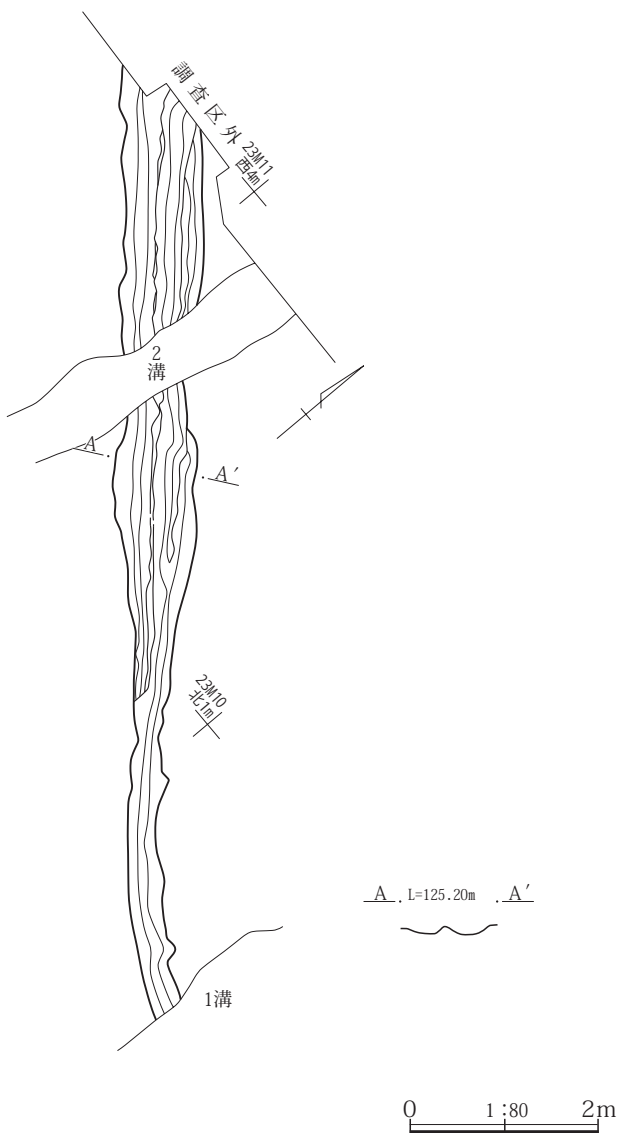
第56図 53号溝

規模 長軸21.75m、短軸0.77～1.19m、深さ0.08～0.17m。
埋没土層 不明。
遺物 なし。
所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

5. 第6面の溝

4号溝(第57図)

位置 23L9・10、23M9・10、23N10、B区第6面。
重複 1・2号溝と重複。本遺構が古い。
平面形状 直線状。
長軸方位 N-48°-W。



第57図 4号溝

規模 長軸(9.90)m、短軸0.29～0.87m、深さ0.08～0.12m。
埋没土層 不明。
遺物 なし。
所見 第6面(As-C下位)で確認された遺構は本遺構と近接する4号水田のみであり、本遺構の長軸方位と4号水田の畦畔の方向と一致することから、本遺構は4号水田に伴う用水溝と考えられる。よって、本遺構の時期は3世紀後半と推定される。

第6節 水田・耕作痕群

1. 第1面の水田

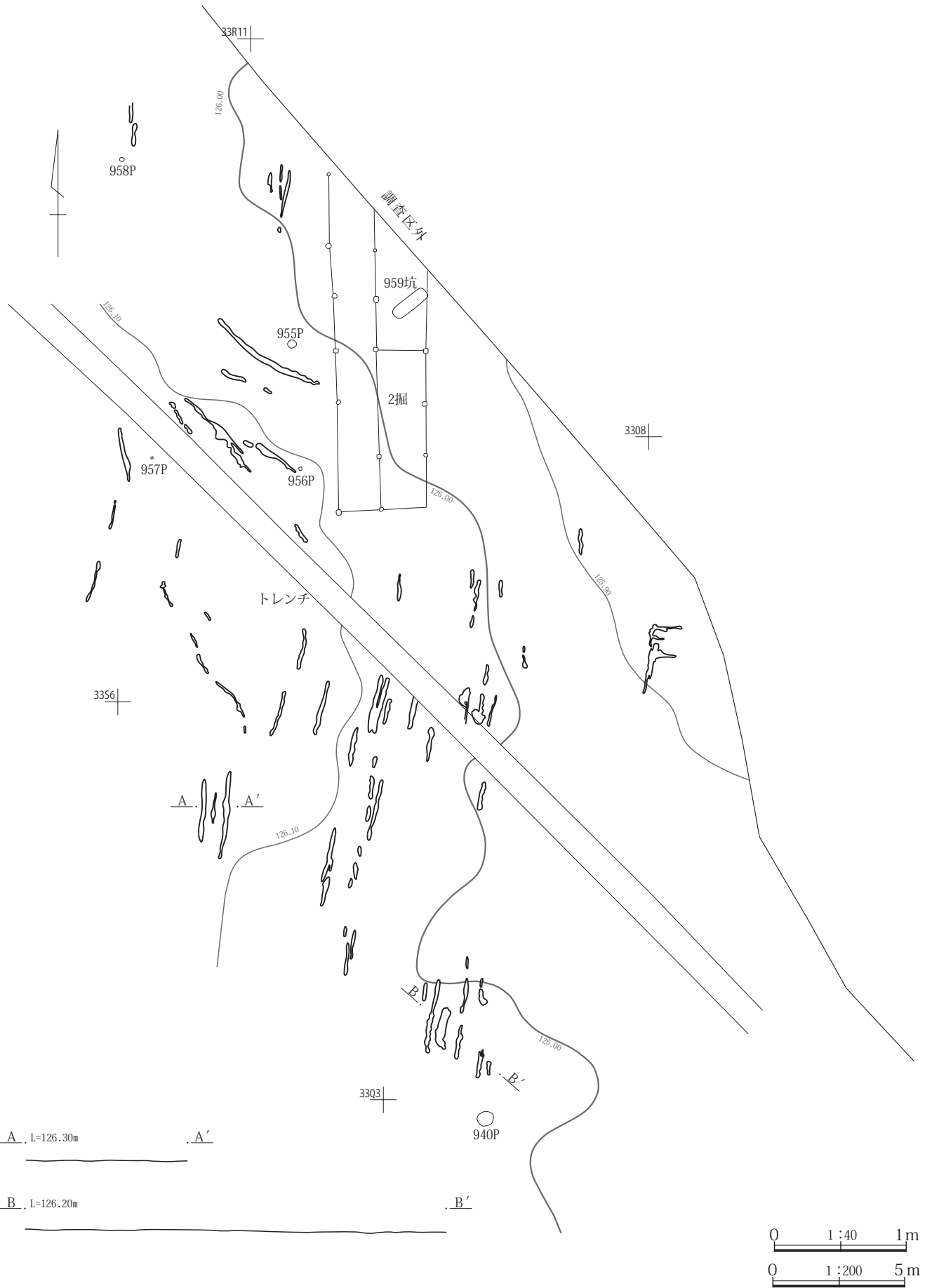
1号水田(第58・59図、PL.11)

位置 23P20、23Q20、23R20、33P1・2・5～7、33Q1～7、33R1～7、33S1～4、D区第1面。
重複 なし。
規模 長軸(38.40)m、短軸(5.90)～(13.70)m。
面積 (371.50)m²。
埋没土層 I層。
耕作土 II層。
区画 計測不能。
畦畔 幅計測不能、高さ0.01～0.10m。
水口 確認されなかった。
遺物 なし。
所見 畦畔方位が第2面の1・2・24溝などによる区画とほぼ同じであることから、中世以来の土地区画を踏襲していると考えられる。本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2. 第3面の耕作痕群

1号耕作痕群(第60図、PL.13)

位置 33N6、33O6、33P3～6、33Q4～10、33S6・7、D区第3面。
重複 なし。
規模 長軸(39.00)m、短軸(7.60)～(22.60)m。
面積 (360.50)m²。
埋没土層 II層。
耕作土 VIIb層上面で僅かに痕跡を確認。



第60図 1号耕作痕群

区画 不明。

遺物 なし。

所見 耕作土は明確ではないが、VII b層を覆うII層が相当するか。水田耕作の痕跡と推定される。本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

3. 第5面の水田

2号水田(第61・62図、PL.12・25)

位置 23M19・20、23N17~20、23O17~20、23P17~20、23Q17~20、23R17~20、23S17~20、23T17~20、24A18~20、33M1~4、33N1~7、33O1~8、33P1~9、33Q1~3・6~10、33R1~3・7~11、33S1・2・8~12、33T1・9~13、D区第5面。

重複 なし。

規模 長軸(77.90)m、短軸(9.70)~(28.40)m(北東部・中央部)。長軸(27.50)m、短軸(16.60)~(23.70)m(南西部)。

面積 (1571.60)m²。

埋没土層 VII b層。

耕作土 VIII a層。

区画 長軸1.80~9.90m、短軸0.81~2.30m、面積1.1~(15.1)m²(平均3.91m²)。

畦畔 幅0.30~0.50m、高さ0.02~0.10m。

水口 畦畔端に設置。

遺物 土師器杯6点(1~6)・埴1点(7)・甕1点(8)を図示した。他に、土師器片40点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 区画の規模から北東部(1~123)・中央部(124~194)・南西部(195~272)に分けられる。北東部・中央部はN-40°-W、南西部はN-60°-Eを主軸方位とし、中央部は北東部・南西部に比べ畦畔が疎である。3号水田と同じ洪水堆積物(VII b層)により埋没しているが、畦畔の方向や水口の設置箇所は異なる。出土遺物は区画155・160の北の水田面直上に集中しており、水田に関する祭祀が行われたと考えられる。埋没土および出土遺物から、本遺構の時期は5世紀後半と推定される。

3号水田(第64図、PL.13)

位置 34P7~9、34Q7~10、F区第5面。

重複 なし。

規模 長軸(13.96)m、短軸(1.30)~(3.55)m。

面積 (26.50)m²。

埋没土層 VII b層。

耕作土 VIII a層。

区画 長軸5.24m、短軸0.84m、面積計測不能。

畦畔 幅0.35~0.57m、高さ幅0.03~0.07m。

水口 1箇所のみ。

遺物 なし。

所見 2号水田と同じ洪水堆積物(VII b層)により埋没しているが、畦畔の方向や水口の設置箇所は異なる。F区において確認された遺構は本遺構のみである。埋没土および2号水田との関係から、本遺構の時期は5世紀後半と推定される。

4. 第6面の水田

4号水田(第63図、PL.13)

位置 23L6~9、23M6~10、23N7~10、23O8~10、23P9~11、B区第6面。23H10、23I8~10、23J8~10、C区第6面。

重複 1・2・6号溝と重複。本遺構が古い。

規模 長軸(26.50)m、短軸(8.70)~(12.85)m(B区)。C区計測不能。

面積 (205.80)m²(B区)。(58.50)m²(C区)。

埋没土層 IX層。

耕作土 X a層。

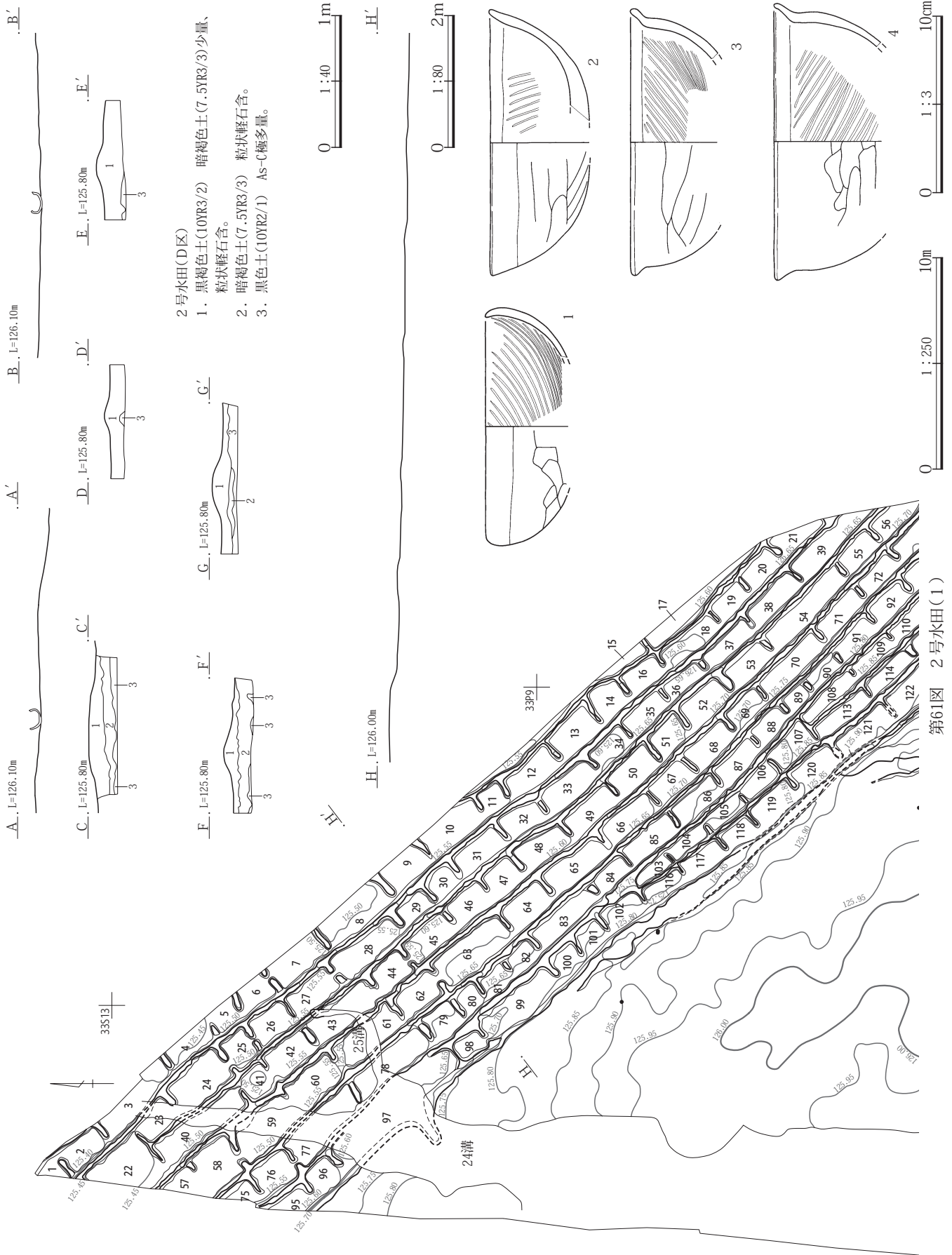
区画 長軸3.20~5.50m、短軸1.71~2.20m、面積(1.1)~(20.1)m²(平均9.55m²)(B区)。C区計測不能。

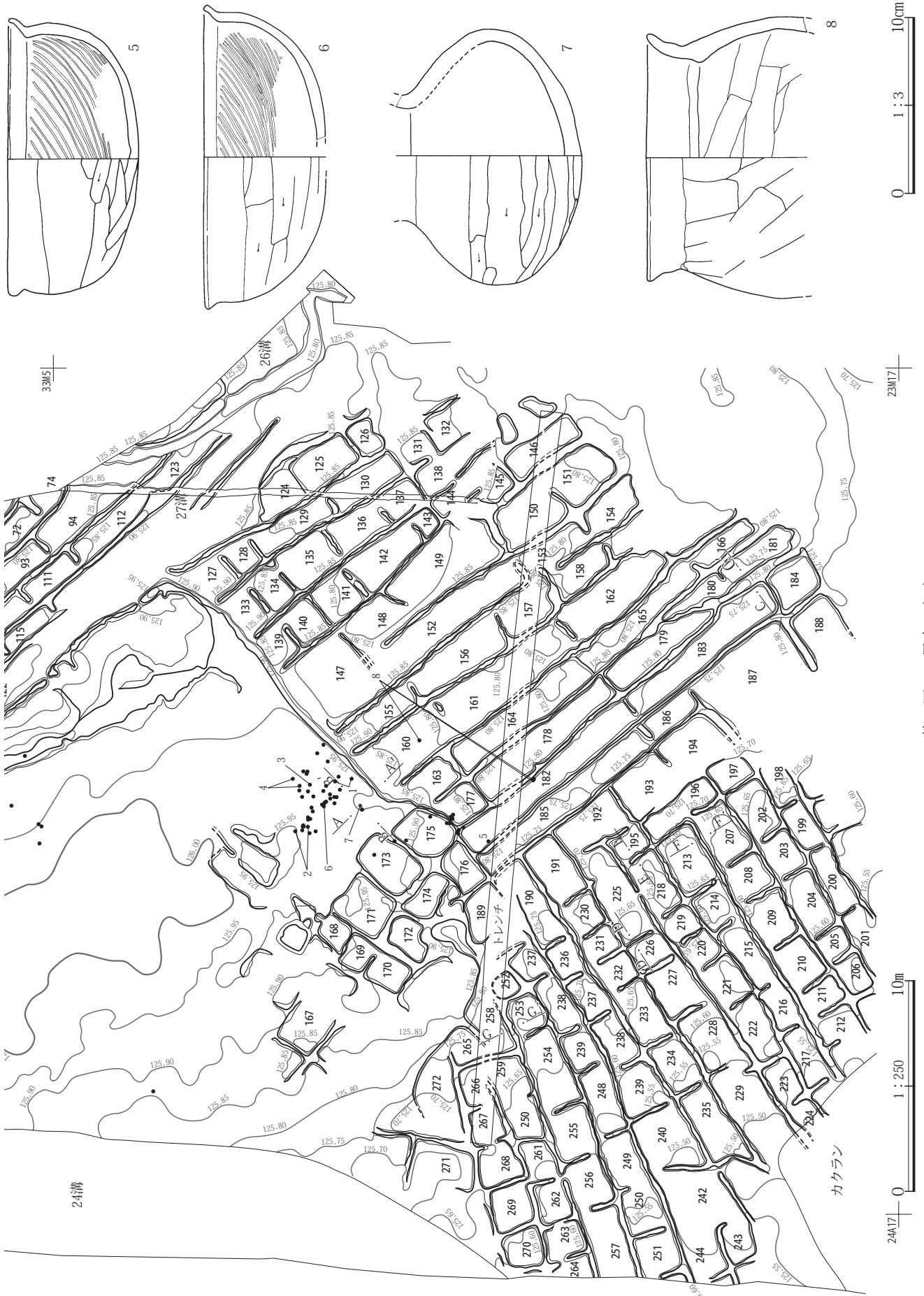
畦畔 幅0.20~0.60m、高さ0.01~0.07m(B区)。幅0.25~0.90m、高さ0.02~0.10m(C区)。

水口 数箇所設置されているが、設置箇所に規則性は認められない。

遺物 なし。

所見 第6面(As-C下位)で確認された遺構は本遺構と近接する4号溝のみであり、本遺構の畦畔と4号溝の長軸方位が一致することから、4号溝は本遺構に伴う用水溝と考えられる。埋没土から、本遺構の時期は3世紀後半と推定される。





第62図 2号水田(2)

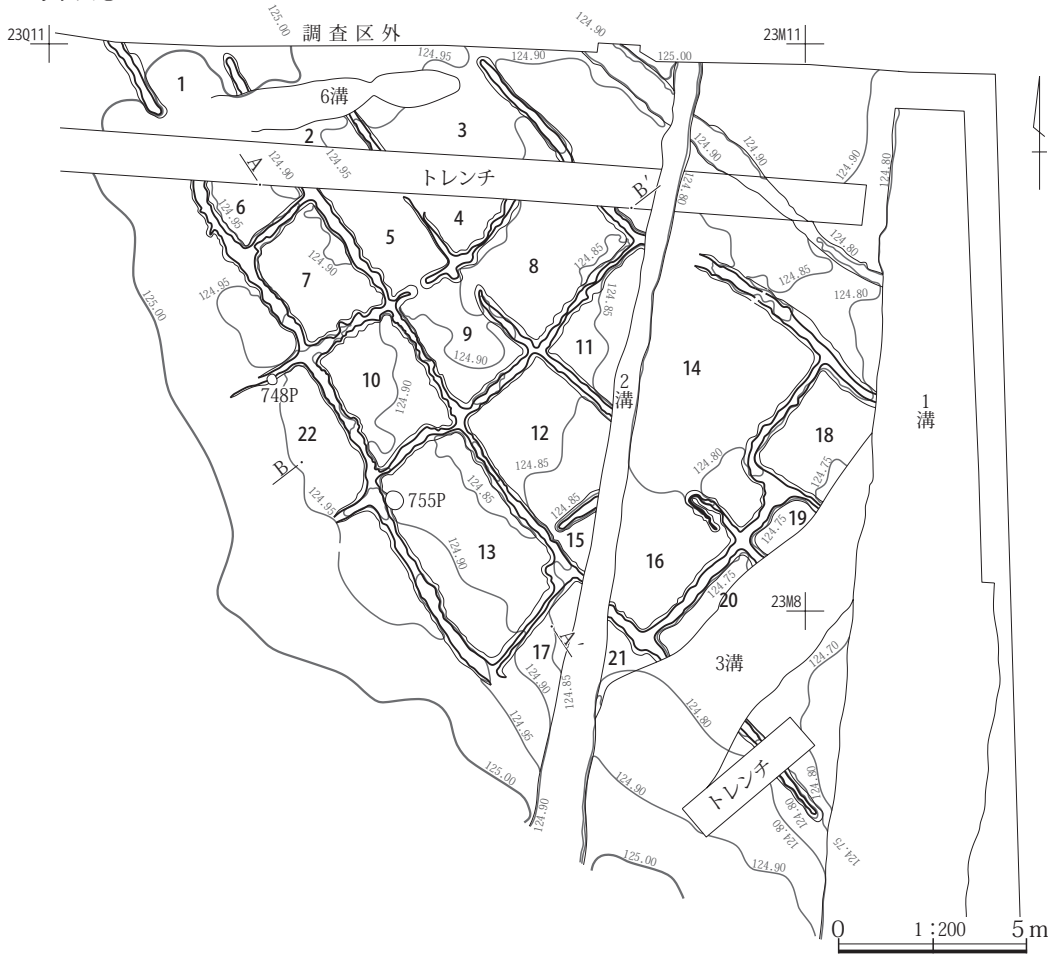
第3章 確認された遺構と遺物

第6表 2号水田区画面積一覧表

区画	面積	区画	面積	区画	面積	区画	面積	区画	面積
1	(0.9)	56	(2.4)	111	3.0	166	3.3	221	3.9
2	3.2	57	(2.2)	112	(5.2)	167	8.2	222	4.4
3	(4.8)	58	(4.3)	113	2.9	168	2.0	223	2.8
4	(2.6)	59	(5.8)	114	2.6	169	2.1	224	(1.8)
5	(1.8)	60	(4.4)	115	2.4	170	2.9	225	7.9
6	(2.4)	61	(5.2)	116	2.3	171	5.6	226	2.4
7	(4.1)	62	3.2	117	2.8	172	2.7	227	5.1
8	(5.7)	63	6.8	118	(2.1)	173	5.5	228	5.8
9	(3.4)	64	3.6	119	(3.4)	174	2.7	229	(10.9)
10	(4.7)	65	4.5	120	(3.2)	175	4.8	230	2.9
11	1.7	66	3.8	121	(3.8)	176	2.9	231	2.3
12	3.8	67	3.1	122	(5.9)	177	3.1	232	2.5
13	4.1	68	3.5	123	(3.8)	178	11.1	233	4.8
14	3.0	69	2.5	124	3.4	179	6.9	234	4.3
15	(1.4)	70	4.5	125	5.4	180	2.7	235	6.1
16	2.6	71	3.1	126	2.1	181	4.5	236	2.4
17	(4.2)	72	2.5	127	4.5	182	12.9	237	2.7
18	3.6	73	3.4	128	2.1	183	12.4	238	3.6
19	2.4	74	(1.0)	129	4.8	184	4.7	239	4.7
20	2.7	75	(1.3)	130	5.3	185	11.8	240	7.3
21	(2.4)	76	3.3	131	-	186	3.2	241	(3.7)
22	(6.2)	77	(6.3)	132	(3.3)	187	(13.7)	242	(9.2)
23	(2.7)	78	(5.8)	133	4.1	188	(4.8)	243	2.6
24	(5.4)	79	2.7	134	2.9	189	(3.4)	244	(3.7)
25	2.4	80	1.6	135	5.7	190	(5.9)	245	2.2
26	3.0	81	1.7	136	4.3	191	5.5	246	3.4
27	3.4	82	1.8	137	2.7	192	6.1	247	2.8
28	5.2	83	4.5	138	(4.8)	193	(6.3)	248	4.8
29	1.9	84	1.9	139	3.4	194	(6.4)	249	4.1
30	2.1	85	3.6	140	3.2	195	2.2	250	3.9
31	3.5	86	3.4	141	4.3	196	4.5	251	(3.8)
32	2.9	87	3.2	142	6.5	197	(2.6)	252	(1.1)
33	4.3	88	2.3	143	1.1	198	(2.2)	253	2.8
34	2.6	89	1.4	144	(3.4)	199	2.7	254	7.0
35	2.8	90	1.7	145	(1.7)	200	3.8	255	4.6
36	2.3	91	2.7	146	4.8	201	(1.1)	256	4.4
37	3.1	92	2.7	147	(15.1)	202	4.4	257	(5.9)
38	3.7	93	3.1	148	(5.8)	203	3.2	258	(4.1)
39	(4.9)	94	(10.1)	149	(13.0)	204	5.1	259	(3.5)
40	(6.7)	95	(1.8)	150	6.8	205	1.9	260	(3.1)
41	2.4	96	2.7	151	6.4	206	2.0	261	2.7
42	3.5	97	(14.7)	152	(12.9)	207	5.1	262	2.8
43	(5.3)	98	1.4	153	(4.1)	208	3.5	263	3.1
44	2.6	99	6.4	154	4.2	209	4.7	264	(1.7)
45	3.8	100	2.1	155	5.4	210	4.1	265	(2.4)
46	2.9	101	2.2	156	8.6	211	2.6	266	(2.2)
47	2.4	102	3.1	157	(5.1)	212	2.8	267	(2.6)
48	3.6	103	1.4	158	4.0	213	5.8	268	3.5
49	3.7	104	1.7	159	(1.8)	214	3.2	269	3.9
50	3.6	105	1.9	160	10.8	215	4.3	270	3.1
51	2.9	106	2.1	161	13.5	216	2.8	271	(6.1)
52	3.7	107	3.2	162	10.3	217	3.5	272	(7.6)
53	3.4	108	2.6	163	4.2	218	4.6		
54	6.2	109	2.1	164	10.8	219	2.2		
55	2.5	110	2.6	165	8.2	220	2.4		

面積＝m²

4号水田①



第7表 4号水田区画面積一覽表

区画	面積
1	(6.3)
2	(5.6)
3	(12.2)
4	(2.5)
5	(5.4)
6	(2.8)
7	7.2
8	(10.1)
9	6.5
10	8.1
11	(5.2)
12	(10.8)
13	16.4
14	(20.1)
15	(1.1)
16	(9.3)
17	(3.9)
18	(6.5)
19	(1.4)
20	(2.1)
21	(1.5)
22	(7.3)

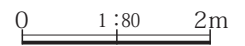
面積 = m²

A, L=125.20m

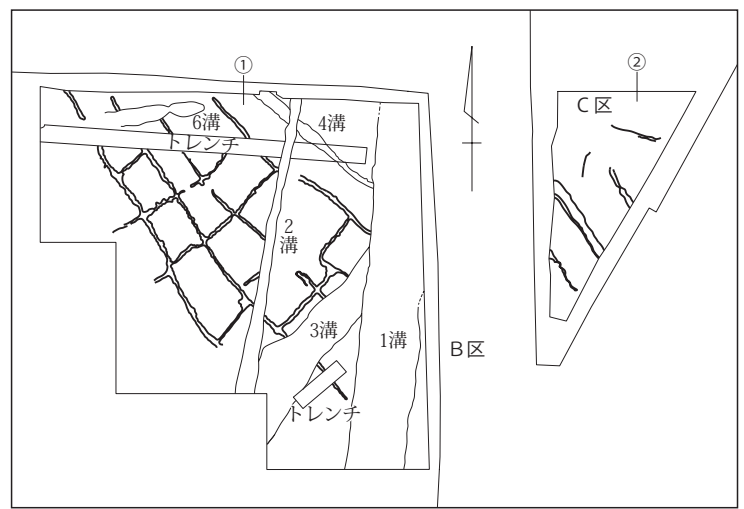
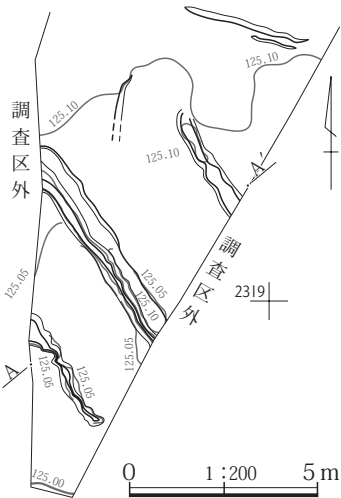
A'

B, L=125.20m

B'



4号水田②



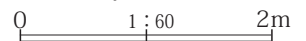
S=1/500

A, L=125.30m

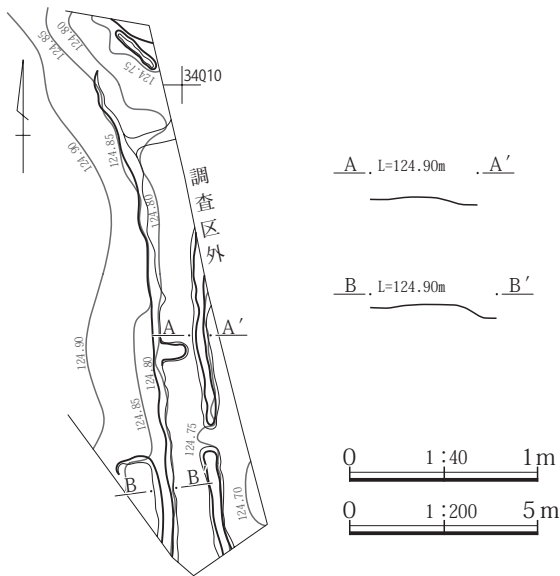
A'

4号水田(C区)

1. As-C_o



第63図 4号水田



第64図 3号水田

第7節 井戸

1. 第2面の井戸

1号井戸(第65図、PL.13)

位置 23R 6・7、B区第2面。

重複 576号ピットと重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-30°-W。

規模 長軸1.18m、短軸1.04m、深さ1.90m。

埋没土層 不明。

遺物 土師器片1点、中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2号井戸(第65図)

位置 34B 15、34C 15、E区第2面。

重複 46号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 北端が調査区外、楕円形。

長軸方位 N-65°-E。

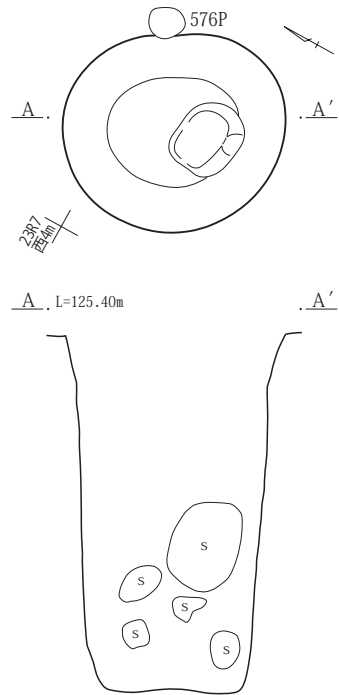
規模 長軸2.60m、短軸2.25m、深さ1.85m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

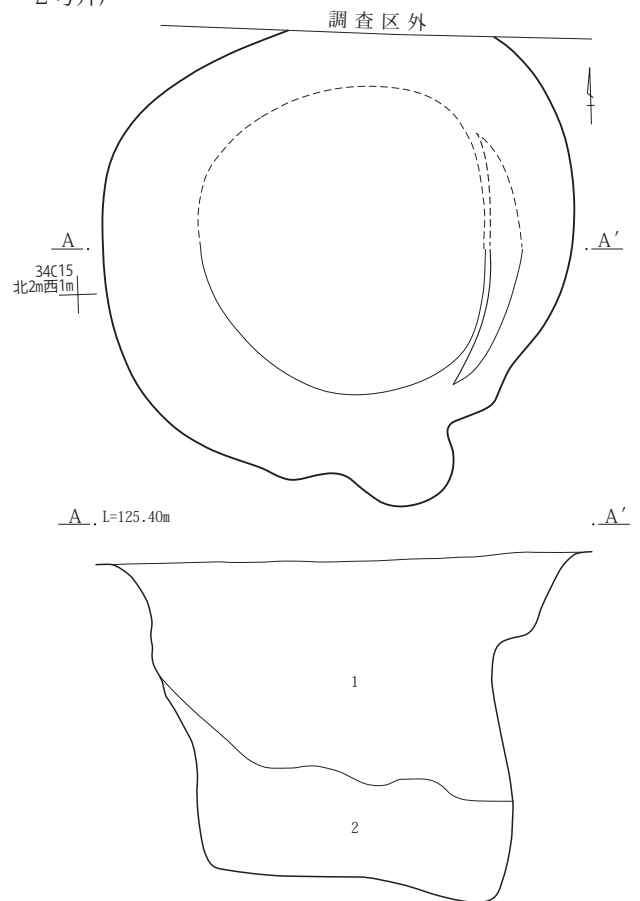
遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1号井戸



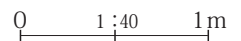
2号井戸



2号井戸(E区)

1. 黒褐色土(7.5YR3/2)と砂層の互層。

2. 黒褐色土(7.5YR3/2) 塊状暗褐色土(7.5YR3/3)含。



第65図 1・2号井戸

第8節 墓坑

1. 第2面の墓坑

1号土坑墓(第66・67図、PL.13・25)

位置 23S10、B区第2面。

重複 6号溝、926号ピットと重複。本遺構が926号ピットより古く、6号溝より新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-8°-W。

規模 長軸1.27m、短軸1.10m、深さ0.29m。

埋没土層 不明。

遺物 銭貨4点(1~4)を図示した。2・3はそれぞれ2枚癒着していた。1号人骨が出土しており、詳細は第4章第3節を参照。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は中世以降と推定される。

2号土坑墓(第66・67図、PL.14・25)

位置 23Q10、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 方形。

長軸方位 N-2°-E。

規模 長軸0.63m、短軸0.57m、深さ0.32m。

埋没土層 不明。

遺物 銭貨2点(1・2)を図示した。1は6枚癒着、2は2枚癒着していた。他に、鉄製品1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は19世紀後半以降と推定される。

4号土坑墓(第66・67図、PL.13・25)

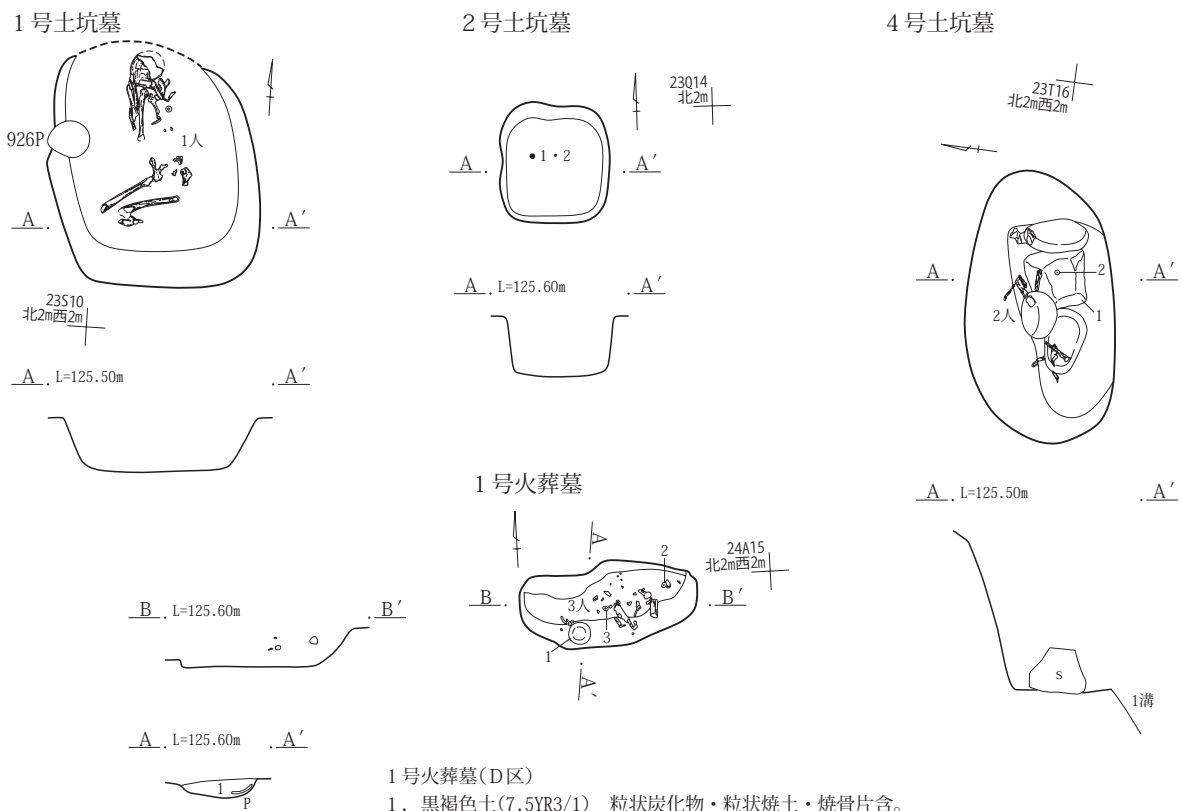
位置 23T16、D区第2面。

重複 1号溝と重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-77°-E。

規模 長軸1.45m、短軸0.79m、深さ0.77m。

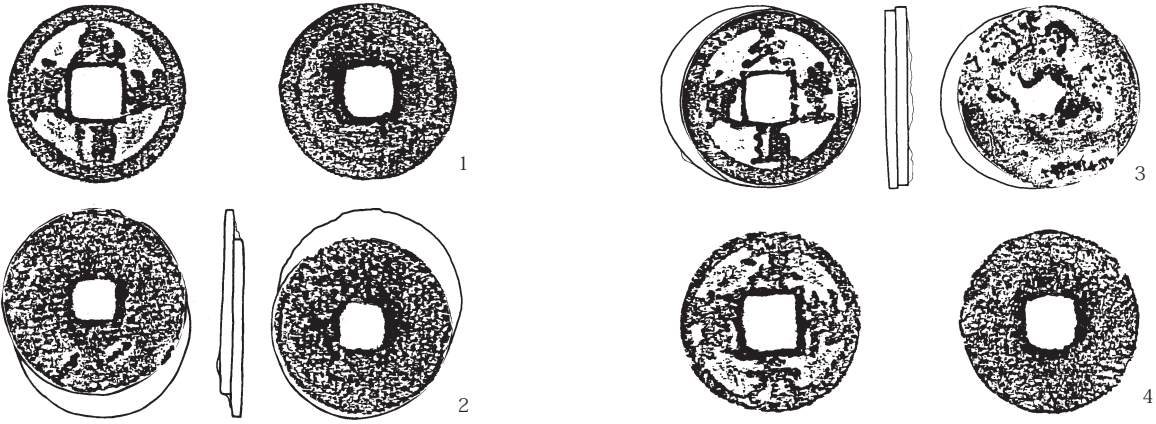


1号火葬墓(D区)

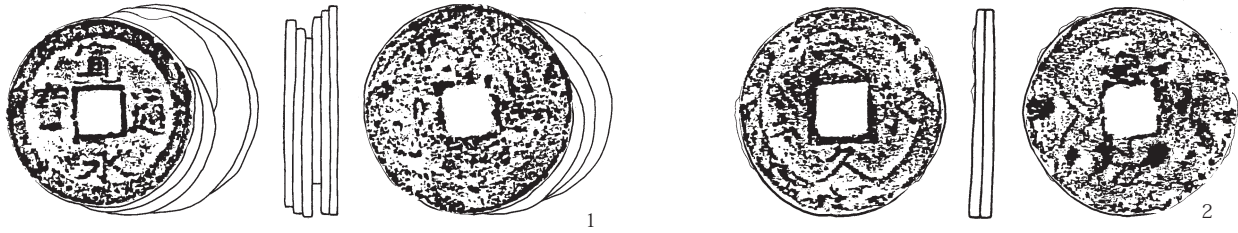
1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粒状炭化物・粒状焼土・焼骨片含。

第66図 1・2・4号土坑墓、1号火葬墓

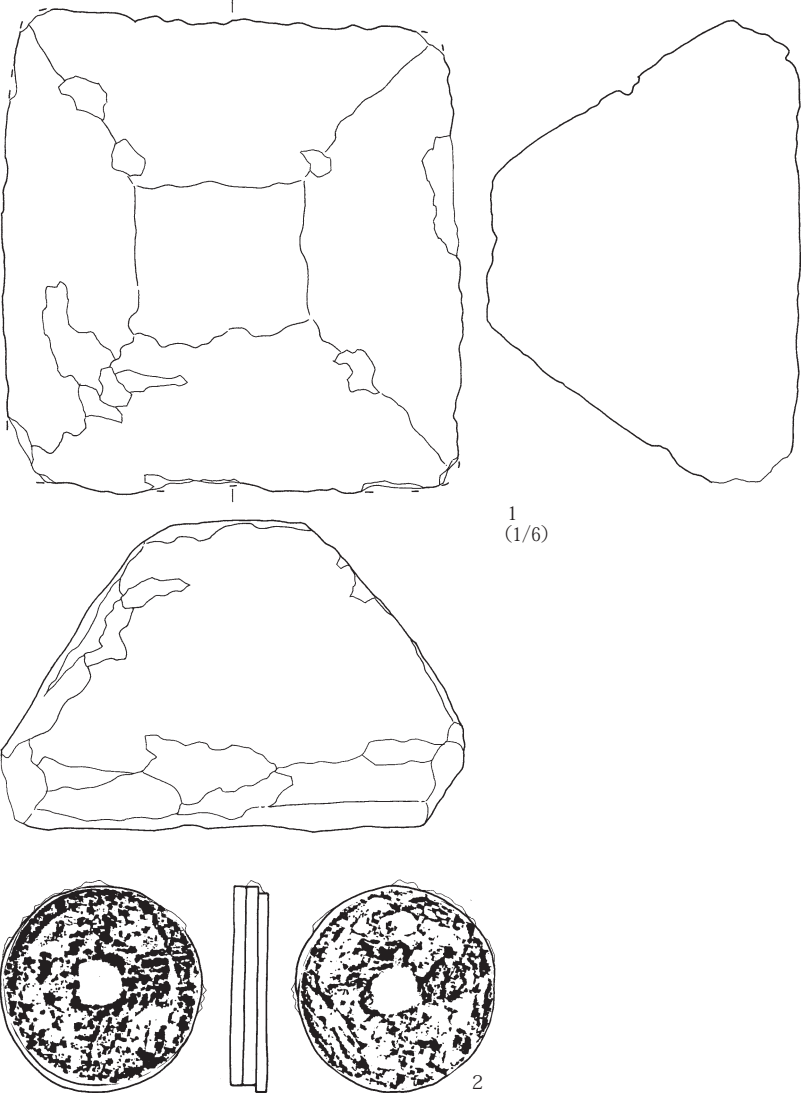
1号土坑墓出土遺物



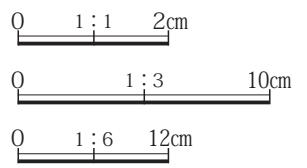
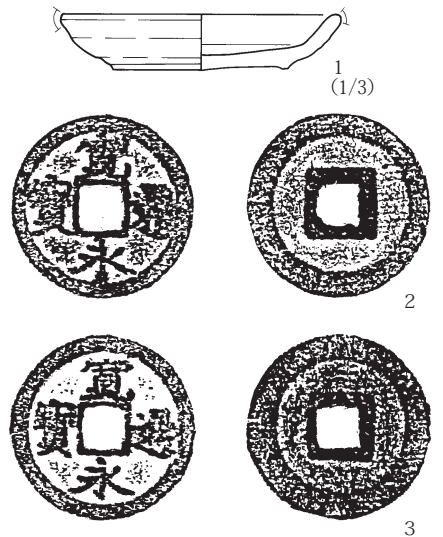
2号土坑墓出土遺物



4号土坑墓出土遺物



1号火葬墓出土遺物



第67图 1・2・4号土坑墓、1号火葬墓出土遺物

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 五輪塔1点(1)、銭貨1点(2)を図示した。2は3枚癒着している。2号人骨も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は17世紀以降と推定される。

1号火葬墓(第66・67図、PL.14・26)

位置 24A15、D区第2面。

重複 7号竪穴状遺構、1号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-88°-E。

規模 長軸0.94m、短軸0.45m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 近世瀬戸・美濃陶器皿1点(1)、銭貨2点(2・3)を図示した。3号人骨も出土しており、詳細は第4章第3節を参照。

所見 調査時の所見から火葬墓とした。出土遺物から、本遺構の時期は17世紀以降と推定される。

第9節 土坑・ピット

1. 第2面の土坑

2号土坑(第68図)

位置 23N4、23O4、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-23°-E。

規模 長軸0.80m、短軸0.71m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

33号土坑(第68図、PL.14)

位置 23P4、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.17m、短軸1.15m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

230号土坑(第68図)

位置 23Q3、23R3、B区第2面。

重複 758号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-56°-E。

規模 長軸1.23m、短軸1.03m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

509号土坑(第68図)

位置 23Q5、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-50°-E。

規模 長軸0.77m、短軸0.66m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

562号土坑(第68図)

位置 23S7、23T7、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 北西側大半が調査区外のため詳細不明、推定不整形。

長軸方位 N-39°-E。北西側大半が調査区外のため、長軸方位は暫定。

規模 長軸(0.91)m、短軸(0.37)m、深さ(0.32)m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

578号土坑(第68図、PL.14)

位置 23R 6、B区第2面。

重複 579号ピットと重複。

平面形状 方形。

長軸方位 N-18°-E。

規模 長軸1.01m、短軸0.97m、深さ0.11m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

619号土坑(第68図)

位置 23S 7、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-5°-E。

規模 長軸0.80m、短軸0.72m、深さ0.03m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

639号土坑(第68図)

位置 23R 8、B区第2面。

重複 640号ピットと重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸0.90m、短軸0.79m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

711号土坑(第68図)

位置 23Q 9・10、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-9°-E。

規模 長軸0.91m、短軸0.77m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

719号土坑(第68図、PL.26)

位置 23Q 9、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-23°-W。

規模 長軸1.09m、短軸0.85m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片口鉢1点(1)を図示した。

所見 出土遺物から、本遺構の時期は中世と推定される。

890号土坑(第69図)

位置 23R 1、23S 1、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-14°-W。

規模 長軸1.23m、短軸1.05m、深さ0.38m。

埋没土層 にぶい褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1000号土坑(第69図)

位置 13S 20、13T 20、23S 1、23T 1、B区第2面。

重複 1028号土坑、435・436号ピットと重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-62°-W。

規模 長軸2.29m、短軸1.23m、深さ0.06m。

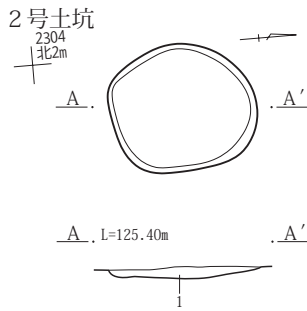
埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

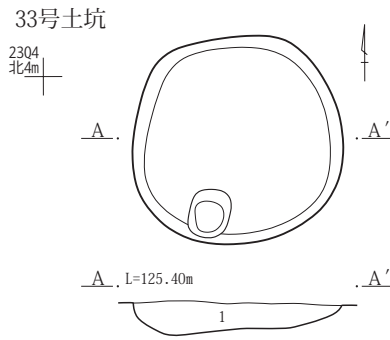
所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1001号土坑(第69図、PL.14)

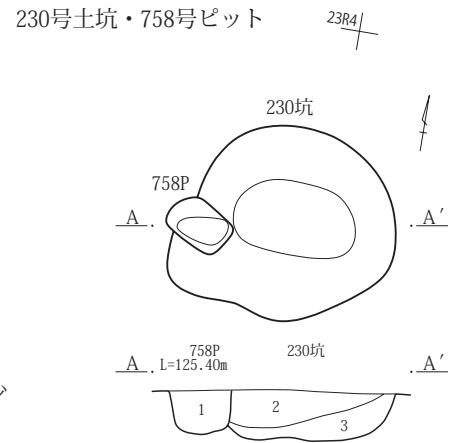
位置 24A 4、B区第2面。



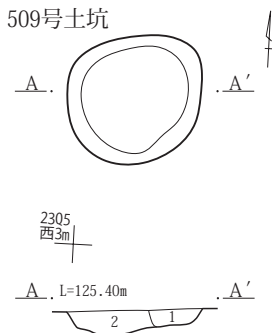
2号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。



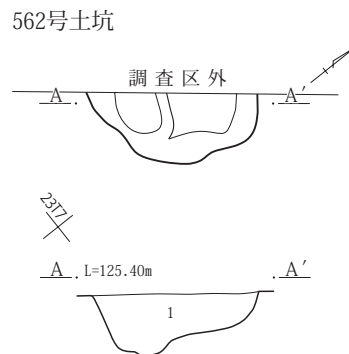
33号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。



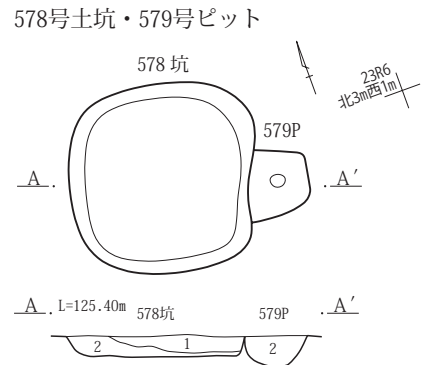
230号土坑・758号ピット(B区)
1. 粗粒状軽石(φ10mm以上)
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状石砂・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量、軽石含。



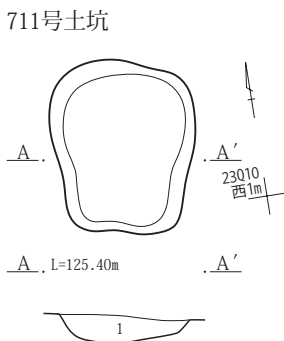
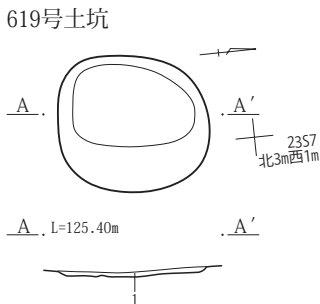
509号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)多量、粗粒軽石含。



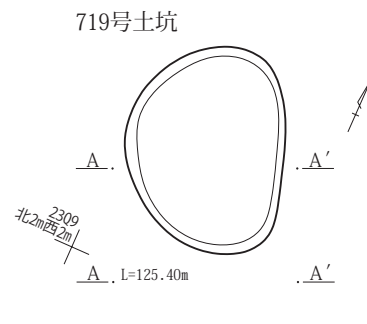
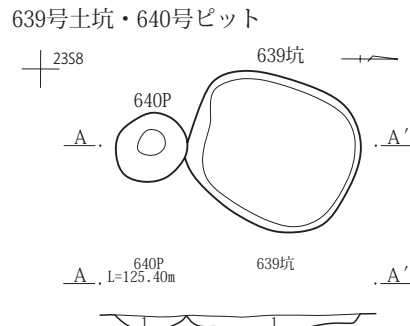
562号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状シルト少量。



578号土坑・579号ピット(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)・粗粒軽石含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。

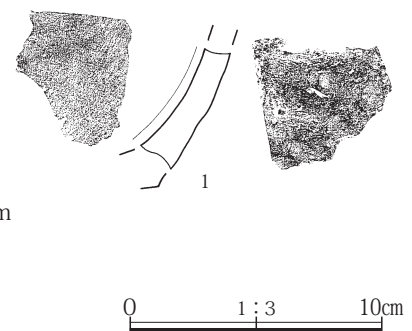


711号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。



719号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

719号土坑出土遺物



第68図 2・33・230・509・562・578・619・639・711・719号土坑、579・640・758号ピット

重複 1002号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-86°-W。

規模 長軸3.15m、短軸0.52m、深さ0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1002号土坑(第69図、PL.14)

位置 24A 4、B区第2面。

重複 1001号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸2.26m、短軸(0.58)m、深さ0.42m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1003号土坑(第69図、PL.14)

位置 24A 4、24B 4、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-84°-W。

規模 長軸(2.35)m、短軸0.93m、深さ0.24m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1004号土坑(第69図)

位置 23A 4、B区第2面。

重複 833~836・840号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-85°-W。

規模 長軸(1.40)m、短軸0.77m、深さ0.21m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1005号土坑(第69図、PL.14)

位置 23T 3・4、B区第2面。

重複 1006・1007号土坑、347・969号ピットと重複。本遺構が1006・1007号土坑より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-9°-W。

規模 長軸(1.49)m、短軸(0.65)m、深さ0.31m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1006号土坑(第70図、PL.14)

位置 23T 4、B区第2面。

重複 1005・1007号土坑、966号ピットと重複。本遺構が1005・1007号土坑より古い。

平面形状 1005・1007号土坑との重複のため詳細不明、推定長方形。

長軸方位 N-12°-W。

規模 長軸(2.47)m、短軸0.51m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片1点、近世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と推定される。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1007号土坑(第69図、PL.14)

位置 23T 3・4、B区第2面。

重複 1005・1006号土坑、964号ピットと重複。本遺構が1005号土坑より古く、1006号土坑より新しい。

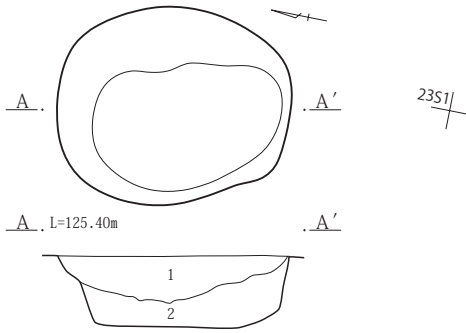
平面形状 不整形。

長軸方位 N-9°-W。

規模 長軸1.25m、短軸0.83m、深さ0.41m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

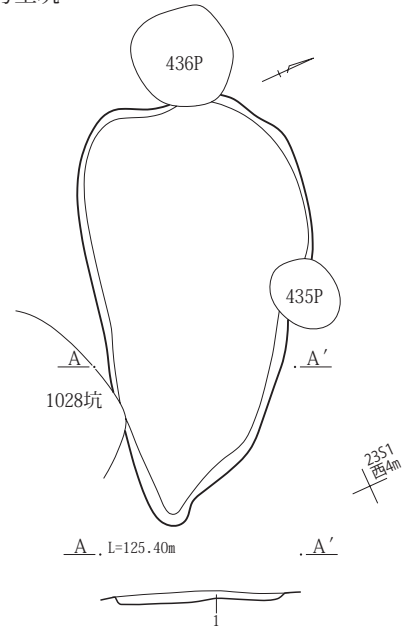
890号土坑



890号土坑(B区)

1. にぶい褐色土(7.5YR5/4) 粒状軽石少量とにぶい橙色土(7.5YR7/4)塊状シルト含の混土。
2. にぶい褐色土(7.5YR5/4) 粒状軽石少量とにぶい橙色土(7.5YR7/4)塊状シルト少量の混土。粒状軽石微量。

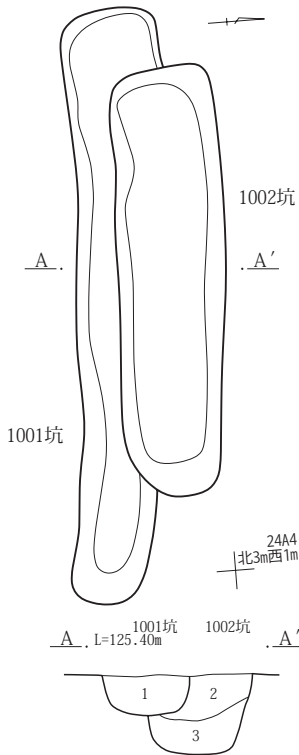
1000号土坑



1000号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石少量、塊状シルト含。

1001・1002号土坑



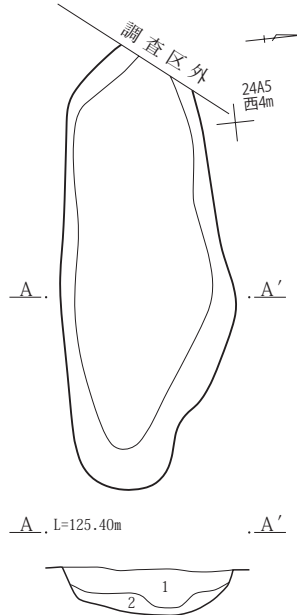
1001・1002号土坑(B区)

1. As-B(二次堆積)。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 軽石微量。
3. 暗紫灰色土(5P4/1) 軽石微量。

1005・1007号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量、軽石含。
3. 塊状焼土
4. 黒褐色土(10YR3/2) 小塊状焼土多量、微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

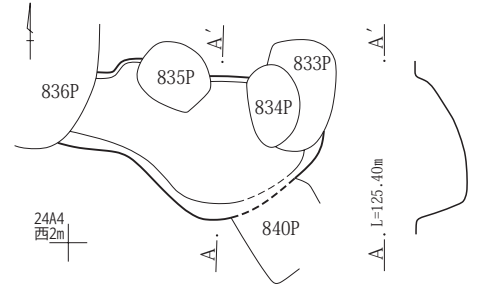
1003号土坑



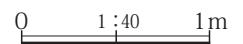
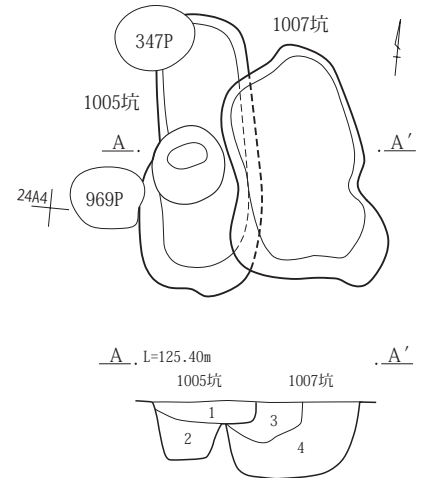
1003号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

1004号土坑



1005・1007号土坑



第69図 890・1000～1005・1007号土坑

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1008号土坑(第70図、PL.14)

位置 23T 4、B区第2面。

重複 1009号土坑と重複。

平面形状 東側が1009号土坑と重複のため詳細不明、推定長楕円形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸(2.29)m、短軸0.95m、深さ0.33m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1009号土坑(第70図、PL.14)

位置 23T 4、B区第2面。

重複 1008号土坑と重複。

平面形状 西側が1008号土坑と重複のため詳細不明、推定長方形。

長軸方位 N-82°-E。

規模 長軸(1.35)m、短軸0.59m、深さ0.30m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1010号土坑(第70図、PL.14)

位置 23S 5、23T 5、B区第2面。

重複 831・832号ピットと重複。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-67°-E。

規模 長軸2.14m、短軸0.97m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1011号土坑(第70図、PL.14)

位置 23T 5・6、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-7°-W。

規模 長軸1.85m、短軸0.86m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1012号土坑(第70図、PL.15)

位置 23Q 4・5、23R 4・5、B区第2面。

重複 513号ピットと重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-12°-E。

規模 長軸4.91m、短軸0.81m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1013号土坑(第70図、PL.15)

位置 23P 5・6、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-1°-W。

規模 長軸2.50m、短軸1.39m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

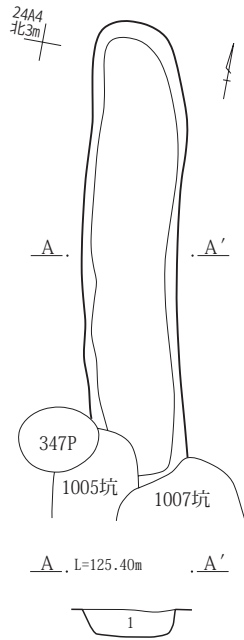
1014号土坑(第71図、PL.15)

位置 23R 6、23S 6、B区第2面。

重複 9号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

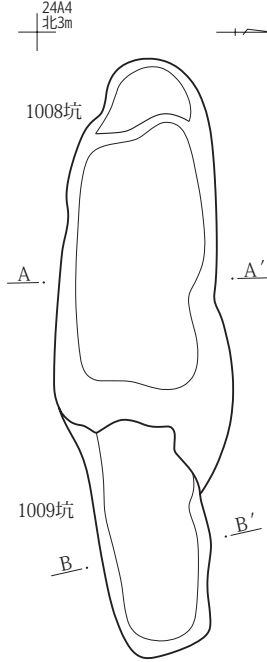
1006号土坑



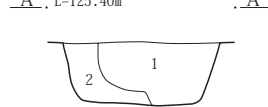
1006号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

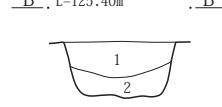
1008・1009号土坑



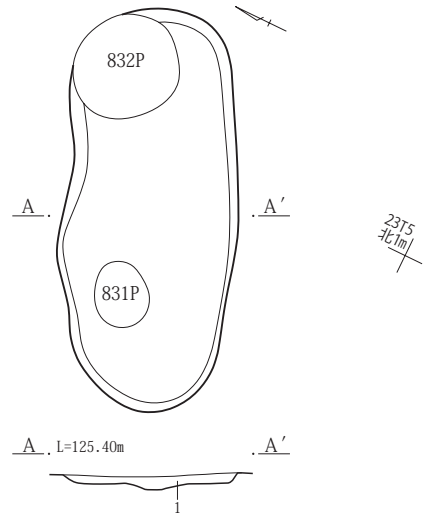
1008号土坑



1009号土坑



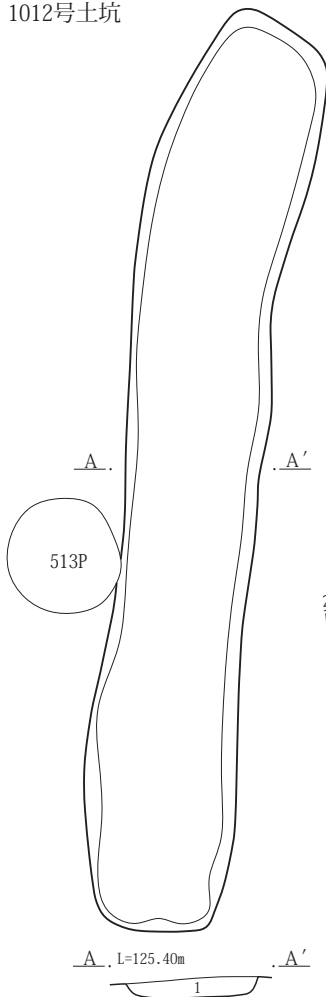
1010号土坑



1010号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

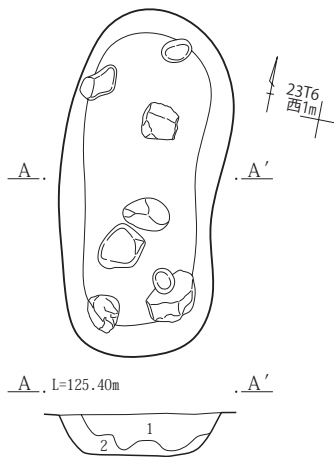
1012号土坑



1008・1009号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

1011号土坑



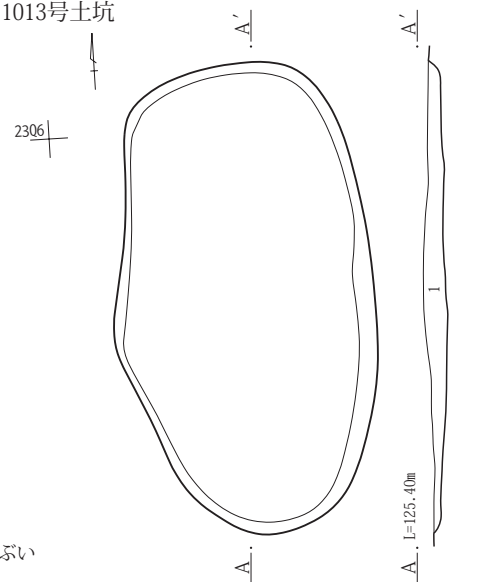
1011号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)多量。

1012号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

1013号土坑



1013号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量、軽石含。

0 1:40 1m

第70図 1006・1008～1013号土坑

長軸方位 N-3°-W。

規模 長軸1.96m、短軸0.63m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1015号土坑(第71図、PL.15)

位置 23R 6・7、23S 6・7、B区第2面。

重複 1016号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-3°-W。

規模 長軸2.87m、短軸0.94m、深さ0.19m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1016号土坑(第71図、PL.15)

位置 23S 6・7、B区第2面。

重複 1015号土坑、552号ピットと重複。本遺構が1015号土坑より古い。

平面形状 1015号土坑との重複のため詳細不明、推定方形または長方形。

長軸方位 N-3°-W。

規模 長軸(1.20)m、短軸1.19m、深さ0.14m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1017号土坑(第71図、PL.15)

位置 23R 7、B区第2面。

重複 574号ピットと重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-86°-W。

規模 長軸1.65m、短軸0.70m、深さ0.15m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1018号土坑(第71図、PL.15)

位置 23S 7・8、B区第2面。

重複 808号ピットと重複。

平面形状 北西側大半が調査区外のため詳細不明、不整形。

長軸方位 N-3°-E。

規模 長軸2.42m、短軸1.74m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1019号土坑(第71図、PL.15)

位置 23P 7、23Q 7、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-88°-E。

規模 長軸3.53m、短軸0.58m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1020号土坑(第72図、PL.15)

位置 23P 8、23Q 8、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-84°-W。

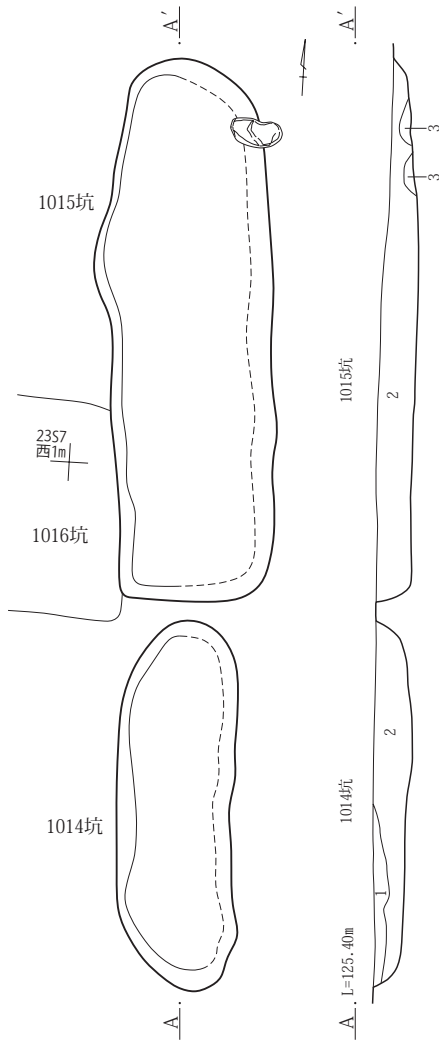
規模 長軸2.73m、短軸1.41m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

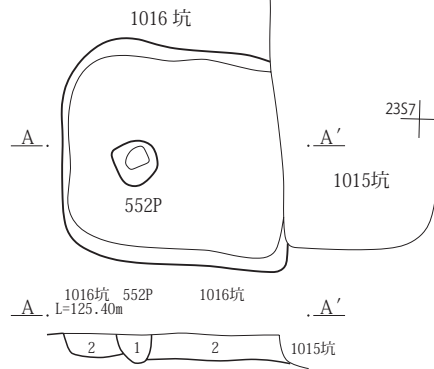
所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1014・1015号土坑



- 1014・1015号土坑(B区)
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
 2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。
 3. As-B

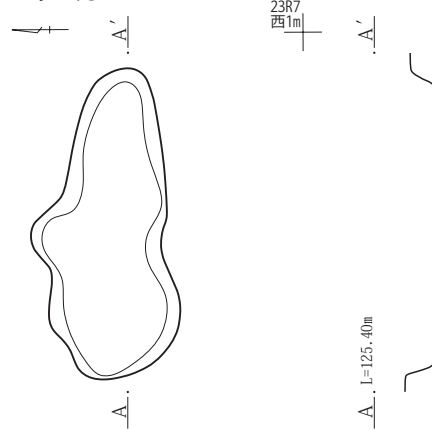
1016号土坑・552号ピット



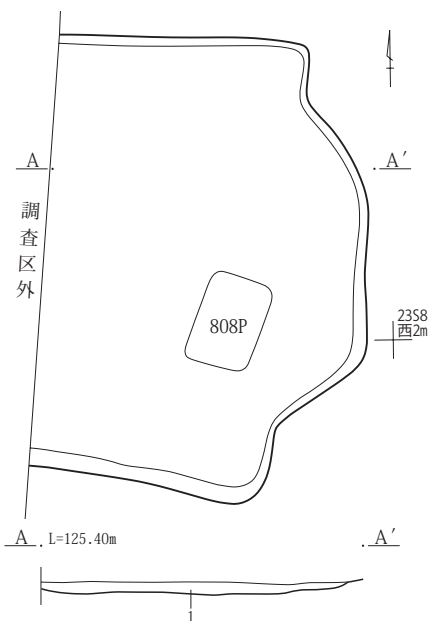
1016号土坑・552号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色シルト(10YR7/4)含。

1017号土坑



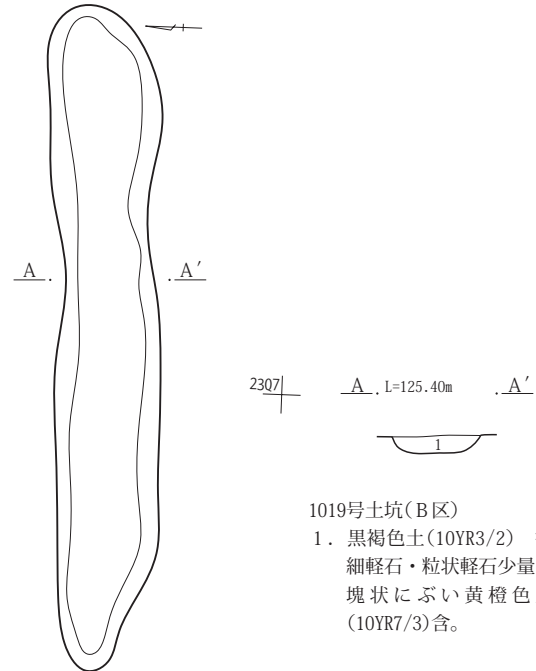
1018号土坑



1018号土坑(B区)

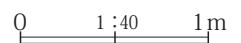
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

1019号土坑



1019号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。



第71図 1014～1019号土坑、552号ピット

1021号土坑(第72図、PL.15)

位置 23Q 8、B区第2面。

重複 736・737号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-2°-W。

規模 長軸1.39m、短軸1.31m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1022号土坑(第72図、PL.15)

位置 23P 8、23Q 8、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-2°-E。

規模 長軸1.46m、短軸1.27m、深さ0.15m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1023号土坑(第72図、PL.15)

位置 23P 8、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-80°-W。

規模 長軸1.35m、短軸0.65m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1024号土坑(第72図、PL.15)

位置 23Q 9、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-4°-E。

規模 長軸2.34m、短軸0.75m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1025号土坑(第72図)

位置 23R 9・10、B区第2面。

重複 1026号土坑と重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸2.20m、短軸0.53m、深さ0.22m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1026号土坑(第72図)

位置 23R 10、B区第2面。

重複 1025号土坑、696号ピットと重複。

平面形状 南側が1025号土坑と重複のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-29°-W。

規模 長軸(1.21)m、短軸(0.78)m、深さ0.24m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1027号土坑(第72図)

位置 23R 9、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

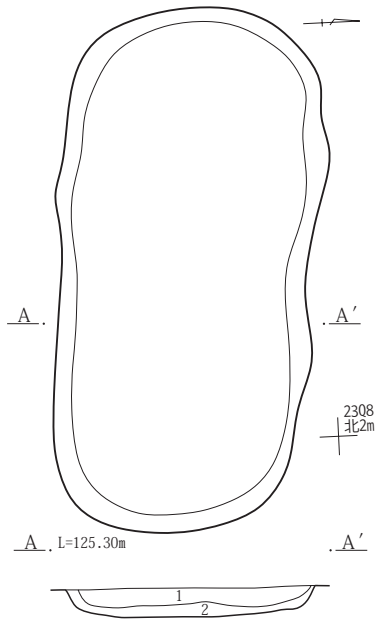
長軸方位 N-85°-E。

規模 長軸1.70m、短軸0.68m、深さ0.11m。

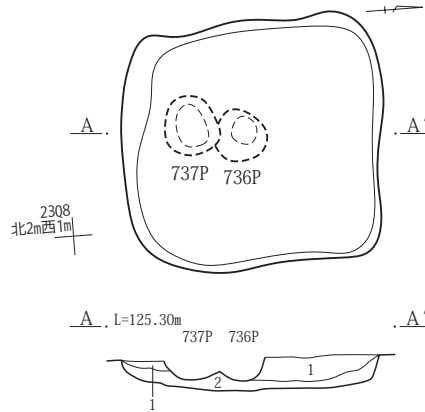
埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

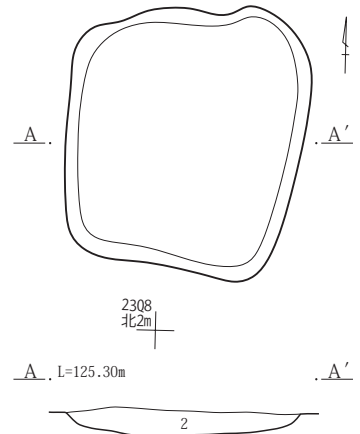
1020号土坑



1021号土坑



1022号土坑



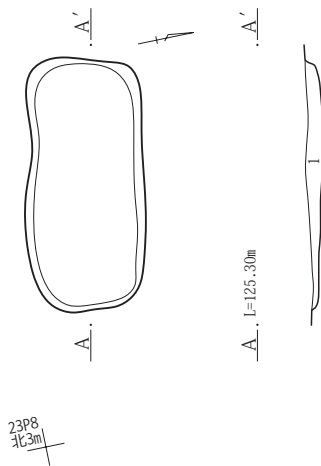
1020号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

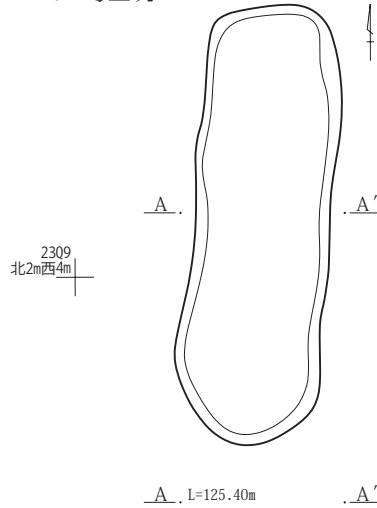
1021・1022号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

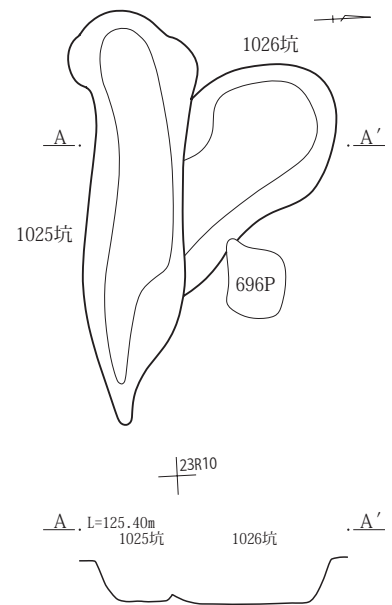
1023号土坑



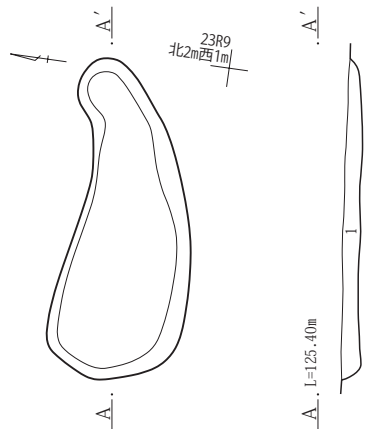
1024号土坑



1025・1026号土坑



1027号土坑



1023号土坑(B区)

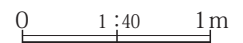
1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

1024号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

1027号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。



第72図 1020～1027号土坑、736・737号ピット

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1028号土坑(第73図、PL.16)

位置 13S20、13T20、B区第2面。

重複 1000号土坑、137・138・825号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-16°-W。

規模 長軸1.30m、短軸1.22m、深さ0.53m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1029号土坑(第73図、PL.15)

位置 23R5・6、B区第1面。

重複 582・797号ピットと重複。本遺構が582号ピットより古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-1°-E。

規模 長軸2.51m、短軸0.83m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1030号土坑(第73図)

位置 23T6、B区第2面。

重複 930号ピットと重複。

平面形状 北西側大半が調査区外のため詳細不明、不整形。

長軸方位 N-39°-E。

規模 長軸(1.82)m、短軸(0.74)m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1031号土坑(第73図、PL.16)

位置 24A4、24B4、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 北西側大半が調査区外のため詳細不明、推定長楕円形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸(1.58)m、短軸0.43m、深さ0.11m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1032号土坑(第73図)

位置 23R5、B区第2面。

重複 9号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 9号溝と重複のため詳細不明、推定長楕円形。

長軸方位 N-81°-W。

規模 長軸(1.47)m、短軸0.63m、深さ0.09m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1033号土坑(第73・74図、PL.16)

位置 23S9・10、B区第2面。

重複 1034~1036号土坑と重複。本遺構が1035・1036号土坑より新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-4°-W。

規模 長軸1.16m、短軸(0.68)m、深さ0.14m。

埋没土層 不明。

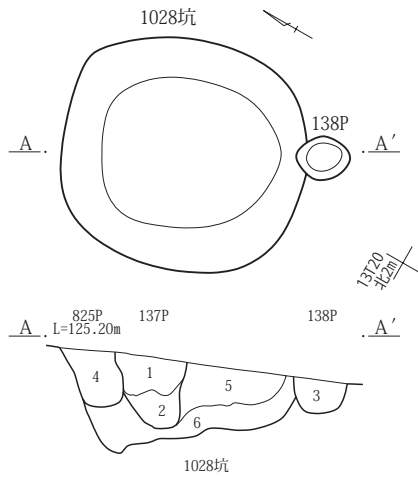
遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1034号土坑(第74図、PL.16)

位置 23S9・10、B区第2面。

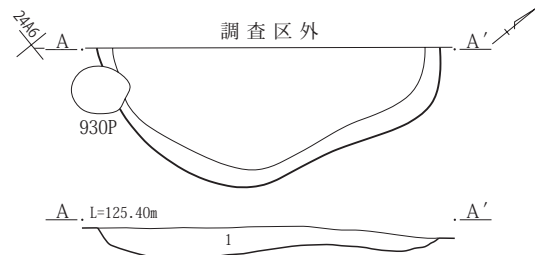
1028号土坑・137・138・825号ピット



1028号土坑・137・138・825号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、小塊状黄褐色シルト(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2)と小塊状黄褐色シルト(10YR7/3)の混土。粒状軽石少量。
3. 黒褐色土(10YR3/2)粒状軽石少量と小塊状黄褐色シルト(10YR7/3)の混土。
4. 黒褐色土(10YR3/2)と小塊状黄褐色シルト(10YR7/3)の混土。粒状軽石少量、粗粒焼土含。
5. 黒褐色土(10YR3/2) 黄褐色シルト(10YR7/3)多量、粒状軽石少量。
6. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、黄褐色シルト(10YR7/3)・粗粒焼土含。

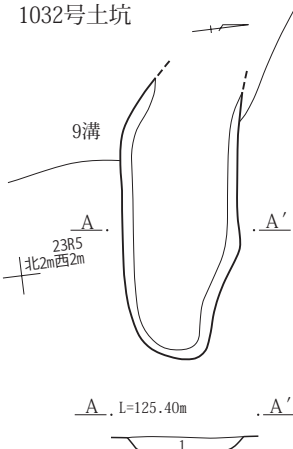
1030号土坑



1030号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 微細軽石・粒状軽石含。

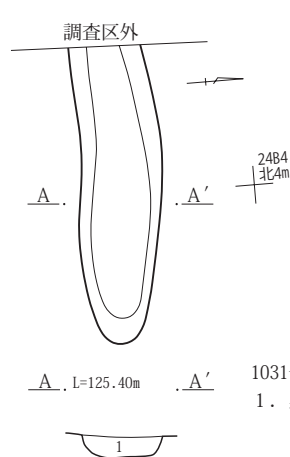
1032号土坑



1032号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。

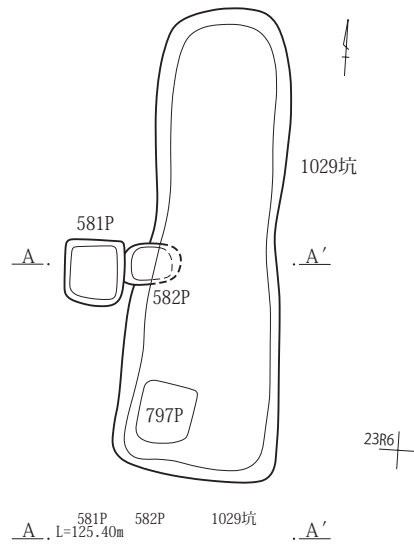
1031号土坑



1031号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。

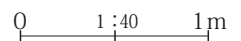
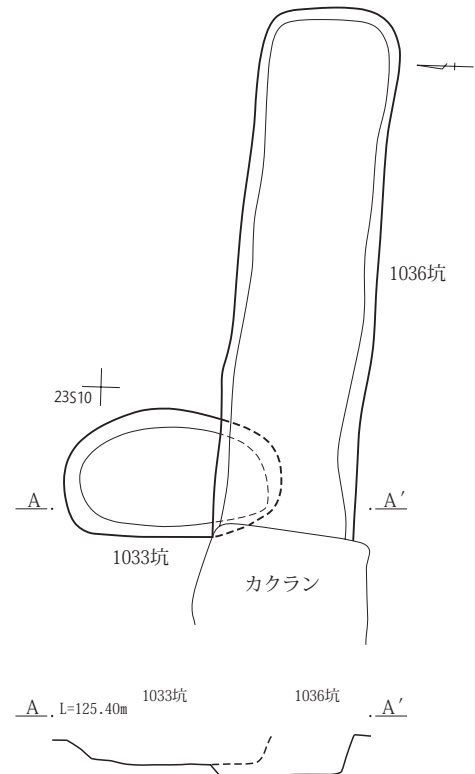
1029号土坑・581・582号ピット



1029号土坑・581・582号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石・塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)少量。

1033・1036号土坑



第73図 1028～1033・1036号土坑、137・138・581・582・825号ピット

重複 1033・1035号土坑と重複。

平面形状 1033・1035号土坑と重複のため詳細不明、推定円形または楕円形。

長軸方位 計測不能。

規模 長軸(0.80)m、短軸(0.63)m、深さ(0.13)m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1035号土坑(第74図、PL.16)

位置 23R 9、23S 9、B区第2面。

重複 1033・1034・1036号土坑、843・929号ピットと重複。本遺構が1033号土坑より古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-84°-E。

規模 長軸3.53m、短軸0.96m、深さ0.12m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1036号土坑(第73図、PL.16)

位置 23R 9、23S 9、B区第2面。

重複 1033・1035号土坑と重複。本遺構が1033号土坑より古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-87°-W。

規模 長軸(2.81)m、短軸0.74m、深さ0.19m。

埋没土層 不明。

遺物 須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器は混入と考えられる。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と推定される。出土遺物も須恵器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1037号土坑(第74図、PL.16)

位置 23R 9・10、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-75°-W。

規模 長軸1.85m、短軸0.67m、深さ0.12m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1038号土坑(第74図、PL.16)

位置 23G 12・13、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 南西側大半が調査区外のため詳細不明、推定長方形。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸(2.34)m、短軸1.05m、深さ0.05m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1039号土坑(第74図、PL.16)

位置 23G 14、23H 14、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 長楕円形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸2.05m、短軸0.58m、深さ0.20m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1040号土坑(第74図、PL.16)

位置 23G 13・14、C区第2面。

重複 1041・1049号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

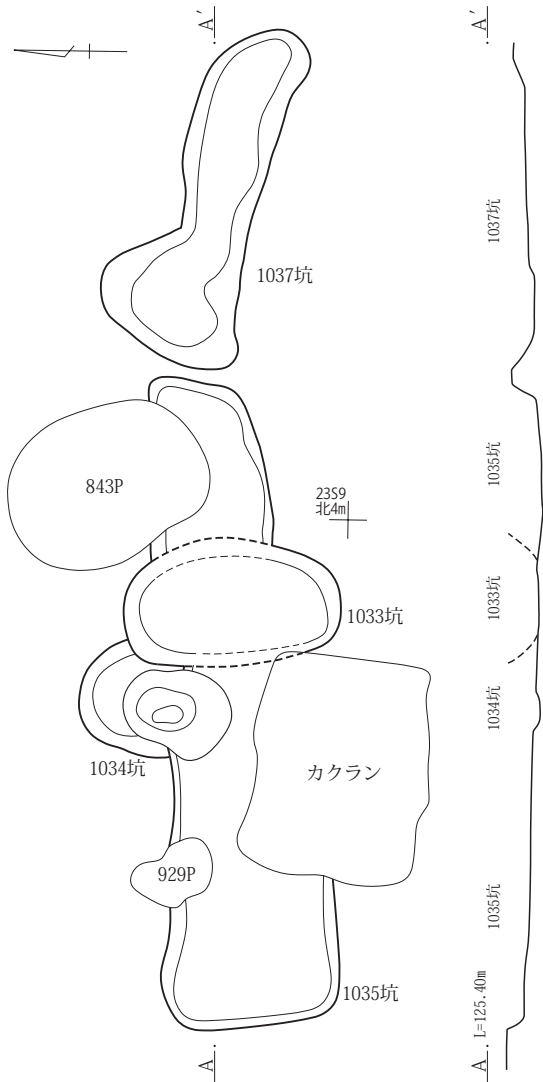
長軸方位 N-84°-W。

規模 長軸1.35m、短軸0.64m、深さ0.23m。

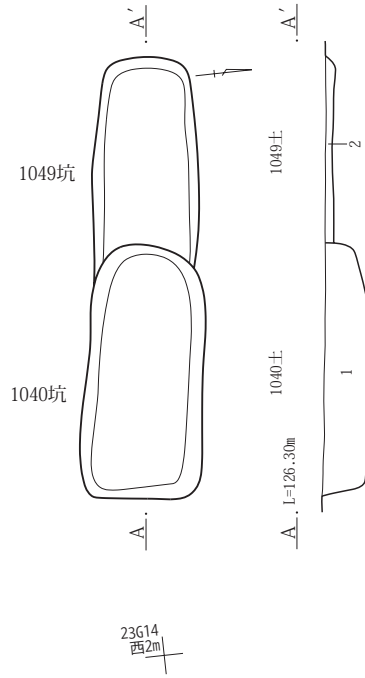
埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

1033・1034・1035・1037号土坑



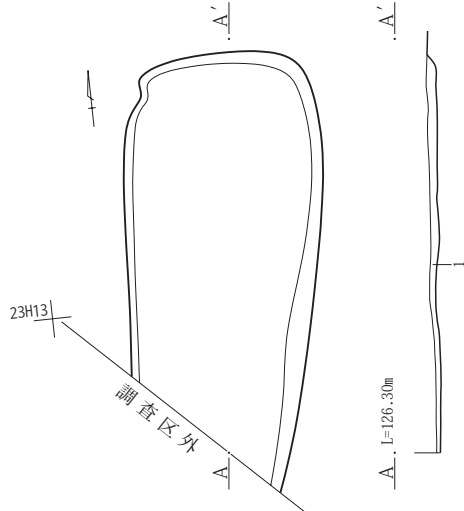
1040・1049号土坑



1040・1049号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、やや粘性の塊状黄橙色土(10YR7/3)微量。
2. 黒褐色土(10YR3/2)

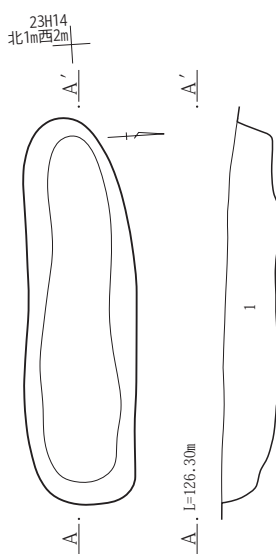
1038号土坑



1038号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。

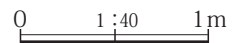
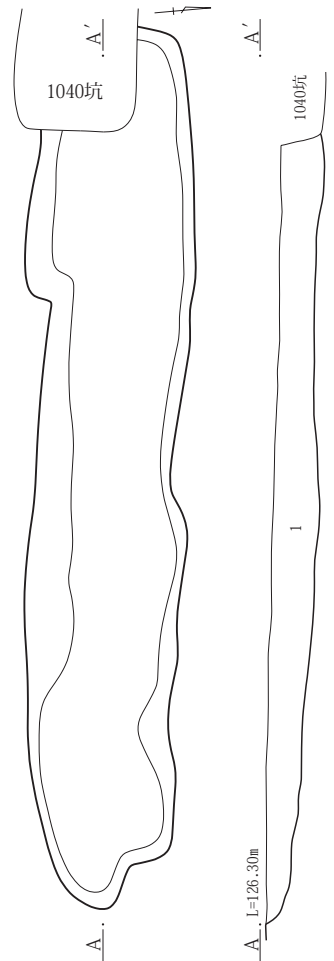
1039号土坑



1041号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、炭化物粒微量。

1041号土坑



第74図 1033～1035・1037・1038～1041・1049号土坑

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1041号土坑(第74図、PL.16)

位置 23F13・14、23G13・14、C区第2面。

重複 11号溝、1040号土坑と重複。本遺構が1040号土坑より古い。

平面形状 西側が1040号土坑と重複のため詳細不明、推定長楕円形または不整形。

長軸方位 N-84°-W。

規模 長軸4.67m、短軸0.91m、深さ0.25m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1042号土坑(第75図、PL.16)

位置 23F14、C区第2面。

重複 11号溝、1044号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形または長楕円形。

長軸方位 N-13°-E。

規模 長軸3.33m、短軸1.08m、深さ0.36m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。土師器片は混入と考えられる。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も土師器の小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1043号土坑(第75図、PL.16)

位置 23G14、C区第2面。

重複 東側が1044号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 1044号土坑と重複のため詳細不明、推定長楕円形。

長軸方位 N-82°-W。

規模 長軸(1.45)m、短軸0.67m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 中世在地系土器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1044号土坑(第75図、PL.16)

位置 23F14、23G14、C区第2面。

重複 1042・1043号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側が1042号土坑と重複のため詳細不明、推定長楕円形。

長軸方位 N-82°-W。

規模 長軸(2.41)m、短軸0.79m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1045号土坑(第75図)

位置 23E14、23F14、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-80°-W。

規模 長軸(1.07)m、短軸0.54m、深さ0.13m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1046号土坑(第75図)

位置 23E16・17、23F16・17、C区第2面。

重複 874号ピットと重複。

平面形状 長方形。

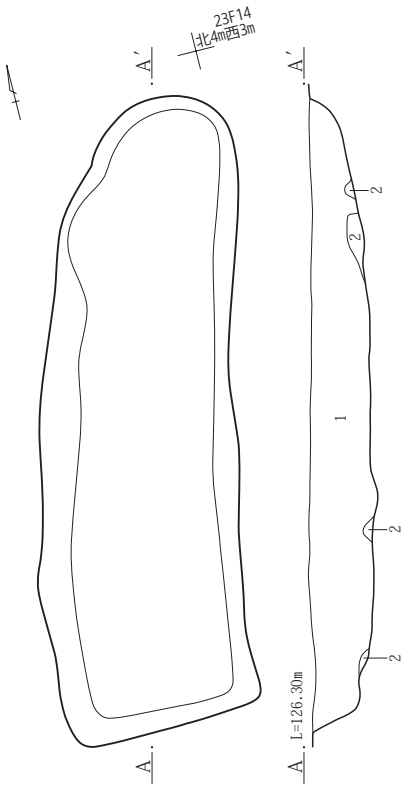
長軸方位 N-85°-E。

規模 長軸2.48m、短軸0.94m、深さ0.32m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

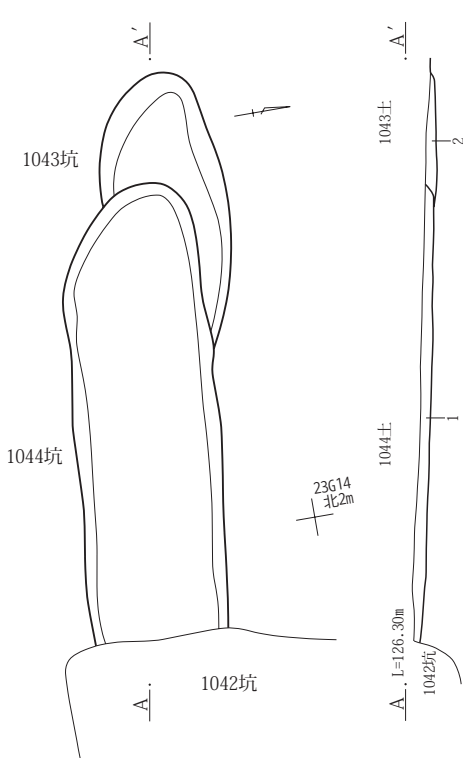
1042号土坑



1042号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石微量。粘性あり。

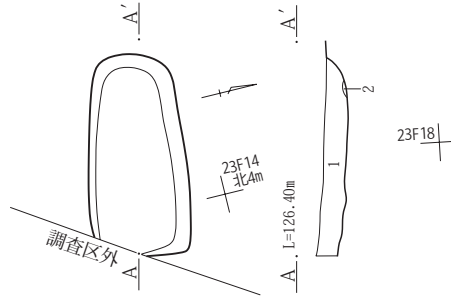
1043・1044号土坑



1043・1044号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR2/2) 粒状軽石少量、塊状黄橙色粘質土(10YR7/3)微量。やや粘性。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量、塊状黄橙色粘質土(10YR7/3)微量。やや粘性。

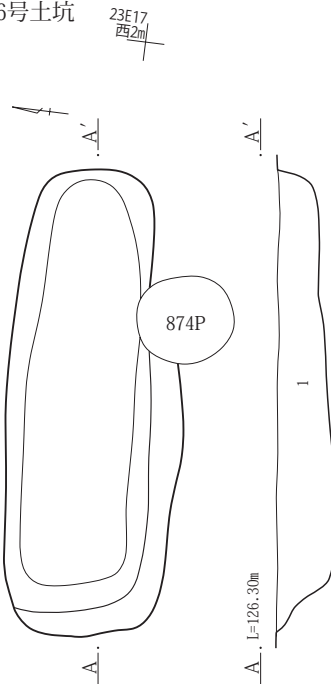
1045号土坑



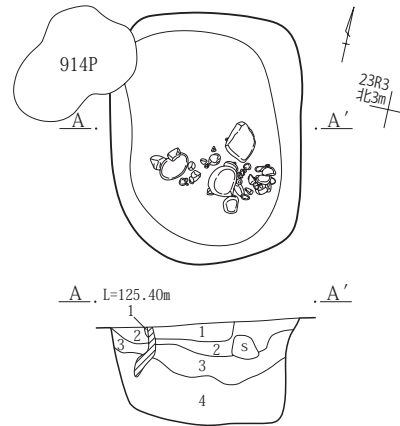
1045号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。
2. 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石微量。粘性あり。

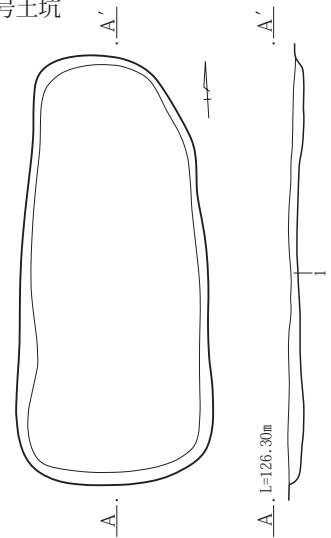
1046号土坑



1051号土坑



1047号土坑



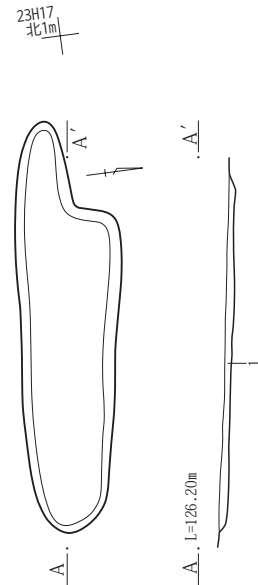
1047号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。

1046号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。

1050号土坑



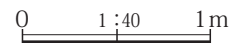
1050号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粒状軽石少量。

1051号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) As-B多量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石微量。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 小塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)多量、粒状軽石少量。

第75図 1042～1047・1050・1051号土坑



所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1047号土坑(第75図、PL.16)

位置 23E17・18、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-4°-E。

規模 長軸2.27m、短軸1.04m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1049号土坑(第74図、PL.16)

位置 23G13・14、23H14、C区第2面。

重複 1040号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側が1040号土坑と重複のため詳細不明、推定長方形。

長軸方位 N-85°-W。

規模 長軸(1.19)m、短軸0.57m、深さ0.05m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1050号土坑(第75図、PL.16)

位置 23G17、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-86°-W。

規模 長軸2.18m、短軸0.56m、深さ0.05m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1051号土坑(第75図)

位置 23R3、B区第2面。

重複 914号ピットと重複。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-15°-W。

規模 長軸1.34m、短軸1.02m、深さ0.55m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1053号土坑(第76図)

位置 23Q10、B区第2面。

重複 6号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 北側が6号溝と重複のため詳細不明、推定不整形。

長軸方位 N-87°-W。

規模 長軸1.61m、短軸(0.80)m、深さ0.18m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1054号土坑(第76図)

位置 33T13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 北東端が調査区外のため詳細不明、推定長楕円形または長方形。

長軸方位 N-79°-W。

規模 長軸(1.47)m、短軸0.81m、深さ0.22m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1055号土坑(第76図、PL.16)

位置 33T13、D区第2面。

重複 28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-86°-E。

規模 長軸1.58m、短軸0.79m、深さ0.20m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1056号土坑(第76図、PL.16)

位置 33T12、D区第2面。

重複 24・28・29号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側大半が24号溝と重複のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-9°-E。

規模 長軸1.59m、短軸(0.99)m、深さ0.18m。

埋没土層 褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1057号土坑(第76図、PL.16)

位置 33T12、D区第2面。

重複 28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側大半が24号溝と重複のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-6°-E。

規模 長軸(1.10)m、短軸(0.67)m、深さ0.11m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1058号土坑(第76図、PL.16)

位置 33T12、D区第2面。

重複 28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-12°-E。

規模 長軸(1.24)m、短軸(1.12)m、深さ0.15m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1059号土坑(第76図、PL.16)

位置 33T12、D区第2面。

重複 24・28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 東側大半が24号溝と重複のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-81°-E。

規模 長軸(0.80)m、短軸(0.75)m、深さ0.17m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1060号土坑(第76図、PL.17)

位置 33T11・12、D区第2面。

重複 28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-87°-W。

規模 長軸0.93m、短軸0.39m、深さ0.10m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1061号土坑(第76図、PL.17)

位置 33T11、D区第2面。

重複 1062号土坑と重複。本遺構が古い。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-3°-E。

規模 長軸1.61m、短軸(0.80)m、深さ0.10m。

埋没土層 褐色土主体、2層が確認された。

遺物 須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器は混入と考えられる。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も須恵器片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1062号土坑(第76図、PL.17)

位置 33 T 11、D区第2面。

重複 28号溝、1061号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-3°-E。

規模 長軸1.41m、短軸1.19m、深さ0.16m。

埋没土層 褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1063号土坑(第77図)

位置 33 T 9、34 A 9、D区第2面。

重複 24・28号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 西側が調査区外のため詳細不明、推定長楕円形または長方形。

長軸方位 N-89°-E。

規模 長軸(1.55)m、短軸0.78m、深さ0.28m。

埋没土層 褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1064号土坑(第77図、PL.17)

位置 24 C 18、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-10°-W。

規模 長軸1.38m、短軸1.09m、深さ0.23m。

埋没土層 灰褐色土主体、3層が確認された。

遺物 中世在地系土器片2点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1065号土坑(第77図、PL.17)

位置 24 C 18、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-1°-E。

規模 長軸1.89m、短軸0.87m、深さ0.29m。

埋没土層 灰褐色土主体、2層が確認された。

遺物 中世在地系土器片1点、近世施釉陶器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1066号土坑(第77図、PL.17)

位置 24 D 18・19、E区第2面。

重複 24・31号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-65°-W。

規模 長軸1.37m、短軸0.99m、深さ0.20m。

埋没土層 褐灰色土・灰褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1067号土坑(第77図、PL.17)

位置 34 D 1、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-3°-W。

規模 長軸0.79m、短軸0.63m、深さ0.28m。

埋没土層 褐灰色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1068号土坑(第77図、PL.17)

位置 34 D 1、E区第2面。

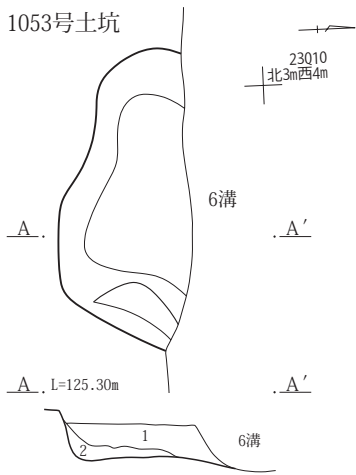
重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-67°-E。

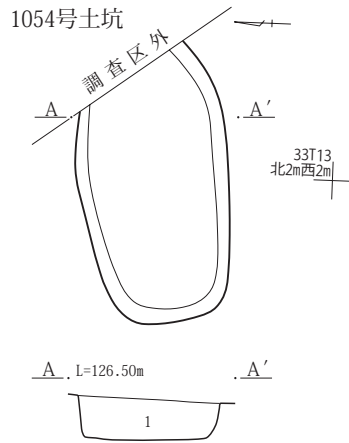
規模 長軸0.88m、短軸0.83m、深さ0.10m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。



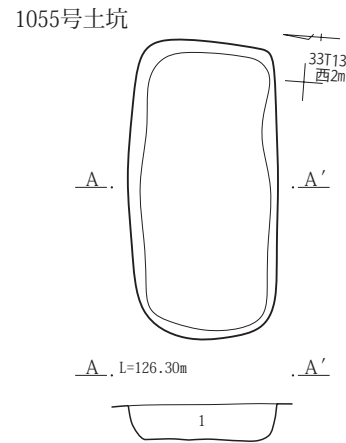
1053号土坑(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状シルト多量、微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にぶい黄橙色土(10YR7/3)・塊状Ⅷc層・塊状シルト含。



1054号土坑(D区)

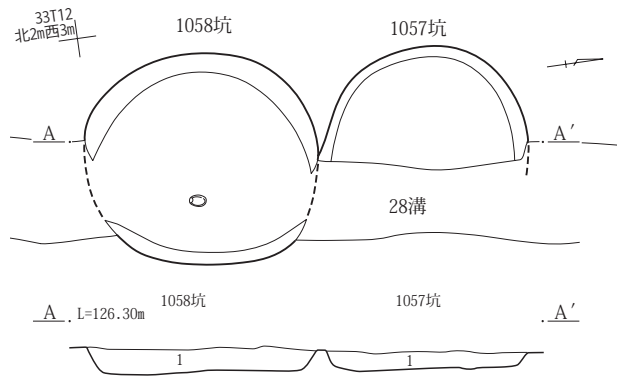
1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石少量、塊状砂・炭化物粒微量。



1055号土坑(D区)

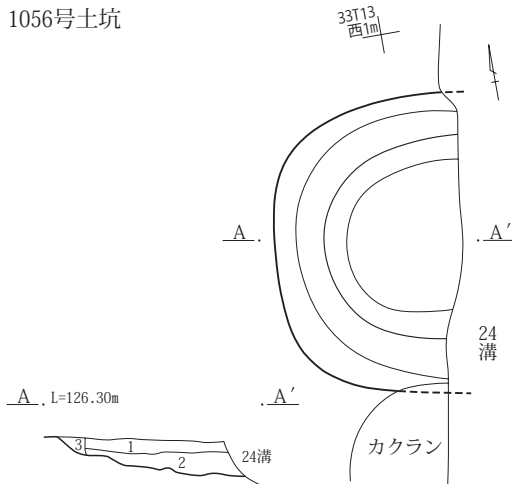
1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石少量、塊状砂・細礫微量。

1057・1058号土坑



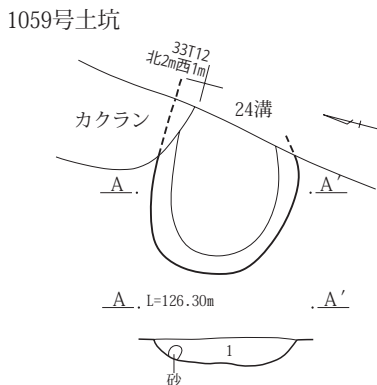
1057・1058号土坑(D区)

1. 褐色土(10YR4/6) 白色軽石少量含、塊状砂微量。



1056号土坑(D区)

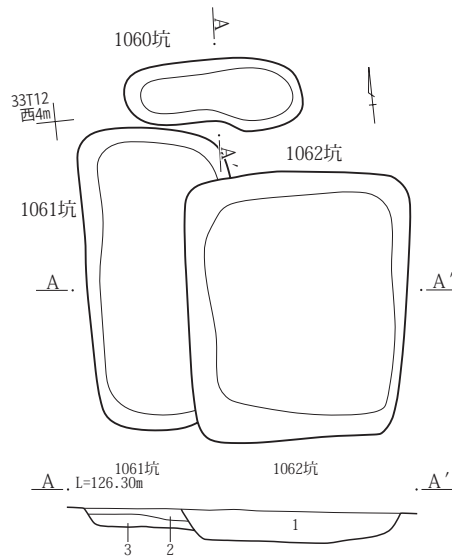
1. 褐色土(10YR4/4) 粒状炭化物・粒状焼土少量、白色軽石微量。
2. 褐色土(10YR4/6) 白色軽石少量。
3. 褐色土(10YR4/6) やや粘性。白色軽石多量。



1059号土坑(D区)

1. 褐色土(10YR4/6) 白色軽石少量含、塊状砂微量。

1060・1061・1062号土坑

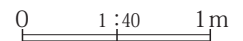


1060号土坑(D区)

1. 褐色土(10YR4/4) Ⅱc層多量。

1061・1062号土坑(D区)

1. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石・塊状Ⅱc層少量。
2. 褐色土(10YR4/4) 白色軽石・砂少量。
3. 褐色土(10YR4/6) 白色軽石少量、砂微量。



第76図 1053～1062号土坑

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1069号土坑(第77図、PL.17)

位置 34D 1、34E 1、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径0.70m、深さ0.27m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1070号土坑(第77図)

位置 33T 11、D区第2面。

重複 28号溝と重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-20°-E。

規模 長軸0.55m、短軸0.40m、深さ0.16m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。ピットである可能性が考えられる。

1075号土坑(第77図、PL.17)

位置 23N 14、23O 14、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-89°-W。

規模 長軸2.21m、短軸0.73m、深さ0.12m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1076号土坑(第78図、PL.17)

位置 23N 13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-1°-W。

規模 長軸2.29m、短軸0.77m、深さ0.14m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1077号土坑(第78図、PL.17)

位置 23N 13、23O 13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-4°-W。

規模 長軸1.32m、短軸1.22m、深さ0.31m。

埋没土層 橙色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1080号土坑(第78図、PL.17)

位置 23R 14、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-76°-W。

規模 長軸1.28m、短軸0.61m、深さ0.15m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1081号土坑(第78図、PL.17)

位置 23P 14、23Q 14、D区第2面。

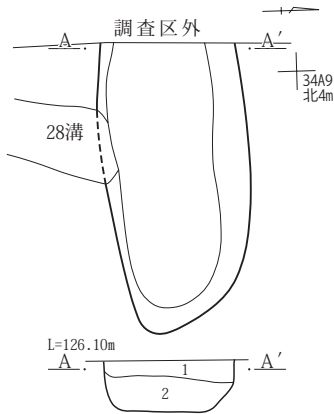
重複 なし。

平面形状 北・東側が攪乱のため詳細不明、推定長方形。

長軸方位 N-7°-W。

規模 長軸(0.88)m、短軸(0.77)m、深さ0.12m。

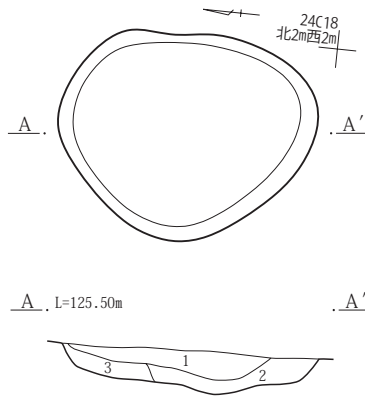
1063号土坑



1063号土坑(D区)

1. 褐色土(10YR4/4) II c層多量、白色軽石少量。
2. 褐色土(10YR4/6) 白色軽石少量、砂微量。底面に砂堆積(流水の痕跡か)。

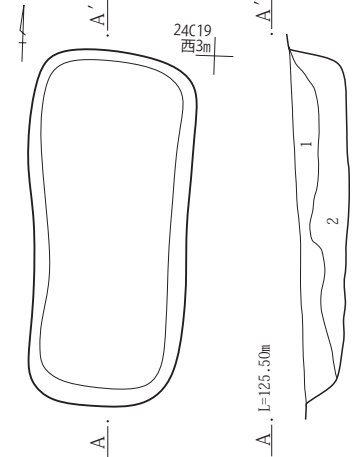
1064号土坑



1064号土坑(E区)

1. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粒状軽石含有。
2. 灰褐色土(7.5YR4/2) 明褐色土(7.5YR7/2)極多量。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2) 塊状明褐色土(7.5YR7/2)少量、粒状軽石微量。

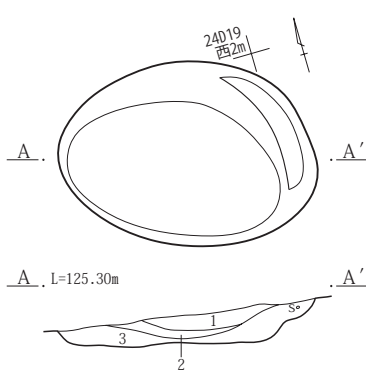
1065号土坑



1065号土坑(E区)

1. 灰褐色土(7.5YR4/2) 粒状軽石極微量。
2. 褐色土(7.5YR4/1) 粒状軽石微量。

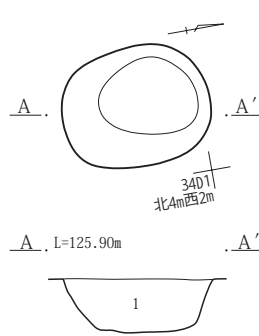
1066号土坑



1066号土坑(E区)

1. 明褐色土(7.5YR7/2)。
2. 褐色土(7.5YR4/1) As-B含。
3. 灰褐色土(7.5YR4/2) As-B含。

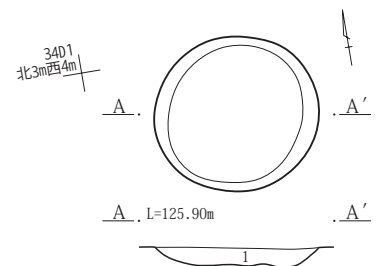
1067号土坑



1067号土坑(E区)

1. 灰褐色土(7.5YR4/2) 塊状明褐色土(7.5YR7/2)含。

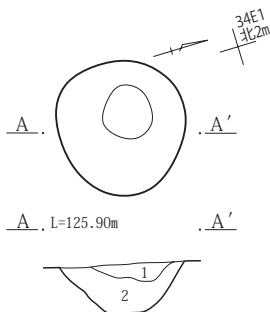
1068号土坑



1068号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状明褐色土(7.5YR7/2)・塊・粒状軽石含。

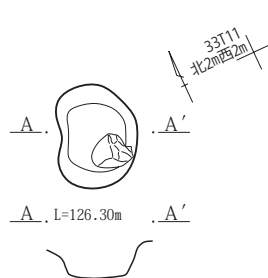
1069号土坑



1069号土坑(E区)

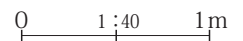
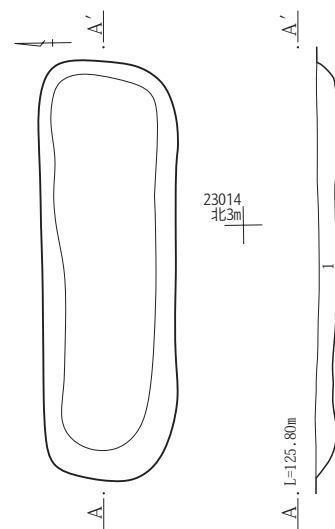
1. 黒褐色土(10YR3/2)。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 塊状明褐色土(7.5YR7/2)・粒状軽石少量。

1070号土坑



1075号土坑(D区)

1. 黒褐色土(7.5YR3/1) 粒状軽石少量。



第77図 1063～1070・1075号土坑

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1083号土坑(第78図)

位置 23M12・13、D区第2面。

重複 2号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-25°-E。

規模 長軸(1.66)m、短軸0.68m、深さ0.43m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1084号土坑(第78図)

位置 23M13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-2°-E。

規模 長軸1.88m、短軸0.56m、深さ0.29m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1085号土坑(第78図、PL.18)

位置 23S20、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-37°-W。

規模 長軸2.21m、短軸0.93m、深さ0.07m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑である可能性が考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判

別できなかった。

1086号土坑(第78図、PL.18)

位置 23T19・20、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-12°-E。

規模 長軸1.20m、短軸0.68m、深さ0.20m。

埋没土層 不明。

遺物 鉄製品16点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑である可能性が考えられる。出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1087号土坑(第78図、PL.18)

位置 24A20、D区第2面。

重複 24号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸1.63m、短軸0.64m、深さ0.25m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1088号土坑(第78図、PL.18)

位置 33T1・2、34A1・2、D区第2面。

重複 24・43号溝、1089号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 長方形。

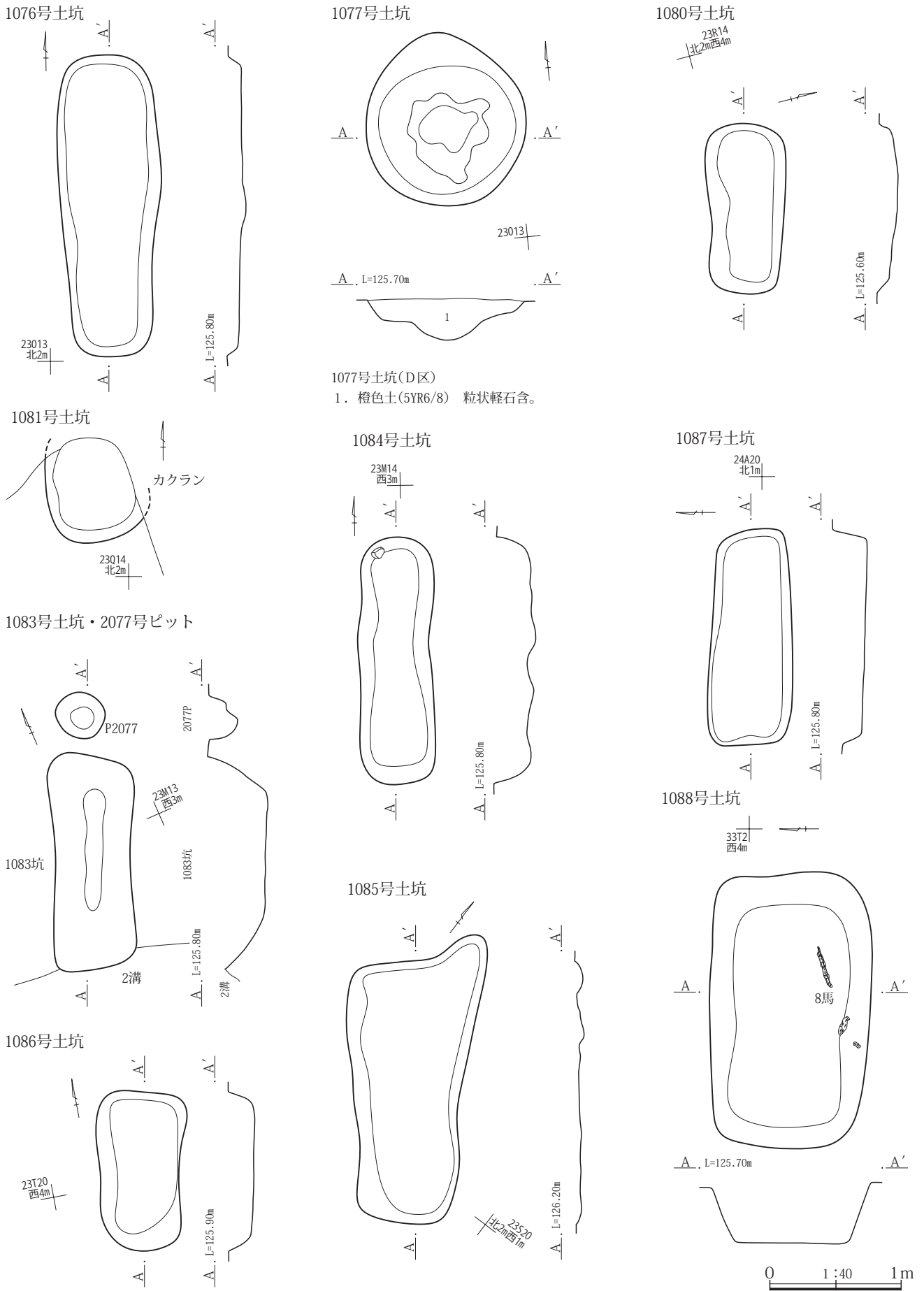
長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸2.10m、短軸1.21m、深さ0.46m。

埋没土層 不明。

遺物 8号馬骨が出土しており、詳細は第4章第3節を参照。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。8号馬骨のほか出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



第78図 1076・1077・1080・1081・1083～1088号土坑、2077号ピット

1089号土坑(第79図)

位置 34A 1・2、D区第2面。

重複 24号溝、1088号土坑と重複。本遺構が1088号土坑より古く、24号溝より新しい。

平面形状 北東側が1088号土坑と重複のため詳細不明、推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-26°-E。

規模 長軸(1.89)m、短軸0.70m、深さ0.16m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1091号土坑(第79図、PL.18)

位置 34F 11、34G 11、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.25m、短軸0.76m、深さ0.06m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1092号土坑(第79図、PL.18)

位置 34F 9・10、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 北側が攪乱のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-87°-E。

規模 長軸0.97m、短軸(0.81)m、深さ0.07m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1093号土坑(第79図)

位置 34F 10、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 南側が攪乱のため詳細不明、推定長方形また

は長楕円形。

長軸方位 N-88°-E。

規模 長軸(1.87)m、短軸(0.19)m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑である可能性が考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1094号土坑(第79図)

位置 34F 9、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 南側が攪乱のため詳細不明、推定長方形または長楕円形。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸(1.46)m、短軸(0.77)m、深さ0.21m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑である可能性が考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1095号土坑(第79図)

位置 34E 9、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 南側が攪乱のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-4°-E。

規模 長軸(0.75)m、短軸(0.72)m、深さ0.31m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1096号土坑(第79図、PL.18)

位置 34E 6、34F 6、E区第2面。

重複 3号竪穴住居と重複。本遺構が新しい。

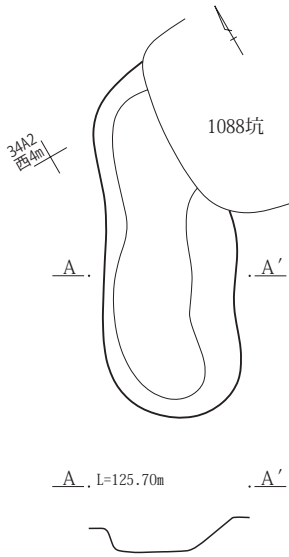
平面形状 長方形。

長軸方位 N-87°-E。

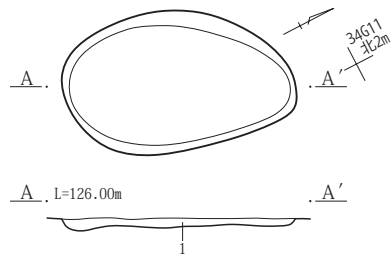
規模 長軸4.26m、短軸0.77m、深さ0.39m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

1089号土坑



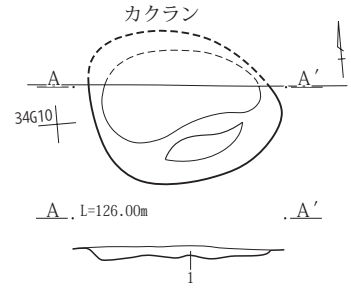
1091号土坑



1091号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石含。

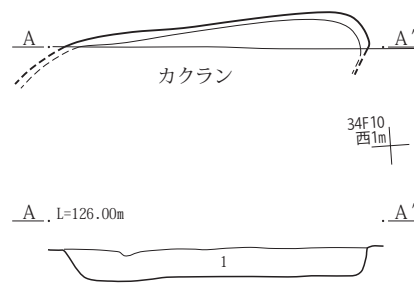
1092号土坑



1092号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石含。

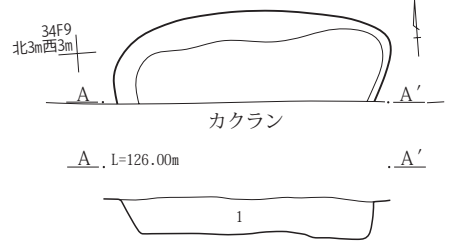
1093号土坑



1093号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石・小塊状黒褐色土(7.5YR3/2)含。

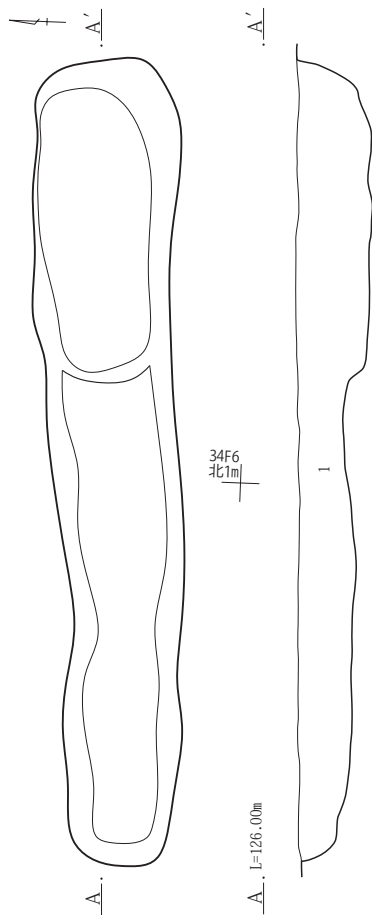
1094号土坑



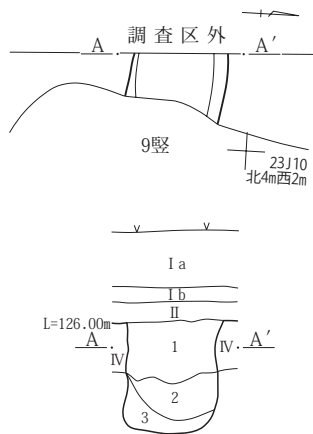
1094号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石・小塊状黒褐色土(7.5YR3/2)含。

1096号土坑



1097号土坑



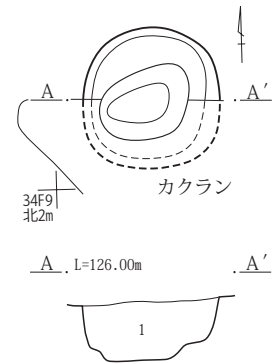
1096号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石・小塊状黒褐色土(7.5YR3/2)含。

1097号土坑(C区)

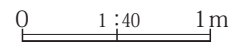
1. 暗褐色土(10YR3/3) 粒状軽石少量。
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3) 砂質。粒状軽石微量、塊状ににぶい黄褐色土(10YR6/4)含。
3. 暗褐色土(10YR3/4) 粒状軽石極微量。

1095号土坑



1095号土坑(E区)

1. 黒褐色土(10YR2/3) 粒状軽石・小塊状黒褐色土(7.5YR3/2)含。



第79図 1089・1091～1097号土坑

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1097号土坑(第79図)

位置 23J 10、C区第2面。

重複 4号竪穴状遺構と重複。

平面形状 東側が4号竪穴状遺構と重複、西側が調査区外のため詳細不明。

長軸方位 計測不能。

規模 長軸0.51m、短軸(0.37)m、深さ0.33m。

埋没土層 暗褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1102号土坑(第80図)

位置 33T 4、D区第2面。

重複 24号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-3°-E。

規模 長軸0.86m、短軸0.57m、深さ0.10m。

埋没土層 黒色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1103号土坑(第80図)

位置 23M17・18、D区第2面。

重複 54号溝と重複。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-30°-W。

規模 長軸1.11m、短軸1.06m、深さ0.26m。

埋没土層 不明。

遺物 須恵器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。須恵器は混入と考えられる。

所見 出土遺物も須恵器片のみであり、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1104号土坑(第80図)

位置 23H12、C区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-50°-W。

規模 長軸1.12m、短軸0.99m、深さ0.15m。

埋没土層 黒色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1105号土坑(第81図)

位置 23S 1付近、B区第2面。

重複 1106・1107・1116号土坑と重複。本遺構が1106・1107号土坑より新しい。

平面形状 断面のみ確認のため、不明。

長軸方位 不明。

規模 深さ0.36m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 断面のみ確認のため詳細不明。

1106号土坑(第81図)

位置 23R 1・2、23S 1・2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1005・1116・1117号土坑、894号ピットと重複。本遺構が1105号土坑より古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-60°-E。

規模 長軸(4.42)m、短軸(2.10)m、深さ0.47m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1107号土坑(第81図)

位置 23R 2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1105・1108~1110・1116・1117号土坑、2130号ピットと重複。本遺構が1105号土坑より古く、1108号土坑より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-80°-E。

規模 長軸(1.30)m、短軸(0.80)m、深さ0.49m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1108号土坑(第81図)

位置 23R 2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1107・1109・1117土坑と重複。本遺構が1107号土坑より古く、1109号土坑より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-84°-E。

規模 長軸1.11m、短軸(0.75)m、深さ0.46m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1109号土坑(第81図)

位置 23R 2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1107・1108・1110・1115・1117号土坑と重複。本遺構が1108号土坑より古く、1110号土坑、893号ピットより古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-24°-W。

規模 長軸(1.47)m、短軸(0.74)m、深さ0.46m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1110号土坑(第81図)

位置 23R 2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、21号溝、1107・1109号土坑、893号ピットと重複。本遺構が1109号土坑、893号ピットより古い。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸2.42m、短軸0.91m、深さ0.39m。

埋没土層 黒褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1111号土坑(第81図)

位置 23R 2付近、B区第2面。

重複 1112・1114号土坑と重複。本遺構が新しい。

平面形状 断面のみ確認のため、不明。

長軸方位 不明。

規模 深さ0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 断面のみ確認のため詳細不明。

1112号土坑(第81図)

位置 23Q 1・2、23R 1・2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1111・1114・1115号土坑、981～983号ピットと重複。本遺構が1111号土坑より古く、14号竪穴状遺構、1114号土坑より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-22°-W。

規模 長軸2.18m、短軸2.05m、深さ0.37m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1114号土坑(第81図)

位置 23R 1・2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1111・1112・1115～1117号土坑と重複。本遺構が1111・1112号土坑より古く、14号竪穴状遺構より新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-78°-E。

規模 長軸4.03m、短軸(1.64)m、深さ0.46m。

埋没土層 黒褐色土主体、4層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1115号土坑(第81図)

位置 23R 1・2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1109・1112・1114・1117号土坑、984号ピットと重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-75°-E。

規模 長軸1.27m、短軸1.00m、深さ0.69m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1116号土坑(第81図)

位置 23R 2、23S 2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1105~1107・1114・1117号土坑と重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-85°-W。

規模 長軸2.13m、短軸(0.91)m、深さ0.53m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1117号土坑(第81図)

位置 23Q 1・2、B区第2面。

重複 14号竪穴状遺構、1106~1109・1114~1116号土坑と重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-60°-E。

規模 長軸2.27m、短軸1.18m、深さ0.69m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2073号土坑(第80図、PL.18)

位置 23Q13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 北東側が攪乱のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-54°-E。

規模 長軸(0.73)m、短軸(0.63)m、深さ0.24m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2080号土坑(第80図)

位置 23M13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 東端が攪乱のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-88°-W。

規模 長軸(0.97)m、短軸0.61m、深さ0.17m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2081号土坑(第80図)

位置 23M13、D区第2面。

重複 なし。

平面形状 推定楕円形。

長軸方位 N-7°-E。

規模 長軸1.17m、短軸(0.91)m、深さ0.63m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 底面の状況から複数のピットが重複している可能性がある。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2083号土坑(第80図、PL.18)

位置 23H10、C区第2面。

重複 2084号ピットと重複。本遺構が古い。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-50°-E。

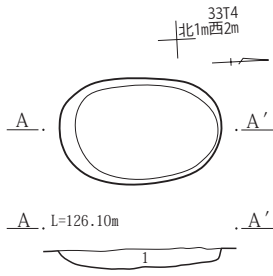
規模 長軸0.93m、短軸0.89m、深さ0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

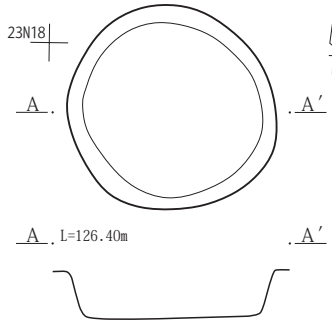
1102号土坑



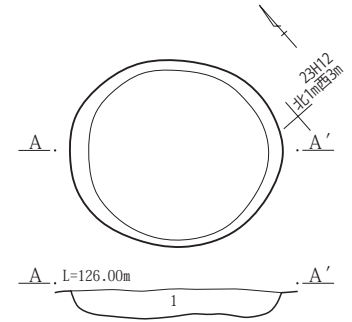
1102号土坑(D区)

1. 黒色土(10YR2/1) As-B多量、粒状軽石少量。

1103号土坑



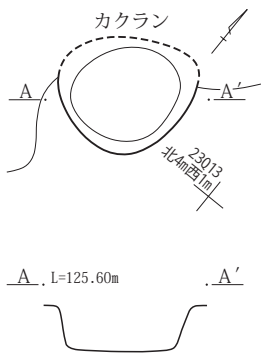
1104号土坑



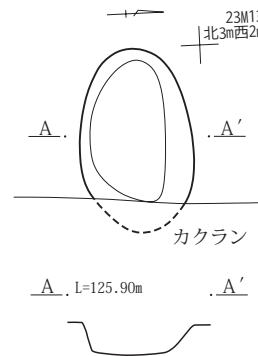
1104号土坑(C区)

1. 黒色土(10YR2/1) 粒状軽石少量、As-B含。

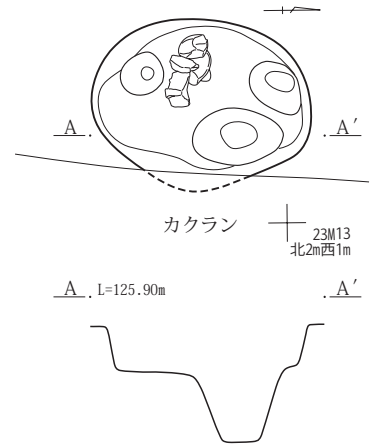
2073号土坑



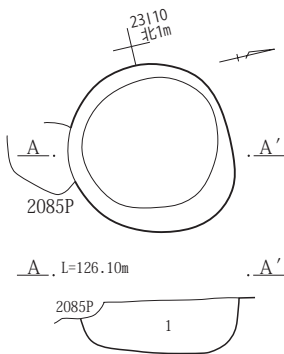
2080号土坑



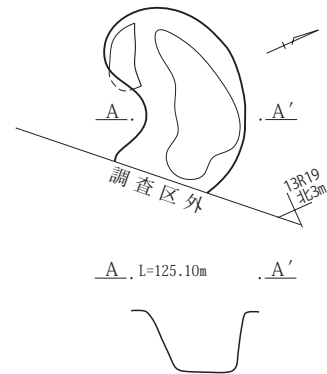
2081号土坑



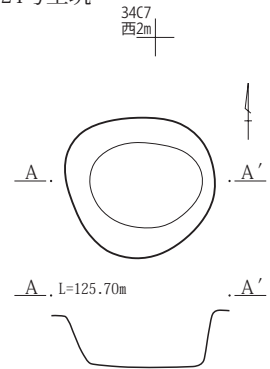
2083号土坑



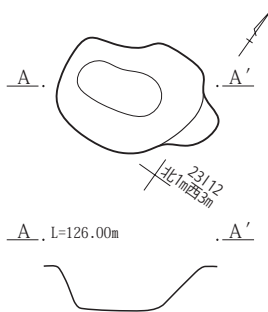
2095号土坑



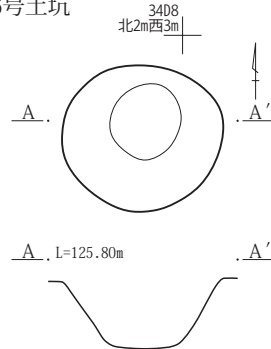
2124号土坑



2094号土坑

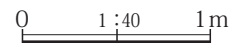


2126号土坑

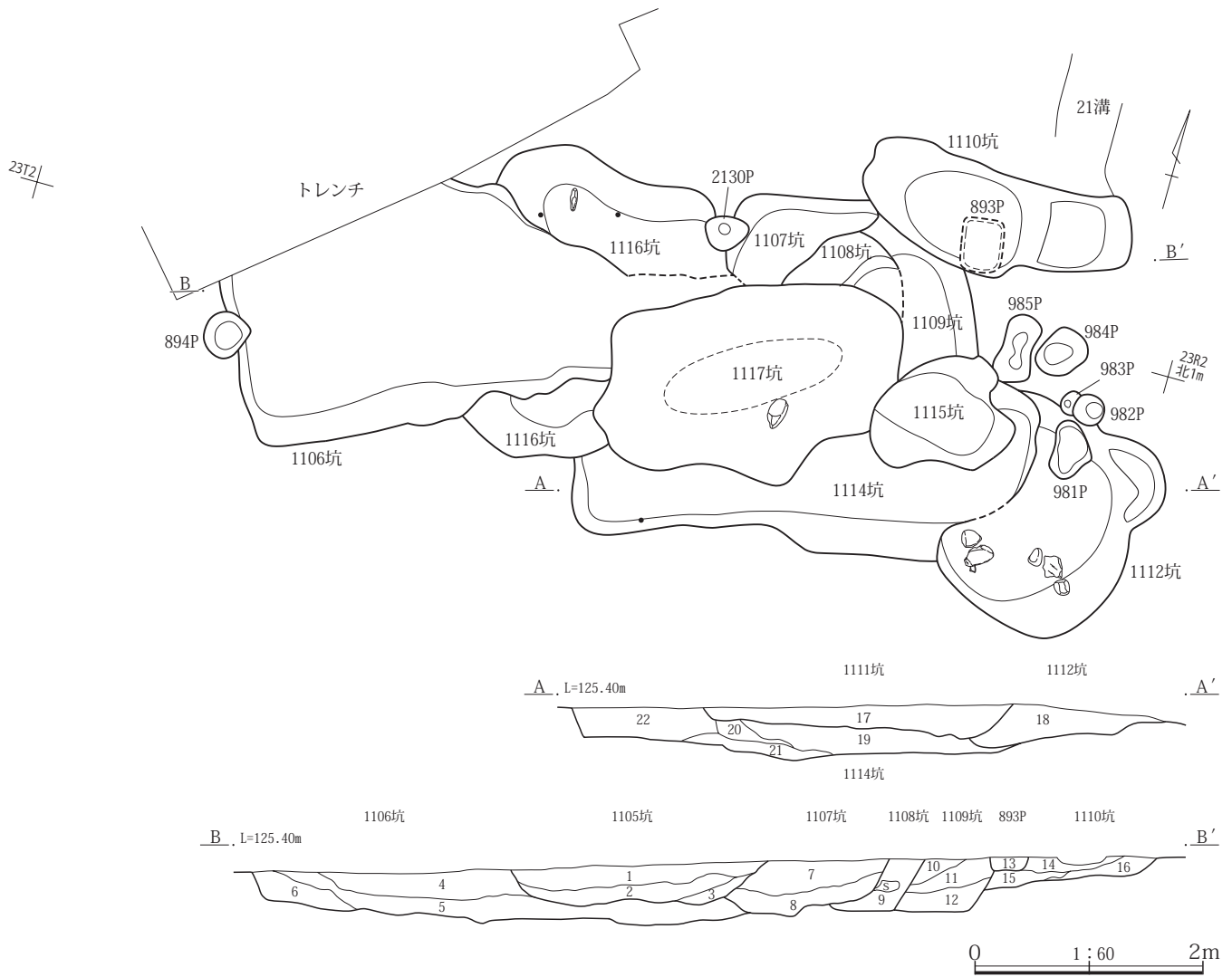


2083号土坑(C区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石少量。



第80図 1102 ~ 1104・2073・2080・2081・2083・2094・2095・2124・2126号土坑



1105～1112・1114～1117号土坑・893・894・981～985・2130号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状炭化物少量、粗粒状軽石・粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量。
2. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量。
3. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量。
4. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粗粒軽石微量。
5. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)極微量、塊状暗褐色土(7.5YR3/3)含。
6. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粗粒軽石極微量。
7. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒暗褐色土(7.5YR3/3)少量、粗粒軽石・粒状焼土微量。細粒状軽石(As-Bか)含。
8. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状焼土若干、塊状焼土少量、細粒軽石(As-Bか)含。
9. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒軽石・細粒軽石(As-Bか)・粒状焼土少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量。
10. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状焼土少量、粗粒軽石・小塊状焼土微量、細粒軽石(As-Bか)含。
11. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粒状焼土微量。
12. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、塊状暗褐色土(7.5YR3/3)含。
13. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量、細粒軽石(As-Bか)含。
14. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒軽石・塊状暗褐色土(7.5YR3/3)少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量、細粒軽石(As-Bか)含。
15. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、塊状暗褐色土(7.5YR3/3)含。
16. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)・粗粒暗褐色土(7.5YR3/3)少量。
17. 黒褐色土(10YR3/1) 粒状焼土少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)微量、細粒状軽石(As-Bか)含。
18. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粒状軽石(Hr-FA・FPか)・塊状焼土・小塊状焼土・粒状焼土含。
19. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量、粗粒焼土極微量。
20. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)少量。
21. 黒褐色土(10YR3/1) 細粒軽石(As-Bか)極微量、塊状暗褐色土(7.5YR3/3)含。
22. 黒褐色土(10YR3/1) 粗粒軽石・粒状炭化物微量、細粒軽石(As-Bか)含。

第81図 1105～1112・1114～1117号土坑、893・894・981～985・2130号ピット

2094号土坑(第80図)

位置 23 I 12、C区第2面。

重複 52号溝と重複。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-82°-E。

規模 長軸0.85m、短軸0.63m、深さ0.24m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2095号土坑(第80図)

位置 13 R 19、B区第2面。

重複 なし。

平面形状 南東側が調査区外、不整形。

長軸方位 N-85°-E。

規模 長軸1.00m、短軸(0.84)m、深さ0.33m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2124号土坑(第80図)

位置 34 C 6、E区第2面。

重複 11号竪穴状遺構と重複。本遺構が新しい。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-65°-W。

規模 長軸0.81m、短軸0.77m、深さ0.29m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2126号土坑(第80図)

位置 34 D 8、E区第2面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-72°-W。

規模 長軸0.86m、短軸0.79m、深さ0.36m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

2. 第3面の土坑

959号土坑(第82図)

位置 33 P 8・9、D区第3面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-51°-E。

規模 長軸1.49m、短軸0.50m、深さ0.04m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 形状から、俗称「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1071号土坑(第82図、PL.18)

位置 23 R 3、B区第3面。

重複 3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-30°-W。

規模 長軸1.03m、短軸0.96m、深さ1.32m。

埋没土層 黒褐色土主体、6層が確認された。

遺物 なし。

所見 土層断面から、井戸である可能性も考えられる。出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1072号土坑(第82図)

位置 23 P 4、B区第3面。

重複 3号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

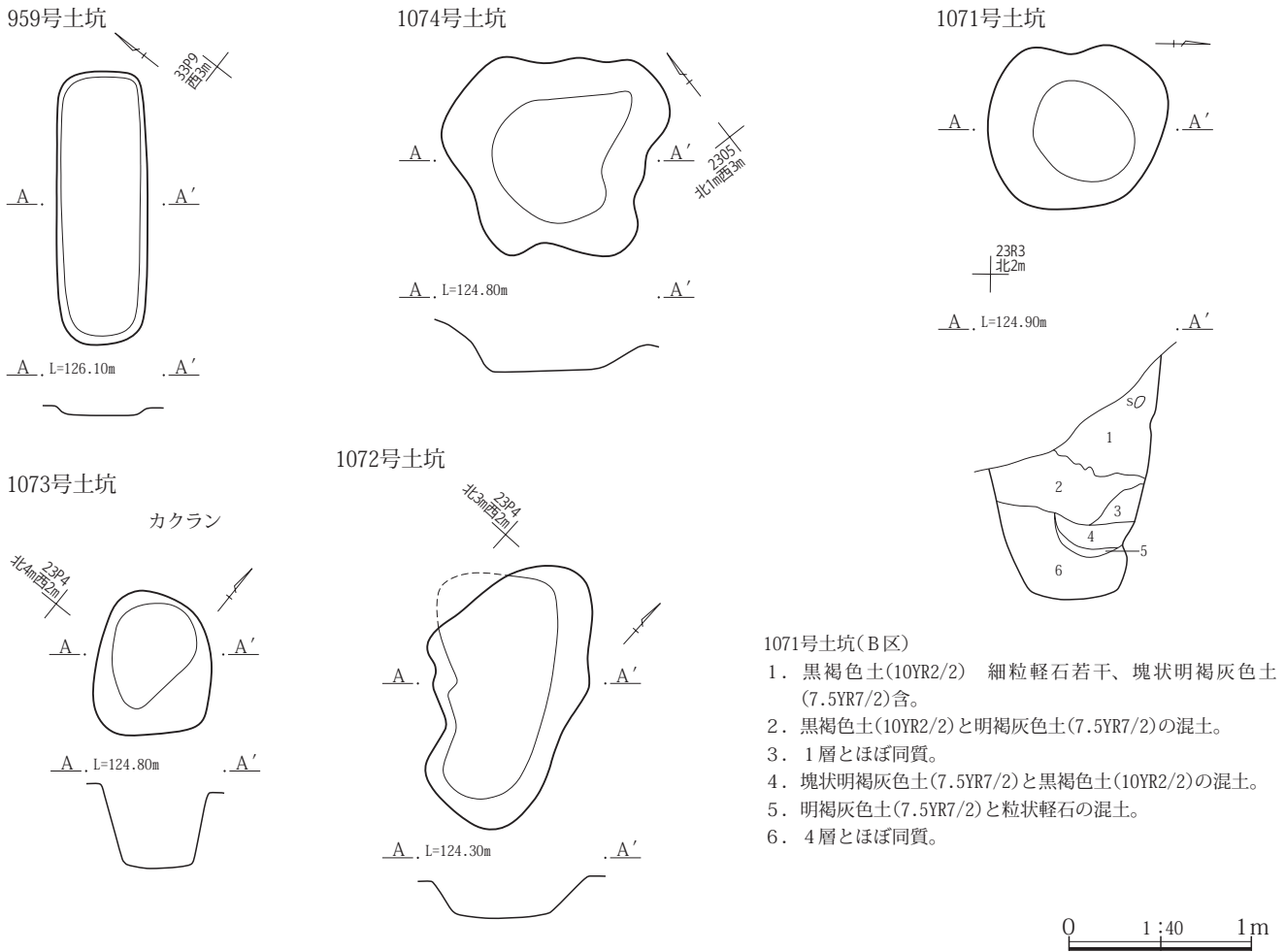
長軸方位 N-24°-W。

規模 長軸1.49m、短軸0.91m、深さ0.21m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。



第82図 959・1071～1074号土坑

1073号土坑(第82図、PL.18)

位置 23P 4、B区第3面。

重複 3・50号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-38°-W。

規模 長軸0.79m、短軸0.63m、深さ0.45m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1074号土坑(第82図)

位置 23O 5、B区第3面。

重複 50号溝と重複。本遺構が新しい。

平面形状 不整形。

長軸方位 N-83°-E。

規模 長軸1.27m、短軸1.24m、深さ0.28m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

3. 第4面の土坑

1052号土坑(第83図)

位置 14D19、A区第4面。

重複 2号溝と重複。本遺構が古い。

平面形状 西側が調査区外のため詳細不明、推定楕円形。

長軸方位 N-6°-W。

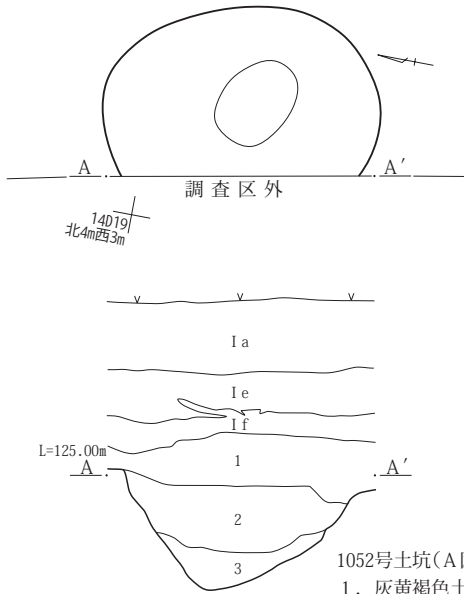
規模 長軸1.47m、短軸(0.90)m、深さ0.60m。

埋没土層 褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

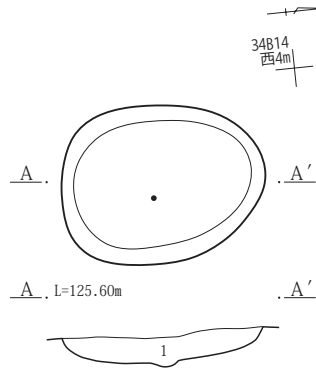
1052号土坑



1052号土坑(A区)

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) 粗粒。Hr-FP少量、As-C粒少量。
2. 褐色土(10YR4/4) やや細粒。塊状明黄褐色シルト(10YR6/6)含。
3. にぶい黄橙色土(10YR6/3) 2層と同質。塊状黒褐色シルト(10YR3/2)含。

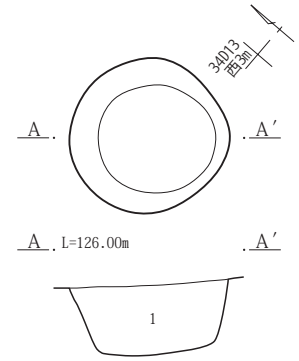
1098号土坑



1098号土坑(E区)

1. にぶい黄橙色土(10YR6/3)シルト質。塊状。

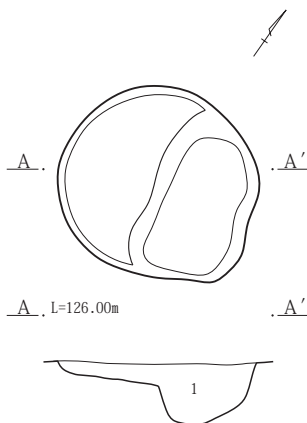
1099号土坑



1099号土坑(E区)

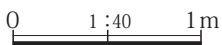
1. にぶい黄橙色土(10YR6/3)シルト質。塊状。

1101号土坑

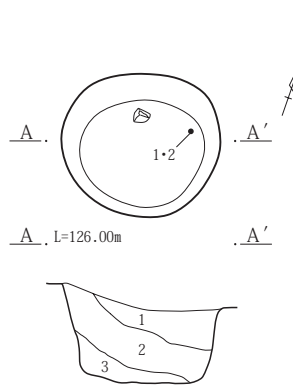


1101号土坑(E区)

1. 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質。粒状軽石少量。



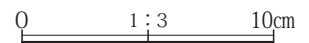
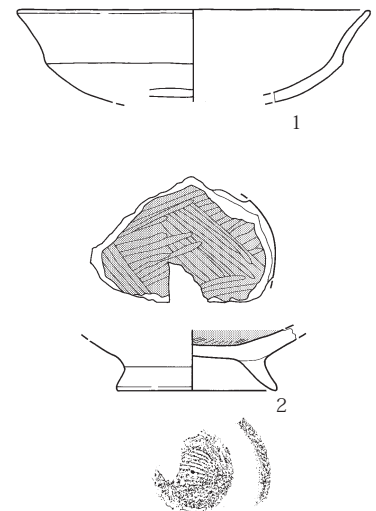
1100号土坑



1100号土坑(E区)

1. 灰黄褐色土(10YR5/2) シルト質。粗粒炭化物含。
2. にぶい黄橙色土(10YR6/3) シルト質。塊状。
3. 1層とほぼ同質。

1100号土坑出土遺物



第83図 1052・1098～1101号土坑

1098号土坑(第83図、PL.19)

位置 34B13、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-2°-W。

規模 長軸1.09m、短軸0.84m、深さ0.16m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 土師器片1点が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

所見 出土遺物も小破片のみであり、本遺構の時期は詳

しく判別できなかった。

1099号土坑(第83図、PL.19)

位置 34D12・13、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 円形。

長軸方位 計測不能。

規模 径0.84m、深さ0.37m。

埋没土層 にぶい黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

1100号土坑(第83図、PL.19・26)

位置 34B11、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-71°-E。

規模 長軸0.84m、短軸0.75m、深さ0.37m。

埋没土層 灰黄褐色土・にぶい黄褐色土主体、3層が確認された。

遺物 土師器杯1点(1)、椀1点(2)を図示した。

所見 出土遺物(2)から、本遺構の時期は10世紀と推定される。

1101号土坑(第83図)

位置 34E12、E区第4面。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

長軸方位 N-79°-W。

規模 長軸1.11m、短軸1.01m、深さ0.32m。

埋没土層 灰黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 出土遺物もなく、本遺構の時期は詳しく判別できなかった。

4. ピット

ピットについては、調査面ごとに一覧表にまとめた(第8表参照)。全1068基のうち1063基が第2面のものであり、さらに1・2号溝区画内のB区に950基、D区に68基が集中している(付図7-1~5)。

第8表 ピット一覧表

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		1	B	2	23N4	ほぼ円形	0.24	0.21	0.04		
第84図		3	B	2	2304	隅丸長方形	0.34	0.27	0.09		
		4	B	2	2304	楕円形	0.29	0.24	0.06		
第84図		5	B	2	23N3	隅丸方形	0.39	0.34	0.04		
		6	B	2	2303・4	方形	0.36	0.34	0.06		
		7	B	2	2303	楕円形	0.39	0.38	0.04		
		8	B	2	2303	楕円形	0.27	0.24	0.03		
		9	B	2	2303	ほぼ円形	0.32	0.29	0.06		
		10	B	2	2303	楕円形	0.49	0.44	0.07		
		11	B	2	2303	楕円形	0.25	0.23	0.09	12P	
		12	B	2	2303	(楕円形)	0.20	(0.18)	0.06	11P	
		13	B	2	2303	ほぼ円形	0.16	0.15	0.04		
		14	B	2	2303	楕円形	0.17	0.15	0.06		
		15	B	2	2303	楕円形	0.23	0.21	0.08		
		16	B	2	2304	楕円形	0.36	0.24	0.12		
		17	B	2	2304	楕円形	0.32	0.27	0.03		
		18	B	2	2304	楕円形	0.27	0.19	0.03		
		19	B	2	2305	楕円形	0.18	0.14	0.04		
		20	B	2	23P5	方形	0.23	0.22	0.06		中世在地系土器皿1。
		21	B	2	23P4	不整形	0.60	0.31	0.07		2基重複か。
第84図	PL.26	22	B	2	23P4	楕円形	0.30	0.24	0.03		▲近世国産施釉陶器片1。
		23	B	2	23P4	楕円形	0.30	0.27	0.04		
		24	B	2	23P4	楕円形	0.65	0.31	0.04		
		26	B	2	23P4	隅丸方形	0.21	0.20	0.08		
		27	B	2	23P4	楕円形	0.38	0.30	0.09		
		28	B	2	23P3	楕円形	0.28	0.27	0.04		
		29	B	2	23P4	隅丸方形	0.28	0.22	0.08		
		30	B	2	23P3	楕円形	0.23	0.20	0.06		
第84図		31	B	2	23P4・5	楕円形	0.65	0.64	0.03		
		32	B	2	23P4	楕円形	0.26	0.25	0.04		
		34	B	2	23P4	楕円形	0.20	0.17	0.06		
		35	B	2	23P4	楕円形	0.50	0.45	0.15		
		36	B	2	23P4	楕円形	(0.28)	0.32	0.03	37P	
		37	B	2	23P4	楕円形	(0.28)	0.32	0.05	36P	
		38	B	2	23P4	楕円形	0.29	0.21	0.07		

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		39	B	2	23P4	長方形	0.46	0.26	0.04		
		40	B	2	23P4	隅丸方形	0.23	0.22	0.04		
		41	B	2	23P4	楕円形	0.36	0.35	0.09		
		42	B	2	23P4	楕円形	0.16	0.15	0.02		
		43	B	2	23P3	楕円形	0.27	0.24	0.03		
		44	B	2	23P3	楕円形	0.28	0.25	0.07		
		45	B	2	23P3	楕円形	0.32	0.28	0.05		
		46	B	2	23P3	楕円形	0.25	0.18	0.05		
		47	B	2	23P3	楕円形	0.19	0.15	0.04		
		48	B	2	23P3	隅丸方形	0.40	0.33	0.03	432P	
		49	B	2	23P4	楕円形	0.20	0.19	0.06		
		50	B	2	23Q4	楕円形	0.36	0.33	0.11		
		51	B	2	23Q4	長方形	0.53	0.44	0.20		
		52	B	2	23Q3	楕円形	0.36	0.28	0.42		
		53	B	2	23Q3	不整形	0.31	0.26	0.25		
		54	B	2	23Q3	長方形	0.19	0.12	0.04		
		55	B	2	23Q3	楕円形	0.49	0.37	0.32		
		56	B	2	23Q3	楕円形	0.34	0.30	0.34		
		57	B	2	23Q3	長方形	0.11	0.08	0.03		
		58	B	2	23Q3	不整形	0.15	0.11	0.07		
		59	B	2	23P3、23Q3	楕円形	0.19	0.18	0.12		
第84図		60	B	2	23P3、23Q3	楕円形	0.37	0.32	0.22		
		61	B	2	23Q3	楕円形	0.40	0.32	0.18		
		62	B	2	23Q3	方形	0.19	0.18	0.13		
		63	B	2	23Q3	楕円形	0.21	0.20	0.18		
		64	B	2	23Q3	不整形	0.25	0.17	0.15		
		65	B	2	23Q3	ほぼ円形	0.28	0.27	0.22		
		66	B	2	23Q3	隅丸長方形	0.30	0.16	0.13		
		67	B	2	23Q3	楕円形	0.24	0.20	0.06		
		68	B	2	23Q2	不整形	0.22	0.21	0.03		
		69	B	2	23Q2	不整形	0.47	0.31	0.21	2030P(●<2030P)	
		70	B	2	23Q2	(不整形)	0.23	(0.14)	0.04	71P, 2030P(●<2030P)	
		71	B	2	23Q2	楕円形	0.42	0.40	0.37	70P, 2030P(●<2030P)	
		72	B	2	23Q2	楕円形	0.16	0.14	0.01		
		73	B	2	23P2、23Q2	方形	0.26	0.25	0.16		
		74	B	2	23Q2	楕円形	0.36	0.31	0.02		
		76	B	2	23Q2	楕円形	0.40	0.24	0.64	77P	2基重複か。
		77	B	2	23Q2	(不整形)	(0.25)	0.23	0.15	76P	
		78	B	2	23Q2	楕円形	0.28	0.22	0.33		
		79	B	2	23Q2	ほぼ円形	0.26	0.25	0.11		
		80	B	2	23Q2	不整形	0.22	0.20	0.16		
		81	B	2	23Q2	不整形	0.20	0.19	0.17		
		82	B	2	23Q2	楕円形	0.36	0.33	0.15	83P	
		83	B	2	23Q2	(長方形)	(0.28)	0.24	0.27	82P	
		84	B	2	23Q2	不整形	0.41	0.27	0.01		
		85	B	2	23Q2	(楕円形)	(0.50)	0.29	0.61	86P	
		86	B	2	23Q2	(不整形)	(0.41)	0.35	0.65	85P, 87P	
		87	B	2	23Q2	(不整形)	0.44	(0.33)	0.51	86P, 88P	
		88	B	2	23Q2	(不整形)	(0.31)	0.27	0.39	87P	
		89	B	2	23Q2	不整形	0.32	0.26	0.14		
第84図	PL.26	90	B	2	23Q2	不整形	0.56	0.42	0.32		白磁面取杯1。
		91	B	2	23Q2、23R2	楕円形	0.35	0.28	0.03		
		92	B	2	23Q2	楕円形	0.72	0.59	0.28		
		93	B	2	23Q2	隅丸方形	0.33	0.29	0.11		
		94	B	2	23Q2	楕円形	0.40	0.37	0.11	95P	
		95	B	2	23Q2	(楕円形)	0.20	(0.19)	0.06	94P	
		96	B	2	23Q2	楕円形	0.43	0.39	0.09		
		97	B	2	23Q2	楕円形	0.42	0.28	0.78		
		98	B	2	23Q2	隅丸方形	0.18	0.14	0.03		
		99	B	2	23Q2・3	不整形	0.40	0.26	0.21		
		100	B	2	23Q2・3	不整形	0.27	0.25	0.11		

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		101	B	2	23Q3	不整形	0.20	0.19	0.13		
		102	B	2	23Q2、23R2	方形	0.27	0.23	0.35		
		103	B	2	23Q3、23R3	(楕円形)	0.68	(0.51)	0.25	104P	
		104	B	2	23R3	不整形	0.91	0.52	0.66	103P	
		105	B	2	23Q3	楕円形	0.23	0.20	0.01		
		106	B	2	23Q3	(不整形)	(0.28)	0.21	0.35	107P	
		107	B	2	23Q3	楕円形	0.18	0.14	0.41	106P	
		108	B	2	23Q3	楕円形	0.25	0.22	0.21		
		109	B	2	23R2	楕円形	0.29	0.27	0.32	110P	
		110	B	2	23R2	(楕円形)	0.21	(0.19)	0.32	109P	
		111	B	2	23R2	方形	0.72	0.57	0.26		
		112	B	2	23Q2、23R2	方形	0.39	0.34	0.45		
		113	B	2	23Q2	隅丸方形	0.34	0.31	0.05		
		114	B	2	23R2	楕円形	0.27	0.21	0.08	115P,117P	
		115	B	2	23Q2	(方形)	0.35	0.34	0.09	114P,117P,118P	
		116	B	2	23Q2	方形	0.25	0.20	0.19	119P	
		117	B	2	23R2	(不整形)	0.34	(0.32)	0.03	114P,118P	
		118	B	2	23Q2、23R2	(不整形)	0.38	(0.37)	0.04	115P,117P,119P	
		119	B	2	23Q2	(不整形)	0.27	(0.21)	0.01	116P,118P	
		120	B	2	23Q1	不整形	0.33	0.32	0.08	121P	
		121	B	2	23Q1	楕円形	0.35	0.27	0.43	120P	
		122	B	2	23Q1	楕円形	0.36	0.33	0.05		
		123	B	2	23R1	円形	0.34	0.33	0.03		
		124	B	2	23R1	方形	0.24	0.19	0.28		
		125	B	2	23R1	ほぼ円形	0.29	0.28	0.21		
		126	B	2	13R19	隅丸方形	0.29	0.28	0.26		
		127	B	2	13S20	方形	0.23	0.21	0.17		
		128	B	2	13S20	不整形	0.50	0.33	0.46		2基重複か。
		129	B	2	13S20	楕円形	0.33	0.26	0.21		
		130	B	2	13S20	方形	0.31	0.29	0.03		
		131	B	2	13S20	楕円形	0.26	0.20	0.15		
		132	B	2	13S20	隅丸方形	0.24	0.22	0.17		
		133	B	2	13S20	隅丸方形	0.22	0.19	0.16		
		134	B	2	13S20	楕円形	0.23	0.15	0.07		
		135	B	2	13S20	楕円形	0.23	0.19	0.08	136P	
		136	B	2	13S20	楕円形	0.27	0.20	0.11	135P	
第73図		137	B	2	13T20	計測不能	—	—	0.33	1028坑,825P(1028坑<●)	断面のみ。
第73図	PL.16	138	B	2	13S20	楕円形	0.29	0.23	0.15	1028坑(1028坑<●)	
		139	B	2	13S20、13T20	楕円形	0.36	0.30	0.09		
		140	B	2	23T1、24A1	隅丸方形	0.63	0.47	0.11		
		141	B	2	23T2	不整形	0.45	0.30	0.43		2基重複か。
		142	B	2	23T2	楕円形	0.36	0.30	0.69		
		143	B	2	23T2	楕円形	0.50	0.41	0.15		
		144	B	2	23T2	(不整形)	0.75	(0.48)	0.71	145P	2基重複か。
		145	B	2	23T2	楕円形	0.55	0.44	0.19	144P,146P	
		146	B	2	23T2	(不整形)	0.22	(0.05)	0.05	145P	
		147	B	2	23T2	楕円形	0.54	0.31	0.35	2002P	
		148	B	2	23T2	方形	0.18	0.17	0.35	149P	
		149	B	2	23T2	(方形)	0.24	(0.19)	0.38	148P	
		150	B	2	23T2	(方形)	(0.28)	0.23	0.38	151P	
第84図	PL.26	151	B	2	23T2	隅丸方形	0.32	0.26	0.36	150P	中世在地系土器皿1。
第84図	PL.26	152	B	2	23T2	(方形)	0.34	(0.33)	0.24	153P	中世在地系土器内耳鍋1。
		153	B	2	23T2	楕円形	0.33	0.23	0.36	152P	
		154	B	2	23T2	隅丸方形	0.27	0.22	0.41		
		155	B	2	23T2	楕円形	0.35	0.30	0.31		
第84図		156	B	2	23T2	円形	0.59	0.58	0.32		
		157	B	2	23T2	(不整形)	0.38	(0.37)	0.49	158P,159P	
		158	B	2	23T2	不整形	0.45	0.35	0.54	157P,160P	
		159	B	2	23T2	(不整形)	0.50	(0.31)	0.21	157P,160P,169P	
		160	B	2	23T2	不整形	0.47	0.36	0.25	158P,159P	
		161	B	2	23T2	ほぼ円形	0.41	0.40	0.46		▲中世在地系土器片1。

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		162	B	2	23S2、23T2	隅丸方形	0.43	0.36	0.09		
		163	B	2	23S2、23T2	方形	0.28	0.21	0.41		
		164	B	2	23T2	楕円形	0.23	0.22	0.40	165P	
		165	B	2	23T2	(不整形)	(0.31)	0.24	0.33	164P	
		166	B	2	23T2	方形	0.25	0.24	0.43		
		167	B	2	23T2	ほぼ円形	0.26	0.25	0.39		
		168	B	2	23T2	楕円形	0.21	0.20	0.26		
		169	B	2	23S2、23T2	不整形	0.33	0.32	0.23	159P	▲土師器片1。
		170	B	2	23S2	不整形	0.22	0.16	0.45		
第84図	PL.26	171	B	2	23S2	楕円形	0.42	0.40	0.49		中世在地系土器内耳鍋1。
		172	B	2	23S2	隅丸方形	0.16	0.14	0.03		
		173	B	2	23S2	隅丸方形	0.38	0.37	0.07	174P	
		174	B	2	23S2	方形	0.39	0.37	0.74	173P	
		175	B	2	23S2	(楕円形)	0.52	(0.43)	0.09		
		176	B	2	23S2	(方形)	0.19	(0.16)	0.04	177P	
		177	B	2	23S2	楕円形	0.33	0.27	0.06	176P	
		178	B	2	23S2	楕円形	0.21	0.15	0.08	179P	
		179	B	2	23S2	(楕円形)	0.28	(0.23)	0.07	178P, 180P, 182P	
		180	B	2	23S2	隅丸方形	0.30	0.29	0.11	179P, 181P, 182P	
		181	B	2	23S2	(不整形)	(0.26)	0.22	0.08	180P, 182P	
		182	B	2	23S2	(不整形)	0.28	(0.23)	0.08	179P, 180P, 181P	
		183	B	2	23S2	隅丸方形	0.25	0.21	0.37	184P	
		184	B	2	23S2	(不整形)	0.26	(0.18)	0.17	183P	
		185	B	2	23S2	不整形	0.28	0.22	0.19	186P	
		186	B	2	23S2	(楕円形)	0.16	(0.15)	0.09	185P	
		187	B	2	23S2	方形	0.23	0.20	0.11		
		188	B	2	23S2	方形	0.45	0.29	0.10	189P	
		189	B	2	23S2	(方形)	(0.53)	0.37	0.37	188P	
		190	B	2	23S2・3	楕円形	0.36	0.27	0.12	7溝	
		191	B	2	23S2	楕円形	0.48	0.29	0.20		
		192	B	2	23S2	円形	1.00	0.97	0.58	7溝	
		193	B	2	23S2	不整形	0.47	0.37	0.39		2～3基重複か。
		194	B	2	23S2	(不整形)	0.75	(0.46)	0.61	195P	
第84図	PL.26	195	B	2	23S2	不整形	0.64	0.51	0.79	194P	▲中世陶器器種不明1。
		196	B	2	23S2	(楕円形)	0.87	0.68	0.37	199P	2～3基重複か。
		197	B	2	23S3	(楕円形)	0.29	0.23	0.06		
		198	B	2	23S3	隅丸方形	0.30	0.28	0.30	200P	
		199	B	2	23S2・3	楕円形	0.41	0.33	0.64	196P, 200P	3基重複か。
		200	B	2	23S2・3	(不整形)	0.49	(0.41)	0.07	198P, 199P, 201P	
		201	B	2	23S2・3	楕円形	0.37	0.28	0.32	200P, 202P	
		202	B	2	23S2	(楕円形)	0.37	(0.30)	0.25	201P, 204P, 205P	
		203	B	2	23S3	(方形)	(0.16)	0.15	0.04	204P	
		204	B	2	23S2	(方形)	0.44	(0.34)	0.11	202P, 203P, 205P	
		205	B	2	23S2	楕円形	0.41	0.35	0.62	202P, 204P, 206P	
		206	B	2	23S2	楕円形	0.33	0.31	0.61	205P	
		207	B	2	23S3	方形	0.25	0.22	0.25		
		208	B	2	23R2	ほぼ円形	0.33	0.30	0.24		
		209	B	2	23R2	ほぼ円形	0.30	0.29	0.14	896P	
		210	B	2	23R2	楕円形	0.51	0.36	0.11		
		211	B	2	23S2	不整形	0.37	0.26	0.37		
		212	B	2	23R2	(方形)	0.22	(0.20)	0.26	2020P	
		213	B	2	23R2・3	不整形	0.31	0.26	0.12	2020P	
		214	B	2	23S3	楕円形	0.21	0.18	0.10	1掘, 215P	
		217	B	2	23S3	楕円形	0.22	0.20	0.20	1掘	
		218	B	2	23S3	(方形)	0.28	(0.18)	0.27	1掘, 219P	
		219	B	2	23S3	(方形)	0.65	(0.49)	0.52	1掘, 218P, 220P, 800P	
第84図	PL.26	220	B	2	23S3	不整形	0.74	0.56	0.64	1掘, 219P, 800P	鉄製品釘1。
		221	B	2	23R3	不整形	0.33	0.25	0.36	1掘	
		222	B	2	23R3	楕円形	0.71	0.49	0.33	1掘, 2028P	
		223	B	2	23R3	楕円形	0.45	0.37	0.35	1掘, 2026P	
		225	B	2	23R3	楕円形	0.26	0.23	0.28		

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		226	B	2	23R3	方形	0.34	0.33	0.55		
		227	B	2	23R3	不整形	0.36	0.32	0.30		
		228	B	2	23R3	方形	0.20	0.19	0.17	1掘	
		229	B	2	23R3	方形	0.20	0.19	0.08		
		231	B	2	23Q2	ほぼ円形	0.23	0.21	0.41		
		232	B	2	23Q1	楕円形	0.50	0.31	0.35		
		233	B	2	23Q1	楕円形	0.19	0.13	0.02		
		234	B	2	23Q3	楕円形	0.28	0.25	0.05	235P	
		235	B	2	23Q3	(楕円形)	(0.50)	0.39	0.11	234P, 236P	
		236	B	2	23Q3	楕円形	0.72	0.46	0.15	235P	
		237	B	2	23Q3	楕円形	0.32	0.27	0.05		
		238	B	2	23Q3	楕円形	(0.20)	0.18	0.08	239P	
		239	B	2	23Q3	楕円形	(0.32)	0.30	0.05	238P	
第84図	PL.26	240	B	2	23R4	楕円形	0.37	0.36	0.32		中世在地系土器皿1。
		241	B	2	23R4	楕円形	0.77	0.51	0.52	242P	
		242	B	2	23R3・4	(楕円形)	0.56	(0.49)	0.54	241P	▲鉄滓1。
		243	B	2	23R3・4	方形	0.22	0.21	0.33		
		244	B	2	23R4	(楕円形)	0.30	(0.24)	0.05	245P	
第85図	PL.26	245	B	2	23R4	楕円形	0.35	0.32	0.11	244P	鉄製品器種不詳1。
		246	B	2	23R3	楕円形	0.38	0.30	0.53		
		247	B	2	23R4	隅丸方形	0.50	0.45	0.44		
第85図		248	B	2	23R4	方形	0.50	0.47	0.35		
		250	B	2	23R3・4	(楕円形)	(0.47)	0.46	0.36	1掘, 249P, 251P	
		251	B	2	23R3	(方形)	0.28	(0.26)	0.12	1掘, 250P	
		252	B	2	23R3	(楕円形)	0.42	(0.32)	0.34	1掘, 253P	
		253	B	2	23R3	方形	0.44	0.43	0.47	252P	
		254	B	2	23R4	楕円形	0.53	0.38	0.44		
		255	B	2	23R4	不整形	0.23	0.20	0.13	1掘	
		256	B	2	23R3・4	方形	0.28	0.26	0.18	1掘	
		257	B	2	23S4	不整形	0.50	0.41	0.25		
		259	B	2	23S3	(楕円形)	0.47	(0.33)	0.38	1掘, 260P	▲中世在地系土器片1。
		260	B	2	23S3	不整形	0.57	0.40	0.52	1掘, 258P, 259P	
		261	B	2	23S3	楕円形	0.26	0.22	0.31	1掘	
		262	B	2	23S3	楕円形	0.41	0.33	0.46	1掘	
		264	B	2	23S3	隅丸長方形	0.30	0.20	0.69	1掘, 265P	
		265	B	2	23S3	楕円形	0.53	0.46	0.34	1掘, 264P	
		266	B	2	23S3	不整形	0.54	0.26	0.64	1掘, 267P	
		267	B	2	23S3	(不整形)	(0.57)	0.56	0.52	1掘, 266P	
		268	B	2	23S3	楕円形	0.34	0.33	0.40	1掘	
		269	B	2	23S3	方形	0.28	0.23	0.22	1掘, 2019P	
		270	B	2	23S3	不整形	0.65	0.54	0.43	1掘	
		271	B	2	23S3	楕円形	0.27	0.26	0.30	1掘	
		272	B	2	23S3	楕円形	0.34	0.32	0.27	1掘	
		273	B	2	23S3	楕円形	0.28	0.27	0.43	1掘	
		274	B	2	23S3	不整形	0.29	0.27	0.37	1掘, 275P, 276P	
		275	B	2	23S3	(長方形)	(0.43)	0.28	0.10	1掘, 274P, 276P	
		276	B	2	23S3	(楕円形)	(0.46)	0.41	0.20	1掘, 274P, 275P	
		277	B	2	23S4	ほぼ円形	0.28	0.25	0.20		
		278	B	2	23S4	不整形	0.36	0.20	0.37	279P, 2016P, 2017P	
		279	B	2	23S4	(不整形)	0.25	(0.21)	0.15	278P	
		280	B	2	23S4	楕円形	0.34	0.26	0.08		
		281	B	2	23S4	方形	0.27	0.21	0.07	2016P	
		282	B	2	23S4	(楕円形)	0.22	(0.11)	0.09	283P	
		283	B	2	23S4	不整形	0.22	0.20	0.16	282P	
		284	B	2	23S4	(不整形)	0.45	(0.25)	0.27	285P	
		285	B	2	23S4	不整形	0.45	0.32	0.38	284P	
		286	B	2	23S4	不整形	0.36	0.35	0.24		
		287	B	2	23S3	(不整形)	0.41	(0.26)	0.25	1掘, 288P	
		288	B	2	23S3	不整形	0.43	0.39	0.27	1掘, 287P	
		289	B	2	23S3	方形	0.29	0.26	0.33	1掘	
		290	B	2	23S3	長方形	0.43	0.30	0.44	1掘, 279P	▲中世在地系土器片1。

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		291	B	2	23S3	楕円形	0.34	0.29	0.70	1掘	
		292	B	2	23S3	(方形)	0.23	(0.21)	0.18	1掘,293P	
		293	B	2	23S3	方形	0.27	0.26	0.52	1掘,292P	▲中世在地系土器片1。
第85図		294	B	2	23S3	楕円形	0.47	0.40	0.33	1掘,295P	
		295	B	2	23S3	(不整形)	(0.48)	0.47	0.42	1掘,294P,296P	
		296	B	2	23S3	楕円形	0.48	0.43	0.47	1掘,295P	
		297	B	2	23S3	(不整形)	(0.46)	0.44	0.57	1掘,290P,298P	▲中世在地系土器片1。
		298	B	2	23S3	(不整形)	(0.40)	0.32	0.27	1掘,297P,300P	
		299	B	2	23S3	(楕円形)	0.29	(0.25)	0.25	1掘,300P	
		300	B	2	23S3	不整形	0.50	0.43	0.45	1掘,298P,299P,301P	▲中世在地系土器片1。
		301	B	2	23S3	(不整形)	0.23	(0.12)	0.16	1掘,300P,302P,303P	
		305	B	2	23S4	不整形	0.54	0.52	0.13	1掘,304P,306P,2015P	
		306	B	2	23S4	不整形	0.26	0.21	0.39	1掘,306P,2015P	
		307	B	2	23S4	不整形	0.33	0.23	0.15	2015P	
		308	B	2	23S4	楕円形	0.42	0.36	0.35		
		309	B	2	23S4	不整形	0.71	0.64	0.57	2014P	
		310	B	2	23S4	楕円形	(0.58)	(0.20)	0.22	311P,312P	
		311	B	2	23S4	不整形	(0.50)	(0.20)	0.33	310P	
		312	B	2	23S4	楕円形	0.30	0.25	0.25	311P	
		313	B	2	23S4	楕円形	0.35	0.31	0.18		
		314	B	2	23S4	楕円形	0.28	0.21	0.16	315P	
		315	B	2	23S4	(楕円形)	0.31	(0.24)	0.17	314P	
		316	B	2	23T4	不整形	0.45	0.42	0.25		2基重複か。
		317	B	2	23S4、23T4	楕円形	0.53	(0.36)	0.14	318P,319P	
		318	B	2	23S4	楕円形	0.31	0.29	0.11	317P,319P	
		319	B	2	23S4	(隅丸方形)	0.41	(0.39)	0.11	317P,318P	
		320	B	2	23S3・4	不整形	0.24	0.22	0.28	1掘	
		323	B	2	23T3	隅丸方形	0.23	0.22	0.19		
第85図		324	B	2	23T3	円形	0.49	0.47	0.37		
		325	B	2	23T3	不整形	0.29	0.19	0.05	1掘,326P	
		326	B	2	23S3	(不整形)	(0.52)	0.50	0.04	1掘,7溝,325P,778P	
		327	B	2	23T3	方形	0.41	0.34	0.08	328P	
		328	B	2	23T3	楕円形	0.37	0.33	0.53	7溝,327P	
		329	B	2	23T3	(楕円形)	(0.35)	0.31	0.69	330P	
		330	B	2	23T3	楕円形	0.29	0.25	0.39	329P	
		331	B	2	23T3	楕円形	0.44	0.37	0.39		
		332	B	2	23T3	楕円形	0.25	0.22	0.15		
		333	B	2	23T3	楕円形	0.42	0.38	0.31		
		334	B	2	23T4	不整形	0.46	0.31	0.47		
		335	B	2	23T4	方形	0.32	0.27	0.36		
		336	B	2	23T4	方形	0.25	0.22	0.09		
		337	B	2	24A3	楕円形	0.35	0.25	0.10	338P	
		338	B	2	24A3	楕円形	0.36	0.26	0.07	337P,339P	
		339	B	2	24A3	楕円形	0.30	0.25	0.05	338P	
		340	B	2	24A3・4	不整形	0.68	0.48	0.37	341P	
		341	B	2	24A3・4	(不整形)	0.37	(0.22)	0.18	340P	
		342	B	2	24A4	楕円形	0.36	0.34	0.15	343P	
		343	B	2	24A4	楕円形	0.40	0.31	0.23	342P	
		344	B	2	23T4、24A4	楕円形	0.53	(0.51)	0.32	345P	
		345	B	2	24A4	方形	0.31	0.30	0.19	344P	
		346	B	2	23T4	楕円形	0.45	0.40	0.22		
	PL.14	347	B	2	23T4	楕円形	0.42	0.34	0.37	1005坑,489P	
		348	B	2	23T4	ほぼ円形	0.46	0.41	0.21		
		349	B	2	23T4	(方形)	0.18	(0.15)	0.16	350P	
		350	B	2	23T4	楕円形	0.28	0.21	0.20	349P	
		351	B	2	23T4	楕円形	0.46	0.33	0.50		
		352	B	2	23S4	楕円形	0.45	0.40	0.27		
		353	B	2	23S4	方形	0.22	0.20	0.24		
		354	B	2	23S4	楕円形	0.52	0.45	0.23		
		355	B	2	23S4	ほぼ円形	0.39	0.37	0.52	356P	
		356	B	2	23S4	方形	0.39	0.30	0.22	355P	

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		357	B	2	23S4	ほぼ円形	0.58	0.57	0.32		
		358	B	2	23S4	楕円形	0.31	0.27	0.34		
		359	B	2	23R5	楕円形	0.45	0.36	0.10		
		360	B	2	23R4	楕円形	0.40	0.36	0.23	361P, 362P	
		361	B	2	23S4・5	不整形	0.53	(0.46)	0.18	360P	
		362	B	2	23R4・5	(楕円形)	(0.32)	0.28	0.06	360P	
		363	B	2	23R5、23S5	不整形	0.44	0.43	0.09	9溝	
		364	B	2	23S5	楕円形	0.68	0.51	0.35	365P	
		365	B	2	23S4・5	(不整形)	(0.51)	0.45	0.29	364P	
		366	B	2	23S5	不整形	0.35	0.33	0.09		
		367	B	2	23S5	楕円形	0.31	0.30	0.15		
		368	B	2	23S4	(不整形)	0.36	(0.24)	0.13	369P, 370P	
		369	B	2	23S4・5	不整形	0.33	0.26	0.12	368P	
		370	B	2	23S4	楕円形	0.54	0.51	0.34	368P	
第85図	PL.26	371	B	2	23S4	楕円形	0.40	0.34	0.13		中世在地系土器皿1。
		372	B	2	23S5	隅丸方形	0.43	0.42	0.18		
		373	B	2	23S5	楕円形	0.19	0.17	0.15		
		374	B	2	23S5	楕円形	0.35	0.28	0.37		
		375	B	2	23T4	不整形	0.59	0.48	0.41		
		376	B	2	23T5	楕円形	0.47	0.39	0.18		
		377	B	2	23T5	不整形	0.87	0.73	0.48		2基重複か。▲中世在地系土器片1。
第85図		378	B	2	23T5	楕円形	0.55	0.50	0.18		
		379	B	2	23T4	楕円形	0.35	0.30	0.36	380P	
		380	B	2	23T4・5	楕円形	0.51	0.35	0.16	379P	
		381	B	2	23T5	楕円形	0.26	0.24	0.04		
		382	B	2	23T5	楕円形	0.28	0.22	0.07		
		383	B	2	23T5	楕円形	0.25	0.19	0.07		
		384	B	2	23T5	(不整形)	(0.45)	0.40	0.16	385P	
		385	B	2	23T5	長方形	0.40	0.30	0.24	384P	
		386	B	2	23T5	不整形	0.46	0.41	0.16		
第85図	PL.26	387	B	2	23T5	楕円形	0.46	0.45	0.25		中世在地形土器皿1。
		388	B	2	23T5	楕円形	0.50	0.41	0.40		
		389	B	2	23T6	楕円形	0.31	0.28	0.15		
		390	B	2	23T6	ほぼ円形	0.30	0.27	0.27		
		391	B	2	23T6	楕円形	0.45	0.38	0.41		
		392	B	2	23T6	隅丸方形	0.42	0.40	0.26	393P	
		393	B	2	23T6	(不整形)	0.54	(0.50)	0.13	392P	
第85図	PL.26	394	B	2	23T6	不整形	0.58	0.45	0.57		2基重複か。時期不詳在地系土器1。
		395	B	2	23T6	楕円形	0.26	0.24	0.46		
第85図		396	B	2	23S5	楕円形	0.52	0.33	0.26		
		397	B	2	23T6	方形	0.24	0.20	0.14		
		398	B	2	23S6	楕円形	0.43	0.37	0.40	10溝	
		399	B	2	23T6	楕円形	0.60	0.50	0.11		
第85図		400	B	2	23S6	楕円形	0.58	0.56	0.13		
		401	B	2	23S6	楕円形	0.48	0.35	0.25		
		402	B	2	23S6	(楕円形)	0.36	(0.26)	0.26	550P	
		403	B	2	23S5・6	不整形	0.28	0.26	0.15		
		404	B	2	23S5	不整形	0.45	0.36	0.30		
		406	B	2	23S5	方形	0.36	0.35	0.22		
		407	B	2	23S5	方形	0.21	0.20	0.04		
		408	B	2	23S5	楕円形	0.43	0.34	0.13		
		409	B	2	23S5	楕円形	0.31	0.28	0.10		
		410	B	2	23S5	ほぼ円形	0.47	0.44	0.29		
		411	B	2	23S5	楕円形	0.35	0.31	0.08		
		412	B	2	23S6	楕円形	0.50	0.45	0.25		
		413	B	2	23S5	不整形	0.52	0.48	0.21	544P	
		414	B	2	23S5	不整形	0.54	0.48	0.07		
		415	B	2	23S5	楕円形	0.26	0.20	0.33	416P	
		416	B	2	23S5	(不整形)	0.50	(0.36)	0.19	415P, 417P	
		417	B	2	23S5	不整形	0.43	0.40	0.34	416P	

第9節 土坑・ピット

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		418	B	2	23Q4	方形	0.23	0.17	0.15		
		419	B	2	23Q4	方形	0.22	0.19	0.37		
		420	B	2	23Q4	不整形	0.46	0.35	0.24		
		421	B	2	23Q4	ほぼ円形	0.31	0.27	0.37		
		422	B	2	23P5	楕円形	0.28	0.20	0.06	423P	
		423	B	2	23P5	(方形)	0.31	0.30	0.15	422P	
		424	B	2	23P5	楕円形	0.21	0.18	0.02		
		425	B	2	23P5	不整形	0.34	0.25	0.16		
		426	B	2	23P5	楕円形	0.77	0.51	0.18		
		427	B	2	23O5	楕円形	0.22	0.20	0.10		
		428	B	2	23O5	楕円形	0.24	0.19	0.03		
		429	B	2	23P5	楕円形	0.17	0.15	0.09		
		430	B	2	23P5	楕円形	0.22	0.17	0.07		
		431	B	2	23P4・5	不整形	0.31	0.17	0.07		
		432	B	2	23P3	方形	0.24	0.22	0.14	48P	
		433	B	2	13S20	不整形	0.50	0.47	0.21	434P	
		434	B	2	13S20	(不整形)	(0.55)	0.49	0.15	433P	2基重複か。
		435	B	2	23S1、23T1	楕円形	0.40	0.34	0.06	1000坑	
		436	B	2	13T20、23T1	楕円形	0.52	0.51	0.60	1000坑	
		437	B	2	23S1	方形	0.52	0.52	0.11		
		438	B	2	23S1	長方形	0.35	0.23	0.05		
		439	B	2	23S1	方形	0.49	0.48	0.06		
第85図	PL.26	440	B	2	13S20、23S1	方形	0.62	0.60	0.58		2基重複か。砥石1。
		441	B	2	23S1	方形	0.46	0.42	0.07		
		442	B	2	23S1	楕円形	0.43	0.37	0.65		
		443	B	2	23T1	不整形	0.60	0.55	0.62		2基重複か。
		444	B	2	23T1	方形	0.28	0.22	0.14		
		445	B	2	23T1	楕円形	0.38	0.33	0.04		
		446	B	2	23T1	楕円形	0.50	0.45	0.02		
		447	B	2	23T1	不整形	0.63	0.58	0.03		
		448	B	2	23T1	方形	0.32	0.28	0.08		
		449	B	2	23T1	楕円形	(0.44)	(0.20)	0.09	450P	
		450	B	2	23T1	楕円形	(0.50)	(0.30)	0.09	449P	
		451	B	2	23T1	隅丸長方形	0.46	0.35	0.58		
		452	B	2	23T1	不整形	0.34	0.32	0.49	453P	
		453	B	2	23S1、23T1	(方形)	0.17	(0.15)	0.03	452P	
		454	B	2	23S1	方形	0.37	0.31	0.39		
		455	B	2	23S1、23T1	隅丸方形	0.34	0.33	0.12		
		456	B	2	23S1	隅丸方形	0.30	0.28	0.20		
		457	B	2	23S1	長方形	0.27	0.21	0.25		
		458	B	2	23S1	ほぼ円形	0.30	0.28	0.43		
		459	B	2	23S1	方形	0.24	0.23	0.12		
		460	B	2	23S1	方形	0.26	0.22	0.12		
		461	B	2	23S1	長方形	0.41	0.31	0.07		
		462	B	2	23S1	不整形	0.23	0.18	0.18		
		463	B	2	23S1	楕円形	0.48	0.34	0.44		
		464	B	2	23S1	方形	0.31	0.29	0.05		
		465	B	2	23S1	方形	0.45	0.40	0.20		
		466	B	2	23S1	楕円形	0.38	0.24	0.19		
		467	B	2	23S1	方形	0.40	0.35	0.09		
		468	B	2	23S1、23T1	楕円形	0.29	0.24	0.07		
		469	B	2	23T1	不整形	0.31	0.24	0.09		
		470	B	2	23T1	不整形	0.24	0.19	0.11		
		471	B	2	23T1	方形	0.29	0.24	0.04		
		472	B	2	23T1	不整形	0.40	0.31	0.54		
		473	B	2	23T1	楕円形	0.51	0.37	0.31		
		474	B	2	23T3	ほぼ円形	0.24	0.23	0.21	7溝	
		475	B	2	23T3	長方形	0.34	0.26	0.53	7溝	▲中世在地系土器片1。
		476	B	2	23T3	楕円形	0.28	0.24	0.45	7溝,824P	
		477	B	2	23T2・3	楕円形	0.35	0.28	0.20	7溝	
		478	B	2	23T2・3	ほぼ円形	0.36	0.34	0.07	7溝	

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		482	B	2	23S3、23T3	楕円形	0.30	0.27	0.12	1掘,7溝,483P	
		483	B	2	23S3	(楕円形)	(0.22)	0.19	0.05	1掘,7溝,482P	
		484	B	2	23S3	楕円形	0.37	0.30	0.09	1掘,7溝	
		485	B	2	23S3	楕円形	0.30	0.19	0.42	1掘,7溝,486P	
		486	B	2	23S3	(方形)	(0.34)	0.31	0.40	1掘,7溝,485P,759P,850P	
		487	B	2	23S3	不整形	0.54	0.51	0.23	1掘,7溝	
		488	B	2	23T3	方形	0.24	0.19	0.11	7溝	
		489	B	2	23T4	(ぼぼ円形)	0.37	(0.36)	0.25	347P	
		490	B	2	23R4	不整形	0.37	0.35	0.34		
		491	B	2	23R4	不整形	0.30	0.24	0.06		
		492	B	2	23Q4	長方形	0.47	0.30	0.24		
		493	B	2	23Q4	方形	0.33	0.30	0.12		
		494	B	2	23Q4	楕円形	0.21	0.15	0.06		
		495	B	2	23Q4	方形	0.32	0.27	0.24		
		496	B	2	23Q4	楕円形	0.17	0.16	0.05		
		497	B	2	23Q4	楕円形	0.29	0.23	0.05		
		498	B	2	23Q4	楕円形	0.30	0.26	0.26		
		499	B	2	23P5	不整形	0.35	0.33	0.09		
		500	B	2	23P5	楕円形	0.28	0.26	0.21		
		501	B	2	23Q5	方形	0.28	0.26	0.08		
		502	B	2	23Q5	隅丸方形	0.23	0.22	0.15		
		503	B	2	23P5	楕円形	0.26	0.25	0.03		
		504	B	2	23Q5	楕円形	0.46	0.40	0.10		
第85図	PL.26	505	B	2	23Q5	楕円形	0.40	0.34	0.08		中世在地系土器皿1。
		506	B	2	23Q5	楕円形	0.36	0.28	0.05	507P	
		507	B	2	23Q5	(不整形)	0.20	(0.19)	0.04	506P	
		508	B	2	23Q5	楕円形	0.29	0.25	0.08		
第85図		510	B	2	23Q5	楕円形	0.64	0.52	0.23		
		511	B	2	23R5	方形	0.35	0.28	0.30		
		512	B	2	23R5	楕円形	0.25	0.20	0.13		
第85図	PL.15	513	B	2	23R5	ぼぼ円形	0.62	0.58	0.35	1012坑	
		514	B	2	23R5	方形	0.31	0.30	0.26		
		515	B	2	23R5	隅丸方形	0.32	0.29	0.22		
		516	B	2	23R5	楕円形	0.44	0.41	0.19		
		517	B	2	23R5	楕円形	0.24	0.22	0.16		
		518	B	2	23R5	楕円形	0.43	0.35	0.19		
		519	B	2	23S5、23T5	方形	0.49	0.46	0.14		
		520	B	2	23T5	楕円形	0.32	0.30	0.27		
第85図		521	B	2	23T6	不整形	0.54	0.43	0.21		
		522	B	2	23P5、23Q5	楕円形	0.40	0.35	0.02		
		523	B	2	23Q5	方形	0.28	0.24	0.05		
		524	B	2	23Q5	隅丸方形	0.55	0.49	0.10		
		525	B	2	23Q5	楕円形	0.43	0.37	0.06		
		526	B	2	23Q5	(楕円形)	0.41	(0.35)	0.02	527P,528P	
		527	B	2	23Q5	楕円形	0.35	0.34	0.08	526P	
		528	B	2	23Q5	楕円形	0.60	(0.42)	0.03	526P	
		529	B	2	23Q5	楕円形	0.37	0.34	0.03		
		530	B	2	23Q5	楕円形	0.34	0.32	0.05		
		531	B	2	23Q5・23R5	楕円形	0.59	0.50	0.23	532P	
		532	B	2	23Q5	(楕円形)	0.44	(0.21)	0.14	531P,533P	
		533	B	2	23Q5	(方形)	0.25	0.24	0.09	532P	
		534	B	2	23R5	方形	0.44	0.36	0.22		
		535	B	2	23R5	楕円形	0.41	0.38	0.21		
		536	B	2	23R5	楕円形	0.30	0.27	0.14		
		537	B	2	23R5	方形	0.40	0.38	0.17		
第86図		538	B	2	23R5	(不整形)	0.40	(0.38)	0.21	539P,540P,541P	
第86図		539	B	2	23R5・6	隅丸方形	0.30	0.28	0.14	538P,540P	
第86図		540	B	2	23R5・6	(不整形)	0.37	(0.32)	0.12	538P,539P	
第86図		541	B	2	23R5	不整形	0.32	0.23	0.30	538P	
		542	B	2	23R5	方形	0.24	0.21	0.03	9溝(9溝<●)	
		543	B	2	23R5、23S5	楕円形	0.31	0.27	0.05	9溝(9溝<●)	

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		544	B	2	23S5	(方形)	0.34	(0.33)	0.17	413P	
		545	B	2	23S5	方形	0.21	0.17	0.10		
		546	B	2	23T6	楕円形	0.42	0.38	0.35		
		547	B	2	23S6	ほぼ円形	0.21	0.18	0.03		
		548	B	2	23S6	楕円形	0.27	0.26	0.36		
		549	B	2	23S6	ほぼ円形	0.30	0.29	0.04		
		550	B	2	23S6	方形	0.36	0.33	0.31	402P	
		551	B	2	23S6	方形	0.19	0.17	0.11	9溝	
第71図		552	B	2	23S6	不整形	0.25	0.24	0.01	1016坑	
		553	B	2	23S6	ほぼ円形	0.38	0.34	0.10	554P	
		554	B	2	23S6	楕円形	0.52	(0.44)	0.23	553P	
		555	B	2	23S6	長方形	0.25	0.16	0.11	556P	
		556	B	2	23S6	不整形	0.37	0.21	0.14	555P	
		557	B	2	23S6	(不整形)	0.40	(0.34)	0.22	558P, 559P, 560P	
		558	B	2	23S6	(楕円形)	(0.35)	0.29	0.15	557P, 559P	
		559	B	2	23S6	方形	0.34	0.27	0.31	557P, 558P, 560P	
		560	B	2	23S6	(楕円形)	0.29	(0.17)	0.10	557P, 559P	
		561	B	2	23S6・7	不整形	0.39	0.31	0.01		
		563	B	2	23S7	不整形	0.45	0.43	0.38	564P	
		564	B	2	23S7	(方形)	0.21	0.19	0.05	563P	
		565	B	2	23S7	楕円形	0.51	0.38	0.47	566P	
		566	B	2	23S7	(不整形)	0.43	(0.42)	0.20	565P	
		567	B	2	23S7	(楕円形)	0.31	0.27	0.09	568P	
		568	B	2	23S7	不整形	0.36	0.35	0.32	567P	▲須恵器片1。
		569	B	2	23S7	(楕円形)	0.42	0.41	0.17	571P	
		570	B	2	23S7	長方形	0.30	0.20	0.14	571P	
		571	B	2	23S7	(楕円形)	0.35	(0.24)	0.15	569P, 570P	
		572	B	2	23R7	不整形	0.36	0.32	0.21		
		573	B	2	23R7	方形	0.36	0.30	0.29		
	PL. 15	574	B	2	23R7	(楕円形)	0.32	0.27	0.07	1017坑	
		576	B	2	23R6・7	楕円形	0.18	0.16	0.12	1井	
		577	B	2	23R6	楕円形	0.45	0.43	0.26		
第68図	PL. 14	579	B	2	23R6	(方形)	0.38	(0.32)	0.18	578坑	
		580	B	2	23R6	不整形	0.44	0.39	0.19		
第73図		581	B	2	23R6	方形	0.34	0.32	0.10	582P	
第73図		582	B	2	23R6	(楕円形)	0.30	0.22	0.06	1029坑, 581P(1029坑<●)	
		583	B	2	23R6	ほぼ円形	0.39	0.34	0.09		
		584	B	2	23Q6	楕円形	0.37	0.30	0.14		
		585	B	2	23Q6	円形	0.24	0.23	0.21	586P	
		586	B	2	23Q6	(楕円形)	0.18	0.16	0.11	585P	
		587	B	2	23P6	楕円形	0.52	0.45	0.05		
		588	B	2	23Q6	(楕円形)	0.29	(0.23)	0.07	589P	
		589	B	2	23Q6	隅丸方形	0.43	0.40	0.16	588P	
		590	B	2	23S7	不整形	0.36	0.35	0.29	658P	
		591	B	2	23Q6	方形	0.35	0.30	0.12		
		592	B	2	23Q6	楕円形	0.30	0.29	0.12	593P	
		593	B	2	23Q6	(不整形)	0.39	(0.31)	0.10	592P	
		594	B	2	23P7	方形	0.45	0.40	0.04		
		595	B	2	23P7	楕円形	0.31	0.22	0.09		
		596	B	2	23Q7	楕円形	0.34	0.29	0.16		
		597	B	2	23Q7	方形	0.31	0.29	0.07		
		598	B	2	23Q7	不整形	0.53	0.44	0.22		
		599	B	2	23Q7	ほぼ円形	0.27	0.25	0.17		
		600	B	2	23Q7	隅丸方形	0.42	0.39	0.16		
		601	B	2	23Q6	楕円形	0.37	0.33	0.11		
		602	B	2	23Q6	楕円形	0.27	0.21	0.10		
		603	B	2	23Q6・7	楕円形	0.35	0.30	0.15		
		604	B	2	23Q7	楕円形	0.35	0.28	0.14		
		605	B	2	23R6・7	楕円形	0.54	0.50	0.23		
		606	B	2	23R7	楕円形	0.27	0.23	0.15		
		607	B	2	23R7	楕円形	0.31	0.29	0.09		

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		608	B	2	23Q7、23R7	楕円形	0.32	0.20	0.14		
		609	B	2	23Q7	方形	0.26	0.24	0.10		
		610	B	2	23Q8	楕円形	0.33	0.19	0.05		
		611	B	2	23R8	ほぼ円形	0.29	0.27	0.09		
		612	B	2	23R8	ほぼ円形	0.28	0.26	0.07		
		613	B	2	23R7	ほぼ円形	0.33	0.31	0.20		▲中世在地系土器片1。
		614	B	2	23R8	楕円形	0.45	0.40	0.14		
		615	B	2	23R7・8	楕円形	0.23	0.22	0.09		
		616	B	2	23R7	方形	0.32	0.25	0.12		
		617	B	2	23R7、23S7	楕円形	0.47	0.40	0.13		
		618	B	2	23S7	方形	0.25	0.24	0.07		
		620	B	2	23S7	楕円形	0.35	0.30	0.18		
		621	B	2	23S7	楕円形	0.31	0.29	0.13		
		622	B	2	23S7	不整形	0.41	0.39	0.17		
		623	B	2	23S7	ほぼ円形	0.28	0.26	0.12		
		624	B	2	23S7	方形	0.24	0.23	0.12		
		625	B	2	23S7	方形	0.28	0.25	0.11		
第86図	PL.26	626	B	2	23S8	楕円形	0.36	0.34	0.36	627P	中世在地系土器皿1。
		627	B	2	23S8	(不整形)	(0.22)	0.19	0.21	626P	
		628	B	2	23S7	(方形)	(0.31)	0.24	0.19	629P	
		629	B	2	23S7	(不整形)	(0.41)	0.32	0.27	628P	▲中世在地系土器片1。
		630	B	2	23S7	楕円形	0.39	0.35	0.17		
		631	B	2	23S7	楕円形	0.52	0.44	0.17		
		632	B	2	23S8	(不整形)	(0.45)	0.43	0.18	633P	
		633	B	2	23S8	楕円形	0.40	0.28	0.23	632P	
		634	B	2	23S7	方形	0.38	0.36	0.04		
		635	B	2	23S7・8	楕円形	0.31	0.27	0.11		
		636	B	2	23S8	楕円形	0.20	0.19	0.05		
		637	B	2	23S8	不整形	0.24	0.18	0.03		
		638	B	2	23S8	楕円形	0.77	0.68	0.22		
第68図		640	B	2	23R8	楕円形	0.39	0.34	0.11	639坑	
		641	B	2	23R8	隅丸方形	0.32	0.31	0.18		
		642	B	2	23R8	楕円形	0.30	0.28	0.09	643P	
		643	B	2	23R8	(楕円形)	0.42	(0.34)	0.16	642P	
		644	B	2	23R8	不整形	0.19	0.18	0.07		
		645	B	2	23R8	方形	0.22	0.20	0.09		
		646	B	2	23R8	不整形	0.34	0.32	0.12		
		647	B	2	23S8	楕円形	0.27	0.21	0.10		
		648	B	2	23S8	方形	0.23	0.22	0.11		
		649	B	2	23S8	長方形	0.48	0.37	0.09	651P	
		651	B	2	23S8	(不整形)	0.35	(0.28)	0.07	649P,650P	
		652	B	2	23S8	楕円形	0.34	0.33	0.08		
		653	B	2	23S8	楕円形	0.36	0.34	0.09		
		654	B	2	23S8	楕円形	0.24	0.23	0.12		
		655	B	2	23S9	楕円形	0.58	0.48	0.28		
第86図		656	B	2	23S9	隅丸長方形	0.40	0.32	0.14		
		657	B	2	23S8	楕円形	0.52	0.48	0.16		
		658	B	2	23S7	(不整形)	(0.26)	0.25	0.15	590P	
		659	B	2	23S8	方形	0.28	0.27	0.07		
		660	B	2	23S8	楕円形	0.26	0.22	0.10	661P	
		661	B	2	23S8	(楕円形)	0.26	(0.22)	0.03	660P	
		662	B	2	23R8	不整形	0.29	0.26	0.12	663P	
		663	B	2	23R8	(不整形)	0.34	(0.28)	0.09	662P	
		664	B	2	23S8	方形	0.29	0.27	0.09		
		665	B	2	23S8	方形	0.29	0.28	0.27		
		666	B	2	23R8	方形	0.41	0.35	0.07	667P	
		667	B	2	23R8	(方形)	0.29	(0.21)	0.06	666P	
		668	B	2	23R8	楕円形	0.29	0.19	0.10	669P	
		669	B	2	23R8	(楕円形)	0.34	(0.29)	0.12	668P	
		670	B	2	23R8・9	ほぼ円形	0.39	0.35	0.09		
		671	B	2	23R9	楕円形	0.40	0.35	0.10		

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		672	B	2	23R9	楕円形	0.51	0.38	0.17	673P	
		673	B	2	23R9	(不整形)	0.47	(0.32)	0.20	672P	
		674	B	2	23S9	楕円形	0.39	0.32	0.10	675P	
		675	B	2	23S9	(楕円形)	0.33	(0.30)	0.03	674P	
		676	B	2	23R9	楕円形	0.39	0.35	0.13		
		677	B	2	23R9	楕円形	0.23	0.22	0.17		
		678	B	2	23R9	楕円形	0.31	0.30	0.20		
		679	B	2	23R8	楕円形	0.35	0.31	0.19		
		680	B	2	23R8	楕円形	0.30	0.29	0.18		
		681	B	2	23R8	方形	0.25	0.24	0.16		
		682	B	2	23R8	隅丸方形	0.30	0.29	0.16		
		683	B	2	23R9	楕円形	0.35	0.30	0.21		
		684	B	2	23Q9、23R9	不整形	0.43	0.35	0.15		
		685	B	2	23R9	楕円形	0.37	0.28	0.21		
		686	B	2	23Q9、23R9	楕円形	0.36	0.33	0.35		
		687	B	2	23Q9	楕円形	0.35	0.25	0.20	688P	
		688	B	2	23Q9	(楕円形)	0.32	(0.28)	0.11	687P	
		689	B	2	23Q9	楕円形	0.33	0.29	0.06		
第86図		690	B	2	23Q9	円形	0.31	0.30	0.35		
		691	B	2	23R10	楕円形	0.33	0.29	0.16		
		692	B	2	23R10	楕円形	0.41	0.40	0.07		
		693	B	2	23R10	楕円形	0.33	0.30	0.06		
		694	B	2	23R10	楕円形	0.32	0.19	0.16	695P	
		695	B	2	23R10	(楕円形)	0.31	(0.27)	0.18	694P	
		696	B	2	23R10	不整形	0.47	0.37	0.14	1026坑	
		697	B	2	23R10・11	円形	0.32	0.31	0.12		
第86図		698	B	2	23Q10・11	楕円形	0.36	0.25	0.17		
		699	B	2	23Q10	不整形	0.25	0.21	0.12		
		700	B	2	23Q10	不整形	0.25	0.21	0.11	701P	
		701	B	2	23Q10	楕円形	0.24	0.21	0.06	700P	
		702	B	2	23Q10	楕円形	0.28	0.24	0.09		
		703	B	2	23Q10	(円形)	0.38	(0.20)	0.05		
		704	B	2	23Q10、23R10	円形	0.21	0.20	0.07		
		705	B	2	23Q10	楕円形	0.33	0.31	0.30		
		706	B	2	23Q9・10	楕円形	0.36	0.32	0.28		
		707	B	2	23Q10	楕円形	0.28	0.27	0.16		
		708	B	2	23Q10	楕円形	0.43	0.40	0.25		
第86図		709	B	2	23Q10	楕円形	0.57	0.50	0.11		
		710	B	2	23Q10	ほぼ円形	0.23	0.22	0.09		
		712	B	2	23Q9	楕円形	0.27	0.19	0.09		
		713	B	2	23Q9	楕円形	0.23	0.18	0.09		
		714	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.22	0.20	0.13		
		715	B	2	23Q9	円形	0.26	0.25	0.11		
		716	B	2	23Q9	楕円形	0.27	0.25	0.09		
		717	B	2	23Q9	(方形)	(0.43)	0.38	0.14	718P	
		718	B	2	23Q9	楕円形	0.40	0.35	0.20	717P	
		720	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.21	0.20	0.09		
		721	B	2	23Q9	楕円形	0.33	0.28	0.14		
		722	B	2	23Q9	不整形	0.51	0.24	0.07		
		723	B	2	23Q9	(楕円形)	(0.25)	0.21	0.10	724P	
		724	B	2	23Q9	(楕円形)	0.31	(0.25)	0.08	723P、725P	
		725	B	2	23Q9	楕円形	0.24	0.22	0.08	724P	
		726	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.22	0.21	0.13		
		727	B	2	23Q9	楕円形	0.40	0.31	0.13		
		728	B	2	23Q9	楕円形	0.31	0.26	0.52		
		729	B	2	23P9	楕円形	0.27	0.26	0.10		
		730	B	2	23P9、23Q9	楕円形	0.34	0.31	0.20		
		731	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.31	0.29	0.17		
		732	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.21	0.19	0.10		
		733	B	2	23P9、23Q9	楕円形	0.20	0.19	0.10		
		734	B	2	23Q8	楕円形	0.28	0.23	0.22		

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		735	B	2	23Q8	楕円形	0.27	0.23	0.14		
第72図		736	B	2	23Q8	(楕円形)	0.27	(0.26)	0.04	1021坑,737P(1021坑<●)	
第72図		737	B	2	23Q8	楕円形	0.31	0.29	0.06	1021坑,736P(1021坑<●)	
		738	B	2	23Q8	楕円形	0.24	0.21	0.10		
		739	B	2	23P8、23Q8	楕円形	0.44	0.37	0.14		
		740	B	2	23P8	楕円形	0.30	0.28	0.10		
		741	B	2	23P8	楕円形	0.28	0.25	0.09		
		742	B	2	23P8	楕円形	0.26	0.24	0.12		
		743	B	2	23P8	不整形	0.31	0.24	0.06		
		744	B	2	23P10、23Q10	楕円形	0.44	0.34	0.14		
		745	B	2	23P10	楕円形	0.26	0.24	0.19		
		746	B	2	23P10	楕円形	0.29	0.25	0.07		
		747	B	2	23P10	方形	0.31	0.25	0.11		
		748	B	2	23Q9	楕円形	0.28	0.26	0.13		
		750	B	2	23Q9	楕円形	0.30	0.23	0.12		
		751	B	2	23Q9	隅丸方形	0.29	0.28	0.14		
		752	B	2	23P9	(不整形)	(0.36)	0.35	0.12	753P	
		753	B	2	23P9	楕円形	0.38	0.28	0.11	752P	
		754	B	2	23P9	楕円形	0.38	0.33	0.11		
		755	B	2	23Q8	楕円形	0.50	0.45	0.19		
		756	B	2	23Q8	不整形	0.56	0.49	0.19	757P	
		757	B	2	23Q8	(不整形)	0.61	(0.58)	0.15	756P	2基重複か。
第68図		758	B	2	23R3	方形	0.33	0.23	0.21	23Q坑(23Q坑<●)	
		759	B	2	23S3	(不整形)	0.43	(0.35)	0.40	7溝,486P,760P,850P	
		760	B	2	23S3	(楕円形)	0.25	(0.17)	0.29	759P,7溝	
		761	B	2	23S3	楕円形	0.20	0.12	0.15	1掘,7溝	
		762	B	2	23S3	楕円形	0.30	0.13	0.18	1掘,7溝	
		763	B	2	23S3	不整形	0.28	0.26	0.07	1掘,,7溝764P,765P	
		764	B	2	23S3	楕円形	0.19	0.14	0.07	1掘,7溝	
		765	B	2	23S3	(楕円形)	(0.29)	0.21	0.07	1掘,7溝,763P	
第86図	PL.26	768	B	2	23S3	楕円形	0.74	0.53	0.69	1掘,7溝,769P	中世古瀬戸陶器盤1。
		769	B	2	23S3	(楕円形)	0.34	(0.33)	0.13	1掘,7溝,768P	
		770	B	2	23S3	方形	0.36	0.32	0.36	1掘,7溝	
		771	B	2	23S3	不整形	0.38	0.32	0.23	1掘,7溝	
		772	B	2	23S3	楕円形	0.51	0.38	0.12	1掘,7溝	
		773	B	2	23S3	楕円形	0.37	0.34	0.19	1掘,7溝,774P	
		774	B	2	23S3	(不整形)	0.43	0.32	0.10	1掘,7溝,773P	
		775	B	2	23S3	(楕円形)	0.46	(0.41)	0.37	1掘,7溝,776P	
		776	B	2	23S3	方形	0.46	0.44	0.43	1掘,7溝,775P	
		777	B	2	23S3	楕円形	0.30	0.23	0.11	1掘,7溝	
		778	B	2	23T3	不整形	0.32	0.23	0.08	1掘,7溝,326P	
		779	B	2	23S3、23T3	不整形	0.28	0.27	0.11	1掘,7溝,781P	
		780	B	2	23S3	楕円形	0.37	0.31	0.12	1掘,7溝	
		781	B	2	23T3	(楕円形)	(0.32)	0.22	0.12	1掘,7溝,779P	
		783	B	2	23T3	楕円形	0.24	0.21	0.40	7溝	▲中世在地系土器片1。
		784	B	2	23T3	楕円形	0.25	0.11	0.58	7溝	
		785	B	2	23T3	(楕円形)	(0.32)	0.27	0.32	7溝,786P	
		786	B	2	23T3	楕円形	0.29	0.19	0.44	7溝,785P	
		787	B	2	23T3	(楕円形)	(0.29)	0.27	0.09	7溝,788P	
		788	B	2	23T3	楕円形	0.26	0.21	0.44	7溝,787P	
		789	B	2	23T3	方形	0.37	0.32	0.10	7溝,790P	
		790	B	2	23T3	(方形)	0.35	(0.31)	0.05	7溝,789P	
		791	B	2	23T3	ほぼ円形	0.31	0.28	0.09	7溝	
		792	B	2	23T3	不整形	0.32	0.30	0.38	7溝,793P	
		793	B	2	23T3	(方形)	(0.31)	0.30	0.08	7溝,792P	
		794	B	2	23T3	楕円形	0.31	0.26	0.19	7溝	
		795	B	2	23T3	不整形	0.27	0.19	0.08	7溝	
		796	B	2	23T3	方形	0.17	0.16	0.12	7溝	
		797	B	2	23R6	方形	0.32	(0.28)	—	1029坑	
		798	B	2	23R5	楕円形	0.31	0.27	0.10		
		799	B	2	23R5	楕円形	0.17	0.13	0.09		

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		800	B	2	23S3	(長方形)	(0.39)	0.21	0.44	219P, 220P	
		801	B	2	23P8	楕円形	0.28	0.25	0.16		
		802	B	2	23P9	楕円形	0.28	0.26	0.22		
		803	B	2	23Q9	ほぼ円形	0.22	0.20	0.17		
		804	B	2	23Q9	楕円形	0.27	0.25	0.18		
		805	B	2	23Q9	楕円形	0.25	0.21	0.09		
		806	B	2	23P9、23Q9	ほぼ円形	0.46	0.44	0.14		
		807	B	2	23P9	楕円形	0.26	0.24	0.07		
	PL.15	808	B	2	23S7・8	長方形	0.49	0.35	0.04	1018坑	
		809	B	2	23S8	長方形	0.18	0.16	0.12		
		810	B	2	23R2	不整形	0.32	0.28	0.32		
		811	B	2	23R2	不整形	0.57	0.44	0.34	812P, 2021P	
		812	B	2	23R2	(方形)	0.36	(0.29)	0.29	811P	
		813	B	2	23R2	楕円形	0.37	0.28	0.36		
		814	B	2	23R2	不整形	0.23	0.20	0.29		
		816	B	2	23R3	楕円形	0.33	0.25	0.33	817P	
		817	B	2	23R3	(方形)	0.29	(0.26)	0.30	816P	
		818	B	2	23R3	方形	0.33	0.26	0.33		
		819	B	2	23R3	不整形	0.41	0.32	0.25	820P	
		820	B	2	23R3	不整形	0.45	0.31	0.22	819P	
		821	B	2	23S3	方形	0.25	0.23	0.18	7溝	
		822	B	2	23S3	楕円形	0.15	0.12	0.24	1掘, 7溝	
		823	B	2	23S3、23T3	長方形	0.55	0.44	0.24	1掘, 7溝	
		824	B	2	23T3	(楕円形)	(0.28)	0.23	0.11	7溝, 476P	
第73図		825	B	2	13T20	計測不可	—	—	0.30	1028坑, 137P(1028坑<●)	断面のみ。
		826	B	2	23R9	ほぼ円形	0.30	0.28	0.03		
		827	B	2	23R9	(円形)	0.39	(0.36)	0.17	828P	
		828	B	2	23R9	楕円形	0.35	0.34	0.23	827P	
		829	B	2	23R5	不整形	0.27	0.26	0.03		
		830	B	2	23R9	楕円形	0.34	0.30	0.07		
	PL.14	831	B	2	23T5	楕円形	0.35	0.28	0.33	1010坑	
	PL.14	832	B	2	23S5	ほぼ円形	0.56	0.53	0.19	1010坑	
第86図		833	B	2	24A4	(楕円形)	0.59	(0.36)	0.25	1004坑, 834P	
第86図		834	B	2	24A4	楕円形	0.43	0.25	0.54	1004坑, 833P	
第86図	PL.26	835	B	2	24A4	楕円形	0.38	0.33	0.37	1004坑, 935P,	鉄製品器種不詳1。
第86図		836	B	2	24A4	不整形	0.88	0.63	0.61	1004坑	
		837	B	2	24A4	不整形	0.43	0.35	0.30	838P	
		838	B	2	24A3・4	(長方形)	(0.34)	0.28	0.22	837P	
		839	B	2	24A3・4	方形	0.28	0.27	0.09	840P	
		840	B	2	24A3・4	(方形)	0.45	(0.43)	0.26	1004坑, 839P	
		841	B	2	24A3	方形	0.24	0.23	0.16		
第86図		842	B	2	23R10、23S10	楕円形	0.50	0.39	0.05		
第86図	PL.26	843	B	2	23R9・10、23S10	楕円形	1.08	0.83	0.35	1035坑, 844P	砥石1。
第86図		844	B	2	23R10	(楕円形)	0.24	(0.20)	0.05	843P	
		845	B	2	23S10	(楕円形)	(0.31)	0.30	0.07	6溝	
		846	B	2	23S9	楕円形	0.30	0.29	0.07		
		848	B	2	23P5	方形	0.25	0.24	0.09		
		849	B	2	23S6	楕円形	0.53	0.47	0.19	9溝	
		850	B	2	23S3	隅丸長方形	0.37	0.23	0.46	7溝, 486P, 759P	
第86図		851	C	2	23G13	(楕円形)	(0.65)	0.40	0.12	852P	
第86図		852	C	2	23G13	楕円形	0.57	0.42	0.28	851P	
第86図		853	C	2	23G13	楕円形	0.24	0.22	0.07		
第86図		854	C	2	23F13	楕円形	0.37	0.29	0.12		
第86図		855	C	2	23G13	楕円形	0.36	0.30	0.43		
第87図		856	C	2	23G13	楕円形	0.30	0.20	0.20		
第87図		857	C	2	23G13	方形	0.28	0.27	0.06		
第87図		858	C	2	23G13	長方形	0.34	0.21	0.03		
第87図		859	C	2	23G13	方形	0.23	0.21	0.03		
第87図		860	C	2	23F13・14	長方形	0.57	0.45	0.21		
第87図		861	C	2	23G14	楕円形	0.28	0.25	0.30		

第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
第87図		862	C	2	23E15・23F15	隅丸長方形	0.33	0.28	0.36	12溝(●<12溝)	
第87図		863	C	2	23F15	長方形	0.25	0.17	0.14		
第87図		864	C	2	23E16	円形	0.38	0.37	0.36		
第87図	PL.26	865	C	2	23E16	楕円形	0.36	0.32	0.67		中世在地系土器皿1。
第87図		866	C	2	23E16	楕円形	0.35	0.31	0.61		
第87図		867	C	2	23E16	楕円形	0.47	0.38	0.63		
第87図		868	C	2	23E16	楕円形	0.57	0.46	0.15		
第87図		869	C	2	23E16	楕円形	0.30	0.26	0.32		
第87図		870	C	2	23E16	長方形	0.26	0.21	0.29		
第87図		871	C	2	23E16	不整形	0.87	0.55	0.24		土坑か。
第87図		872	C	2	23E16	楕円形	0.34	0.32	0.08		
第87図		873	C	2	23E16	楕円形	0.43	0.38	0.09		
第87図		874	C	2	23E16	楕円形	0.51	0.46	0.08		
第88図		875	C	2	23E17	楕円形	0.41	0.38	0.07		
第88図		876	C	2	23G15	楕円形	0.43	0.32	0.22	16溝(●<16溝)	
第88図		877	C	2	23G15	楕円形	0.40	0.28	0.09		
第88図		878	C	2	23G15	楕円形	0.29	0.28	0.08		
第88図		879	C	2	23G15	楕円形	0.25	0.18	0.05		
第88図		880	C	2	23H14	円形	0.35	0.33	0.24		
第88図		881	C	2	23I16	楕円形	0.41	0.36	0.35		
		882	B	2	23R1	方形	0.36	0.32	0.14		
		883	B	2	23R1	長方形	0.43	0.35	0.16		
		884	B	2	23R1	不整形	0.66	0.51	0.11	885P	
		885	B	2	23R1	(円形)	0.39	(0.31)	0.05	884P	
		886	B	2	23R1	楕円形	0.38	0.35	0.07	887P	
		887	B	2	23R1	(楕円形)	(0.62)	0.48	0.04	886P	
		888	B	2	13R20、23R1	楕円形	0.40	0.30	0.07		
		889	B	2	23R1、23S1	楕円形	0.41	0.39	0.12		
		891	B	2	23R1	長方形	0.31	0.25	0.46	939P	
		892	B	2	23R1	楕円形	0.34	0.27	0.31		
第81図		893	B	2	23R2	長方形	0.47	0.37	0.08	1109坑,1110坑(1109坑,1110坑<●)	
第81図		894	B	2	23S1	楕円形	0.41	0.40	0.20	1106坑	
		895	B	2	23S2	楕円形	0.43	0.30	0.53		
		896	B	2	23R2	(楕円形)	(0.40)	0.32	0.07	209P	
		897	B	2	23R2	楕円形	0.40	0.38	0.34		
		898	B	2	23R2	方形	0.25	0.21	0.13		
		899	B	2	23R2	(楕円形)	0.30	(0.22)	0.15	900P	
		900	B	2	23R2	不整形	0.58	0.51	0.50	899P	
		901	B	2	23R2	方形	0.28	0.25	0.16		
		902	B	2	23R2	楕円形	0.26	0.24	0.14		
		903	B	2	23R2	楕円形	0.40	0.30	0.28		
		904	B	2	23R2	楕円形	0.36	0.25	0.14	21溝	
		905	B	2	23R2	(不整形)	0.51	(0.43)	0.27	21溝	
		906	B	2	23R2	楕円形	0.31	0.30	0.18	21溝	
		907	B	2	23R2	楕円形	0.37	0.30	0.29		
		908	B	2	23R2	楕円形	0.42	0.31	0.36	21溝	
		909	B	2	23R2	(楕円形)	(0.25)	0.24	0.13	910P,911P	
		910	B	2	23R2	ほぼ円形	0.24	0.22	0.20	909P	
		911	B	2	23R2	不整形	0.39	0.38	0.31	21溝,909P	
		912	B	2	23R3	楕円形	0.38	0.34	0.29		
		913	B	2	23R3	楕円形	0.63	0.52	0.70		
		914	B	2	23R3	不整形	0.68	0.52	0.49	1051坑,933P	
		915	B	2	23R3	楕円形	0.49	0.36	0.26	916P,919P,932P	
		916	B	2	23R3	(不整形)	0.65	(0.38)	0.15	915P,917P	
		917	B	2	23R3	(方形)	0.40	(0.24)	0.11	916P	
		918	B	2	23R3	方形	0.40	0.28	0.30		
		919	B	2	23R3	楕円形	0.26	0.22	0.16	915P,932P	
		920	B	2	13R19	方形	0.26	0.23	0.23	960P	
		921	B	2	23S3	楕円形	0.53	0.42	0.34	1掘,7溝	
		922	B	2	23S3	楕円形	0.29	0.25	0.29	1掘,7溝	

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		923	B	2	24A4	楕円形	0.28	0.23	0.25	935P	
		924	B	2	24A4	楕円形	0.46	0.29	0.29	934P	
		926	B	2	23S10	楕円形	0.22	0.20	0.21	6溝,1土墓	
		927	B	2	23R1	ほぼ円形	0.27	0.26	0.07		
		928	B	2	23R1	楕円形	0.21	0.18	0.01		
		929	B	2	23S9・10	不整形	0.44	0.30	0.27	1035坑	
		930	B	2	23T6	楕円形	0.30	0.26	0.07	1030坑	
		931	B	2	23S10	方形	0.32	0.29	0.16	6溝	
		932	B	2	23R3	(不整形)	0.42	(0.30)	0.14	915P,919P,933P	
		933	B	2	23R3	(楕円形)	0.37	(0.29)	0.31	914P,932P	
		934	B	2	24A4	(楕円形)	0.35	(0.27)	0.25	924P,935P	
		935	B	2	24A4	(楕円形)	0.41	(0.32)	0.14	835P,923P,934P,	
		936	B	2	23R3	方形	0.54	0.48	0.68	21溝	
		937	B	2	23Q7	円形	0.41	0.40	0.07		
		938	B	2	23R1	楕円形	0.43	0.31	0.41	939P	
		939	B	2	23R1	楕円形	0.33	0.27	0.40	891P,938P	
		960	B	2	13R19	(方形)	0.28	(0.24)	0.23	920P	
		961	B	2	23T4	楕円形	0.34	0.30	0.30		
		962	B	2	23T4	方形	0.27	0.26	0.11		
		963	B	2	23T3・4	方形	0.30	0.26	0.11		
	PL.14	964	B	2	23T4	(楕円形)	(0.35)	0.29	0.22	1007坑	
		965	B	2	23T4	楕円形	0.34	0.28	0.15		
	PL.14	966	B	2	23T4	方形	0.29	0.28	0.17	1006坑	
		967	B	2	23T3	楕円形	0.22	0.21	0.27		
		968	B	2	23T3	楕円形	0.31	0.26	0.30		
	PL.14	969	B	2	23T3・4	不整形	0.39	0.33	0.38	1005坑	
		970	B	2	24A3	隅丸長方形	0.35	0.28	0.27		
第88図		971	B	2	24A4	隅丸方形	0.42	0.37	0.35		
		972	B	2	24A4	楕円形	0.32	0.26	0.11		
		973	B	2	24A4	楕円形	0.43	0.34	0.16	974P	
		974	B	2	24A4	L字形	(0.93)	0.68	0.12	973P,975P	
		975	B	2	24A4	楕円形	0.34	0.30	0.18	974P	
		977	B	2	24A4	楕円形	0.36	0.29	0.26		
		978	B	2	24A4	(方形)	0.34	(0.32)	0.15	979P	
		979	B	2	24A4	楕円形	0.40	0.32	0.19	978P	
		980	B	2	24A4	隅丸方形	0.23	0.22	0.22		
第81図		981	B	2	23R1・2	不整形	0.51	0.34	0.27	1112坑	
第81図		982	B	2	23R2	ほぼ円形	0.28	0.27	0.33	1112坑,1113坑,983P	
第81図		983	B	2	23R2	(楕円形)	0.21	(0.15)	0.16	1112坑,1113坑,982P	
第81図		984	B	2	23R2	不整形	0.60	0.33	0.36	1113坑,1115坑	
第81図		985	B	2	23R2	不整形	0.44	0.36	0.31	1113坑	
		986	B	2	23Q2	楕円形	0.17	0.16	0.06		
		987	B	2	23Q1	方形	0.22	0.21	0.22		
		988	B	2	23Q2	隅丸方形	0.22	0.22	0.23	2031P	
		989	B	2	23Q2	楕円形	0.24	0.20	0.14		
		990	B	2	23Q1・2	楕円形	0.29	0.28	0.22		
		991	B	2	23Q1	楕円形	0.25	0.20	0.09		
		992	B	2	23Q1	方形	0.30	0.29	0.04		
		993	B	2	23Q1	楕円形	0.55	0.47	0.12		
		994	B	2	23Q1	円形	0.39	0.37	0.11		
		995	B	2	23Q1	円形	0.26	0.25	0.21		
		996	B	2	23Q1	隅丸長方形	0.17	0.12	0.10		
		997	B	2	23Q1	方形	0.25	0.24	0.09		
		998	B	2	23Q1	楕円形	0.15	0.12	0.06		
		999	B	2	23Q1	隅丸方形	0.31	0.24	0.22		
		2000	B	2	23Q1	不整形	0.38	0.30	0.02		
第88図		2001	B	2	13Q20	隅丸方形	0.48	0.43	0.08		
		2002	B	2	23T2	不整形	0.44	0.27	0.34	147P	2基重複か。
		2003	B	2	23T5	方形	0.25	0.24	0.16	8溝	
		2004	B	2	23T5	楕円形	0.39	0.33	0.43	8溝	
		2005	B	2	24A5	楕円形	0.27	0.25	0.09	8溝	

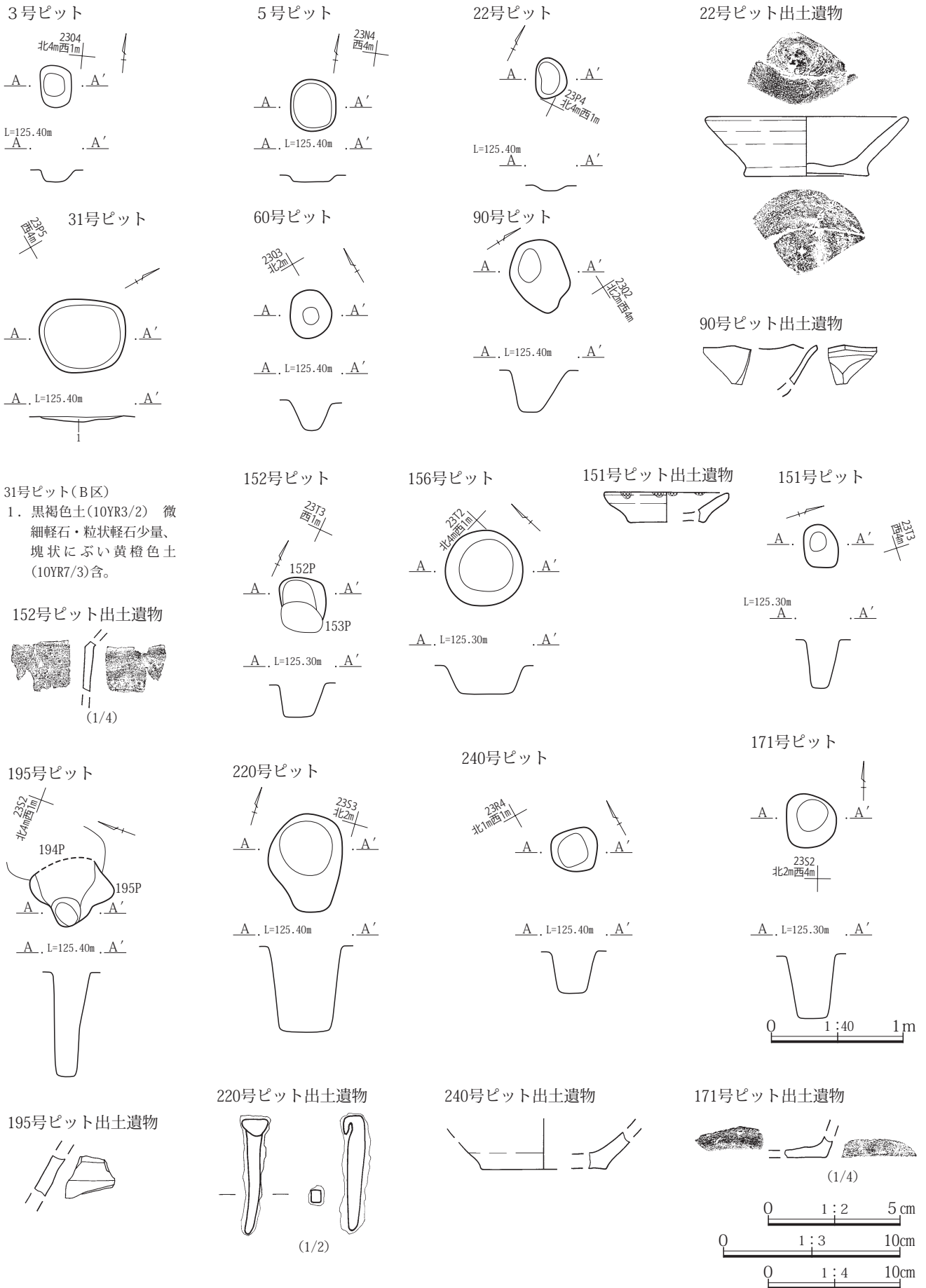
第3章 確認された遺構と遺物

挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		2006	B	2	23T5、24A5	楕円形	0.46	0.45	0.32	8溝	
		2007	B	2	23T5、24A5	長方形	0.34	0.27	0.23	8溝	
		2008	B	2	23T5	楕円形	0.18	0.16	0.14	8溝	
		2009	B	2	23T4	楕円形	0.54	0.46	0.50	8溝	
		2010	B	2	24A4	楕円形	0.30	0.26	0.23	8溝	
第88図		2011	B	2	24A4	楕円形	0.64	0.49	0.27	8溝	
		2012	B	2	24A4	楕円形	0.46	0.43	0.34	8溝	
		2013	B	2	23S4	ほぼ円形	0.44	0.40	0.29		
		2014	B	2	23S4	楕円形	0.40	0.32	0.35	309P	
		2015	B	2	23S4	不整形	0.67	0.47	0.52	304P, 305P, 306P, 307P	
		2016	B	2	23S4	(楕円形)	(0.28)	0.23	0.28	278P, 281P	
		2017	B	2	23S4	(不整形)	(0.32)	0.28	0.18	278P	
		2018	B	2	23S3	ほぼ円形	0.22	0.21	0.49	1掘	
		2019	B	2	23S3	隅丸長方形	0.27	0.18	0.38	1掘, 269P	
		2020	B	2	23R2・3	隅丸長方形	0.25	0.19	0.51	212P, 213P	
		2021	B	2	23R2	方形	0.25	0.24	0.50	811P	
		2022	B	2	23R2	楕円形	0.29	0.26	0.51		
		2023	B	2	23R2	隅丸方形	0.28	0.24	0.44		
		2024	B	2	23R3	方形	0.26	0.22	0.44		
		2025	B	2	23R3	隅丸長方形	0.41	0.29	0.32		
		2026	B	2	23R3	(不整形)	(0.57)	0.41	0.62	1掘, 223P	
		2027	B	2	23R3	楕円形	0.54	0.48	0.55	1掘	
		2028	B	2	23R3	隅丸方形	0.24	0.23	0.42	1掘, 222P	
		2029	B	2	23R3	隅丸方形	0.24	0.20	0.54	1掘	
		2030	B	2	23Q2	楕円形	0.54	0.52	0.71	69P, 70P, 71P(69P, 70P, 71P<●)	
		2031	B	2	23Q2	隅丸長方形	0.69	0.51	0.65	988P	
		2032	D	2	23M14	不整形	0.51	0.39	0.42		
		2033	D	2	23M14	隅丸長方形	0.39	0.28	0.39		
		2034	D	2	23M13	不整形	0.56	0.44	0.90		
		2035	D	2	23M14	楕円形	0.28	0.25	0.14		
		2036	D	2	23M14	楕円形	0.52	0.42	0.22		
		2037	D	2	23N14	楕円形	0.45	0.26	0.22		
		2038	D	2	23M13、23N13	不整形	0.48	0.43	0.25		
		2039	D	2	23M13	長方形	0.28	0.21	0.11		
		2040	D	2	23M13	方形	0.25	0.21	0.11		
		2041	D	2	23M13	不整形	0.30	0.26	0.23		
		2042	D	2	23N13	長方形	0.30	0.23	0.18	34溝	
		2043	D	2	23N13	楕円形	0.39	0.28	0.21		
		2044	D	2	23O13・14	不整形	0.70	0.25	0.42		
第88図		2045	D	2	23O13	楕円形	0.42	0.39	0.20		
第88図		2046	D	2	23O13	楕円形	0.30	0.25	0.17		
		2047	D	2	23O13	楕円形	0.20	0.18	0.10		
第88図		2048	D	2	23P15	隅丸長方形	0.43	0.25	0.28		
		2049	D	2	23P15	楕円形	0.35	0.31	0.17		
第88図		2050	D	2	23P15	楕円形	0.33	0.24	0.16		
		2051	D	2	23P15	方形	0.16	0.15	0.12		
		2052	D	2	23P15	楕円形	0.33	0.29	0.21		
		2053	D	2	23P15	隅丸方形	0.28	0.27	0.22		
		2054	D	2	23P15	楕円形	0.31	0.29	0.28		
		2055	D	2	23P15	方形	0.24	0.22	0.22	2056P	
		2056	D	2	23P15	(方形)	0.25	(0.17)	0.13	2055P	
		2057	D	2	23P15	方形	0.20	0.18	0.09	2058P	
		2058	D	2	23P15	(楕円形)	(0.24)	0.21	0.10	2057P	
		2059	D	2	23Q15	隅丸方形	0.24	0.20	0.37		
		2060	D	2	23Q15	不整形	0.30	0.24	0.22	2061P	
		2061	D	2	23Q15	(楕円形)	(0.28)	0.27	0.19	2060P	
		2062	D	2	23Q15	方形	0.28	0.26	0.08		
		2063	D	2	23Q15	楕円形	0.32	0.28	0.32		
		2064	D	2	23Q14・15	方形	0.22	0.21	0.16		
第88図		2065	D	2	23R14	楕円形	0.47	0.28	0.21		

第9節 土坑・ピット

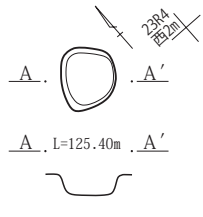
挿図	写真	号	区	面	位置	平面形状	長軸	短軸	深さ	重複(旧<当該遺構(●)<新)	備考(▲=非掲載遺物)
		2066	D	2	23R15	ほぼ円形	0.27	0.25	0.13		
		2067	D	2	23R14・15	不整形	0.37	0.27	0.06		
		2068	D	2	23R14	方形	0.27	0.25	0.16		
		2069	D	2	23R14	(楕円形)	0.26	(0.22)	0.20	2070P	
		2070	D	2	23R14	(楕円形)	0.35	(0.29)	0.25	2069P	
第88図		2071	D	2	23R13・14	楕円形	0.38	0.32	0.27		
		2072	D	2	23R13	楕円形	0.38	0.36	0.28		
		2074	D	2	23N15	楕円形	0.28	0.25	0.25		
		2075	D	2	23S14	楕円形	0.58	0.35	0.12		
		2076	D	2	23S14	楕円形	0.37	0.30	0.36		
第78図		2077	D	2	23M13	楕円形	0.37	0.34	0.24		
第88図		2078	D	2	23M13	楕円形	0.47	0.39	0.51		
		2079	D	2	23M13	楕円形	0.59	0.46	0.50		
		2082	B	2	23P1	(楕円形)	0.49	(0.29)	0.63		
	PL.18	2084	C	2	23H10	(不整形)	(0.39)	0.38	0.13	2083坑,2085P	
第88図		2085	C	2	23H10、23I10	不整形	0.48	0.36	0.15	2084P	
第88図		2086	C	2	23I10	楕円形	0.32	0.24	0.11		
第88図		2087	C	2	23I10	楕円形	0.32	0.29	0.14		
第89図		2088	C	2	23H10	不整形	0.28	0.24	0.11		
第89図		2089	C	2	23H11	楕円形	0.37	0.33	0.27		
第89図		2090	C	2	23H11	方形	0.35	0.34	0.22		
第89図		2091	C	2	23G12	不整形	0.48	0.33	0.22		
第89図		2092	C	2	23G12	方形	0.32	0.26	0.26		
第89図		2093	C	2	23I12	楕円形	0.28	0.26	0.08	52溝(52溝<●)	
		2096	B	2	13R19	楕円形	0.36	0.33	0.13		
		2097	B	2	13R19	楕円形	0.42	0.30	0.14	2098P	
		2098	B	2	13R19	(楕円形)	0.68	(0.22)	0.14	2097P	
		2099	B	2	13T19	不整形	0.40	0.34	0.31		
第89図		2100	B	2	13T19	楕円形	0.42	0.35	0.42		
		2101	B	2	13T19	楕円形	0.41	0.37	0.28	2102P	
		2102	B	2	13T19	(方形)	0.33	(0.26)	0.15	2101P	
		2103	D	2	23M14・15、23L14	(楕円形)	(0.27)	0.26	0.20	2104P	
		2104	D	2	23L14・15、23M15	不整形	0.38	0.32	0.42	2103P	
		2105	D	2	23L15	楕円形	0.61	0.51	0.41		
		2106	D	2	23L15	楕円形	0.40	0.29	0.49	2107P	
		2107	D	2	23L15	(不整形)	(0.45)	0.40	0.45	2106P	
		2108	D	2	23L15	ほぼ円形	0.23	0.22	0.24		
		2109	D	2	23L15	楕円形	0.26	0.24	0.19		
		2110	D	2	23L15	長方形	0.56	0.31	0.30	2115P	
		2111	D	2	23L15	不整形	0.42	0.30	0.43		
		2112	D	2	23L15	不整形	0.53	0.39	0.37		
		2113	D	2	23L15	楕円形	0.38	0.35	0.23	2115P	
		2114	D	2	23L15	楕円形	0.41	0.26	0.40		
		2115	D	2	23L15	(方形)	0.15	(0.12)	0.09	2110P,2113P	
		2116	D	2	23M15	楕円形	0.25	0.23	0.18		
		2117	D	2	23M15	楕円形	0.31	0.24	0.33		
		2118	D	2	23M15	長方形	0.28	0.15	0.03		
		2119	D	2	23M15	楕円形	0.27	0.26	0.26		
		2120	D	2	23M15	楕円形	0.27	0.26	0.40		
第89図		2122	E	2	34B6、34C6	楕円形	0.30	0.28	0.39		
第89図		2123	E	2	34C6	楕円形	0.46	0.44	0.59	11豎	
第89図		2125	E	2	34C6	ほぼ円形	0.37	0.34	0.44	11豎	
第89図		2127	E	2	34C8	楕円形	0.58	0.52	0.17	12豎(12豎<●)	
		2128	D	2	23L14	楕円形	0.31	0.22	0.17		
		2129	D	2	23L14	不整形	0.42	0.35	0.37		
第81図		2130	B	2	23R2	楕円形	0.37	0.31	0.32	14豎,1107坑,1116坑	
	PL.19	940	D	3	33P2	ほぼ円形	0.62	0.55	0.09		
第89図		955	D	3	33Q8	楕円形	0.34	0.31	0.11		
第89図		956	D	3	33R7	方形	0.09	0.08	0.05		
第89図		957	D	3	33Q7	方形	0.12	0.11	0.08		
第89図		958	D	3	33R10	方形	0.17	0.15	0.05		

第3章 確認された遺構と遺物

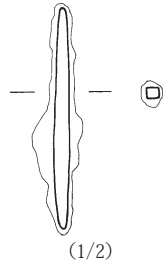


第84図 3・5・22・31・60・90・151・152・156・171・195・220・240号ピット

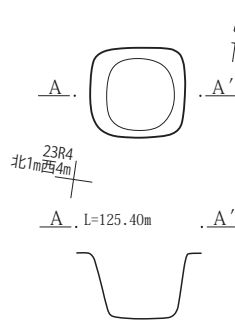
245号ピット



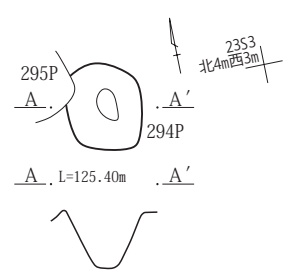
245号ピット出土遺物



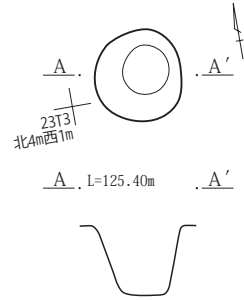
248号ピット



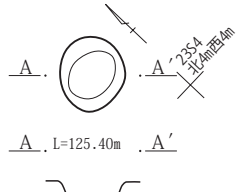
294号ピット



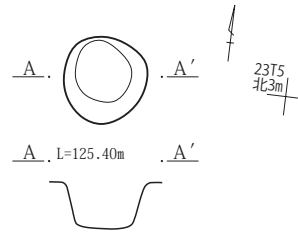
324号ピット



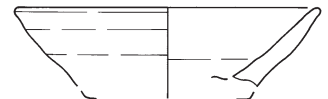
371号ピット



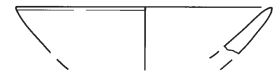
387号ピット



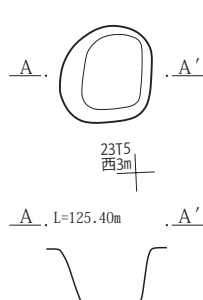
371号ピット出土遺物



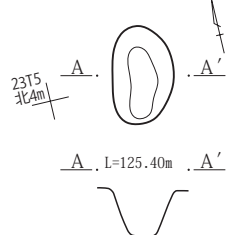
387号ピット出土遺物



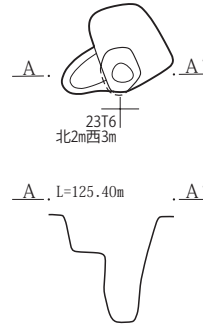
387号ピット



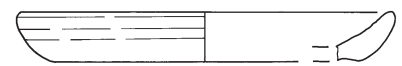
396号ピット



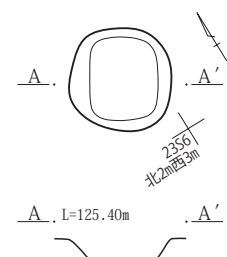
394号ピット



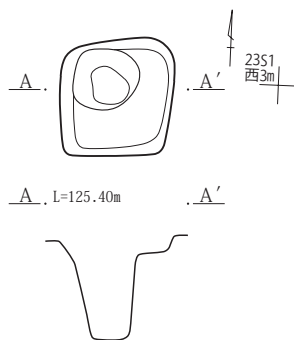
394号ピット出土遺物



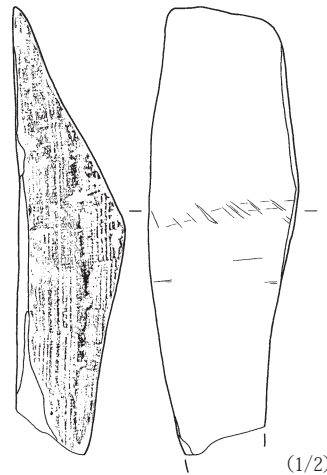
400号ピット



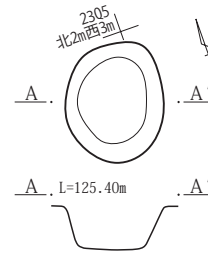
440号ピット



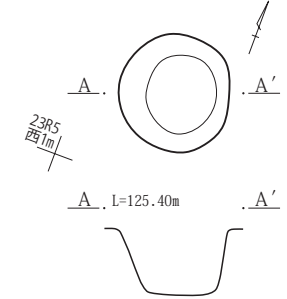
440号ピット出土遺物



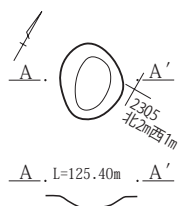
510号ピット



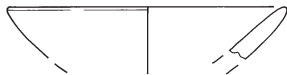
513号ピット



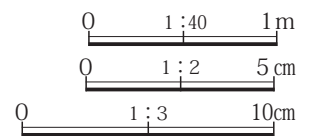
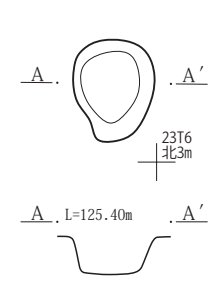
505号ピット



505号ピット出土遺物



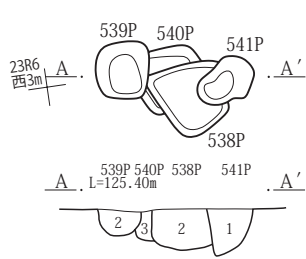
521号ピット



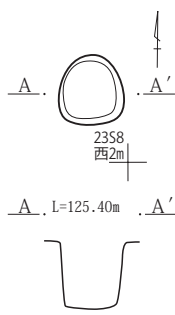
第85図 245・248・294・324・371・378・387・394・396・400・440・505・510・513・521号ピット

第3章 確認された遺構と遺物

538・539・540・541号ピット



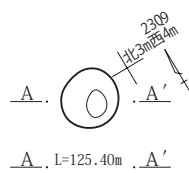
626号ピット



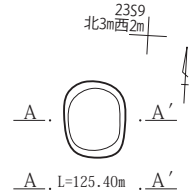
626号ピット出土遺物



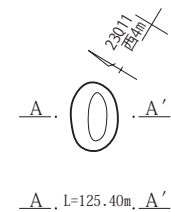
690号ピット



656号ピット



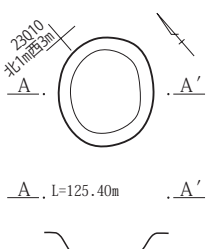
698号ピット



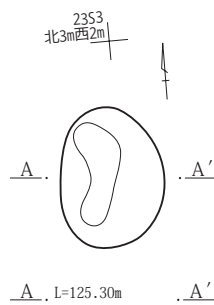
538～541号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。塊状にふい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。塊状にふい黄橙色土(10YR7/3)多量。
3. 黒褐色土(10YR3/2) 粗粒軽石含。

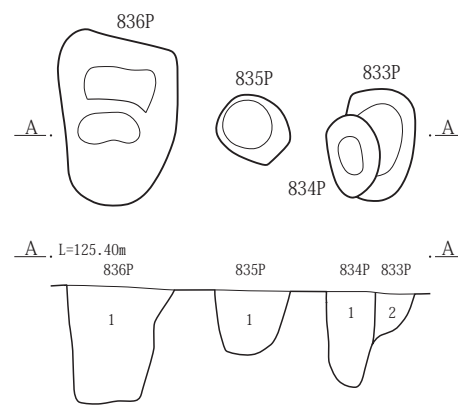
709号ピット



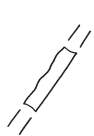
768号ピット



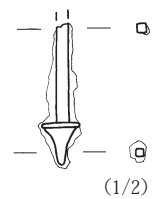
833・834・835・836号ピット



768号ピット出土遺物



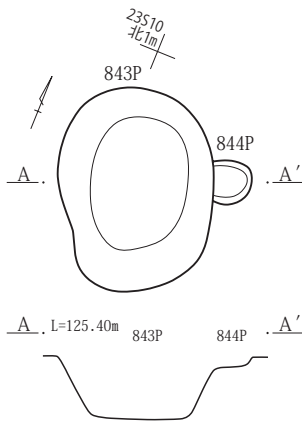
835号ピット出土遺物



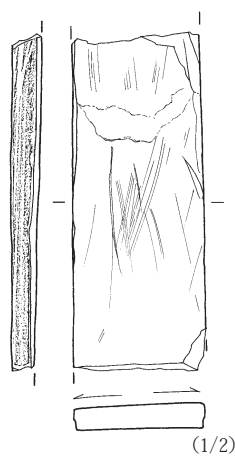
833～836号ピット(B区)

1. 黒褐色土(10YR3/2) 微細軽石・粒状軽石少量、塊状にふい黄橙色土(10YR7/3)含。
2. 小塊状焼土。

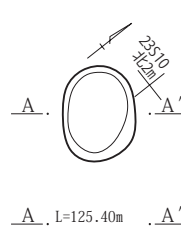
843・844号ピット



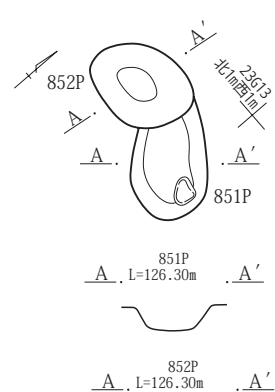
843号ピット出土遺物



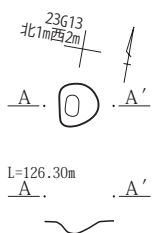
842号ピット



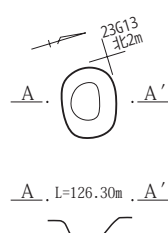
851・852号ピット



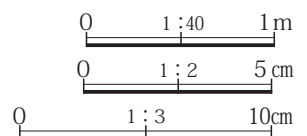
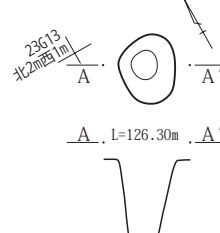
853号ピット



854号ピット

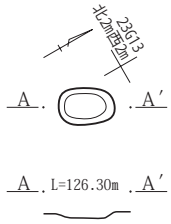


855号ピット

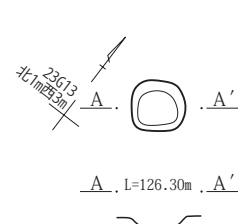


第86図 538～541・626・656・690・698・709・768・833～836・842～844・851～855号ピット

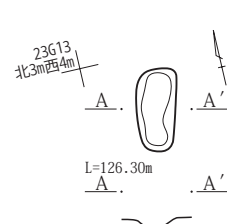
856号ピット



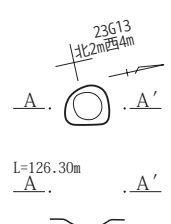
857号ピット



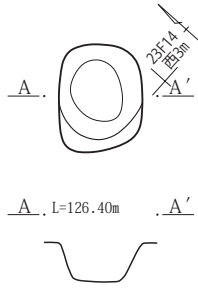
858号ピット



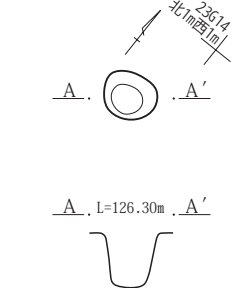
859号ピット



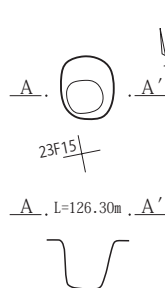
860号ピット



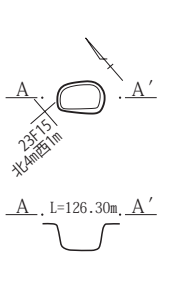
861号ピット



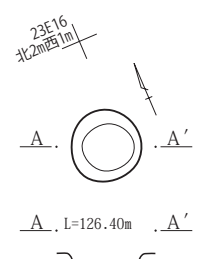
862号ピット



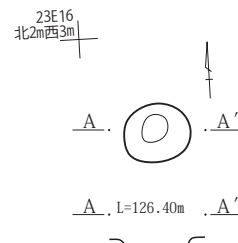
863号ピット



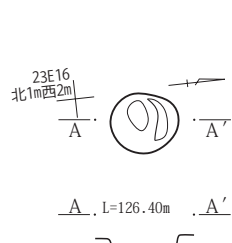
864号ピット



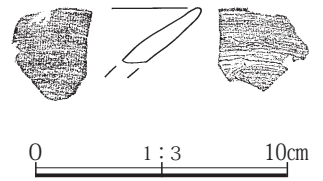
866号ピット



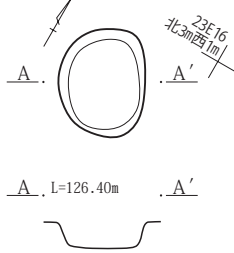
865号ピット



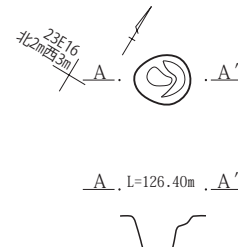
865号ピット出土遺物



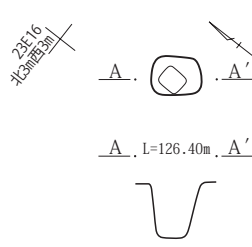
868号ピット



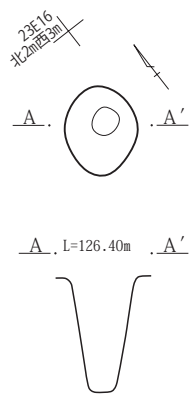
869号ピット



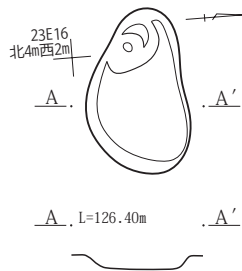
870号ピット



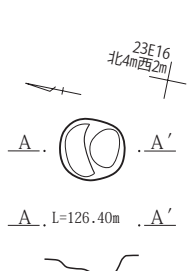
867号ピット



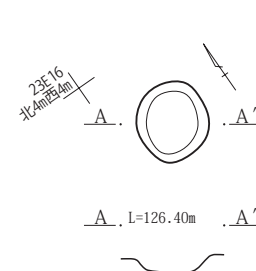
871号ピット



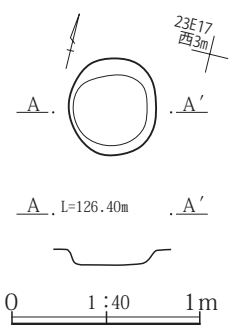
872号ピット



873号ピット



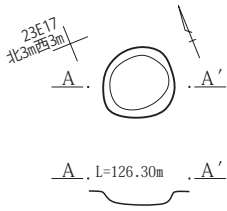
874号ピット



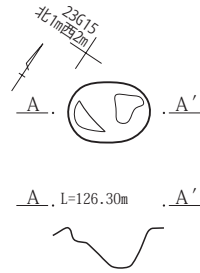
第87図 856～874号ピット

第3章 確認された遺構と遺物

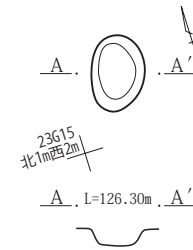
875号ピット



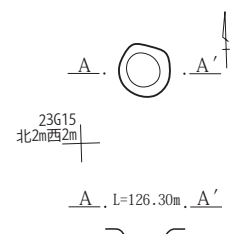
876号ピット



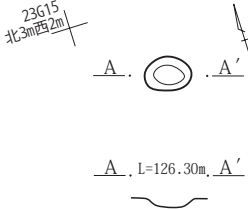
877号ピット



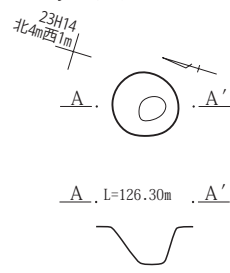
878号ピット



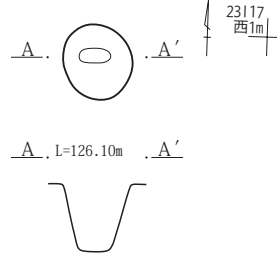
879号ピット



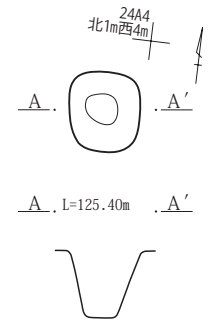
880号ピット



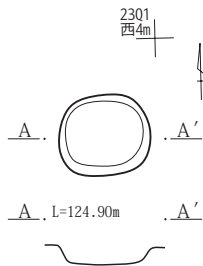
881号ピット



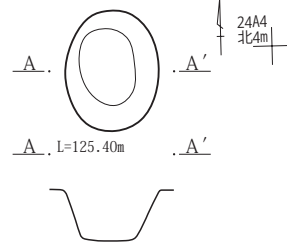
971号ピット



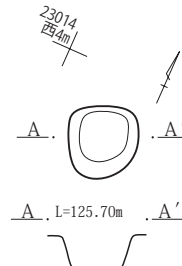
2001号ピット



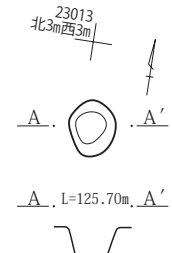
2011号ピット



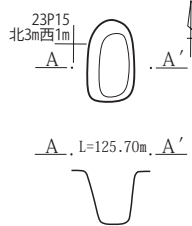
2045号ピット



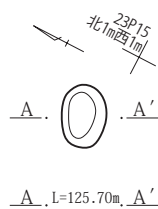
2046号ピット



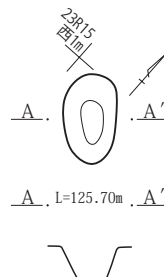
2048号ピット



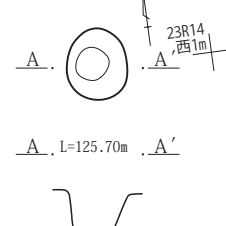
2050号ピット



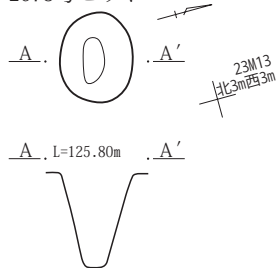
2065号ピット



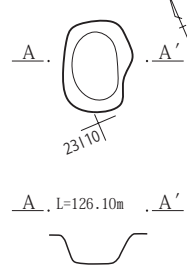
2071号ピット



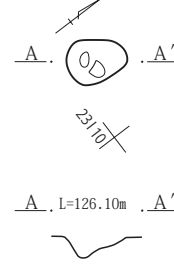
2078号ピット



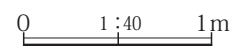
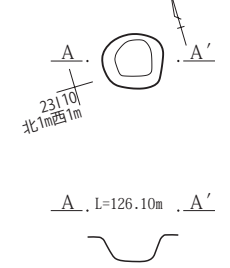
2085号ピット



2086号ピット

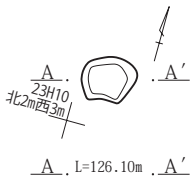


2087号ピット

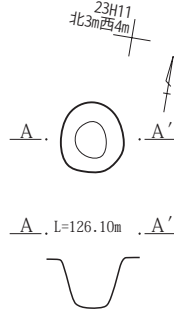


第88図 875～881・971・2001・2011・2045・2046・2048・2050・2065・2071・2078・2085～2087号ピット

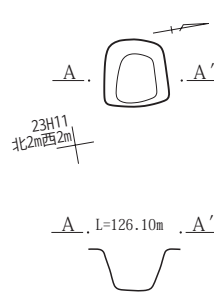
2088号ピット



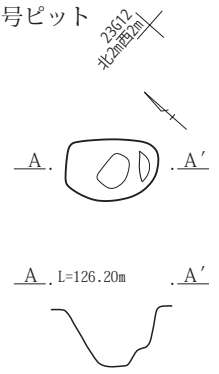
2089号ピット



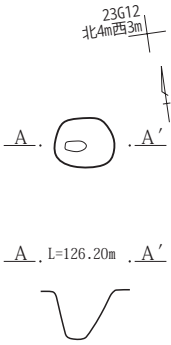
2090号ピット



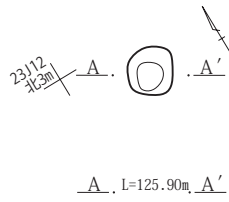
2091号ピット



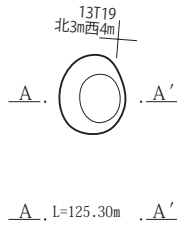
2092号ピット



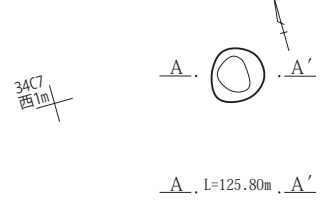
2093号ピット



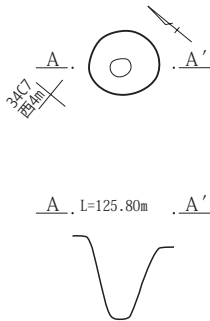
2100号ピット



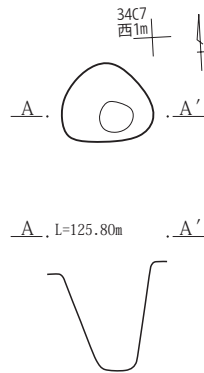
2122号ピット



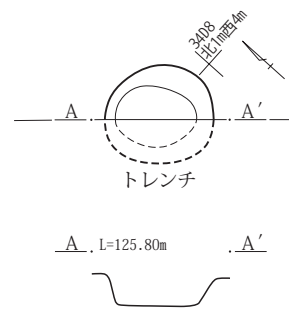
2125号ピット



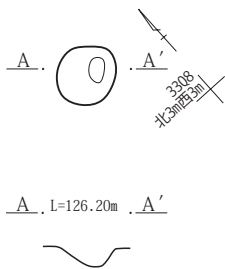
2123号ピット



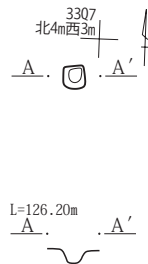
2127号ピット



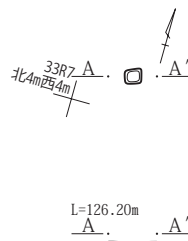
955号ピット



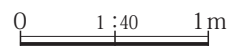
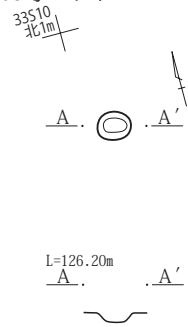
956号ピット



957号ピット



958号ピット



第89図 2088 ~ 2093・2100・2122・2123・2125・2127・955 ~ 958号ピット

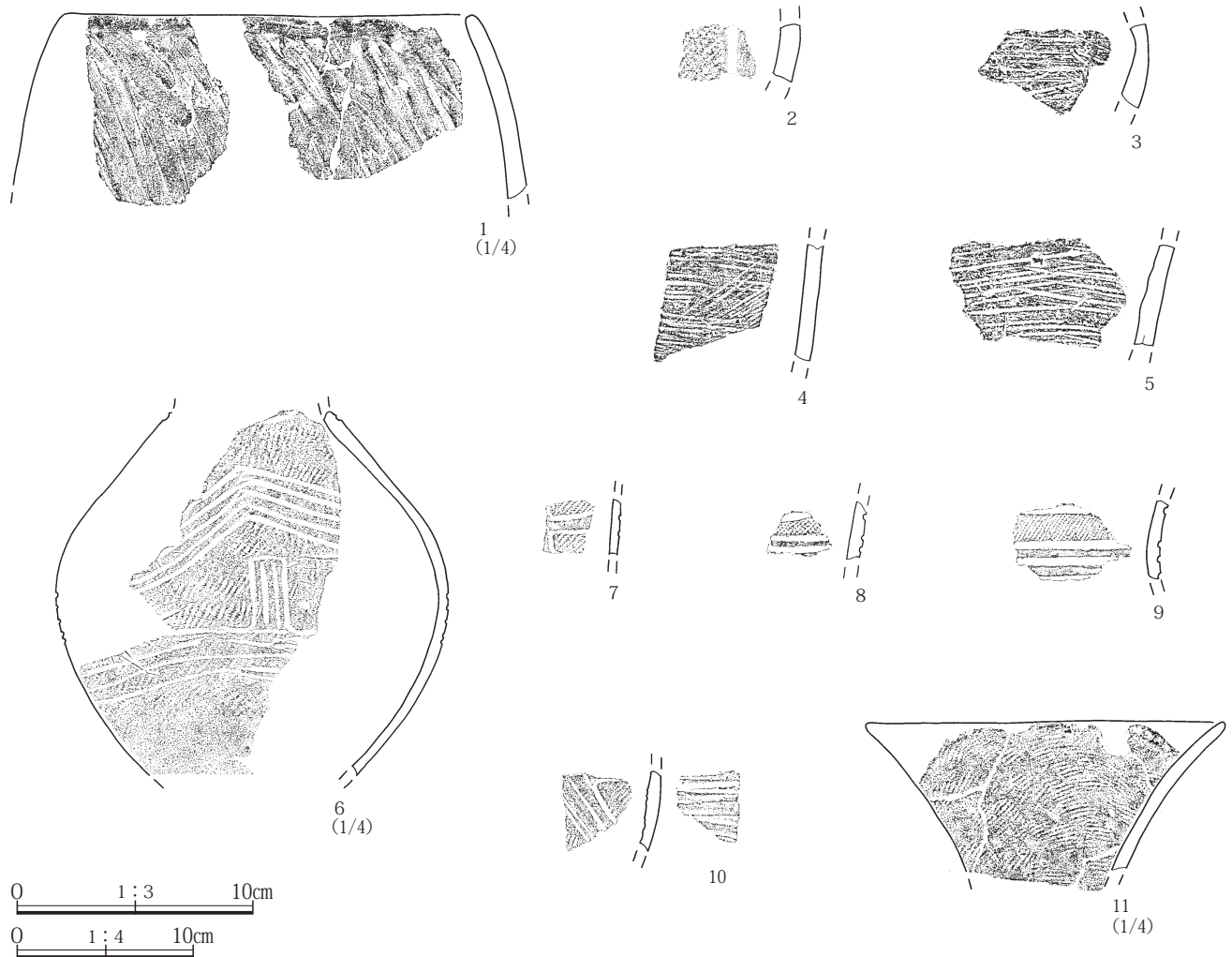
第10節 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物(第90～95図、PL.27～30)は、縄文土器粗製深鉢1点(1)・深鉢4点(2～5)、弥生土器壺3点(6～8)・甕2点(9・10)・鉢1点(11)、土師器坏1点(12)・椀1点(13)・鉢1点(14)・台付甕1点(17)・羽釜1点(18)、黒色土器椀1点(15)、灰釉陶器皿1点(16)、中世古瀬戸陶器瓶子1点(33)、近世丹波陶器すり鉢1点(34)、中世常滑陶器甕2点(35・36)、近世肥前磁器染付碗2点(19・20)青磁皿1点(27)、近現代製作地不詳磁器染付碗1点(21)・平碗5点(22～26)・染付皿1点(28)・湯飲み1点(29)・染付蓋1点(30)・染付段重1点(31)、近世瀬戸・美濃陶器碗1点(32)、中世在地系土器皿2点(37・38)・内耳鍋1点(44)、時期不詳在地系土

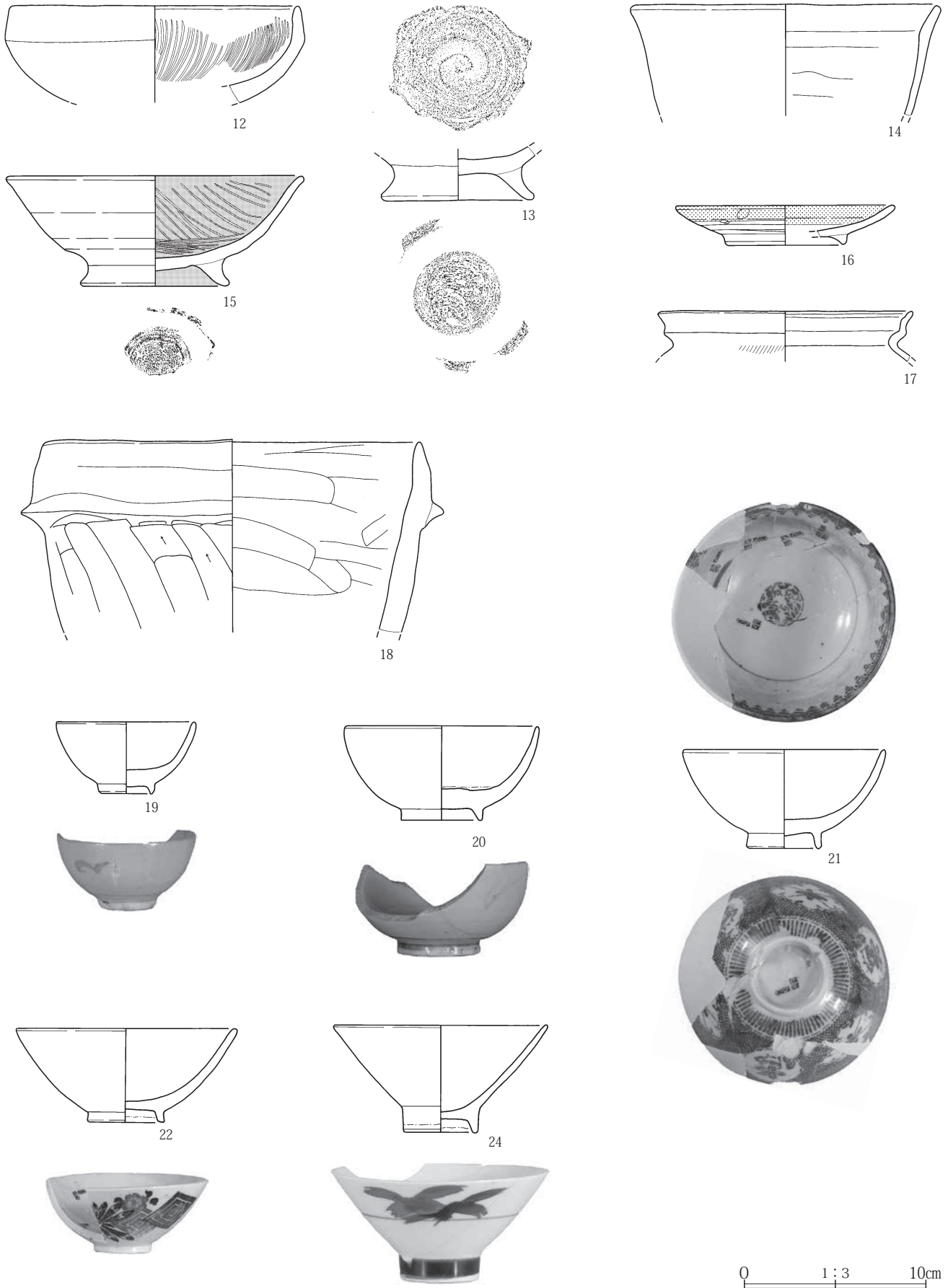
器皿1点(39)、近世以降在地系土器焙烙1点(45)・器種不詳1点(47)、近現代在地系土器蓋2点(40・41)・壺2点(42・43)・器種不詳3点(46～48)、石鍬2点(50・51)、勾玉1点(52)、紡輪1点(53)、砥石1点(54)、茶臼1点(55)、石仏1点(56)、銭貨5点(57～61)を図示した(各遺構の混入と考えられる遺物もここに示した)。銭貨のうち58は3枚、59は4枚、60は7枚癒着していた。

分布傾向を見ると、縄文土器・弥生土器がE区、土師器・須恵器がD・E区、中世磁器がD・E区、中世在地系土器がB・D区、銭貨がD区にそれぞれ集中している。これは、縄文土器・弥生土器・磁器以外、当該遺物を伴う遺構の分布傾向ともほぼ合致している。C区は小破片のみであり、図示できるものはなかった。

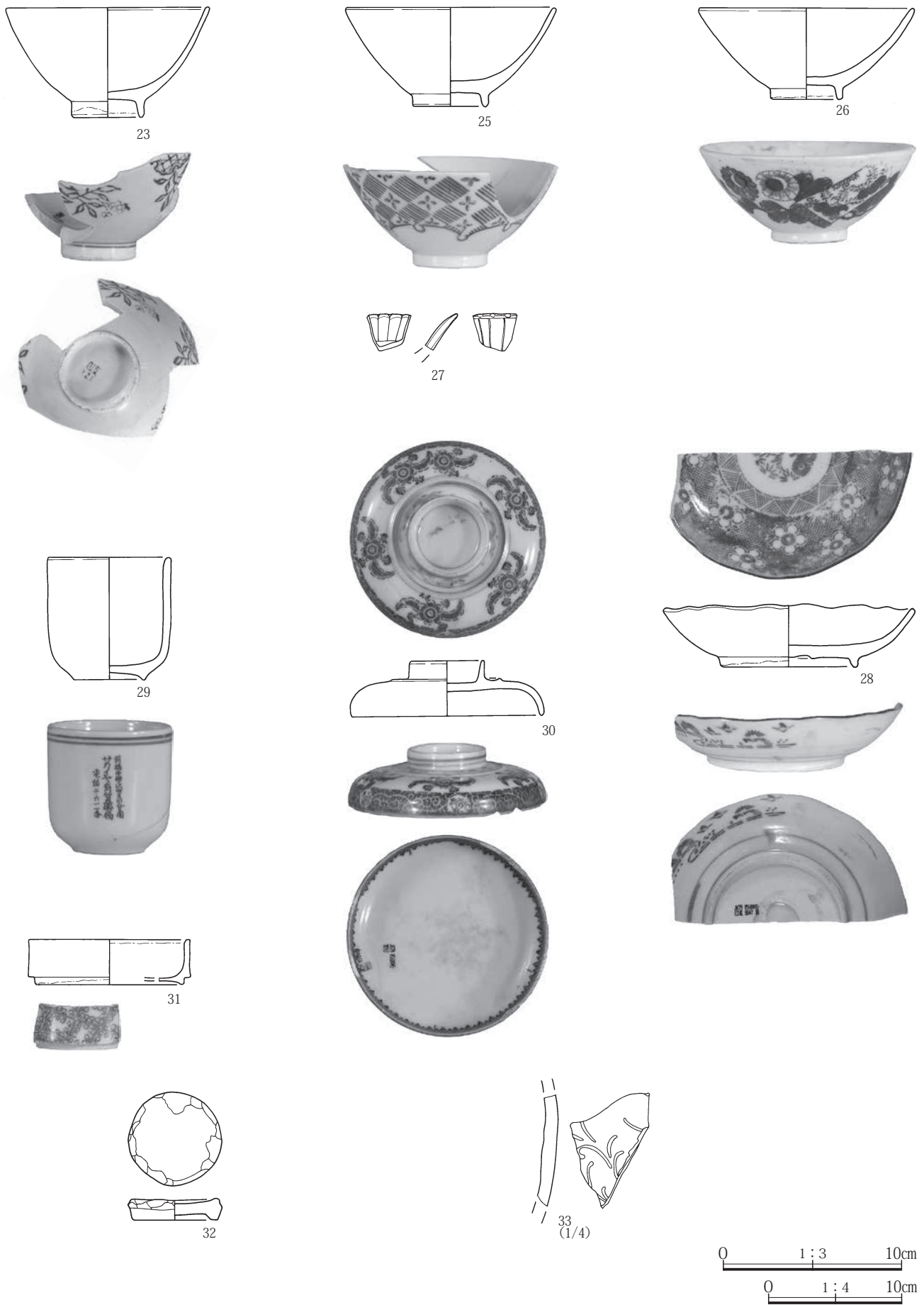
その他、図示できなかつた小破片遺物については第9表を参照。



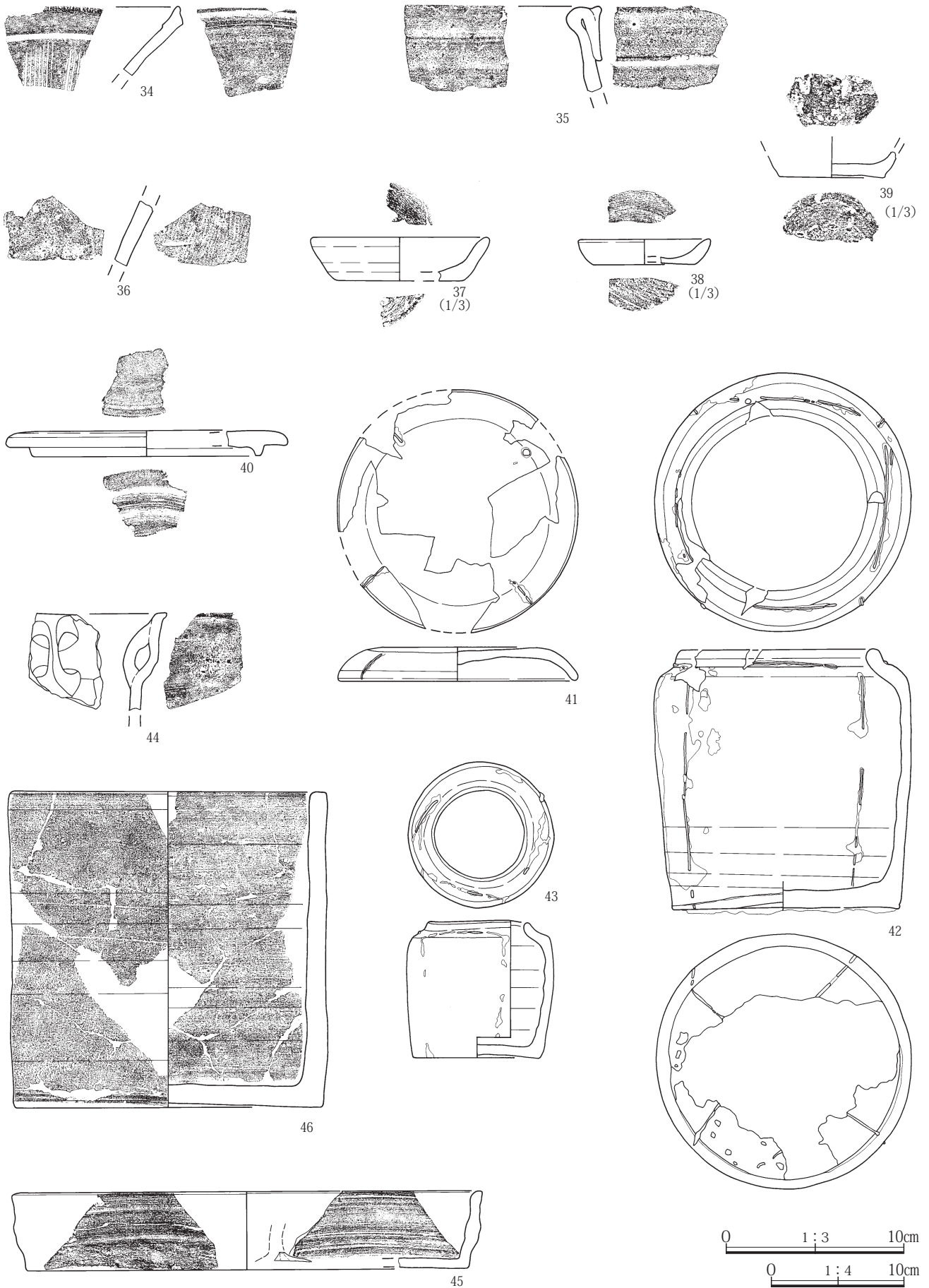
第90図 遺構外出土遺物(1)



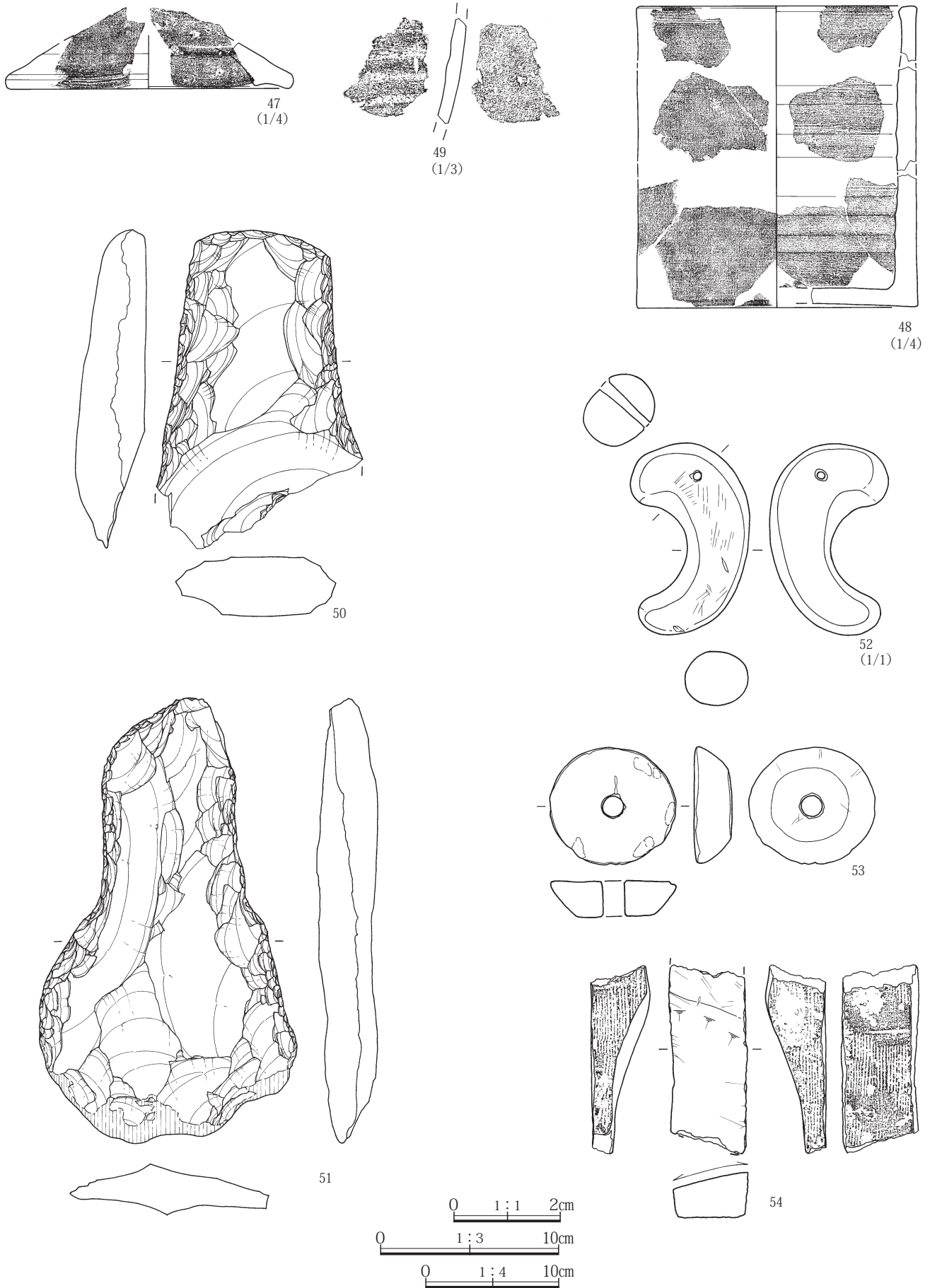
第91図 遺構外出土遺物 (2)



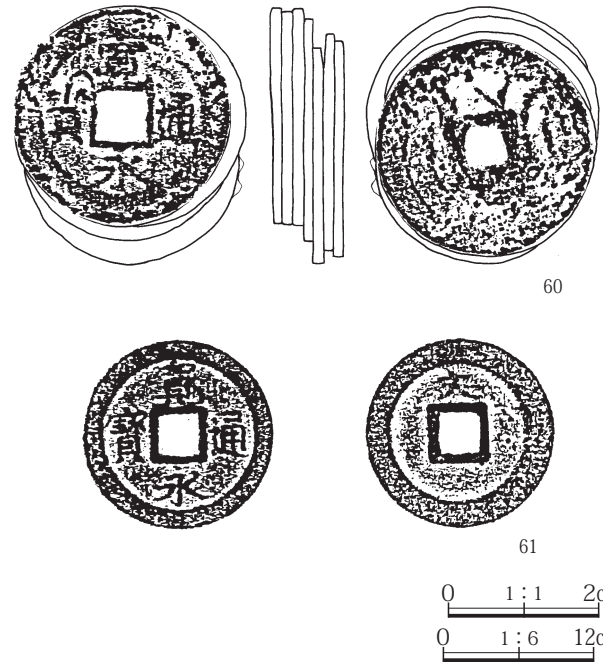
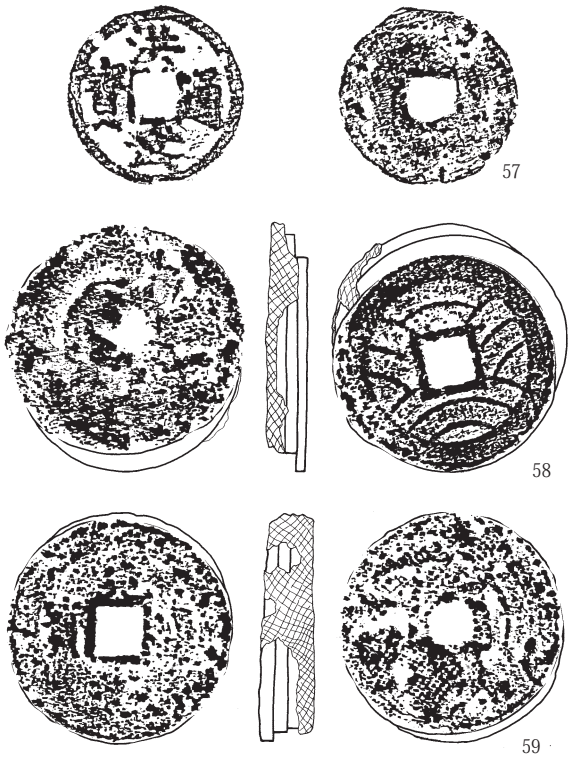
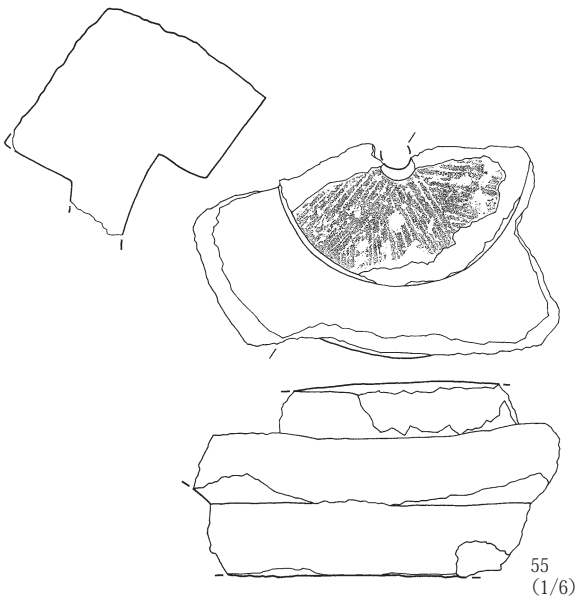
第92図 遺構外出土遺物(3)



第93図 遺構外出土遺物 (4)



第94図 遺構外出土遺物 (5)



第95図 遺構外出土遺物（6）

第9表 遺構外出土非掲載遺物集計表

区	土器・陶磁器										その他				
	縄文 縄文 土器	古墳～奈良平安 土師器	須恵器	国産施 釉陶器	国産焼 締陶器	在地系 土器	国産 磁器	国産施 釉陶器	在地系 土器	近現代 陶磁器	ガラス	瓦	石器 剥片	金属器 鉄製品	鉄滓
A															
B		9	2	4	1	25				1					
C	1	3				1		1		1					
D		18	3			5	3			21				32	
E		14	4	1			6	12	18	13	2	1	1	1	1
F		2	1												
不明		6		1											
計	1	52	10	6	1	31	9	13	18	36	2	1	1	33	1

※破片点数

第4章 自然科学分析

第1節 概要

本遺跡においては、1. 洪水堆積物・テフラ分析、2. 骨類分析を専門機関・専門家に委託して実施した。委託先は、1. が株式会社火山灰考古学研究所、2. が宮崎重雄氏である。これら分析の目的と成果の概要について、以下に記す。

1. 洪水堆積物・テフラ分析の概要

(1) 分析の目的

本遺跡は広瀬川低地帯の後背湿地上に位置するが、約16,000m²に及ぶ調査区の東側が赤城火山南西麓斜面に近接し、かつ西側のE-F区間に旧細ヶ沢川が存在することなどにより地形の変化が著しい。さらに、カスリン台風などによる洪水被害の痕跡等も確認されている。これらの地勢的要因により、本遺跡の堆積物は、調査区内各所で異なる様相を呈している。これにより、調査区内各地点で異なる堆積状況の整合性を補う必要性が生じ、特に下位堆積物の洪水堆積物・テフラを確認することを目的として分析を行った。なお、分析のための試料採取地点は、2・3号溝Bセクション(3号溝)、2号溝、C3区、D1区水田遺構(2号水田に変更)である。

(2) 分析の結果

分析の結果、以下のことが確認された。

- ・ 下位より順に、浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名有馬テフラ(Hr-AA, 5世紀)、榛名二ツ岳沢川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)が確認された。
- ・ 分析試料を採取した遺構については、3号溝はHr-FAとAs-Bの間で、Hr-FPより下位の可能性もある。2号溝はAs-Bより上位と推定される。また、2号水田はAs-CとHr-FAの間の洪水堆積物直下に層位があることが確認された。

2. 骨類分析の概要

(1) 分析の目的

本遺跡においては、遺構の内外から数十個体の人骨・獣骨が出土している。これら人骨・獣骨について、正確な部位・年齢などについて特定し、かつ出土遺構の性格を明確にすることを目的として分析を行った。なお、分析した資料は、人骨資料4点・獣骨(馬骨)資料20点である。

(2) 分析の結果

分析の結果、以下のことが確認された。

- ・ 1号人骨は女性、年齢は不明である。齲歯または歯周病により歯が脱落し、歯槽閉鎖が起きている。2号人骨は女性、10代後半と推定される。齲歯が観察された。1・2号人骨は歯石の沈着も見られる。3号人骨は性別・年齢とも不明である。4号人骨は性別不明、成人である。3・4号人骨は800°C前後の熱を受けている。
- ・ 1号馬骨(埋葬)は20歳前後の老齡馬、小型在来馬相当の体高110数cmである。2号馬骨は壯齡馬、小型在来馬相当の体高115cm前後である。4～6・14・15号馬骨は幼齡馬、体高不明である。7号馬骨は6歳数ヶ月の壯齡馬、小型在来馬相当の体高112～113cmである。8号馬骨は壯齡馬、大きめの小型在来馬相当の体高120cm前後である。11号馬骨は、年齢・体高不明である。13号馬骨は14歳前後・中型在来馬相当の体高137cm弱の13-1号馬骨と、6歳前後・小型在来馬相当の体高120cm前後の13-2号馬骨の2個体とすることが妥当である。16号馬骨は老齡馬、体高不明である。19号馬は壯齡馬、体高不明である。20号馬骨は壯齡馬、中型在来馬相当である。
- ・ 9号馬骨は幼齡馬であるが、在来馬の大きさを超過しており西洋馬など大型馬が混入した可能性がある。
- ・ 10・17号馬骨は馬である可能性が高いが、断定できない。3・12・18号馬骨は種の判別も不能である。

第2節 洪水堆積物・テフラ分析

1. はじめに

関東地方北西部に位置する前橋市とその周辺には、赤城火山、榛名火山、浅間火山をはじめとする北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(火山碎屑物、いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(町田・新井, 1992, 2003, 2011)などに収録されており、遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

利根川の旧河道域である広瀬川低地帯に位置する川端根岸遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な堆積物や遺構が認められたことから、地質調査を実施して土層やテフラの記載を行うとともに、採取した試料を対象にテフラ組成分析、テフラ検出分析、さらに火山ガラスの屈折率測定を行って、洪水堆積物の特徴を把握するとともに、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施し、それとの層位関係から堆積物や考古遺物の層位および年代に関する資料を収集することになった。

調査分析の対象は、B3区2・3号溝B'-B'セクション(3号溝)、B3区2号溝、C3区、D1区の4地点である。

2. 土層層序

(1) B3区2・3号溝B'-B'セクション(3号溝)

3号溝では、下位より白色軽石混じりで暗灰褐色砂質土ブロックを含む褐灰色砂層(層厚12cm, 軽石の最大径13mm)、淘汰の良い灰色砂層(層厚8cm)、白色軽石混じりで色調が若干暗い灰色砂層(層厚3cm, 軽石の最大径9mm)、灰白色シルト層(層厚0.3cm)、灰色シルト質砂層(層厚5cm)、円磨された白色軽石を含む白色灰色シルト層(層厚5cm, 軽石の最大径36mm)、若干色調が暗い灰色腐植質砂層(層厚4cm)、わずかに灰色がかかった褐色砂層

(層厚2cm)、灰色泥層(層厚1cm)、灰白色シルト層(層厚0.1cm)、褐色砂層(層厚1cm)、黄色砂層(層厚0.7cm)、褐色砂層(層厚2cm)、白色軽石混じりで細かく成層した黄色砂層(層厚19cm, 軽石の最大径67mm)、暗灰褐色泥層(層厚0.3cm)、黄灰色砂層(層厚2cm)、灰色泥層(層厚0.3cm)が堆積している(第96図)。

その上位には、明色の黄色シルト層(レンズ状, 最大層厚1cm)、円磨された白色軽石を多く含む灰褐色砂質土(層厚4cm)、黄色シルト質砂層(層厚6cm)、暗灰褐色土(層厚4cm)、黄色砂層(層厚0.3cm)、暗灰褐色土(層厚1cm)、暗灰褐色土の白色を挟む灰褐色砂層(層厚8cm)、暗灰褐色土(層厚2cm)、灰色砂層(層厚6cm)、暗褐色土ブロック混じり黄色砂層(層厚7cm)からなる。この上位に2号溝が構築されている。

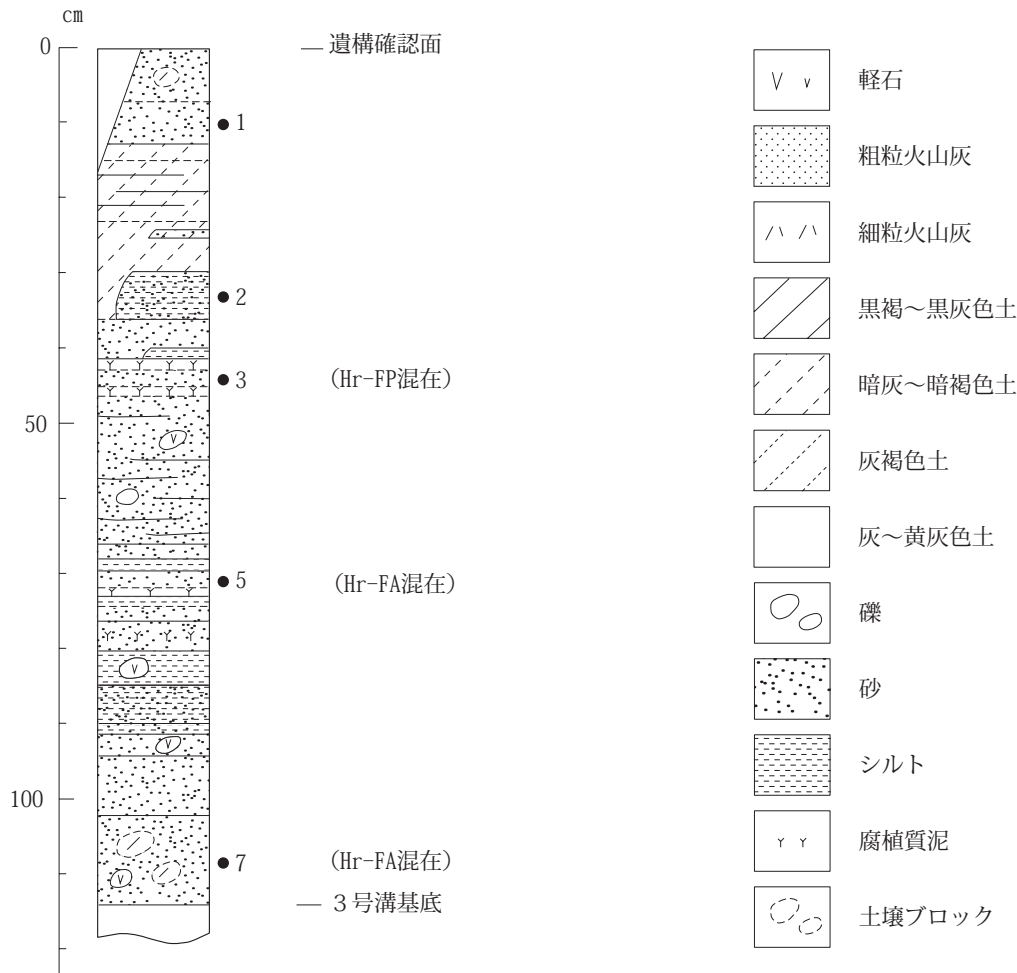
(2) B3区2号溝

3号溝より上位にあるB3区2号溝の覆土は、下位より灰褐色土(層厚10cm)、わずかに暗色の灰褐色土(層厚3cm)、黄灰色砂層ブロック混じり灰褐色土(層厚17cm)、白色軽石混じりで若干色調が暗い灰褐色土(層厚32cm, 軽石の最大径14mm)、白色軽石混じり灰褐色土(層厚27cm)、白色軽石混じりで黄色がかかった褐灰色砂質土(層厚42cm, 軽石の最大径19mm)、灰褐色土(層厚6cm)、灰褐色表土(層厚27cm)からなる(第97図)。

(3) C3区

C3区では、本遺跡の発掘調査区で認められる最下位付近の土層を観察できた(第98図)。ここでは、下位より黒褐色土(層厚3cm以上)、灰白色軽石層(レンズ状, 最大層厚7cm, 軽石の最大径13mm, 石質岩片の最大径2mm)、灰白色軽石混じり黒褐色土(層厚3cm, 軽石の最大径9mm)、紫灰色シルト層(層厚4cm)、灰色砂層(層厚13cm)、灰白色軽石混じり灰色砂層(層厚12cm, 軽石の最大径3mm)、灰白色軽石混じり灰色砂層(層厚16cm, 軽石の最大径3mm)が認められる。

これらのうち、灰白色軽石層は、層相から3世紀後半に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に同定される。



第96図 B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位。数字：分析試料番号。

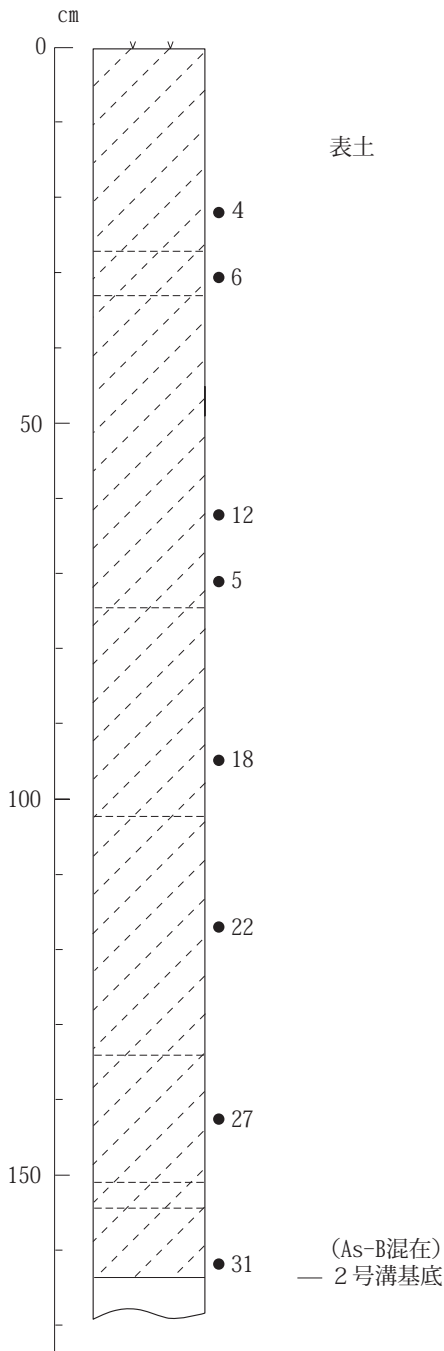
(4) D1区

D1区では、下位より灰色砂質土(層厚10cm)、砂混じりでわずかに色調が明るい黒灰褐色土(層厚10cm)、灰白色軽石層(層厚6cm、軽石の最大径9mm、石質岩片の最大径2mm)、灰白色軽石混じり暗灰色土(層厚12cm、軽石の最大径8mm)、淘汰の良い黄色砂層(層厚11cm)、灰色砂質土(層厚8cm)、成層したテフラ層(層厚4.6cm)、白色軽石混じり灰褐色土(層厚4cm、軽石の最大径13mm)、黄色砂質シルト層(層厚0.6cm)、黄灰色シルト層(層厚1.3cm)、黄色がかった灰色土(層厚2cm)、白色軽石を多く含む灰色土(層厚14cm、軽石の最大径14mm)、若干色調が暗い灰色土(層厚12cm)、わずかに赤みを帯びた褐色砂質土(層厚8cm)、黄灰色粗粒火山灰を多く含む黄灰色固結土(層厚3cm)、白色軽石混じり灰色表土(層厚66cm、軽石の最大径18mm)が認められる(第99図)。

これらのうち、最下位付近の灰白色軽石層は、層相か

らAs-Cに同定される。また、成層したテフラ層は、下位より黄灰色細粒火山灰層(層厚1cm)、粗粒の白色軽石層(層厚3cm、軽石の最大径42mm、石質岩片の最大径19mm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚0.6cm)からなる。このテフラ層は、6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, 2011)のように粗粒の軽石を含んではいるものの、細粒の黄灰色火山灰層の上に軽石層が形成されていることから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003, 2011)に同定される。

なお、本遺跡周辺に降灰している古墳時代の榛名系テフラとしては、Hr-FA、Hr-FPのほかに、5世紀に噴出した榛名有馬テフラ(Hr-AA, 町田ほか, 1984)が知られている。ただし、その噴火でのテフラの噴出量はごくわず

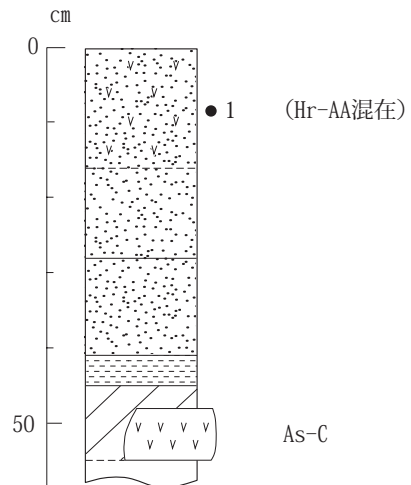


第97図 B3区2号溝の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位. 数字：分析試料番号.

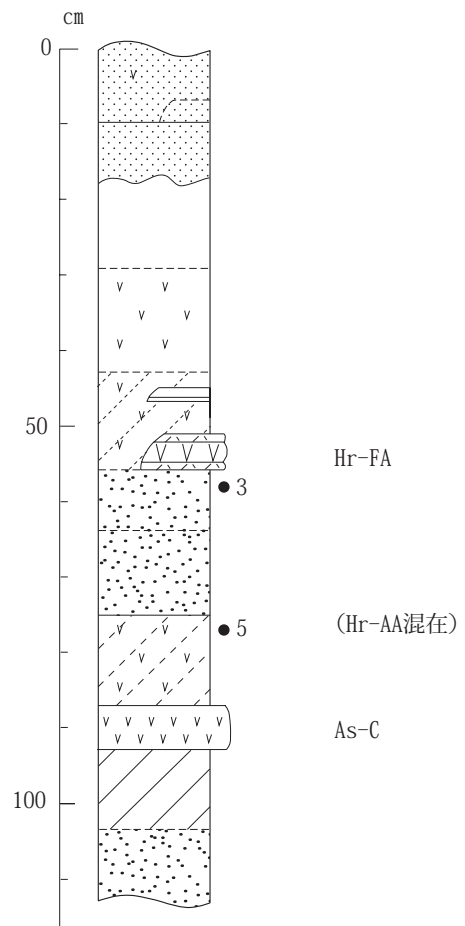
かで、渋川市街地南部での粒径も数mm程度と細粒である(早田, 2014)。

一方、Hr-FAの上位に認められる黄色のシルト質堆積物については、Hr-FP最上部の火山灰層に層相が似ている。しかしながら、この地点で認められる堆積物は、成層しているほかに、ユニットごとに非常に粒径がそろっており、二次的な堆積物の可能性が高い。

また、表土直下に認められる砂質の土層については、



第98図 C3区の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位. 数字：分析試料番号.



第99図 D1区の土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位. 数字：分析試料番号.

含まれる砂が比較的粗粒なことから、1108(天仁元)年に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979)が混在しているものと考えられる。なお、ここでは、As-Bより上位の洪水砂層直下から水田遺構が検出されている。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

B3区2号溝、C3区、D1区で認められた遺構や土層の層位を明らかにするために、9試料を対象に、テフラ粒子の量や特徴などを定性的に把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 土壌・堆積物試料8gを秤量。
- 2) 軽石試料を軽く粉砕。
- 3) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 4) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 5) 実体顕微鏡下で観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第10表に示す。テフラ検出分析の結果、大きく分けて3種類の軽石や火山ガラスが検出された。これらのうち、下位のテフラ粒子は、灰白色の軽石(最大径2.2mm)や軽石型ガラスでスポンジ状によく発泡している。斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。中位のテフラ粒子は、比較的良く発泡した白色の軽石(最大径6.9mm)や軽石型火山ガラスで、斑晶に角閃石や斜方輝石が認められる。上位のテフラ粒子は、比較的良く発泡した淡褐色の軽石(最大径3.8mm)や軽石型ガラスで、中には光沢をもつ褐色のものも少量認められる。斑晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。

B3区2号溝の覆土では、試料27と試料6から下位のテフラ粒子、いずれの試料からも中位のテフラ粒子、そして試料6をのぞくいずれからの試料から上位のテフラ粒子が検出された。C3区の試料1では、下位と中位のテフラ粒子が認められた。さらに、D1区においては、試料5で下位のテフラ粒子、また試料5と試料3で中位のテフラ粒子が認められた。

4. テフラ組成(火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)

(1) 分析試料と分析方法

洪水堆積物性の起源を明らかにするための資料を収集することを目的として、B3区2・3号溝B-B'セクションの3号溝覆土に挟在する洪水堆積物5試料を対象に、

火山ガラス比分析と重鉱物組成(合わせてテフラ組成分析)を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料8gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmおよび1/8-1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 1/4-1/8mm粒径の250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、火山ガラスの形態色調別含有率を求める(火山ガラス比分析)。
- 6) 1/4-1/8mm粒径の重鉱物250粒子について偏光顕微鏡下で観察を行い、重鉱物組成を求める(重鉱物組成分析)。

(2) 分析結果

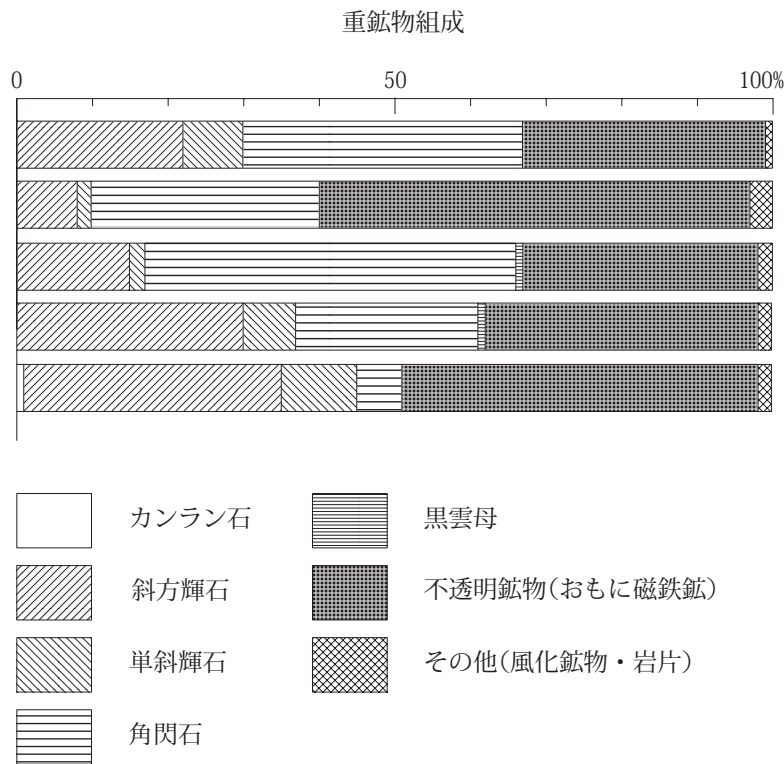
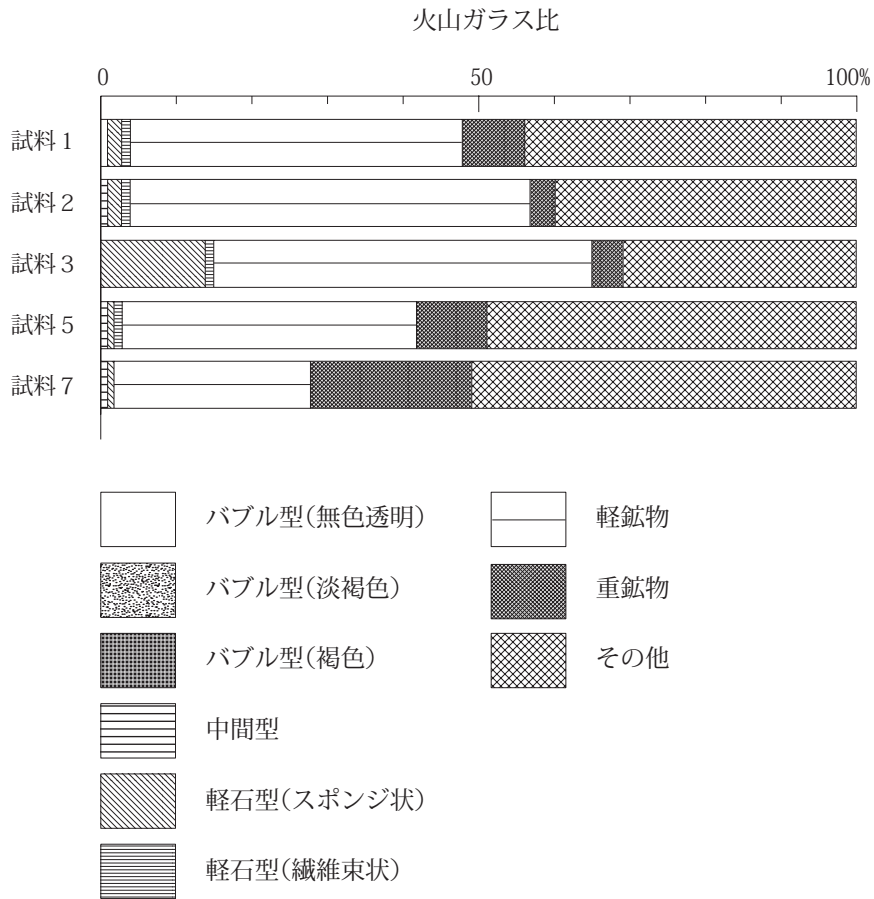
テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして第100図に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を第11表と第12表に示す。テフラ組成分析で検出された火山ガラスは、スポンジ状あるいは繊維束状の軽石型ガラスのほか、微量の中間型ガラスおよび無色透明のバブル型ガラスである。また、重鉱物としては、いずれの試料からも、おもに磁鉄鉱からなる不透明鉱物のほか、角閃石、斜方輝石、単斜輝石が検出された。そのほか、微量ながら黒雲母も認めることができた。

B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)における分析対象試料の中では、試料3に火山ガラスが多く含まれている(14%)。この試料に含まれる火山ガラスとしては、スポンジ状軽石型が比較的多く、ほかに繊維束状軽石型がわずかに含まれている。この試料に含まれる重鉱物の中では、角閃石の含有率が非常に高く(50.4%)、斜方輝石や単斜輝石(合わせて両輝石)の含有率が低い(14.4%、1.6%)。それとは逆に、下位や上位の試料では火山ガラスの含有率が低く、とくに下位の試料に含まれる重鉱物の中で、両輝石の含有率が高く、角閃石の含有率が低い傾向にある。

5. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させる方法としては、全国的に火山ガラスや鉱物の屈折率測定が行われている。そこで、溝遺構や洪水堆積物の層位解明のためにB



第100図 B3区2・3号溝B-B'セクション(3号溝)の火山ガラス比・重鉱物組成ダイヤグラム

第10表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
B3区2号溝	6	*	灰白, 白	2.2, 2.0	**	pm	白, 灰白
	12	*	淡褐	2.0	**	pm	淡褐, 白
	18	**	淡褐, 白	3.4, 6.9	**	pm	淡褐, 白
	22	**	淡褐, 白	3.8, 4.2	**	pm	淡褐, 白
	27	**	淡褐, 白	2.6, 3.4	**	pm	淡褐, 白
	31	*	灰白	2.1	**	pm	淡褐, 白, 灰白
C3区	1	*	灰白, 白	2.2, 3.2	**	pm	灰白, 白
D1区	3				**	pm	白
	5				*	pm	灰白, 白

****: とくに多い, ***: 多い, **: 中程度, *: 少ない. 最大径の単位は, mm. bw: バブル型, pm: 軽石型, md: 中間型.

第11表 火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(c1)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	軽鉱物	重鉱物	その他	合計
B3区2・3号溝B-B' セクション	1	1	0	0	0	5	1	110	20	113	250
	2	0	0	0	1	4	2	133	8	102	250
	3	0	0	0	0	34	1	126	10	79	250
	5	0	0	0	2	3	1	98	22	124	250
	7	0	0	0	2	2	0	66	53	127	250

bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型, c1: 無色透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: スポンジ状, fb: 繊維束状. 数字は粒子数.

第12表 重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	am	bi	opq	その他	合計
B3区2・3号溝B-B' セクション	1	0	54	19	93	0	79	5	250
	2	0	21	5	76	0	140	8	250
	3	0	36	4	126	2	77	5	250
	5	0	75	18	61	2	90	4	250
	7	1	84	25	14	0	122	4	250

ol: カンラン石, opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石, am: 角閃石, bi: 黒雲母, opq: 不透明鉱物(おもに磁鉄鉱). 数字は粒子数.

3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝)の試料5と試料3に含まれる火山ガラスの屈折率特性を把握して、含まれる火山ガラスの起源を明らかにすることになった。測定対象は1/8-1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定法(壇原, 1993)により測定を実施した。

(2)測定結果

屈折率測定結果を第13表に示す。この表には、北関東

地域に分布する後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラに含まれる火山ガラスの屈折率特性も記載した。B3区2・3号溝B-B' セクションの試料5に含まれる火山ガラス(15粒子)の屈折率(n)は、1.498-1.505である。一方、試料3に含まれる火山ガラス(20粒子)の屈折率(n)は、1.501-1.504である。

第13表 屈折率測定結果
試料・テフラ(噴出年代)

	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定点数	
川端根岸遺跡・B3区3号溝・試料3	1.501-1.504	20	本報告
川端根岸遺跡・B3区3号溝・試料5	1.498-1.505	15	本報告
〈北関東地方のおもな指標テフラーAT以降〉			
浅間A (As-A, 1783年)	1.507-1.512		1)
浅間A' (As-A')	1.515-1.521		2)
浅間粕川(As-Kk, 1128年)	未報告		2)
浅間B (As-B, 1108年)	1.524-1.532		1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)	1.501-1.504		1)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)	1.500-1.502		1)
	1.499-1.504		4)
浅間C (As-C, 3世紀後半)	1.514-1.520		2)
浅間D (As-D)	1.513-1.516		2)
妙高大田切川(My-Ot, 約4,500年前)	1.497-1.499		1)
草津白根熊倉(KS-Ku)	未報告		2)
浅間六合(As-Kn)	未報告		2)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)	1.506-1.513		1)
浅間藤岡(As-Fo)	未報告		2)
浅間総社(As-Sj)	1.501-1.518		2)
男体七本桜(Nt-S, 約1.4～1.5万年前)	1.500-1.503		1)
男体今市スコリア(Nt-I, 約1.4～1.5万年前)			1)
浅間草津(As-K)	1.501-1.503		1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5～1.65万年前)	1.501-1.505		1)
浅間大窪沢2 (As-Ok2)	1.502-1.504		1)
浅間大窪沢1 (As-Ok1)	1.500-1.502		1)
浅間白糸(As-Sr)	1.506-1.510		1)
浅間萩生(As-Hg)	1.500-1.502		2)
浅間板鼻褐色(群) (As-BP Group)上部	上部	1.515-1.520	1)
	中部	1.508-1.511	1)
	下部	1.505-1.515	1)
始良Tn (AT, 約2.8～3万年前)	1.499-1.500		1)

1)：町田・新井(1992, 2003), 2)：早田(1996), 3)竹本・奥村(2012), 4)早田(2014).

本報告および3)～4)：温度変化型屈折率測定法(壇原, 1993)による.

1)～2)：故新井房夫群馬大学名誉教授による温度一定型屈折率測定法(新井, 1993).

6. 考察

テフラ検出分析により検出された3種類の軽石や火山ガラスは、その岩相や層位関係などから、下位より順にAs-C、古墳時代の榛名火山起源テフラ、As-Bに由来すると推定される。本遺跡周辺に古墳時代に降灰した榛名系テフラには、前述のように、噴出年代が早い順にHr-AA、Hr-FA、Hr-FPがある。

B3区2号溝の覆土では、これらのテフラのうち、最上位のAs-Bに由来するテフラ粒子が検出されたことから、自然の作用による流失あるいは人為によるAs-Bの除去が行われていない限り、B3区2号溝の層位はAs-Bより上位と考えられる。

溝覆土中に複数の洪水堆積物や比較的粗粒の白色軽石が認められたB3区2・3号溝B'-B'セクションの3号溝では、試料5と試料3に含まれる火山ガラスの屈折率

測定が実施された。その結果、試料5と試料3に含まれる火山ガラスの屈折率特性は、それぞれHr-FAとHr-FPに含まれる火山ガラスの屈折率測定に類似していることが明らかになった。屈折率特性のほか、測定のおもな対象になったスポンジ状軽石型ガラスや、角閃石を榛名系テフラの指標とすれば、少なくとも試料3が採取された堆積物以上の洪水堆積物がHr-FP降灰後に発生した洪水に由来し、とくに榛名系のテフラ粒子を多く含む堆積物と考えることができよう。したがって、試料3より上位の洪水堆積物も、層位はHr-FPより上位で、角閃石の含有率が比較的高いことから、榛名系テフラ粒子を多く含むと考えられる。

一方、それらより下位にある、試料5に含まれる火山ガラスは、屈折率特性の点で、Hr-FA起源のように思われる。この層準では、角閃石の含有率も上位の試料ほどではないものの、まだ高い傾向にあり、榛名系テフラ粒子を比較的多く含んでいると考えられる。ただし、この堆積物に、Hr-FA起源の粒子とHr-FP起源の粒子が混在している可能性を完全に否定するものではないことに注意が必要である。

以上の堆積物と比較すると、最下位の試料7に含まれる角閃石の含有率は低く、榛名系テフラ粒子を多く含むとは言い難い。ただし、この堆積物中にも角閃石を班晶に含む粗粒の白色軽石(前述, 最大径13mm)が認められることから、Hr-FA降灰後の堆積物の可能性が高い。これらのことから、B3区2・3号溝B' セクションの3号溝の層位は、Hr-FAより上位の可能性が高く、Hr-FPより下位の可能性も考えられる。

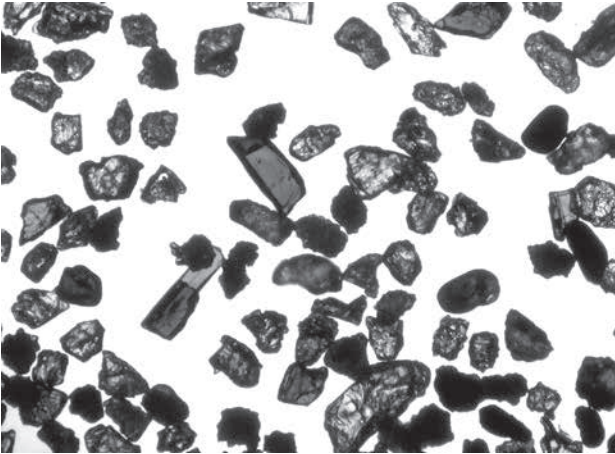
なお、C3区においてAs-Cの上位の灰色砂層から採取された試料1にわずかに含まれる白色軽石は、角閃石が班晶鉱物として認められるものの、非常に細粒である(最大径3.2mm)。この榛名系軽石やその細粒物である白色のスポンジ状軽石型ガラスは、As-Cのすぐ上位にあることや岩相などから、Hr-AAに由来する可能性が高い。また、D1区において、As-CとHr-FAの間から採取された試料5および試料3に含まれる白色の軽石型ガラスも、層位や岩相から、Hr-AAに由来すると思われる。したがって、D1区においてAs-CとHr-FAの間に層位がある水田遺構は、Hr-AA降灰後に発生した洪水堆積物によって覆われていると考えられる。

7. まとめ

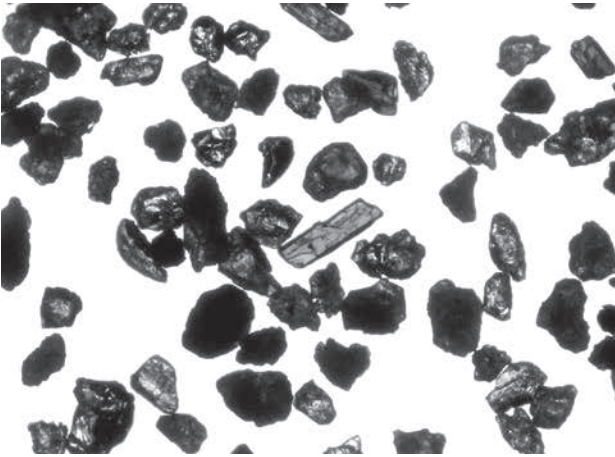
川端根岸遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、テフラ組成分析(火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 3世紀後半)、榛名有馬テフラ(Hr-AA, 5世紀)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)を検出することができた。発掘調査で検出された遺構のうち、B3区の3号溝はHr-FAとAs-Bの間で、Hr-FPより下位の可能性もある。また、B3区の2号溝はAs-Bより上位と推定される。さらに、D1区で検出された水田遺構は、As-CとHr-FAの間の洪水堆積物直下に層位があると考えられる。

参考文献(第4章 第2節)

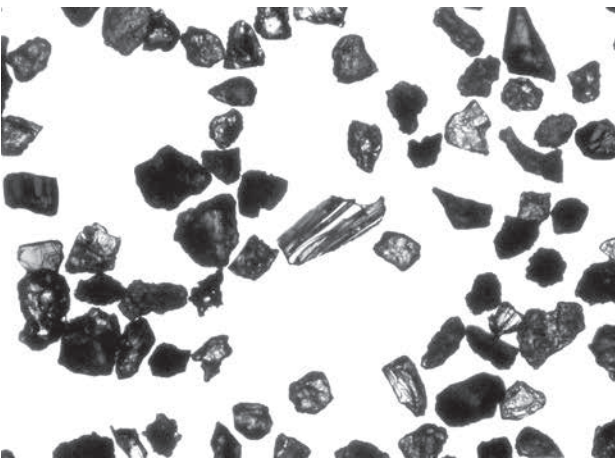
- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.
 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質. 地団研専報, no.14, p.1-45.
 壇原 徹(1993)温度変化型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法2」, 東京大学出版会, p.149-158.
 町田 洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス」. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第2刷)」. 東京大学出版会, 336p.
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ. 古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書—」, p.865-928.
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
 坂口 一(2010)高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向—中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落との関係—. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」, p.17-22.
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
 早田 勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
 早田 勉(2014)渋川市有馬寺畑遺跡におけるテフラ分析. 渋川市教育委員会編「有馬寺畑遺跡」, p.197-211.



1. B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝)
試料3の顕微鏡写真(透過光).
中央：スポンジ軽石型ガラス，中央右上ほか
半透明有色鉱物：角閃石.



2. B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝)
試料5の顕微鏡写真(透過光) (1).
中央ほか半透明有色鉱物：角閃石.



3. B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝)
試料5の顕微鏡写真(透過光) (2).
中央：繊維束状軽石型ガラス.

写真1 B3区2・3号溝B-B' セクション(3号溝)試料の顕微鏡写真

第3節 骨類分析

1. 人骨

川端根岸遺跡では4人分の人骨・歯が出土している。本稿では、性別判定は主にMatsumura (1995)のデータを参考に、年齢推定は歯の咬耗度をもちい、主に栃原(1957)のデータを参考にした。

1号人骨(第14表)

出土遺構名：1号土坑墓 時代：中世

出土時の写真によると、体軸は南北方向に伸び、顔面を西に向けた横臥屈葬であることがわかる。取り上げ後の頭蓋、上腕骨、尺骨、寛骨、大腿骨、膝蓋骨など保存状況は不良で、崩壊・破損がはなはだしい。現状では観察事項が極めて限られている。

有効な計測値が得られたのは歯牙(第14表)と上腕骨、大腿骨片のみである。左上腕骨では中央最大径が19.2mm、中央最小径14.0mmである。右大腿骨では保存全長が270.0+mm、骨体中央矢状径23.5mm、骨体中央横径25.4mm、骨体中央周77.0mmである。左大腿骨の保存全長は120.0mmである。

① 性別 Matsumura (1995)の示す鎌倉時代人・江戸時代人の歯の計測値に本人骨のそれ(第14表)を照合してみると、ほぼすべての計測値で本人骨は両時代人の女性の計測値を下回る。このことから、女性と判断される。

② 年齢 本個体では歯牙以外は保存極めて不良で、年齢判定の判断材料とはならず、ここでは歯の咬耗度のみを用いた。

各歯牙の咬耗度は(第14表)に示すように、11本の歯のうち9本で象牙質の露出があり、他の3本でエナメル質のみの咬耗が観られる。このうち最も咬耗が進んでいるのは左下顎第1小白歯で、頬側咬頭で象牙質が大きく露出している。逆に咬耗の最も小さいのは左・右の上顎第1大白歯で、わずかにエナメル質のみに咬耗がみられる。

第1大白歯は一般に永久歯の中では萌出が最も早く、6歳頃に萌出する。その歯が最も咬耗が進んでいないというのは異常なことである。

1号人骨の保存の現状では、歯の植立状況を観察でき

たのは左下顎のみであったが、第1大白歯から第3大白歯までの歯を欠き、歯槽も観察されなかった。すなわち左上顎第1大白歯は咬み合わせの対咬歯を欠き、咬耗があまり進行しなかったと考えられる。

なお、右上顎第1大白歯の咬耗度が低い理由については、対咬歯のある左下顎骨の様子が観察できないので、どのような事情によるのか言及できない。

そこで特殊事情に合った第1大白歯は別にして、その他の歯の咬耗度から推定すると、熟年～老年の個体であったと思われる。

③古病理 上顎第2小白歯の近心面に径2mm程の齶蝕がある。

第1大白歯から第3大白歯までの歯を欠き、歯槽も観察されないのは、齶蝕または歯周病によって歯が脱落し、後に歯槽閉鎖が起こった結果であろう。

多くの歯で歯石の沈着が見られた。

2号人骨(第14表)

出土遺構名：4号土坑墓 時代：近世

15本の歯と土と一体化した状態のきわめて保存の悪い腐食骨片が数片存在する。

①性別 Matsumura (1995)の示す、鎌倉時代人・江戸時代人の歯と2号人骨の歯の計測値を照合してみると、性差の比較的著しいとされる犬歯(権田和良、1959)において、上顎犬歯・下顎犬歯とも唇舌径では両時代人の女性より小さく、近遠心径では両時代人の女性よりは大きい、男性を上回ることはない。第1大白歯・第2大白歯においても、ほとんどの計測値で両時代人の女性より小さく、両時代人の女性より大きいものがあったとしても男性を超えることはない。

このことから、女性と考える。

②年齢 切歯で、咬耗が象牙質に至っているものもあるが、その他の歯は、咬耗の痕跡の見られないものや、痕跡があってもエナメル質のみにとどまっている。

もっとも早期に萌出する第1大白歯でもエナメル質のみの咬耗である。

また、左下顎第2大白歯では遠心面に接触面が観察されない。すなわち第3大白歯が萌出してない可能性が考えられる。

以上の状況から年齢は10代後半と推定される。

第14表 骨類計測表(1)

1号人骨

切歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	左	1	8.3	6.8	10.4	切縁部に線状の象牙質露出	歯石付着
		2	7.0	6.2	8.3	切縁部に線状の象牙質露出	
下顎	左	1	5.0	5.5	6.0	切縁部に带状の象牙質露出	歯石付着
		2	5.6	5.7	6.8	切縁部に带状の象牙質露出	歯石付着

犬歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項
上顎	左	7.1	7.7	7.2	咬頭部に菱形の象牙質露出	
下顎	左	6.3	7.2	8.4	咬頭部に半月形の象牙質露出	

小白歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	左	1	7.2	9.2	5.9	エナメル質のみの咬耗	歯石付着
		2	6.9	9.1	6.8	頰側咬頭と舌側咬頭に点状に象牙質露出	近心面に径2mmのC2の齧蝕あり
下顎	左	1	6.7	6.7	4.8	頰側咬頭で象牙質が大きく露出	

大白歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	右	1	9.6	10.8	6.0	わずかにエナメル質のみの咬耗	歯石付着
	左	1	9.3	10.8	5.5	わずかにエナメル質のみの咬耗	歯石付着

単位：mm

2号人骨

切歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	右	2	7.1	6.2	9.4	切縁部から舌側にかけてエナメル質のみの咬耗あり	
		1	8.8	7.2	10.5	切縁部の近心半に細い線状の象牙質の露出あり	
	左	2	7.4	6.6	9.4	近心辺縁隆線に細い線状の象牙質の露出あり	近心面に径2mmのC2の齧蝕あり

犬歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項
上顎	右	7.8	7.7	8.9	尖頭部から舌側にかけてエナメル質のみの咬耗あり	歯石付着
	左	7.7	7.8	9.2	エナメル質のみの咬耗	
下顎	左	6.7	7.2	9.7	尖頭部の遠心部にエナメル質のみの咬耗あり	歯石付着

小白歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	右	2	7.6	9.3	6.3	舌側にエナメル質のみの咬耗あり	近心面に径2mmのC2の齧蝕あり
		1	6.7	8.8	6.4	エナメル質のみの咬耗あり	
	左	1	7.2	9.1	7.4	エナメル質のみの咬耗あり	歯石付着
		2	7.1	9.4	7.8	エナメル質のみの咬耗あり	歯石付着
下顎	左	1	7.1	8.1	8.4	明瞭な咬痕は観察されない	

大白歯

歯	種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	咬耗状況	特記事項	
上顎	右	1	9.9	11.3	5.7	エナメル質のみの咬耗あり	遠心舌側歯頸部にC1の齧蝕あり
	左	1	9.6	11.2	5.8	エナメル質のみの咬耗あり	
下顎	左	1	11.2	10.2	6.2	頰側の3咬頭にエナメル質のみの咬耗あり	歯石付着。
		2	10.3	9.4	5.6	頰側の2咬頭にエナメル質のみの咬耗あり	中心小窩に象牙質に至る小孔あり

単位：mm

③古病理 3本の歯に齧蝕が観察された。

すなわち、上顎第2切歯の近心面に径2mmのC2、右上顎第2小白歯の近心面に径2mmのC2、右上顎第1大白歯の遠心舌側歯頸部にC1の齧蝕である。

多くの歯で歯石の沈着が見られた。

3号人骨

出土遺構名：1号火葬墓 時代：近世

最大骨片30.5mm×19.4mmの体肢骨や椎骨などを含む数100片の焼骨の細骨片である。細片化がはなはだしく、詳細な部位判定は不可能である。

黒灰、灰白、白色などを呈し、歪み・亀裂が生じている。800°C前後の熱を受けたのであろう。

性別・年齢は不明である。

4号人骨

出土遺構名：D1区トレンチ 時代：不明

右下顎骨の焼骨で、下顎体と下顎枝の一部が残存する。亀裂が多数入り、歪みも発生している。800°C前後の熱で焼かれたのであろう。

犬歯から第3大臼歯までの歯槽が残存し、歯も歯冠エナメルを欠いた第1大臼歯が残っている。

①性別 焼骨では縮小が起こり、変形・歪みが生じるため、本来の骨の形態を知るのには困難で、性別も判定できない。

②年齢 第3大臼歯の萌出していることが確認できることで、少なくとも、成人に至っていることはわかる。

参考・引用文献

- Douglas H. Ubelaker (1989) Human Skeletal Remains - excavation, analysis, interpretation. sec.eds. Taraxacum, Washington
権田和良(1959)、歯の大きさの性差について。人類学雑誌67,151-163.
平野賢二(1935)「歯牙の熱処理に対する研究(第一編)人類歯牙の熱処理に就いて」口腔病学雑誌9号、375-393
上條雅彦(2000)「日本人永久歯解剖学」。アナトーム社
Matsumura.H (1995) A Microevolutional History of the Japanese People as Viewed from Dental Morphology. National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum, Tokyo.
瀬田季茂・吉野峰生(1990)「白骨死体の鑑定」、令文社。
柄原 博(1957)、日本人歯牙の咬耗に関する研究。熊本医学会雑誌31,607-656.

2. 馬骨

本稿で報告するウマの年齢および体高推定は、主に西中川駿・松元光春(1991)、西中川駿・他(2015)によった。年齢推定に用いた歯冠高は、歯根部の保存状況不良なものほとんどで、セメント質の厚く付着したものもあり、頬側歯冠高と舌側歯冠高の平均値で代用した。

1号馬骨(第15表)

出土遺構：2号溝 時代：中近世

1号馬の埋存姿勢は、体軸をほぼ南北方向に、頭部を北に、前肢骨、後肢骨を西方に置いて横たわり、頭部は胸部にあった。

出土時にはほぼ全身の骨格が見られたが、すでに腐食

が進んでおり、現状では崩壊・破片化が著しい。有効な計測値は歯牙以外ごくわずかしかなかった。

①年齢 白歯の咬耗はなほだしく、上顎臼歯では、咬合面の周囲のみにエナメル質が残り、内側では多くの歯で磨滅により消失している。なかには過度の咬耗で咬合面に歯髓腔の小孔が4個も開口しているものもある。下顎臼歯ではほとんどの歯で下後錘谷のエナメルが磨滅により消失している。

したがって、どの歯でも歯冠高が極めて低い。(第15表)。このことから、本個体は20歳前後の老齢馬であろうと推定される。天寿を全うし、老衰により自然死したものであろう。

②体高 歯牙以外の体幹・体肢骨では、崩壊・破損がはなほだしく、ある程度信頼のおける計測値が得られたのはわずかに中足骨の横径(24.0mm)・前後径(23.0mm)のみであった。この数値は本個体が小型在来馬相当の110数cmの体高であったことを示している。

2号馬骨(第16表)

出土遺構：24号溝 時代：中近世

第3後臼歯を欠く左下顎臼歯5本と下顎切歯3本である。出土時には歯列をなしていたが、現状ではすべて遊離歯となっている。犬歯と思われる歯も含まれていて、牡馬と判断される。

①年齢 白歯の歯根は分岐したばかりで、若い個体であることがわかる。第4前臼歯・第1後臼歯を代表させて歯冠高から年齢を求めると、6歳前後の若い牡馬であることが示される。

②体高 第4前臼歯・第1後臼歯を代表させて体高を求めると、115cm前後の小型在来馬相当であることが示される。

3号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

数片の細骨片で、ウマとは断定できない。種不明。

4号馬骨

出土遺構：31号溝 時代：中近世

数片に分離した左下顎(第2後?)臼歯である。

①年齢 舌側歯冠高は71.0mmを計測し、幼齢馬であるこ

第15表 骨類計測表(2)

1号馬骨

右上顎臼歯

歯種	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第3後臼歯
歯冠遠心径	25.0	22.4	19.6	25.0+
歯冠頬舌径	24.2	25.4	25.0	22.0
原錘幅	9.0	9.8	11.1	15.0
中附錘幅	3.8	3.4	4.0	

左上顎臼歯

歯種	第3前臼歯	第4前臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠遠心径	24.8	21.5	19.5	25.4
歯冠頬舌径	23.4	24.2	23.4	14.0
原錘幅	8.9	9.2	12.0	14.0
中附錘幅	3.8	3.1	4.2	4.3

右下顎臼歯

歯種	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠遠心径	26.4	23.2	21.9	20.4	20.6	27.8
歯冠頬舌径	12.6	12.2	13.0	12.8	11.1	10.2
頬側歯冠高	5.7					11.6
舌側歯冠高				15.0		
下後錘谷長	なし	なし	なし	なし	なし	
下内錘谷長	5.7	3.5	3.3	2.8	4.1	
doubleknot長		13.5	13.0	10.8	10.4	

左下顎臼歯

歯種	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠遠心径			21.8	19.0	20.0	27.6+
歯冠頬舌径			12.4	13.5	11.5	10.2
頬側歯冠高				5.0	7.3	9.6
舌側歯冠高				6.8		13.0
下後錘谷長			なし	なし	なし	
下内錘谷長				1.8	2.1	
doubleknot長				8.5	10.3	

上顎切歯

左右	右			左		
	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	13.2	14.0	12.6	12.8	13.4	12.9
歯冠幅	9.2+	10.1	9.2	9.6	10.3	9.0
歯冠高	31.0+	39.7+	34.2+	38.1+	38.0+	33.6+

下顎切歯

左右	右		左	
	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯
歯冠長	10.4	11.0	10.6	11.2
歯冠幅	9.4	9.5	9.6	9.9
歯冠高	32.0+	27.6+	30.4+	30.4+

単位：mm

とを示している。

②体高 歯が破片化しすぎていて、体高を知るのは困難である。

5号馬骨

出土遺構：31号溝 時代：中近世

小片まで含めると数10片に分離した左下顎臼歯で少なくとも2本の歯に由来する。

①年齢 2本の歯のうち1本の歯は歯冠長27.8mm、頬側歯冠高46.0mm、舌側歯冠高47.0mmを計測する。もう一方の歯は舌側歯冠高のみ計測可能で44.3mmである。いずれの歯も、未咬耗で歯根も未完成である。幼齢馬の未萌出の歯であろう。

②体高 歯が破片化しすぎていて、体高を知るのは困難である。

6号馬骨

出土遺構：31号溝 時代：中近世

10片に分離した上顎臼歯片である。

①年齢 歯冠長25.4+mm、頬側歯冠高30.0+mmの未咬耗の歯で、幼齡馬のものである。

②体高 歯が破片化しすぎていて、体高を知るのは困難である。

以上の4号馬、5号馬、6号馬は、いずれも未咬耗の歯で、幼齡馬のものであることや、出土地点が31号溝で共通していることから、同一個体と見ることも可能である。ただし、6号馬のみ距離的にやや離れていることで、別個体であることもある。

7号馬骨(第16表)

出土遺構：5号竪穴状遺構 時代：中世

左・右の下顎臼歯11本で、右下顎第3後臼歯を欠く。出土時には歯列をなしていたが、現在は遊離歯となっている。

①年齢 萌出時期の最も早い第1後臼歯と最も遅い第4前臼歯に代表させて歯冠高から年齢を推定してみると、6歳数か月である。

②体高 前臼歯列長78.6mm、後臼歯列長69.3mmで、全臼歯列長は147.0mmである。この数値から体高を推定して見ると、112～113cmの小型在来馬相当のウマである。

8号馬骨(第17表)

出土遺構：1088号土坑 時代：中近世

左・右上顎臼歯12本、左・右下顎臼歯12本、上・下切歯8本分および数100片に細片化した肢骨片などが残っている。

出土時には下顎歯は下顎骨に植立していたが現在はすべて分離歯となっている。

①年齢 第1後臼歯と第4前臼歯に代表させて歯冠高から年齢を推定してみると、右上顎歯では8～9歳、左下顎歯では6～7歳で、いずれにしても若い壯齡馬である。

②体高 左下顎臼歯でみると、前臼歯列長83.6mm、後臼歯列長75.0mm、全臼歯列長158.4mmを計測する。この値から体高を推定すると、120cm前後の大きめの小型在来馬相当である。

9号馬骨

出土遺構：1号溝 時代：中近世

数片に分離した左上顎第2後臼歯である。

①年齢 第2後臼歯の萌出は生後2年ほどとされているが、本馬の歯は、咬耗を開始して間もない段階のもので、咬合面近くで歯冠長が大きくなっている。幼齡馬であったと思われる。

②体高 この歯は咬合面付近で歯冠長が38.4mmあり、それよりやや歯根側によったところでも、35.4mmもある。

この歯は在来馬の大きさをはるかに超えており、出土位置も不明なことから西洋馬など大型馬のものが混入した可能性も考えられる。

10号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

きわめて細片化の進んだ数10片の歯片で、ウマの可能性が最も高いが断定できない。未萌出の歯である。

11号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

破片化した2本分の下顎臼歯と、2本の左下顎切歯である。

①年齢 歯片の中で歯冠高の最も高いのは66.0mmで、幼齡馬のものであることを示している。2本の切歯は歯冠周囲のエナメルのみ残存し、内部は空洞となっている。このため咬合面の様子が観察できず、切歯は年齢を知る手掛かりにならない。

②体高 臼歯が破片化しすぎていて、体高を知るのは困難である。

12号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

数10片の小骨片で、ウマとは断定できない。種不明。

13号馬骨(13-1号馬骨、13-2号馬骨)(第16表)

出土遺構：24号溝 時代：中近世

右上顎第3前臼歯と右第1後臼歯の2本の歯である。後者については第2後臼歯の疑いも否定できないが、ここでは、第1後臼歯として扱う。

①年齢 第3前臼歯の歯冠高から年齢を推定すると14歳

第16表 骨類計測表(3)

2号馬骨

左下顎臼歯

歯種	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯
歯冠遠心径	31.6	26.6	25.3	23.0	21.0+
歯冠頬舌径	12.2	14.0	15.4	13.8	
頬側歯冠高	36.6	50.8	61.8	47.6	52.6
舌側歯冠高	34.0	50.4	60.6	49.0	51.0
下後錘谷長	4.8	9.4	8.6	7.0	
下内錘谷長	15.8	12.8	10.6	6.4	
doubleknot長		15.7	13.8	13.0	11.8
咬合面の傾斜		90°	86°	84°	
下内錘幅歯	5.2	5.7	5.6	5.0	

下顎切歯

左右	右		左	
	第2切歯	第1切歯	第2切歯	第1切歯
歯冠長	14.8	13.8	14.4	
歯冠幅		8.4		
歯冠高	44.8	41.0	43.4	

単位：mm

7号馬骨

右下顎臼歯

歯種	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯
歯冠遠心径	28.3	26.3	25.9	23.2	24.0
歯冠頬舌径	12.2	13.4	12.2	12.8	10.9
頬側歯冠高	43.6	54.0	61.8	57.4	61.4
舌側歯冠高	43.9	56.7	63.4	58.0	63.7
下後錘谷長	6.1	8.1	8.1		7.5
下内錘谷長	10.2	11.7	10.4	8.5	10.5
doubleknot長	13.0	14.2	12.0	11.6	10.4
咬合面の傾斜	88°	85°	82°	72°	65°
下内錘幅歯	5.5	5.4	4.7	3.8	3.2

左下顎臼歯

歯種	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
歯冠遠心径	28.5	25.8	24.9	23.2	24.1	23.4
歯冠頬舌径	12.4	13.8	13.4	12.6	10.8	10.0
頬側歯冠高	44.3	53.2	59.2	55.6	61.3	53.6
舌側歯冠高	41.7	54.6	62.8	57.0	64.1	56.8
下後錘谷長		8.4	8.5	8.0	7.7	6.4
下内錘谷長	10.0	11.9	10.4	8.0	9.3	7.6
doubleknot長	12.5	14.8	12.8	11.8	10.8	10.6
咬合面の傾斜	88°	87°	85°	77°	70°	62°
下内錘幅歯	5.0	5.1	4.2	3.8	3.5	3.4

単位：mm

13号馬骨

右上顎臼歯

歯種	第3前臼歯	第1後臼歯
歯冠遠心径	30.8	24.6
歯冠頬舌径	23.0	25.0
原錘幅	11.0	13.6
頬側歯冠高	25.0	54.6
舌側歯冠高	22.0	50.0
咬合面の傾斜	98°	
中附錘幅	3.2	3.3

単位：mm

第4章 自然科学分析

第17表 骨類計測表(4)

8号馬骨

右上顎白歯

歯種	第2前白歯	第3前白歯	第4前白歯	第1後白歯	第2後白歯	第3後白歯
歯冠遠心径	33.9	27.2	26.5	23.3	23.9	26.4
歯冠頬舌径	21.9	25.2	25.0	23.5	23.8	21.5
原錘幅	8.6	11.0	11.3	11.6	12.8	13.2
頬側歯冠高	30.9	43.6	49.8	39.9	50.0	48.0
舌側歯冠高	30.0	44.1	48.9	36.5	44.9	42.0
中附錘幅	3.4	4.4	4.1	3.4	3.6	3.0

左上顎白歯

歯種	第2前白歯	第3前白歯	第4前白歯	第1後白歯	第2後白歯	第3後白歯
歯冠遠心径	34.8	27.1	26.4	23.4	24.0	26.6
歯冠頬舌径	21.9	25.5	25.7	24.0	24.2	21.4
原錘幅	8.6	11.4	12.3	11.8	12.8	13.5
頬側歯冠高	31.2	45.0	50.4	42.6	49.0	47.0
舌側歯冠高	30.2	44.6	49.0	38.5	45.6	41.0
中附錘幅	3.6	4.7	4.4	3.6	3.2	3.0

右下顎白歯

歯種	第2前白歯	第3前白歯	第4前白歯	第1後白歯	第2後白歯	第3後白歯
歯冠遠心径	31.8	27.4	25.5	24.6	24.4	30.7
歯冠頬舌径	13.4	15.0	15.0	13.6	13.2	11.8
頬側歯冠高	35.4	45.6	54.4	49.0	51.0	47.0
舌側歯冠高	30.0	46.4	54.3	47.0	50.0	48.0
下後錘谷長	4.5	10.4	9.0	8.7	8.3	8.0
下内錘谷長	14.9	13.3	10.8	7.6	8.6	10.0
doubleknot長	12.7	16.6	14.9	14.2	12.9	12.6
咬合面の傾斜	100°	94°	86°	75°	74°	70°
下内錘幅歯	6.3	6.7	5.9	4.2	5.2	4.6

左下顎白歯

歯種	第2前白歯	第3前白歯	第4前白歯	第1後白歯	第2後白歯	第3後白歯
歯冠遠心径	32.5	27.0	26.2	24.2	25.5	30.4
歯冠頬舌径	13.7	15.0	15.0	13.2	12.4	12.4
頬側歯冠高	35.6	48.6	55.2	50.8	53.8	47.4
舌側歯冠高	33.0	46.0	54.7	45.0	49.3	48.6
下後錘谷長	5.1	10.6	9.1	8.2	8.1	8.5
下内錘谷長	16.1	12.5	10.5	7.6	8.8	11.0
doubleknot長	14.1	16.6	15.4	13.8	13.0	12.9
咬合面の傾斜	108°	90°	80°	76°	75°	70°
下内錘幅歯	5.8	6.3	5.3	4.2	4.0	4.3

上顎切歯

左右	右			左		
歯種	第3切歯	第2切歯	第1切歯	第1切歯	第2切歯	第3切歯
歯冠長	14.6	16.7	15.8	15.9	17.3	
歯冠幅		10.6		10.7		
歯冠高	25.0+	27.0+	10.0+	35.2+	23.0+	

下顎切歯

左右	左		
歯種	第3切歯	第2切歯	第1切歯
歯冠長	12.3	15.0	13.6
歯冠幅		8.9	
歯冠高	27.4+	42.4	28.8+

単位：mm

前後である。第1後臼歯からの年齢推定では6歳前後となる。この2本の歯は年齢の開きや、出土位置が不明であることも考えると、それぞれ別個体のものであるとするのが妥当である。

②体高 第3前臼歯から体高を求めると大きめの中型在来馬相当の137cm弱と推定される。右第1後臼歯から体高を求めると、120.2cm前後で小型在来馬相当である。

14号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

左上顎第2前臼歯の歯片で、現状での頬側歯冠高は42.6mmである。

- ①年齢 咬耗を開始したばかりで、幼齡馬のものである。
- ②体高 体高を推定するデータが得られず、不明である。

15号馬骨

出土遺構：24号溝 時代：中近世

10数片の歯片である。

- ①年齢 現状での歯冠高は64.0mmを計測し、幼齡馬のものであることを示している。
- ②体高 体高を知るデータに欠ける。

16号馬骨

出土遺構：2号溝 時代：中近世

咬耗のかなり進行した右下顎第1または第2切歯である。

- ①年齢 咬合面の様子は観察できないが、咬耗が進行していて歯冠高が27.4mmと低い。老齡馬と判断される。
- ②体高 体高を知るデータに欠ける。

17号馬骨

出土遺構：2号溝 時代：中近世

100数10片の細骨片で、肢骨がほとんどである。ウマの可能性が高いが断定はできない。

18号馬骨

出土遺構：2号溝 時代：中近世

土と一体化している10数片の細骨片でウマとは断定できない。種不明。

19号馬骨

出土遺構：2号溝 時代：中近世

右上顎第1切歯片と左下顎切歯片の2本である。

前者は歯冠長15.0mm、歯冠高12.5+mm、後者は歯冠幅、12.4+mm、歯冠高28.5mmを計測する。

- ①年齢 歯冠高から壯齡馬であろうと思われる。
- ②体高 体高を知るデータに欠ける。

20号馬骨

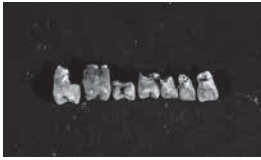
出土遺構：24号溝 時代：中近世

数片に分離した左第3後臼歯と10数片の上顎臼歯の歯片である。

- ①年齢 頬側歯冠高が30.0mmあり、壯齡馬であることを示している。
- ②体高 歯冠長は29.0mmであり、中型在来馬相当を思わせる。

主な参考文献(第4章 第3節)

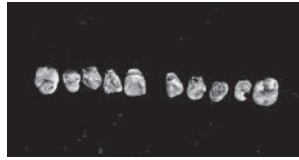
西中川駿・松元光春(1991)「遺跡出土骨同定のための基礎研究—特に在来種および現代種の骨、歯の計測値の比較」『古代遺跡から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書、164-188。
西中川駿・幸村真由美・吉野文彦・塗木千穂子・松元光春(2015)「ウマの臼歯の計測値から体高および年齢の推定法」動物考古学32、1-9



1. 1号人骨(上)



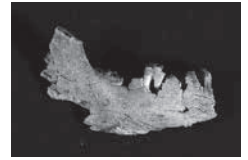
2. 1号人骨(下)



3. 2号人骨(上)



4. 2号人骨(下)



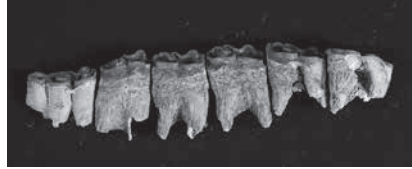
5. 4号人骨



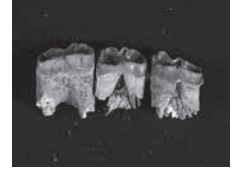
6. 1号馬骨(右上)



7. 1号馬骨(左上)



8. 1号馬骨(右下)



9. 1号馬骨(左下)



10. 2号馬骨(切齒)



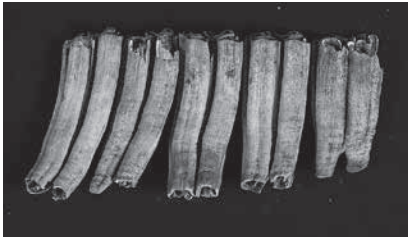
11. 2号馬骨(左下)



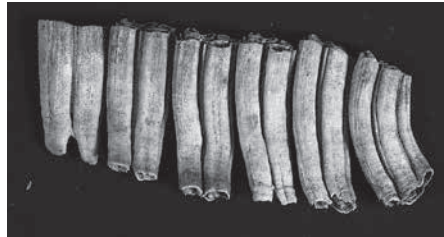
12. 4号馬骨



13. 5号馬骨



14. 7号馬骨(右下)



15. 7号馬骨(左下)



16. 15号馬骨



17. 8号馬骨(右上)



18. 8号馬骨(左上)



19. 8号馬骨(右下)



20. 8号馬骨(左下)



21. 9号馬骨



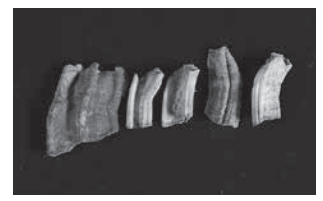
22. 11号馬骨



23. 13号馬骨



24. 14号馬骨



25. 20号馬骨

写真2 人骨・馬骨

第5章 まとめ

1. 地形と概要

川端根岸遺跡は、広瀬川低地帯の北に細ヶ沢川、南に大堰川、西に桃ノ木川に囲まれた微高地および後背湿地上に位置する(第7図)。細ヶ沢川は本遺跡の北西、大堰川は本遺跡の南西で桃ノ木川に合流している。なお、本遺跡内にはE区-F区間に近代以前の旧細ヶ沢川の流路(1号河道)が存在する。

カスリン台風以前のIc層以下の地形を見ると、調査区の東端(C区北半)と西寄りの旧細ヶ沢川左岸側(E区西縁)の標高がやや高いのに対し、中央部(B・D区)と西端(F区)が低い。そのため、本調査の結果、第1面(近世面)、第2面(中近世面)、第3面(中世面)、第4面(古墳時代～平安時代面)、第5面(古墳時代・5世紀洪水堆積物下位面)、第6面(古墳時代・As-C下位面)が確認された(5世紀洪水堆積物・As-Cについては第4章第2節参照)が、各調査区においては各面が部分的または全面的に重複した状況であった。

以下、第1～6面について記す。

2. 第1面(付図1)

近世の遺構のうち、D区の1号水田が第1面にあたる。1号水田の主軸方位は、後記の第2面の溝による区画(A・B・D区の1・2号溝のコ字状区画、D・E区の24号溝のJ字状区画)とほぼ同じであることから、近世においても中世以来の土地区画の影響を受けていたと考えられる。

3. 第2面(付図2)

中近世の遺構は、F区をのぞくA～E区から、竪穴状遺構・溝・土坑・ピット・水田などが確認されている。水田については第1面とし、B・D区の第2面より下位で確認された遺構を第3面とし、それ以外を第2面とした。本遺跡においては、数量的にも面積的にもこの第2面の遺構が最大である。

第2面の中でも中心的位置を占めるのが、A・B・D区の1・2号溝のコ字状区画(南北約105m×東西50m以

上、外側)とその区画内の掘立柱建物と溝、土坑・ピット群(付図7-2～5)であり、本遺構は中世城館の堀と推定される。区画内では、1号掘立柱建物および7～10号溝による南北約20×東西約14mの長方形区画の長軸方位がコ字状区画とほぼ同じであり、城館に関わる何らかの施設であると考えられる。しかし、コ字状区画の西側が調査区外であることや、各調査区の間が現道のため未調査であり間隔が空いていること、区画内の土坑・ピット群の残存状態が必ずしも良好であるとは言い難いことから、その全容を把握することは困難であるとせざるをえない。なお、距離的にやや離れるが、2号溝の西側延長は、古地図上の朝天山祈禱院日輪寺を囲む堀と長軸方位が一致する可能性があることを付言しておく。

D・E区の24号溝のJ字状区画(南北70m以上×東西15m以上、付図7-1)についても、1・2号溝のコ字状区画と溝の規模と長軸方位がほぼ同じであることから、これも中世城館の堀と推定される。しかし、このJ字状区画についても、区画内の遺構分布が希薄であることから内部構造など不明な点が多く、その全容を把握することは困難であるとせざるをえない。

本遺跡周辺には、城・館・砦などの他に、地域的な特徴として長尾氏に關係する地侍のものとしてされる寄居が分布しており(前橋市0010遺跡(関根の寄居、第8図8)・前橋市0036遺跡(八幡山の砦、第8図20)・前橋市0596遺跡(陣場、第8図31)・前橋市0741遺跡(横室寄居、第8図38)・前橋市0755遺跡(田島城、第8図46)・前橋市0756遺跡(森山城(引田城)、第8図47)・前橋市0943遺跡(青柳寄居、第8図73)など)、1・2・24号溝の区画とこれに伴う内部遺構も同様の遺構と推定されるが、詳細は不明である。

遺物について注目すると、第2面においては、遺構内外から砥石・羽口・鉄滓が出土している。本遺跡と同一遺跡とされる前橋市0903遺跡(日輪寺観音前遺跡、第8図1)においては、平安時代(本遺跡第4面相当)のものではあるが鍛冶遺構が確認されており、これに関連する遺物の混入した疑いも否定できないが、本遺跡周辺に鍛冶遺構が存在した可能性が十分に考えられる。また、馬

骨の出土数も多く、21体を数える。これら馬骨のうち、1号馬骨はほぼ全身の骨格が揃い、埋葬されたものと考えられる。1号馬骨以外のものも溝の埋没土中からの出土例が最も多く、21体中19体を占めている。このことから、溝の埋没過程において形成された凹みを利用して馬の埋葬(または遺棄)が行われたのではないかと推定される。

次に、改めて本遺跡の位置について考えてみることにする。第2章第2節に記したように、本遺跡周辺は、中世においては拜志荘(林荘)または青柳御厨にふくまれる可能性が指摘されている。拜志荘(林荘)の比定地は、昭和以降徐々に赤城火山西南麓地域が有力視されてきている。その中でも、『富士見村誌』続編は、拜志荘(林荘)関係資料が旧細ヶ沢川以西(右岸側)の赤城火山南西麓から西麓にかけて分布することから、この広大な地域を拜志荘(林荘)と推定する。これに関連して、近世の史料ではあるが、明和7(1770)年の朝天山祈禱院日輪寺の棟札には「上野国勢多郡林正日輪寺村」とある。現在、本遺跡の所在する前橋市川端町・日輪寺町は桃の木川左岸・細ヶ沢川左岸側に位置するが、本調査の結果、近代以前の旧細ヶ沢川(1号河道)が本遺跡E-F区間に確認されたことから、日輪寺は右岸側となる。しかし、この旧細ヶ沢川の形成は中世以前に遡らないことから、存続期間は近世～近代と推定される。

青柳御厨については、『南橋村誌』などが神明宮(伊勢宮)や伊勢地名の分布から、前橋市荒牧町・日輪寺町付近から前橋市青柳町を中心とした赤城白川扇状地地域にかけての範囲を推定地としている。青柳御厨は、建久3(1192)年の「伊勢太神宮領注文」に「件勤所去長寛年中建立国司奉免了」とあり、長寛年間(1163～65年)に建立され国司の奉免を得ていることが読み取れる。また、『神鳳抄』には「青柳御厨 布卅段百廿町 建永符八十町」とあり、建永年間(1206～07年)に官符が出され、その規模は田80町であったことが読み取れる。また、貞和3(1347)年と宝徳4(1452)年に青柳御厨関係文書が遠江国蒲御厨内安間郷関係文書とともに焼失し、紛失状が作成されたことが『氏経卿記』に記されている。

このような拜志荘(林荘)と青柳御厨の問題であるが、前記のように境界をなす可能性が指摘される旧細ヶ沢川(1号河道)が再確認されたものの中世以前には遡らず中

世の流路が不明であること、前出の日輪寺の棟札が近世史料でありかつ橘山以南唯一の拜志荘(林荘)関連史料で他の史料から孤立していることなどを考慮し、併せて本遺跡において銭貨以外の中世文字資料が出土していないことから、本遺跡がいずれの範囲に含まれるか判断することは困難であるとせざるをえない。

4. 第3面(付図3)

中世の遺構のうち、B・D区の第2面より下位で確認された遺構が第3面にあたる。いずれの区も遺構の分布は断片的であり、面として広く展開しているわけではない。

5. 第4面(付図4)

奈良・平安時代の遺構は、E区から5軒の竪穴住居が確認されており、集落の存在が想定されるが、いずれも残存状態が不良であり詳細は不明である。その他、溝・土坑などが確認されている。溝は区画溝と推定される。A・B区の溝には、最終的な埋没が中世に下るものもある。

本遺跡周辺においては、前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、田口上田尻遺跡、第8図6)・前橋市0011遺跡(旭久保遺跡、第8図9)・前橋市0016遺跡(南橋東原遺跡、第8図14)などで古墳時代から継続して集落が確認されているほか、前橋市0008遺跡(田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0035遺跡(王久保遺跡、上町・時沢西紺屋谷戸遺跡、第8図19)から鍛冶遺構、前橋市0034遺跡(新田上遺跡、第8図18)から東西に走る道路状遺構、前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第8図11・12)・前橋市0843遺跡(青柳寄居遺跡、第8図66)からは水田が確認されており、本遺跡においても第5・6面において水田が確認されていることから、周辺の未調査地に第4面相当の時代の水田が埋没している可能性がある。

律令制下において、群馬県域はほぼ上毛野国(和銅6(713)年までに上野国と改称)にあたり、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初は13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。本遺跡周辺は勢多郡に属した。勢多郡には「深田、田邑、芳賀、桂萱、真壁、深渠、深澤、時澤、藤澤」の9郷が確認できる(中郡)。

本遺跡の北には真壁(渋川市北橋町真壁)、東には時澤(前橋市富士見町時沢)と郷名と同じ地名も存在するが、これらの地名が律令期まで遡るか否かは不明であり、本遺跡がいずれの郷に属したか推定することは困難である。また、本遺跡の西約0.1kmには寺伝によると弘仁2(811)年創立という朝天山祈禱院日輪寺が存在するが、E区の集落との関係については判断する根拠を欠き、詳しくは不明である。さらに、前項で論じた拜志荘(林荘)は官牧であった拜志牧(林牧)が荘園化したものとされるが、本遺跡から牧の存在を想定させる遺構・遺物は確認されていない。このように、本遺跡および周辺地域について複数の課題が存在するが、本調査においてそれらを検討するに足る資料を得ることはできなかった。

古墳時代後期の遺構としては、B・C区にまたがる3号溝および22・50号溝などが確認されており、埋没土の状態(第4章第2節参照)から、平安時代まで継続して用いられた用水溝と考えられる。

本遺跡周辺においては、古墳時代後期の集落は前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第8図5)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0013遺跡(青柳宿上遺跡、引切塚遺跡、第8図11)・前橋市0016遺跡(南橋東原遺跡、第8図14)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されている。これらの集落は、前記のように奈良・平安時代に継続するものも多い。古墳については、前橋市0764遺跡(九十九山古墳(富士見村16号古墳)、第8図55)・前橋市0783遺跡(山王・柴遺跡群、第8図65)・前橋市0847遺跡(第8図68)・前橋市0858遺跡(引切塚古墳、第8図69)などで確認されている。しかし、生産遺構および関連する遺構については、本遺跡の用水路と考えられる3号溝などのほかは確認されていない。これは、本遺跡周辺の発掘調査の行われた上武道路関連遺跡(第1・2表、第2・8図参照)などが主に赤城火山斜面上やその縁辺に立地するのに対し、本遺跡が主に後背湿地(河成段丘)上に立地し、水田耕作に適していることによると考えられる。

第4面の遺構は、大きく分けてB・C区の古墳時代から平安時代にかけての用水路と考えられる3号溝および22・50号溝、A・B区の最終埋没が中世に下の区画溝と考えられる48・49・51号溝、E区の平安時代の1～5号

竪穴住居の3群であり、多少の時期的なずれがあるものの生産域と居住域とに分けることができよう。

6. 第5面(付図5)

古墳時代中期の5世紀洪水堆積物(VII b層)下位からは、D区の2号水田とF区の3号水田およびC・E区から溝5条が確認されている。溝は用水溝と推定される。

古墳時代中期の集落については、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されているが、生産遺構については、本遺跡の2・3号水田のほかは確認されていない。これは、前項(第4面)に記したように、本遺跡が主に後背湿地上に立地し、水田耕作に適していることによると考えられる。

第5面の遺構は溝と水田のみであることから生産域であり、これに対応する居住域・墓域などは前記の周辺隣接地域が該当すると考えられる。なお、前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)の集落は5世紀後半に一時断絶しており、2・3号水田を埋没させた洪水の影響により周辺隣接地域の集落衰退がもたらされた可能性がある。

7. 第6面(付図6)

古墳時代前期のAs-C(IX層)下位からは、4号溝とB・C区にまたがる4号水田が確認されている。4号溝は用水溝と推定される。

本遺跡周辺においては、前期の集落は前橋市0004遺跡(下庄司原東遺跡、第8図5)・前橋市0008遺跡(田口上田尻遺跡、田口下田尻遺跡、第8図6)・前橋市0013遺跡(引切塚遺跡、第8図11)・前橋市0749遺跡(富士見地区遺跡群田中田遺跡、第8図40)などから確認されているが、生産遺構については、本遺跡の4号水田・4号溝のほかは前橋市0013・0014遺跡(山王・柴遺跡群、第8図11・12)のAs-C前後の畠4群が確認されているのみである。これは、前々項(第4面)・前項(第5面)に記したように、本遺跡が主に後背湿地上に立地し、水田耕作に適していることによると考えられる。

第6面も第5面と同様に溝と水田のみであることから生産域であり、これに対応する居住域・墓域などは前期の周辺隣接地域が該当すると考えられる。周辺隣接地域

第5章 まとめ

における集落の形成は3世紀後半であり、4号水田の時期と合致する。

なお、遺構は確認されていないが、第6面以前に相当する時代に関しては、縄文時代および弥生時代の遺物がE区を中心に数点出土している。旧石器時代の遺物は確認されていない。

参考文献(第5章)

- 青木裕美ほか2012『戦国史—上州の150年戦争—』上毛新聞社
飯森康広2015「環濠屋敷をめぐる研究動向と地域状況」『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会
今井善一郎1943「拝志庄考」『上毛文化』71 上毛文化会
今井善一郎1959「拝志庄の位置について」『群馬文化』27 群馬文化の会
北橋村誌編纂委員会1975『北橋村誌』
久保田順一2009『中世前期上野の地域社会』岩田書院
群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
群馬県史編さん委員会1990『群馬県史』通史編1
群馬県史編さん委員会1989『群馬県史』通史編3
群馬県文化事業振興会1977『上野国郡村誌』1
京都大学文学部国語学国文学研究室編1968『諸本集成倭名類聚抄』本文篇 臨川書店
荘園史研究会2013『荘園史研究ハンドブック』東京堂出版
勢多郡誌編纂委員会1958『勢多郡誌』
須藤聡2015「上野国周辺の伊勢神宮領形成についての一考察」『群馬県玉村中世史研究』1 玉村中世史研究会
谷口寛次1995「拝志牧と拝志荘」『群馬歴史散歩』132 群馬歴史散歩の会
都丸十九一1995「拝志牧(荘)の位置について」『群馬文化』241 群馬地域文化研究協議会
前橋市教育委員会2013『前橋市遺跡分布地図』
前橋市史編さん委員会1971『前橋市史』1
富士見村誌編纂委員会1954『富士見村誌』
富士見村誌編纂委員会1979『富士見村誌』続編
南橋村誌編纂委員会1955『南橋村誌』
山崎一1971『群馬県古城塁址の研究』上 群馬県文化事業振興会
山崎一1979a『群馬県古城塁址の研究』補遺編上 群馬県文化事業振興会
山崎一1979b『群馬県古城塁址の研究』補遺編下 群馬県文化事業振興会
横野村誌編纂委員会1956『群馬県勢多郡横野村誌』
マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>

付. 上武道路調査遺跡一覧表

上武道路の埋蔵文化財発掘調査は、昭和45(1970)年度の沿線の遺跡分布調査・試掘調査に始まり、昭和48(1973)年度にJK16・JK17書上上原之城遺跡から発掘調査に着手し、平成28(2016)年度に本報告書を含む3冊の発掘調査報告書(『川端根岸遺跡』・『川端山下遺跡』・『田口下田尻遺跡』)の刊行をもって終了することとなる。足かけ40年以上にわたる発掘調査により、79箇所の遺跡(JK52・JK52b上泉唐ノ堀遺跡は2遺跡扱い)が対象となり、65冊の発掘調査報告書が刊行されている。この間、元号は昭和から平成となり(西暦では20世紀から21世紀となり)、

高度経済成長や55年体制は終わりを告げて久しく、初年度に生まれた子は不惑を超えるに至った。過ぎ去った歳月の重みを感じさせるものである。よって、ここに上武道路の埋蔵文化財発掘調査終了を記念し、上武道路調査遺跡一覧を掲げる(第101図・第18表)。なお、各遺跡の内容については、多岐にわたるため全て記すことは不可能であるので、各発掘調査報告書を参照のこと。

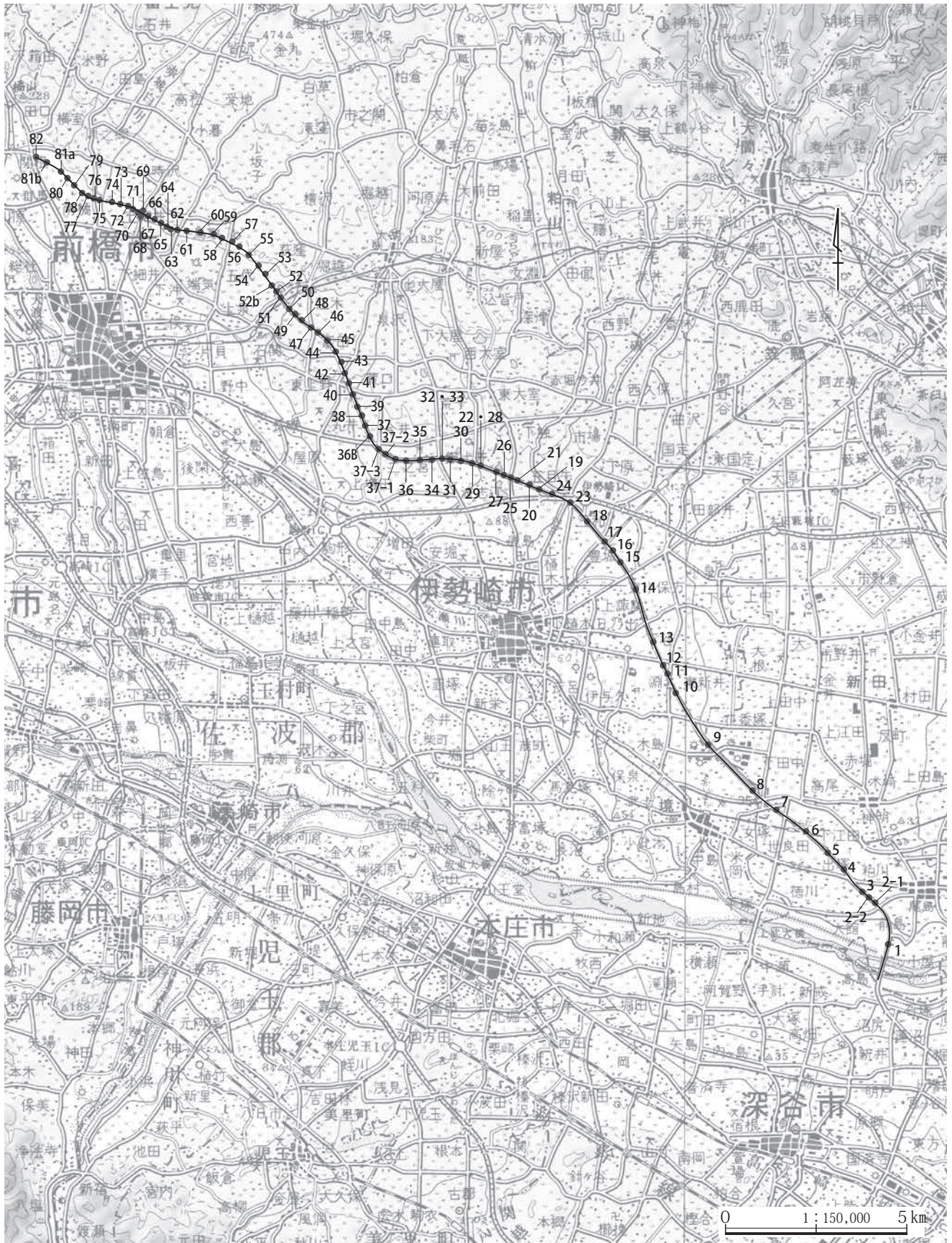
上武道路の全線開通は、本報告書の刊行と同じく平成28(2016)年度末である。全線開通により、地域社会のより一層の発展が期待される。

第18表 上武道路調査遺跡一覧表

JKNo.	遺跡名	所在地	調査年度	時代							報告書		
				旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	通番	書名	刊行年度
1	島耕地・早川附遺跡	太田市武蔵島町	調査除外								190	安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡 ※島耕地・早川附遺跡の試掘結果も掲載	平成6
2-1	阿久津宮内遺跡	太田市阿久津町	昭和60・62			○	○	○	○				
2-2	大館馬場遺跡	太田市大館町	昭和62				○		○				
3	安養寺森西遺跡	太田市安養寺町	昭和60・62				○	○	○				
4	粕川・粕川境遺跡	太田市粕川町	調査除外								—	—	—
5	下江田前遺跡	太田市世良田町	昭和48					○	○		113	飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡	平成2
6	歌舞伎遺跡	太田市世良田町	昭和49・50				○	○	○		13	歌舞伎遺跡	昭和56
7	小角田前遺跡	太田市世良田町	昭和51・52		○		○	○	○		49	小角田前遺跡	昭和60
8	三ツ木遺跡	伊勢崎市境三ツ木・境西今井	昭和51		○	○	○	○	○		35 (44)	三ツ木遺跡 ※44集(早川河川改修)と合冊	昭和59 (60)
9	西今井遺跡	伊勢崎市境西今井	昭和50・51					○			57 (69)	西今井遺跡 ※69集(早川河川改修)と合冊	昭和61 (62)
10	下淵名塚越遺跡	伊勢崎市境下淵名	昭和52・53	○			○	○	○		114	下淵名塚越遺跡	平成2
11	上淵名裏神谷遺跡	伊勢崎市境上淵名	昭和54				○	○			124	上淵名裏神谷遺跡・三室間ノ谷遺跡	平成3
12													
13	三室間ノ谷遺跡	伊勢崎市三室町	昭和56				○	○					
14	三室坊主林遺跡	伊勢崎市三室町	昭和57		○		○	○	○		90	三室坊主林遺跡	平成元
15	八寸大道上遺跡	伊勢崎市八寸町	昭和57		○		○	○	○		91	八寸大道上遺跡	平成元
16	書上下吉祥寺遺跡	伊勢崎市豊城町	昭和57・58		○		○	○	○		73	書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壺町田遺跡	昭和62
17	書上上原之城遺跡	伊勢崎市豊城町	昭和48・57・58					○	○				
	書上本山遺跡	伊勢崎市三和町	昭和59	○	○		○	○	○		140	書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡	平成4
18	上植木壺町田遺跡	伊勢崎市三和町	昭和58・59				○	○	○		73	書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木壺町田遺跡	昭和62
19	五日牛南組遺跡	伊勢崎市五日牛町	昭和59・60			○	○	○	○	○	139	五日牛南組遺跡	平成4
20													
21	堀下八幡遺跡	伊勢崎市五日牛町・波志江町	昭和59	○	○			○			111	堀下八幡遺跡	平成2
22	波志江今宮遺跡	伊勢崎市波志江町	昭和55・60			○	○		○		181	波志江今宮遺跡	平成6
23	上植木光仙房遺跡	伊勢崎市三和町	昭和58・59		○		○	○	○		80	上植木光仙房遺跡	昭和63
24	五日牛清水田遺跡	伊勢崎市五日牛町	昭和59・60		○		○	○	○		144	五日牛清水田遺跡	平成4
25	波志江中峰岸遺跡	伊勢崎市波志江町	昭和60				○	○	○		182	飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡	平成6
26	波志江六反田遺跡	伊勢崎市波志江町	昭和60	○	○		○	○	○		140	書上本山遺跡・波志江六反田遺跡・波志江天神山遺跡	平成4
27	波志江天神山遺跡	伊勢崎市波志江町	昭和60	○	○				○	○			
29	飯土井二本松遺跡	前橋市飯土井町	昭和60	○	○		○	○	○		113	飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡	平成2
30	飯土井中央遺跡	前橋市飯土井町	昭和60・61	○	○		○				123	飯土井中央遺跡	平成3
31	飯土井上組遺跡	前橋市飯土井町	昭和60・61		○		○	○	○		182	飯土井上組遺跡・波志江中峰岸遺跡	平成6
32	二之宮宮東遺跡	前橋市二之宮町	昭和60・61					○	○	○	164	二之宮宮東遺跡	平成5
33													
34	二之宮宮下東遺跡	前橋市二之宮町	昭和62				○	○	○		163	二之宮宮下東遺跡	平成5
35	二之宮宮下西遺跡	前橋市二之宮町	昭和61	○	○		○	○	○		189	二之宮宮下西遺跡	平成6
36	二之宮千足遺跡	前橋市二之宮町	昭和61・62	○	○		○	○	○		125	二之宮千足遺跡	平成3
37-1	二之宮洗橋遺跡	前橋市二之宮町	昭和61・62	○			○	○	○		166	二之宮洗橋遺跡	平成5
37-2	二之宮谷地遺跡	前橋市二之宮町	昭和61・62				○	○	○		162	二之宮谷地遺跡	平成5

第5章 まとめ

JKNo.	遺跡名	所在地	調査年度	時代							報告書		
				旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中近	近代	通番	書名	刊行年度
37-3	今井道上・道下遺跡	前橋市今井町	昭和61・62	○	○		○	○	○		187	今井道上・道下遺跡	平成6
36B	今井道上Ⅱ遺跡	前橋市今井町	平成13・14		○		○	○	○		367	今井道上Ⅱ遺跡	平成17
37	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡	前橋市今井町	平成12・13・15	○							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(1)	平成19
					○	○	○	○	○	○	421	荒砥北三木堂Ⅱ遺跡縄文時代～近世編	平成19
38	荒砥北原Ⅱ遺跡	前橋市今井町	平成12・13	○	○						395	荒砥北原Ⅱ遺跡	平成18
39	荒砥前田Ⅱ遺跡	前橋市荒口町	平成12～14		○	○	○	○	○	○	472	荒砥前田Ⅱ遺跡	平成21
40	富田細田遺跡	前橋市富田町	平成11・12					○	○		384	富田細田遺跡・富田宮下遺跡	平成18
41	富田宮下遺跡	前橋市富田町	平成11・12		○	○	○	○	○				
42	富田西原遺跡	前橋市富田町	平成11・12	○							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(1)	平成19
					○	○	○	○	○		483	富田西原遺跡	平成21
43	富田高石遺跡	前橋市富田町	平成12～14		○	○	○	○	○		494	富田高石遺跡	平成21
44	富田漆田遺跡	前橋市富田町	平成11～13	○							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(1)	平成19
					○	○	○	○	○		372	富田漆田遺跡・富田下大日遺跡	平成17
45	富田下大日遺跡	前橋市富田町	平成12・13		○		○	○	○				
46	江木下大日遺跡	前橋市江木町	平成13・14	○							418	上武道路・旧石器時代遺跡群(1)	平成19
					○		○	○			377	江木下大日遺跡	平成18
47	萱野Ⅱ遺跡	前橋市江木町・堤町	平成13～15		○		○	○			402	萱野Ⅱ遺跡	平成18
				○							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(2)	平成21
48	堤沼上遺跡	前橋市堤町・亀泉町	平成14～16		○		○	○			423	堤沼上遺跡	平成19
49	亀泉坂上遺跡	前橋市亀泉町	平成13～15		○		○	○	○		445	亀泉坂上遺跡	平成20
				○							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(2)	平成21
50	亀泉西久保Ⅱ遺跡	前橋市亀泉町	平成14～16		○		○	○	○		420	亀泉西久保Ⅱ遺跡・荻窪南田遺跡	平成19
51	荻窪南田遺跡	前橋市荻窪町・上泉町	平成14		○			○	○				平成19
52	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市上泉町	平成14～16		○			○			510	上泉唐ノ堀遺跡	平成21
				○							478	上武道路・旧石器時代遺跡群(2)	平成21
52b	上泉唐ノ堀遺跡	前橋市上泉町	平成18～20		○						535	上武道路・旧石器時代遺跡群(3)	平成23
					○			○	○		522	上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群	平成23
53	上泉新田塚遺跡群	前橋市上泉町	平成18～20		○		○	○	○				
54	上泉武田遺跡	前橋市上泉町	平成19	○							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(3)	平成23
					○			○	○		544	上泉武田遺跡 縄文時代以降編	平成24
55	五代砂留遺跡群	前橋市五代町	平成19				○	○	○		530	五代砂留遺跡群	平成23
56	芳賀東部団地遺跡	前橋市五代町・鳥取町	平成18～20	○							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(3)	平成23
					○		○	○	○		551	芳賀東部団地遺跡 縄文時代以降編	平成24
57	鳥取松合下遺跡	前橋市鳥取町	平成20		○		○	○	○		534	鳥取松合下遺跡・胴城遺跡	平成23
58	胴城遺跡	前橋市鳥取町	平成19～21		○	○	○	○	○				
				○							535	上武道路・旧石器時代遺跡群(3)	平成23
59	鳥取塚田遺跡	前橋市勝沢町	調査除外								—	—	—
60	堤遺跡	前橋市勝沢町	平成20		○			○	○		568	堤遺跡	平成24
61	小神明勝沢境遺跡	前橋市小神明町	平成20		○	○	○	○	○		524	小神明勝沢境遺跡・小神明富士塚遺跡	平成23
62	小神明富士塚遺跡	前橋市小神明町・上細井町	平成20・21		○		○	○	○				
63	東田之口遺跡	前橋市上細井町	平成20				○	○	○		523	東田之口遺跡	平成23
64	丑子遺跡	前橋市上細井町	平成20				○	○	○		558	丑子遺跡・上細井五十嵐遺跡	平成24
65	上細井五十嵐遺跡	前橋市上細井町	平成20・21		○			○	○				
66	天王・東紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	平成20								575	天王・東紺屋谷戸遺跡	平成25
67	遺跡	前橋市富士見町時沢	平成20		○		○	○	○				
68	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	前橋市上細井町	平成21								561	上町・時沢西紺屋谷戸遺跡	平成24
69	遺跡	前橋市富士見町時沢	平成21				○	○	○				
70	王久保遺跡	前橋市上細井町・富士見町時沢	平成21・24						○	○	557	王久保遺跡	平成24
71	新田上遺跡	前橋市上細井町	平成24	○	○	○	○	○	○		591	新田上遺跡	平成26
72	上細井中島遺跡	前橋市上細井町	平成21・24		○	○		○	○		576	上細井中島遺跡	平成25
73	上細井蟬山遺跡	前橋市上細井町	平成21・24	○	○		○	○			560	上細井蟬山遺跡	平成24
74	山王・柴遺跡群	前橋市上細井町・青柳町	平成21～23・25	○		○	○	○	○		615	山王・柴遺跡群	平成27
75	引切塚遺跡	前橋市青柳町	平成24		○	○	○				602	引切塚遺跡・青柳宿上遺跡	平成26
76	青柳宿上遺跡	前橋市青柳町・日輪寺町	平成24	○	○	○		○					
77	日輪寺諏訪前遺跡	前橋市日輪寺町	調査除外								—	—	—
78	諏訪遺跡	前橋市日輪寺町	調査除外								—	—	—
79	川端根岸遺跡	前橋市日輪寺町・川端町	平成24		○	○	○	○	○	○	624	川端根岸遺跡	平成28
80	川端山下遺跡	前橋市川端町	平成24・25				○	○	○		626	川端山下遺跡	平成28
81a	関根細ヶ沢遺跡	前橋市関根町	平成24				○	○	○		601	関根細ヶ沢遺跡	平成26
81b	関根赤城遺跡	前橋市関根町	平成24				○	○	○		582	関根赤城遺跡	平成25
82	田口下田尻遺跡	前橋市田口町	平成23・25				○	○	○		625	田口下田尻遺跡	平成28



第101図 上武道路調査遺跡位置図(国土地理院1/200,000地勢図「宇都宮」平成23年発行を使用)

遺物観察表

1号竪穴住居(第4面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第10図 PL.19	1	須恵器 杯	床面直上 1/3	口底 6.5	高 13.5	径 3.6	重	細砂粒/酸化焰・燻 /にぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転糸切り無調整。	

5号竪穴住居(第4面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第12図 PL.19	1	黒色土器 椀	床面直上 底部～体部下 半片	口底 7.0	高	径	重	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付が剥落。内面は放射状へら磨き。	

2号竪穴状遺構(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第13図 PL.19	1	在地系土器 皿	口縁部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	黒色鈹物微量/に ぶい黄橙/	口縁部外反。口縁部端部尖る。	中世。
第13図 PL.19	2	石製品 茶臼(下)	1/10	口底 33.0	高 5.5	径 378.1	重	粗粒輝石安山岩//	1/10残。上面(内面)は非常に滑らかである。下面(外面)も丁寧に整形されており比較的滑らかである。	

5号竪穴状遺構(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第14図 PL.19	1	常滑陶器 片口鉢	体部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	粘土縞状/灰/	灰色の胎土中ににぶい褐色の縞が顕著に認められる。外面縦位の刷毛状工具による撫で。内面器表平滑に摩滅。	中世。常滑片口鉢Ⅱ類。

7号竪穴状遺構(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第14図 PL.19	1	尾張陶器 不詳	体部片か	口底 -	高 -	径 -	重 -	2mm以下の白色鈹 物/灰/	外面横位撫で。内面器表平滑。	中世。

1号掘立柱建物(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第17図 PL.19	1	在地系土器 皿	1/8	口底 (8.7) (6.8)	高 1.3	径	重	赤色粒/にぶい黄 橙/	口縁部横撫で。体部外面に指圧痕あり。底部外面糸切痕認められず、非轆轤製品であろう。	13世紀か。
第17図 PL.19	2	在地系土器 皿	1/10	口底 (8.0) (5.8)	高 1.3	径	重	白色鈹物、赤色粒 微量/にぶい橙/	口縁部横撫で。体部外面に指圧痕あり。口縁部外面接合痕か。底部外面糸切痕認められず、非轆轤製品であろう。	13世紀か。
第17図 PL.19	3	在地系土器 皿	口縁部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	黒色鈹物微量/浅 黄/	口縁部外反。口縁部端部欠損。	中世か。

1号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	径	重			
第21図 PL.20	1	中国磁器か 白磁皿か	体部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	夾雑物含まない/ 白色/0	外面回転篋削り。内外面白磁釉。焼成不良で陶器質、釉は細かい貫入する。	中世か。
第21図 PL.20	2	常滑陶器 片口鉢	体部下位片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/褐灰/	外面器表にぶい褐色、内面器表褐灰色。内面器表摩滅して平滑。	中世。常滑片口鉢Ⅱ類。
第21図 PL.20	3	古瀬戸陶器 盤類	底部1/5	口底 (11.0)	高 -	径 -	重 -	白色鈹物微量/灰 黄/	底部外面回転篋削り。底部内面灰釉刷毛塗り。	14世紀～15世紀前葉。
第21図 PL.20	4	古瀬戸陶器 袴腰香炉	底面より上77 底部1/4	口底 (7.0)	高 -	径 -	重 -	夾雑物含まない/ 灰白/	底部内面轆轤目残る。底部右回転糸切後、脚貼り付け。体部外面下位貫入の入る灰釉。	15世紀中葉～後葉。
第21図 PL.20	5	常滑陶器 壺	B区 口縁部1/3	口底 (13.0)	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/暗灰/	外面自然釉かかる。内面器表暗赤褐色。頸部内面接合痕残る。	16世紀。
第21図 PL.20	6	常滑陶器 甗	底面より上32 口縁部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/暗灰/	外面器表暗赤褐色、内面器表にぶい赤褐色。口縁部幅広く折り返す。	15世紀。1溝8、2溝2、遺構外35と同一個体か。
第21図 PL.20	7	常滑陶器 甗	底面より上88 口縁部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/灰～黒/	器表赤褐色。口縁部幅広く外面に折り返す。端部外面は立ち上がり、窪む程度。口縁部上面自然釉かかる。	15世紀か。2溝3と同一個体か。
第21図 PL.20	8	常滑陶器 甗	口縁部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/暗灰/	外面器表褐色、内面器表灰褐色。口縁部幅広く折り返す。	15世紀。1溝6、2溝2、遺構外35と同一個体か。
第21図 PL.20	9	常滑陶器 甗	底面より上94 肩部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物/灰オ リーブ/	外面自然釉かかる。内面器表暗灰色。内面横撫で。	中世。
第21図 PL.20	10	常滑陶器 甗	体部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	白色鈹物少量/褐 灰/	器表灰褐色。外面縦位撫で。内面篋状工具による横位撫で。	中世。
第21図 PL.20	11	常滑陶器 甗か	体部片	口底 -	高 -	径 -	重 -	径2mm以下の白色 鈹物/橙/	内面器表灰色、外面器表極暗赤褐色。外面器表斑状に自然釉かかる。	中世。
第21図 PL.20	12	在地系土器 皿	底面より上10 口縁部一部欠	口底 16.7 8.7	高 4.3～ 4.8	径	重	鈹物少量/にぶい 黄橙/	体部外面外湾。底部内面から体部中位内面轆轤目残る。底部左回転糸切り無調整。	15世紀。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	(10.0) (5.6)	高	3.3			
第21図 PL.20	13	在地系土器 皿	底面より上31 口縁部1/8、底 部1/2	口底	(10.0) (5.6)	高	3.3	夾雑物少量/橙/ 体部外反。底部左回転糸切無調整。	15世紀。	
第21図 PL.20	14	在地系土器 皿	口縁部1/8	口底	(11.0)	高	-	夾雑物少量/にぶ い黄橙/ 回転横撫で。轆轤左回転。復元した底が小さい可能性がある。	中世。	
第21図 PL.20	15	在地系土器 皿	1/4	口底	(7.0) (4.8)	高	1.7	夾雑物微量/浅黄 橙/ 底部器壁薄く、体部から口縁部器壁厚い。底部回転糸切無調整。	中世。	
第21図 PL.20	16	在地系土器 皿	1/5	口底	(11.0)	高	-	白色、黒色鈹物黒 色鈹物微量/灰黄 褐/ 口縁部内湾気味に開く。	中世か。	
第21図 PL.20	17	在地系土器 片口鉢	底面より上41 口縁部片	口底	-	高	-	白色鈹物少量/に ぶい赤褐/ 器表灰褐色。口縁端部内面内側に突き出る。口縁部丁寧な横撫で。端部内面上部の器表摩滅。	15世紀か。	
第21図 PL.20	18	在地系土器 片口鉢	口縁部片	口底	-	高	-	鈹物少量/灰褐/ 器表黒色から灰褐色。口縁端部内面小さく突き出る。口縁端部内外面摩滅。	15世紀。	
第21図 PL.20	19	在地系土器 片口鉢	口縁部片	口底	-	高	-	1mm以下の白色鈹 物少量/灰/ 口縁部内面は小さく折り返すように突き出る。突出部器表平滑。内面口縁部下器表平滑。内面から口縁部外面丁寧な回転横撫で。	15世紀。	
第22図 PL.20	20	在地系土器 片口鉢	底面より上71 口縁部から体部 下位片	口底	-	高	-	鈹物少量/褐灰色/ 内面器表付近から内面器表にぶい橙色、断面から外面器表褐灰色。口縁部肥厚し、内面は突き出る。口縁部丁寧な横撫で。内面中位使用により平滑。内面下位使用により摩滅。	15世紀。	
第22図 PL.21	21	在地系土器 片口鉢	底面より上60 体部片	口底	-	高	-	白色鈹物/灰/ 器表灰黒色。内面下半使用により平滑。内面幅広のすり目。	15世紀か。	
第22図 PL.21	22	在地系土器 片口鉢	体部片	口底	-	高	-	白色鈹物少量/灰/ やや外反。内面器表丁寧な回転横撫で。外面撫で。	中世。	
第22図 PL.21	23	在地系土器 片口鉢	体部下位片	口底	-	高	-	白色鈹物/にぶい 黄橙/ 器表付近から器表灰褐色。内面幅広の弧状すり目。内面使用により摩滅し、底部周縁は摩滅によりドーナツ状に窪む。	15世紀か。	
第22図 PL.21	24	在地系土器 片口鉢	体部下位片	口底	-	高	-	白色鈹物、黒色粒 /灰/ 内面使用により摩滅。底部内面周縁使用による摩滅でドーナツ状に窪む。	中世。	
第22図 PL.21	25	在地系土器 内耳鍋	底面より上16 口縁部片	口底	-	高	-	鈹物少量/にぶい 黄褐/ 断面から内面器表にぶい黄褐色。外面器表褐灰色。器壁やや厚く屈曲部内面に明瞭な段を持たない。内面に耳部貼り付け。	15世紀後葉～ 16世紀中葉。	
第22図 PL.21	26	在地系土器 内耳鍋	口縁部片	口底	-	高	-	白色鈹物少量/灰/ 器表橙色から灰黄褐色。口縁部内湾。	15世紀後半～ 16世紀中葉。	
第22図 PL.21	27	在地系土器 内耳鍋	口縁部から体部	口底	-	高	-	白色鈹物少量/灰 黄褐/ 器表黒色。口縁外方に屈曲し、内湾して立ち上がる。屈曲部内面稜をなす。	15世紀後葉～ 16世紀中葉。 1溝27と同一 個体か。	
第22図 PL.21	28	在地系土器 内耳鍋	底面より上21 ～55 2/3	口底	33.0 23.2	高	16.9	白色鈹物少量/灰 黄褐～にぶい黄橙 / 器表黒色。口縁外方に屈曲し、内湾して立ち上がる。屈曲部内面稜をなす。平底。体部外面煤付着。底部外面から体部画面下端器表にぶい赤褐色。	15世紀後葉～ 16世紀中葉。 1溝28と同一 個体か。	
第22図 PL.21	29	在地系土器 内耳鍋	口縁部片	口底	-	高	-	白色鈹物、灰色粒 少量/灰/ 器壁やや厚く、口縁部内湾気味に開く。	中世。	
第22図 PL.21	30	在地系土器 内耳鍋	体部上位片	口底	-	高	-	片岩?微量/灰/ 断面から内面器表灰色、外面器表褐灰色。内面口縁部下明瞭な段差。	中世。	
第22図 PL.21	31	在地系土器 内耳鍋か	体部下位片	口底	-	高	-	白色鈹物/橙/ 外面上位煤付着。体部下位やや内湾。器壁厚い。	中世。	
第22図 PL.21	32	石造物 五輪塔	ほぼ完形	幅	16.2	高重	(22.2) 4247.3	二ツ岳石// 空風輪。略完形。成形は均質、表面は丁寧な研磨整形を施し、平ノミ状の工具痕が僅かに残る。底面は突起を有する。		
第22図 PL.21	33	石製品 石臼(上)	底面より上40 1/2	長幅	28.6 (16.2)	高重	(11.1) 4881.7	粗粒輝石安山岩// 1/2残。下面には挽目の痕跡が明瞭に認められる。下面の中央部には軸受孔が見られる。上面供給孔は断面がくの字を呈しており、上下両面から穿孔されている。供給孔の内側の側面には棒状の工具痕が残り、穿孔時の痕跡と考えられる。		
第23図 PL.21	34	石製品 石臼(上)	底面より上66 1/4	長幅	(11.7) (19.5)	高重	(11.6) 2545.7	粗粒輝石安山岩// 1/4残。下面には挽目の痕跡が明瞭に認められる。上面供給孔は直径約3cmであり、内の側面には棒状の工具痕が僅かに残る。穿孔時の痕跡と考えられる。		
第23図 PL.21	35	石製品 石臼(上)	底面より上46 1/3	径	(27.0)	高重	(9.0) 4096.5	粗粒輝石安山岩// 1/3残。下面は摩滅し挽目の痕跡が僅かに認められる。下面の中央部には軸受孔が見られる。上面供給孔の一部が認められる。		
第23図 PL.21	36	石製品 石鉢	1/8	口底	(26.0) (11.5)	高重	12.3 1194.2	粗粒輝石安山岩// 1/8残。口唇部は平坦で非常に滑らかである。内面は比較的滑らかである。外面は二段に整形されており、細かい凹凸が認められ加工時の棒状工具痕の可能性が有する。		
第23図 PL.21	37	石製品 石製品	底面より上34 完形	長幅	14.5 18.7	厚重	14.0 2548.1	二ツ岳石// 漏斗状の孔が認められ、上端部径約7cm、底部径約2cm、深さ約2cmを測る。孔の底部付近は比較的滑らかであるが、孔の側面は曲面であるが細かい凹凸が認められる。外周部分に僅かに平ノミ状の工具痕が残り加工時の痕跡の可能性が有する。		
第23図 PL.21	38	鉄製品 釘	一部欠損	長幅	3.9 1.3	厚重	1.2 5.66	// 断面正方形の角釘。頭は薄い傘形で先端に向かい徐々に細くなるが端部は尖らない。		

遺物観察表

2号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第28図 PL.22	1	尾張陶器 片口鉢	口縁部片	口 底	高		白色鈹物/褐灰/	口縁部外反気味に肥厚。	13世紀。常滑 でいう片口鉢 I類。
第28図 PL.22	2	常滑陶器 甕	口縁部片	口 底	高		白色鈹物/暗灰/	外面器表褐色、内面器表灰褐色。口縁部幅広く折り返す。 口縁部上面斑状に自然釉かかる。	15世紀。1溝 6、1溝8、 遺構外35と同 一個体か。
第28図 PL.22	3	常滑陶器 甕	口縁部片	口 底	高		白色鈹物少量/灰 白/	口縁部幅広く外面に折り返す。口縁部上面外側は凹線状 に窪む。	15世紀か。1 溝7と同一個 体か。
第28図 PL.22	4	常滑陶器 甕か	肩部片	口 底	高		白色鈹物/暗灰/	外面器表褐色、内面器表灰褐色。内面紐作り痕。外面自然 釉斑状にかかる。	中世。
第28図 PL.22	5	常滑陶器 甕か	体部片	口 底	高		白色鈹物/褐灰/	外面器表にぶい褐色、内面器表灰褐色。内面指押さえ痕残 る。外面縦位撫で。	中世。
第28図 PL.22	6	常滑陶器 甕	体部片	口 底	高		白色鈹物少量/灰 ~暗灰/	外面器表褐色、内面器表灰褐色。内面撫で。外面工具によ る撫で。	中世。
第28図 PL.22	7	常滑陶器 甕	体部下位片	口 底	高		白色鈹物/灰/	外面暗赤褐色、内面灰黄褐色。内面撫で。外面工具による 縦位撫で。内面自然釉斑状にかかる。	中世。
第28図 PL.22	8	常滑陶器 甕	体部片	口 底	高		白色鈹物少量/灰 白/	内面にぶい褐色、外面にぶい赤褐色。内面横位撫で、接 合痕残る。外面工具による縦位撫で。	中世。
第28図 PL.22	9	在地系土器 皿	口縁部一部欠	口 底	6.7 5.8	高 1.8	白色鈹物微量/に ぶい黄橙/	体部下位から底部周縁付近器壁厚い。底部左回転糸切無調 整。	14世紀か。
第28図 PL.22	10	在地系土器 皿	底面より上47 完形	口 底	11.2 7.2	高 2.6	径1mm以下の鈹物 少量/にぶい赤褐/	体部直線的に開く。底部内面左回転の渦状轆轤目。底部左 回転糸切無調整。	15世紀後半。
第28図 PL.22	11	在地系土器 皿	口縁部一部、底 部1/4	口 底	(13.4) (7.0)	高 4.1	鈹物微量/浅黄橙/	外面体部下端立ち上がり、屈曲して開く。底部内面指撫で。 底部左回転糸切無調整。	15世紀前半 か。
第28図 PL.22	12	在地系土器 皿	1/10	口 底	(7.0) (5.0)	高 1.9	白色鈹物微量/に ぶい黄橙/	口縁部内湾して尖る。回転横撫で。	中世。
第28図 PL.22	13	在地系土器 皿	底部1/4	口 底	(5.0)	高	白色・黒色鈹物微 量/にぶい黄橙/	回転横撫で。底部左回転糸切無調整か。体部下位立ち上 がる。	中世。
第28図 PL.22	14	在地系土器 内耳鍋	底面より上5 口縁部片	口 底		高	白色鈹物、黒色粒 黒色粒/灰/	口縁部は直線的。端部上面平坦。	15世紀後葉~ 16世紀中葉。
第28図 PL.22	15	在地系土器 内耳鍋	底面より上40 1/4	口 底	(33.8) -	高	径2mm以下の鈹物 少量/灰黄褐/	断面から口縁部外面器表灰黄褐色、器表黒色。体部外面煤 付着。底部内面から体部下端内面器表焦げ痕。体部外面下位 後撫で。底部外面から体部外面下端器表にぶい褐色。	15世紀後葉~ 16世紀中葉。
第28図 PL.22	16	在地系土器 内耳鍋	底面より上50 1/4	口 底	(25.6) (17.2)	高 15.7	径2mm以下の鈹物 少量/灰黄褐/	断面中央灰白色、器表付近灰褐色、器表灰色から黒色。屈 曲部内面明瞭な段差。口縁部上面平坦。体部外面煤付着。 底部内面から体部下端内面器表焦げ痕。体部外面下位 後撫で。底部外面から体部外面下端器表にぶい褐色。	15世紀後葉~ 16世紀中葉。
第28図 PL.22	17	在地系土器 内耳鍋	底面より上40 底部1/2欠	口 底	30.7 21.0	高 15.0	白色鈹物少量/に ぶい褐/	器表黒色。屈曲部内面明瞭な段差。口縁部上面平坦。体 部若干開き平底。外面煤付着。口縁部外面から体部外面煤 付着。体部外面下端から底部外面器表にぶい橙色で色調 と境明瞭。	15世紀後葉~ 16世紀中葉。
第29図 PL.22	18	在地系土器 内耳鍋	底面より上34 体部片	口 底		高	鈹物、片岩微量/ 灰/	断面中央灰色、器表付近から外面器表赤褐色、内面器表暗 灰黄色。屈曲部内面明瞭な段差。	中世。
第29図 PL.22	19	在地系土器 内耳鍋	底面より上19 体部片	口 底		高	白色鈹物、赤色粒 少量/明褐/	内面器表褐灰色、外面器表灰褐色。外面煤付着。	中世。
第29図 PL.22	20	在地系土器 内耳鍋	底面より上26 体部片	口 底		高	白色鈹物、赤色粒 少量/橙/	内面器表灰色、外面器表褐灰色。口縁部下屈曲部内面明瞭 な段差。段差直下2条の沈線状窪み巡る。	中世。
第29図 PL.23	21	在地系土器 内耳鍋	底面より上48 体部片	口 底		高	鈹物少量/にぶい 黄橙/	器表やや摩滅。外面縦位窪削り痕。屈曲部内面明瞭な稜を なす。	中世。
第29図 PL.23	22	在地系土器 焙烙	底面より上54 1/8	口 底	(32.6) (28.4)	高 5.4	白色鈹物少量/褐 灰/	断面中央褐灰色、器表付近にぶい黄褐色、器表黒色。燻し 焼成。体部内面中位緩い段差。外面中位接合痕残る。外面 下半の縮緬状痕撫で消す。外面体部下端窪撫で。外面窪撫 で付近から底部外面器表褐灰色。	16世紀後半~ 17世紀前半 か。
第29図 PL.23	23	在地系土器 焙烙	口縁部から体部 片	口 底		高	白色鈹物/黒/	断面中央黒色、器表付近浅黄色、器表黒色。内面中位明瞭 な段差。外面下半縮緬状痕。	江戸時代。
第29図 PL.23	24	在地系土器 焙烙か	底面より上58 口縁部~体部片	口 底		高	白色鈹物/褐灰/	断面中央褐灰色、器表付近にぶい黄褐色、器表黒色。燻し 焼成。内面轆轤目状の凹凸。外面下窪削り。	
第29図 PL.23	25	在地系土器 火鉢	口縁部片	口 底		高	鈹物微量/浅黄/	燻し焼成で器表黒色。口縁部外面突帯間にスタンプによる 雷文帯を巡らし、雷文帯上に突起貼り付け。外面器表磨き 調整。	中世。
第29図 PL.23	26	瓦 棧瓦か	側縁片	長 幅		厚 1.6	黒色粒微量/灰/	器表黒色。燻し瓦。	江戸時代以 降。
第29図 PL.23	27	石製品 砥石	1/4	長 幅	(10.6) 8.7	厚 重 8.1 705.4	粗粒輝石安山岩//	大形の砥石であり研面は4面認められる。正面は上方に向 かい研ぎ減りする。右側面には研面は2面認められ、と もに僅かに内湾する。裏面はほぼ平坦であるが他の研面に 比べ滑らかでなく、研面としての使用頻度が低かった可 能性がある。裏面と左側面の下端には平タガネ状の工具痕 が残り加工時の痕跡の可能性ある。上部欠損。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	高			
第29図 PL.23	28	石製品 砥石	1/2	長 幅 (17.3) (9.7)	厚 重 (10.0) 1511.0		粗粒輝石安山岩//	大形の砥石であり研面は4面認められる。正面は下方に向かい著しく研ぎ減りする。左側面には研面は2面認められ、ともに僅かに内湾する。裏面はほぼ平坦であるが他の研面に比べ滑らかでなく、研面としての使用頻度が低かった可能性がある。右側面及び下部欠損。	
第29図 PL.23	29	石製品 砥石	ほぼ完形	長 幅 (6.1) 4.0	厚 重 (3.0) 110.7		砥沢石//	研面は4面認められる。正面は下方に僅かに研ぎ減りする。裏面及び左右側面はほぼ平坦である。右側面には櫛歯タガネ痕がごく僅かに残る。下面には加工時のノコギリ痕が認められる。	
第29図 PL.23	30	石造物 板碑	底面より上22 破片	長 幅 (24.4) 21.6	厚 重 2.4 2157.0		緑色片岩//	中部破片。碑面やや摩滅。裏面に平ノミ状工具痕が僅かに残る。上部及び下部欠損。	
第29図 PL.23	31	石製品 茶臼(下)	破片	長 幅 (7.0) (8.8)	高 重 (6.7) 304.3		粗粒輝石安山岩//	上面(内面)は滑らかである。外面も丁寧に整形されており比較的滑らかである。	
第30図 PL.23	32	石製品 茶臼(下)	破片	長 幅 (12.1) (11.7)	高 重 11.8 1147.3		粗粒輝石安山岩//	上面(内面)は非常に滑らかである。外面も丁寧に整形されており比較的滑らかである。下面(底面)には棒状の工具痕が残り加工時の痕跡と考えられる。	
第30図 PL.23	33	石製品 石製品	完形	長 幅 7.6 9.6	厚 重 6.3 415.1		粗粒輝石安山岩//	浅い皿状の孔が認められ、上端部径約5cm、深さ約1cmを測る。孔は全体的に滑らかな曲面である。孔の外側に平坦な磨面が認められる。外側は全体的に滑らかな曲面である。	

6号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第31図 PL.23	1	古瀬戸陶器 平碗か	体部片	口 底	高		白色鈹物微量/灰 白/	外面轆轤目顕著。内外面灰釉。貫入入る。	中世。
第31図 PL.23	2	尾張陶器 片口鉢	口縁部片	口 底	高		白色鈹物/灰/	口縁端部肥厚。	13世紀。常滑 でいう片口鉢 I類。
第31図 PL.23	3	常滑陶器 甕か	肩部片	口 底	高		白色鈹物/灰白/	外面器表赤褐色。内面器表にぶい黄褐色。内面接合痕残る。	中世。
第31図 PL.23	4	在地系土器 壺か	底面より上26 体部片	口 底	高		白色鈹物微量/灰 白/	器表灰色。内面回転横撫で。外面丁寧な撫での後、間隔を開けた縦位磨き。	時期不詳。

7号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第32図 PL.23	1	在地系土器 皿	口縁部1/2欠	口 底 7.4 4.1	高 2.0		白色、黒色鈹物/ 橙/	内外面明瞭な轆轤目。底部右回転糸切無調整。	15世紀前葉～ 中葉。

9号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第32図 PL.23	1	在地系土器 皿	底面直上 底部1/4	口 底 (6.8)	高		鈹物微量/浅黄橙/	底部回転糸切無調整。外面体部下端立ち上がる。	中世。

15号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第33図 PL.23	1	在地系土器 甕か	体部片	口 底	高		白色鈹物/暗灰黄/	外面器表黒色。外面櫛描文。器壁は薄い、径が焔炉に比して大きい。	江戸時代以 降。

24号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	厚			
第37図 PL.24	1	在地系土器 皿か	口縁部片	口 底	高		片岩?微量/にぶい 黄褐/	口縁部内湾。	時期不詳。
第37図 PL.24	2	石製品 砥石	1/2	長 幅 (7.6) (4.0)	厚 重 (3.5) 126.7		砥沢石//	研面は4面認められる。正面は下方に研ぎ減りし、横方向の線状痕が多く認められる。左側面はほぼ平坦であり櫛歯タガネ痕がごく僅か残る。右側面はやや内湾する。裏面もやや内湾し断面V字形の刃慣らし傷が認められる。上面は全体的には凹凸面であるが、部分的に平滑箇所があり整形時の痕跡の可能性ある。下部欠損。	
第37図 PL.24	3	石製品 砥石	1/2	長 幅 (7.7) (6.1)	厚 重 (4.8) 204.0		粗粒輝石安山岩//	研面は4面認められる。正面はやや内湾する形態であり、端部に線状痕が認められる。その他の研面は滑らかであるが、全体的に凹凸がある。上面は研面ではないが、短い線状痕が僅かに認められ加工痕の可能性ある。	
第37図 PL.24	4	石製品 茶臼(下)	不明	長 幅 (4.4) (13.5)	高 重 (3.7) 206.6		粗粒輝石安山岩//	上面(内面)は非常に滑らかである。下面(外面)も丁寧に整形されており比較的滑らかである。	
第37図 PL.24	5	鉄製品 鎌	破片	長 幅 5.1 1.3	厚 重 1.0 6.84		//	先端が劣化破損した鉄鎌と見られる。断面はほぼ正方形で茎に向かい広がり茎との境を一周する形で段を持つ、径は短く細くなり終わる。	
第37図 PL.24	6	鉄製品 不詳	一部欠損	長 幅 10.1 1.4	厚 重 1.0 18.56		//	断面長方形の角棒状鉄製品。一端に向かい細くなりやや尖り終わる。反対側は劣化破損する。	

遺物観察表

25号溝(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第37図 PL.24	1	在地系土器 皿	口縁部片	口	-	高	-	片岩?微量/明褐/	丸底か。口縁部短く内湾。非轆轤製品か。	13世紀か。
第37図 PL.24	2	在地系土器 皿	底部1/4	口	(5.0)	高	-	片岩?微量/黄褐/	体部外面下端短く立ち上がる。底部回転糸切無調整。	中世か。
第37図 PL.24	3	鉄製品 刀子	ほぼ完形	長幅	11.6 1.4	厚重	0.7 13.52	//	棟・刃側ともになだらかな関を持つ刀子。茎は長く柄のど見られる木質等は確認できない。	
第37図 PL.24	4	鉄製品 鏃	一部欠損	長幅	16.7 1.6	厚重	1.3 38.20	//	先端が劣化破損した鉄鏃。両側に短い腸割りをもち、茎に向かい広がり茎との境を一周する形で段を持つ。	

3号溝(第4面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第45図 PL.24	1	土師器 杯	1/5	口	12.8	高	3.1	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	

44号溝(第5面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第53図 PL.24	1	土師器 杯	底面より上28 3/4	口	14.1	高	5.1	細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部は丁寧なナデ、底部は手持ちヘラ削り。	

46号溝(第5面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第53図 PL.24	1	土師器 甕	口縁部片	口	14.6			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はナデ。内面は胴部がヘラナデ。	
第53図 PL.24	2	土師器 甕	底面より上40 口縁部~胴部上 位片	口	15.4			細砂粒/良好/褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第53図 PL.24	3	土師器 甕	胴部下位~底部	底	8			細砂粒/良好/にぶ い橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	

2号水田(第5面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高	厚			
第61図 PL.25	1	土師器 杯	水田面直上 口縁部~体部片	口	12.5 13.5			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。	
第61図 PL.25	2	土師器 杯	水田面直上 口縁部片	口	14.7			細砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状にヘラ磨き。	
第61図 PL.25	3	土師器 杯	水田面より上5 口縁部片	口	15.3			細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き。	
第61図 PL.25	4	土師器 杯	水田面直上 口縁部片	口	14.8			細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き。	
第62図 PL.25	5	土師器 杯	水田面直上 口縁部~底部 1/3	口	15.4 7.4	高		細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。内面は斜放射状ヘラ磨き。	
第62図 PL.25	6	土師器 杯	水田面直上 口縁部~底部 1/4	口	16.7 6.9	高		細砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面体部に斜放射状ヘラ磨き。	
第62図 PL.25	7	土師器 埴	水田面直上 口縁部欠	頸 胴	7.3 14.4			細砂粒/良好/赤褐	頸部は横ナデ、胴部上半はナデ、下半から底部はヘラ削り。内面はナデか。	
第62図 PL.25	8	土師器 甕	水田面直上 口縁部~胴部 1/2	口	13.8			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	外面胴部は煤けている。

1号土坑墓(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				縦	横	厚	重			
第67図 PL.25	1	銅製品 銭貨	ほぼ完形	縦	2.382 2.382	厚	0.123 2.89	//	元祐通寶。外縁・文字・郭とも彫は深い。文字はつづれ気味でやや不明瞭。裏面は外縁・郭とも彫浅く不明瞭。	
第67図 PL.25	2	銅製品 銭貨	ほぼ完形	縦	2.75 2.50	厚	0.35 5.97	//	銅銭2枚が錆化癒着する。2枚とも平坦で外縁・郭とも不明瞭で銭種不明。	
第67図 PL.25	3	銅製品 銭貨	ほぼ完形	縦	2.40 2.65	厚	0.40 6.58	//	銅銭2枚が錆化癒着する。1枚は元豊通寶で外縁・文字・郭とも彫深い。文字はつづれ不明瞭。もう1枚は裏面で外縁・郭とも彫浅く不明瞭で銭種は不明。	
第67図 PL.25	4	銅製品 銭貨		縦	2.462 2.395	厚	0.128 3.03	//	淳祐元寶。外縁・文字・郭とも彫は深い。劣化により文字は不明瞭。裏面は平坦で外縁・郭を認められる程度。	

2号土坑墓(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				縦 横	厚 重				
第67図 PL.25	1	銅製品 銭貨	底面より上6 ほぼ完形	縦 2.80 横 3.30	厚 0.75 重 17.32	//	銅銭6枚が錆化癒着する。外側の1枚は寛永通寶で外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。他の5枚は癒着のため銭種は不明。		
第67図 PL.25	2	銅製品 銭貨	底面より上6	縦 2.70 横 2.80	厚 0.35 重 5.65	//	銅銭2枚が錆化癒着する。劣化により文字は不明瞭だが1枚は文久永寶と見られる。もう1枚は下方に久の字が確認できるのみ。	2枚癒着。	

4号土坑墓(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	高 重				
第67図 PL.25	1	石造物 五輪塔	底面直上 完形	長 38.4 幅 36.6	高 24.6 重 21250.0	二ツ岳石//	火輪。丁寧な成整形。隅棟はあまり反らず、上面に孔なし。側面に平タガネ状の工具痕を残す。風化による摩滅は少ない。底部の中心付近が摩滅しており、水輪との接触部分と考えられる。		
第67図 PL.25	2	銅製品 銭貨	1の直上 ほぼ完形	縦 2.85 横 2.75	厚 0.55 重 11.80	//	銅銭3枚が錆化癒着する。外側の2枚は寛永通寶で外縁・文字・郭とも彫深いが錆化した植物痕が付着する。中の1枚は癒着のため銭種は不明。		

1号火葬墓(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第67図 PL.26	1	瀬戸・美濃 陶器 皿	底面直上 完形	口 10.7 底 6.8	高 2.2	1mm以下の鈹物微量/灰白/	内外面長石釉。底部内面と高台内円錐ピン痕3カ所。口縁端部外面と高台端部は釉下の素地まで平滑に摺る。	17世紀前葉～中葉。	
第67図 PL.26	2	銅製品 銭貨	底面より上10 ほぼ完形	縦 2.442 横 2.434	厚 0.119 重 2.45	//	寛永通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも彫深く明瞭。		
第67図 PL.26	3	銅製品 銭貨	ほぼ完形	縦 2.452 横 2.485	厚 0.128 重 2.59	//	寛永通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも明瞭だが彫は浅い。		

719号土坑(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第68図 PL.26	1	在地系土器 片口鉢	体部下位片	口 - 底 -	高 -	白色鈹物、赤色粒/にぶい褐～褐灰/	器表黒色から赤褐色。内面下半使用により器表摩滅し、上半平滑。	中世。	

1100号土坑(第4面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 稜	高				
第83図 PL.26	1	土師器 杯	底面より上7 口縁部～体部片	口 13.7 稜 11.7		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナゲ、体部(稜下)から底部は手持ちへう削り。		
第83図 PL.26	2	黒色土器 椀	底面より上7 底部片	底 6.0 台 6.1		細砂粒/酸化焙/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。内面はへう磨き。	内面黒色処理は二次被熱により消失。	

22号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第84図 PL.26	1	在地系土器 皿	1/4	口 (11.1) 底 (6.9)	高 3.3	鈹物微量/浅黄橙/	底部回転糸切無調整。外面体部下端立ち上がる。口縁部から体部直線的に開く。	14世紀。	

90号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第84図 PL.26	1	中国磁器 白磁面取杯	口縁部片	口 - 底 -	高 -	夾雑物含まない/白/	体部外面面取り。焼成不良で細かい貫入入る。	15世紀。	

151号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第84図 PL.26	1	在地系土器 皿	1/6	口 (7.0) 底 (4.4)	高 1.6	赤色粒/にぶい黄橙/	体部外反。口縁端部灯芯痕2カ所残る。灯火皿として使用。	中世。	

152号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第84図 PL.26	1	在地系土器 内耳鍋	体部上位片	口 - 底 -	高 -	片岩?/にぶい黄橙/	内面器表にぶい黄橙色、外面器表灰白色。屈曲部内面明瞭な稜をなす。	中世。	

171号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高				
第84図 PL.26	1	在地系土器 内耳鍋	底部片	口 - 底 -	高 -	3mm以下の鈹物少量/にぶい褐色/	内面器表灰色、外面器表黒褐色。平底。	中世。	

遺物観察表

195号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第84図 PL.26	1	古瀬戸陶器 盤類か	体部片	口底	-	高	-	夾雑物微量/灰白/	外面轆轤目顕著。内外面灰釉。貫入入る。	中世。

220号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第84図 PL.26	1	鉄製品 釘	ほぼ完形	長幅	4.5 1.1	厚重	1.2 7.79	//	断面長方形の角釘。頭は薄く広げ大きく折り返す。先端側はやや細くなるが尖らずに終わる。	

240号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第84図 PL.26	1	在地系土器 皿	体部から底部 1/6	口底	(7.0)	高	-	部分的に白色縞/ 浅黄橙/	外面器表のみ橙色。体部外面下端立ち上がる。	中世か。

245号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	鉄製品 不詳	ほぼ完形	長幅	6.1 1.3	厚重	1.1 7.24	//	断面長方形の角棒状鉄製品。両端に向かい細くなるが鋭利には尖らない。	

371号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	在地系土器 皿	1/8	口底	(11.8)	高	-	鉍物微量/浅黄橙/	体部から口縁部直線的に開く。	中世。

387号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	在地系土器 皿	口縁部1/8	口底	(10.0)	高	-	鉍物微量/にぶい 黄橙/	轆轤回転方向不明。口縁部一部黒変。灯火皿として使用か。	中世。

394号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	在地系土器 不詳	1/8	口底	(14.6) (12.0)	高	-	鉍物、赤色粒/に ぶい黄橙/	型作りか。口縁部回転横撫で。体部下位から底部外面縮緬状痕か。	時期不詳。

440号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	石製品 砥石	4/5	長幅	(11.9) 4.0	厚重	2.9 124.7	砥沢石//	研面は3面認められる。正面は上下方向に著しく研ぎ減りし山形の形態を呈する。山形の稜線上には、斜め方向の短い線状痕が集中する。右側面も上下方向にやや研ぎ減りし山形である。裏面はほぼ平坦である。左面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。下部欠損。	

505号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85図 PL.26	1	在地系土器 皿	口縁部1/8	口底	(11.0)	高	-	白色鉍物少量/に ぶい橙/	轆轤左回転。口縁部直線的に開く。	中世。

626号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86図 PL.26	1	在地系土器 皿	1/5	口底	(11.0)	高	-	白色、黒色鉍物黒 色鉍物微量/灰黄 褐/	口縁部内湾気味に開く。	中世か。

768号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86図 PL.26	1	古瀬戸陶器 盤類	体部片	口底	-	高	-	夾雑物微量/灰白/	外面轆轤目顕著。内外面灰釉。内面貫入入る。外面釉薄く、白濁。	中世。

835号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86図 PL.26	1	鉄製品 不詳	一部欠損	長幅	3.8 1.1	厚重	1.0 3.81	//	断面ほぼ正方形の角棒状鉄製品。一端は傘型に広がり、反対側はまっすぐで劣化破損する。	

843号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長	幅	厚重				
第86図 PL.26	1	石製品 砥石	不明	長	(8.9) 3.5	厚重	(0.8) 40.2	珪質粘板岩//	正面の研面はほぼ平坦であり、縦方向の線状痕が多く認められる。左右側面には、正面と平行する方向の線状痕がほぼ等間隔で認められ加工時の痕跡の可能性はある。裏面は大きく剥落しており元の形態は不明である。別の石製品を砥石に転用した可能性もある。	

865号ピット(第2面)出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第87図 PL.26	1	在地系土器 皿	口縁部片	口底	-	高	-	鈳物少量/浅黄橙/	轆轤回転方向不明。口縁部直線的に開く。	中世。

遺構外出土遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第90図 PL.27	1	縄文土器 粗製深鉢	1住籠(E区第4面) 口縁部1/4		(23.0)		A//	口縁が内湾する粗製土器。外面は斜位、内面は横・斜位の粗い篋撫で。内外面の一部に煤状炭化物付着。	縄文後期	
第90図 PL.27	2	縄文土器 深鉢	胴部片				A//	縄文RLを縦位施文し、幅広の沈線懸垂文間を磨り消す。内外面やや風化。	加曾利E3式	
第90図 PL.27	3	縄文土器 深鉢	46溝(E区第5面) 胴部片				A//	幅広の半截竹管状工具により鋸歯状の平行沈線文を施す。	田戸下層式	
第90図 PL.27	4	縄文土器 深鉢	24溝(E区第2面) 胴部片				A//	幅狭の半截竹管状工具により横・斜位の集合沈線文を施す。外面やや被熱風化、内面煤状炭化物付着。	田戸下層式	
第90図 PL.27	5	縄文土器 深鉢	24溝(E区第2面) 胴部片				F//	やや幅広の半截竹管状工具により鋸歯状の平行沈線文を施す。内面やや被熱風化。	田戸下層式	
第90図 PL.27	6	弥生土器 壺	5 豎・31溝(E区第2面) 頸部~胴部1/4				C//	肩部~胴部にかけて5条沈線の連続山形文と4条の横位沈線文や四角形文を施し、その区画内に縄文LRを充填施文。内面横篋撫で。	弥生中期前半	
第90図 PL.27	7	弥生土器 壺	5 豎(E区第2面) 胴部片				E//	方形の沈線区画内に縄文LRを充填施文。内面横篋撫で。	弥生中期前半	
第90図 PL.27	8	弥生土器 壺	44溝(E区第5面) 胴部片				D//	棒状工具の深い沈線横帯文間に縄文LRを充填施文。内面横磨き。	弥生中期前半	
第90図 PL.27	9	弥生土器 甗	1 溝(B区第2面) 胴部片				D//	棒状工具の深い沈線横帯文間に縄文LRを充填施文。外面一部に煤状炭化物付着。内面横磨き。	弥生中期前半	
第90図 PL.27	10	弥生土器 甗	5 豎(E区第2面) 胴部片				D//	帯状沈線文の区画内に縄文RLを充填施文。内面は粗い横篋撫で。	弥生中期前半	
第90図 PL.27	11	弥生土器 鉢	5 豎(E区第2面) 口縁~体部1/3		(20.0)		B//	やや細密な縄文LRを斜・横位に施文。内外面風化。	弥生中期前半	
第91図 PL.27	12	土師器 杯	E区 口縁部片	口最	15.6 16.4		細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削りか、器面磨滅のため不鮮明。内面は放射状ヘラ磨き。		
第91図 PL.27	13	土師器 椀	E区 口縁部のみ	底台	7.0 7.6		細砂粒・褐粒/酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。		
第91図 PL.27	14	土師器 鉢	D区 口縁部片	口	16.6		細砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、器面磨滅のため不鮮明。内面体部はナデ。		
第91図 PL.27	15	黒色土器 椀	28溝(D区第2面) 口縁部~底部1/3	口底	16 7.4	台高	8.0 6.0	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	内面黒色処理。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台を貼付。内面はヘラ磨き。	
第91図 PL.27	16	灰釉陶器 皿	E区 口縁部~底部片	口底	11.8 6.8	台高	6.3 2.1	微砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式期
第91図 PL.27	17	土師器 台付甗	D区 口縁部片	口	13.7		細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケ目(1cmあたり5本)。内面は胴部がヘラナデ。		
第91図 PL.27	18	土師器 羽釜	28溝(D区第2面) 口縁部~胴部	口	20.4 22.6		細砂粒・粗砂粒/良好/明赤褐	鏝は貼付、口縁部は横ナデ、胴部は下から鏝へ向けてのヘラ削り。内面はヘラナデ。		
第91図 PL.27	19	肥前磁器 染付碗	口縁部1/3欠	口底	7.5 2.8	高	3.9	夾雑物含まない/灰白/	外面に簡略化した笹文と不明文様。体部外面下位と高台境に圈線。内面無文。	18世紀中葉~後葉。
第91図 PL.27	20	肥前磁器 染付碗	E区 口縁部一部、底部完	口底	(10.5) 4.5	高	5.1	夾雑物含まない/白/	外面染付。見込蛇ノ目釉剥ぎ。釉剥ぎ部に白濁したアルミナを塗布。	18世紀中葉~後葉。
第91図 PL.27	21	製作地不詳 磁器 染付碗	口縁部1/4欠	口底	11.0 3.8	高	5.4	夾雑物含まない/白/	内外面型紙摺り。底部内面周縁の圈線のみ手描き。	近現代。
第91図 PL.27	22	製作地不詳 磁器 平碗	口縁部1/3欠	口底	11.9 4.1	高	5.1	夾雑物含まない/白色/	外面に酸化コバルトと緑色の銅板転写で桜と菱形文を描く。機械轆轤成形。	近現代。

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第92図 PL.27	23	製作地不詳 磁器 平碗	口縁部一部、底 部完	口底 4.1	高 6.1	(11.4)	夾雑物含まない/ 白色/	外面ゴム印による染付。高台内ゴム印により「岐121」の生 産者記号番号。	近現代。
第91図 PL.28	24	製作地不詳 磁器 平碗	D区 口縁部1/8欠	口底 4.0	高 5.8	11.5	夾雑物含まない/ 白色/	外面鉄絵具と黒色、オリーブ灰色による絵付け。	近現代。
第92図 PL.28	25	製作地不詳 磁器 平碗	D区 口縁部1/2欠	口底 4.1	高 5.5	11.6	夾雑物含まない/ 白色/	外面ゴム印による染付。	近現代。
第92図 PL.28	26	製作地不詳 磁器 平碗	完形	口底 3.8	高 5.0	11.7	夾雑物含まない/ 白色/	外面に酸化コバルトと緑色の銅板転写で菊と桐を描く。機 械轆轤成形。	近現代。
第92図 PL.28	27	肥前磁器 青磁皿	D区 口縁部片	口底 -	高 -	-	夾雑物含まない/ 白/	内面型押しで花卉、外面線刻で花卉を表現。内外面青磁釉。	江戸時代。
第92図 PL.28	28	製作地不詳 磁器 染付皿	1河(E区第2 面) 1/2	口底 7.5	高 3.4	(13.8)	夾雑物含まない/ 白/	体部から口縁部輪花。蛇ノ目凹形高台。高台脇の2重圈線 を覗き型紙による染付。	近現代。
第92図 PL.28	29	製作地不詳 磁器 湯飲み	D区 完形	口底 4.0	高 6.8	6.6	夾雑物含まない/ 白色/	機械轆轤成形。口縁部外面緑色の2重圈線。体部外面酸化 コバルトによる「前橋市細ヶ沢町才川入口角 サカイヤ有賀 薬局 電話二・六一一番」の文字。	近現代。
第92図 PL.28	30	製作地不詳 磁器 染付蓋	完形	口 2.1	高 3.0	10.5	夾雑物含まない/ 白色/	内外面型紙摺り。摘み周辺に突帯1条。突帯上に鉄泥で圈 線。摘みと圈線間に手描きによる簡略化した龍文。摘み内 1重圈線内に手描きの不明銘。	近現代。
第92図 PL.28	31	製作地不詳 磁器 染付段重	1河(E区第2 面) 1/6	口底 (8.0)	高 2.5	(9.0)	夾雑物含まない/ 白/	外面銅板転写。高台外面の段差部と口縁端部上面から内面 無釉。	近現代。
第92図 PL.28	32	瀬戸・美濃 陶器 碗(加工品)	E区 底部	口底 4.7	高 -	-	鉾物少量/灰/	内面鉄釉。高台周縁を外側から丁寧に打ち欠き、円盤状に 整形。	江戸時代。
第92図 PL.28	33	古瀬戸陶器 瓶子	B区 体部片	口底 -	高 -	-	白色鉾物微量/浅 黄/	外面篋による施文の後、灰釉施釉。貫入入る。内面無釉。	14世紀。
第93図 PL.28	34	丹波陶器 すり鉢	D区 口縁部片	口底 -	高 -	-	2mm以下の鉾物少 量/橙/	内面7本1単位のすり目。口縁端部上面平滑に擦れる。外 面下部に指状疔痕。	17世紀後葉～ 18世紀前葉。
第93図 PL.28	35	常滑陶器 甕	A区 口縁部片	口底 -	高 -	-	白色鉾物/暗灰/	外面器表褐色、内面器表灰褐色。口縁部幅広く折り返す。	15世紀。1溝 8、1溝6、 2溝2と同一 個体か。
第93図 PL.28	36	常滑陶器 甕か	B区 体部下位片	口底 -	高 -	-	白色鉾物少量/に ぶい橙/	内面器表暗赤褐色、外面器表にぶい赤褐色。内面横位撫で、 外面刷毛状工具による縦位撫で。内面自然釉斑状にかかる。	中世。
第93図 PL.28	37	在地系土器 皿	B区 1/6	口底 (7.0)	高 2.4	(9.7)	白色、赤色粒/に ぶい橙/	底部右回転糸切無調整。器壁やや厚い。	14世紀。
第93図 PL.28	38	在地系土器 皿	B区 1/5	口底 (5.6)	高 1.4	(7.3)	鉾物少量/にぶい 黄橙/	底部器壁薄い。底部回転糸切無調整か。	14世紀～15 世紀前葉か。
第93図 PL.28	39	在地系土器 皿	B区 底部1/2欠	口底 (5.8)	高 -	-	白色鉾物微量/黒/ -	底部右回転糸切無調整。	時期不詳。
第93図 PL.28	40	在地系土器 蓋か	D区 1/8	口天 -	高 1.9	(21.0)	白色鉾物少量/に ぶい橙/	轆轤調整。天井部外面周縁篋撫で。天井部外面撫で。	近現代か。
第93図 PL.29	41	在地系土器 か 蓋	D区 1/4欠	口天 -	高 2.5	17.8	白色鉾物微量/灰 黄褐/	器表黒色。轆轤成形か。天井部外面回転篋削りの後、螺旋 状の磨き。天井部外面に鉄錆付着し、遺構外42の錆付着力 所と一致する。	近現代か。遺 構外42の蓋で あろう。
第93図 PL.29	42	在地系土器 壺	D区 一部欠	口底 17.0	高 19.8	14.3	鉾物、赤色粒微量 /黒/	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面左回転の 轆轤目。体部外面縦位の筋状磨き。底部から肩部に針金で 留めた痕が明瞭に残る。底部外面に薄い鉄板付着しており、 針金で留めた後に板上に置いたと考えられる。遺構外41の 錆付着力所と場所が一致し、セットであったと考えられる。	近現代か。遺 構外41の身で あろう。
第93図 PL.29	43	在地系土器 壺	D区 完形	口底 9.4	高 10.1	7.2	鉾物、赤色粒少量 /にぶい黄橙/	器表黒色。燻し焼成。内面左回転の轆轤目。体部外面縦位 の筋状磨き。底部外面縮緬状痕。肩部から体部外面に針金 で留めた痕跡残る。留め方は遺構外46と同じ。	近現代。
第93図 PL.29	44	在地系土器 内耳鍋	B区 口縁部片	口底 -	高 -	-	石英粒少量/にぶ い黄褐/	屈曲部内面明瞭な段差。口縁端部外面小さく突き出る。内 耳は細い粘土紐を貼り付け。	15世紀末～ 16世紀中葉。
第93図 PL.29	45	在地系土器 焙烙	E区 1/6	口底 (33.0)	高 5.8	(35.0)	赤色粒/黒/	断面黒色、器表付近にぶい黄褐色、外面器表黒褐色、内面 器表黒色からにぶい黄褐色。体部内外面接合痕残る。体部 外面下位以下縮緬状痕。底部内面耳貼り付け。	江戸時代。
第93図 PL.29	46	在地系土器 不詳	D区 1/4欠	口底 22.8	高 23.5	23.4	鉾物、赤色粒/橙/ -	内面左回転の轆轤目。外面回転横撫で。口縁部丁寧な回転 横撫で。底部外面砂底。被熱痕や風口など認められず、寸 胴形の容器であろう。	近現代。
第94図 PL.29	47	在地系土器 不詳	D区 1/10	口天 -	高 -	(21.0)	鉾物、赤色粒少量 /にぶい橙/	丁寧な回転横撫で。胎土、色調、焼成が遺構外48と同じ。	近現代。遺構 外48とセット か。
第94図 PL.29	48	在地系土器 不詳	D区 底部1/4、口縁 部一部	口底 (21.0)	高 -	(20.8)	鉾物、赤色粒少量 /にぶい橙/	底部外面砂底。底面丁寧な回転横撫で。内面轆轤目。口縁 部丁寧な回転横撫で。胎土、色調、焼成が遺構外47と同じ。	近現代。遺構 外47とセット か。
第94図 PL.29	49	在地系土器 不詳	E区 体部片	口底 -	高 -	-	白色、黒色鉾物少 量/黒褐/	内面轆轤目。外面凹凸なく丁寧な調整。残存部筒状を呈す る。	江戸時代以降 か。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	(11.8) 7.7	厚 重				
第94図 PL.30	50	剥片石器 石鏃	B区 1/2	長 幅	(11.8) 7.7	厚 重	2.6 234.7	黒色頁岩//	周辺部に二次加工を施し丁寧に整形している。裏面に大きく自然面を残し、その形態から円礫を利用している。下部欠損。	
第94図 PL.30	51	剥片石器 石鏃	B区 完形	長 幅	16.7 9.6	厚 重	2.2 319.3	黒色頁岩//	周辺部に二次加工を施し丁寧に整形している。表裏両面の先端部付近に著しい摩滅部分が認められ使用痕と考えられる。	
第94図 PL.30	52	石製品 勾玉	D区 完形	長 幅	3.6 2.2	厚 重	1.1 11.2	玉髓//	全面が丁寧に研磨されている。表面からの肉眼的な観察によると、孔の断面は表面から裏面に向かい狭くなっているのが分かる。孔の直径は表面側表面で約2mm、裏面側表面で約1.5mmを測る。	
第94図 PL.30	53	石製品 紡輪	2溝(A区第2面) 完形	長 幅	4.4 4.8	高 重	1.4 35.8	砥沢石//	全面が良く研磨され、丁寧な作り。径8mmの孔を両側穿孔する。	逆台形状
第94図 PL.30	54	石製品 砥石	E区 4/5	長 幅	(7.1) 2.9	高 重	2.3 46.9	砥沢石//	研面は1面認められる。正面の研面は下半部が著しく研ぎ減りする。両側面および裏面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められる。上部欠損。	
第95図 PL.30	55	石製品 茶臼(下)	B区 1/2	径	(35.0)	高 重	15.5 77000.0	粗粒輝石安山岩//	上面は非常に滑らかであり、挽目の痕跡が認められる。外面も丁寧に整形されており比較的滑らかである。下面(底面)には平ノミ状の工具痕が残り加工時の痕跡と考えられる。軸孔は断面がくの字状を呈しており、上下両面から穿孔されたと考えられる。孔の下部付近には棒状の工具痕が残り加工時の痕跡と考えられる。	
第95図 PL.30	56	石造物 石仏	D区 完形	長 幅	49.5 24.0	厚 重	13.5 17650.0	粗粒輝石安山岩//	正面は丁寧に整形されている。台座部分の正面には平ノミ状加工の痕跡が多数みられる。裏面の整形は粗く全体的に凹凸が認められる。底部には、平ノミ状と棒状の加工による痕跡がある。	
第95図 PL.30	57	銅製品 銭貨	B区 ほぼ完形	縦 横	2.336 2.362	厚 重	0.169 2.25	//	皇宋通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は平坦で外縁・郭が認められる程度。ゆがみ変形が見られる。	
第95図 PL.30	58	銅製品 銭貨	D区 ほぼ完形	縦 横	3.25 3.10	厚 重	0.55 14.90	//	銅銭3枚が錆化癒着する。外側の1枚は直径28.5mmの11波で寛永通寶四文銭の裏面と見られ外縁・郭とも彫深く明瞭。反対面は平織の布に覆われるが布欠損部に波の一部が見られる。中央の1枚は癒着のため銭種は不明。	
第95図 PL.30	59	銅製品 銭貨	D区 ほぼ完形	縦 横	3.05 2.95	厚 重	0.75 18.25	//	銅銭4枚が錆化癒着する。外側の1枚は寛永通寶で錆化が進むが外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。反対面は平織の布に覆われるが一部に波の文様が見られる。中央の2枚は癒着のため銭種は不明。	
第95図 PL.30	60	銅製品 銭貨	D区 ほぼ完形	縦 横	3.40 3.05	厚 重	1.00 34.24	//	銅銭7枚が錆化癒着する。外側の1枚は寛永通寶で外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。反対面の1枚は裏波の文様が見られる。中央の5枚は癒着のため銭種は不明。	
第95図 PL.30	61	銅製品 銭貨	D区 ほぼ完形	縦 横	2.548 2.547	厚 重	0.143 3.47	//	寛永通寶。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・郭とも彫深く明瞭。	

縄文土器・弥生土器胎土分類

分類	特徴
A	中量の輝石、黒・灰色岩片及び少量の石英の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。
B	多量の輝石、黒・灰色岩片と微量の石英、長石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
C	多量の結晶片岩や黒・灰色岩片の礫・粗砂と少量の長石粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
D	中量の長石、黒・灰色岩片の粗・細砂と微量の雲母細砂を含むやや緻密な胎土。
E	少量の長石、石英、黒・灰色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
F	多量の長石粗砂、少量の石英、黒・灰色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。

※各分類は肉眼観察による相対的なものである。
※土器断面の▼印は接合痕を表す。

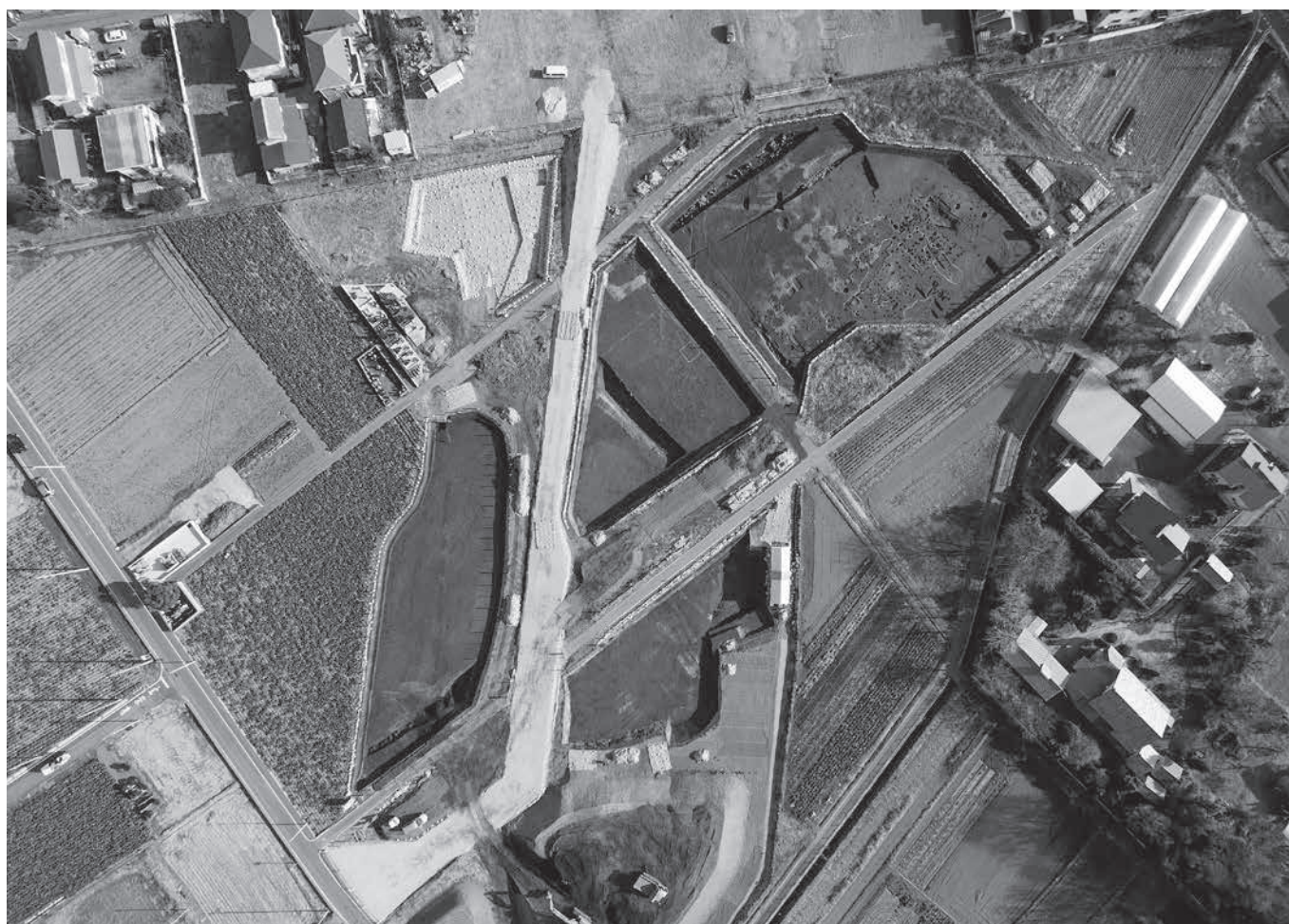
中近世陶磁器・土器分類

在地系片口鉢、すり鉢は星野守弘「軟質陶器 鉢」『新編 高崎市史 資料編3 中世I』1996による。
内耳鍋の年代は、秋本太郎「上野と周辺地域との関係-在地土器の分布論を中心に-」『海なき国々のモノとヒトの動き-16～17世紀における内陸部の流通-』内陸遺跡研究会 2005 において設定された画期による。
在地系土器皿の年代は木津博明「上野国に於ける在地生産土器について」『中近世土器の基礎研究』V 中世土器研究会 1989による。
常滑は中野晴久「常滑窯」、「編年表」『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世・常滑系』愛知県 2012 による。
渥美は 安井俊則「渥美窯」、及び「編年表」『愛知県 史別編 窯業3 中世・近世・常滑系』愛知県 2012 による。
14世紀以降の中国産白磁は 森田勉「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究 No.2』貿易陶磁研究会 1982 による。
肥前陶磁は『九州陶磁の編年 -九州近世陶磁学会10周年記念-』九州近世陶磁学会 2000 による。
瀬戸窯は藤澤良祐「編年表」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世・瀬戸系』2007 による。
美濃窯は榎崎彰一「編年表」『尾呂 愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』瀬戸市教育委員会 1990 による。
13世紀以前の中国産白磁と青磁は山本信夫『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』太宰府市教育委員会 2000 による。
丹波すり鉢は長谷川 眞「近世丹波系播鉢の変遷とその系譜」『関西近世考古学研究VIII』関西近世考古学研究会 2000による。
在地片口鉢の年代は、星野守弘「軟質陶器」『新編高崎市史 資料編3 中世I』高崎市 1996 による。

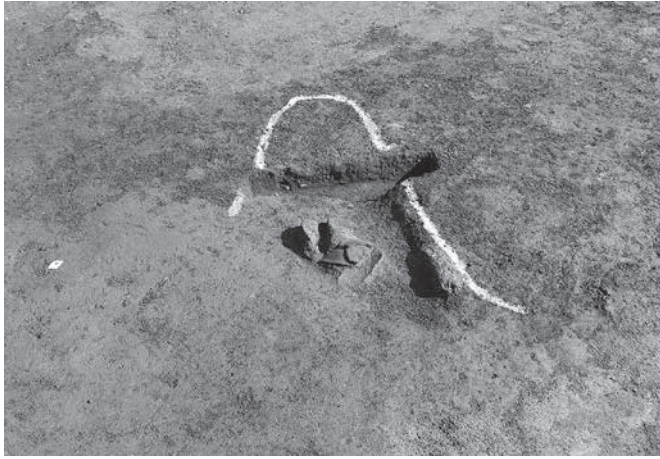
写真図版



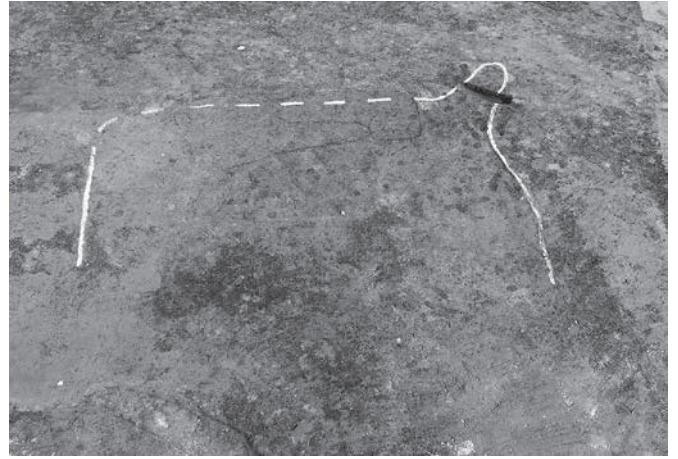
1. 調査区遠景(北西から)



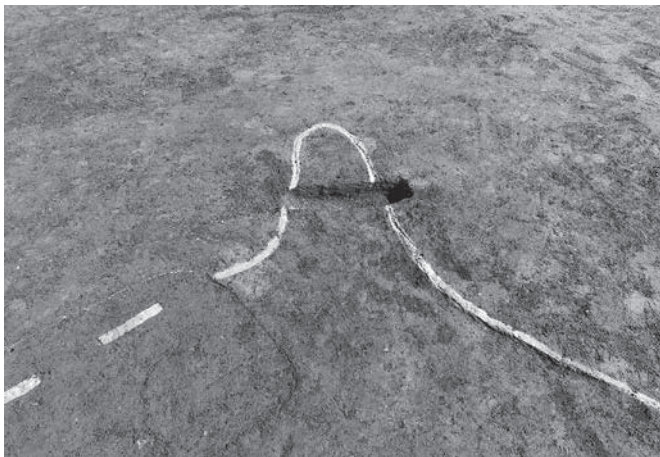
2. 調査区全景(上空から)



1. 1号竪穴住居全景(北西から)



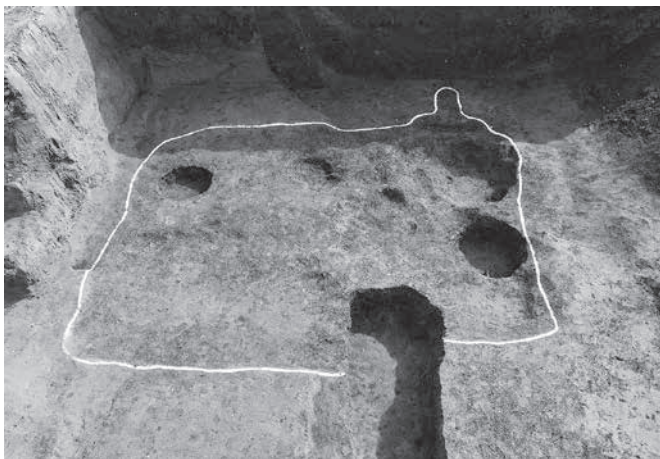
2. 2号竪穴住居全景(西から)



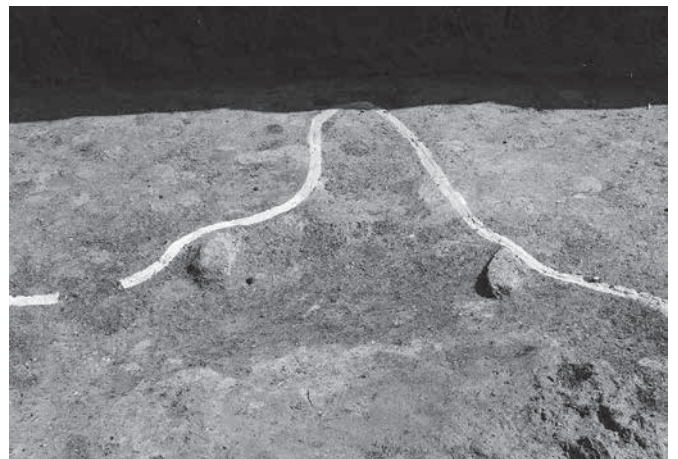
3. 2号竪穴住居全景(北西から)



4. 3号竪穴住居全景(西から)



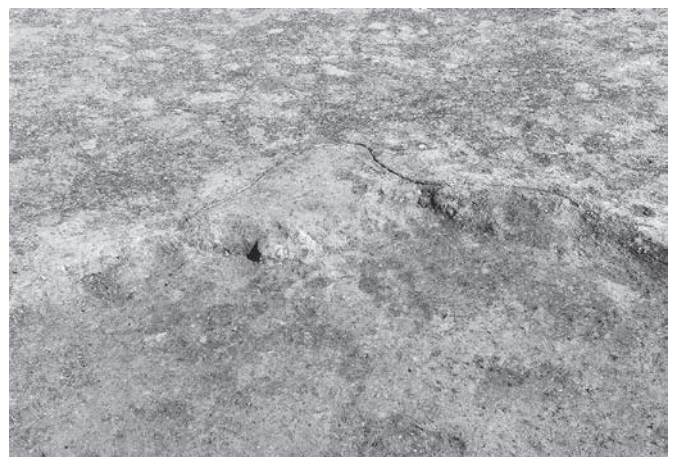
5. 3号竪穴住居掘方全景(西から)



6. 3号竪穴住居全景(西から)



7. 4号竪穴住居全景(西から)



8. 4号竪穴住居全景(南西から)



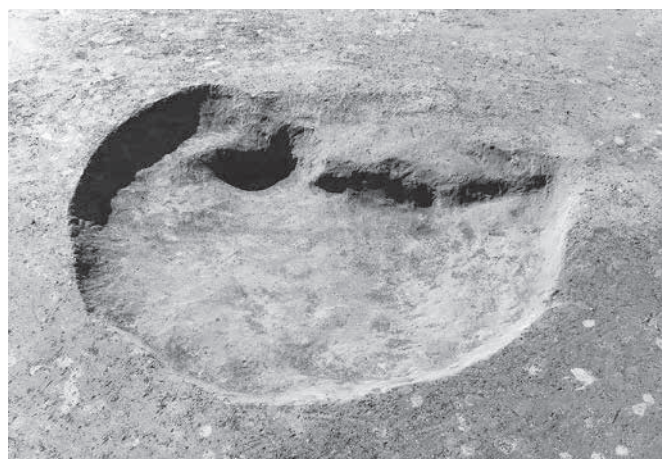
1. 4号竪穴住居竈掘方全景(南西から)



2. 5号竪穴住居、12号竪穴状遺構全景(西から)



3. 1号竪穴状遺構全景(東から)



4. 2号竪穴状遺構全景(北東から)



5. 2号竪穴状遺構全景(南西から)



6. 3号竪穴状遺構全景(東から)



7. 4号竪穴状遺構全景(東から)



8. 5号竪穴状遺構全景(南西から)



1. 5号竪穴状遺構7号馬出土状況(南東から)



2. 8号竪穴状遺構全景(西から)



3. 9・10号竪穴状遺構全景(南から)



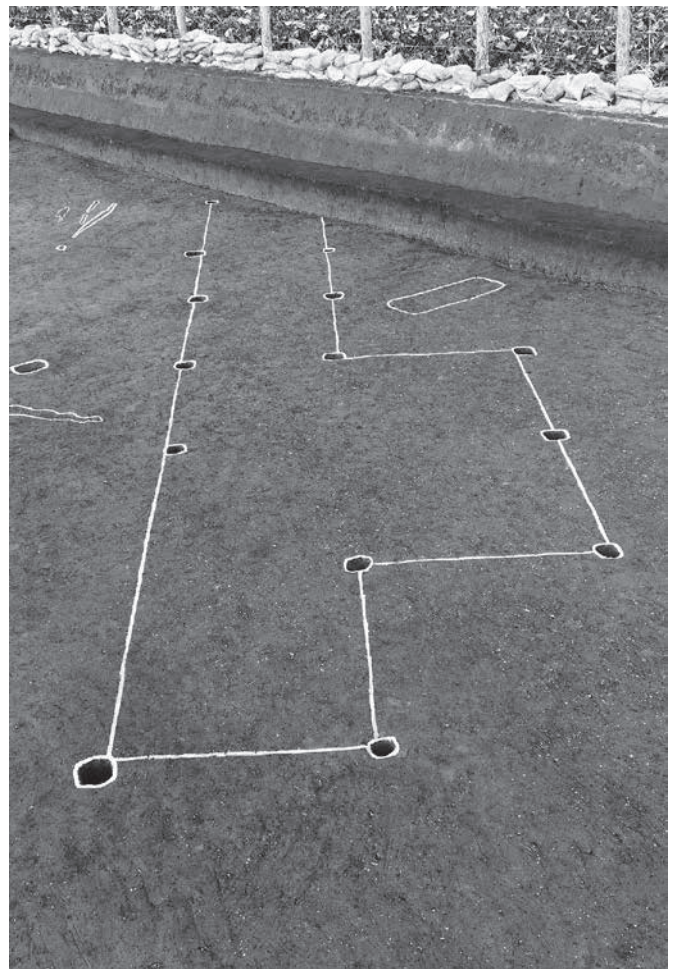
4. 11号竪穴状遺構全景(西から)



5. 12号竪穴状遺構掘方全景(西から)



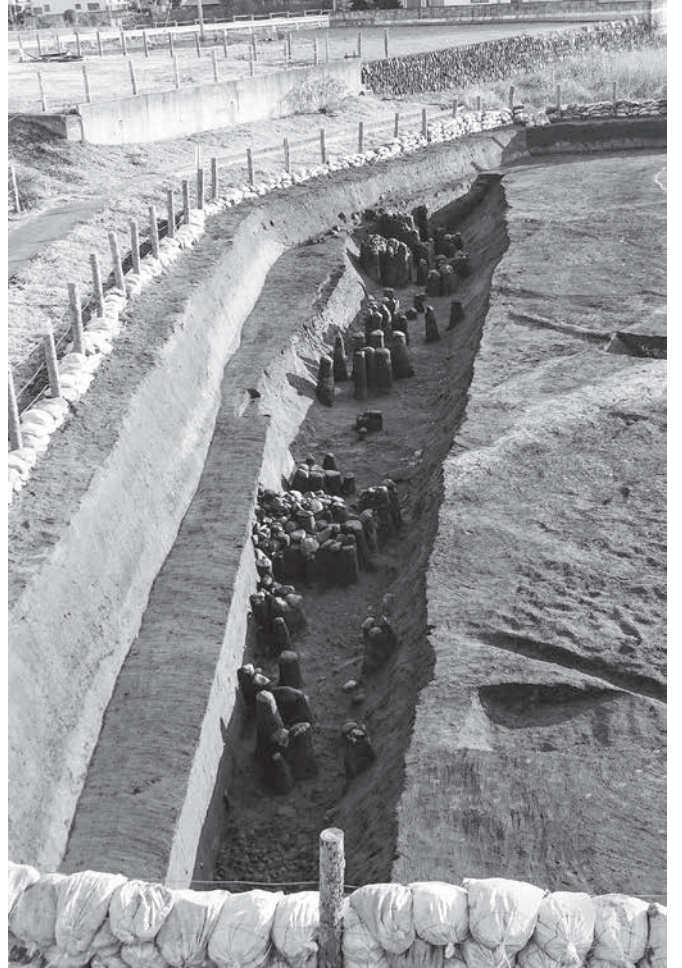
6. 1号掘立柱建物全景(北から)



7. 2号掘立柱建物全景(南から)



1. 1号溝全景(B区南側、東から)



2. 1号溝全景(B区東側、北から)



3. 1号溝全景(D区、東から)



4. 2号溝全景(A区、南から)



5. 2号溝全景(B区南側、西から)



1. 2号溝全景(D区、東から)



2. 2号溝1号馬骨出土状況(東から)



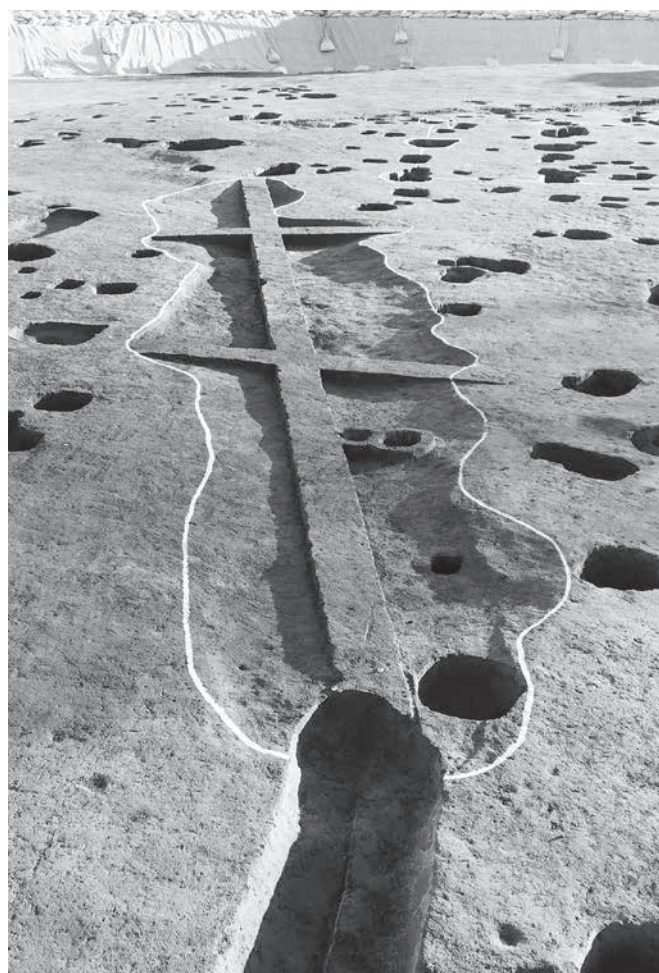
3. 6号溝全景(東から)



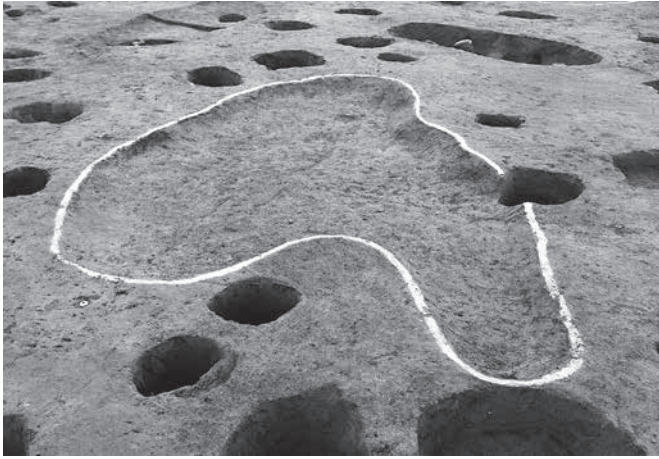
4. 7号溝全景(北東から)



5. 8号溝全景(南東から)



6. 9号溝全景(北から)



1. 10号溝全景(北東から)



2. 11号溝全景(南から)



3. 12・13号溝全景(南から)



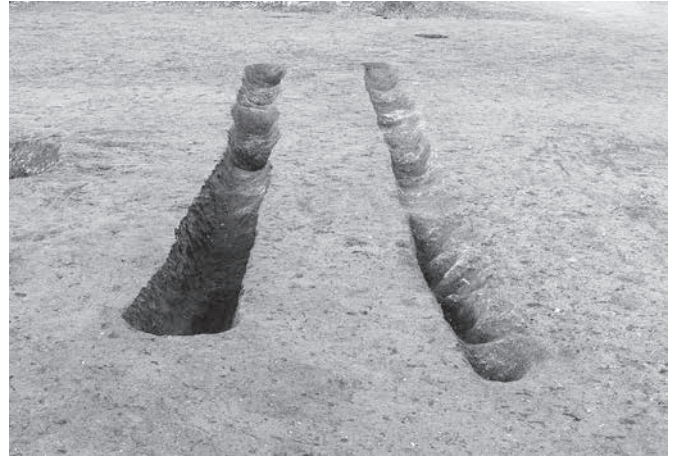
4. 14・15号溝全景(南から)



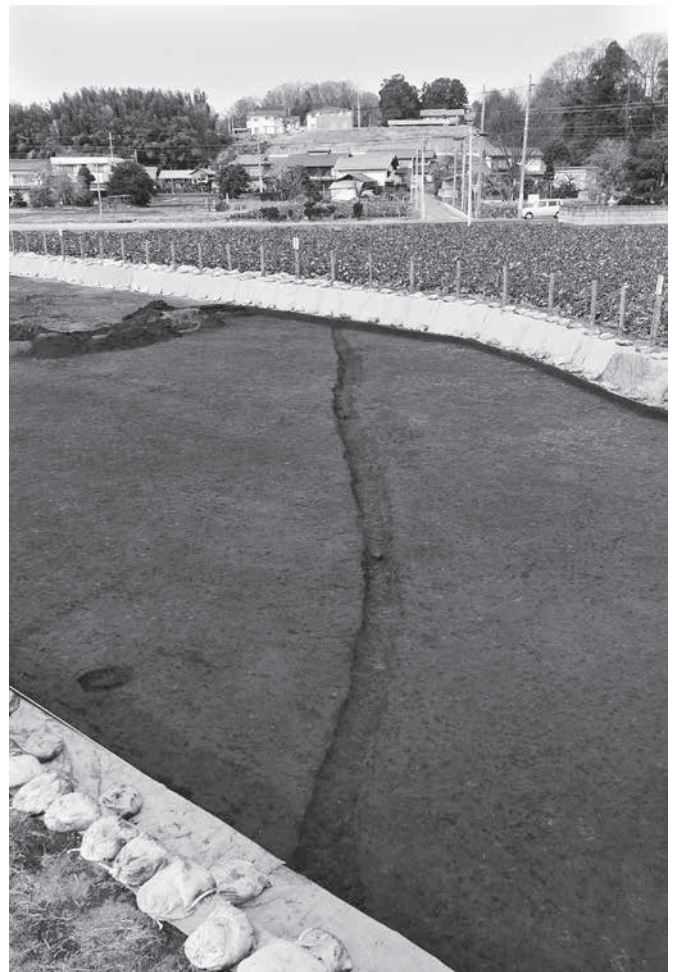
5. 17・18号溝全景(南から)



1. 16号溝全景(東から)



2. 19・20号溝全景(南から)



3. 23号溝全景(南から)



4. 24・25・28・29号溝全景(南から)



5. 24号溝2号馬骨出土状況



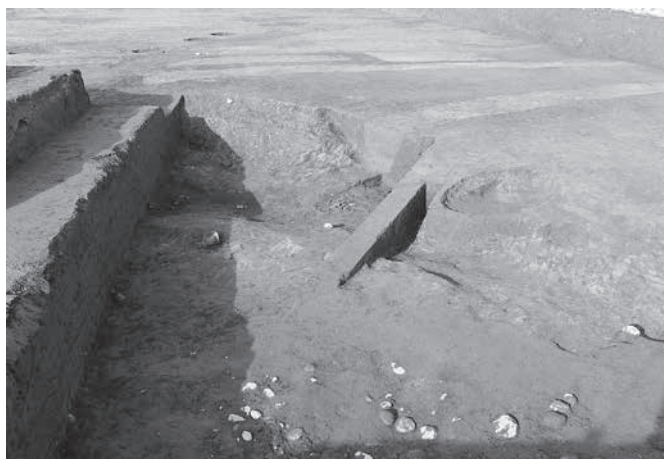
6. 24号溝3号馬骨出土状況



1. 30号溝全景(北西から)



2. 30号溝全景(南東から)



3. 31号溝全景(南西から)



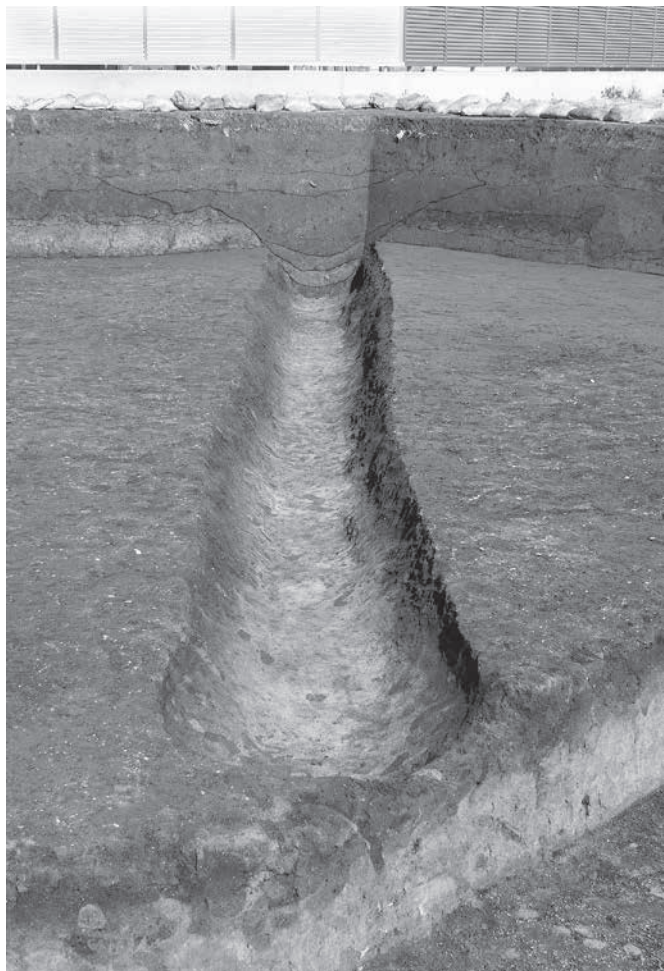
4. 39号溝全景(西から)



5. 40・41号溝、1086号土坑全景(南から)



6. 調査風景(北から)



1. 47号溝全景(南から)



2. 3号溝全景(北東から)



3. 22号溝全景(南東から)



5. 51号溝全景(北東から)



4. 26号溝全景(南から)



1. 44・45号溝全景(南から)



2. 45号溝全景(南から)



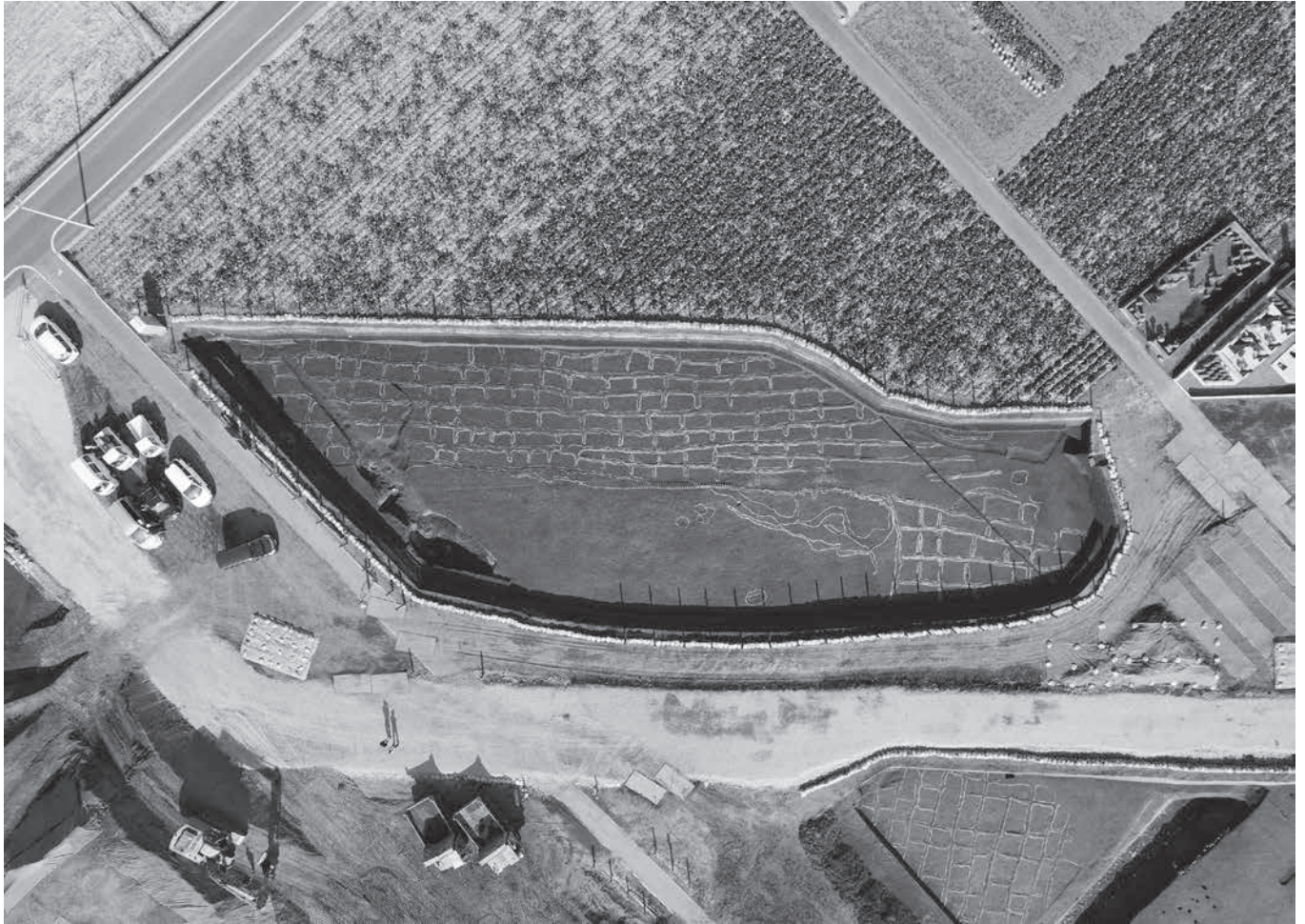
3. 46号溝西側全景(北東から)



4. 46号溝東側全景(北東から)



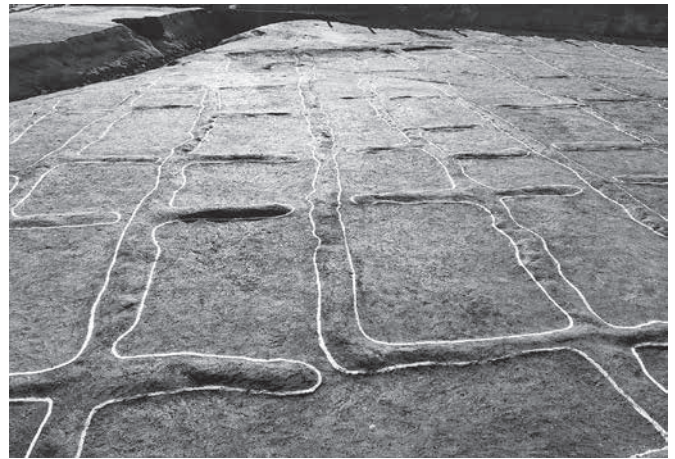
5. 1号水田全景(東から)



1. 2号水田全景(上空から)



2. 2号水田全景(上空から)



3. 2号水田近景(北東から)



4. 2号水田近景(東から)



5. 2号水田遺物出土状況(南東から)



1. 3号水田全景(南から)



2. 4号水田全景(B区、南東から)



3. 4号水田全景(C区、北東から)



4. 1号耕作痕群全景(南から)



5. 1号井戸全景(北から)



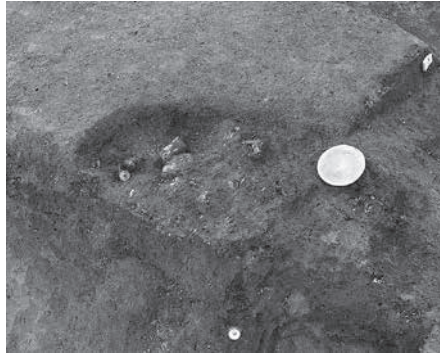
6. 1号土坑墓全景(南から)



7. 4号土坑墓人骨出土状況(北から)



1. 2号土坑墓全景(東から)



2. 1号火葬墓全景(北西から)



3. 33号土坑全景(北から)



4. 578号土坑、579号ピット全景(北から)



5. 1001・1002号土坑全景(東から)



6. 1005~1007号土坑、347・964・966・969号ピット全景(北から)



7. 1003号土坑全景(東から)



8. 1008・1009号土坑全景(東から)



9. 1010号土坑、831・832号ピット全景(北東から)



10. 1011号土坑全景(北から)



1. 1012号土坑、513号ピット全景(北から)



2. 1013号土坑全景(北から)



3. 1014号土坑全景(北から)



4. 1015・1016号土坑全景(北から)



5. 1017号土坑、574号ピット全景(東から)



6. 1018号土坑、808号ピット全景(東から)



7. 1019号土坑(東から)



8. 1020号土坑全景(東から)



9. 1020~1022号土坑全景(南東から)



11. 1024号土坑全景(北から)

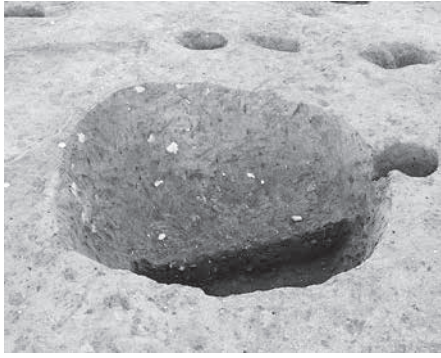


12. 1029号土坑全景(北から)



10. 1023号土坑全景(西から)

PL.16



1. 1028号土坑、138号ピット全景(南西から)



2. 1031号土坑全景(東から)



3. 1033～1037号土坑全景(東から)



4. 1038号土坑全景(北から)



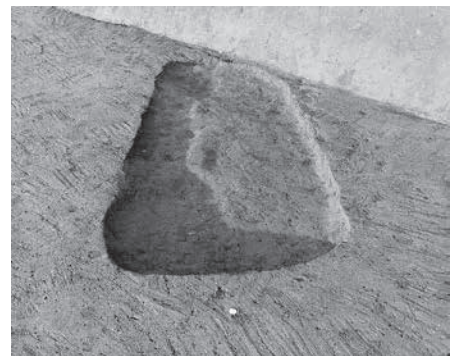
5. 1039号土坑全景(東から)



6. 1040・1041・1043・1049号土坑(東から)



7. 1042号土坑全景(北から)



8. 1047号土坑全景(南から)



9. 1050号土坑全景(東から)



10. 1055号土坑全景(東から)



11. 1056～1059号土坑全景(東から)



1. 1060~1062号土坑全景(北東から)



2. 1064号土坑全景(北から)



3. 1065号土坑全景(北から)



4. 1066号土坑全景(東から)



5. 1067号土坑全景(北西から)



6. 1068号土坑全景(北西から)



7. 1069号土坑全景(北西から)



8. 1075号土坑全景(東から)



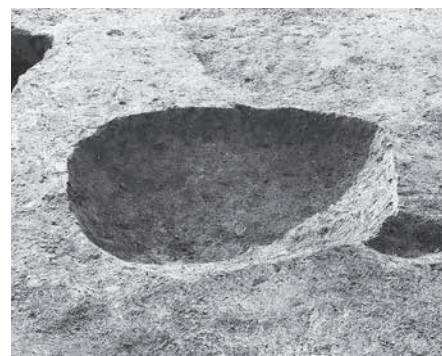
9. 1076号土坑全景(北から)



11. 1080号土坑全景(南東から)



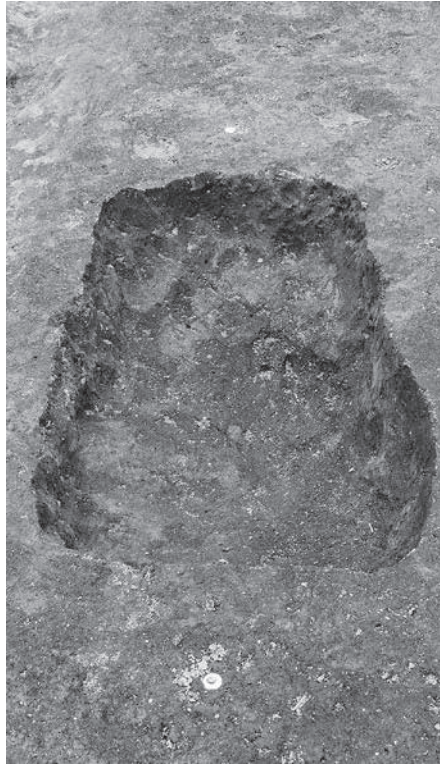
10. 1077号土坑全景(東から)



12. 1081号土坑全景(東から)



1. 1085号土坑全景(北西から)



2. 1086号土坑全景(北から)



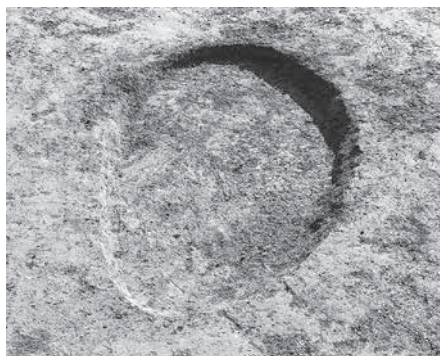
3. 1087号土坑全景(西から)



4. 1088号土坑全景(西から)



5. 1088号土坑8号馬骨出土状況



6. 1091号土坑全景(北から)



7. 1092号土坑全景(西から)



8. 1096号土坑全景(西から)



9. 2073号土坑全景(東から)



10. 2083号土坑、2084号ピット全景(北から)



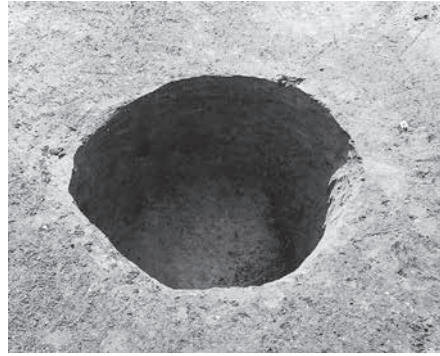
11. 1071号土坑全景(北から)



12. 1073号土坑全景(北西から)



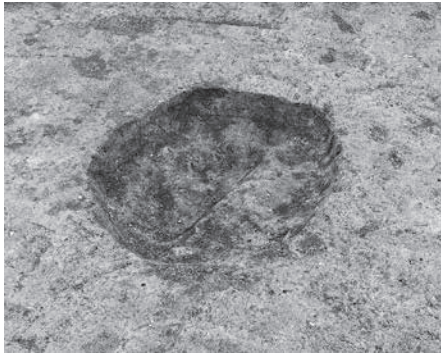
1. 1098号土坑全景(東から)



2. 1099号土坑全景(西から)



3. 1100号土坑全景(南から)



4. 940号ピット全景(北西から)



6. 調査風景(南西から)



5. ピット群全景(北東から)



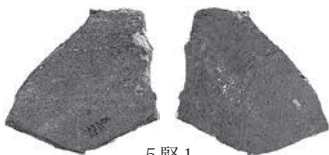
1住1



5住1



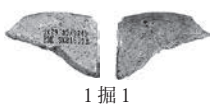
2豎1



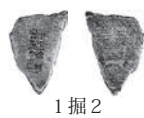
5豎1



7豎1



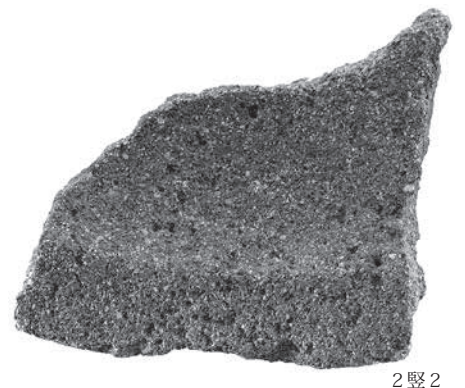
1掘1



1掘2

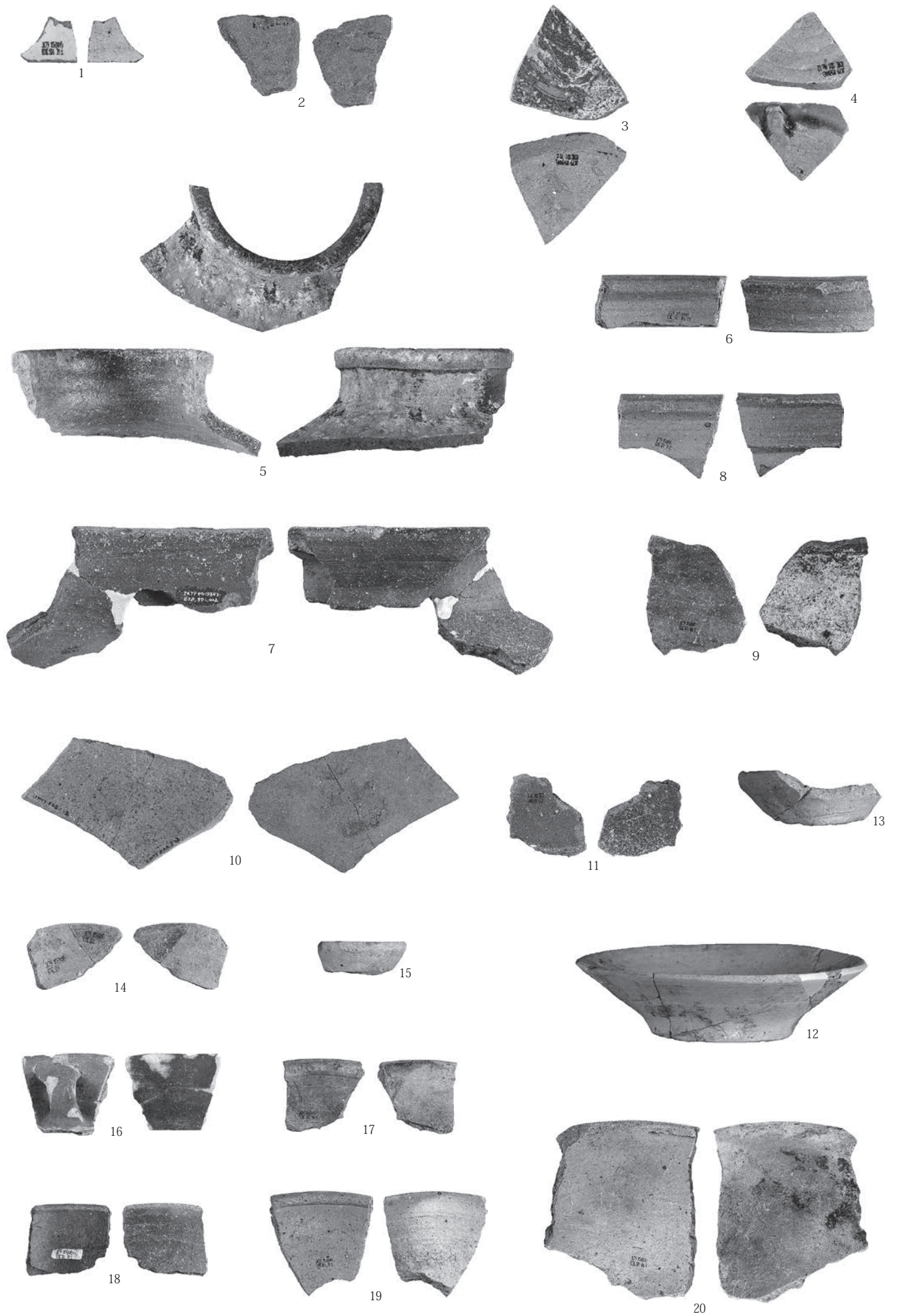


1掘3

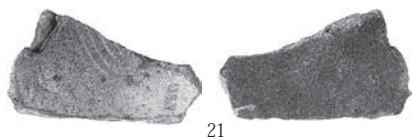


2豎2

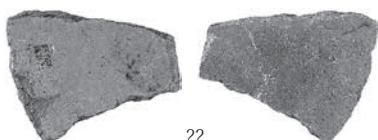
7. 竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物出土遺物



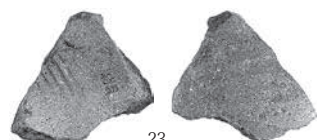
1号溝出土遺物(1)



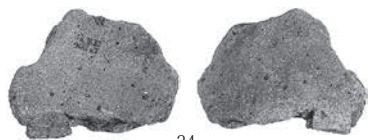
21



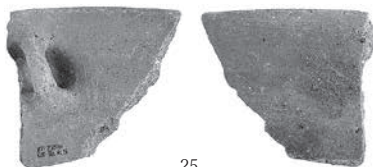
22



23



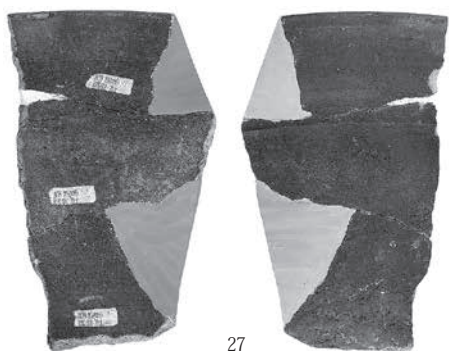
24



25



26



27



28



29



30



31



32



33



36



38



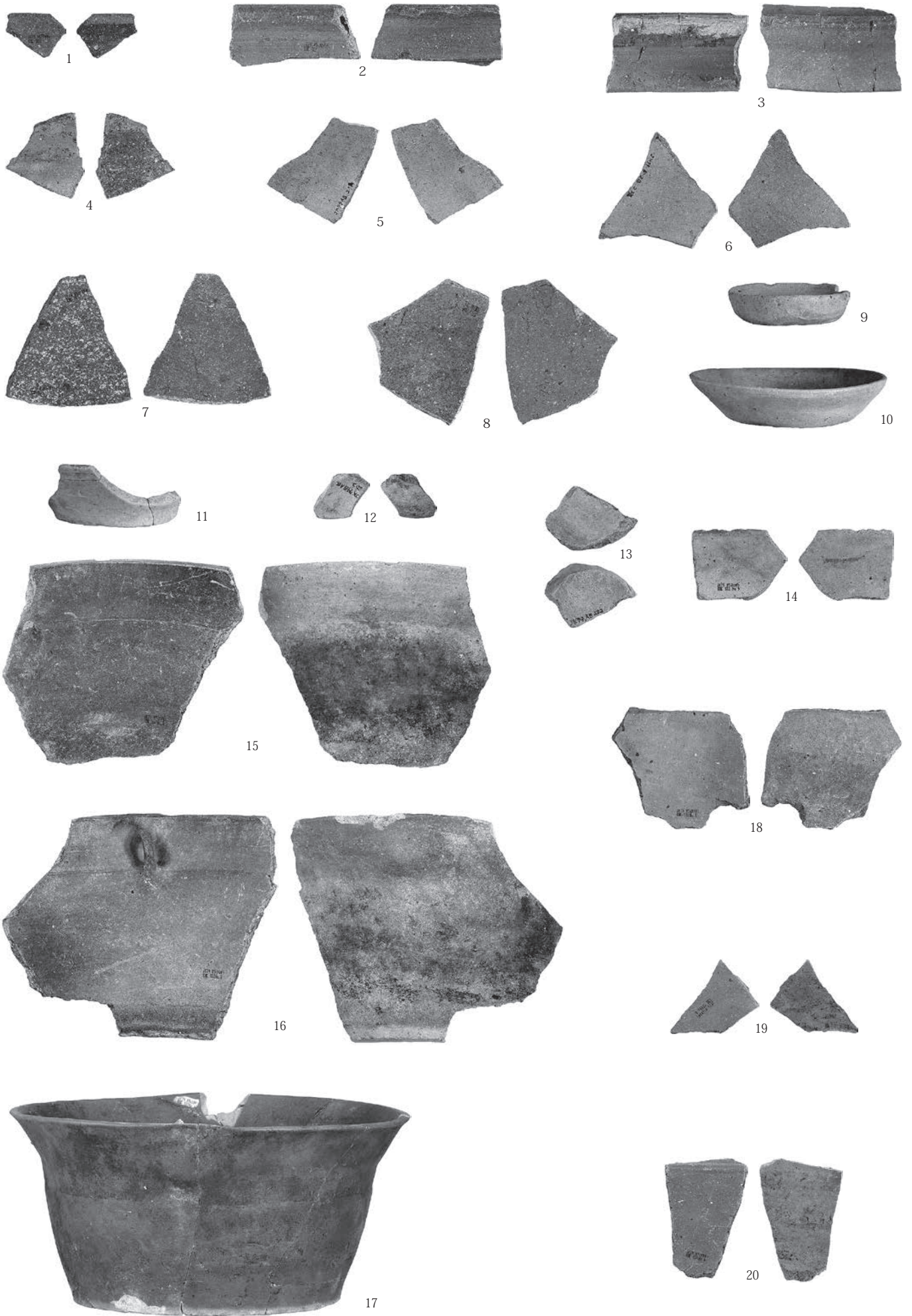
34



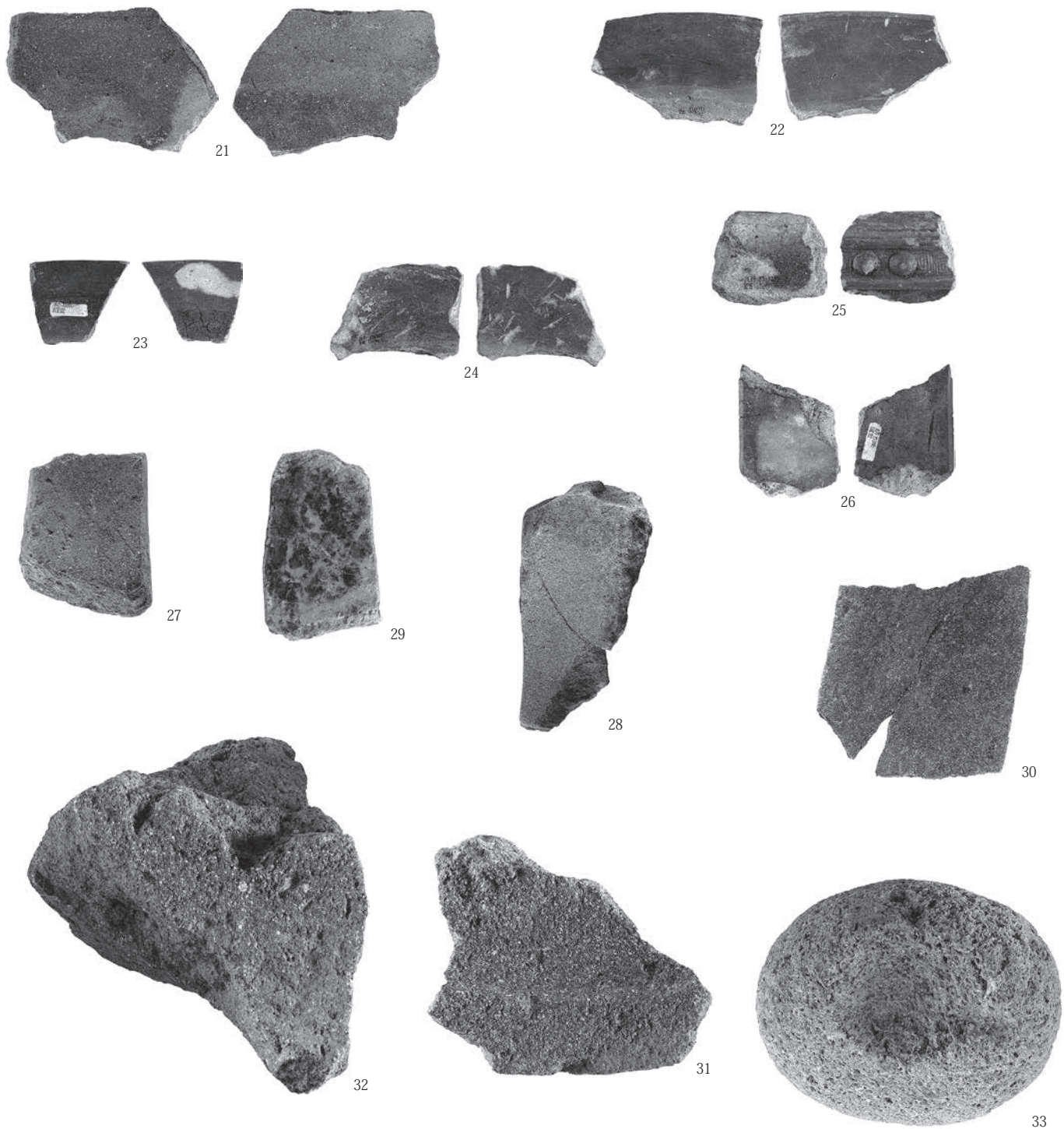
35



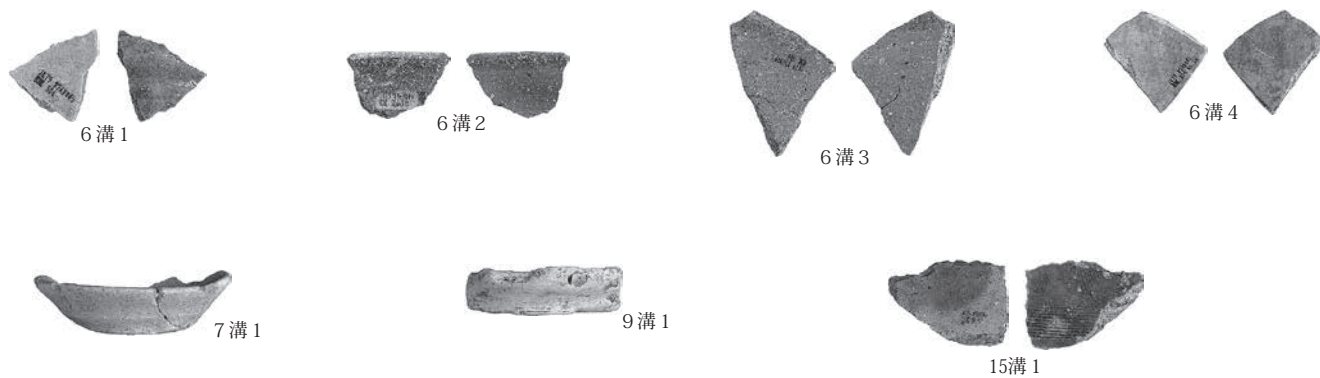
37



2号溝出土遺物(1)



1. 2号溝出土遺物(2)



2. 6・7・9・15号溝出土遺物



24溝 1



24溝 4



24溝 2



24溝 3



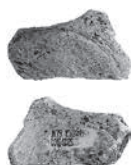
24溝 5



24溝 6



25溝 1



25溝 2



25溝 3



25溝 4



3溝 1



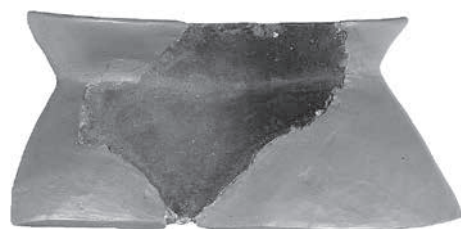
44溝 1



46溝 1



46溝 3



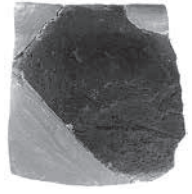
46溝 2



1



2



3



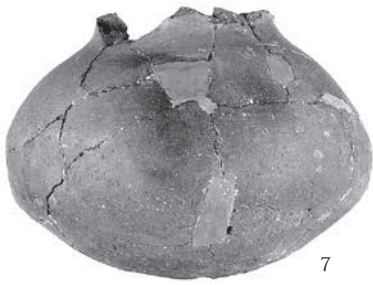
4



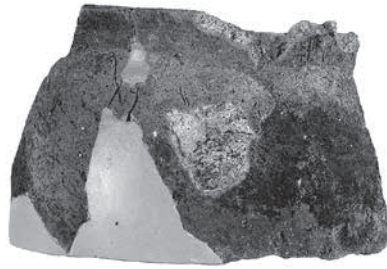
5



6



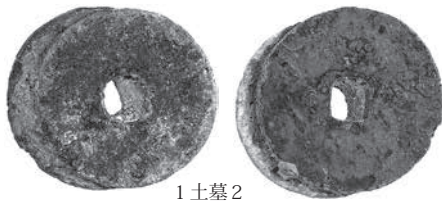
7



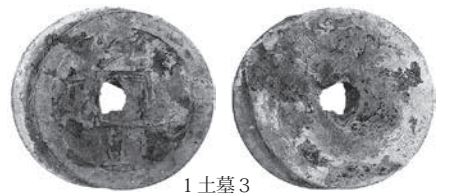
8



1 土墓 1



1 土墓 2



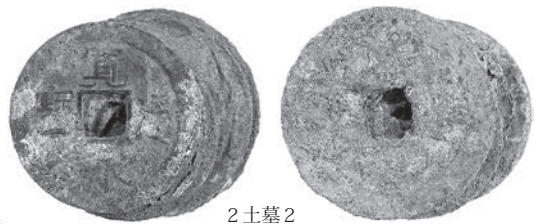
1 土墓 3



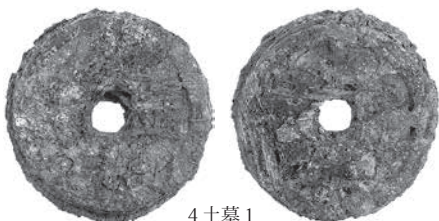
1 土墓 4



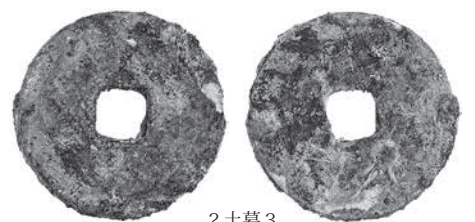
2 土墓 1



2 土墓 2



4 土墓 1



2 土墓 3

PL.26



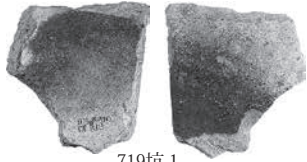
1火墓 1



1火墓 2



1火墓 3



719坑 1



1100坑 1



1100坑 2



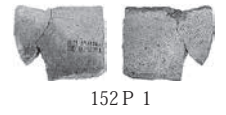
22P 1



90P 1



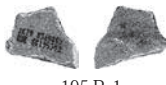
151P 1



152P 1



171P 1



195P 1



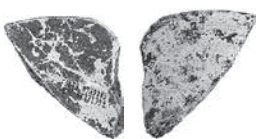
240P 1



220P 1



245P 1



371P 1



387P 1



394P 1



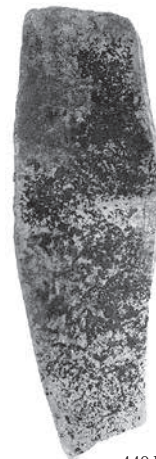
835P 1



505P 1



626P 1



440P 1



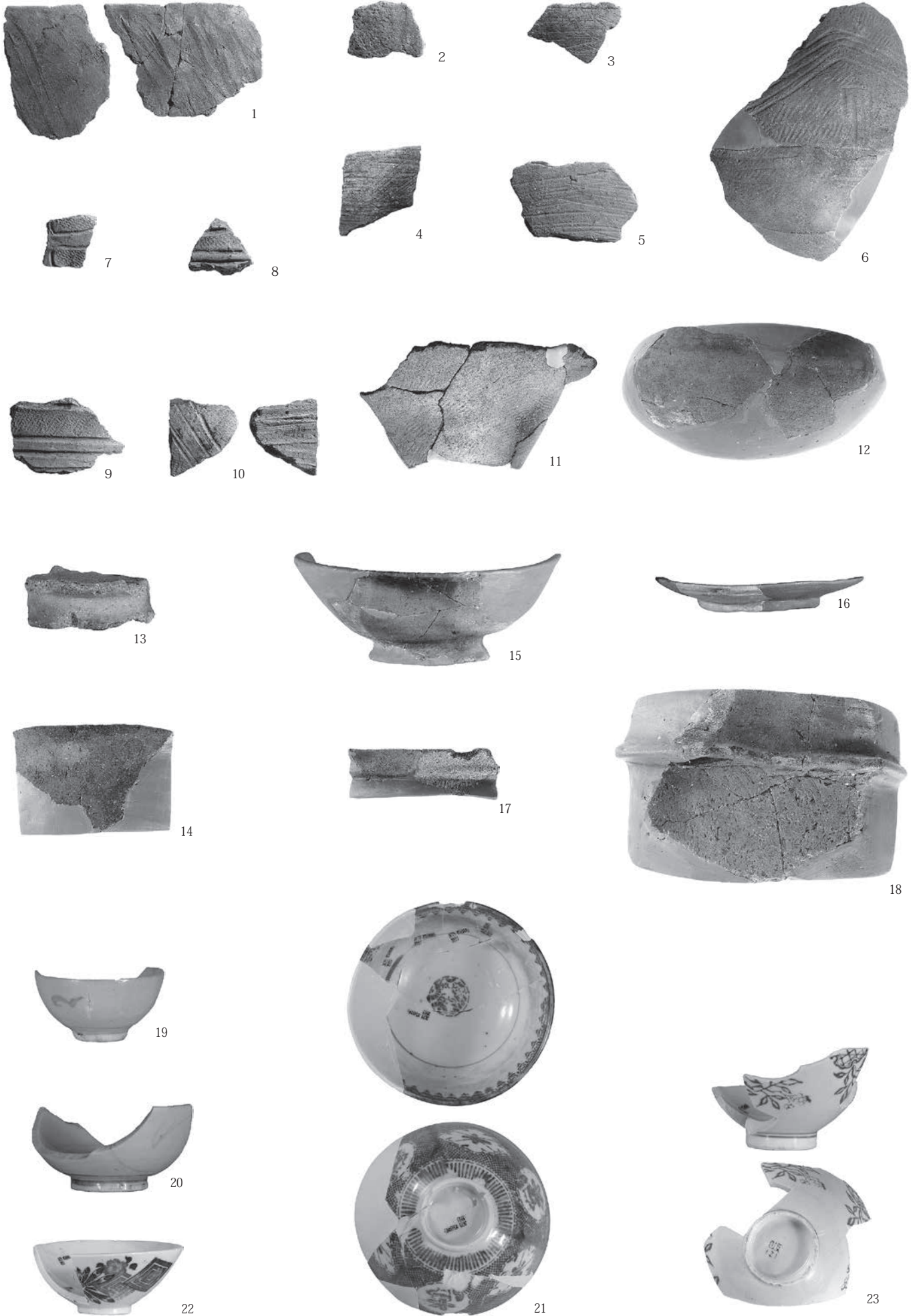
843P 1



768P 1



865P 1



遺構外出土遺物(1)



24



25



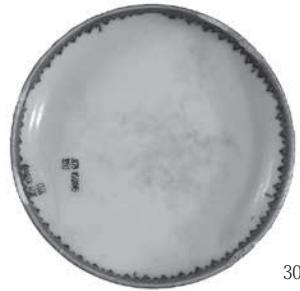
26



27



29



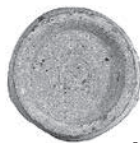
30



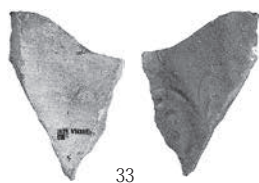
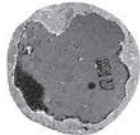
28



31



32



33



34



35



37



38



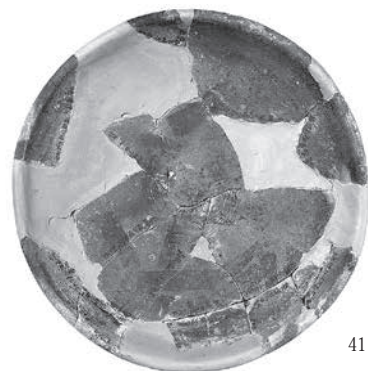
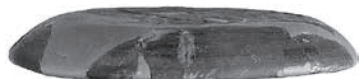
39



40



36



41



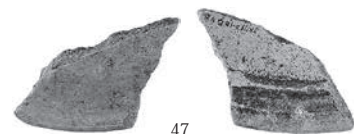
42



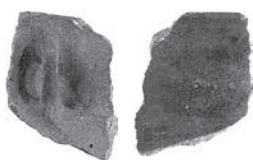
41・42



43



47



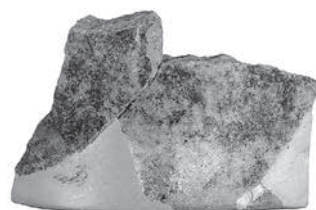
44



45



46



48



49



50



51



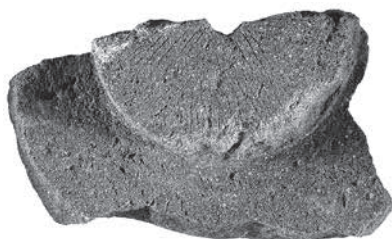
52



53



54



55



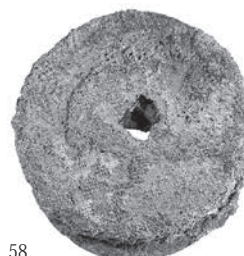
56



57



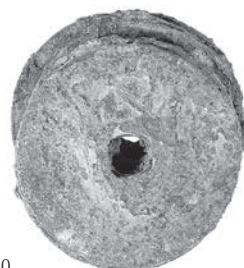
58



59



60



61



報告書抄録

書名ふりがな	かわばたねぎしいせき
書名	川端根岸遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	624
編著者名	田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20170310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	かわばたねぎしいせき
遺跡名	川端根岸遺跡(前橋市0903遺跡)
所在地ふりがな	ぐんまけんまえばししかわばたまち・にちりんじまち
遺跡所在地	群馬県前橋市川端町・日輪寺町
市町村コード	10201
遺跡番号	0903(旧番号00807)
北緯(世界測地系)	362558
東経(世界測地系)	1390337
調査期間	20121201-20130331
調査面積	16,000.71
調査原因	道路建設
種別	包蔵地/集落/墳墓/城館/生産遺跡
主な時代	縄文/弥生/古墳/奈良・平安/中近世
遺跡概要	包蔵地-縄文-土器+石器/弥生-土器+石器/集落-奈良・平安-竪穴住居5+溝8+土坑5+土器+石器/城館-中近世-竪穴状遺構14+掘立柱建物2+溝37+井戸2+土坑134+ピット1068+土器+陶磁器+金属器/墳墓-中近世-土坑墓3+火葬墓1+陶磁器+金属器/生産遺跡-古墳-溝6+水田3+土器+石器/中近世-水田1+耕作痕群1
特記事項	中世の1・2・24号溝による区画および区画内土坑・ピット群は城館と推定される。
要約	川端根岸遺跡は、広瀬川低地帯の微高地および後背湿地に位置する。古墳時代の溝・水田、奈良・平安時代の集落、中近世の溝および土坑・ピット群(城館か)などが確認された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第624集

川 端 根 岸 遺 跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

平成29(2017)年3月6日 印刷

平成29(2017)年3月10日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

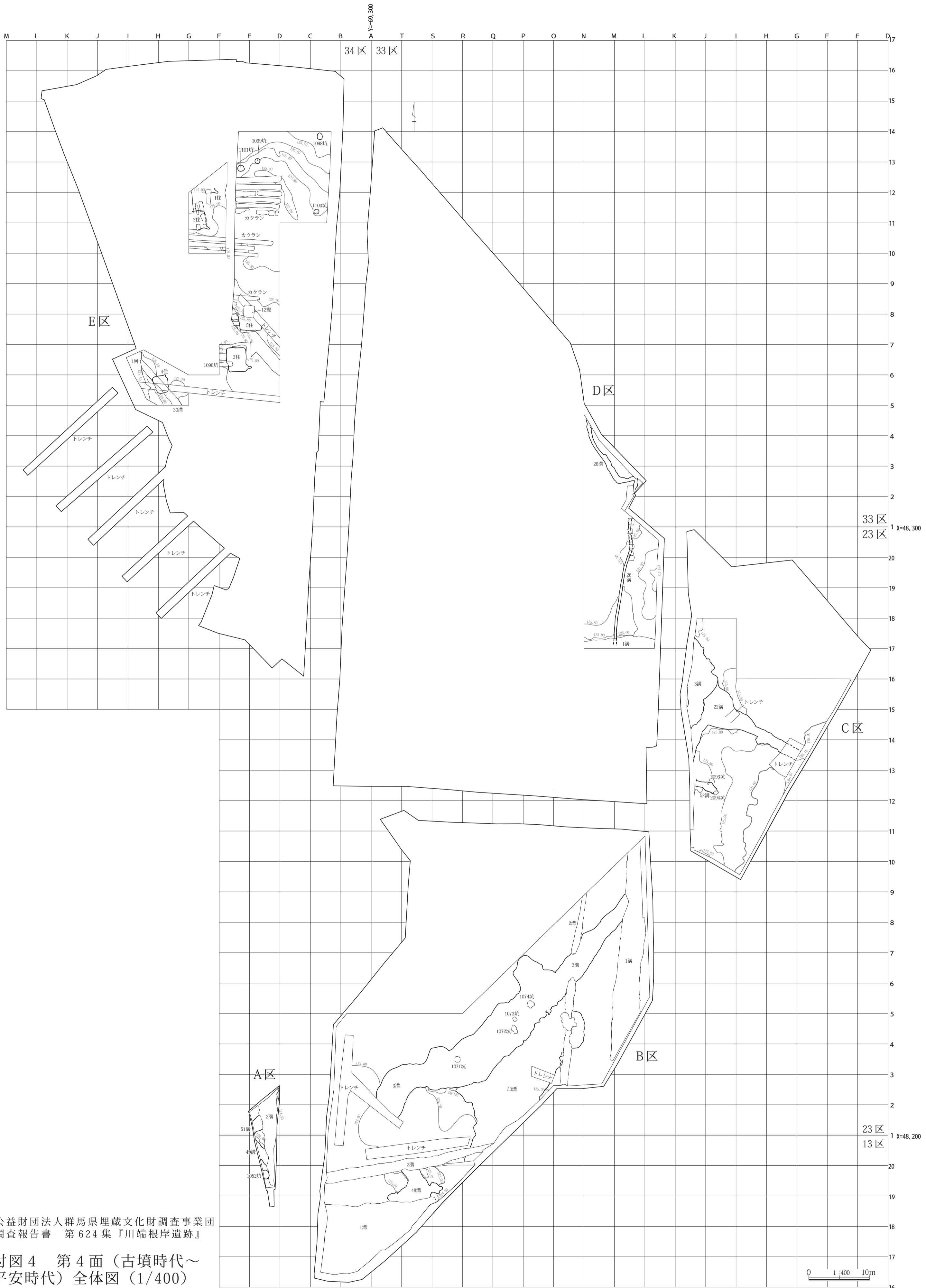
〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／ジャーナル印刷株式会社



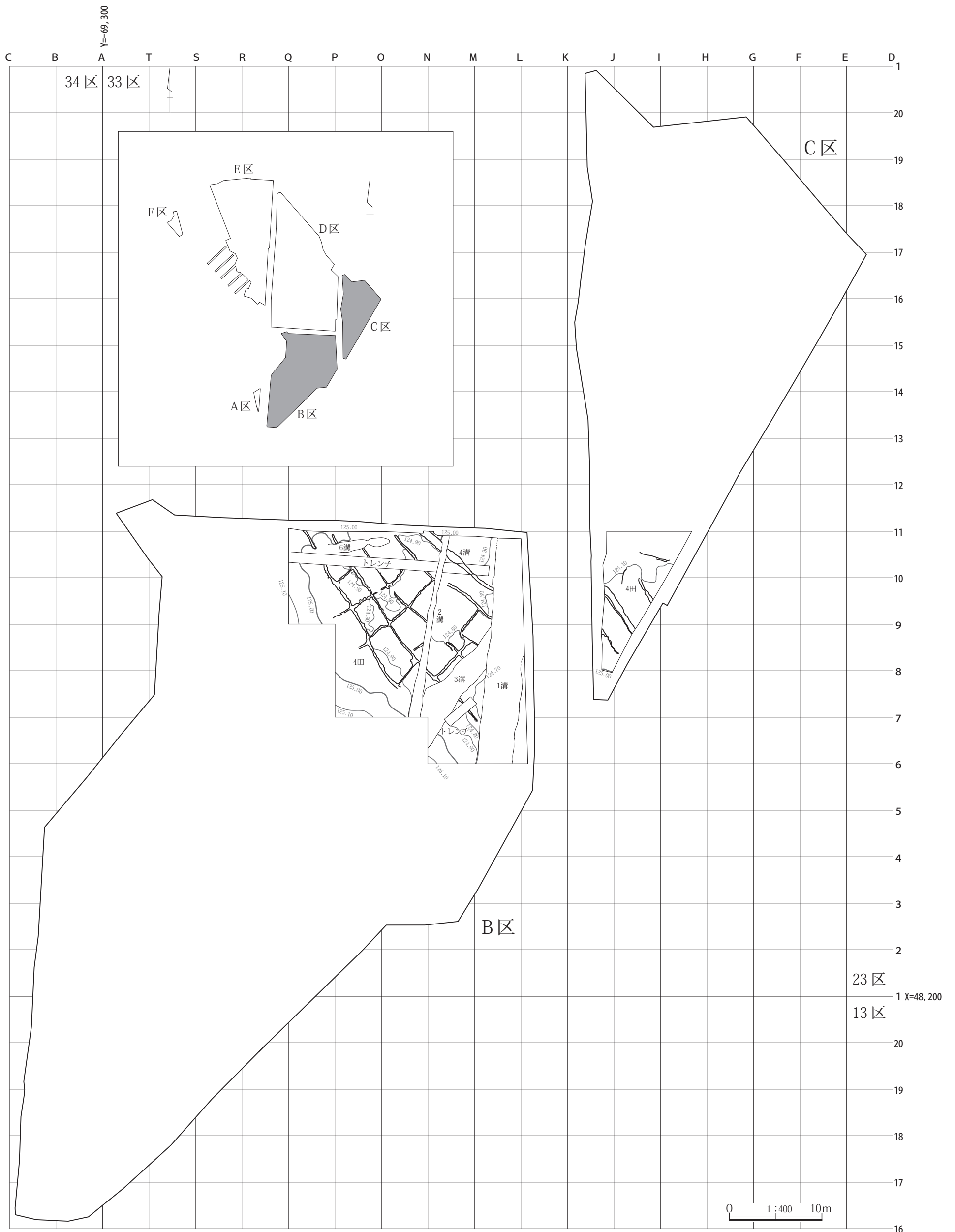


公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書 第624集『川端根岸遺跡』

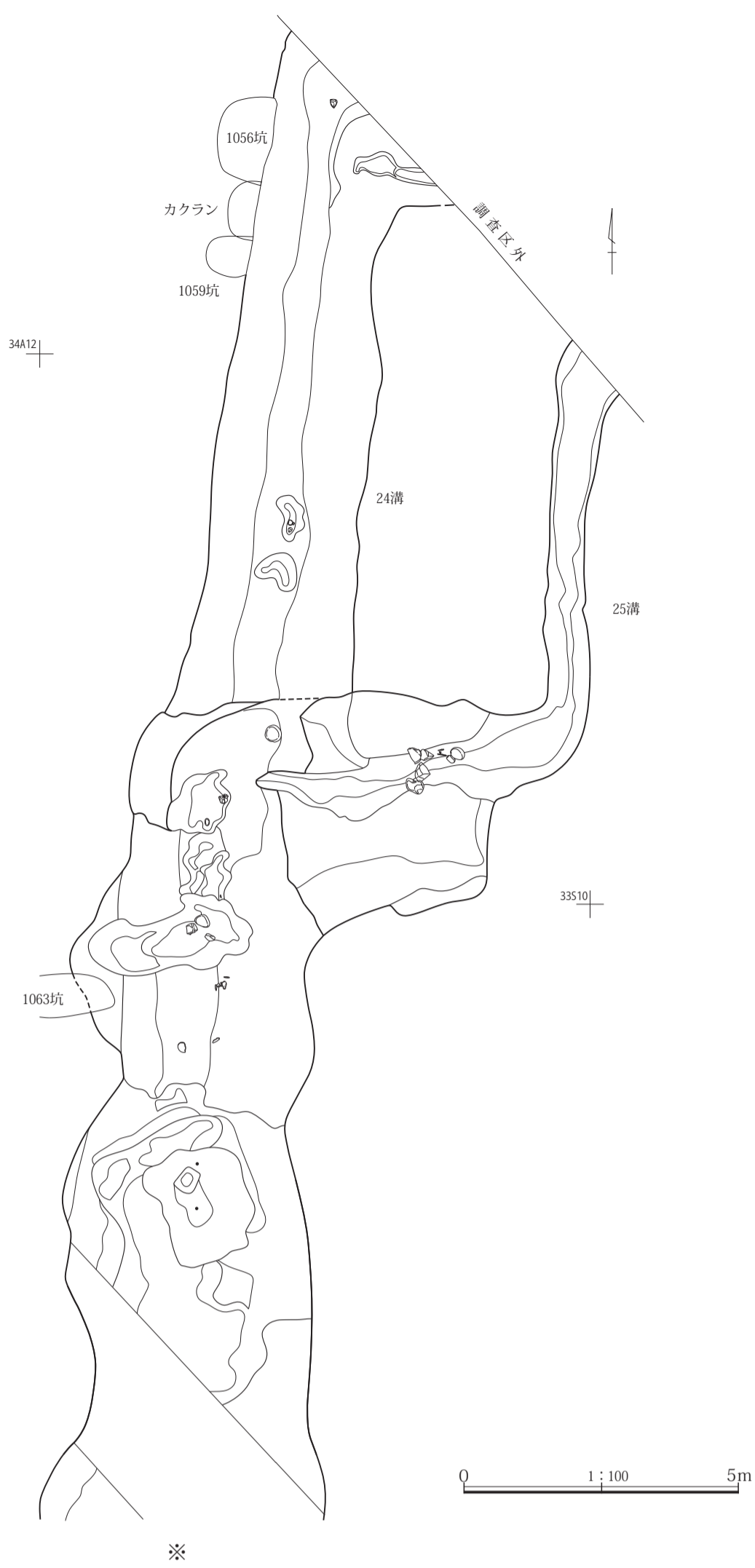
付図4 第4面(古墳時代～
平安時代)全体図(1/400)



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第624集『川端根岸遺跡』
 付図5 第5面(古墳時代(5世紀洪水堆積物下位))全体図(1/400)



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第624集『川端根岸遺跡』
 付図6 第6面（古墳時代（As-C下位））全体図（1/400）



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第624集『川端根岸遺跡』
 付図7-1 第2面(中近世) 1・2・24・25号溝およびピット集中部(1/100)(1)

